

東大阪市

瓜 生 堂 遺 跡 4

岩 田 遺 跡 2

花 屋 敷 遺 跡 3

近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

瓜生堂遺跡 4

岩田遺跡 2

花屋敷遺跡 3

二〇一二年二月

公益財団法人
大阪府文化財センター

2012年2月

公益財団法人 大阪府文化財センター

東大阪市

瓜 生 堂 遺 跡 4

岩 田 遺 跡 2

花 屋 敷 遺 跡 3

近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



1. 10-1-5区 第12遺構面5058周溝墓 遺物出土状況



2. 10-1-5区 第12遺構面5058周溝墓 出土遺物



3. 10-1-6区 第17遺構面6010土坑(土器棺) 遺物出土状況



4. 10-1-9区 第6遺構面9023土坑(錢貨埋納遺構) 遺物出土状況

序 文

瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡は、東大阪市西半部に位置する周知の遺跡です。

はるか昔の縄文時代、この周辺一帯は海原であったこと、また次第に陸地化して河内湾から河内潟へ、河内潟から河内湖へと姿を変えたことはよく知られていますが、瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡はいずれもこの河内潟、河内湖の湖岸付近にあたります。湿潤な土地には水や食料を求めて人々が集り、人間の生産活動も採集から農耕中心へと変化を遂げました。弥生時代には生産と交易によって集落が大いに盛行したことは、過去の調査成果からも明らかとなっています。

瓜生堂遺跡は、河内平野に位置する遺跡の中でも近畿地方の弥生時代を代表する遺跡といっても過言ではありません。中央環状線・近畿自動車道に関連する工事を端緒として発掘調査が手がけられた1970年代、方形周溝墓を主体とする一大墓域の発見は考古学史上に残る出来事として耳目を集めました。その後、現在に至るまで、40年以上の長きにわたって調査は継続されており、弥生社会の解明に大きな功績をもたらしています。

岩田遺跡は、弥生時代には瓜生堂集落の一角として墓域の中にありましたが、古代には新しく集落が営まれました。岩船（石棺？）があったと伝えられる石田神社^{いわた}の周辺では、古来より埴輪の出土も多く見られることから、古墳の存在が窺われています。

花屋敷遺跡は、2005年（平成17年）に新しく発見された遺跡ですが、室町時代の屋敷地が検出されたことで広く知られるようになりました。さらに今回の調査では埋納銭がまとまって出土し、一段と脚光を浴びています。

今回の発掘調査範囲は、すべて既往の調査区に隣接していますが、これまでの成果を追認するだけでなく、新たな発見が相次ぎました。この成果は、地域の歴史を解き明かす、大きな一歩となることでしょう。本書では、これらの調査成果を余すところなくまとめ、報告書といたしました。地域史の解明に向けた一助となれば、幸いに存じます。

最後に、調査にあたってご助力、ご協力をいただきました関係諸機関・地元関係者各位、また埋蔵文化財の調査に対してご理解とご教示をいただきました地域のみなさまに、深く謝意を表します。

これからも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成24年2月

公益財団法人 大阪府文化財センター
理事長 水野正好

例 言

1. 本書は、瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡（調査名：瓜生堂遺跡・岩田遺跡・花屋敷遺跡 10－1）の発掘調査報告書である。瓜生堂遺跡は東大阪市西岩田1・2丁目地内に、岩田遺跡は東大阪市岩田4丁目地内に、花屋敷遺跡は、東大阪市吉田1丁目地内に所在する。
2. 調査は、近畿日本鉄道株式会社が実施する「近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う瓜生堂遺跡他発掘調査」で、公益財団法人大阪府文化財センターは、平成22年9月1日に委託契約を締結し、平成22年10月14日から平成23年5月31日まで現地調査を行った。その後、平成23年6月1日から同年11月30日まで整理作業を行い、平成24年2月本書刊行を以って完了した。
3. 調査および整理作業は以下の体制で実施した。

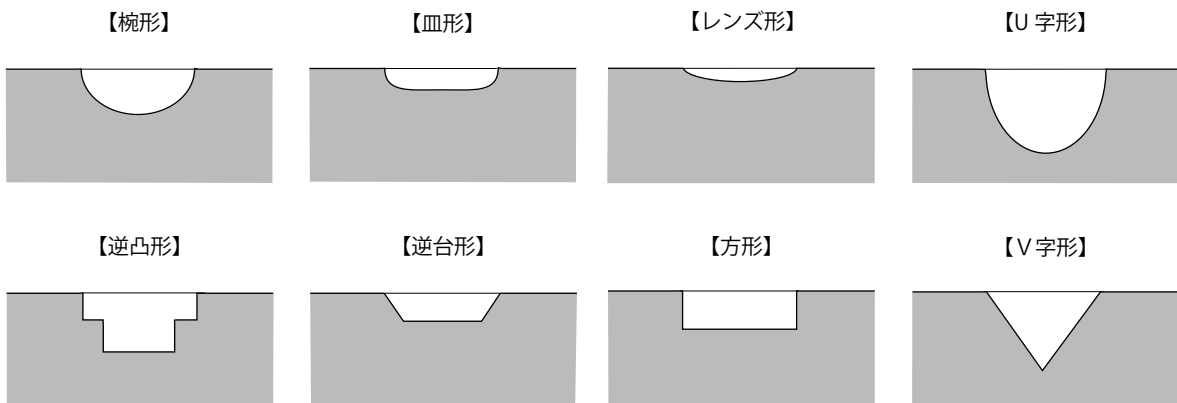
〔平成22年度〕 調査部長（兼調査課長） 福田英人、調整グループ長 江浦 洋、
同主幹 岡本茂史、調査グループ長 岡戸哲紀、中部総括主査 秋山浩三、
同主査 片山彰一〔写真〕、同副主査 井上智博、黒須亜希子、
同専門調査員 河本純一

〔平成23年度〕 調査課長 江浦 洋、調整グループ長 岡本茂史、調査グループ長 岡戸哲紀、
中部総括主査 秋山浩三、同主査 井上智博、同副主査 島崎久恵、黒須亜希子、
同専門調査員 松本吉弘、片山彰一〔写真〕
4. 遺構取り上げ作業、木製品樹種同定作業、同保存処理作業、金属器保存処理作業、動物遺体保存処理作業については、調査グループ主査 山口誠治、同専門調査員 倉賀野健が行った。
5. 調査の実施にあたっては、地元東大阪市教育委員会、東大阪市岩田西校区連合会岩田北部自治会、大阪府教育委員会のほか、下記の方々にご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

菅原章太（東大阪市教育委員会）、田中勝治・中村嘉孝（岩田西校区連合会岩田北部自治会）、
大西雅美（東大阪市立岩田小学校）
5. 調査にあたっては、石材の鑑定を松岡廣繁氏（京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 古生物学助教）に、出土人歯の鑑定を安部みき子氏（大阪市立大学大学院医学研究科助教）、長岡朋人（聖マリアンナ医科大学解剖学教室講師）に指導を得た。その成果は第3章本文中に盛り込んだ。
6. 自然科学分析では、大型植物遺体同定をパリノ・サーヴェイ株式会社に、放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに委託した。その成果は第4章に掲載した。
7. 本書の執筆および編集は黒須亜希子が行った。
8. 本調査に関わる遺物、写真、図面、データ、作成プレパラート等は、すべて「瓜生堂遺跡・岩田遺跡・花屋敷遺跡 10-1」の調査名称を冠し、当センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、各図内にスケールバーを掲げ、縮尺率を明示した。
遺構図および断面図の使用単位尺は、mを基準とした。基準高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用した。また、遺物図の使用単位縮尺は、cmを基準とした。記述もこれに倣った。
2. 遺構平面図の使用測地系は、「世界測地系（測地成果 2000）」であり、これに準拠した国土座標軸第VI系を使用した。単位はすべてmで表記した。なお、隣接する既往の調査成果は日本測地系を用いて報告されている。このため本書では、必要に応じてこれを世界測地系に換算し、引用した。
3. 遺構平面図に付した方位針は座標北を基準とし、磁北は西に $6^{\circ} 18'$ 、真北は東に $0^{\circ} 12'$ 振っている。
4. 土層や土器胎土の色調については、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』2006年版 農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用して識別した。本書図中での記載順序は、記号・土色名・土質名の順である。
5. 本書で用いた調査区名は、『遺跡調査基本マニュアル』財団法人大阪府文化財センター 2010.12に準拠し、調査番号「10-1」の後に調査区名を続けた形（10-1-1区、10-1-2区…）である。この名称は工事段階での名称（A調査区・B調査区…）とは異なるため、対応表を第1章第1節に記載した。
6. 遺構番号は基本的に現地調査において付番したものを踏襲した。現地調査では、遺構の種類に関係なく調査区ごとに1から通し番号を配し、遺構の種類の前にアラビア数字の番号を付けて「1溝」のように表記した。本書ではこの番号に、1桁の調査区名を冠して標記している。
例) 10-1-1区検出の1溝 ……………1001
10-1-5区検出の3ピット ……………5003
7. 遺構平面図における「⊥」マークは、断面観察を行った地点を指す。観察方向は、断面図に記載された方位（N=北・S=南・E=東・W=西）によって判断されたい。
8. 遺構の断面形状については、「椀形」「皿形」など、任意の呼称で記述している。凡例は下図に示すとおりである。



9. 遺物番号は挿図及び図版ごとに付番した。このため本文中で挿図を指す場合は、「第50図15」、写真図版を指す場合は「図版38-1」と表記した。この番号は、巻末の遺物観察表とも一致させて

いる。

10. 遺物実測図における黒塗りやアミカケ範囲は、陶磁器になされた絵付けや文字の書き込み、漆皮膜、炭化物の付着、木製品の炭化部位などを示す。その詳細は、解説文中において記述した。
11. 本書文中において引用した文献は、【引用・参考文献】として、各章末に列挙した。

目 次

巻頭図版

序 文

例 言

凡 例

第1章 調査の経緯と調査方法	1
第1節 調査に至る経緯と経過	1
1. 遺跡の概要	1
2. 調査に至る経緯	1
3. 調査区の設定	3
4. 現地調査の経過	3
第2節 調査の方法	6
1. 調査区内の地区割方法	6
2. 調査の方法	9
3. 銭貨埋納遺構の整理作業方法	12
第2章 調査地周辺の地理と環境	14
第1節 調査地周辺の地理と地形	14
第2節 文献史料に見る調査地周辺	15
第3節 調査地周辺の遺跡と既往の調査成果	16
1. 調査地周辺の遺跡	16
2. 既往の調査成果	19
第3章 調査成果	22
第1節 基本層序	22
1. 瓜生堂遺跡・岩田遺跡の基本層序	22
2. 10-1-1区	24
3. 10-1-2区	27
4. 10-1-3区	28
5. 10-1-4区	32
6. 10-1-5区	34
7. 10-1-6区	35
8. 10-1-7区	38
9. 10-1-8区	41
10. 花屋敷遺跡の基本層序 10-1-9区	43

第2節 瓜生堂遺跡の遺構と遺物	45
1. 10-1-1区	45
2. 10-1-2区	83
3. 10-1-3区	102
4. 10-1-4区	110
5. 10-1-5区	116
第3節 岩田遺跡の遺構と遺物	124
1. 10-1-6区	124
2. 10-1-7区	135
3. 10-1-8区	145
第4節 花屋敷遺跡の遺構と遺物	149
1. 10-1-9区	149
2. 銭貨埋納遺構	170
第4章 自然科学分析	183
第1節 放射性炭素年代測定	183
第2節 大型植物遺体分析	187
第5章 総括	195
抄 録	
奥 付	

挿 図 目 次

第 1 図 調査地位置図	2
第 2 図 調査区配置図	5
第 3 図 調査区地区割模式図	6
第 4 図 調査区地区割図（瓜生堂遺跡）	7
第 5 図 調査区地区割図（岩田遺跡・花屋敷遺跡）	8
第 6 図 調査地周辺の旧地形および旧河道復元図	14
第 7 図 周辺の遺跡分布図	17
第 8 図 瓜生堂遺跡周辺の既往の調査位置と弥生時代中期後半の様相	20
第 9 図 既往の調査地位置図（瓜生堂遺跡・岩田遺跡）	20
第 10 図 既往の調査地位置図（花屋敷遺跡）	21
第 11 図 基本層序模式図（瓜生堂遺跡）	22
第 12 図 基本層序模式図（岩田遺跡）	23
第 13 図 10-1-1区 壁断面図	25

第 14 図	10-1-2 区	壁断面図	29
第 15 図	10-1-3 区	壁断面図	31
第 16 図	10-1-4 区	壁断面図	33
第 17 図	10-1-5 区	壁断面図	35
第 18 図	10-1-6 区	壁断面図	37
第 19 図	10-1-7 区	壁断面図	39
第 20 図	10-1-8 区	壁断面図	42
第 21 図	基本層序模式図 (花屋敷遺跡)		44
第 22 図	10-1-9 区	壁断面図	44
第 23 図	10-1-1 区	第 1 遺構面全体図	47
第 24 図	10-1-1 区	第 2 遺構面全体図	47
第 25 図	10-1-1 区	第 3 遺構面全体図	49
第 26 図	10-1-1 区	第 4 遺構面全体図	49
第 27 図	10-1-1 区	第 5 遺構面全体図	50
第 28 図	10-1-1 区	第 6 遺構面全体図	50
第 29 図	10-1-1 区	第 8 遺構面全体図	51
第 30 図	10-1-1 区	第 9 遺構面全体図	51
第 31 図	10-1-1 区	第 10 遺構面全体図	53
第 32 図	10-1-1 区	第 11-1 遺構面全体図	53
第 33 図	10-1-1 区	第 10 遺構面集石遺構出土状況図	54
第 34 図	10-1-1 区	第 10 遺構面 1058 流路出土遺物実測図 1	57
第 35 図	10-1-1 区	第 10 遺構面 1058 流路出土遺物実測図 2	59
第 36 図	10-1-1 区	第 10 遺構面 1058 流路出土遺物実測図 3	60
第 37 図	10-1-1 区	第 11-2 遺構面全体図	61
第 38 図	10-1-1 区	第 12 遺構面全体図	63
第 39 図	10-1-1 区	第 13 遺構面全体図	63
第 40 図	10-1-1 区	第 12 遺構面・第 13 遺構面 1061 周溝墓平面断面図	65
第 41 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1061 周溝墓・1062 周溝出土遺物実測図	67
第 42 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1066 土坑平面断面図	68
第 43 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1066 ~ 1068 土坑出土遺物実測図	68
第 44 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1066 土坑出土遺物実測図	69
第 45 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1067 土坑平面断面図	70
第 46 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1067 土坑出土遺物実測図	71
第 47 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1068 土坑平面断面図	72
第 48 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1068 土坑出土遺物実測図 1	73
第 49 図	10-1-1 区	第 12 遺構面 1068 土坑出土遺物実測図 2	74
第 50 図	10-1-1 区	第 13 遺構面 1072 土坑出土遺物実測図	75
第 51 図	10-1-1 区	第 13 遺構面 1073 周溝出土遺物実測図	75

第 52 図	10-1-1 区	第 15 遺構面全体図	77
第 53 図	10-1-1 区	第 20 遺構面全体図	78
第 54 図	10-1-1 区	第 20 遺構面 1080 溝平面断面図	79
第 55 図	10-1-1 区	第 21 遺構面全体図	80
第 56 図	10-1-1 区	第 17 層～第 19 層出土遺物実測図	82
第 57 図	10-1-2 区	第 1 遺構面全体図	84
第 58 図	10-1-2 区	第 2 遺構面全体図	84
第 59 図	10-1-2 区	第 3 遺構面全体図	86
第 60 図	10-1-2 区	第 4 遺構面全体図	86
第 61 図	10-1-2 区	第 5 遺構面全体図	88
第 62 図	10-1-2 区	第 6 遺構面全体図	88
第 63 図	10-1-2 区	第 9 遺構面全体図	89
第 64 図	10-1-2 区	第 15 遺構面全体図	89
第 65 図	10-1-2 区	第 18 遺構面全体図	90
第 66 図	10-1-2 区	第 21 遺構面全体図	91
第 67 図	10-1-2 区	第 21 層出土遺物実測図	92
第 68 図	10-1-2 区	第 22 遺構面全体図	93
第 69 図	10-1-2 区	第 22 遺構面・第 22 層出土遺物実測図	94
第 70 図	10-1-2 区	第 23 遺構面全体図	95
第 71 図	10-1-2 区	第 23 遺構面遺構内出土遺物実測図	95
第 72 図	10-1-2 区	第 23 層出土遺物実測図	96
第 73 図	10-1-2 区	第 24 遺構面全体図	96
第 74 図	10-1-2 区	第 24 遺構面 2041 溝出土遺物実測図	97
第 75 図	10-1-2 区	第 24 遺構面 2041・2042 溝出土遺物実測図	98
第 76 図	10-1-2 区	第 25 遺構面全体図	99
第 77 図	10-1-2 区	第 25 遺構面・第 26 遺構面出土遺物実測図	100
第 78 図	10-1-2 区	第 26 遺構面全体図	101
第 79 図	10-1-3 区	第 1 遺構面全体図	102
第 80 図	10-1-3 区	第 2 遺構面全体図	102
第 81 図	10-1-3 区	第 3 遺構面全体図	104
第 82 図	10-1-3 区	第 4 遺構面全体図	105
第 83 図	10-1-3 区	第 6 遺構面全体図	105
第 84 図	10-1-3 区	第 9 遺構面全体図	106
第 85 図	10-1-3 区	第 13 遺構面全体図	107
第 86 図	10-1-3 区	第 15 遺構面全体図	107
第 87 図	10-1-3 区	第 16 遺構面全体図	108
第 88 図	10-1-3 区	第 17 遺構面全体図	108
第 89 図	10-1-3 区	第 16 層出土遺物実測図	109

第 90 図	10-1-3 区	第 17 遺構面 3150 土坑（竪穴）平面断面図	109
第 91 図	10-1-4 区	第 2 遺構面全体図	110
第 92 図	10-1-4 区	第 3 遺構面全体図	110
第 93 図	10-1-4 区	第 4 遺構面全体図	111
第 94 図	10-1-4 区	第 5 遺構面全体図	112
第 95 図	10-1-4 区	第 8 遺構面全体図	112
第 96 図	10-1-4 区	第 10 遺構面全体図	113
第 97 図	10-1-4 区	第 11 遺構面全体図	114
第 98 図	10-1-4 区	第 14 遺構面全体図	114
第 99 図	10-1-4 区	第 16 遺構面全体図	115
第 100 図	10-1-4 区	第 17 遺構面全体図	115
第 101 図	10-1-5 区	第 3 遺構面全体図	116
第 102 図	10-1-5 区	第 4 遺構面全体図	117
第 103 図	10-1-5 区	第 5 遺構面全体図	118
第 104 図	10-1-5 区	第 6 遺構面全体図	118
第 105 図	10-1-5 区	第 7 遺構面全体図	119
第 106 図	10-1-5 区	第 9 遺構面全体図	119
第 107 図	10-1-5 区	第 9 遺構面 5058・5059 周溝墓・5060 周溝平面断面図	120
第 108 図	10-1-5 区	第 9 遺構面 5058 周溝墓出土遺物実測図 1	121
第 109 図	10-1-5 区	第 9 遺構面 5058 周溝墓出土遺物実測図 2	122
第 110 図	10-1-5 区	第 9 遺構面 5058 周溝墓出土遺物実測図 3	123
第 111 図	10-1-6 区	第 2 遺構面全体図	124
第 112 図	10-1-6 区	第 4 遺構面全体図	125
第 113 図	10-1-6 区	第 5 遺構面全体図	125
第 114 図	10-1-6 区	第 10 遺構面全体図	126
第 115 図	10-1-6 区	第 12 遺構面全体図	126
第 116 図	10-1-6 区	第 16 遺構面全体図	127
第 117 図	10-1-6 区	第 3 層～第 16 層出土遺物実測図	128
第 118 図	10-1-6 区	第 17 遺構面全体図	129
第 119 図	10-1-6 区	第 17 遺構面 6010 土坑平面断面図	130
第 120 図	10-1-6 区	第 17 遺構面 6010 土坑出土遺物実測図 1	131
第 121 図	10-1-6 区	第 17 遺構面 6010 土坑出土遺物実測図 2	132
第 122 図	10-1-6 区	第 18 遺構面全体図	133
第 123 図	10-1-6 区	第 21 遺構面全体図	134
第 124 図	10-1-6 区	第 22 遺構面全体図	134
第 125 図	10-1-7 区	第 4 遺構面全体図	135
第 126 図	10-1-7 区	第 5 遺構面全体図	136
第 127 図	10-1-7 区	第 6 遺構面全体図	137

第128図	10-1-7区	第8遺構面全体図	137
第129図	10-1-7区	第9遺構面全体図	138
第130図	10-1-7区	第3層～第10層出土遺物実測図	139
第131図	10-1-7区	第11遺構面全体図	140
第132図	10-1-7区	第14遺構面全体図	140
第133図	10-1-7区	第15遺構面全体図	141
第134図	10-1-7区	第16遺構面全体図	142
第135図	10-1-7区	第19遺構面全体図	142
第136図	10-1-7区	第20遺構面全体図	143
第137図	10-1-7区	第19層・第20遺構面出土遺物実測図	144
第138図	10-1-8区	第2遺構面全体図	145
第139図	10-1-8区	第3遺構面全体図	145
第140図	10-1-8区	第7遺構面全体図	146
第141図	10-1-8区	第13遺構面全体図	146
第142図	10-1-9区	第14遺構面全体図	147
第143図	10-1-8区	第16遺構面全体図	148
第144図	10-1-8区	第18遺構面全体図	148
第145図	10-1-9区	第1遺構面全体図	149
第146図	10-1-9区	第2遺構面全体図	150
第147図	10-1-9区	第1層～第3層出土遺物実測図	151
第148図	10-1-9区	第3遺構面全体図	152
第149図	10-1-9区	第4遺構面全体図	152
第150図	10-1-9区	第4遺構面遺構内出土遺物実測図	153
第151図	10-1-9区	第4層出土遺物実測図	153
第152図	10-1-9区	第5遺構面全体図	154
第153図	10-1-9区	第5遺構面9015炭だまり平面断面図	155
第154図	10-1-9区	第5遺構面9016炭だまり平面断面図	156
第155図	10-1-9区	第5遺構面出土遺物実測図	156
第156図	10-1-9区	第5遺構面遺構内出土遺物実測図	157
第157図	10-1-9区	第5層出土遺物実測図	157
第158図	10-1-9区	第6遺構面全体図	158
第159図	10-1-9区	第6遺構面出土遺物実測図	159
第160図	10-1-9区	第6遺構面9022溝出土遺物実測図1	161
第161図	10-1-9区	第6遺構面9022溝出土遺物実測図2	162
第162図	10-1-9区	第6遺構面9022溝出土遺物実測図3	163
第163図	10-1-9区	第6遺構面9022溝出土遺物実測図4	164
第164図	10-1-9区	第6遺構面9030井戸平面断面図	165
第165図	10-1-9区	第6遺構面9030井戸出土遺物実測図	166

第166図	10-1-9区	第6遺構面遺構内出土遺物実測図	167
第167図	10-1-9区	第7遺構面全体図	168
第168図	10-1-9区	第6層・第7遺構面遺構内出土遺物実測図	168
第169図	10-1-9区	第7遺構面出土遺物実測図	169
第170図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑錢貨出土状況図1	170
第171図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑錢貨出土状況図2	171
第172図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑錢貨出土状況図3	172
第173図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨1	174
第174図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨2	175
第175図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨3	176
第176図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨4	177
第177図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨5	178
第178図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨6	179
第179図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨7	180
第180図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨8	181
第181図	10-1-9区	第6遺構面9023土坑出土錢貨9	182
第182図	暦年較正結果		186
第183図	暦年代分布図		186
第184図	瓜生堂遺跡・岩田遺跡 遺構変遷概括図		196
第185図	瓜生堂遺跡	遺構面合成図1	197
第186図	瓜生堂遺跡	遺構面合成図2	198
第187図	瓜生堂遺跡	遺構面合成図3	199
第188図	瓜生堂遺跡	遺構面合成図4	200
第189図	岩田遺跡	遺構面合成図	201
第190図	花屋敷遺跡	遺構変遷図	202
第191図	花屋敷遺跡	中世遺構概括図	203

表 目 次

表1	調査区名称の対応と調査面積及び掘削設計深度一覧	3
表2	瓜生堂遺跡・岩田遺跡・花屋敷遺跡10-1 発掘調査工程表	4
表3	10-1-1区 1058流路・集石遺構石種一覧	55
表4	放射性炭素年代測定試料内容一覧	184
表5	放射性炭素年代測定結果及び暦年較正結果一覧	184
表6	大型植物遺体同定結果一覧	189
表7	遺物観察表(土器)	206

表8	遺物観察表（金属製品・銭貨）	232
表9	遺物観察表（木製品）	239
表10	遺物観察表（石器・石製品）	242

挿入写真目次

写真1	機械掘削作業	10
写真2	人力掘削作業	10
写真3	遺構検出作業	10
写真4	遺構写真撮影作業	10
写真5	遺物取り上げ作業	10
写真6	写真測量作業	10
写真7	大阪府教育委員会立会	10
写真8	レベル測量作業	10
写真9	調査区断面観察	11
写真10	断面図作成	11
写真11	遺構断面図作成	11
写真12	遺物注記作業	11
写真13	遺物接合作業	11
写真14	遺物復元作業	11
写真15	遺物実測作業	11
写真16	データ入力作業	11
写真17	銭貨埋納遺構 周囲の補強	13
写真18	銭貨埋納遺構 木枠の挿入	13
写真19	銭貨埋納遺構 発泡ウレタン注入	13
写真20	銭貨埋納遺構 発泡ウレタンの凝固状態	13
写真21	銭貨埋納遺構 鉄板の挿入	13
写真22	銭貨埋納遺構 木枠の吊り上げ移動	13
写真23	銭貨埋納遺構 遺構搬送	13
写真24	銭貨埋納遺構 銭貨取り上げ作業	13
写真25	集石遺構石種（砂岩）	55
写真26	集石遺構石種（チャート）	55
写真27	集石遺構石種（花崗岩）	55
写真28	集石遺構石種（花崗班岩）	55
写真29	10-1-6区 第17遺構面6010土坑（土器棺墓）出土人歯	131
写真30	大型植物遺体同定 検出種子	191
写真31	大型植物遺体同定 自然木	192

写真図版目次

- 巻頭図版
1. 10-1-5区 第12遺構面 5058 周溝墓 遺物出土状況
 2. 10-1-5区 第12遺構面 5058 周溝墓 出土遺物
 3. 10-1-6区 第17遺構面 6010 土坑（土器棺） 遺物出土状況
 4. 10-1-9区 第6遺構面 9023 土坑（錢貨埋納遺構） 遺物出土状況
- 図版1 遺構
1. 10-1-1区 第2遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-1区東半部 第2遺構面 全景（北西から）
 3. 10-1-1区東半部 第3遺構面 全景（北西から）
 4. 10-1-1区西半部 第4遺構面 全景（北東から）
 5. 10-1-1区東半部 第4遺構面 全景（北西から）
- 図版2 遺構
1. 10-1-1区東半部 第5遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-1区西半部 第5遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-1区東半部 第6遺構面 全景（西から）
 4. 10-1-1区西半部 第6遺構面 全景（東から）
 5. 10-1-1区 第7遺構面 全景（東から）
 6. 10-1-1区西半部 第8遺構面 全景（東から）
 7. 10-1-1区 第8遺構面 1091 土器だまり遺物出土状況（南から）
 8. 10-1-1区 第9遺構面 1092 土器だまり遺物出土状況（南から）
- 図版3 遺構
1. 10-1-1区東半部 第10遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-1区西半部 第10遺構面 全景（東から）
- 図版4 遺構
1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路 完掘状況（西から）
 2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路 遺物出土状況
 3. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路 遺物出土状況
 4. 10-1-1区 第10遺構面 1059 集石 遺物出土状況
 5. 10-1-1区 第10遺構面 1060 集石 遺物出土状況
- 図版5 遺構
1. 10-1-1区中央部 第11遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-1区 第11-1遺構面 1094 土器だまり 遺物出土状況
 3. 10-1-1区 第11-1遺構面 1095 土器だまり 遺物出土状況
 4. 10-1-1区 第11-1遺構面 1096 土器だまり 遺物出土状況
 5. 10-1-1区 第11-2遺構面 1071 土器だまり 遺物出土状況
- 図版6 遺構
1. 10-1-1区中央部 第12遺構面 遺構検出状況（東から）
 2. 10-1-1区 第12遺構面 1066 土坑 遺物出土状況（北東から）
 3. 10-1-1区 第12遺構面 1067 土坑 遺物出土状況（北から）
 4. 10-1-1区 第12遺構面 1068 土坑 遺物出土状況（南から）
 5. 10-1-1区 第12遺構面 1068 土坑 遺物出土状況（南から）
- 図版7 遺構
1. 10-1-1区 第12遺構面 1061 周溝墓 遺物出土状況（北東から）

2. 10-1-1区 第13遺構面 1061周溝墓 盛土除去状況（南西から）
- 図版8 遺構 1. 10-1-1区東半部 第15遺構面 全景（南西から）
2. 10-1-1区西半部 第15遺構面 全景（北西から）
- 図版9 遺構 1. 10-1-1区東半部 第19遺構面 全景（北西から）
2. 10-1-1区西半部 第19遺構面（東から）
3. 10-1-1区 第19遺構面 1080溝 完掘状況（西から）
4. 10-1-1区東半部 第20遺構面 全景（西から）
5. 10-1-1区東半部 第20遺構面 全景（東から）
- 図版10 遺構 1. 10-1-2区東半部 第2遺構面 全景（東から）
2. 10-1-2区 第4遺構面 全景（東から）
3. 10-1-2区 第5遺構面 全景（東から）
4. 10-1-2区 第6遺構面 2025溝 断面状況（北西から）
5. 10-1-2区 第6遺構面 2025溝 遺物出土状況
- 図版11 遺構 1. 10-1-2区 第6遺構面 全景（西から）
2. 10-1-2区 第7遺構面 全景（西から）
3. 10-1-2区 第8遺構面 全景（西から）
4. 10-1-2区 第9遺構面 全景（西から）
5. 10-1-2区 第12遺構面 全景（西から）
6. 10-1-2区 第14遺構面 全景（東から）
7. 10-1-2区 第15遺構面 全景（西から）
8. 10-1-2区 第16遺構面 全景（西から）
- 図版12 遺構 1. 10-1-2区 第18遺構面 全景（西から）
2. 10-1-2区 第19遺構面 全景（東から）
3. 10-1-2区 第22遺構面 全景（東から）
- 図版13 遺構 1. 10-1-2区 第24遺構面 全景（東から）
2. 10-1-2区 第24遺構面 全景（西から）
3. 10-1-2区 第24遺構面 2041溝 遺物出土状況
4. 10-1-2区 第25遺構面 全景（東から）
5. 10-1-2区 第25遺構面 2045竪穴 検出状況（西から）
6. 10-1-2区 第25遺構面 遺構完掘状況（西から）
- 図版14 遺構 1. 10-1-3区 第3遺構面 全景（西から）
2. 10-1-3区 第2遺構面 全景（東から）
3. 10-1-3区 第3遺構面 3008井戸 井戸枠出土状況
4. 10-1-3区 第4遺構面 全景（西から）
5. 10-1-3区 第5遺構面 全景（西から）
- 図版15 遺構 1. 10-1-3区 第6遺構面 全景（北西から）
2. 10-1-3区 第7遺構面 全景（西から）
3. 10-1-3区 第7層 遺物出土状況

4. 10-1-3区 第8遺構面 全景(西から)
5. 10-1-3区 第9遺構面 全景(西から)
- 図版16 遺構 1. 10-1-3区 第9遺構面 3130周溝墓 検出状況(西から)
2. 10-1-3区 第9遺構面 3130周溝墓 完掘状況(西から)
3. 10-1-3区 第10遺構面 全景(西から)
4. 10-1-3区 第12遺構面 全景(西から)
5. 10-1-3区 第15遺構面 全景(東から)
- 図版17 遺構 1. 10-1-3区 第14遺構面 全景(東から)
2. 10-1-3区 第16遺構面 遺構検出状況(北西から)
3. 10-1-3区 第16遺構面 遺構検出状況(北から)
4. 10-1-3区 第17遺構面 全景(東から)
5. 10-1-3区 第17遺構面 3150 竪穴 検出状況(東から)
- 図版18 遺構 1. 10-1-4区 第2遺構面 全景(東から)
2. 10-1-4区 第3遺構面 全景(東から)
3. 10-1-4区 第4遺構面 全景(東から)
4. 10-1-4区 第5遺構面 全景(東から)
5. 10-1-4区 第6遺構面 全景(東から)
- 図版19 遺構 1. 10-1-4区 第10遺構面 全景(西から)
2. 10-1-4区 第16遺構面 全景(東から)
3. 10-1-4区 第16遺構面溝群 完掘状況(南東から)
4. 10-1-4区 第17遺構面 全景(東から)
5. 10-1-4区 第18遺構面 全景(東から)
- 図版20 遺構 1. 10-1-5区 第4遺構面 全景(西から)
2. 10-1-5区 第2遺構面 5049 井戸 半裁状況(南から)
3. 10-1-5区 第4遺構面 5005 井戸 半裁状況(西から)
4. 10-1-5区 第5遺構面 全景(西から)
5. 10-1-5区 第6遺構面 全景(西から)
- 図版21 遺構 1. 10-1-5区 第7遺構面 全景(東から)
2. 10-1-5区 第8遺構面 全景(東から)
3. 10-1-5区 第9遺構面 5059 周溝墓 検出状況(西から)
4. 10-1-5区 第9遺構面 遺物出土状況(北から)
5. 10-1-5区 第9遺構面 5058 周溝墓 検出状況(東から)
- 図版22 遺構 1. 10-1-6区 第1遺構面 全景(東から)
2. 10-1-6区 第2遺構面 全景(東から)
3. 10-1-6区 第3遺構面 全景(東から)
4. 10-1-6区 第5遺構面 全景(東から)
5. 10-1-6区 第4遺構面 全景(西から)
- 図版23 遺構 1. 10-1-6区 第6遺構面 全景(東から)

2. 10-1-6区 第7遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-6区 第8遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-6区 第9遺構面 全景（西から）
 5. 10-1-6区 第10遺構面 全景（北西から）
- 図版 24 遺構 1. 10-1-6区 第11遺構面 全景（西から）
 2. 10-1-6区 第11遺構面地割れ跡 検出状況（北から）
 3. 10-1-6区 第12遺構面 全景（西から）
 4. 10-1-6区 第13遺構面 全景（西から）
 5. 10-1-6区西半部 第12遺構面 遺構検出状況（北東から）
- 図版 25 遺構 1. 10-1-6区 第15遺構面 全景（西から）
 2. 10-1-6区東半部 第15遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-6区 第17遺構面 6010土坑 遺物出土状況
 4. 10-1-6区西半部 第17遺構面 全景（西から）
- 図版 26 遺構 1. 10-1-6区 第18遺構面 全景（北西から）
 2. 10-1-6区 第19遺構面 全景（西から）
 3. 10-1-6区 第21遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-6区 第22遺構面 全景（西から）
- 図版 27 遺構 1. 10-1-7区 第1遺構面 全景（西から）
 2. 10-1-7区 第2遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-7区 第3遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-7区 第5遺構面 全景（東から）
 5. 10-1-7区 第4遺構面 全景（東から）
- 図版 28 遺構 1. 10-1-7区 第6遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-7区 第7遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-7区 第8遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-7区 第10遺構面 全景（東から）
 5. 10-1-7区 第9遺構面 全景（東から）
- 図版 29 遺構 1. 10-1-7区 第11遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-7区 第12遺構面 全景（東から）
 3. 10-1-7区 第15遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-7区 第16遺構面 全景（東から）
- 図版 30 遺構 1. 10-1-7区 第19遺構面 全景（東から）
 2. 10-1-7区 第20遺構面 全景（東から）
- 図版 31 遺構 1. 10-1-8区 第2遺構面 全景（西から）
 2. 10-1-8区西半部 第3遺構面 全景（北西から）
 3. 10-1-8区東半部 第3遺構面 全景（東から）
 4. 10-1-8区西半部 第4遺構面 全景（北西から）
 5. 10-1-8区東半部 第4遺構面 全景（東から）

- 図版 32 遺構 1. 10-1-8区 第7遺構面 全景(東から)
 2. 10-1-8区 第8遺構面 全景(東から)
 3. 10-1-8区 第9遺構面 全景(東から)
- 図版 33 遺構 1. 10-1-8区 第12遺構面 全景(東から)
 2. 10-1-8区 第15遺構面 全景(東から)
 3. 10-1-8区 第16遺構面 全景(東から)
 4. 10-1-8区 第17遺構面 全景(東から)
- 図版 34 遺構 1. 10-1-9区 第1遺構面 全景(東から)
 2. 10-1-9区 第2遺構面 全景(東から)
 3. 10-1-9区 第3遺構面 全景(東から)
 4. 10-1-9区 第4遺構面 全景(東から)
 5. 10-1-9区 第5遺構面 全景(南西から)
 6. 10-1-9区 第4遺構面 9004井戸 半裁状況(北から)
- 図版 35 遺構 1. 10-1-9区 第5遺構面 全景(東から)
 2. 10-1-9区 第5遺構面 9015土坑 検出状況(西から)
 3. 10-1-9区 第5層 遺物出土状況
 4. 10-1-9区 第6遺構面 9185井戸 検出状況(北から)
 5. 10-1-9区 第6遺構面 9026溝 完掘状況(東から)
- 図版 36 遺構 1. 10-1-9区 第6遺構面 全景(東から)
- 図版 37 遺構 1. 10-1-9区 第7遺構面 全景(東から)
 2. 10-1-9区 第8遺構面 全景(東から)
- 図版 38 遺物 1. 10-1-1区 第1遺構面 1001溝出土
 2. 10-1-1区 第2遺構面 1020井戸出土
 3. 10-1-1区 第2遺構面 1027溝出土
- 図版 39 遺物 1. 10-1-1区 第2遺構面 1027溝出土
- 図版 40 遺物 1. 10-1-1区 第8遺構面 1091土器だまり出土
 2. 10-1-1区 第9遺構面 1092土器だまり出土
 3. 10-1-1区 第11-1遺構面 1095土器だまり出土
 4. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064土器だまり出土
- 図版 41 遺物 1. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064土器だまり出土
- 図版 42 遺物 1. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064土器だまり出土
- 図版 43 遺物 1. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064土器だまり出土
- 図版 44 遺物 1. 10-1-1区 第12遺構面 1062周溝上層出土
 2. 10-1-1区 第11-1遺構面 1094土器だまり出土
 3. 10-1-1区 第10遺構面 1058流路出土
- 図版 45 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058流路出土
 2. 10-1-1区 第10遺構面 1058流路出土
 3. 10-1-1区 第11-2遺構面 1065土器だまり出土

		4. 10-1-1区	第11-2遺構面	1070 土器だまり出土
		5. 10-1-1区	第11-2遺構面	1071 土器だまり出土
図版 46	遺物	1. 10-1-1区	第11-1遺構面	1096 土器だまり出土
		2. 10-1-1区	第12遺構面	1061 周溝墓上面出土
		3. 10-1-1区	第12遺構面	1066 土坑出土
図版 47	遺物	1. 10-1-1区	第12遺構面	1067 土坑出土
		2. 10-1-1区	第12遺構面	1068 土坑出土
		3. 10-1-1区	第12遺構面	1068 土坑出土
		4. 10-1-1区	第12遺構面	1062 周溝出土
図版 48	遺物	1. 10-1-1区	第12遺構面	1066 土坑出土
		2. 10-1-1区	第12遺構面	1066・1067・1068 土坑出土
		3. 10-1-2区	第1層出土	
図版 49	遺物	1. 10-1-2区	第1層出土	
		2. 10-1-2区	第1層～第4層・第4遺構面	検出遺構出土
図版 50	遺物	1. 10-1-2区	第1層～第4層	出土
図版 51	遺物	1. 10-1-2区	第1遺構面～第6遺構面	出土
		2. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 52	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
		2. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 53	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 54	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 55	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 56	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
図版 57	遺物	1. 10-1-2区	第6遺構面	検出遺構出土
図版 58	遺物	1. 10-1-2区	第5遺構面	2025 溝出土
		2. 10-1-2区	第23遺構面	検出遺構出土
		3. 10-1-2区	第21層	出土
図版 59	遺物	1. 10-1-2区	第21層	出土
図版 60	遺物	1. 10-1-2区	第21層～第23層・第23遺構面	2040 土坑出土
図版 61	遺物	1. 10-1-2区	第22層	出土
図版 62	遺物	1. 10-1-2区	第23層・第24層・第24遺構面	検出遺構出土
		2. 10-1-2区	第25遺構面	2045 竪穴出土
		3. 10-1-2区	第24遺構面	2041 溝出土
図版 63	遺物	1. 10-1-2区	第24遺構面	2041 溝出土
図版 64	遺物	1. 10-1-2区	第24遺構面	2041 溝出土
		2. 10-1-2区	第25遺構面	2045 竪穴出土
図版 65	遺物	1. 10-1-3区	第1層	出土
		2. 10-1-3区	第1遺構面	出土

		3.	10-1-3区	第2遺構面出土
		4.	10-1-3区	第2層出土
		5.	10-1-3区	第2層出土
図版 66	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3008 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面 3008 井戸出土
図版 67	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3008 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面 3009 井戸出土
		3.	10-1-3区	第3遺構面 3010 井戸出土
		4.	10-1-3区	第3遺構面 3012 井戸出土
		5.	10-1-3区	第3遺構面 3012 井戸出土
図版 68	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3012 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面 3012 井戸出土
図版 69	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面検出遺構出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面検出遺構出土
図版 70	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3012 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面 3103 溝出土
		3.	10-1-3区	第3遺構面 3116 土坑出土
		4.	10-1-3区	第4遺構面 3122 土坑出土
		5.	10-1-3区	第3遺構面 3102 土坑出土
		6.	10-1-3区	第3遺構面 3102 土坑出土
図版 71	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3072 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3遺構面 3072 井戸出土
		3.	10-1-3区	第3遺構面 3117 ピット出土
		4.	10-1-3区	第3遺構面 3072 井戸出土
図版 72	遺物	1.	10-1-3区	第3遺構面 3072 井戸出土
		2.	10-1-3区	第3層出土
図版 73	遺物	1.	10-1-4区	第3層・第4層出土
		2.	10-1-4区	第4遺構面 4025 溝出土
図版 74	遺物	1.	10-1-4区	第4遺構面 4025 溝出土
		2.	10-1-4区	第4遺構面 4025 溝出土
図版 75	遺物	1.	10-1-4区	第4遺構面 4025 溝出土
		2.	10-1-4区	第4遺構面 4025 溝出土
		3.	10-1-4区	第5遺構面検出遺構出土
図版 76	遺物	1.	10-1-4区	第4遺構面 4040 井戸出土
		2.	10-1-4区	第6層出土
図版 77	遺物	1.	10-1-5区	第3層出土
		2.	10-1-5区	第4遺構面検出遺構出土
図版 78	遺物	1.	10-1-5区	第4遺構面 5004 ピット出土

2. 10-1-5区 第4遺構面 5005 井戸出土
3. 10-1-5区 第4遺構面 5015 井戸出土
4. 10-1-5区 第4遺構面 5016 ピット出土
5. 10-1-5区 第4遺構面 5049 井戸出土
- 図版 79 遺物 1. 10-1-5区 第4遺構面 5049 井戸出土
2. 10-1-5区 第9遺構面 5058 周溝墓出土
- 図版 80 遺物 1. 10-1-6区 第1層~第3層出土
2. 10-1-6区 第6層出土
3. 10-1-6区 第16層出土
4. 10-1-6区 第17遺構面 6010 土坑出土
- 図版 81 遺物 1. 10-1-7区 第3層~第5層出土
2. 10-1-7区 第4遺構面 7004 落込み出土
3. 10-1-7区 第10層出土
4. 10-1-7区 第10層出土
- 図版 82 遺物 1. 10-1-7区 第10層出土
2. 10-1-7区 第19層出土
3. 10-1-7区 第20遺構面 7024 溝出土
- 図版 83 遺物 1. 10-1-9区 第1層・第2層出土
2. 10-1-9区 第3層出土
3. 10-1-9区 第4層出土
- 図版 84 遺物 1. 10-1-9区 第4層・第4遺構面 9006 井戸出土
2. 10-1-9区 第4層・第4遺構面 9005 溝出土
- 図版 85 遺物 1. 10-1-9区 第4遺構面・第5遺構面検出遺構・第5層出土
2. 10-1-9区 第5遺構面出土
3. 10-1-9区 第5遺構面 9015 炭だまり出土
4. 10-1-9区 第5層出土
- 図版 86 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
- 図版 87 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
- 図版 88 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
- 図版 89 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
2. 10-1-9区 第6遺構面出土
- 図版 90 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面出土
2. 10-1-9区 第5遺構面~第7遺構面検出遺構出土
- 図版 91 遺物 1. 10-1-9区 第6遺構面 9026 溝出土
2. 10-1-9区 第6遺構面 9026 溝出土
3. 10-1-9区 第6遺構面 9040 井戸出土
4. 10-1-9区 第6遺構面出土

- 図版 92 遺物 1. 10-1-9区 第7遺構面 9180 井戸出土
2. 10-1-9区 第7遺構面 9182 ピット出土
3. 10-1-9区 第6遺構面 9185 井戸出土
4. 10-1-9区 第7層出土
- 図版 93 遺物 1. 10-1-9区 第7遺構面 9179 落込み出土
2. 10-1-9区 第7層出土
3. 10-1-9区 第7層出土
- 図版 94 遺物 1. 10-1-1区 第2遺構面出土
2. 10-1-1区 第2遺構面 1005 溝出土
3. 10-1-1区 第2遺構面 1009 土坑出土
4. 10-1-1区 第2遺構面 1027 溝出土
5. 10-1-1区 第3遺構面 1025 溝出土
6. 10-1-1区 第6層出土
- 図版 95 遺物 1. 10-1-1区 第2遺構面 1027 溝出土
2. 10-1-1区 第6層出土
- 図版 96 遺物 1. 10-1-1区 第6層出土
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
3. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 97 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 98 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 99 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 100 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 101 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 102 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
- 図版 103 遺物 1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土
3. 10-1-1区 第11-2遺構面 1063 土器だまり出土
- 図版 104 遺物 1. 10-1-1区 第12遺構面 1062 周溝出土
- 図版 105 遺物 1. 10-1-1区 第13遺構面 1072 土坑出土
2. 10-1-2区 第1層出土
3. 10-1-2区 第1層出土
- 図版 106 遺物 1. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土
2. 10-1-2区 第22遺構面検出遺構出土
- 図版 107 遺物 1. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土
2. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土

3. 10-1-2区 第6遺構面 2027 溝出土
 4. 10-1-3区 第3遺構面 3005 井戸出土
 5. 10-1-3区 第3遺構面 3010 井戸出土
- 図版 108 遺物
1. 10-1-3区 第7層出土
 2. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土
- 図版 109 遺物
1. 10-1-5区 第4遺構面 5003 井戸出土
 2. 10-1-5区 第4遺構面 5005 井戸出土
 3. 10-1-5区 第6層出土
 4. 10-1-6区 第20層～第23層出土
 5. 10-1-5区 第9遺構面出土
- 図版 110 遺物
1. 10-1-9区 第1層出土
 2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
 3. 10-1-9区 第6遺構面 9030 井戸出土
 4. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
- 図版 111 遺物
1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
 2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
- 図版 112 遺物
1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土
 2. 10-1-9区 第7遺構面 9133 ピット出土
 3. 10-1-9区 第7遺構面 9179 落込み出土

第1章 調査の経緯と調査方法

第1節 調査に至る経緯と経過

1. 遺跡の概要

瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡は、大阪府東大阪市に位置する周知の遺跡である（第1図参照）。

瓜生堂遺跡は、東大阪市若江西新町、瓜生堂町、西岩田、岩田町に立地する弥生時代から中世に至る複合遺跡で、1964年（昭和39年）に遺物が採集されて以来、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会、瓜生堂遺跡調査会、東大阪市遺跡保護調査会、財団法人東大阪市文化財協会、財団法人大阪府文化財センター（現・公益財団法人大阪府文化財センター、以下当センターと表記）等により継続的に発掘調査が行われてきた。特に木棺墓、土坑墓、土器棺墓等の埋葬施設を有する方形周溝墓群を主体とする墓域や居住域、生産域を伴う弥生時代中期の大規模集落として著名であり、近畿地方における弥生時代の墓制や社会・集団関係を考察する上で、一級の資料として全国に知られている。

この瓜生堂遺跡の東側に隣接する岩田遺跡は、東大阪市岩田町に位置する石田神社の周辺を範囲とする遺跡で、1973年（昭和48年）に石田神社の北東部で行われた試掘調査で存在が明らかとなった。古墳時代から中世の複合遺跡と目されており、2003・2004年度（平成15・16年度）に当センターが行った近鉄奈良線連続立体交差化事業に伴う発掘調査では、古代の集落や中世の耕作面が検出されている。

また花屋敷遺跡は、東大阪市吉田及び東花園町内で2005年度（平成17年度）に実施された近鉄奈良線連続立体交差化事業並びに河内花園駅前地区第一種市街地開発事業に先立つ確認調査で、新たに発見された遺跡である。翌年、当センターが行った上記事業に伴う発掘調査では、室町時代の屋敷地が検出されたことで広く知られるようになった。屋敷地を区画する溝からは、鎌倉時代～室町時代初頭の土器や木製品が大量に出土したことから、遺跡の空白地帯であった当該地域の様相を知る手がかりとして注目されている。

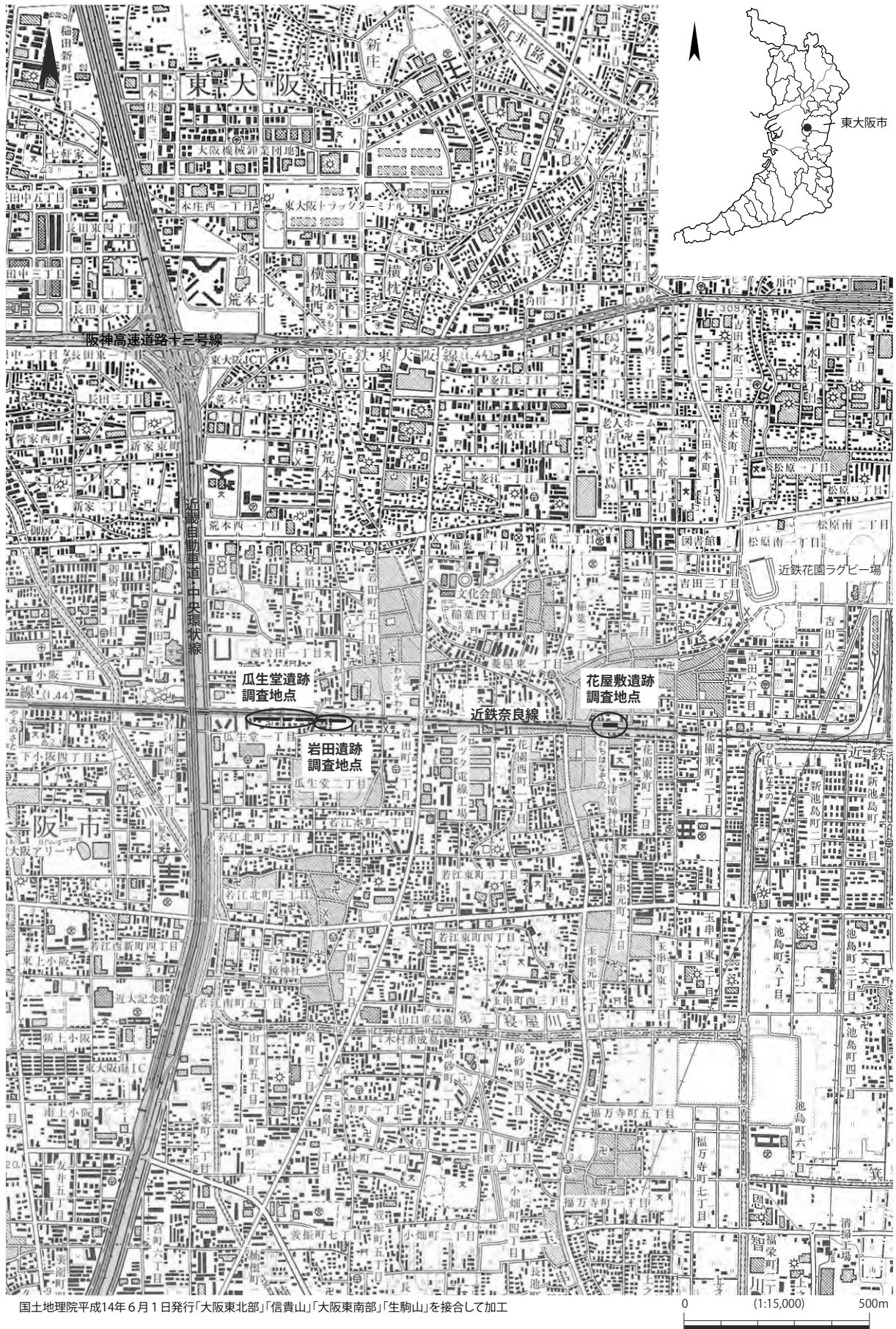
このように、瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡は、いずれも貴重な考古学的資料を有する遺跡として著名である。今回の調査においても、新たな遺構や遺物の発見が期待された。

2. 調査に至る経緯

近畿日本鉄道株式会社は、1969年（昭和44年）に東大阪市内のほぼ中央を横断する近畿日本鉄道奈良線と河内平野を南北に縦断する中央環状線との立体交差を竣工した。以後、大阪市内及び奈良方面への路線と駅舎の地下化・高架化が着々と進められている。

中央環状線より奈良側の路線では、現営業線である計2本のうち北側に位置する線から順に高架上へ移設されている。1999～2002年度（平成11～13年度）、路線帯の北側に設けられる高架の橋脚設置工事（第I期施工）に先立ち、当センターは大阪府八尾土木工事事務所の委託を受けて発掘調査を行った。また、2003年度（平成15年度）には岩田遺跡の発掘調査を実施し、あわせて隣接地の確認調査を行った。この結果、路線付近における遺構面の残存状況が明らかとなった。さらに2005年度（平成17年度）には、近鉄河内花園駅周辺地区の確認調査を行い、花屋敷遺跡が新規発見されるに至った。

こうした状況を受け、近畿日本鉄道株式会社は、南側へ橋脚を拡幅する第II期施工の着手に先立ち、



国土地理院平成14年6月1日発行「大阪東北部」「信貴山」「大阪東南部」「生駒山」を接合して加工

0 (1:15,000) 500m

第1図 調査地位置図

新たに橋脚を設置する箇所について、当センターに発掘調査を委託した（瓜生堂遺跡・岩田遺跡・花屋敷遺跡発掘調査 10-1）。

当センターは、2010年（平成22年）9月1日に、近畿日本鉄道株式会社と「近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う瓜生堂遺跡他発掘調査」の委託契約を締結し、同年10月、現地調査に着手した。

3. 調査区の設定

発掘調査は、計9箇所に調査区が設定された。調査区は、10-1-1区・10-1-2区・10-1-3区・10-1-4区・10-1-5区が瓜生堂遺跡に、10-1-6区・10-1-7区・10-1-8区が岩田遺跡に、10-1-9区が花屋敷遺跡に含まれている。各調査区の面積及び掘削深度、調査期間は表1の通りである。

なお、工事計画段階では調査区にA～Iまでのアルファベット記号が付されていたが（工事区名称）、調査及び整理作業を進めるにあたり、名称をそれぞれ変更した。本書に掲載した調査区名は、この変更後の名称である。

表1 調査区名称の対応と調査面積及び掘削設計深度一覧

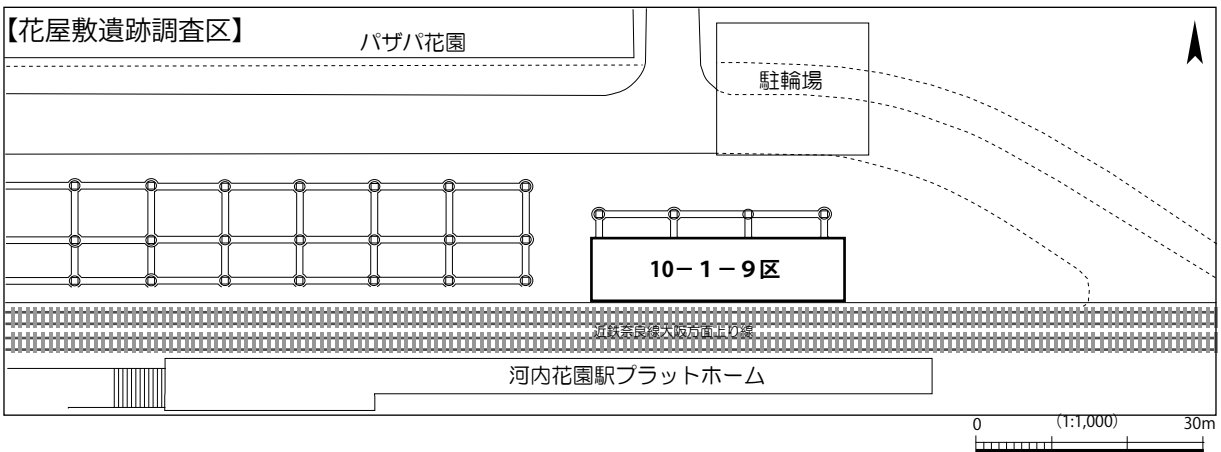
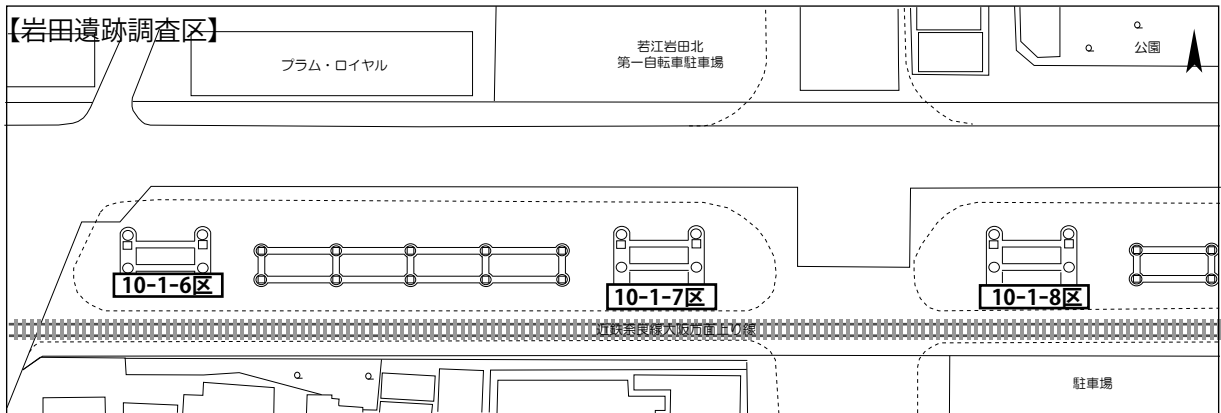
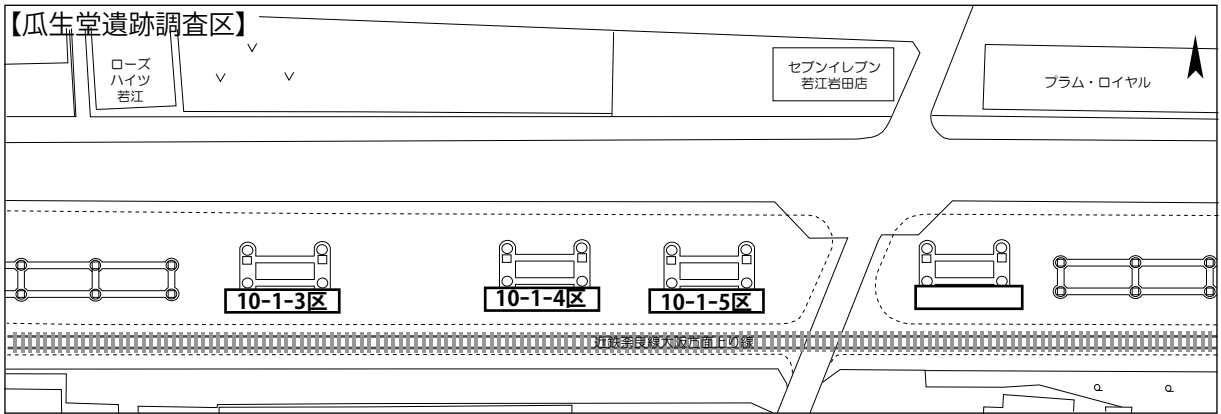
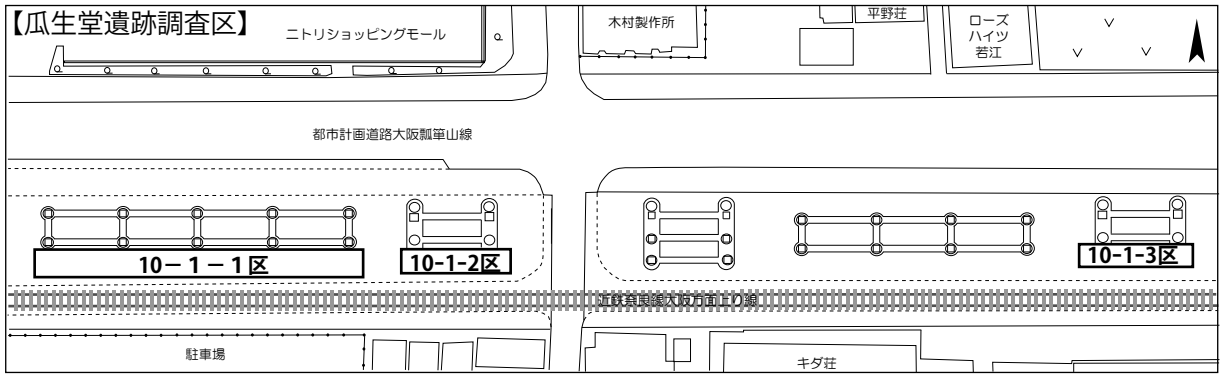
調査区名称	工事区名称	遺跡範囲	調査面積	掘削設計深度	調査期間
10-1-1区	調査区A	瓜生堂遺跡	158.0 m ²	5.0 m	平成23年 2月 9日 ~ 平成23年 5月 31日
10-1-2区	調査区B		49.8 m ²	5.0 m	平成22年 11月 16日 ~ 平成23年 3月 25日
10-1-3区	調査区C		45.9 m ²	5.0 m・4.0 m	平成22年 10月 14日 ~ 平成22年 12月 21日
10-1-4区	調査区D		46.6 m ²	5.0 m・3.0 m	平成22年 10月 18日 ~ 平成22年 12月 27日
10-1-5区	調査区E		46.0 m ²	3.0 m	平成22年 11月 9日 ~ 平成23年 1月 17日
10-1-6区	調査区F	岩田遺跡	46.3 m ²	5.0 m	平成22年 12月 17日 ~ 平成23年 4月 16日
10-1-7区	調査区G		51.9 m ²	5.0 m	平成23年 1月 11日 ~ 平成23年 4月 5日
10-1-8区	調査区H		51.6 m ²	2.6 m	平成23年 1月 21日 ~ 平成23年 3月 15日
10-1-9区	調査区I	花屋敷遺跡	287.3 m ²	3.0 m	平成23年 3月 2日 ~ 平成23年 4月 27日

4. 現地調査の経過

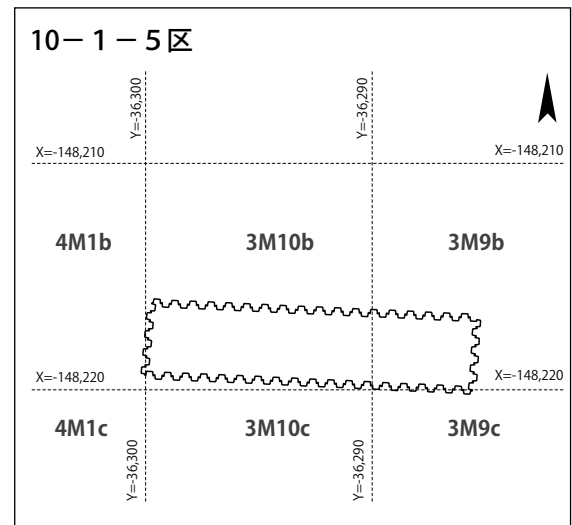
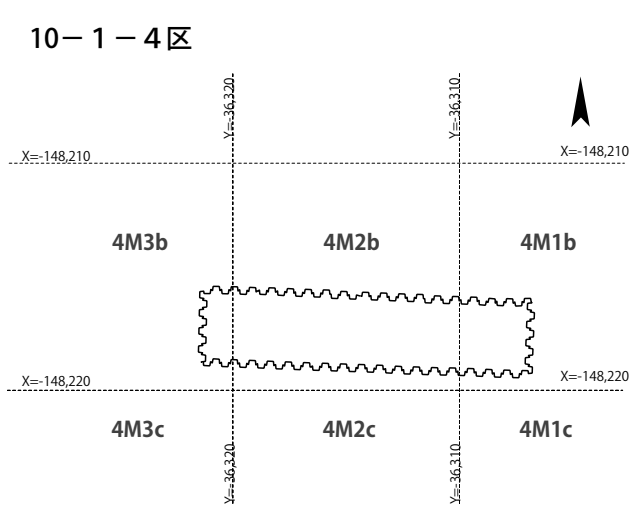
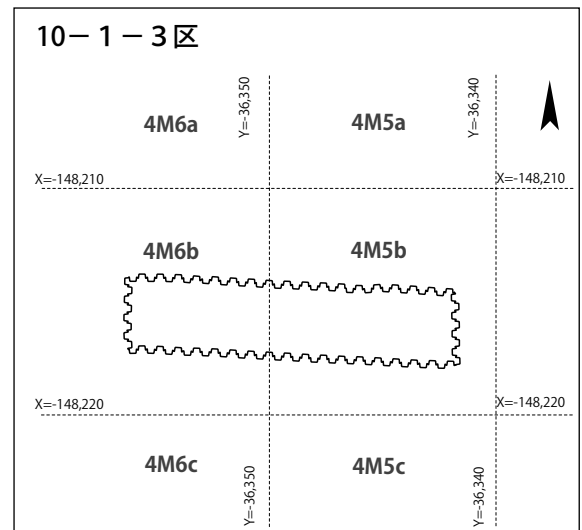
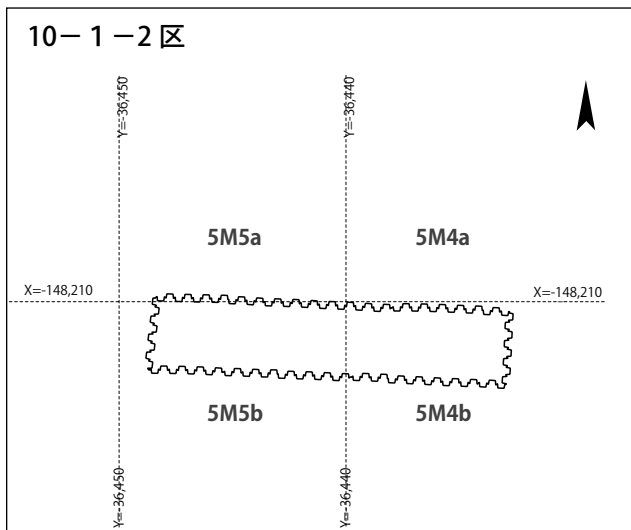
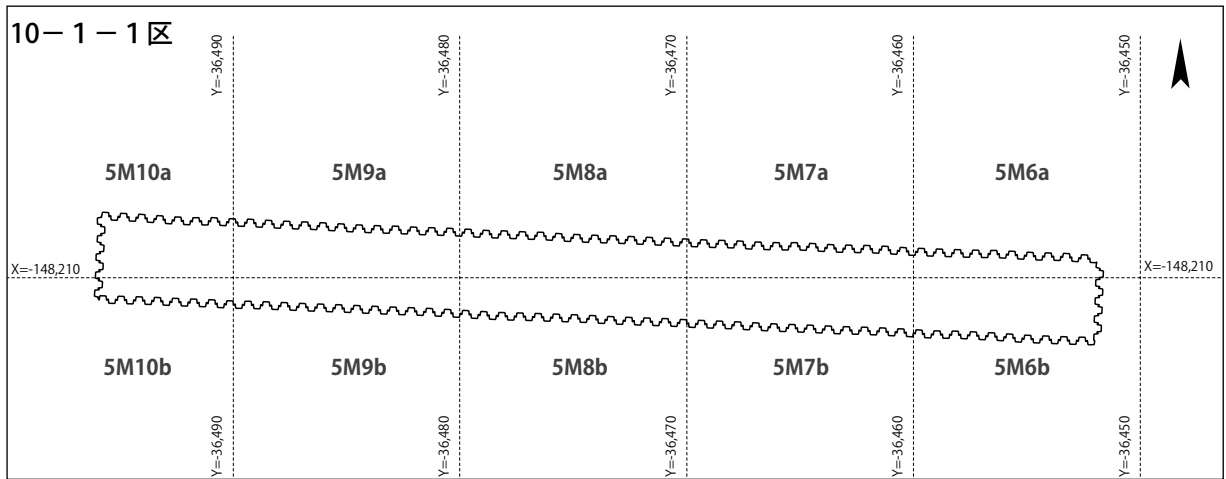
現地での作業は、2010年10月より着工した。本体工事施工の進行計画により、調査区の掘削順序は以下のとおりである。はじめにトレンチの掘削を行ったのは10-1-3区及び10-1-4区である。その後10-1-5区の掘削を行い、次に10-1-6区、10-1-7区、10-1-8区を開削した。10-1-3区・10-1-4区・10-1-5区の調査が終息段階に向かうと同時に10-1-2区の掘削を開始し、10-1-2区の調査が終了した段階で10-1-9区の調査を開始した。また、10-1-6区・10-1-7区・10-1-8区の調査が終了した後に10-1-1区の調査を本格化させた。このように現地調査期間中は、複数の調査区が開削した状態で、平行して作業が進められた。現地調査の詳細な日程は、表2の通りである。

表2 瓜生堂遺跡・岩田遺跡・花屋敷遺跡 10-1 発掘調査工程表

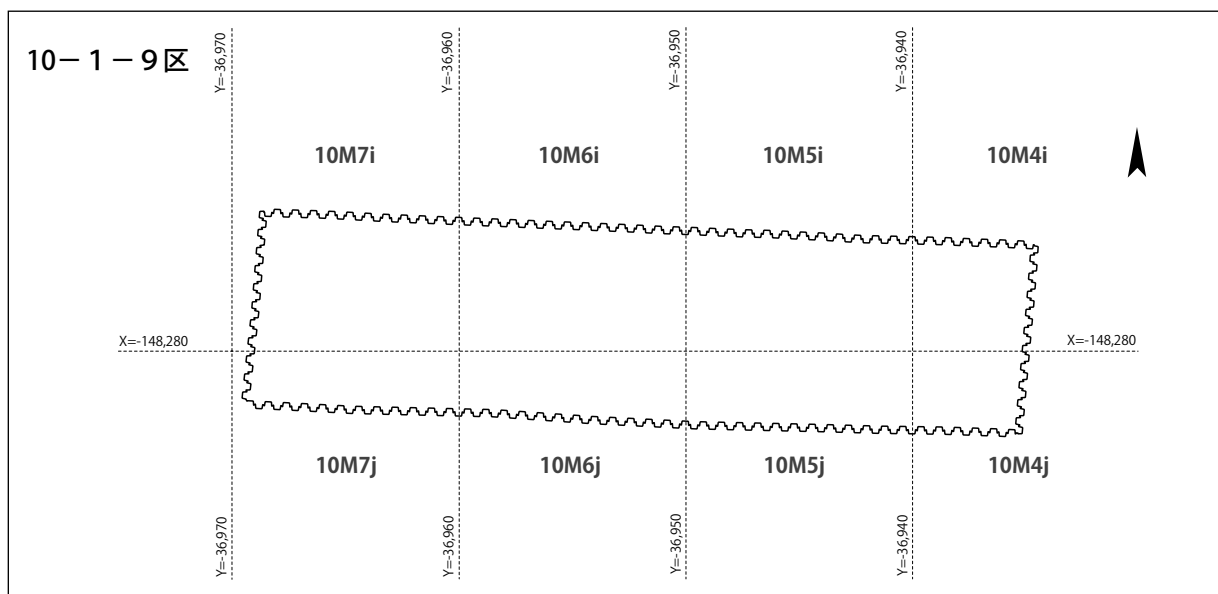
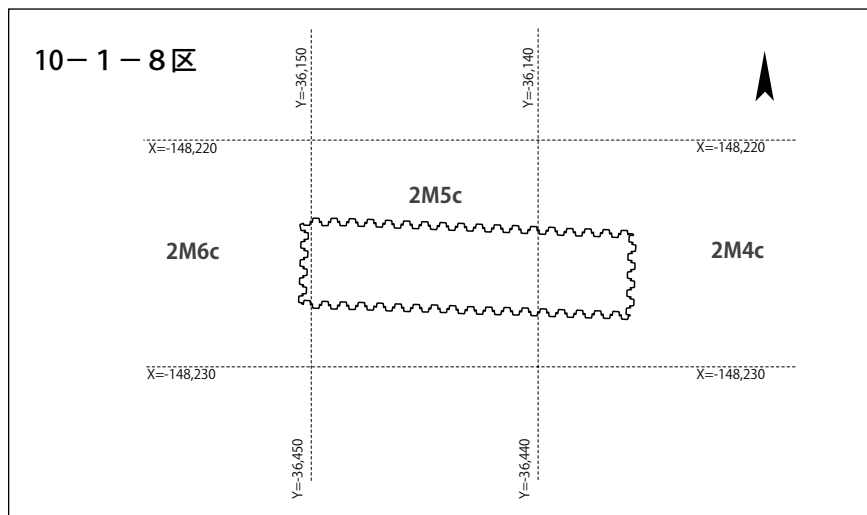
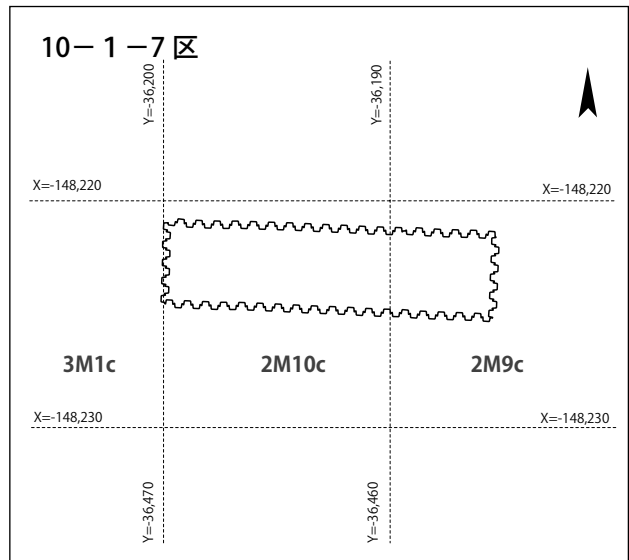
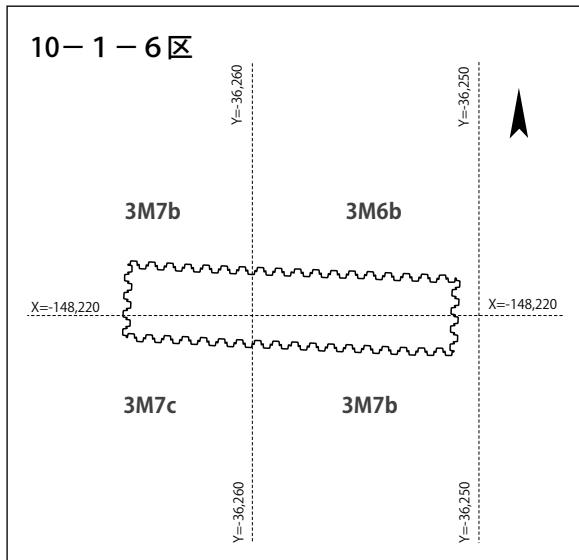
	平成22年10月	平成22年11月	平成22年12月	平成23年1月	平成23年2月	平成23年3月	平成23年4月	平成23年5月
10-1-1区					9日 機械掘削開始 22日 人力掘削開始	15日 中世遺構面 写真測量	22日 弥生時代後期 遺構面写真測量	18日 弥生時代中期 遺構面写真測量 31日 弥生時代前期 遺構面写真測量 調査終了
10-1-2区		16日 機械掘削開始 19日 人力掘削開始		17日 中世遺構面 写真測量	8日 古墳時代遺構面 写真測量 16日 弥生時代中期 遺構面写真測量 22日 弥生時代前期 遺構面写真測量	8日 弥生時代前期 遺構面写真測量 9日 府教委立会 18日 弥生時代前期 遺構面写真測量 府教委立会 25日 調査終了		
10-1-3区	14日 機械掘削開始 15日 人力掘削開始 22日 中世遺構面 写真測量	11日 古墳時代遺構面写 真測量 18日 弥生時代中期 遺構面写真測量 24日 府教委立会	10日 弥生時代前期 遺構面写真測量 府教委立会 20日 弥生時代前期 遺構面写真測量 21日 調査終了					
10-1-4区	18日 機械掘削開始 20日 人力掘削開始 28日 中世遺構面 写真測量	29日 古墳時代遺構面 写真測量	1日 弥生時代中期遺構 面写真測量 6日 府教委立会 20日 弥生時代前期遺構 面写真測量 21日 府教委立会 24日 弥生時代前期 遺構面写真測量 27日 調査終了					
10-1-5区		9日 機械掘削開始 12日 人力掘削開始 18日 中世遺構面 写真測量	24日 古墳時代遺構面 写真測量	7日 弥生時代中期 遺構面写真測量 12日 府教委立会 17日 調査終了				
10-1-6区			17日 機械掘削開始	6日 人力掘削開始 17日 中世遺構面 写真測量	8日 古墳時代遺構面 写真測量 15日 府教委立会 22日 古墳時代前期 遺構面写真測量	1日 弥生時代後期 遺構面写真測量 10日 弥生時代中期 遺構面写真測量 25日 弥生時代中期 遺構面写真測量	1日 弥生時代前期 遺構面写真測量 16日 調査終了	
10-1-7区			5日 支障物撤去確認	11日 機械掘削開始 18日 人力掘削開始 21日 中世遺構面 写真測量	4日 古墳時代遺構面 写真測量	1日 弥生時代中期 遺構面写真測量 10日 弥生時代前期 遺構面写真測量 25日 弥生時代前期 遺構面写真測量	5日 調査終了	
10-1-8区			2日 支障物撤去確認	21日 機械掘削開始 24日 人力掘削開始	4日 中世遺構面 写真測量 22日 古代遺構面 写真測量 25日 古墳時代遺構面 写真測量	9日 府教委立会 10日 弥生時代中期 遺構面写真測量 15日 調査終了		
10-1-9区			3日 支障物撤去確認	26日 支障物撤去確認		2日 機械掘削開始 9日 人力掘削開始 31日 中世遺構面 写真測量	8日 中世遺構面 写真測量 府教委立会 12日 銭貨埋納遺構 オルソ写真撮影 15日 埋納遺構取り上げ 27日 調査終了	



第2図 調査区配置図



第4図 調査区地区割図(瓜生堂遺跡)



第5図 調査区地区割図(岩田遺跡・花屋敷遺跡)

2. 調査の方法

発掘調査および整理作業は、以下の手法を用いて行った。

仮設土留工（鋼矢板の圧入引抜き・支保工設置撤去など） 調査は、調査区の周囲に鋼矢板を圧入する土留工から始められる。今回の調査区は、1999年度～2003年度までに行われた既往の調査区に接するため、存置された鋼矢板の南側にコの字形に矢板列を付け足す要領で設置された。支保工は、調査区周辺の地盤の状況から、2段または3段の切梁が取り付けられた。

機械掘削 現地盤測量後、重機を用いて表土等を取り除いた（写真1）。今回の調査では既往の調査成果に比して主要遺構面の地盤が高いことが判明したため、掘削には慎重を期した。

人力掘削 中世包含層以下の土層については、人力掘削を行い、主要遺構面の検出に努めた（写真3）。遺構面の検出時には調査区ごとに設置した写真用足場から撮影を行った（写真4）。土層の掘削は、シャベルやツルハシ、鋤簾を用い、土砂はベルトコンベアを使用して排出した（写真2）。なお、10-1-1区や10-1-5区等の出土遺物が集積する箇所においては、適宜、小型シャベルや竹ベラなどの道具を用いて状況に対応した（写真5）。

掘削中に出土した遺物は、グリッドごとに取り上げ、登録番号を付して管理を行った。残存状態が良好な遺物や特異な遺物については、出土状況写真撮影と出土状況図作成の後に取り上げた。また、木製品など脆弱な遺物については、水分補給を行い、劣化の防止に努めた。作業中、地表に溜まった湧水や雨水は、ポンプを用いて汲み取り、沈砂槽を介して場外へと排出した。遺構面に溜まった水に関しては、遺構を損なわないよう柄杓やバケツ、スポンジを用いた人力排水を行った。

現地記録作業 今回の調査では、調査区により、8～25面の遺構面を検出した。これらは主に平板測量を行い、平面図を作成した。また、レベル値を測定し、地形の変化を記録した（写真8）。検出した遺構は半裁して断面図を作成し、記録写真を撮影した（写真11）。各調査区の東壁・西壁・南壁については、土層断面図を作成した（写真9・写真10）。今回の調査では掘削深度が深いため、安全上の観点から、2～3回に分割して作図を行った。なお、検出した遺構面のうち、特に主要な遺構面については、ポールを用いた写真測量を行った（写真6）。写真測量図は、50分の1スケールの平面図として作成した。また、10-1-9区において検出した銭貨埋納遺構は、オルソ写真の撮影を行った。

現地調査において、記録撮影に使用したカメラは、6×7カメラ、35mmカメラであり、それぞれ黒白フィルム、リバーサルフィルムを用いた。また、台帳作成や作業状況については、デジタルカメラによる撮影も随時行った。

立会 調査は随時、大阪府教育委員会の立会指導を受けながら行った（写真7）。

出土遺物の整理作業 出土遺物は、登録、洗浄、注記までの基本的な整理作業を、現場設置の監督員詰所内にて行った。基本整理作業終了後は、中部調査事務所（東大阪市長田東）において、遺物の実測作業とトレース、図版作成、データ編集作業など、報告書作成にかかわる作業を実施した。

出土遺物は、登録番号に順じて洗浄し、注記作業を行った（写真12）。注記を終えた遺物は、接合復元し、彩色を施した（写真13・写真14）。また、残存状態が良好なものや重要なものについては、実測図を作成し（写真15）、写真撮影を行った後、報告書に掲載した。

現場で作成した遺構図と土層断面図に関しては、原図をスキャナーによって画像データとして取り込み、コンピュータ画面上でデジタルトレースを行った。これに用いたコンピュータソフトは、adobe社



写真1 機械掘削作業



写真5 遺物取り上げ作業



写真2 人力掘削作業



写真6 写真測量作業



写真3 遺構検出作業

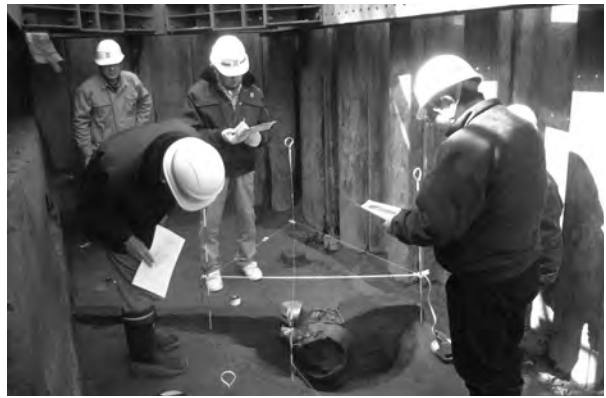


写真7 大阪府教育委員会立会



写真4 遺構写真撮影作業



写真8 レベル測量作業



写真9 調査区断面観察



写真13 遺物接合作業



写真10 断面図作成



写真14 遺物復元作業



写真11 遺構断面図作成



写真15 遺物実測作業



写真12 遺物注記作業



写真16 データ入力作業

製 IllustratorCS2 である。また、出土遺物に関しては、手書きによるトレースを行った。これら一連の作業によって得られたデータは、コンピュータ入力によって記録した（写真 16）。

整理作業は、以上の工程を経た後、本報告書の刊行をもって完了した。

3. 銭貨埋納遺構の整理作業方法

10-1-9区では、合計 15,391 枚の銭貨を埋納した遺構（9023 土坑）を検出した。出土銭貨を記録しながら取り上げる作業には相当の時間を要するが、時間を経るにつれて銭貨自体に劣化が認められた。このため、現地での作業は困難と判断され、急遽、遺構ごと地盤を切断して取り上げて調査事務所へ搬送し、その後、記録作業を行うこととした。これらの手順は以下のとおりである。

遺構周辺の地盤除去 はじめに出土銭の表面に発泡ウレタンを吹きかけ、銭が移動しないように仮に固定する。次に遺構の周囲の土を人力にて掘削し、立方体の土塊とする。今回対象となる遺構は直径 33cm 程度であるが、遺構の損傷を避けるため、一辺 1 m の土塊とした。その後、土塊の周辺を養生テープにて補定し、崩壊を防ぐ（写真 17）。

木枠の装着 次にあらかじめ用意した木枠を遺構上面からかぶせる。木枠はベニヤ板と角材を用いて、内径が 1 m となるよう作られている（写真 18）。

発泡ウレタンの注入 土塊と木枠の隙間を発泡ウレタンを注入して埋めていく（写真 19）。この作業によって木枠と土塊は密着し、土塊は固定される（写真 20）。発泡ウレタンは、膨張するまで時間がかかるため、様子を見ながら注入を続ける。

側面から鉄板を差し込む 土塊を地盤から切り離す作業である。今回の対象遺構は、東側に支保工の立杭（H 鋼）が打ち込まれているため、差し込みは西側からである。準備した鉄板は、厚さ 1cm を測る。この鉄板には、差し込み側面を斜めに削り出す加工と、四隅にワイヤーロープをかける円孔を穿つ作業があらかじめ為されている。なお、鉄板の差し込みには、H 鋼の先端部に大型の万力を取り付けたものを使用した。

遺構の搬送 完全に木枠（遺構）と地盤を切り離れた鉄板は、四隅に設けた円孔にワイヤーを掛け、クレーンにて吊り上げ（写真 22）、そのままトラックに積み込んで調査事務所まで搬送する（写真 23）。調査事務所では作業場所に鉄板ごと木枠（遺構）を吊り下ろした。

ウレタンの除去 遺構上面に注入された発泡ウレタンを取り除き、出土銭貨と周辺の地表面を露出させる。発泡ウレタンは固形化しているため、カッターナイフ等で切り取ることができる。

平面図の作成と銭貨の取り上げ 現地にて撮影したオルソ写真を原板として平面図を作成し、銭貨を束ごとにまとまりとして識別する。このまとまりは平面図上に明記し、上面より番号をつける。銭は、この番号ごとに取り上げ、表裏の順を変えることがないように、中央孔に紐を通して番号ラベルを付す（写真 24）。なお、束とはならず個別に出土した銭は、一括して取り上げた。

断面図の作成 銭貨をすべて取り上げた後、遺構を立ち割り、断面図の作成を行った。



写真 17 銭貨埋納遺構 周囲の補強



写真 21 銭貨埋納遺構 鉄板の挿入



写真 18 銭貨埋納遺構 木枠の挿入



写真 22 銭貨埋納遺構 木枠の吊り上げ移動



写真 19 銭貨埋納遺構 発泡ウレタン注入



写真 23 銭貨埋納遺構 遺構搬送



写真 20 銭貨埋納遺構 発泡ウレタンの凝固状態



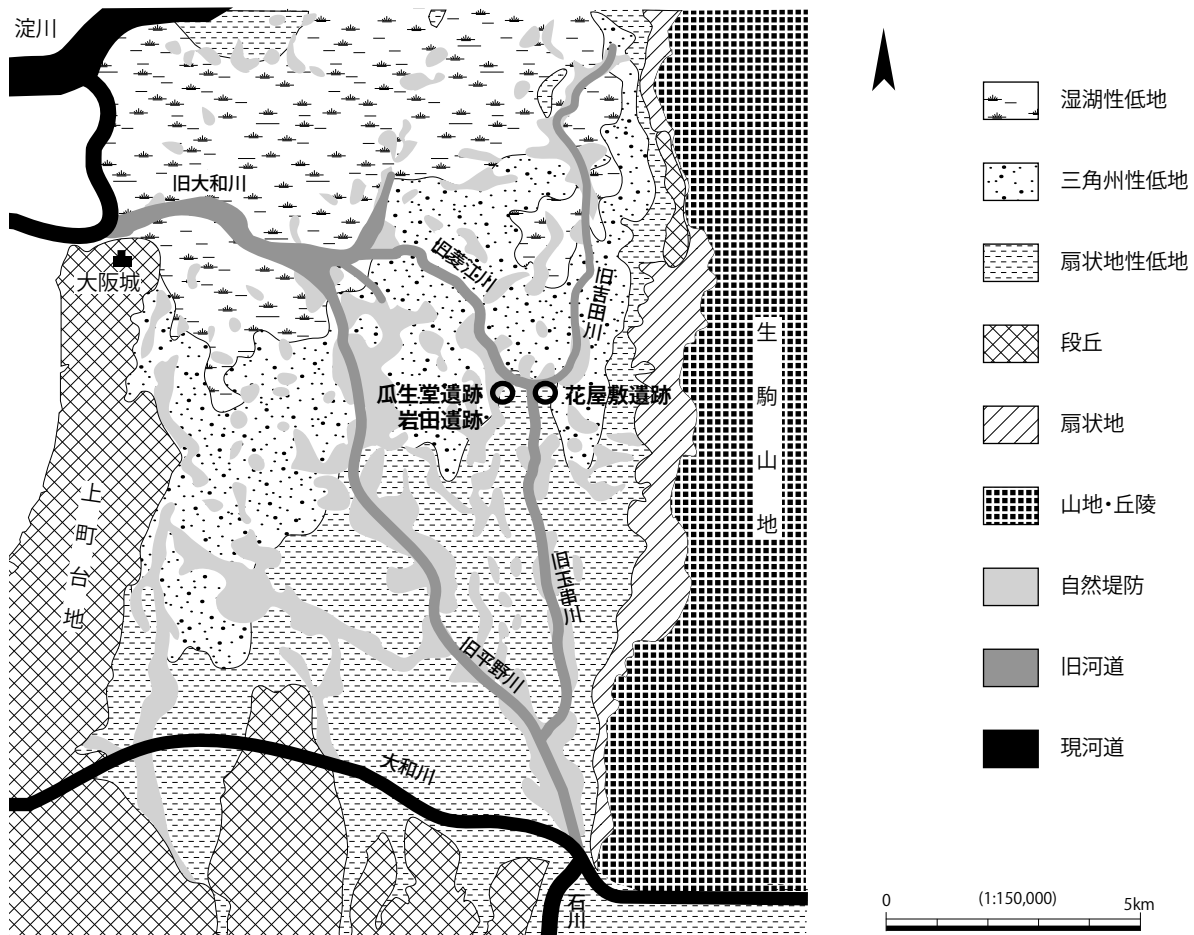
写真 24 銭貨埋納遺構 銭貨取り上げ作業

第2章 調査地周辺の地理と環境

第1節 調査地周辺の地理と地形

瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡が所在する河内平野は、縄文時代の海進によって最大となった河内湾が、旧大和川や旧淀川水系の小河川によって運び込まれた土砂の堆積により、次第に陸地化が進んで形成された。遺跡周辺の地形は、南の和泉丘陵や東の生駒山地からの流水作用による扇状地性低地もしくは三角州性低地に分類されており、旧河道が形成した自然堤防が随所に点在する（第6図参照）。

瓜生堂遺跡、岩田遺跡は、扇状地性低地の先端部に位置している。弥生時代から古墳時代にかけて、旧大和川の一部である旧玉串川や旧平野川が形成した自然堤防が発達し、人々はその微高地上に集落を形成した。しかしこのことは、河川がその流れを変える度に集落が存亡の危機に晒され、新たな居住地への移住を余儀なくされたことを意味している。今回の調査では、弥生時代前期の遺構面に達するまでに、地表面以下5.0 mまでの掘削を要したが、その深度に到るまで、流路（洪水）砂とこれを覆う湿地状泥土が連続して堆積している。そして、それら不安定な土壌を縫うようにして得られた僅かな安定地盤の上に、人々の生活圏が作られている。このため、集落の存続時期は短いが、比較的近い場所へ次の



第6図 調査地周辺の旧地形および旧河道復元図

居住地を定める傾向を見出すことができる。

花屋敷遺跡も瓜生堂遺跡、岩田遺跡と同じく、扇状地性低地の先端部に位置するが、東方に三角州性低地が広がること、また旧大和川の一部である旧玉串川が、旧吉田川とぶつかる地点にあたることから、さらに洪水砂の堆積が顕著である。今回の調査は地表面以下 3.5 m までの掘削にとどまるが、最終遺構面である中世集落の基盤層以下、締りの悪い砂が続く。僅かな掘削でも水が滲み出すような不安定な土壌である。

現在では民家や商店街が立ち並ぶ平坦な景観を呈する調査地周辺地域であるが、地中にはかつての流路堆積によって形成された凹凸と、その上に集落を展開した人々の生活痕跡を色濃く残す土地であるといえよう。

第2節 文献史料に見る調査地周辺

河内国は、『古事記』や『日本書紀』等の古代文献においても政治史の中心舞台として描かれる地域のひとつである。神武東征伝説のうち大和への主要な道程として描かれる河内湖周辺地域は、常に陸路及び水運を用いた交通の要衝として記されてきた。

調査地周辺地域に在住し、古代史に名を馳せた氏族としては、中臣氏を第一に掲げることができる。大化改新時に活躍した中臣鎌足の出自には諸説があるが、祭祀を職掌として朝廷に侍した中臣氏の本拠地をこの地域に求めることは、後に中臣氏を名乗る氏族がこの地域に集中することからも妥当である。しかし、この地域に居住した中臣氏は、政治舞台の中核において活躍する藤原朝臣とは一線を画し、在地豪族として成長したと推測される。

古代中期、河内一ノ宮である平岡神社（現・枚岡神社）の神職にあった大中臣氏の一族である平岡連氏は、近在の観音寺別当を兼ね、皇室領である大江御厨^{みくりや}の管理と警護を受け持つとともに当地域の社寺に影響を与える氏族となった。古代末期にはその末裔が水走氏と名乗り、旧大和川の水運や深野池の漁業権を掌握するとともに周辺の武士団を束ねて勢力を拡大した。中世中期の南北朝内乱期には楠正成に従って南朝方につくが後に降伏し、以後、河内国守護となった畠山氏の臣下として乱世を生き延びている。

水走氏後の支配者として河内地域に権勢をふるった守護職畠山氏は、河内国支配の拠点として若江城を築き、守護代遊佐氏がこれを居城とした。その後、文明九年（1477）に遊佐氏が畠山義就に追放され、河内国守護所が高屋城（八尾市）に移されるまで、この地域は守護所のお膝元として栄えたと考えられる。後の永禄十一年（1568）、入洛を果たした織田信長は、河内国北半国と若江城を三好義継に預け、三好氏滅亡の後には三好氏の家臣が若江城を管理した。信長の大坂石山本願寺攻めの際、若江城は信長陣営の拠点となっている。若江城の所在は明らかではないが、瓜生堂遺跡に南接する若江遺跡内には、信長時代の遺構と推測される土塁や堀跡等が確認されている。また、本調査において確認された瓜生堂遺跡や花屋敷遺跡の中世集落も、15世紀後半に一時廃絶することから、調査地周辺が若江城の近隣にあり、城をめぐる動乱に大きく左右された地域であったことが窺える。

なお「瓜生堂」という地名は、寺院に関連するものと見られているが、所在地町等は明らかではない。調査区北側に位置する東大阪市教育委員会第47次一1調査区では、中世の大溝がコ字状に巡ることから、寺院基壇の可能性に言及している。今回の調査でも連続する段と瓦片の出土が見られるが、これが

「瓜生堂」という名の寺院跡であるかどうかは、今後も検討が必要である。

「花屋敷」の名称も、文献には見えない。近世に入ると、旧大和川の分流を利用した水運がさらに発達し、商業地として発展を見せた。当該地は「市場村」と呼ばれ、現在も同じ字名が残る。「花」を冠する古名としては、調査地南方に「華園寺」の名をもつ寺院が存在するが、花屋敷という小字名との関連は不明である。

第3節 調査地周辺の遺跡と既往の調査成果

1. 調査地周辺の遺跡

瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡の周辺には、縄文時代より中世以後まで多くの遺跡が立地している。**縄文時代** 縄文時代前期頃、この地域には海水面の上昇と流入により、河内湾が形成された。この頃の海進は生駒山地付近にまで及んでおり、瓜生堂遺跡より2 km 北東に位置する鬼虎川遺跡では、海水によって浸食された崖面が確認されている（遺跡位置は第7図参照）。

縄文時代中期頃には、旧大和川がもたらした土砂の堆積によって河内湾は徐々に埋没し、河内潟と呼ばれる広大な干潟を形成する。瓜生堂遺跡より2 km 南東に位置する池島・福万寺遺跡では、縄文時代後期の土器とともに、湿地上に残されたヒト、シカ、イノシシ、トリの足跡が確認されている。

調査地付近では、現地表面より5 mの地下において干潟の堆積を認めることができるが、海浜生物の生痕を残すのみであり、人的な関与はみられない。

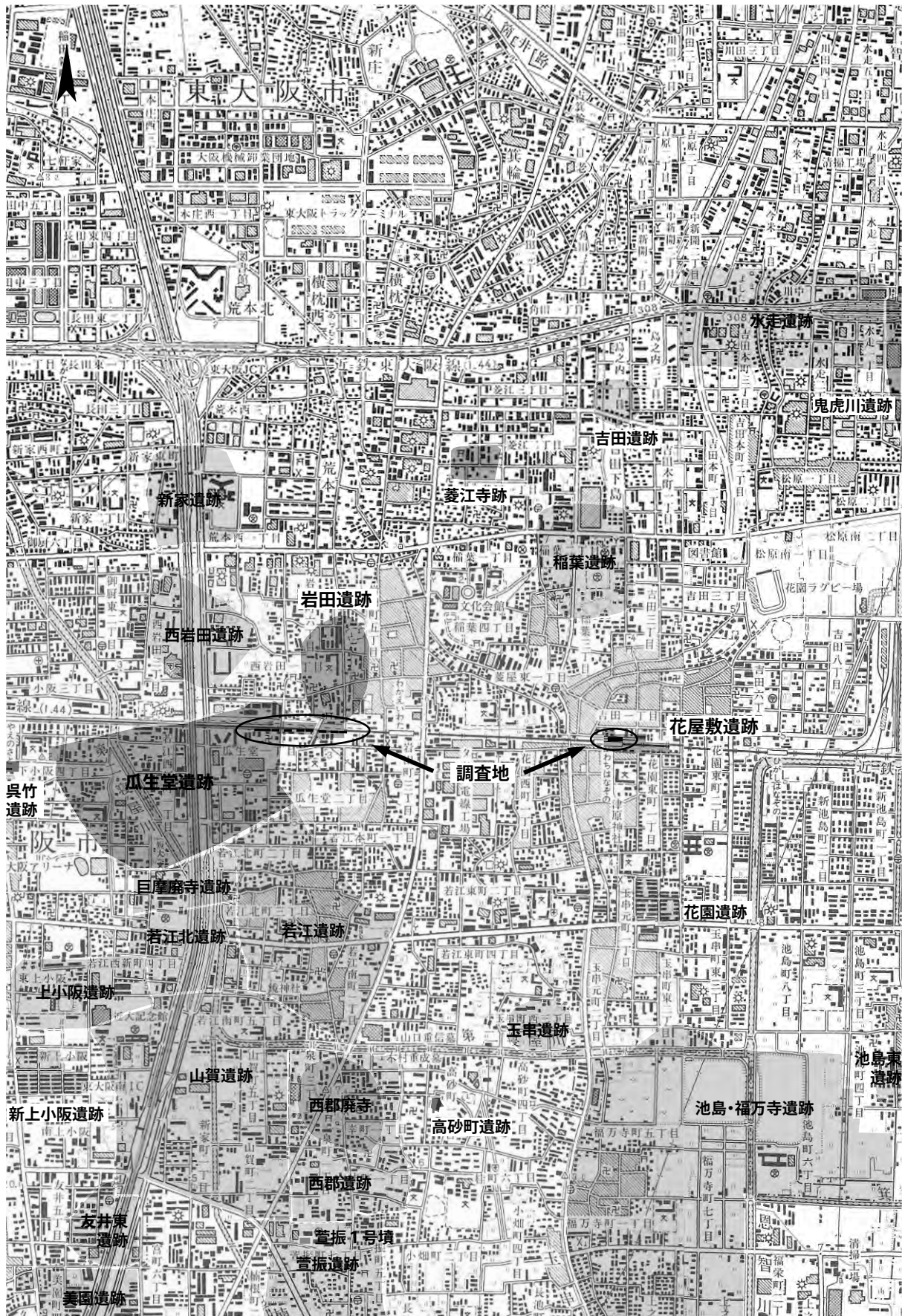
弥生時代 縄文時代晩期から弥生時代初頭になると、河内湾は淡水化して河内湖となり、湖岸周辺の微高地上に人々の起居がみられるようになる。河内湖を通じて外海との交渉が比較的容易であったこの地域は、水田経営を始めとする外来的要素を吸収し、急速に発展を遂げた。

瓜生堂遺跡より南西0.5 kmの距離に位置する若江北遺跡では、弥生時代前期初頭と考えられる集落と水田が検出されている。出土した土器は縄文土器の特徴を色濃く残しており、近畿地方における最古段階の弥生土器として位置づけられている。また、前述した池島・福万寺遺跡では、弥生時代初頭に営まれた居住域や水田、墓域が確認されている。

続く弥生時代前期中葉には、若江北遺跡に南接する山賀遺跡において集落と水田がつくられ、瓜生堂遺跡でも集落が形成されはじめる。瓜生堂遺跡より1 km 北東に位置する稲葉遺跡でも、集落が確認されている。

弥生時代中期になると、河内湖周辺に立地する遺跡は大きな広がりを見せ、遺跡数も飛躍的に増加する。瓜生堂遺跡では集落が拡大し、隣接する墓域には方形周溝墓がいくつかの小群をもって形成される。南接する巨摩廃寺遺跡、若江北遺跡、山賀遺跡でも同様に、集落と墓域が大規模に展開することから、これらの遺跡は一括して「瓜生堂遺跡群」と呼称されている。なおこの時期には、生駒山西麓でも鬼虎川遺跡、西ノ辻遺跡、鬼塚遺跡等の大規模集落が形成され（鬼虎川遺跡群）、しばしば低地に位置する瓜生堂遺跡群と対比される。

弥生時代後期には、度重なる河川の氾濫により周辺地域の自然環境は不安定となる。瓜生堂遺跡群内の集落は存続するものの規模は縮小、分散する傾向にある。瓜生堂遺跡では、今回の調査区に隣接するエリアにおいて、土器や木製品を伴う集石遺構が確認されているが、居住域の検出には至っていない。



国土地理院平成14年6月1日発行「大阪東北部」「信貴山」「大阪東南部」「生駒山」を接合して加工

0 (1:15,000) 500m

第7図 周辺の遺跡分布図

岩田遺跡では、瓜生堂遺跡との近接地点において、当該時期の水田が検出されている。

古墳時代 古墳時代に入ると、周辺地域では再び集落が多数形成され、遺物・遺構ともに報告例が急増する。ただし河川の氾濫活動がさらに活発となり、たえず洪水の危険にさらされる不安定な土地となったためか、集落域、生産域ともに存続期間はごく短い。調査地周辺の平野部には大型古墳は築かれず、小型古墳が点在する様相をみせる。

古墳時代初頭頃、瓜生堂遺跡の北方に位置する西岩田遺跡や新家遺跡、南方 1.5km の距離に位置する美園遺跡では集落が営まれ、古墳時代前期以後には小型方墳が築かれた。美園遺跡では家形埴輪や壺形埴輪が、巨摩庵寺遺跡からは人物埴輪や水鳥形埴輪などが出土しており、古墳を飾る形象埴輪が充実する。瓜生堂遺跡、岩田遺跡でも円筒埴輪片が多く出土することから、周辺に古墳群が存在した可能性が高い。

古代 続く古代には、瓜生堂遺跡中央部（調査地の西側付近）において、8世紀の集落跡が、西部や北東部では9世紀以後の集落が確認されている。岩田遺跡では、これまでに8世紀中葉から10世紀の集落が検出されており、円面硯や帯金具（巡方）、墨書土器などの出土が報告されている。ともに官人の起居を窺わせる資料である。また、岩田遺跡の南方 0.5km に位置する若江遺跡では素弁蓮華文軒丸瓦の出土があり、飛鳥時代後期創建寺院（若江寺）の存在が推測されている。遺構は確認されていないが、川原寺式に類似する瓦の存在や、「足得」「中臣」などの人名がスタンプされた恭仁京式瓦、平城京との同範瓦の出土があり、この地に勢力を広げた氏族の存在を知ることができる。

なお、瓜生堂遺跡の奈良時代後期遺構面からは、「若」の文字を記した墨書土器の出土が報告されており、これを若江郡衙の存在や上記の若江寺と関連付ける考察がある。

中世 古代末から中世になると、周辺地域は河川の氾濫が一時終息し、水田開発及び集落の形成が活発となる。瓜生堂遺跡及び岩田遺跡調査地では、12世紀から15世紀まで存続したと推測される集落が確認されている。幾筋もの大溝で区画された中に、掘立柱建物の柱跡や井戸が集中して掘り込まれており、相当規模の集落であったことが想像される。花屋敷遺跡でも、13～16世紀の集落が確認されており、中世村落が当該地域に多数存在したことが知られる。花屋敷遺跡より北東へ2kmの位置にある水走遺跡^{みずはい}では、前述の通り、水走氏が関与したと考えられる旧吉田川沿いの堤防が確認されており、在地領主による大規模開発の歴史をみることができる。

近世 水走氏、畠山氏、三好氏の支配を経て近世を迎えた当該地域では、若江遺跡内において散見される中世末期の遺構群を最後として、顕著な集落跡の検出は僅かとなる。近隣では、池島・福万寺遺跡等、島畠を有する水田跡の調査事例が数多く報告されている。

江戸時代には、上述の通り、玉串川や吉田川等、旧大和川の分流を利用した水運が発達し、剣先船の往来による物資の運搬が盛んとなった。両川の合流地点にあたる花屋敷遺跡周辺は、物資の集積地として繁栄したことが想像される。先に掲げた「市場村」の地名は、この地に商業地が形成された事を示している。花屋敷遺跡より南に0.3km隔てた地点に位置する津原神社は、近世文献では市場村内に鎮座したと記されており、商業集落が一定の広がりをもっていたことがわかる。

以上のように、瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡を含む調査地一帯は、近世に至るまでの歴史的文化的財を多く有する地域であると言える。この背景には、河内湖の伸縮や、旧大和川の動態を抜きには語ることはできない。人々が地形の変化に翻弄されながらもこれに屈せず、一定の限られた地域の中で集落を営み続けた歴史が、今のこの地の繁栄の礎となっている。

2. 既往の調査成果

瓜生堂遺跡 瓜生堂遺跡とその周辺では、既述の通り、教育委員会や調査会、当センター等の諸団体が、これまでに発掘調査を数多く実施しており、枚挙に暇がない（第8図参照）。ここでは今回の調査成果に直接関連する主要な成果や近年の動向について記述する。

今回の各調査区に北接、あるいは東西に隣接する既往の調査区は、1999～2003年度に当センターが行った近鉄奈良線高架橋脚設置工事（第Ⅰ期施工）に先立つ発掘調査時のものである（第8図セ『瓜生堂遺跡1』詳細位置は第9図参照）。この調査では、弥生時代前期後半に遡る集落と水田遺構の検出や弥生時代中期後半の集落及び墓域の北東方向への範囲拡大、古墳時代流路の範囲確定と埋没古墳が存在する可能性の提示、平安時代末から中世における集落の確認等、数多くの成果を得た。今回の瓜生堂遺跡及び岩田遺跡調査区では、この時の調査において検出した遺構面に着目し、これと連続する面の検出を第一としている。

その北側では、1996～1999年度に東大阪市教育委員会及び（財）東大阪市文化財協会が、都市計画道路大阪瓢箪山線の建設工事に先立つ調査を行っている（第8図市45次・市46次・市47-1次・市47-2次）。（財）東大阪市文化財協会が実施した第45次調査では、弥生時代前期の集落、弥生時代中期の方形周溝墓1基、円形周溝墓1基、古代から中世の集落等を検出した。また、東大阪市教育委員会が実施した第46次、第47次調査では、弥生時代中期の集落と方形周溝墓5基、畦畔を伴う水田、弥生時代後期の配石（集石）遺構、中世の集落等を確認した。これら一連の調査によって発見された弥生時代中期後半の周溝墓群は、現時点では瓜生堂遺跡集落の中で最も東に位置する墓域として認識されている。この東端の墓域は、東西幅250m程度の範囲に周溝墓15基、主体部20基を数える規模である。

これまでの調査成果によると、瓜生堂遺跡内には、計5箇所の墓域が確認されている。2002年度に当センターが行った寝屋川南部地下河川若江立坑建設工事に先立つ調査では、弥生時代中期後半の方形周溝墓2基と、木棺主体部3基を検出し、最も南側に位置する墓域として認識されるに至った（第8図セ02-1『瓜生堂遺跡2』）。

これらの墓域は、その多くが居住域の中もしくは居住域の近隣に設けられたことがわかる。南端墓域は、東側に位置する居住域との関連が考えられたが、2007年度に行われた東大阪市教育委員会による第53次調査では、第二寝屋川の西側において、土坑やピットを有する遺構面が検出されたことにより、墓域の西側にも居住域が存在することが明らかとなった。遺構内からは、竪穴建物を描いたとみられる線刻土器片（壺体部）が出土しており、当地が居住域であった可能性をさらに強く示唆している。

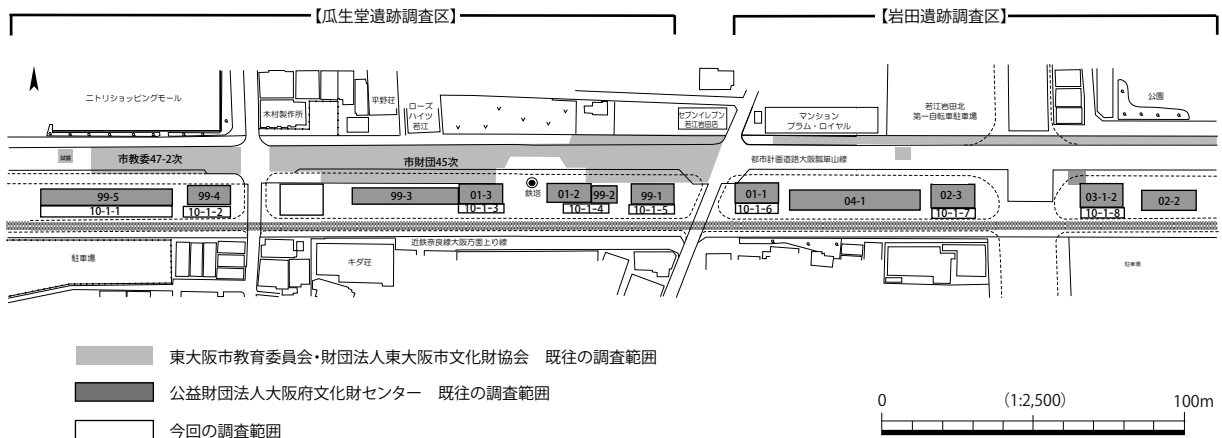
岩田遺跡 岩田遺跡の調査事例は、瓜生堂遺跡ほど多くはないが、2001～2003年度に当センターが行った近鉄奈良線高架橋脚設置工事（第Ⅰ期施工）に先立つ発掘調査のほか、東大阪市教育委員会による公共下水道管きよ築造工事によって、成果が報告されている。

2001～2003年度の調査では、遺跡範囲の西端にあたる瓜生堂遺跡と接する地点に設定した調査区（第9図01-1）において、弥生時代中期後半の遺構面が確認されている。この時、検出されたのは溝1条であったが、南接して設定した今回の調査区（10-1-6区）では、壺と甕を組み合わせた土器棺が出土した。このため、岩田遺跡の西辺は、瓜生堂遺跡東端墓域の一角として捉えることができる。

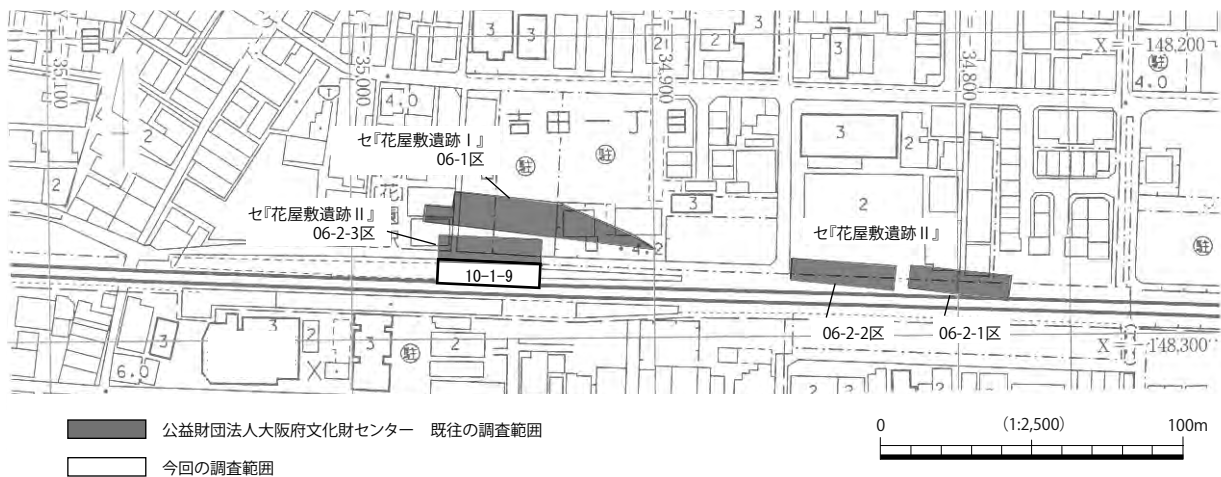
また、弥生時代後期から古墳時代初頭には、同じく01-1区において畦畔を伴う水田が確認されていることから、瓜生堂集落に付随する生産域として開発されていたことが窺える。



第8図 瓜生堂遺跡周辺の既往の調査位置と弥生時代中期後半の様相



第9図 既往の調査地位置図 (瓜生堂遺跡・岩田遺跡)



第 10 図 既往の調査地位位置図（花屋敷遺跡）

古墳時代後期になると当該地帯には大規模な河川の流入があり、これが安定した奈良時代には、埋没河川の東側において集落が形成された。04-1 調査区では 7 世紀から 9 世紀前半まで存続する遺構面が確認されている。この遺構面では、井戸やピット、溝等が集中して検出されたが、このうち木組みをもつ井戸からは、須恵器杯身を転用した硯や「大」の文字を書く墨書土器、帯金具（巡方）が出土した。ともに官人の起居を示す資料である。

このほか、2001 年度に岩田小学校の東側で行われた下水道工事に伴う調査（岩田遺跡第 2 次調査）では、中世の井戸が確認されており、岩田集落の当時の範囲を示す手がかりとして注目される。

花屋敷遺跡 花屋敷遺跡では、今回の調査区（10-1-9 区）の北側及び東側において、2006 年度に当センターが実施した近鉄奈良線連続立体交差化事業並びに河内花園駅前地区第一種市街地開発事業に伴う調査が行われている。その結果、南北及び東西方向に主軸をもつ大溝を有する中世集落の存在が確認された。特に 06-1 区において検出した大溝からは、13～14 世紀に所産時期をもつ多量の土器や木製品に混じり、荷札木簡が出土した。当時の経済活動が活発であったことを示す資料である。

【参考文献】

- 秋山浩三 2004 「弥生中期大形集落・瓜生堂遺跡の一構成単位」『瓜生堂遺跡Ⅰ－考察・分析・写真図版編－』（財）大阪府文化財センター調査報告書第 106 集（財）大阪府文化財センター
- 秋山浩三・川瀬貴子ほか 2004 『瓜生堂遺跡Ⅰ－本文編－』（財）大阪府文化財センター調査報告書第 106 集（財）大阪府文化財センター
- 岡本圭司 2007 「第 5 章 まとめ」『花屋敷遺跡Ⅰ』（財）大阪府文化財センター調査報告書第 161 集（財）大阪府文化財センター
- 岡本圭司・影山美智与 2007 「第 6 章 まとめ」『花屋敷遺跡Ⅱ』（財）大阪府文化財センター調査報告書第 162 集（財）大阪府文化財センター
- 金光正裕・川瀬貴子 2004 「第 6 章第 2 節 古代集落の展開」『岩田遺跡』（財）大阪府文化財センター調査報告書第 121 集（財）大阪府文化財センター
- 金村浩一ほか 1999 『瓜生堂遺跡第 45 次発掘調査概要報告』（財）東大阪市文化財協会
- 才原金弘・小川紀子 2007 「V. まとめ」『瓜生堂遺跡第 53 次発掘調査報告』東大阪市教育委員会
- 福永信雄ほか 2002 「Ⅷ 総括」『瓜生堂遺跡第 46、47-1・2 次発掘調査報告書』東大阪市教育委員会
- 吉田綾子 2002 「第 14 章 岩田遺跡の第 2 次調査」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告－平成 13 年度－』東大阪市教育委員会

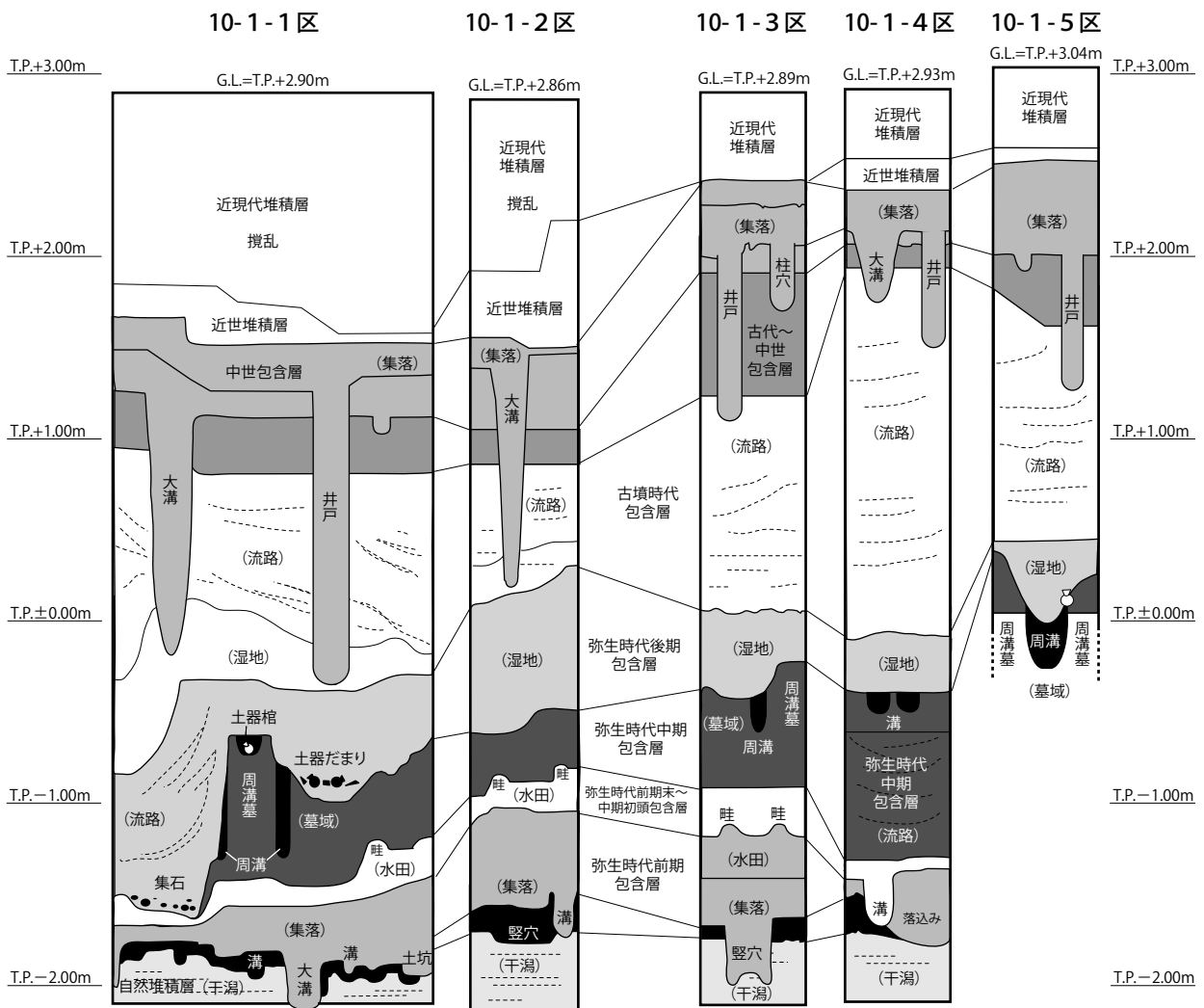
第3章 調査成果

第1節 基本層序

1. 瓜生堂遺跡・岩田遺跡の基本層序

今回の調査では、地表面より近現代盛土及び近世堆積層の一部について重機による掘削を行い、以下、人力掘削を行なった。各層の上面と遺構面名を合致させたため、第1層の上面を第1遺構面とする。明確な遺構を確認し得なかった面についても便宜上遺構面として扱い、層番号と遺構面番を連動させた。また、層を細分する場合はハイフンを用いて枝番号を付し、それぞれ遺構面を検出した。従って、第11-1層の上面は第11-1遺構面、第11-2層の上面(=第11-1層の下面)は第11-2遺構面となる。なお、層序の名称は各調査区ごとに付番したため、調査区間の共通性はない。遺構面名称も同様である。

本節では、時代ごとに層序の堆積状況を概括し、その後個別の調査区ごとに各層について記述する。

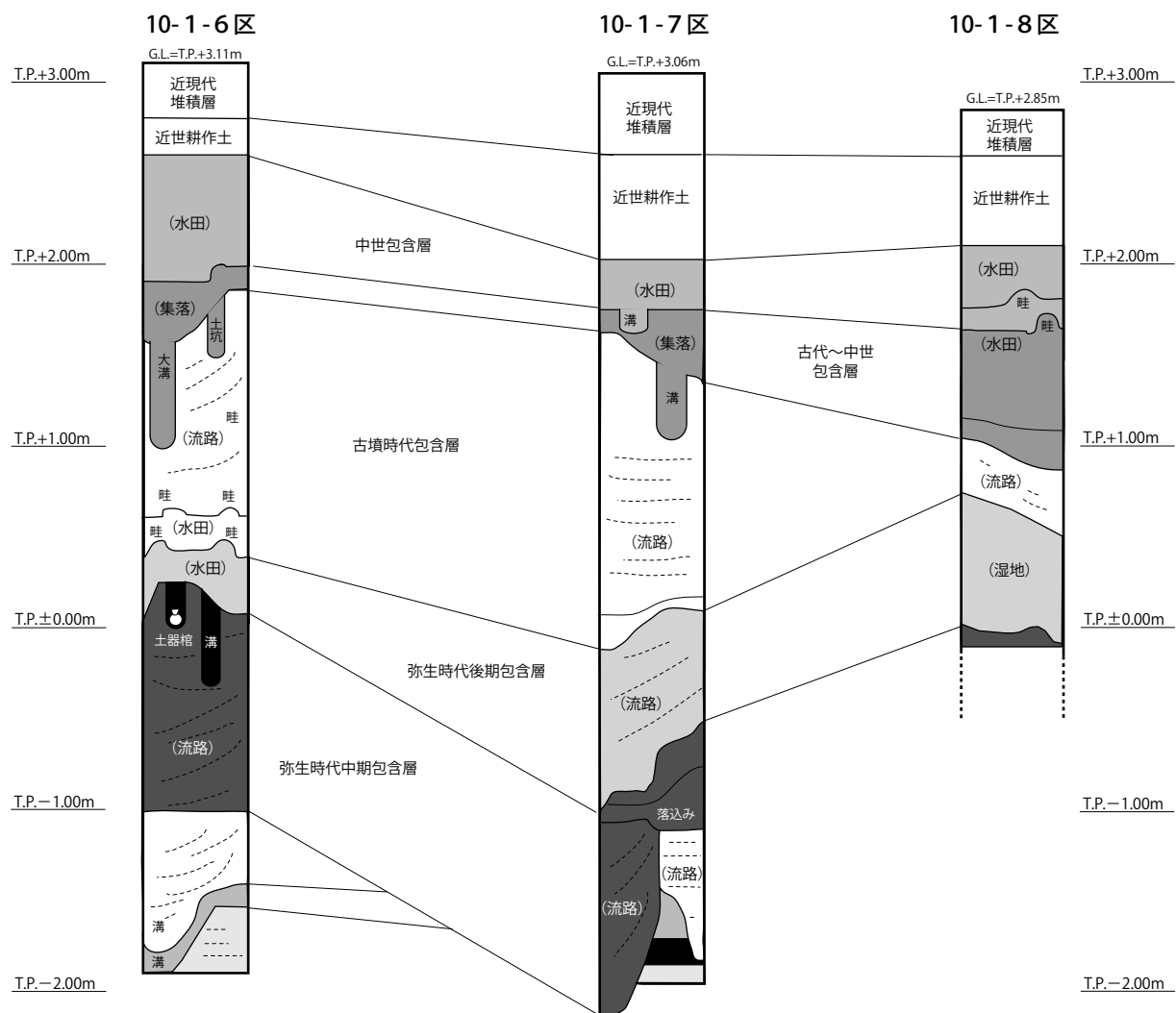


第11図 基本層序模式図(瓜生堂遺跡)

弥生時代前期包含層 瓜生堂遺跡及び岩田遺跡では、T.P.-2.0～1.8 m付近に弥生時代前期の主要な遺構面が2面存在し、その前後に遺物を多く含む包含層が認められる。10-1-2区から10-1-3区付近の地盤が微高地であり、居住域はこの範囲に展開する。居住域の西端は、10-1-1区の中央部において検出した大溝（1080大溝）付近で、これより西は、遺物の出土が極端に少ない。東端は10-1-4区中央より東へ向かって下がるため、居住域はこの付近で終焉すると推測される。岩田遺跡の範囲にあたる10-1-6区より東では大規模な河川の流入があり、対応層を認めることができない。なお、この微高地は弥生時代前期を通じて存在し、やがて弥生時代前期後葉には10-1-3区付近に水田が作られる。

弥生時代中期初頭包含層 オリーブ黒色シルトを主体とするシルト層である。遺構面は、T.P.-1.6 m～-1.0 mを測る。出土遺物は少ない。10-1-1区と10-1-2区では、小規模な畦畔を有する水田を検出した。10-1-1区中央部より西側は湿潤な土壤で、極めて水はけが悪い状態であったと考えられる。10-1-6区以東では河川の流入があり、引き続き不安定な状況が続いている。

弥生時代中期包含層 オリーブ細砂～灰色細砂を主体とする。遺物はほとんど含まれない。この層の上面が弥生時代中期後半の遺構面であり、T.P.-1.5～+0.3 mを測る。



第12図 基本層序模式図（岩田遺跡）

前代の流路堆積により、10-1-6区は他所に比べて盛り上がり微高地となる。流路の本筋は東へ移動し、10-1-7区付近となる。前代に引き続き、10-1-1区、10-1-2区、10-1-3区にも微高地があり、10-1-4区付近に広がる低地を挟んだ両岸に墓域が形成される。墓域内は周溝の掘り込みや墳丘盛土のため、高低差が目立つ。

弥生時代後期包含層 黒褐色シルトを主体とする湿地状堆積もしくは流路堆積である。10-1-2区～10-1-5区の土壌は湿潤で、植物遺体が層内に多く残る。遺構面は、T.P.-0.5～+0.5 m付近に存在する。10-1-1区の西半部には河川が通り、その底面付近において、集石遺構を確認した。前代に引き続き微高地である10-1-6区では、小区画水田を検出した。10-1-2区～10-1-5区の間は遺構が希薄で、湿地状堆積が続く。10-1-7区では、前代同様、河川の流入が認められる。なお10-1-1区では遺物がまとまって出土することから、周辺に居住域が存在した可能性が高い。

古墳時代前期包含層 すべての調査区において流路堆積が認められる。10-1-6区では、前代とは異なる方向軸の畦畔をもつ水田が作られるものの、やがて洪水砂に覆われる。砂の堆積状況から、この大規模な河川は10-1-1区から10-1-8区までの間で幾度も本筋を変えながら流れていたと考えられる。出土遺物はいずれも磨滅しており、相当の水流があったものと推測される。調査区内は大量の土砂流入により、地盤が1～2 m程度高くなった。

古代～中世包含層 出土遺物は僅かであるが、すべての調査区で相当層が確認されている。オリーブ灰色シルトを主体とするシルト層で、埴輪片を一定量含む。10-1-7区では井戸や溝を持つ遺構面をT.P.+1.5～+1.8の高さで検出した。また10-1-8区では、水田を確認した。

中世包含層 砂混じりシルトを主体とする土壌に、炭化物や礫、13～15世紀までの遺物が多く混じる。遺構面は複数枚確認できるが、もっとも稠密に遺構が検出されたのは、10-1-3区である。井戸、ピット、溝等の遺構に切り合い関係が認められるため、集落は一定期間存続したと考えられる。10-1-1区、10-1-2区、10-1-4区では、南北方向に流れる大溝を検出したが、この上面が窪地となり、上位層である近世堆積層が沈み込む。なお、10-1-3区は中世遺構面が高いため、上位に存在したと推測される近世堆積層は、削平されて確認することが出来なかった。

近世堆積層 瓜生堂範囲内では遺物が多く混じる攪拌層、岩田遺跡範囲内では主に耕作土層である。10-1-2区では比較的厚く残存しており、層内から瓦や陶磁器、土人形等が多数出土した。

2. 10-1-1区

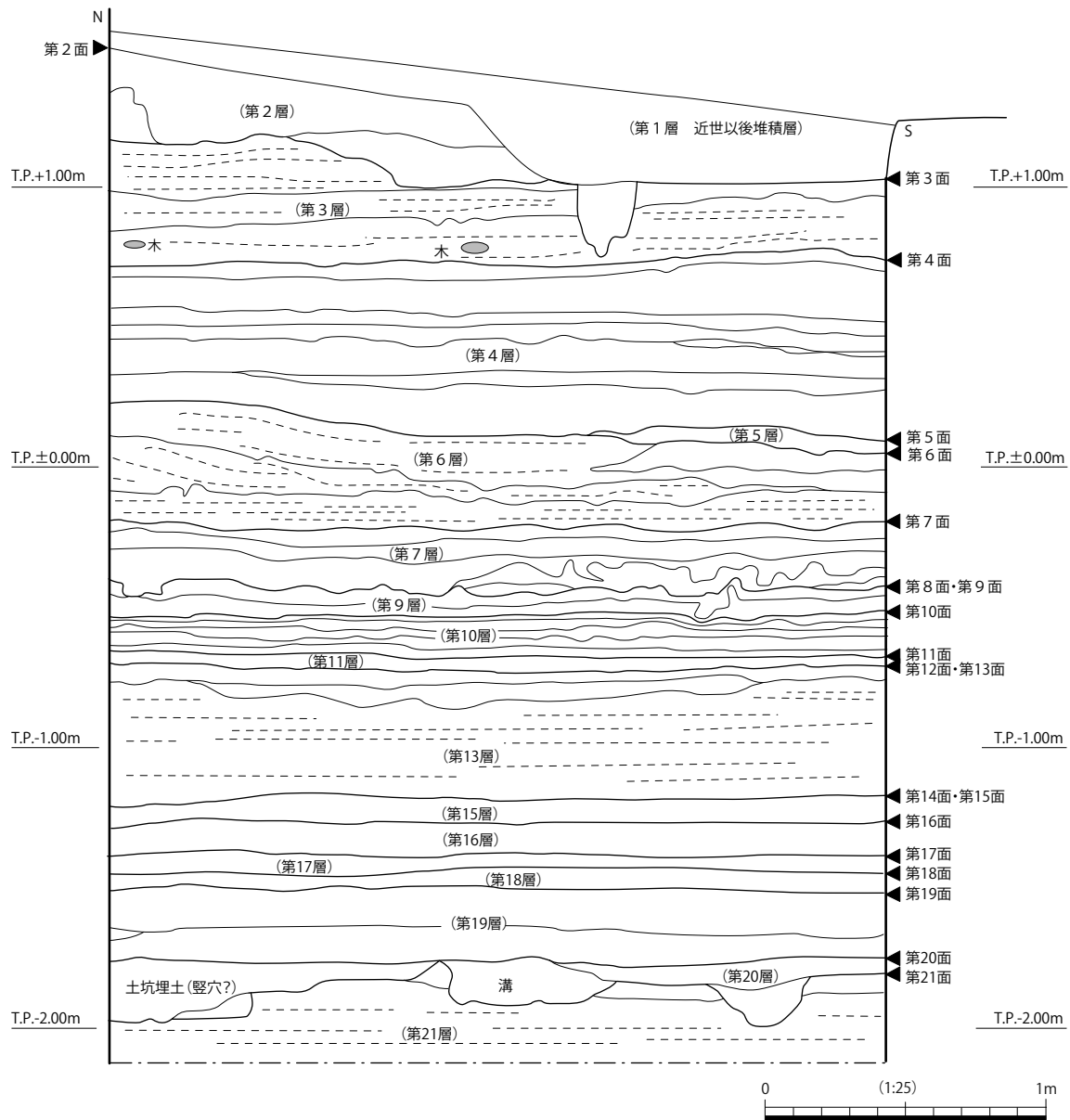
10-1-1区では、弥生時代前期から中世まで、計21層の層序を確認した(第13図)。

第1層 近世以後の堆積層。攪乱土を含む。暗灰色砂混じりシルトを主体とし、瓦礫を含む。層内からは、瓦、染付を含む陶磁器類、瓦器、土師器、須恵器、瓦質土器、埴輪、砥石、弥生土器等が出土した。

第2層 中世包含層。中世遺構面(集落)の基盤層である。灰色砂混じりシルトを主体とし、部分的に暗緑灰色シルトブロックを含む。上面である第2遺構面において、中世遺構面を検出した。15世紀までの遺物を含む。層内からは、瓦器、青磁、須恵器、瓦質土器、土師器、埴輪が出土した。

第3層 古代～中世初頭洪水砂層。12世紀までの遺物を含むが出土量は僅かである。浅黄色極細砂とシルトの互層を主体とする。有機物や木片、須恵器、埴輪片の混じり込みが目立つ。瓦器、土師器、須恵器が出土した。

第4層 古墳時代包含層。有機物を多く含む湿地状の堆積である。オリーブ灰色砂混じりシルトを主体



- | | | | |
|------|------------------------------|------|------------------------------------|
| 第1層 | 暗灰色砂混じりシルト (近世以後堆積層) | 第12層 | オリーブ灰色細砂
(弥生時代中期後半墳丘盛土層 東壁では消滅) |
| 第2層 | 灰色砂混じりシルト (中世包含層) | 第13層 | 灰色中砂～極細砂 (弥生時代中期相当層) |
| 第3層 | 浅黄色極細砂とシルトの互層 (古代～中世初頭洪水砂) | 第14層 | オリーブ灰色細砂
(弥生時代中期相当層 東壁では消滅) |
| 第4層 | オリーブ灰色シルト (古墳時代前期包含層) | 第15層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代中期初頭耕作土) |
| 第5層 | オリーブ灰色砂混じりシルト (古墳時代前期包含層) | 第16層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代中期初頭相当層) |
| 第6層 | オリーブ灰色粗砂～細砂 (古墳時代前期流路) | 第17層 | オリーブ黒色 (弥生時代前期包含層) |
| 第7層 | 灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第18層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第8層 | 灰色シルト (弥生時代後期包含層 東壁では消滅) | 第19層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第9層 | 緑灰色シルト (弥生時代後期包含層) | 第20層 | 黒色シルト (縄文時代晩期～弥生時代前期相当層?) |
| 第10層 | 緑灰色シルトと黒褐色シルトの互層 (弥生時代後期包含層) | 第21層 | 灰色細砂～粗砂 (自然堆積層 干潟) |
| 第11層 | 黒褐色シルト (弥生時代中期包含層) | | |

第13図 10-1-1区 壁断面図

とする。遺物の出土は確認していない。

第5層 古墳時代包含層。オリーブ灰色粗砂混じりシルトを主体とする。調査区西側では有機物を含む堆積があり、自然木の混入が目立つ。

第6層 古墳時代前期流路堆積。オリーブ灰色粗砂～細砂を主体とし、水平方向の葉理を伴う。土器の出土は確認できていない。加工痕跡を持つ板状木製品の出土はあるが、磨滅が著しいため遠方から流入したものと見られる。

第7層 弥生時代後期相当層。灰色シルトを主体とし、植物遺体を多く含む薄層が、複数枚狭在する。第6層直下の有機質層から、内面に朱が付着する弥生土器壺の破片が出土した。

第8層 弥生時代後期包含層。調査区西半部にのみ存在する。灰色シルトを主体とする軟質層である。層中には、弥生土器がまとまって出土する土器だまりが認められる。

第9層 弥生時代後期包含層。緑灰色シルトを主体とする。植物遺体や極細砂を含む薄層が狭在する。層中には、弥生土器がまとまって出土する土器だまりが認められる。また、第10層、第11層中出土の土器片と接合するものも多い。

第10層 弥生時代後期包含層。調査区東半部では緑灰色シルトと黒褐色シルトの互層（10-1層）、西半部では灰白色粗砂～細砂を主体とする流路堆積（10-2層）となる。出土遺物が多く、調査区東半部では層中に土器だまりを形成する。調査区西半部の流路は、第11層～第14層を削り流して存在する。この流路堆積の底面付近において、集石遺構を検出した。

第11層 弥生時代中期包含層。黒褐色シルトを主体とする。弥生時代中期後半に築造された方形周溝墓を覆う黒色層。上下2層（第11-1層、第11-2層）に細分できる。第11-1層は、調査区東半部に厚く堆積する。第11-2層は主として調査区中央部の周溝墓付近に堆積し、特に周溝が埋没した窪地に厚く認められる。多量の土器を含んでおり、随所に土器だまりを形成する。土器棺破片や周溝墓斜面より転落した供献土器の一部を含む。

第12層 弥生時代中期後半相当層。方形周溝墓の盛土にあたる。オリーブ灰色細砂を主体とし、黄灰色粗砂ブロックを含む。遺物の出土は確認できていない。土器棺墓を納めた土坑は、この層上面より掘り込まれている。

第13層 弥生時代中期相当層。灰色中砂～極細砂を主体とし、一部にシルトブロックを含む。遺物の出土は確認できていない。

第14層 弥生時代中期相当層。オリーブ灰色細砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第15層 弥生時代中期初頭相当層。水田耕作土。オリーブ黒色シルトを主体とし、下層シルトを攪拌して巻き上げる。層上面において畦畔を検出した。層内からは弥生土器片が少量出土した。

第16層 弥生時代中期初頭相当層。水田基盤層か。オリーブ黒色シルトを主体とし、植物遺体を含む薄層が狭在する。弥生土器壺、甕が出土した。

第17層 弥生時代前期包含層。オリーブ黒色シルトを主体とする。ややしまる。壺や甕の破片を含む。

第18層 弥生時代前期包含層。オリーブ黒色シルトを主体とする。壺や甕の破片を多く含む。

第19層 弥生時代前期包含層。オリーブ黒色シルトを主体とし、下層の黒色シルトブロックを部分的に含む。土器片及び炭化粒を多く含む。集落を囲む大溝は、この層上面より掘り込まれている。小溝や土坑等の遺構は、この層の下面において検出した。

第20層 縄文時代晩期～弥生時代前期相当層か。黒色シルトを主体とする湿地状の堆積で、下層の干

潟堆積を覆うように広がる。下面には、海浜生物の生痕と見られる小穴が多数認められる。調査区中央付近と東端部では、この層の除去面において土坑を検出した。層中からはサヌカイト製石鏃が1点出土した。

第21層 自然堆積層。縄文時代に形成された干潟堆積と推測される。灰色細砂～粗砂を主体とし、植物遺体を多く含む。遺物の出土は確認できていない。

3. 10-1-2区

10-1-2区では、弥生時代前期から近世まで、計26層を確認した。他調査区よりも中世包含層及び近世堆積層が厚く堆積すること、また弥生時代前期の遺構に切り合い関係が認められ、これを複数の遺構面としたこと等から、確認した遺構面数及び層数は他調査区より多い(第14図)。

第1層 近世堆積層。灰色シルトを主体とする。礫や砂層、焼土のほか、帯状に炭の集積が認められる。上面からは近現代の水路が深く削りこむため、攪乱も多い。瓦、染付を含む陶磁器、瓦質土器、瓦器、須恵器、土師器、円筒埴輪、土人形等の遺物を多く含む。

第2層 近世堆積層。灰色砂混じりシルトを主体とする。西へ向かって層厚を増し、調査区北西部では落込み埋土となる。上層と同じく焼土塊や炭、土器片を多く含む。

第3層 中世末期～近世初頭包含層。灰色極細砂混じりシルトを主体とする。上層同様、焼土塊や炭のほか、15～16世紀の土器類を多く含む。この層の除去面において、中世末期遺構面を検出した。

第4層 中世包含層。灰色細砂～中砂にシルトブロックを少量含み、弱い葉理を形成する。瓦質土器、瓦器、土師器、須恵器等、15世紀までの遺物を多く含む。

第5層 中世包含層。灰色極細砂混じりシルトを主体とする。同色粘土質シルトブロックを少量含む。土師器、瓦器を少量含む。

第6層 中世包含層。灰色粗砂混じりシルトを主体とする。酸化のため褐色を呈する部位が多い。層内には瓦器、土師器の小片を含む。この層の除去面において中世前期遺構面を検出した。

第7層 古代～中世前期相当層。オリーブ黒色シルトを主体とし、部分的に灰色極細砂が流入する。黒色化した植物遺体が筋状に入る。遺物の出土は確認できていない。

第8層 古代包含層。オリーブ黒色砂混じりシルトを主体とする。下層ブロックの巻き上げが認められる。植物遺体を僅かに含む。層内からは、土師器甕の破片が出土した。

第9層 古墳時代後期～古代包含層。灰色細砂混じりシルトに植物遺体が僅かに入る。この層の上面では、土坑を1基検出した。層内からは、土師器甕の破片が出土した。

第10層 古墳時代前期流路。オリーブ灰色細砂～粗砂である。水平方向に弱い葉理が認められる。遺物の出土は確認できていない。

第11層 弥生時代後期相当層。湿地状の堆積である。オリーブ黒色微砂混じりシルトを主体とする。上位に微砂が水平方向に入る。軟質でしまりが悪い。遺物の出土は確認できていない。

第12層 弥生時代後期相当層。湿地状の堆積である。オリーブ黒色細砂混じりシルトを主体とする。黒色粘土や灰色粘土が縞状に入る。遺物の出土は確認できていない。

第13層 弥生時代後期相当層。湿地状の堆積である。オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする。上面に腐植した植物遺体が多く入る。軟質である。遺物の出土は確認できていない。

第14層 弥生時代後期相当層。有機質を多く含む暗色帯で、黒色微砂混じりシルトを主体とする。層

内での擾乱が著しい。遺物の出土は確認できていない。

第15層 弥生時代中期相当層。黒色微砂混じりシルトを主体とし、部分的に灰色シルトブロックを含む。軟質でややしまる。植物遺体が僅かに入る。この層の上面では、落込みと溝を検出した。周辺調査区で墓域を検出した弥生時代中期後半遺構面に対応すると考えられる。遺物の出土は確認できなかった。

第16層 弥生時代中期相当層。湿地状の堆積である。黒色微砂混じりシルト。軟質でややしまる。遺物の出土は確認できていない。

第17層 弥生時代中期相当層。暗オリーブ灰色細砂～粗砂を主体とする洪水堆積層である。弱い葉理を形成する。遺物の出土は確認できていない。

第18層 弥生時代中期初頭相当層。水田耕作土である。暗オリーブ灰色シルトで、極細砂～細砂の流入がある。炭化粒を少量含む。遺物の出土は確認できていない。

第19層 弥生時代中期初頭相当層。湿地状の堆積である。暗緑灰色シルトで、有機質が筋状に入る。遺物の出土は確認できていない。

第20層 弥生時代中期初頭相当層。湿地状の堆積である。オリーブ灰色シルトを主体とする。一部に有機質が筋状に入る。上層に比べて暗色化が認められる。遺物の出土は確認できていない。

第21層 弥生時代前期包含層。暗灰色シルトを主体とする。この層の上面では、溝、土坑を検出した。層内には、炭化粒や焼土のほか、壺や甕、土製品などの弥生遺物を多く含む。

第22層 弥生時代前期包含層。黒色シルトを主体とする。上層よりも大きい炭化粒、焼土塊を含む。この層の上面では、溝、土坑、落込み等を検出した。層内からは、壺、甕の出土量が多く出土した。

第23層 弥生時代前期包含層。オリーブ黒色シルトを主体とし、部分的に細砂が流入する。細かい炭化粒、焼土塊を多く含む。この層の上面では、土坑を2基検出した。層内からは、壺、甕の出土量が多く出土した。

第24層 弥生時代前期包含層。黒色シルトに有機物、炭化粒を少量含む。下位に極細砂ブロックを少量含む。この層の上面において、溝・土坑を有する遺構面を検出した。層内からは、壺、甕の出土量が多く出土した。

第25層 縄文時代晩期～弥生時代前期相当層か。黒色シルトを主体とする。炭化粒、植物遺体が少量入る。この層の上面において、竪穴建物、溝、ピット等を有する居住域を検出した。集落の基盤層である当層内からは、遺物の出土は確認できていない。

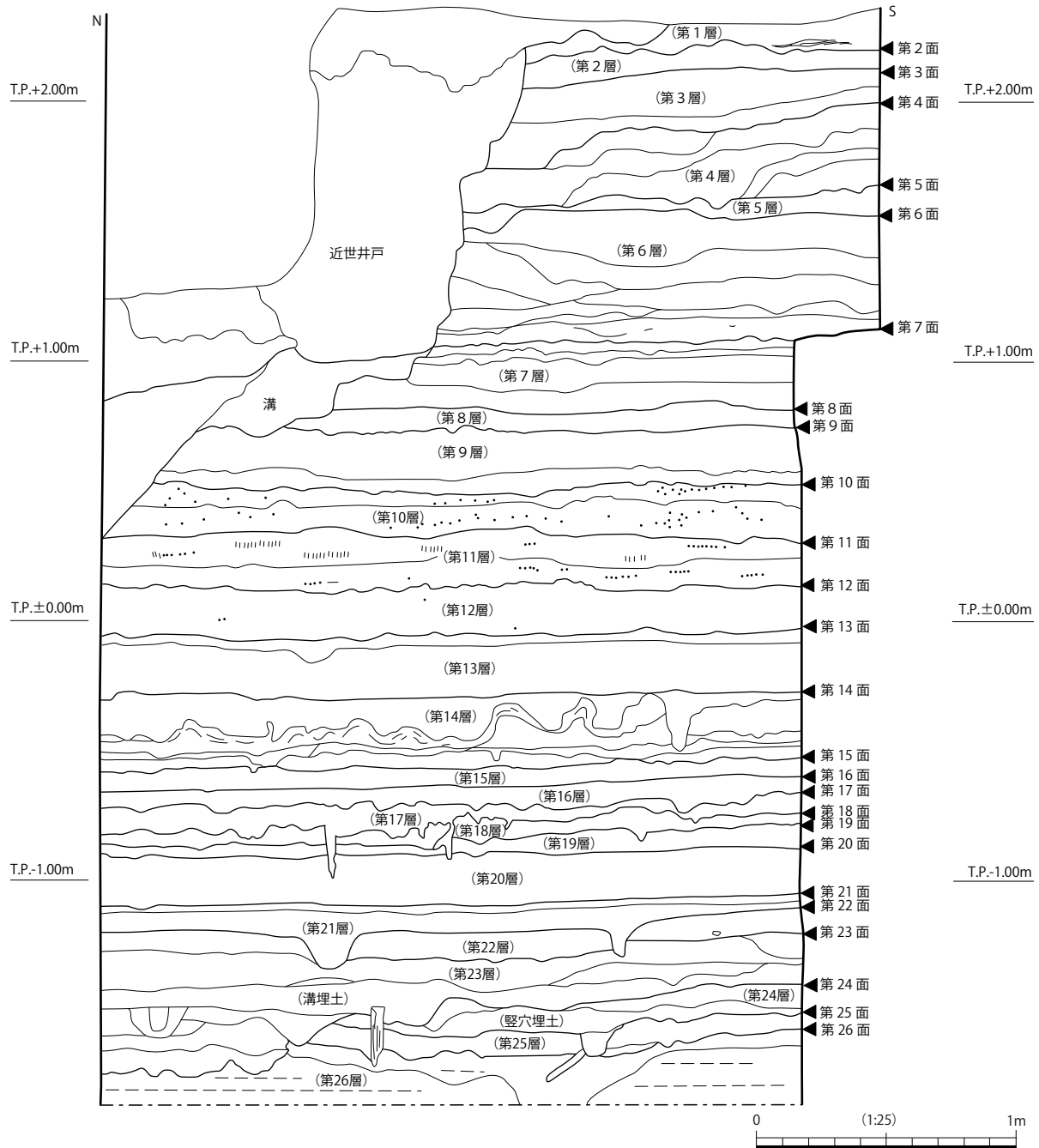
第26層 自然堆積層。灰色シルト～灰色細砂を主体とする干潟堆積。層内には、自然木や種子が多く含まれているが、人為的遺物の出土は確認できていない。

4. 10-1-3区

10-1-3区では、10-1-2区において確認された近世堆積層はほとんど削平されており、現地盤より0.5m掘削した段階で中世包含層に到達する。この調査区では、弥生時代前期から中世後期までの包含層、計18層を確認した(第15図)。

第1層 中世後期包含層(整地土及び耕作土)。灰黄褐色粗砂混じりシルトを主体とする。褐色シルトブロックが部分的に混じる。炭化物や15世紀までの遺物を少量含むが、攪拌を受けるため多くが細片である。

第2層 中世包含層。黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。下層(黄灰色微砂混じりシルト)ブロッ



- | | | | |
|------|----------------------------|------|---------------------------|
| 第1層 | 灰色シルト (近世堆積層) | 第14層 | 黒色微砂混じりシルト (弥生時代後期相当層) |
| 第2層 | 灰色砂混じりシルト (近世堆積層) | 第15層 | 黒色微砂混じりシルト (弥生時代中期相当層) |
| 第3層 | 灰色極細砂混じりシルト (近世堆積層) | 第16層 | 黒色微砂混じりシルト (弥生時代中期相当層) |
| 第4層 | 灰色細砂〜中砂 (中世溝埋土) | 第17層 | 暗オリーブ灰色細砂〜粗砂 (弥生時代中期相当層) |
| 第5層 | 灰色極細砂混じりシルト (中世包含層) | 第18層 | 暗オリーブ灰色シルト (弥生時代中期初頭耕作土) |
| 第6層 | 灰色粗砂混じりシルト (中世包含層) | 第19層 | 暗緑灰色シルト (弥生時代中期初頭相当層) |
| 第7層 | オリーブ黒色シルト (古代〜中世前期包含層) | 第20層 | オリーブ灰色シルト (弥生時代中期初頭相当層) |
| 第8層 | オリーブ黒色砂混じりシルト (古代包含層) | 第21層 | 暗灰色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第9層 | 灰色細砂混じりシルト (古墳時代後期〜古代包含層) | 第22層 | 黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第10層 | オリーブ灰色細砂〜粗砂 (古墳時代前期流路) | 第23層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第11層 | オリーブ黒色微砂混じりシルト (弥生時代後期相当層) | 第24層 | 黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第12層 | オリーブ黒色細砂混じりシルト (弥生時代後期相当層) | 第25層 | 黒色シルト (縄文時代晩期〜弥生時代前期相当層?) |
| 第13層 | オリーブ黒色粘土質シルト (弥生時代後期相当層) | 第26層 | 灰色シルト〜灰色細砂 (自然堆積層 干潟) |

第14図 10-1-2区 壁断面図

クを含む。やや軟質でしまりが悪い。炭化粒及び陶磁器、瓦質土器、須恵器、土師器、瓦等、12～14世紀の遺物を多量に含む。この層の上面では、ピットや土坑、溝等の遺構を検出した。

第3層 古代～中世前期包含層。黄灰色微砂混じりシルトを主体とする。部分的にオリーブ褐色粘土質シルトブロックが混じり込む。やや軟質であるがしまりは良い。上位には中世遺物の食い込みが目立つものの、須恵器や円筒埴輪等、6～8世紀の遺物の出土が主体として認められる。この層の上面では、柱穴や井戸を有する居住域を検出した。遺構の彫密さから、集落の中心地に近いと考えられる。その存続時期は、13世紀～14世紀である。

第4層 古代流路。灰色粗砂～細砂を主体とする。流路堆積の最上層であり、軟質でやや土壌化が認められる。遺物の出土は僅かである。この層の上面において、土坑、溝、落込みを検出した。

第5層 古墳時代流路。色調により上中下の計3層に細分できる。断面観察からは、南から北へ流れる方向性が認められる。上層からは6世紀の須恵器片が出土した。下層からは古墳時代前期（庄内式～布留式）の土器片が少量出土した。

第6層 古墳時代前期相当層。オリーブ灰色シルトに有機物を含む暗色化層が狭在する湿地堆積層である。層内からは、板状木製品及び自然木が出土した。

第7層 弥生時代後期相当層。緑灰色シルトを主体とする軟質土壌で、地震による変形構造が顕著に認められる。有機物を含む暗色シルトと極細砂の薄層が狭在する。最上部と最下部に炭酸鉄の集積が認められる。遺物の出土は認められなかった。

第8層 弥生時代後期相当層。やや腐植質の植物遺体を含む灰色シルトである。部分的に極細砂の薄層が狭在する。弥生時代中期後半の遺構面を覆う層である。遺物の出土は認められなかった。

第9層 弥生時代中期後半相当層。周溝墓の盛土である。灰色シルト～細砂を主体とする。上位は土壌化により黒色味を帯びる。遺物の出土は認められなかった。

第10層 弥生時代中期相当層。灰色シルト～細砂を主体とする。下方に向かって粗粒化する。周溝墓盛土の下部付近では、細かいシルトブロックや粗砂ブロックを含む。遺物の出土は認められなかった。

第11層 弥生時代中期相当層。周溝墓が構築された際の基盤層である。灰色シルトを主体とする。周溝墓の盛土は、この層と上層の第10層を掘り込んで築かれている。遺物の出土は認められなかった。

第12層 弥生時代中期相当層。暗緑灰色を呈する微砂とシルトの互層である。植物遺体が混じる。遺物の出土は認められなかった。

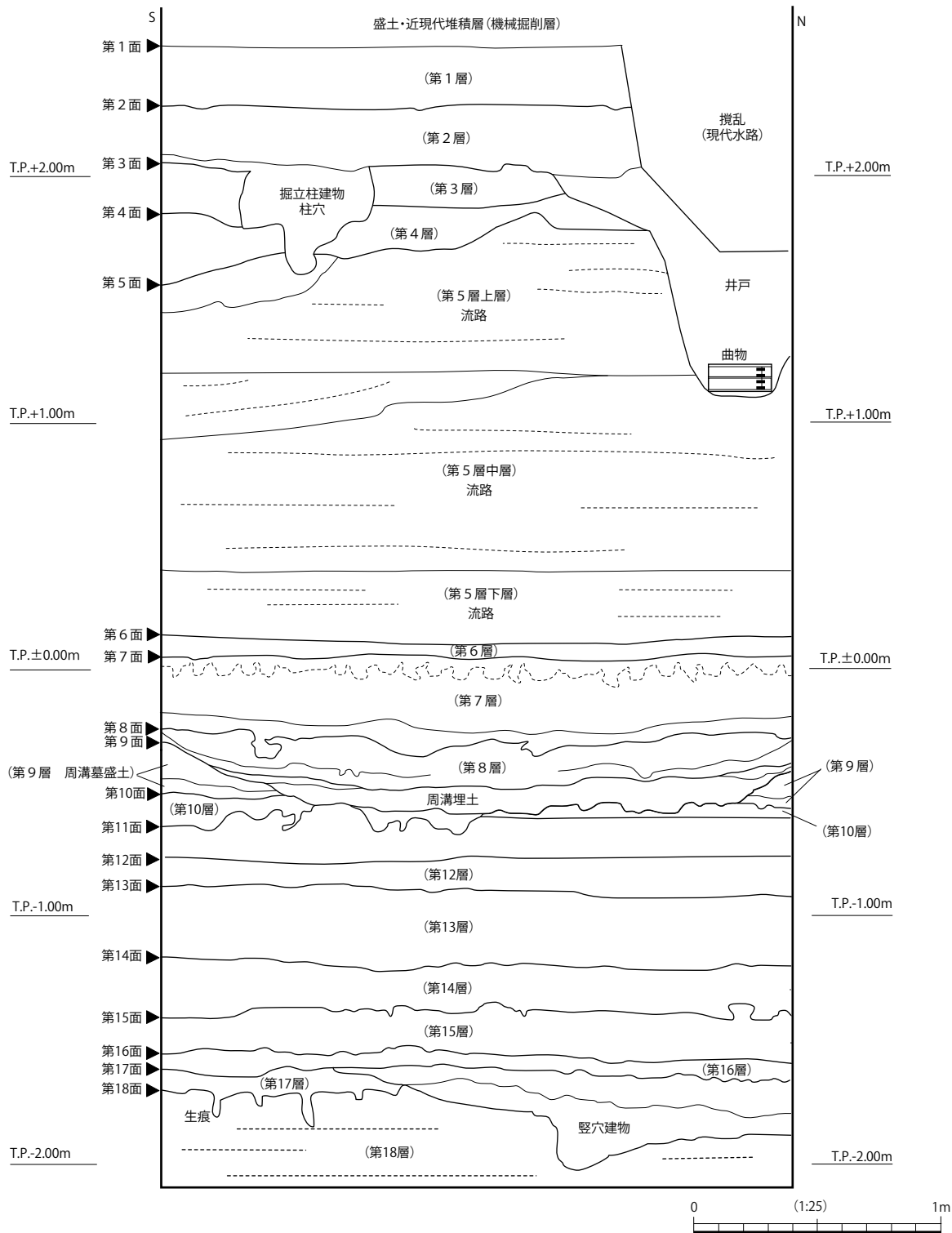
第13層 弥生時代中期相当層。オリーブ黒色シルトを主体とする。部分的に灰色粘土と植物遺体が水平方向に入る。上位はしまりが悪く、軟質である。層内からは弥生土器が少量出土した。

第14層 弥生時代中期初頭相当層。黒色シルトを主体とする。下位では、下層ブロックを巻き上げる痕跡が顕著に残っており、水田耕作土であった可能性が高い。10-1-2区で検出した弥生時代中期初頭水田層に対応する。層内からは摩滅した弥生土器片が少量出土した。

第15層 弥生時代中期包含層。オリーブ黒色シルト層である。僅かに植物遺体が混じる。この層の上面において、流路の一部を検出した。層内からは弥生土器片が少量出土した。

第16層 弥生時代前期耕作土。黒色を呈するシルトに灰色粘土ブロックが少量混じる。下位は砂質化してややしまりがよい。この層の上面で水田畦畔を検出した。また除去面では竪穴建物の可能性がある遺構を確認した。層内からは弥生時代前期の土器片が少量出土した。

第17層 縄文時代晩期～弥生時代前期相当層か。オリーブ黒色シルトに灰色細砂及び粘土質シルトブ



- | | | | |
|-----|--------------------------|------|---------------------------|
| 第1層 | 灰黄褐色粗砂混じりシルト (中世後期包含層) | 第10層 | 灰白色細砂混じり中砂 (弥生時代中期相当層) |
| 第2層 | 黒褐色粗砂混じりシルト (中世包含層) | 第11層 | 灰色シルト (弥生時代中期相当層) |
| 第3層 | 黄灰色微砂混じりシルト (古代~中世前期包含層) | 第12層 | 暗緑灰色微砂とシルトの互層 (弥生時代中期相当層) |
| 第4層 | 灰色粗砂~細砂 (古代流路) | 第13層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代中期相当層) |
| 第5層 | 黄褐色粗砂~細砂 (古墳時代流路) | 第14層 | 黒色シルト (弥生時代中期初頭耕作土?) |
| 第6層 | オリーブ灰色シルト (古墳時代前期相当層) | 第15層 | オリーブ黒色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第7層 | 緑灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第16層 | 黒色シルト (弥生時代前期耕作土) |
| 第8層 | 灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第17層 | 黒色シルト (縄文時代晩期~弥生時代前期相当層?) |
| 第9層 | 灰色シルト~細砂 (弥生時代中期後半墳丘盛土) | 第18層 | 灰色細砂~中砂 (自然堆積層 干潟) |

第15図 10-1-3区 壁断面図

ロックを少量含む。干潟堆積の最上層と見られる。下面には海浜生物の生痕が顕著に残る。この層の上面において、竪穴建物の可能性がある大型土坑を検出した。

第18層 自然堆積層。灰色細砂～粗砂を主体とする。遺物の出土は確認できなかった。

5. 10-1-4区

10-1-4区では、弥生時代前期から中近世までの包含層、計18層を確認した(第16図)。

第1層 近世堆積層。鈍い黄褐色シルト混じり細砂を主体とする。極粗粒砂～小礫を少量含む。層内からは、陶磁器、須恵器、土師器、瓦が出土した。

第2層 近世堆積層。鈍い黄褐色シルトに極粗粒砂～小礫のほか、炭化粒を含む。層の上面ではピットを検出した。層内からは、陶磁器、瓦質土器、土師器、須恵器が出土した。

第3層 中世包含層。黒褐色シルト～極細砂。下位に灰黄褐色シルトブロックを含む。瓦質土器、土師器等、14～15世紀の遺物を多く含む。この層の上面では近世の井戸、溝を検出した。

第4層 古代～中世前期包含層。暗灰黄色シルトを主体とする。下位に向かって粗粒化が認められる。層内からは、須恵器、土師器、この層の上面において、ピット、大溝、井戸を有する居住域を検出した。遺構の時期は14～15世紀である。

第5層 古墳時代後期～古代包含層。灰黄褐色粗砂～細砂を主体とする。流路堆積の最上位層で、部分的に土壌化が認められる。層内からは土師器片が出土した。層の上面では、ピット、溝、井戸を有する中世の遺構面を検出した。

第6層 古墳時代前期流路。黄褐色細砂～中砂を主体とする。斜め方向の葉理が顕著に認められる。下層より細粒で、色調が明るい。層内からは土師器、弥生土器の破片が出土した。

第7層 古墳時代流路堆積。灰黄褐色細砂～粗砂。斜め方向の葉理が顕著である。遺物の出土は確認できていない。

第8層 弥生時代後期相当層。黄灰色シルトを主体とする。植物遺体を多く含む。下層との境界は波打ち、交じり合う箇所がある。遺物の出土は確認できていない。

第9層 弥生時代後期包含層。黄灰色シルト～細砂を主体とする土壌化層。部分的にシルト質極細砂ブロックが入る。葦の地下茎を含む箇所がある。層内からは弥生時代後期の土器片が出土した。層の上面では、溝及び土坑を有する遺構面を検出した。

第10層 弥生時代中期相当層。灰色中砂～極細砂を主体とする。土壌化した上層の影響を受け、やや暗色化が認められる。遺物の出土は確認できていない。

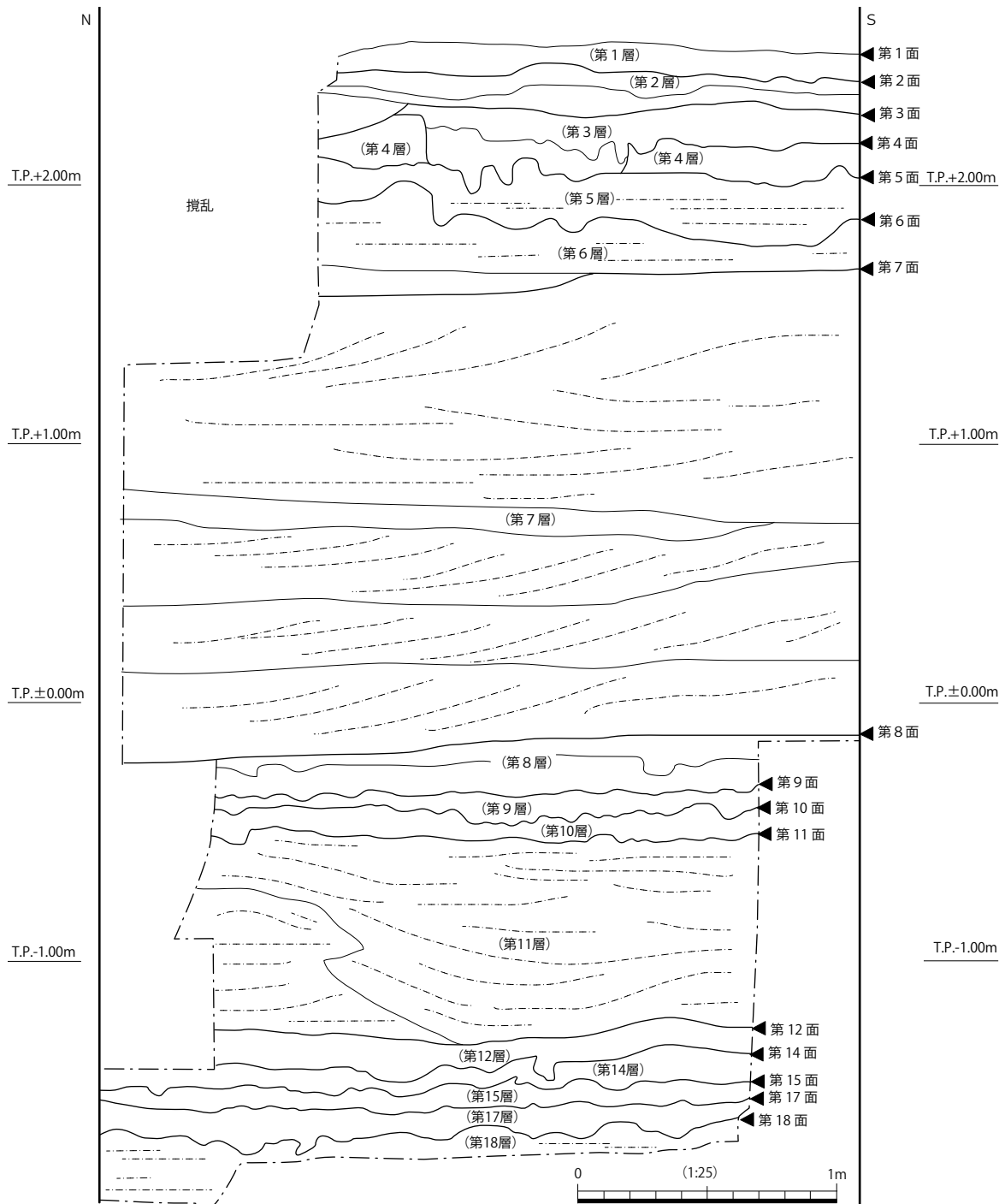
第11層 弥生時代中期流路。灰色細砂～中砂を主体とする。上位は水平方向の葉理、下位は斜め方向の葉理が認められる。下位には灰色シルトブロックが部分的に入る。遺物の出土は確認できなかった。

第12層 弥生時代中期初頭相当層。灰色シルトを主体とする。極細砂及び有機質を多く含む薄層が複数枚狭在する。遺物の出土は確認できなかった。

第13層 弥生時代中期初頭相当層。調査区西半部に堆積し、東壁では消滅する。オリーブ黒色シルトを主体とする。水田耕作土の可能性もある。遺物の出土は確認できなかった。

第14層 弥生時代前期包含層。黄灰色シルトを主体とする。上位に植物遺体を含む薄層が狭在する。層内からは弥生土器の破片が少量出土した。

第15層 弥生時代前期包含層。灰色シルトを主体とする。有機物を多く含む。地震による変形構造が



- | | |
|-----------------------------|--|
| 第1層 鈍い黄褐色シルト混じり細砂 (近世堆積層) | 第11層 灰色細砂～中砂 (弥生時代中期流路) |
| 第2層 鈍い黄褐色シルト (近世堆積層) | 第12層 灰色シルト (弥生時代中期初頭相当層) |
| 第3層 黒褐色シルト～極細砂 (中世包含層) | 第13層 オリーブ黒色シルト
(弥生時代中期初頭相当層 東壁では消滅) |
| 第4層 暗灰黄色シルト (古代～中世前期包含層) | 第14層 黄灰色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第5層 灰黄褐色粗砂～細砂 (古墳時代後期～古代流路) | 第15層 灰色シルト (弥生時代前期包含層) |
| 第6層 黄褐色細砂～中砂 (古墳時代後期流路) | 第16層 黒色シルト
(縄文時代晩期～弥生時代前期相当層? 東壁では消滅) |
| 第7層 灰黄褐色細砂～粗砂 (古墳時代流路) | 第17層 黄灰色シルト (自然堆積層 湿地) |
| 第8層 黄灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第18層 灰色細砂～中砂 (自然堆積層 干潟) |
| 第9層 黄灰色シルト～細砂 (弥生時代後期相当層) | |
| 第10層 灰色中砂～極細砂 (弥生時代中期相当層) | |

第16図 10-1-4区 壁断面図

顕著に認められる。層内からは弥生土器のほか、投弾の可能性のある石が1点出土した。

第16層 弥生時代前期相当層。調査区中央部において検出した流路肩部にのみ残存し、東壁では消滅する。黒色シルトを主体とする。遺物の出土は確認できなかった。

第17層 弥生時代前期包含層。上面は地震の変形構造により波打ち、下面は生痕のため凹凸が顕著である。黄灰色シルトを主体とする。層内からは弥生時代前期の土器片が少量出土した。

第18層 自然堆積層。灰色細砂～中砂を主体とする干潟堆積。遺物の出土は確認できていない。

6. 10-1-5区

10-1-5区では地表面レベルより3m地下までの掘削を行った。その結果、計14層を確認し、9枚の遺構面を検出した(第17図)。

第1層 近世堆積層。灰黄褐色シルトを主体とする。炭化物粒や小礫を少量含む。層内からは、染付を含む陶磁器、瓦器、土師器、須恵器、瓦等が出土した。

第2層 近世堆積層。鈍い黄褐色シルトを主体とする。炭化物粒や小礫を僅かに含む。層内からは、陶磁器や土師器、瓦器の破片がまとまって出土した。

第3層 中世包含層。灰黄褐色～褐灰色シルトを主体とする。炭化物や小礫を少量含む。層内からは施釉陶器、瓦器、須恵器、瓦質土器、土師、土製品、瓦等がまとまって出土した。この層の上面では中世末～近世初頭の井戸を検出した。

第4層 古代～中世包含層。オリーブ褐色シルトを主体とする。極細砂～粗砂を僅かに含む。土坑、井戸、ピットを有する中世後期遺構面は、この層の上面において検出した。遺構面の時期は、14～15世紀である。

第5層 中世包含層。黄灰色シルト混じり中砂～細砂を主体とする。層内からは、瓦器、土師器、須恵器が出土した。この層の上面において大溝やピットを有する中世遺構面を検出した。

第6層 古墳時代前期流路堆積層。黄灰色細砂～極細砂を主体とする。上下層に大別できる。上層は上面からの攪乱を受けており、中世の遺物の混じり込みが目立つ。下層は斜め方向の葉理を伴う砂層で、布留式、庄内式等の古墳時代前期の遺物を伴う。この層の上面では、ピットや土坑等を持つ中世遺構面を検出した。

第7層 古墳時代前期流路堆積層。灰色シルト混じり極細砂～細砂を主体とする。上部には、上層の砂礫の混じり込みが目立つ。遺物の出土は確認できていない。

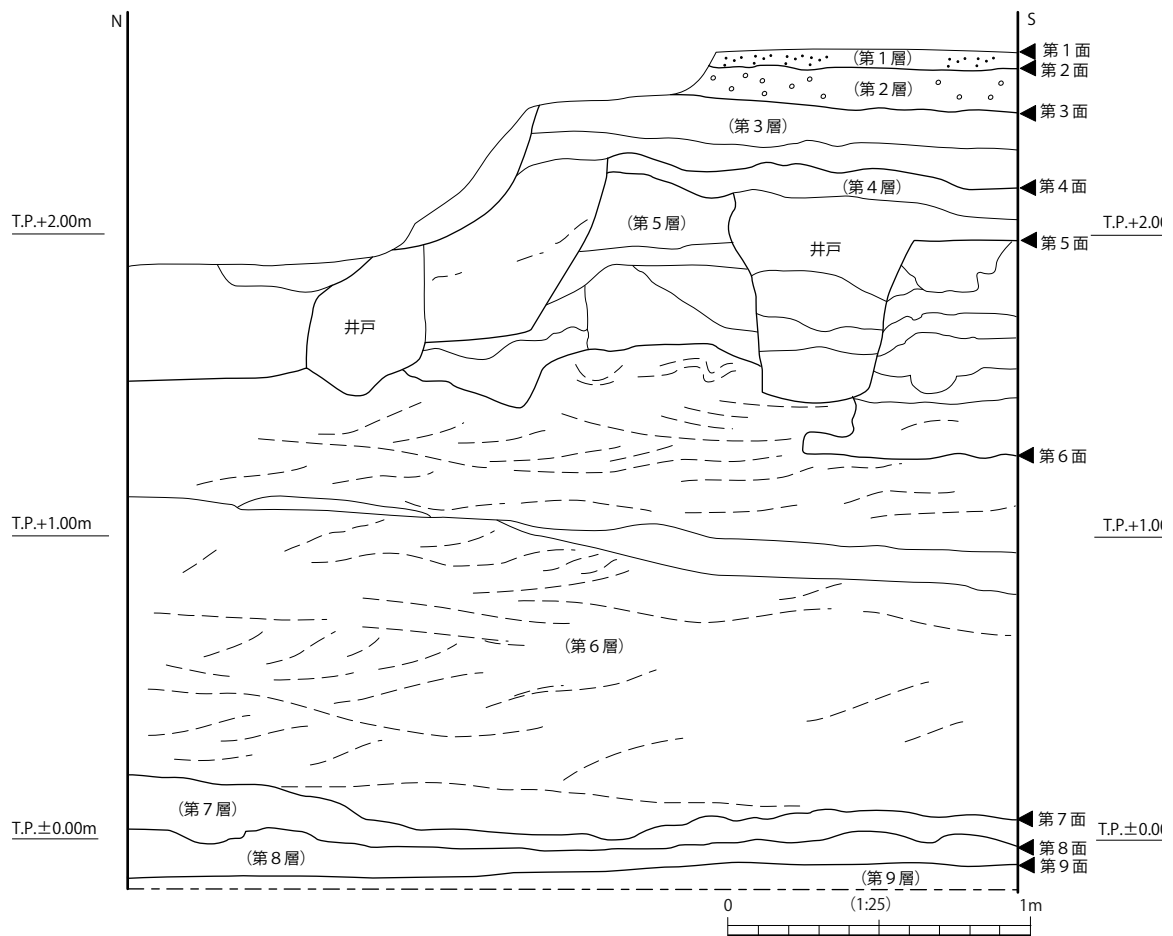
第8層 弥生時代後期相当層。暗灰色シルトを主体とする。植物遺体を少量含んでいる。この層の除去面において、周溝墓盛土の高まりを確認した。遺物の出土は確認できていない。

第9層 弥生時代後期相当層。灰色シルトを主体とする。炭酸鉄の集積と地震による変形構造が認められる。ヒシの実を含む植物遺体が少量混じるが人為的な遺物の出土は確認できていない。

なお10-1-5区では、この層の掘削段階において調査設計深度に達した。このため以下の層は、調査区中央に設けたトレンチにおける部分的な確認にとどまる。

第10層 弥生時代後期包含層。10層以下は調査区中央に設けたトレンチ壁面において確認した堆積である(トレンチ壁断面は第106図参照)。黄灰色シルト～腐植質シルトを主体とする。周溝中央付近には腐植物が多く集積する。地震による変形構造が顕著に認められる。

第11層 弥生時代後期相当層。黒色シルトを主体とする。墳丘盛土上の土壌化層と周溝埋土の一部に



- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 第1層 灰黄褐色シルト (近世堆積層) | 第6層 黄灰色細砂～極細砂 (古墳時代前期流路) |
| 第2層 鈍い黄褐色シルト (近世堆積層) | 第7層 灰色シルト混じり極細砂～細砂 (古墳時代前期流路) |
| 第3層 灰黄褐色～褐灰色シルト (中世包含層) | 第8層 暗灰色シルト (弥生時代後期相当層) |
| 第4層 オリーブ褐色シルト (古代～中世包含層) | 第9層 灰色シルト (弥生時代後期相当層) |
| 第5層 黄灰色シルト混じり中砂～細砂 (古代包含層) | |

第17図 10-1-5区 壁断面図

あたる。植物遺体を少量含む。地震による変形構造が顕著である。周溝内からは、木製品が出土した。

第12層 弥生時代中期後半包含層。黒色シルトを主体とする。墳丘盛土が土壌化層とともに流れ落ち、斜面上に堆積した層である。供献土器である壺はこの層内より出土した。

第13層 弥生時代中期後半墳丘盛土層。灰色極細砂質シルトを主体とする周溝墓の盛土である。灰白色極細砂ブロックや細礫を多く含む。遺物の出土は確認できていない。

第14層 弥生時代中期墳丘盛土層。灰色シルト質極細砂を主体とする周溝墓の盛土である。遺物の出土は認められなかった。

7. 10-1-6区

10-1-6区は、近現代の大きな攪乱を見られず、土層の残存状態は良好である。計26層の堆積層を確認した(第18図)。

第1層 近世堆積層。緑灰色シルト質極細砂を主体とする。酸化またはグライ化する部分があるため、色調はまだらである。下位には灰色極細砂の薄層が狭在する。層内からは、施釉陶器、瓦器、土師器、

須恵器、瓦質土器、瓦等が出土した。

第2層 中世包含層。緑灰色中砂～細砂を主体とする耕作土である。部分的に極細砂ブロックが入る。層内からは須恵器、土師器が出土した。この層の上面では落ち込みを検出した。

第3層 中世包含層。耕作土層である。暗緑灰色粗砂～シルト質極細砂を主体とする。部分的にシルトと極細砂がブロック状に入る。層内からは、土師器、須恵器、瓦器、灰釉陶器、瓦、砥石等が出土した。遺物の下限年代は13～14世紀である。

第4層 古代～中世前期相当層。灰色シルトを主体とする。灰白色細砂ブロックを僅かに含む。耕作土の可能性はある。層内からは遺物の出土は確認できていない。この層の上面において、溝、土坑を有する中世遺構面を検出した。

第5層 古代相当層。灰色シルトを主体とする。部分的に酸化鉄が沈着する。下位には細砂～中砂の流入がある。層内からの遺物の出土は確認できていない。この層の上面において、溝、土坑を有する遺構面を検出した。隣接する既往の調査区において検出された8～9世紀の遺構面に連続する面である。

第6層 古墳時代～古代相当層。灰色細砂混じりシルトを主体とする。下位には緑灰色細砂、灰白色細砂ブロックが混じる。細砂の流入により、弱い葉理を形成する箇所がある。この層の下部からは、古墳時代前期の土器が出土した。

第7層 古墳時代包含層。緑灰色極細砂とシルト互層である。平行葉理を形成する。遺物の出土は確認できていない。

第8層 古墳時代包含層。青灰色シルトを主体とする。部分的に暗色化し、やや土壌化が認められる。遺物の出土は確認できていない。

第9層 古墳時代前期流路堆積層。灰白色極細砂とシルトの互層である。上位には有機物を含む薄層が狭在する。上方細粒化が認められる。遺物の出土は確認できていない。

第10層 古墳時代初頭相当層。水田耕作土である。灰色シルト質細砂～極細砂を主体とする。有機物粒、植物遺体を少量含む。下層をブロック状に巻き上げる箇所がある。層内からの遺物の出土は確認できていない。この層の上面において、畦畔を有する水田跡を検出した。

第11層 弥生時代後期～古墳時代初頭流路堆積層。灰色粗砂～細砂を主体とする。上位には、極細砂と植物遺体を多く含む薄層が狭在する。遺物の出土は確認できなかった。

第12層 弥生時代後期相当層。耕作土層である。灰色シルトを主体とする。この層の上面において、畦畔が存在する水田跡を検出した。

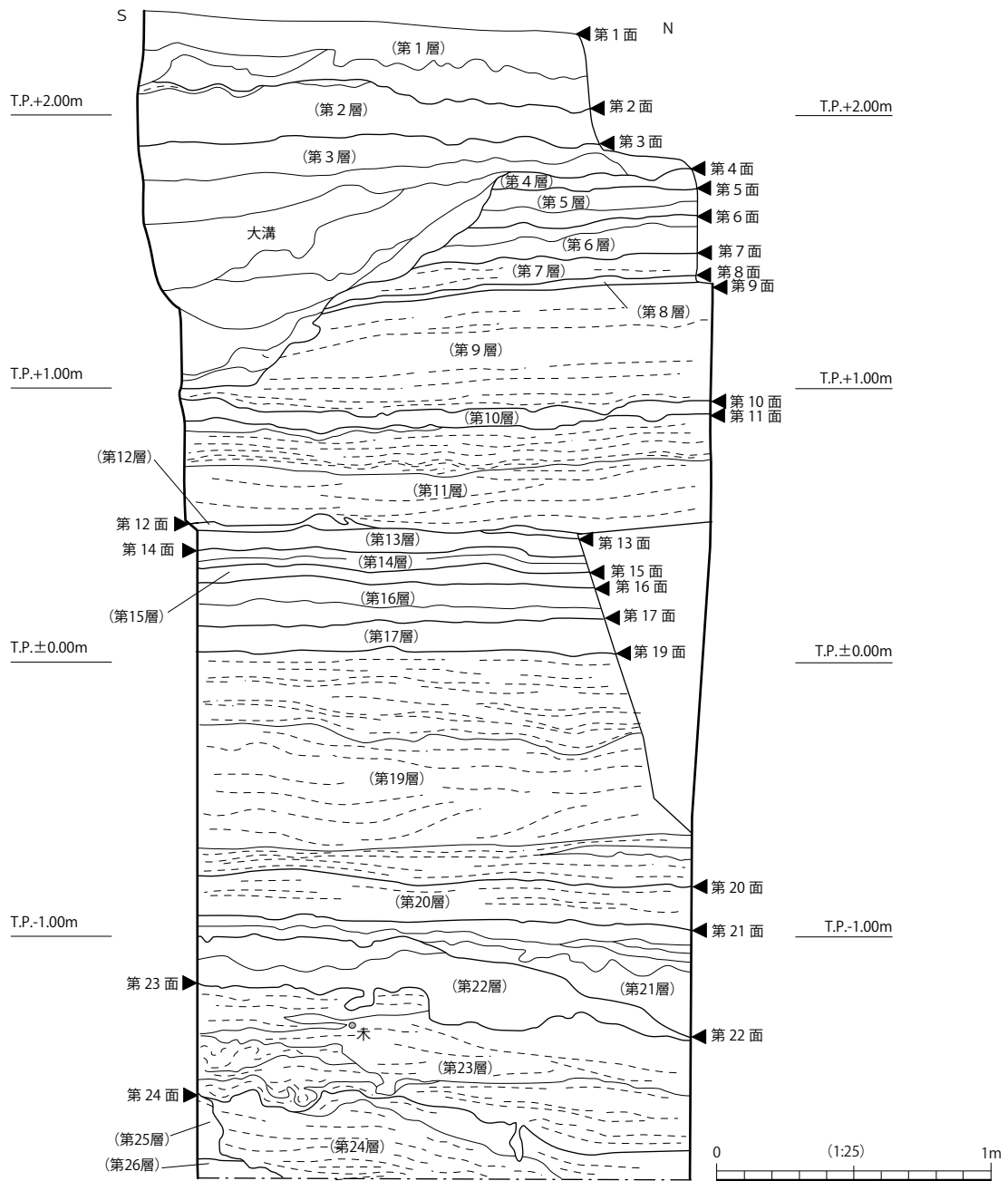
第13層 弥生時代後期相当層。灰色シルトを主体とする。上層耕作土の基盤層である。層内からの遺物の出土は確認できなかった。

第14層 弥生時代後期相当層。黄灰色シルトを主体とする。層内からの遺物の出土は確認できなかった。

第15層 弥生時代中期包含層。黄灰色中砂～粗砂混じりシルトを主体とする。下位には植物遺体と灰色シルトブロックを多く含む。層内からは、弥生土器が出土した。

第16層 弥生時代中期包含層。黄灰色細砂混じりシルトを主体とする。有機物粒を多く含む。層内からは、弥生土器が出土した。この層の上面では、溝を有する遺構面を検出した。

第17層 弥生時代中期相当層。灰白色中砂～粗砂を主体とする。弥生時代中期の流路を充填する堆積物の一部である。上方粗粒化が認められる。調査区西半部では、この層の上面において、土器棺墓とみられる土坑や溝を有する遺構面を検出した。



- | | | | |
|------|--------------------------|------|----------------------------|
| 第1層 | 緑灰色シルト質極細砂 (近世堆積層) | 第14層 | 黄灰色シルト (弥生時代後期相当層) |
| 第2層 | 緑灰色中砂～細砂 (中世包含層) | 第15層 | 黄灰色中砂～粗砂混じりシルト (弥生時代後期耕作土) |
| 第3層 | 暗緑灰色粗砂～シルト質極細砂 (中世包含層) | 第16層 | 黄灰色細砂混じりシルト (弥生時代中期包含層) |
| 第4層 | 灰色シルト (古代～中世前期包含層) | 第17層 | 灰白色中砂～粗砂 (弥生時代中期相当層) |
| 第5層 | 灰色シルト (古代相当層) | 第18層 | 黄灰色極細砂 (弥生時代中期相当層 西壁では消滅) |
| 第6層 | 灰色細砂混じりシルト (古代相当層) | 第19層 | 灰白色粗砂～細砂 (弥生時代中期流路) |
| 第7層 | 緑灰色極細砂とシルトの互層 (古墳時代包含層) | 第20層 | 灰色シルト (弥生時代中期相当層) |
| 第8層 | 青灰色シルト (古墳時代包含層) | 第21層 | 灰色中砂質シルト (弥生時代中期相当層) |
| 第9層 | 灰白色極細砂とシルトの互層 (古墳時代前期流路) | 第22層 | 灰色中砂～シルト (弥生時代中期相当層) |
| 第10層 | 灰色シルト質細砂～極細砂 (古墳時代前期流路) | 第23層 | 灰白色粗砂～極細砂 (弥生時代中期流路) |
| 第11層 | 灰色粗砂～細砂 (古墳時代前期流路) | 第24層 | 灰白色粗砂～細砂 (弥生時代前期流路?) |
| 第12層 | 灰色シルト (古墳時代初頭耕作土) | 第25層 | 黄灰色極細砂～細砂 (弥生時代前期相当層?) |
| 第13層 | 灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第26層 | 黄灰色細砂混じりシルト (弥生時代前期相当層?) |

第18図 10-1-6区 壁断面図

第18層 弥生時代中期相当層。黄灰色極細砂を主体とする。調査区東半分の流路付近に存在し、西壁では消滅する。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第19層 弥生時代中期流路堆積層。灰白色粗砂～細砂を主体とする。上位には平行葉理が、下位には斜め方向の葉理が形成されている。最下層には極細砂とシルトの互層がある。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第20層 弥生時代中期相当層。灰色シルトを主体とする。有機物を多く含む薄層が狭在する。中位に細砂と極細砂の流入が認められる。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第21層 弥生時代中期相当層。灰色中砂質シルトである。シルトがブロック状を呈する部分がある。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第22層 弥生時代中期相当層。灰色中砂～シルトである。極細砂がブロック状を呈する部分がある。層内からの遺物の出土は確認できていない。この層の上面では、溝と流路を検出した。

第23層 弥生時代中期流路堆積か。灰白色粗砂～極細砂を主体とする。上位は水平方向に、下位は斜め方向の葉理を形成し、シルトブロックを含む。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第24層 弥生時代前期流路堆積層か。調査区西半部に落ち込む流路の充填堆積物で、灰白色粗砂～細砂を主体とする。上位にはシルトの流入があり、地震による顕著な変形が認められる。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第25層 弥生時代前期相当層か。黄灰色極細砂～細砂を主体とする。有機物を多く含むため、部分的に強い暗色化が認められる。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第26層 弥生時代前期相当層か。黄灰色細砂混じりシルトを主体とする。植物遺体を多量に含む。

第27層 弥生時代前期相当層か。黄灰色極細砂質シルトである。植物遺体を多く含む。なお、第27層以下は、調査区中央南壁に沿って設けたトレンチ内で確認された土層である。層内からの遺物の出土は確認できていない。

第28層 弥生時代前期相当層か。黄灰色中砂～粗砂混じりシルトである。やや土壌化が認められる。層内からの遺物の出土は確認できていない。

8. 10-1-7区

10-1-7区では、計26層の堆積層を確認した(第19図)。

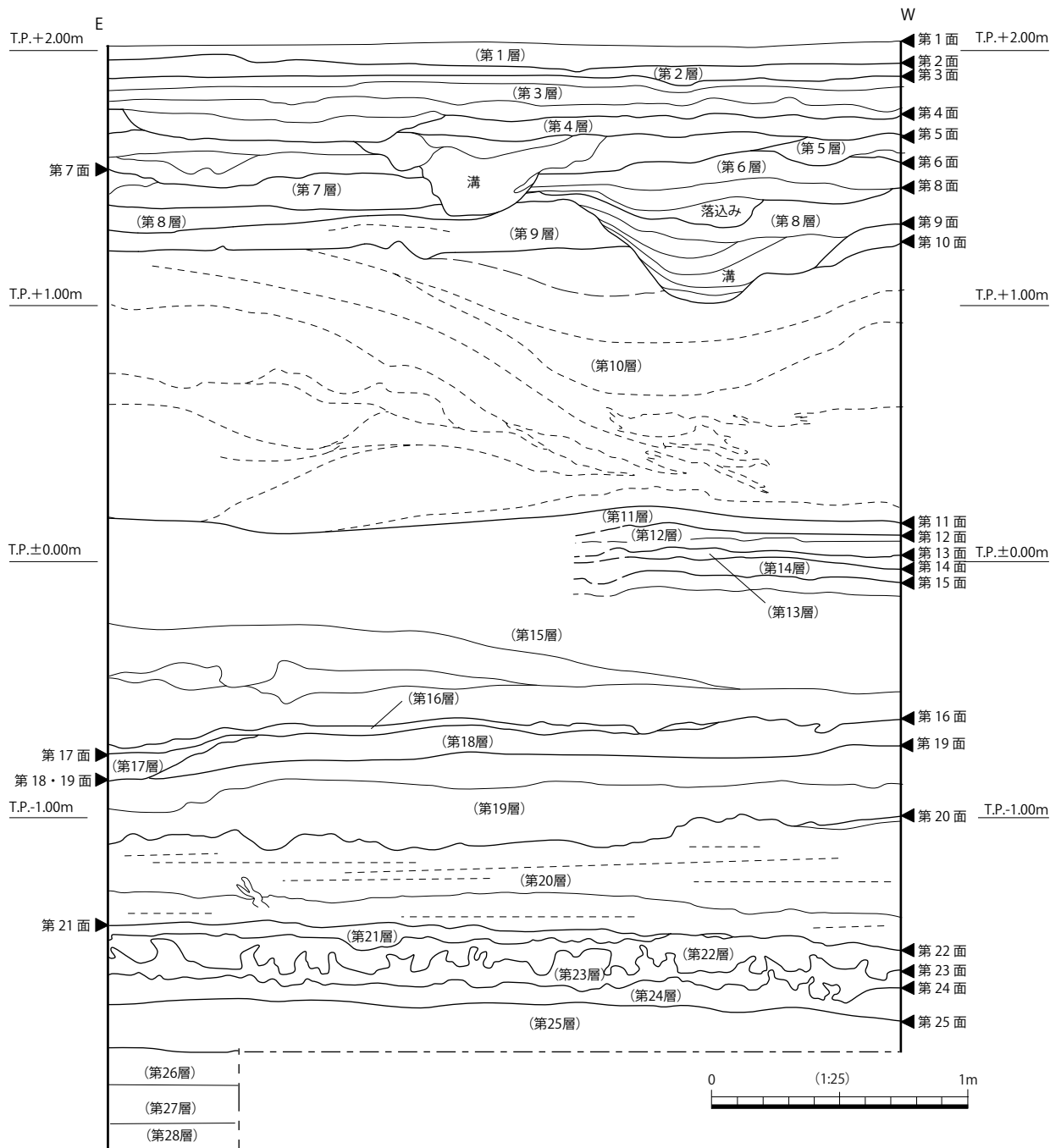
第1層 近世包含層。耕作土である。暗オリーブ灰色シルトを主体とする。中砂～砂礫ブロックを含む。層内からは、瓦器、土師器、須恵器、瓦が出土した。

第2層 近世包含層。耕作土である。暗オリーブ灰色シルトを主体とする。上層よりも大きい砂礫ブロックを含む。層内からは、染付を含む陶磁器、土師器、瓦器、瓦等が出土した。

第3層 中世包含層。耕作土である。オリーブ黒色シルトを主体とする。中砂～砂礫ブロックを少量含む。下位に極細砂の流入が認められる。層内からは、陶器、土師器、須恵器、瓦器、瓦、砥石等が出土した。

第4層 古代～中世包含層。耕作土である。オリーブ黒色シルトを主体とするが、酸化が著しい箇所は褐色味を帯びる。層内からは、須恵器、土師器出土した。なお、この層の上面において、溝や落込みを有する中世前期遺構面を検出した。

第5層 古墳時代後期～古代包含層。暗オリーブ灰色シルトを主体とする。炭化粒が僅かに混じる。土壌化が進む部分がある。層内からは、土師器、須恵器が出土した。この層の上面では、ピット、溝を



- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 第1層 暗オリーブ灰色シルト (近世堆積層) | 第14層 黄灰色極細砂混じりシルト (弥生時代後期相当層) |
| 第2層 暗オリーブ灰色シルト (近世堆積層) | 第15層 黄灰色～灰白色細砂～中砂 (弥生時代後期流路) |
| 第3層 オリーブ黒色シルト (中世包含層) | 第16層 灰色シルト (弥生時代後期相当層) |
| 第4層 オリーブ黒色シルト (古代～中世包含層) | 第17層 灰白色シルト (弥生時代後期相当層) |
| 第5層 暗オリーブ灰色シルト (古代～中世包含層) | 第18層 黄灰色シルト 有機物入る (弥生時代中期包含層) |
| 第6層 オリーブ黒色シルト (古代包含層) | 第19層 黒褐色細砂混じりシルト (弥生時代中期初頭包含層) |
| 第7層 暗オリーブ灰色極細砂 (古代包含層) | 第20層 灰白色細砂～粗砂 (弥生時代中期初頭流路) |
| 第8層 暗青灰色極細砂混じりシルト (古代包含層) | 第21層 オリーブ灰色細砂～粗砂 (弥生時代中期初頭流路) |
| 第9層 灰色シルト (古墳時代前期流路) | 第22層 黄灰色シルト (弥生時代前期相当層) |
| 第10層 灰色細砂～粗砂 (古墳時代前期流路) | 第23層 黄灰色～黒褐色シルト (弥生時代前期相当層) |
| 第11層 黄灰色シルト (古墳時代初頭相当層) | 第24層 灰色シルト 有機物多量に狭在 (自然堆積層) |
| 第12層 黄灰色シルトと黒褐色シルトの互層 (弥生時代後期相当層) | 第25層 黄灰色～暗灰黄色シルト (自然堆積層 湿地) |
| 第13層 黄灰色シルト (弥生時代後期相当層) | 第26層 灰色極細砂質シルト (自然堆積層 干潟) |

第19図 10-1-7区 壁断面図

有する遺構面を検出した。

第6層 古代包含層。オリブ黒色シルトを主体とする。弱い土壌化が認められる。層内からは、奈良時代の須恵器の破片がまとまって出土した。この層の上面において、土坑、ピットを有する遺構面を検出した。

第7層 古墳時代～古代相当層。暗オリブ灰色極細砂を主体とする。部分的に灰色シルトブロックを含む。層内から遺物の出土は確認できていない。

第8層 古墳時代～古代相当層。暗青灰色極細砂混じりシルトを主体とする。酸化が著しい箇所は褐色味を帯びる。細～中砂ブロックを含む。層内からの遺物の出土は確認できていない。この層の上面において、土坑を有する遺構面を検出した。

第9層 古墳時代前期流路堆積層。灰色シルトを主体とする。炭化粒を少量含む。層内から遺物の出土は確認できていない。この層の上面において、溝を有する遺構面を検出した。

第10層 弥生時代後期～古墳時代前期流路堆積層。灰色細砂～粗砂を主体とする。斜行葉理を形成する。全体的に上方粗粒化が認められる。層内からは土師器及び弥生土器が出土した。

第11層 弥生時代後期相当層。黄灰色シルトを主体とする。部分的に黒色シルトの流入があり、縞模様を呈する。植物遺体を僅かに含む。層内から遺物の出土は確認できていない。

第12層 弥生時代後期相当層。黄灰色シルトと黒褐色シルトの互層である。植物遺体を含む薄層が狭在する。下位に向かって暗色化する。層内から遺物の出土は確認できていない。

第13層 弥生時代後期相当層。黄灰色シルトを主体とする。部分的に灰白色シルトブロックを含む。層内から遺物の出土は確認できていない。

第14層 弥生時代後期相当層。黄灰色極細砂混じりシルトを主体とする。灰白色極細砂ブロックを含む。層内から遺物の出土は確認できていない。

第15層 弥生時代後期流路。黄灰色～灰白色細砂～中砂を主体とする。上方粗粒化が認められる。層内から遺物の出土は確認できていない。この層の上面では、ピットを有する遺構面を検出した。

第16層 弥生時代後期相当層。灰色シルトを主体とする。灰白色シルトブロックと有機物粒を多く含む。下位には植物遺体を含む薄層が存在する。層内から遺物の出土は確認できていない。この層の上面では、溝を有する遺構面を検出した。

第17層 弥生時代後期相当層。灰白色シルトを主体とする。灰色シルトの流入による葉理が認められる。下位に植物遺体と極細砂の薄層が狭在する。層内から遺物の出土は確認できていない。

第18層 弥生時代後期包含層。黄灰色シルトを主体とする。有機物粒を少量含む。層内からは摩滅した弥生土器の小片が少量出土した。この層の上面では、溝を有する遺構面を検出した。

第19層 弥生時代中期初頭包含層。黒褐色細砂混じりシルトを主体とする。有機物粒を多量に含む。層内からは、弥生土器が出土した。

第20層 弥生時代中期初頭流路堆積か。灰白色細砂～粗砂を主体とする。調査区西半部に堆積する大規模な流路の埋土で、第21層～第26層の一部を削平する。中位には斜め方向、上位には水平方向の葉理を形成する。下位には木片やシルトブロックが入る。また最下部には砂礫の堆積がある。層内から遺物の出土は確認できていない。この層の上面では、溝、土坑を有する遺構面を検出した。

第21層 弥生時代中期初頭流路堆積か。オリブ灰色細砂～粗砂を主体とする。下位には灰色シルトと灰白色シルトの互層が認められる。平行方向の葉理を形成する。遺物の出土は確認できていない。

第22層 弥生時代前期相当層。黄灰色シルトを主体とする。有機物粒を少量含む。上層はほぼ水平であるが、下位は地震による変形が顕著に認められる。層内から遺物の出土は確認できていない。

第23層 弥生時代前期相当層。黄灰色～黒褐色シルトである。変形構造が顕著である。層内から遺物の出土は確認できていない。

第24層 自然堆積層。灰色シルトを主体とする。葦の葉を含む植物遺体が混じる。有機物を多量に含む薄層が狭在する。潮上帯湿地の堆積物か。層内から遺物の出土は確認できていない。

第25層 自然堆積層。黄灰色～暗灰黄色シルトを主体とする。植物遺体や灰色シルトの薄層が狭在する。上層と同じく、潮上帯湿地の堆積物か。層内から遺物の出土は確認できていない。

第26層 自然堆積層。灰色極細砂質シルトを主体とする。生物擾乱が著しい。干潟の堆積物である。層内から遺物の出土は確認できていない。

9. 10-1-8区

10-1-8区は、近現代の水路が調査区中央を横切るため、大きく攪乱を受ける。今回の調査では、地表面以下3mまでの掘削を行った。確認した土層は、計18層である(第20図)。

第1層 近世堆積層。耕作土層である。鈍い黄色粗砂～細礫混じり細砂質極細砂を主体とする。部分的に極細砂がブロック状を呈する。層内からは、染付、土師器、瓦器が出土した。

第2層 近世堆積層。耕作土層である。青灰色粗砂～砂礫混じり細砂を主体とする。部分的に細砂がブロック状を呈する。層内からは、染付、土師器、瓦器、須恵器、瓦質土器、瓦等が出土した。この層の上面では、溝や土坑を有する近世の遺構面を検出した。

第3層 中世包含層。耕作土層である。緑灰色細砂混じりシルトを主体とする。部分的に細砂がブロック状を呈する。層内からは施釉陶器、白磁、瓦器、土師器の細片が出土した。この層の上面において、中世後期の溝を有する遺構面を検出した。

第4層 中世包含層。耕作土層である。暗青灰色中砂～粗砂混じりシルトを主体とする。部分的にシルトがブロック状を呈する。下位はややしまりがよい。層内からは土師器、須恵器、瓦の細片が出土した。

第5層 中世包含層。耕作土層である。オリーブ灰色中砂～粗砂混じりシルトを主体とする。部分的にシルトがブロック状を呈する。酸化鉄の集積が認められる。層内からは土師器、瓦が出土した。

第6層 古代～中世前期包含層。耕作土層である。オリーブ灰色中砂～粗砂質シルトを主体とする。部分的にシルトがブロック状を呈する。酸化鉄の集積が認められる。層内からは、瓦器、土師器・瓦質土器、須恵器、瓦が出土した。

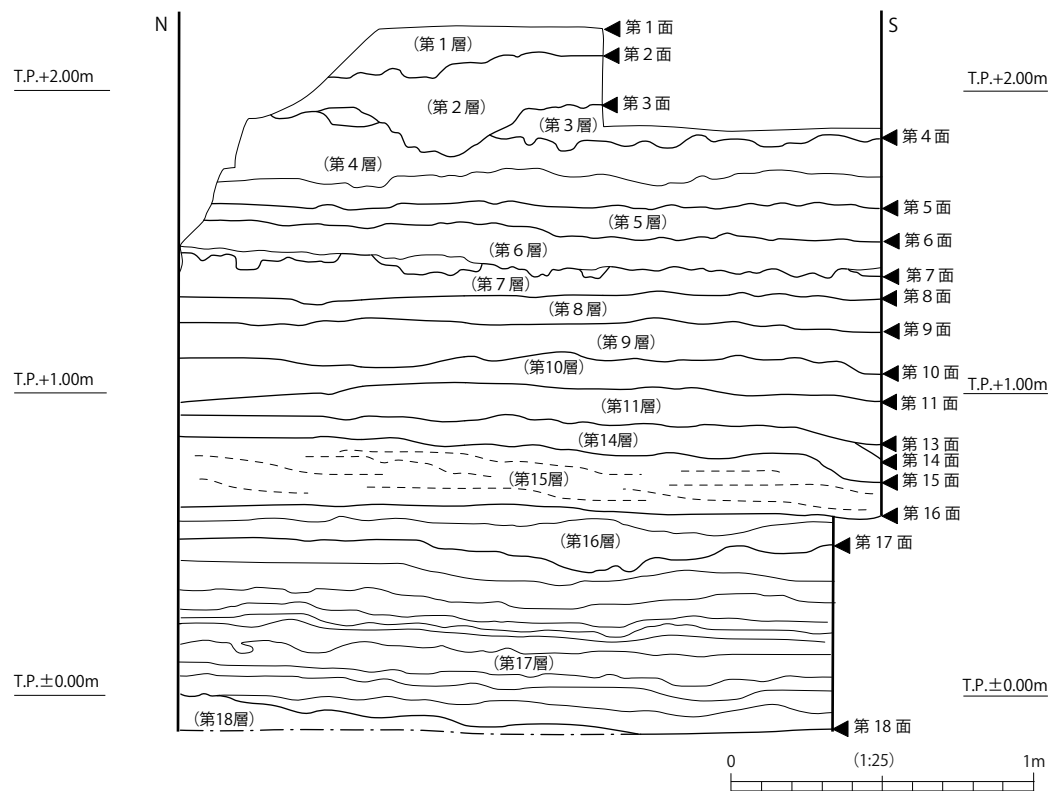
第7層 古代相当層。緑灰色シルトに極細砂が僅かに入る。ほぼ均質である。層内から遺物の出土は確認できなかった。この層の上面では、土坑を有する遺構面を検出した。

第8層 古代相当層。青灰色シルト～粘土を主体とする。やや暗色化する箇所が認められる。上下の層境は明瞭ではない。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第9層 古代相当層。暗青灰色シルト～粘土を主体とする。やや暗色化する箇所が認められる。上下の層境は明瞭ではない。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第10層 古代相当層。青灰色シルト～粘土を主体とする。斑鉄の沈着により、褐色化が顕著な部分がある。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第11層 古代相当層。黄灰色シルト～粘土を主体とする。層内から須恵器甕の破片が出土した。層内



- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 第1層 鈍い黄色粗砂～細礫混じり細砂質極細砂 (近世堆積層) | 第10層 青灰色シルト～粘土 均質 (古代相当層) |
| 第2層 青灰色粗砂～砂礫混じり細砂 (近世堆積層) | 第11層 黄灰色シルト～粘土 均質 (古代相当層) |
| 第3層 緑灰色細砂混じりシルト (中世包含層) | 第12層 灰色細砂～中砂混じりシルト (古代相当層 東壁では消滅) |
| 第4層 暗青灰色中砂～粗砂混じりシルト (中世包含層) | 第13層 緑灰色中砂～細砂混じりシルト (古代相当層) |
| 第5層 オリーブ灰色中砂～粗砂混じりシルト (中世包含層) | 第14層 灰色中砂～極細砂混じりシルト (古墳時代相当層) |
| 第6層 オリーブ灰色中砂～粗砂質シルト (古代～中世前期包含層) | 第15層 灰色粗砂～細砂 (古墳時代流路) |
| 第7層 緑灰色シルト 極細砂入る (古代包含層) | 第16層 灰色シルト 有機物粒入る (弥生時代後期相当層) |
| 第8層 青灰色シルト～粘土 やや暗色化 (古代包含層) | 第17層 緑灰色シルトと黄灰色シルトの互層 (弥生時代後期相当層) |
| 第9層 暗青灰色シルト～粘土 暗色化 (古代包含層) | 第18層 オリーブ灰色極細砂～シルト (弥生時代中期相当層?) |

第20図 10-1-8区 壁断面図

からは須恵器、土師器が出土した。

第12層 古代相当層。調査区西半部にのみ堆積し、東壁では消滅する。灰色細砂～中砂混じりシルトを主体とする。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第13層 古代包含層。緑灰色中砂～細砂混じりシルトを主体とする。有機物を多く含む薄層が狭在する。層内からは、須恵器、土師器が出土した。

第14層 古墳時代前期相当層。灰色中砂～極細砂混じりシルトを主体とする。部分的に極細砂シルトがブロック状を呈する。弱い土壌化が認められる。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第15層 古墳時代流路堆積層。灰色粗砂～細砂を主体とする。水平方向の葉理を形成する。

第16層 弥生時代後期相当層。灰色シルトを主体とする。上位はやや緑色味を帯びる。有機物粒を多量に含むため、暗色化が認められる。部分的に青灰色シルトブロックを含む。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第17層 弥生時代後期相当層。緑灰色シルトと黄灰色シルトの互層である。有機物粒を多量に含む薄層が複数狭在する。層内から遺物の出土は確認できなかった。

第18層 弥生時代中期相当層か。オリーブ灰色極細砂～シルトを主体とする。下位には葉理を刻む中砂～粗砂層が存在する。層内から遺物の出土は確認できなかった。

10. 花屋敷遺跡の基本層序 10-1-9区

花屋敷遺跡に含まれる10-1-9区の調査では、現地盤以下3mまでを掘削した。その結果、計7層を確認した。第21図には、地形の変化を把握するため、既往の調査成果である06-2-2区、06-2-1区の層序模式図を併記した。また、10-1-9区において作成した壁断面図を第22図に示した。以下、既往の調査成果との対応関係を含めて記述する。

第1層 近現代整地土。灰色～灰オリーブ色細砂～粗砂を主体とする。多くの瓦礫を含む。駅造成前には調査区北半部を東西に通る水路があり、これを埋め立てた整地土が壁断面に残る。今回の調査では機械掘削にて除去した。この層の上面では、水路の前身となる溝を検出した。

第2層 近世整地土。灰色シルト～粗砂を主体とする。層内からは、染付を含む陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦器、須恵器、瓦、円筒埴輪が出土した。10-1-9区の地表面は開発整地のため周辺に比べて高いが、近世段階の地盤高は既往の調査区06-2-2区と大差がない。

第3層 中世末～近世初頭耕作土。オリーブ黒色粗砂混じりシルトに灰オリーブ色粘土ブロックが少量入る。中世包含層を広く覆うシルト層で、島島の起伏によって層厚に差異が認められる。上位には灰オリーブ色細砂の流入が認められる。層内からは、陶磁器、土師器、須恵器、瓦質土器等が出土した。土器の下限年代は16世紀である。この層の上面では、溝及び杭列を有する遺構面を検出した。

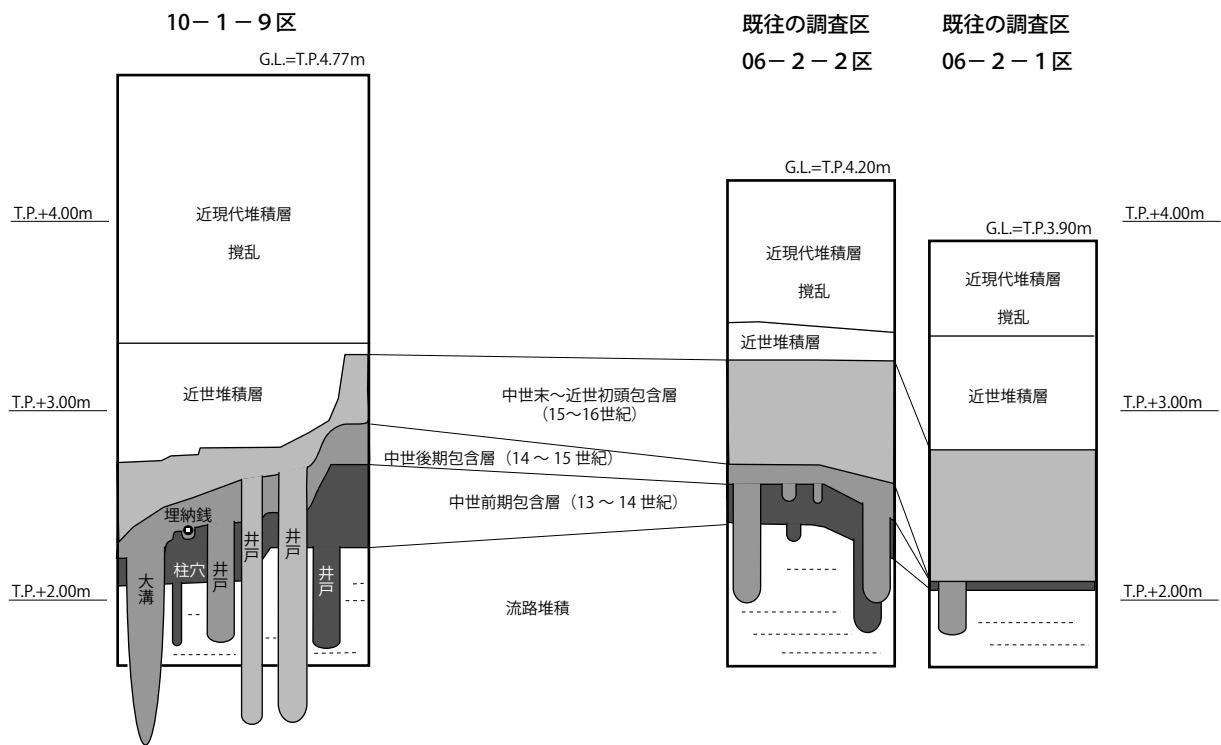
第4層 中世後期包含層。灰オリーブ色粗砂混じりシルトに灰オリーブ色粘土ブロックが少量入る。瓦器や陶磁器類を中心とした土器類や拳大の角礫を少量含む。遺構面が西に向かって下がるため、調査区西半部に厚く堆積する。層内からは、陶磁器、瓦質土器、瓦器、土師器、瓦が出土した。この層の上面は、井戸や溝、島島を有する中世末～近世初頭の遺構面である。

第5層 中世後期包含層。灰色粗砂混じりシルトに灰色粘土ブロックが少量入る。締まりは悪い。層内には、須恵器、瓦器、瓦質土器、土師器等、14～15世紀の遺物を多く含む。この層の上面では、溝やピット、炭だまり等を有する中世後期遺構面を検出した。10-1-9区の東半部に地形の変化点があり、これより西は層厚が薄くなる。

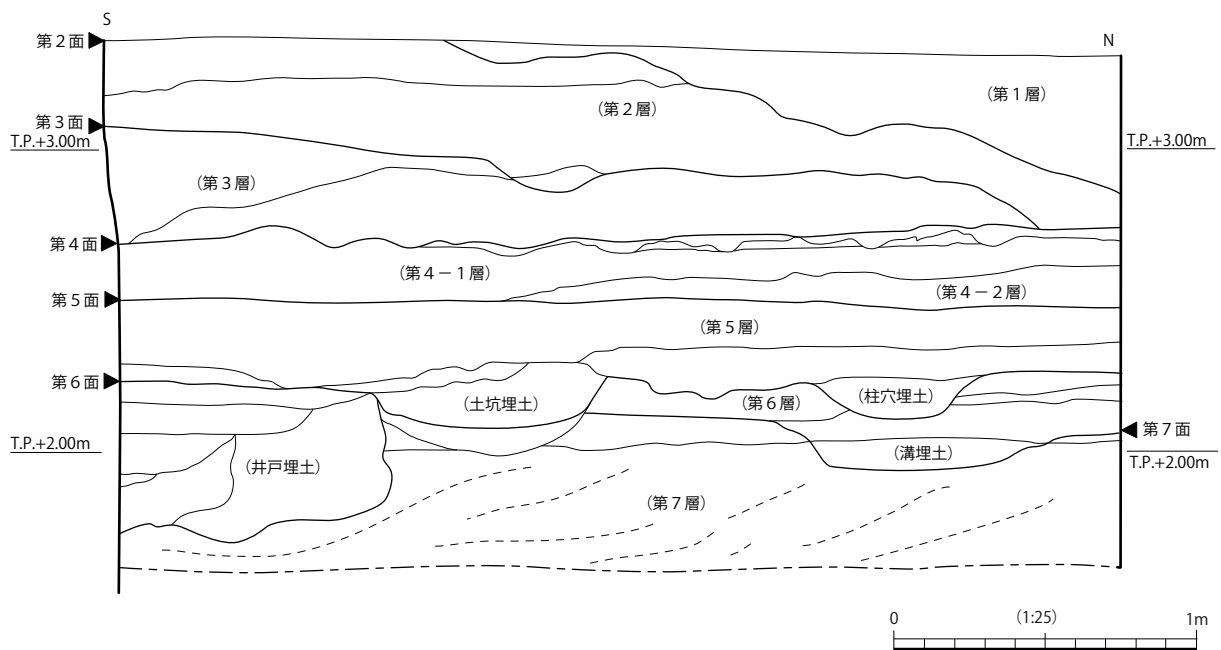
第6層 中世包含層。灰オリーブ色粗砂混じりシルトを主体とする。上位はやや暗色化が認められる。下位には灰オリーブ色シルト質粗砂の堆積がある。層内には、須恵器、瓦器、土師器、砥石等、13～14世紀の遺物を多数含む。この層の上面において、大溝や土坑、井戸、ピット、銭貨埋納遺構等を有する遺構面を検出した。

第7層 古代～中世流路。灰オリーブ色粗砂～細砂を主体とする。斜め方向～横方向の葉理を形成する。層内からは土師器、瓦器が少量出土した。この層の上面では、ピットや井戸を有する遺構面を検出した。今回の調査では、T.P.1.7mまで掘削を行なったが、流路の底面には至っていない。既往の調査成果では、無遺物層として報告されている。

中世遺構面は、既往の調査においても複数枚を検出しているが、その中心地は10-1-9区から06-2-2区までの微高地上にあったようである。古代以前の流路が形成した自然堤防上に集落が築かれたと推測される。その範囲は、10-1-9区から既往の調査区である06-2-3区、06-1区が位置する北側へ広がっていたと考えられる。



第 21 図 基本層序模式図（花屋敷遺跡）



- 第 1 層 灰色～灰オリーブ色細砂～粗砂（近現代整地土）
- 第 2 層 灰色シルト～粗砂（近世整地土）
- 第 3 層 オリーブ黒色粗砂混じりシルトに灰オリーブ色粘土ブロック入る（近世堆積層）
- 第 4 層 灰オリーブ色粗砂混じりシルトに灰オリーブ色粘土ブロック入る（近世堆積層）
- 第 5 層 灰色粗砂混じりシルトに灰色粘土ブロック入る（中世包含層）
- 第 6 層 灰オリーブ色粗砂混じりシルト（中世包含層）
- 第 7 層 灰オリーブ色粗砂～細砂（古代～中世流路）

第 22 図 10-1-9 区 壁断面図

第2節 瓜生堂遺跡の遺構と遺物

1. 10-1-1区

10-1-1区は、今回の調査のうち、もっとも西側に設定した調査区である。中央環状線高架橋設置工事の影響により、上位の中近世遺構面は大きく攪乱を受けている。しかし、それ以下の遺構面は良好に残存しており、弥生時代前期集落や中期墓域を含む計20枚の遺構面を検出した。

第1遺構面（第23図） 第1遺構面・第2遺構面は近現代攪乱層を除去して検出した遺構面である。この面では、中世から近世までの遺構を検出した。ここでは出土遺物及び土質の違いから、中世末から近世の遺構を第1遺構面に帰属する遺構とし（第23図）、中世後期の遺構を第2遺構面として示す（第24図）。第1遺構面では、調査区東半部において、溝、井戸、土坑を検出した。

1001溝 調査区南東部において検出した溝である。南から調査区内に入り、屈曲して東へと続く。検出長11.0m、最大幅2.0m、最大深度は0.47mを測る。明確な掘り方を持ち、断面形状は椀形～逆台形を呈する。底面は東へ向かいごく緩やかに傾斜する。埋土はオリーブ黒色極細砂混じりシルトを主体とし、軟質で締まりが悪い。この溝より東側では近世遺物が集中して出土することから、1001溝は居住地の西端を限る溝であったと考えられる。遺構内からは、備前焼甕、染付碗、瓦、白磁紅皿、瓦質土器鉢、砥石等が出土した（図版38-1）。また、栽培種であるモモの種も出土した（第4章第2節 大型植物遺体分析 参照）。

図版38-1-1・38-1-2は、染付碗である。高台端部に離れ砂、見込み部には蛇の目釉剥を残す。17世紀の製品である。図版38-1-3は、平瓦の一部であるが、両表面に刃物痕が線状に残る。砥石の代用品の可能性がある。図版38-1-4は、大型の砥石である。一部のみの残存であるが、研磨面の痕跡が3面に残る。

1002井戸 調査区北東部に位置する遺構である。攪乱による損失が大きい、上端直径は3m程度に復元できる。最大深度は0.6m、埋土はオリーブ黒色礫混じりシルトを主体とする。遺構内からは染付碗と須恵器甕片が出土した。

1008土坑 調査区東半部南辺で検出した遺構である。一辺0.9～1.0mの隅丸方形を呈する。最大深度は、0.15m、断面形状は、皿形である。埋土はオリーブ黒色細砂混じりシルトを主体とする。遺構内からは、瓦、染付、瓦質土器鉢、瓦器椀等の遺物が比較的まとまって出土した。

1010溝・1011溝・1012溝・1023溝・1030溝 調査区中央付近において検出した南北方向にのびる溝群である。最大幅0.3m未満、最大深度は0.1m程度を測る。断面形状はごく浅い皿形を呈する。方向をそろえることから耕作痕跡と考えられる。1001溝より以西が耕作地として利用されたことが窺える。遺構内からは、瓦器椀、土師器皿、陶器急須、備前焼播鉢、染付椀の小片等が出土した。

第2遺構面（第24図） 中世後期の遺構群を配した遺構面である。比較的残存状態が良好な調査区東半部では、井戸やピットを多く検出した。西半部では、溝を検出した。遺構面の存続時期は、概ね14世紀～15世紀であるが、一部13世紀に遡る遺構を含む。

1005溝 調査区東半部南辺において検出した溝状遺構である。南北方向に主軸をもつ。検出長は1.0m、最大幅は0.5m、最大深度は0.1mを測る。断面形状は薄い皿形、埋土は灰色粗砂混じりシルトを

主体とする。遺構の性格は不明である。遺構内からは、土師器皿の細片と木製曲物の底板が出土した(図版 94-2)。用材はスギである。

1017 井戸 調査区東半部の南辺において検出した遺構で、調査区外へ連続する。検出できたのは一辺 1.9 m 程度である。平面形状は隅丸方形、断面形状は最大深度 0.7 m を測る方形を呈する。埋土は、灰色極細砂混じりシルトを主体とする上層と、灰色極細砂混じりシルトに暗オリーブ極細砂ブロックを多く含む下層とに大別できる。下層の状況から、一時的に埋め戻された状況が推測される。後世に 1001 溝を掘削する際に埋め立てられたものか。形状や埋土から、土坑ではなく井戸であると判断した。遺構内からは、遺物の出土は認められなかった。

1020 井戸 調査区中央南辺において検出した遺構である。平面形状はややいびつな方形、遺構の一部は調査区外へと続く。検出した規模は一辺 1.8 ~ 2.0 m 程度である。断面形状は、深い椀形で、最大深度 1.2 m を測る。ほぼ中央に木製曲物を転用した井戸枠を設置する。埋土は、井戸枠内が暗オリーブ灰色極細砂混じりシルト、掘り方埋土は、ブロック土を多く含む灰色シルトを主体とする。ともに軟質で、水分を多く含む。掘り方埋土からは、土師器皿、瓦器椀、円筒埴輪片が出土した(図版 38-2)。

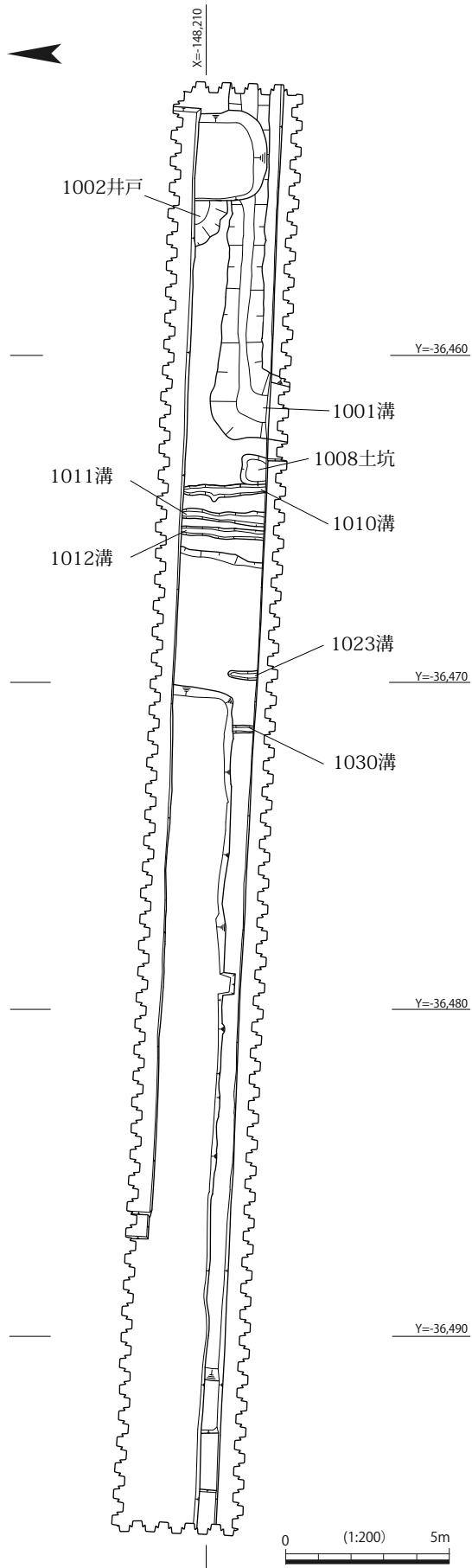
図版 38-2 は、土師器皿である。直径 9 cm 前後を測る量産品で、口縁端部に一段のナデを施す。完形で残存するものが多い。中世の製品である。

1024 井戸 1020 井戸の東側で検出した遺構である。南半部は調査区外へと続くが、平面形状は一辺 1.3 m 程度の隅丸方形を呈すると考えられる。断面形状は方形、最大深度は 1.3 m を測る。埋土は暗青灰色極細砂混じりシルトを主体とし、上位にシルトブロックを多く含む。最下層には、植物遺体及び炭化粒が混じる。遺構内からは、土師器羽釜の破片が出土した。

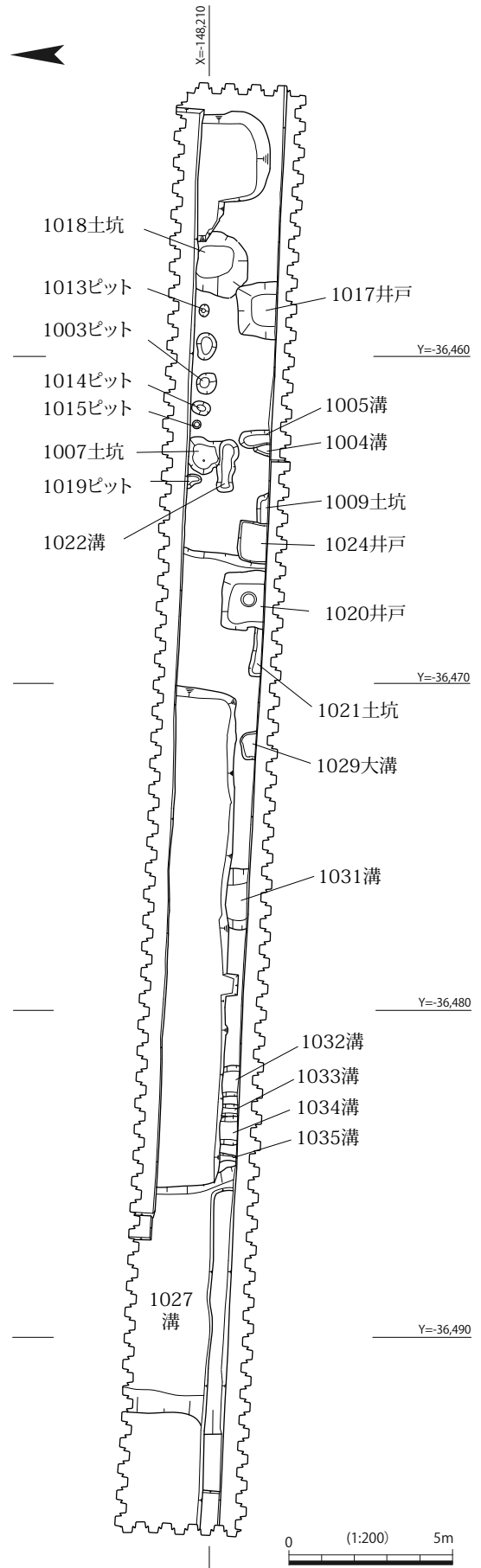
1027 溝 調査区西半部において検出した大型遺構である。調査区を横断して南北双方へと続く。検出最大幅は 8.0 m、最大深度は 1.8 m を測る。断面形状は、U 字型を呈する。埋土は、オリーブ黒色極細砂混じりシルトを主体とするが、比較的ブロック土を多く含む上層と、炭化物、土器、植物遺体を多く含む下層に大分できる。上下層ともに軟質で、激しい流水痕跡は認められない。遺構の規模に対して検出面積が少なく底面の角度は見極めがたいが、地勢からは南から北へ向かい緩やかに傾斜すると考えられる。しかしそれもごく僅かであり、常に滞水しがちな状況にあったと推測される。

断面観察からは、下層埋没段階において最低 2 度の再掘削が行われたことが確認できる。遺構の最終埋没時期は 16 世紀初頭で、近世初頭段階においても窪地として痕跡をとどめていたようである。遺構内からは、瓦器椀、瓦器皿、土師器皿、土師器羽釜、須恵器甕、瓦質土器三足釜、青磁碗、円筒埴輪、瓦、漆器椀、差歯下駄、木製部材等が出土した(図版 38-3・39・94-4・95-1)。また、遺構内下層より、栽培種であるモモの種子 2 点が出土した(第 4 章第 2 節参照)。

図版 38-3-1 は青磁碗である。外面に連弁文を有する。図版 38-3-2 は瓦器椀底部である。内面に格子状の暗文を施す。図版 38-3-4 は、砥石である。表面に刃物傷が数条残る。図版 38-3-3・図版 39-1-1 ~ 10 は土師器皿である。直径 9 cm 前後の口径を持ち、直線的に立ち上がる器壁と底面を上げ底状に盛り上げる形状をもつものが多い。また、総じてひずみが大きく、口縁部が波打つものが多数である。図版 39-1-4 のように、口縁部に煤が付着するものもある。図版 39-1-11 は和泉型の瓦器椀である。図版 39-1-12 は瓦質土器の鉢で、内面に播目をもつ。図版 94-4 は台と歯を別に作る差歯下駄である。台は先端部が折損し、歯は踵側の一枚が脱落する。爪先側の歯の先端部は使用による摩滅が認められる。台には歯の差込孔のほか、鼻緒孔があり鼻緒を固定する楔(栓)が残存する。台の用材はツゲ、



第23図 10-1-1区 第1遺構面全体図



第24図 10-1-1区 第2遺構面全体図

歯はキリである。

第3遺構面（第25図） 第3遺構面は、中世後期包含層（第2層）を除去した段階において検出した遺構面である。遺構は希薄であるが、土坑およびピットが数個認められる。

1028 土坑 調査区中央部において検出した遺構である。平面形状は、一辺 0.9 m を測る方形と推測される。最大深度は 0.2 m、断面形状は方形を呈する。底面にやや凹凸がある。埋土は有機物を含む灰色シルトを主体とする。遺物の出土はなかった。

1036 土坑 調査区中央南辺において検出した遺構である。調査区外へと続いており、部分的な検出にとどまる。断面形状はレンズ形、埋土は暗オリーブ灰色極細砂を主体とする。遺物の出土はなかった。

1037 土坑 同じく調査区中央南辺において検出した遺構である。断面形状は楕形、埋土は暗オリーブ灰色極細砂を主体とし、直径 1.0cm 未満の小礫が少量混じる。遺物の出土はなかった。

第4遺構面（第26図） 第3層を除去して検出した遺構面である。第3層・第4層ともに遺物の出土が確認できていないため遺構面の時期は明確ではないが、下位の第5層中に中世遺物の出土が認められることから、第4遺構面は中世後半のいずれかの段階で形成された遺構面と想定される。第4遺構面では、ピットと溝を検出した。

1050 溝 調査区西半部において検出した遺構である。南南西から北北東へわずかに湾曲しながらのび、やがて浅く消滅する。検出長は 4.0 m、最大幅は 0.9 m を測る。断面形状は浅い楕形を呈するが底面には随所に凹凸が認められる。最大深度は 0.2 m である。埋土はオリーブ黒色シルトで、僅かに炭化物を含む。遺構内からの遺物の出土はなかった。

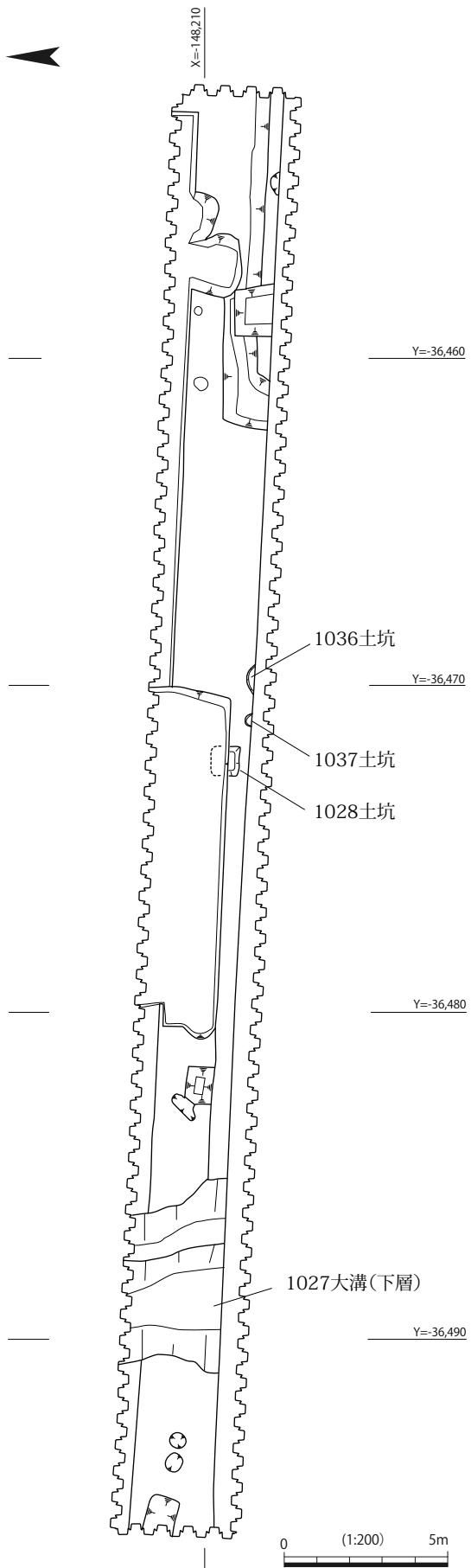
1051 ピット 調査区東半部中央において検出した遺構である。平面形状は一辺 0.3 m を測る方形を呈する。断面形状はU字形で、最大深度 0.3 m を測る。埋土はオリーブ黒色シルトを主体とし、同色粘土ブロックを含む。底面付近には柱材の一部が残存する。遺構内からは、平瓦片が1点出土した。

1052 ピット 1051 ピットの西側に位置する遺構である。平面形状は直径 0.2 m を測る円形、断面形状はU字形で最大深度は 0.12 m である。埋土は灰色シルト～極細砂で、しまりが悪く、植物遺体を少量含む。1051 ピットと近接するが、連続して建物を構成する遺構であるかどうかは不明である。遺構内からは、遺物の出土はなかった。

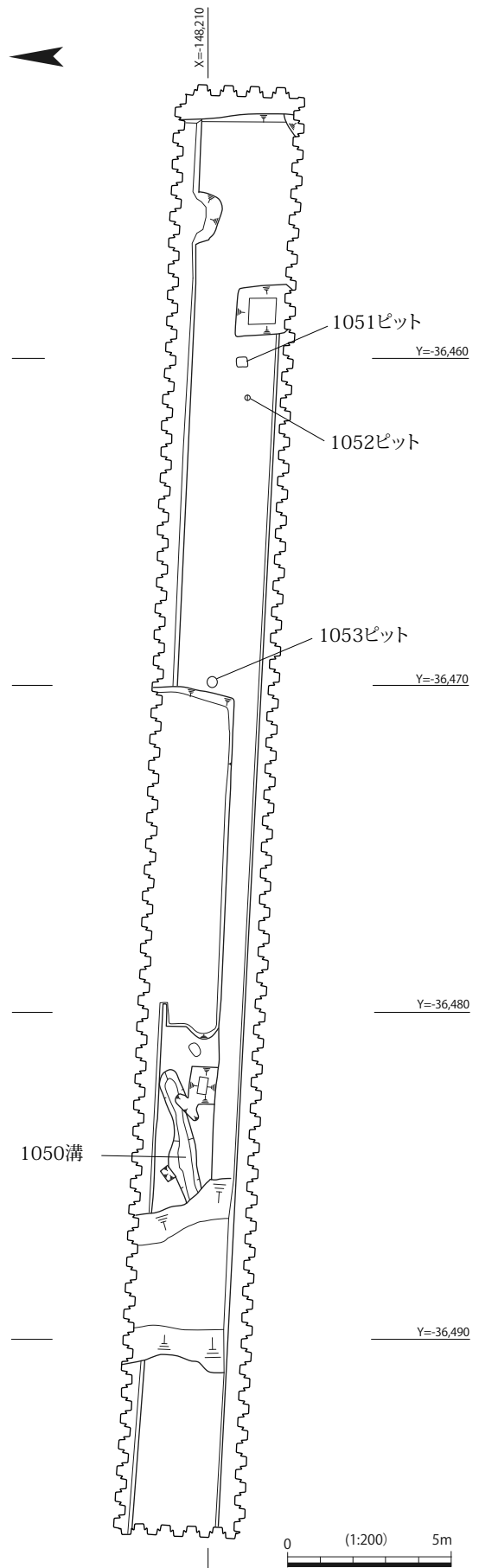
1053 ピット 調査区中央部において検出した遺構である。平面形状は直径 0.3 m を測る円形、断面形状は方形で、最大深度は 0.16 m を測る。埋土はオリーブ黒色シルトで、1051 ピットに近似する。遺構内から遺物の出土はなかった。

第5遺構面（第27図） 第4層を除去して検出した遺構面である。中世に相当すると推測される。遺構面は東へ向かい緩やかに下がるため、西半部が微高地となる。遺構はこの微高地上に集中する。第5遺構面では、溝とピットを検出した。

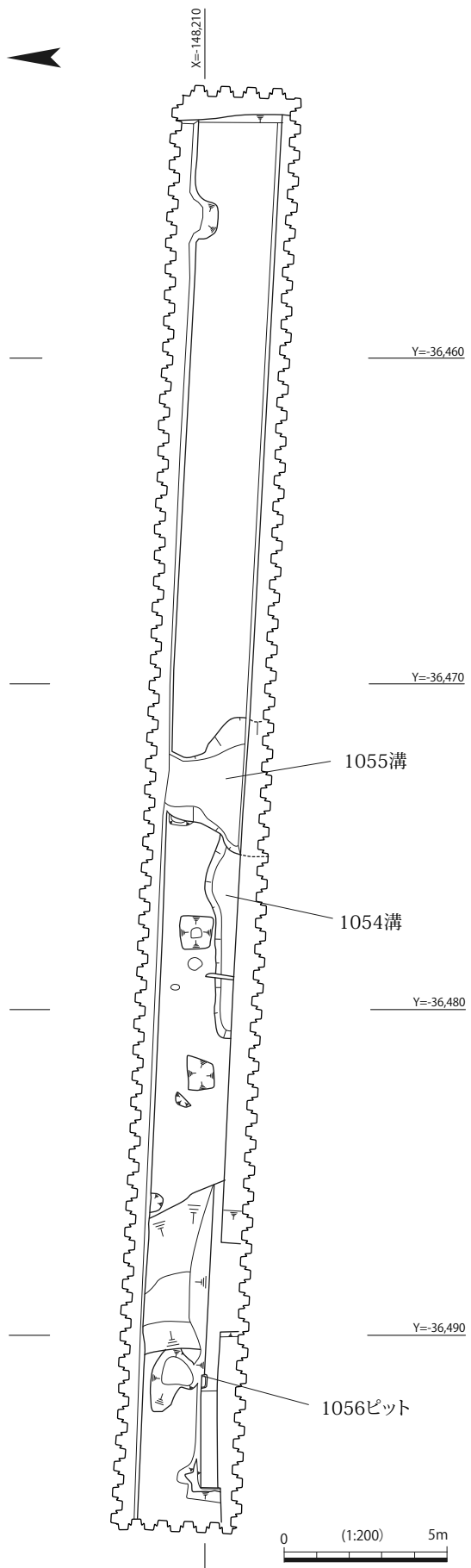
1054 溝 調査区中央部南辺を東西方向にのびる溝である。検出長は 6.0 m、最大検出幅は 1.1 m を測る。断面形状は浅い逆凸形で、溝の中心が一段深い。最大深度は 0.08 m を測る。埋土は灰色極細砂混じりシルトに有機物を含むラミナが認められる。底面傾斜は緩やかであるが、西から東へ徐々に下がり、1055 溝と合流するようである。遺構内から遺物の出土はなかった。



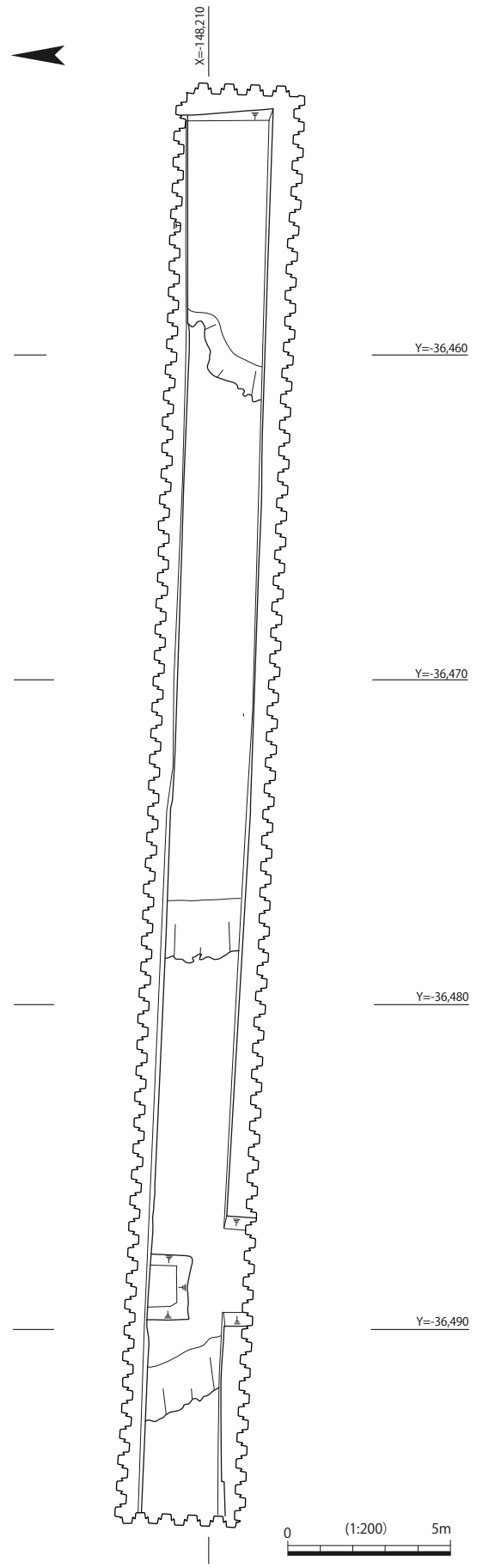
第25図 10-1-1区 第3遺構面全体図



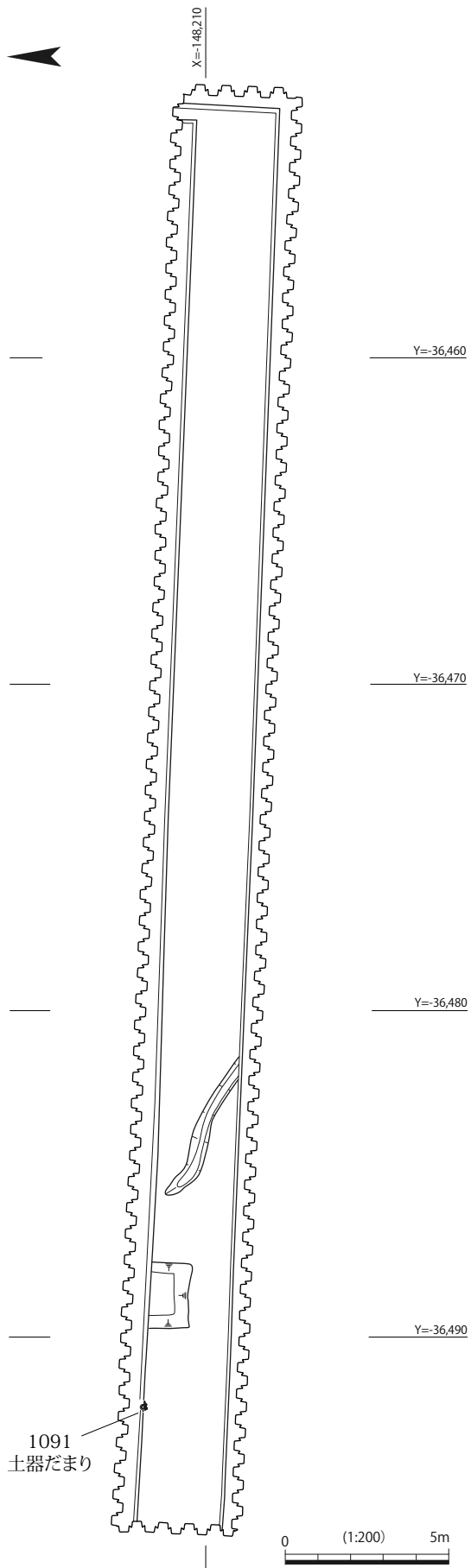
第26図 10-1-1区 第4遺構面全体図



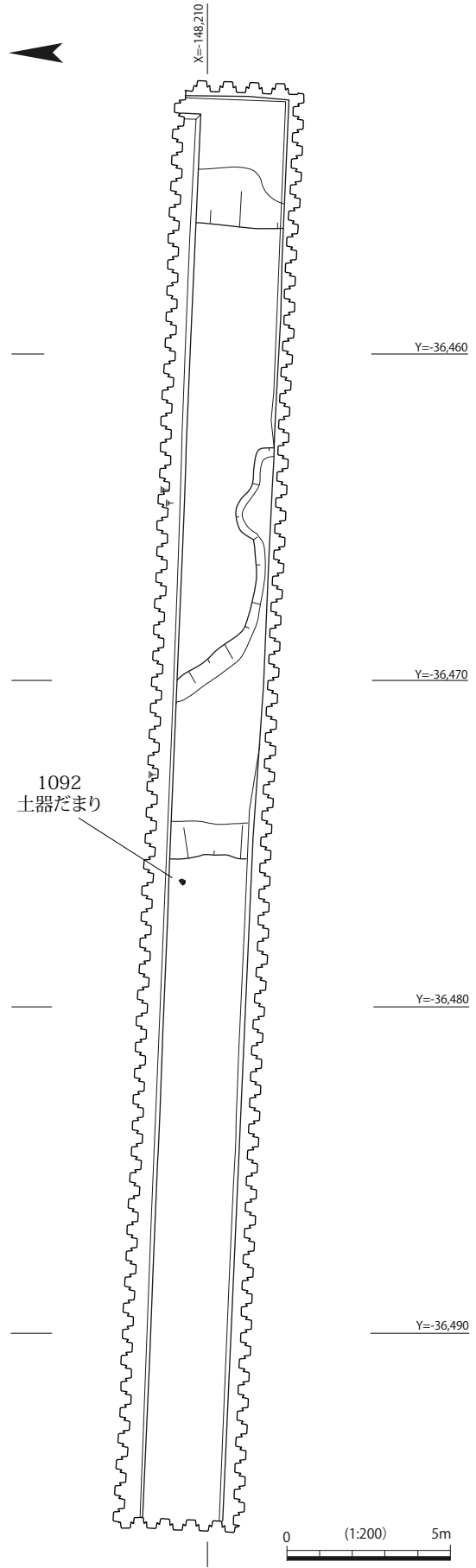
第27図 10-1-1区 第5遺構面全体図



第28図 10-1-1区 第6遺構面全体図



第29図 10-1-1区 第8遺構面全体図



第30図 10-1-1区 第9遺構面全体図

1055 溝 調査区中央を南北方向に横断する遺構である。検出長は 3.0 m、最大幅は 4.0 mを測る。断面形状は浅いレンズ形を呈するが、底面には凹凸が多い。埋土はオリーブ灰色シルトを主体とし、有機物を多く含む。遺構内から遺物の出土はなかった。

1056 ピット 調査区西半部において検出したピットである。攪乱のため残存範囲は狭いが、明確な掘り方を認めることができる。平面形状は一辺 0.4 mを測る隅丸方形、断面形状は U 字形を呈する。最大深度は 0.25 mを測る。埋土はオリーブ黒色シルトを主体とする。埋土から遺物の出土はなかった。

第 6 遺構面 (第 28 図) 第 5 層を除去して検出した面である。明確な遺構は検出できなかった。

第 6 遺構面の基盤層となる第 6 層は、古墳時代後期から中世初頭にかけて堆積した流路堆積で、大きく南東から北西方向への流れを認めることができる。第 6 層からは弥生土器小片のほか木製品が数点出土した(図版 94-6・95-2・96-1)。

図版 94-6 は、漆器椀である。器壁の立ち上がりは浅く、底部外面には低い高台が付く。内外面ともに黒漆を塗布し、内面見込み部には朱漆で花(撫子)^{なでしこ}の文様を精緻な筆遣いで描く。用材はケヤキである。図版 95-2-1 は、杭状に粗く削り出された部材である。用材はスギである。図版 95-2-2 は、板状部材で、表面にはつり痕、側面にも加工痕が認められる。用材はスギである。図版 96-1 は板状品であるが、摩滅を受けるため加工痕跡は明確ではない。用材はスギである。

第 7 遺構面 第 7 遺構面は、第 6 層を除去して検出した遺構面である。上位面の傾斜とは逆転し、東から西に向かって下がる。遺構面の形成時期は、弥生時代後期から古墳時代前期までと考えられる。顕著な遺構は確認できなかった。

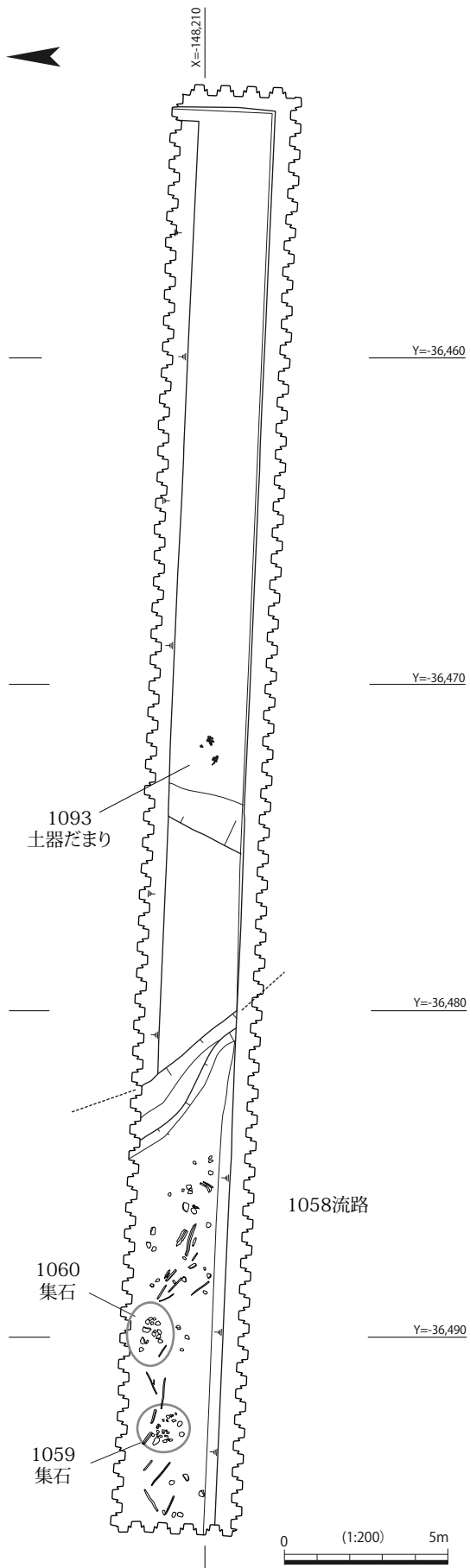
第 8 遺構面 (第 29 図) 第 8 遺構面は、第 7 層を除去して検出した遺構面である。第 6 層流路が深く削り込む痕跡のほか、明確な遺構は確認できていない。西半部北辺では、基盤層である第 8 層中に存在する土器だまりの一部を確認した。遺物の年代より、遺構面の形成時期は弥生時代後期と推測される。

1091 土器だまり 弥生土器壺と甕がまとまって出土した(図版 2-7・40-1)。

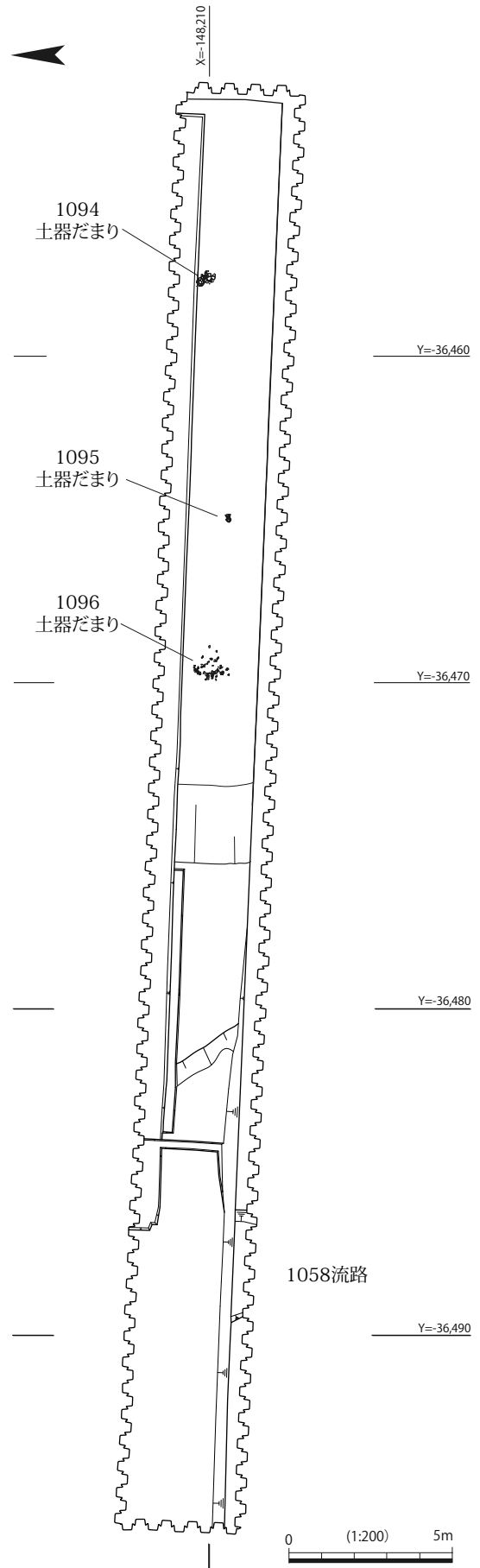
図版 40-1 は、長頸壺の頸部及び口縁部である。頸部は縦方向の細かいハケ目の後、横方向に 2 mm 程度の太い沈線を廻らせ、その上から貝殻の押圧による装飾を計 7 箇所^{箇所}に施す。口縁部はミガキ、口縁端部は強いナデによって端面を作る。内面は横方向のナデ調整を施す。頸部と体部の接着付近内面には、粘土の絞り目が明瞭に残る。弥生時代後期前半の製品である。

第 9 遺構面 (第 30 図) 第 9 遺構面は、第 8 層を除去して検出した遺構面である。中央部には下位遺構面(第 12 遺構面)の影響により、緩やかに落込む。また、調査区東端にも東へ下がる落込みが存在する。中央落込みの西側では、基盤層である第 9 層中に存在する土器だまりの露出を確認した。出土遺物の年代から、弥生時代後期の遺構面と認識される。

1092 土器だまり 弥生土器甕と長頸壺の破片がまとまって出土した(図版 2-8・40-2)。図版 40-2 は、弥生土器甕である。全面にタタキを施した体部と屈曲して開く口縁を有する。底部は小さく、台状に突出させている。器壁は被熱のため、煤の付着と表面剥離が著しい。弥生時代後期の製品である。



第31図 10-1-1区 第10遺構面全体図



第32図 10-1-1区 第11-1遺構面全体図

第10遺構面（第31図） 第10遺構面は、第9層を除去して検出した遺構面である。調査区中央部には、下層遺構である周溝墓の影響による高まりが認められる。その西側では、南東方向から北西方向へと続く大規模な流路を検出した。また、調査区東半部では、土器だまりを確認した。

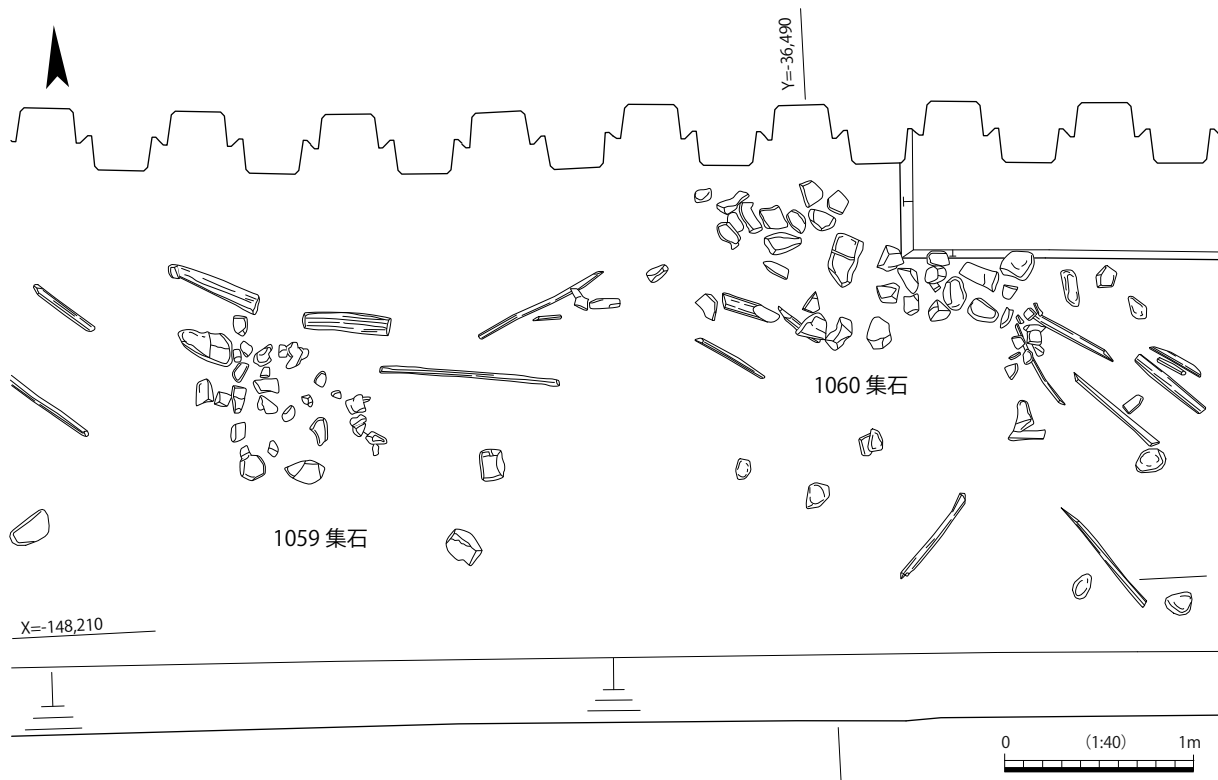
1093 土器だまり 調査区中央付近において検出した土器の集積である。多くの破片が第10層内にあり、遺構面上にはその一部が露出している。直径1 m程度の範囲内に、弥生土器甕・壺の破片の破片がまとまるが、完形への復元は難しい。弥生土器甕は体部のみの出土で、全体にタタキを施す。残存状態は悪く、器壁表面は剥離が著しい。壺は底部のみの出土である。

1058 流路 調査区西半部に広がる流路である。今回検出したのは、東岸より幅15 m程度の範囲であるが、既往の調査成果によると、流路の東西幅は80 m以上に及ぶと復元される。

今回の調査では、流路の東岸ラインが前代に築かれた方形周溝墓の一辺に重なる。水流は墳丘の西側面の一部を削り取るものの、大きく越流はしていない。このため第10遺構面は、流路によって深く削られた西半部と、静かな堆積環境にある東半部とでは、中央の高まりを境として大きく様相を違える。

1058流路の最大深度は1.2 mに及ぶ。埋土は礫混じり粗砂～細砂を主体とする上層と、黄灰色細砂～中砂を主体とする下層に大別できる。下層に比べて上層は、激しい流水痕跡を残している。上層の掘削を進めたところ、下層との境界付近で、拳大～人頭大の自然石の集積を確認した。また、下層を掘り進めたところ、自然石がまとまって出土する地点を確認した（1059集石・1060集石）。

これらの集石及び上層より出土した石の種類については、京都大学大学院理学研究科助教の松岡廣繁氏に鑑定を依頼し、御教示を得ることができた。その結果、1058流路上層より出土した石と1059集石、1060集石を構成する石とでは種類の異なることが明確となった（表3 集石遺構石種一覧参照）。流路の底面付近において検出された1060集石は、砂岩とチャートで構成されており、主体は砂岩であ



第33図 10-1-1区 第10遺構面集石遺構出土状況図

表3 10-1-1区 1058流路・集石遺構石種一覧

	1058 流路 上層	1058 流路 下層	1059 集石	1060 集石
アプライト	1	0	0	0
石英斑岩	2	0	0	0
角閃石斑レイ岩	1	0	0	0
花崗斑岩	7	0	0	0
花崗岩	7	0	0	0
花崗閃緑岩	1	0	2	0
凝灰岩	0	0	1	0
溶結凝灰岩	2	0	0	1
砂質片麻岩	1	0	0	1
泥質片岩? ホルンフェルス?	0	1	0	0
砂岩	25	1	5	25
チャート	10	0	28	7

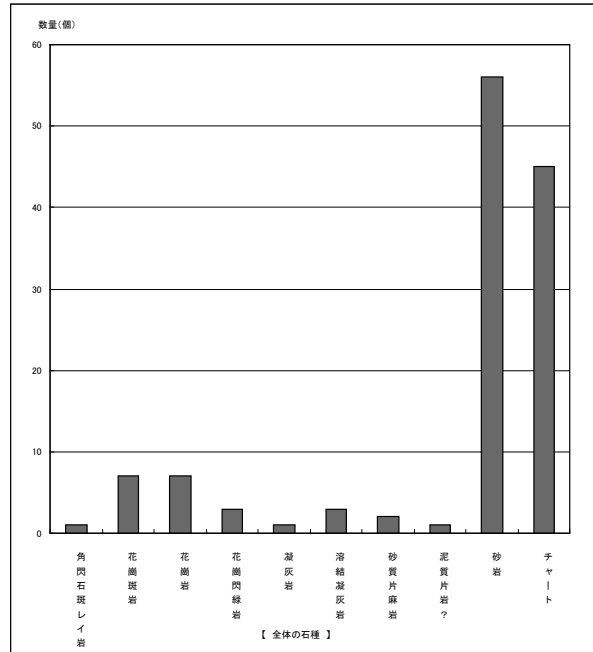


写真 25 集石遺構石種 (砂岩)



写真 26 集石遺構石種 (チャート)



写真 27 集石遺構石種 (花崗岩)



写真 28 集石遺構石種 (花崗班岩)

る。これよりやや上位で検出された 1059 集石は、砂岩よりチャートが優勢となり、これに花崗閃緑岩と凝灰岩が数点加わる。さらにその上位で確認された 1058 流路上層内の石は、砂岩及びチャートのほか花崗岩や花崗斑岩を一定量含み、石英斑岩、角閃石斑レイ岩、溶結凝灰岩など、多種類の石を含む。

流路内の層序堆積は複雑に交錯するため、一概に石種の違いを時期差に求めることはできないが、少なくとも集石遺構を構成する石が、種によって選別されていた可能性は高い。調査区北側に位置する瓜生堂遺跡第 47 - 1 次調査（東大阪市教育委員会 2002）では、集石遺構が石の大きさや色によって区別されたこと、またこの集石が祭祀を目的として行われたこと、供伴する土器の年代によって時期的変遷が見られること等が考察されている。今回の調査では、明確な時期差や祭祀の存在に言及することはできないが、集石遺構の石種が何らかの目的によって選別されたことは事実である。なお、これらの石は、既往の調査成果によって和泉地方や紀ノ川流域より搬入された可能性が指摘されているが、今回出土した石種も、この指摘を追認できるとのことである。

1058 流路からは、石のほか弥生土器や木製品も一定量出土した（第 34 図・第 35 図・図版 44-3・図版 45-1・45-2）。土器の年代は、弥生時代後期前半に集中する。木製品には、破損した製品のほか未成品や枝葉を除去した自然木、樹皮を剥いだ枝、切断痕跡がある幹、破損品の一部、削りかけ等、木材と考えられるものや製品加工時の残材が多く含まれている。

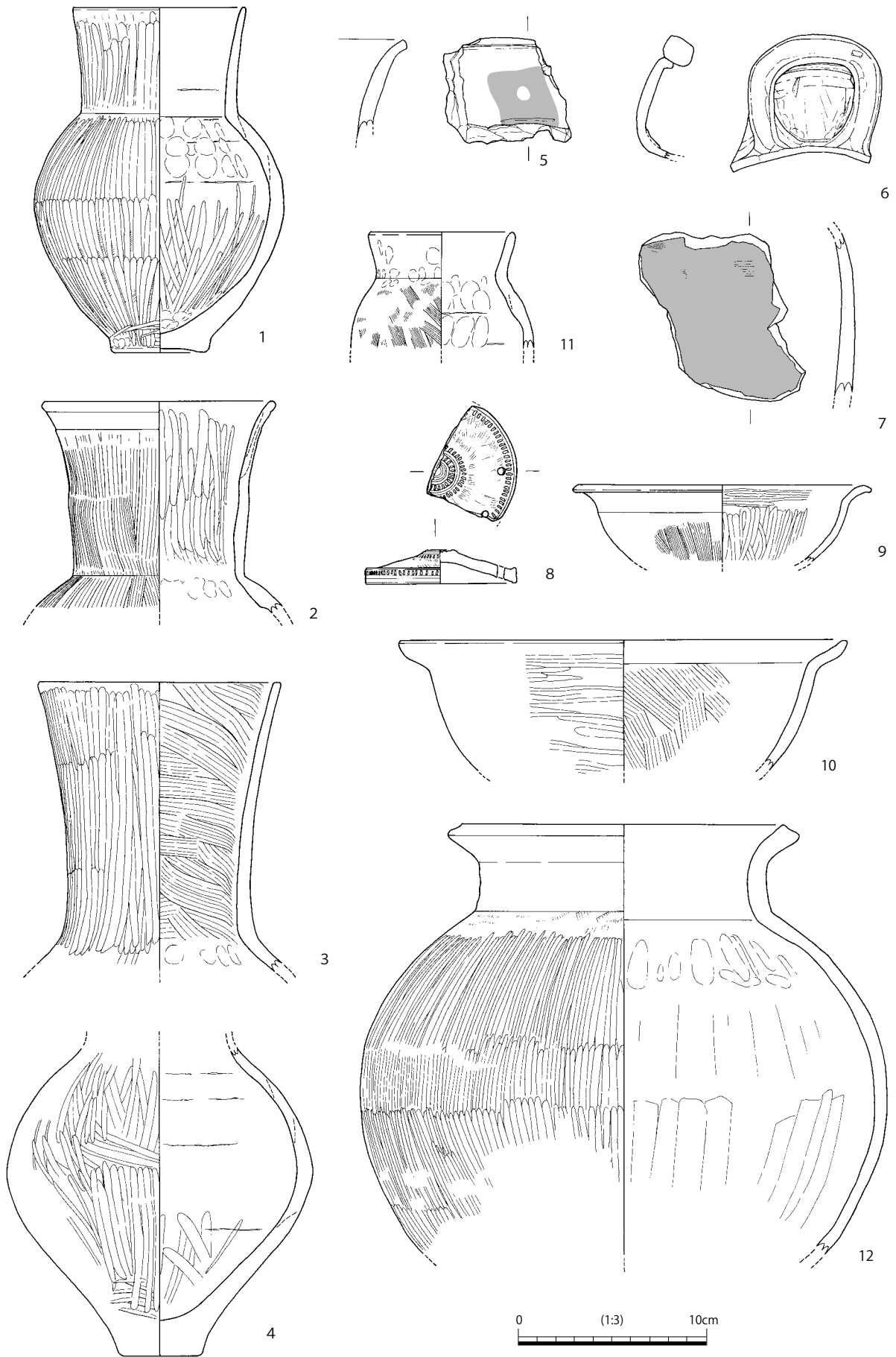
第 34 図 1 ~ 4 は長頸壺である。1 は、丸みを帯びた体部と直線的に立ちあがる口縁をもつ。外面調整は縦方向の緻密なミガキ、内面調整は横ナデ後、底部付近にミガキを施す。2（図版 44-3-2）は口縁部から肩部にかけて残存する。外面は縦方向のハケ目で仕上げを行う。粘土の継目処理が粗雑であるため、口縁の器壁に一部膨らみが認められる。口縁部の内面調整は、ミガキである。3（図版 44-3-1）はやや開き気味に大きくのびる口縁が特徴である。外面調整はミガキ、内面には横～斜め方向のハケ目を施す。4 は体部から底部の出土である。胴部が張った器形を有する。外面には斜め方向のミガキの後、縦方向のミガキを施す。内面は、横ナデ後、底部付近にミガキを入れる。

第 35 図 1（図版 45-2）も同じく長頸壺の体部から底部である。他に比べて胴部上半部に最大径をもつ。体部外面は縦方向のミガキ、内面には工具によるナデが残る。底部はやや突出させて平底に作るが、中央を僅かに窪ませる。

第 34 図 5 ~ 7、12（図版 45-1-1）は、広口壺の一部である。5 は口縁部で、外面に赤色顔料の付着が認められる。6 は、同じく広口壺の頸から口縁部にいたる部位であるが、逆 U 字型の取手が口縁に癒着して設けられている。器壁の色調は淡い橙色を呈しており、外来系土器の可能性が高い。7 は壺の体部であるが、内面全体に赤色顔料の付着が認められる。12 は、口縁及び体部である。丸みを帯びた体部にはハケ後ミガキが密に施されている。内面は、ヘラナデで仕上げられている。口縁部はヨコナデ、口縁端部には面を作る。

第 34 図 8（図版 44-3-6）は、壺の蓋である。外面全体のミガキと施文によって、精緻で美しい製品に仕上げられている。残存は 4 分の 1 程度であるが、8 cm 程度の直径に復元できる。器形は低い傘形を呈しており、頂部を平たく作る。端部はナデによって端面を作り、沈線と刻目文を廻らせる。刻目文は、端部上面と中央部にも円を描くように施されており、頂部には刻目文の内部に二重円を沈線で描く。端部付近には穿孔が 2 箇所施されている。形状から小型の無頸壺と組み合わせるものと予想される。

第 34 図 9・10 は鉢の口縁部である。9 の口縁部は外反するが、10 は端部を僅かに立ち上げている。9 の外面調整は細かいハケ、内面はミガキである。10 は内面にハケを施し、外面を横方向のミガキで



第 34 图 10-1-1 区 第 10 遺構面 1058 流路出土遺物実測图 1

飾る。

第34図11は、小型の甕である。体部上半が残存する。口縁部の立ち上がりは緩やかで、随所に指頭圧痕を残す。体部外面には斜め方向のハケ目を施す。外面の一部に煤が付着する。

第35図2～4は、甕の一部である。2（図版44-3-7）は底部から体部下半部である。外面の調整は磨滅によって確認できないが、内面にはヘラ状工具によるナデが顕著に残る。底部外面は中央をやや窪ませる。3は底部外面の中央がやや膨らむため安定が悪い。4は平底で体部外面にタタキを施す。内面にはヘラナデの痕跡を残す。

第35図5～8は、脚部である。5（図版45-1-2）は高杯の脚部で、短い裾部と脚部の継ぎ目付近に2個1対の穿孔を3か所に施す。外面は細かいミガキ、内面には絞りを残す。6はやや大型品で、外面には縦方向のミガキ、内面にはハケ目を施す。大きく開く裾部外面に1条の沈線があり、その上位にミガキ状の施文を横方向に1～2条廻らせる。7は台付鉢の脚部で、角度をつけて折り曲げた裾の端部をナデて面を作る。8は、細い脚部から大きく開く裾部をもつ高杯の脚部である。外面は縦方向のミガキ、内面には横方向のハケ目を施す。外面には櫛描文が1条、その下位には円形の穿孔が認められる。

図版44-3-4は、弥生時代中期中葉の細頸壺の一部で、最も張り出す胴の部分である。貼り付けた粘土帯の上に、凹線状の沈線を2条廻らせており、粘土帯の上位にあたる器壁外面には、双頭渦文を沈線にて付す。摩滅が著しいが、器壁外面に朱の付着が僅かに認められる。類似した製品が、東大阪市教育委員会47-1次調査において確認されている。

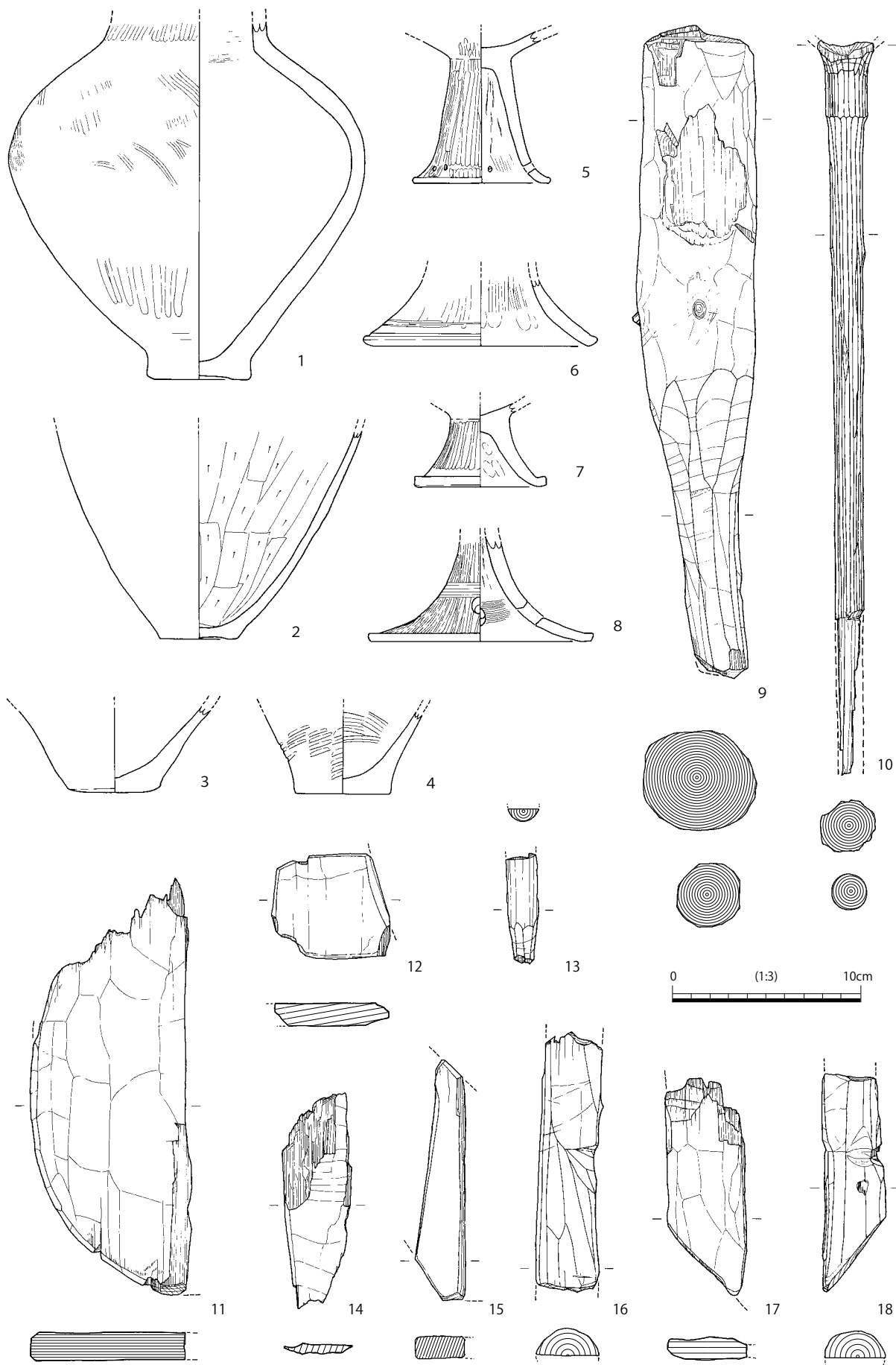
第35図9～18は、木製品である。9（図版96-2-2）は横槌で、使用痕跡が顕著に認められる製品である。芯持材の側面を加工し、槌部と握り手を作り出す。握り手は槌部に対して斜めにのびるよう作られている。槌部の側面には、使用痕と考えられる木肌の剥離が2箇所に残る。槌部の先端は粗く加工されており、堅杵として使用されたとは考えにくい。握り部の先端は折損する。この折損により使用が困難になったのであろう。用材はマツである。

第35図10（図版96-2-1）は芯持材を利用した棒状木製品である。断面を円形にする製品で、側面は精緻な加工が施されている。棒状の一端は先細りし、折損する。もう一端は段を作って径を増し、大きく開く。その先は欠損するため明らかではないが、端面（図上面）にも丁寧な加工が為されている。特に使用痕跡は認められないが、破損により使用が不可能となった製品と考えられる。用材はカヤである。カヤは枝が幹の同位置から四方に開く性質をもつため、衣笠や総掛けの軸に利用されることがある。第35図10の用途は明らかではないが、可能性として掲げておきたい。

第35図11（図版96-3-1）は容器の底板である。半分以上を欠損するが、直径22～23cm程度の円形に復元できる。縁辺部は角を削り落とし、斜めに加工を施している。厚さ7cmを測る製品であること、また当該時期の機種組成から、刳物桶の底板であると推測される。用材はヒノキである。

第35図12（図版100-1-1）、15（図版100-1-5）、17（図版98-1-10）は板状部材である。折損する箇所が多く用途はすべて不明である。側面の一部及び表面に丁寧な加工が認められる。12の用材はヤマグワ、15はクスノキである。

第35図13～16・18は棒状品である。すべて割れて半身を失うが、本来は芯持ちの棒状品の一部であったと推測される。第35図13（図版98-1-14）は側面の樹皮を剥いだ上で、先端部を削り出す。第35図16（図版100-1-9）は側面に段状の抉りを作る。用材はサカキである。第35図18（図版



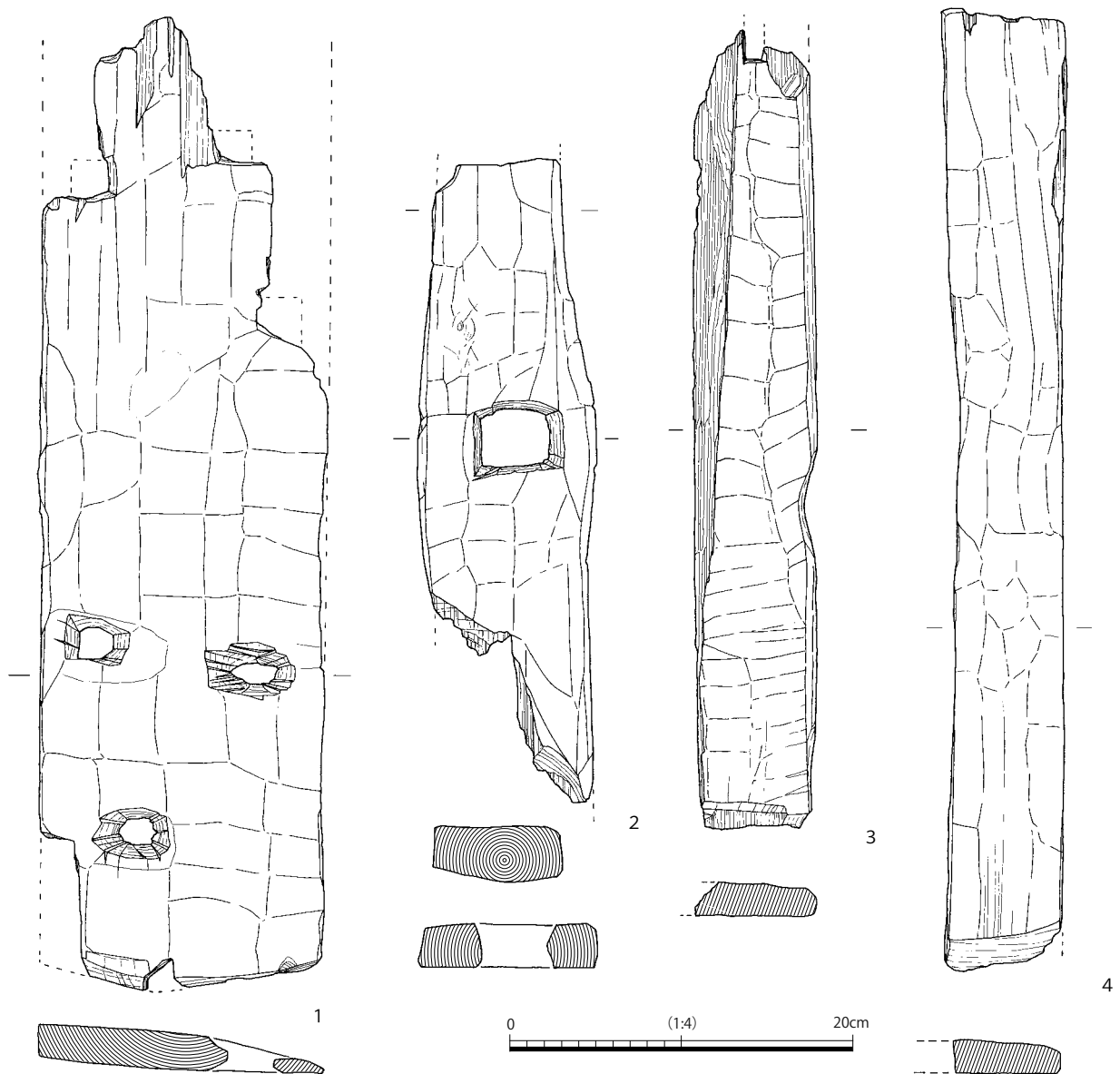
第 35 图 10-1-1 区 第 10 遺構面 1058 流路出土遺物実測图 2

100-1-7) は両端を鋭く切断する。用材は同じくサカキである。

第35図14(図版100-1-6)は削りかけの一部である。最大厚は2mm程度で、木製品の加工の際に削り取られた木肌の一部である。この付近で木製品の加工が為されたことを示している。用材はヒノキである。ヒノキ材は低湿地で生育しないため、瓜生堂集落へは山地から材として搬入され、集落付近の水場で製作されたと考えられている。近辺あるいは流路上流付近に、木製品製作のための作業場が存在した可能性が高い。

第36図1(図版98-1-1)は、ほぞ孔を有する板状品である。板目材を用いており、側面の一方を薄く作る。一端(図上面)は折損、もう一端(図下面)は中央部を僅かに突出させて逆三角形に作り出す。ほぞ孔は折損部付近に認められるものを合わせて6箇所ある。孔はすべて不定形で加工は粗く、両表面から穿たれている。用材はシイ属である。

第36図2(図版96-3-2)も同じく板状部材である。一端(図下位)は焼失、もう一端(図上位)は折損する。側面には加工が認められる。柁目の芯持材を用いたもので、中央に方形のほぞ孔を設けて



第36図 10-1-1区 第10遺構面1058流路出土遺物実測図3

いる。用途は不明であるが、ほぞ孔の大きさから建築材である可能性が高い。用材はシイ属である。

第36図3（図版99-1-2）、第36図4（図版97-1-6）も同じく板状部材である。同一部材の可能性はあるが、接点は確認できていない。第36図3の一端（図上位）は折損、もう一端（図下位）は荒く切断されている。一方の側面は丸身を帯び、一部に緩い抉りを残す。使用痕跡と考えられるが用途は不明である。第36図4も同じく一側面を丸く作る。一端（図下位）は荒く切断されているが、もう一端（図上位）は残存する。用材はともにヒノキである。

第11-1遺構面（第32図） 第10層を除去して検出した遺構面である。第11層は上下2層に細分でき、それぞれの上面において遺構面を検出した。ここでは上位を第11-1遺構面として報告する。第11-1遺構面では、調査区東半部において土器だまりを検出した。出土遺物の多くが第11-1層中にありその一部が遺構面上に露出する。層及び遺構面の時期は弥生時代後期前半である。なお出土した土器片の中には、上層（第10層）において出土した破片と接合するものが多い。

1094 土器だまり 調査区北東部において検出した土器だまりである（図版5-2）。長頸壺、甕、鉢の破片がまとまって出土した。

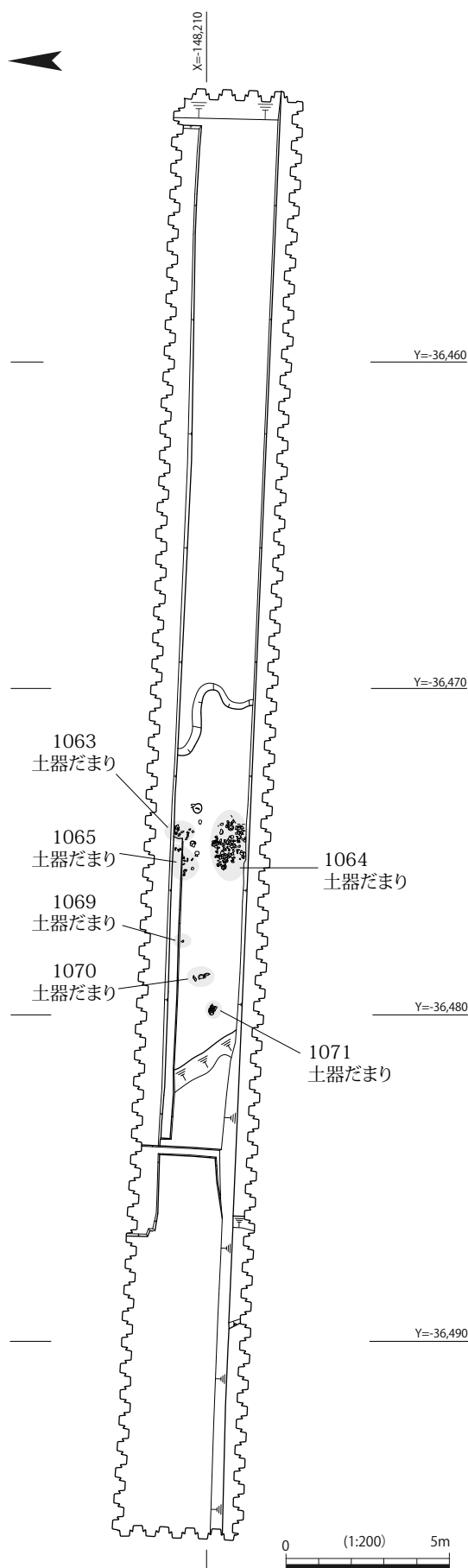
長頸壺（図版44-2）は、体部のみ出土である。扁平で大きく張り出した胴部と小さな底部、細くしまった頸部をもつ。体部外面は縦方向のミガキが顕著に認められる。

1095 土器だまり 調査区東半部中央において検出した土器だまりである。長頸壺と甕の破片が出土した。

長頸壺（図版40-3）は、ほぼ完形での出土である。丸みのある体部と直線的に開く口縁部をもつ。

1096 土器だまり 調査区中央部付近において検出した土器だまりである（図版5-3）。甕、壺、高杯（図版46-1）の破片がまとまって出土した。

図版46-1は、装飾をもつ高杯である。太く中空に作る脚部と大きな杯部をもつ。脚部には縦4点を1列



第37図 10-1-1区 第11-2遺構面全体図

とした円孔が、7列設けられている。全て焼成前穿孔で、器壁外面から内面に向かって棒状工具で貫く。

杯部は大きく開き、上方へ屈曲して立ち上がる。口縁端部には粘土帯を貼付け、断面方形に作る。口縁部には7本1セットとなる細い粘土帯が9箇所が付されているが、このうち、1箇所のみ8本の粘土帯をセットとしている。杯部は内外面ともに縦方向のミガキ、脚部は縦方向のハケ後ミガキ及びナデである。脚部内面は斜め方向のハケ調整である。胎土は生駒西麓産である。

第11-2遺構面（第37図） 第11-1層を除去した段階において検出した遺構面である。下面遺構である周溝墓の盛土がさらに顕著となるため、調査区中央部が最も高く、東へ向かって徐々に下がる傾斜が明確となる。第11-2遺構面では、調査区中央部において土器だまりを検出した。

この土器だまりに含まれている土器の年代は、弥生時代後期前半である。調査区西半部において検出された1058流路が埋没する年代幅と合致する。出土器種は、壺と甕が多く、高杯は少ない傾向にある。甕は煤が付着するものが多く、実用品である。出土遺物の構成からは、この周辺に人々が居住した可能性は極めて高い。

1063 土器だまり 調査区中央部の北辺において検出した。甕及び壺の破片がまとまって出土した。

1064 土器だまり 調査区中央部の南壁に沿って出土した土器だまりである。壺、甕、高杯がまとまって出土した（図版40-4・図版41-1・図版42-1・図版43-1）。下層遺構である周溝1062の上面に位置する。周辺より基盤層の沈み込みが激しく窪地状であったため、他の土器だまりより多く遺物が集中する。但し、完形復元できるものは少ない。

図版40-4-1～3は、長頸壺である。小さな平底と球形に近い体部、長くのびた口縁部をもつ。

図版41-1-1～3・41-1-5・41-1-6は、広口壺である。41-1-1は、口縁端部に面を作り、2条の沈線を施している。41-1-2も同じく口縁部端面をナデによって作る。41-1-5は、外面に煤の付着が認められる。

図版41-1-4・41-1-7・41-1-8・42-1・41-1～42-3・43-6・43-7は、甕である。43-1-1は小型品、それ以外は中型品である。外面調整は斜め方向のタタキ、内面はヘラナデ及びユビナデを施す。口縁端部はナデで面を作る。43-1-7は口縁部端面を広く作り、2条の沈線を施す。胴部以下と口縁部に煤が付着するものが多い。

図版43-1-4・43-1-5は、高杯である。43-1-4は、脚部に円孔を穿つ。杯部は屈曲させて広く外反させる。43-1-5は、杯部に屈曲がなく、緩やかに立ち上がる器形をもつ。

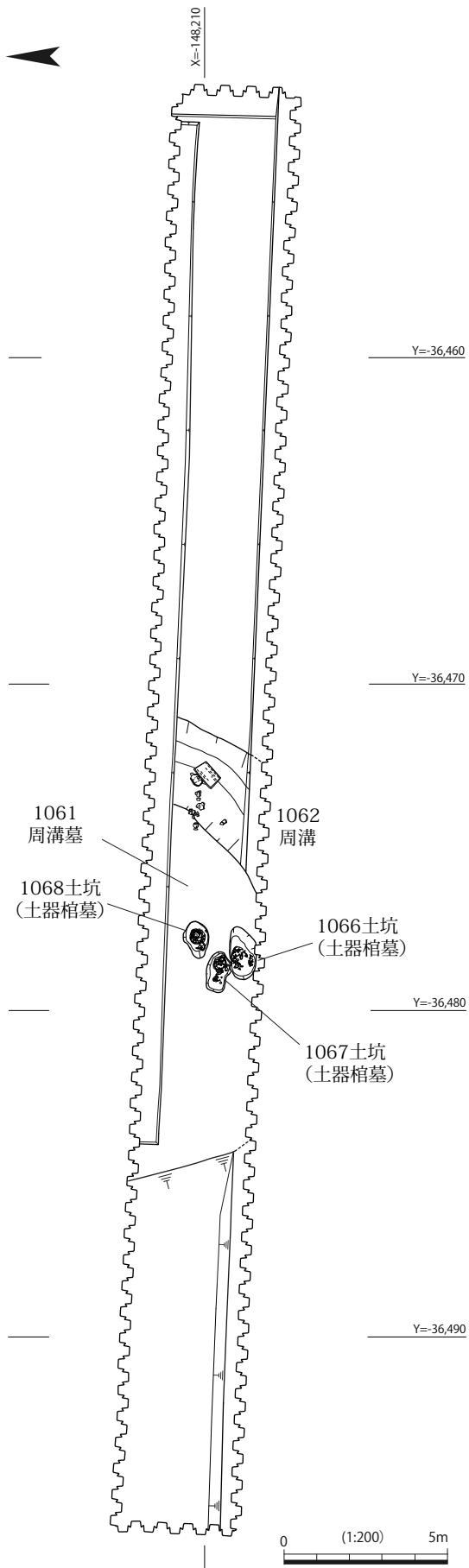
1065 土器だまり 調査区中央部の北辺において検出した土器だまりである。壺の破片が出土した（図版45-3-1）。欠損部位が多く、完形復元は難しい。45-3-1は広口壺である。

1069 土器だまり 調査区中央部において検出した土器だまりである。甕の破片が出土した。

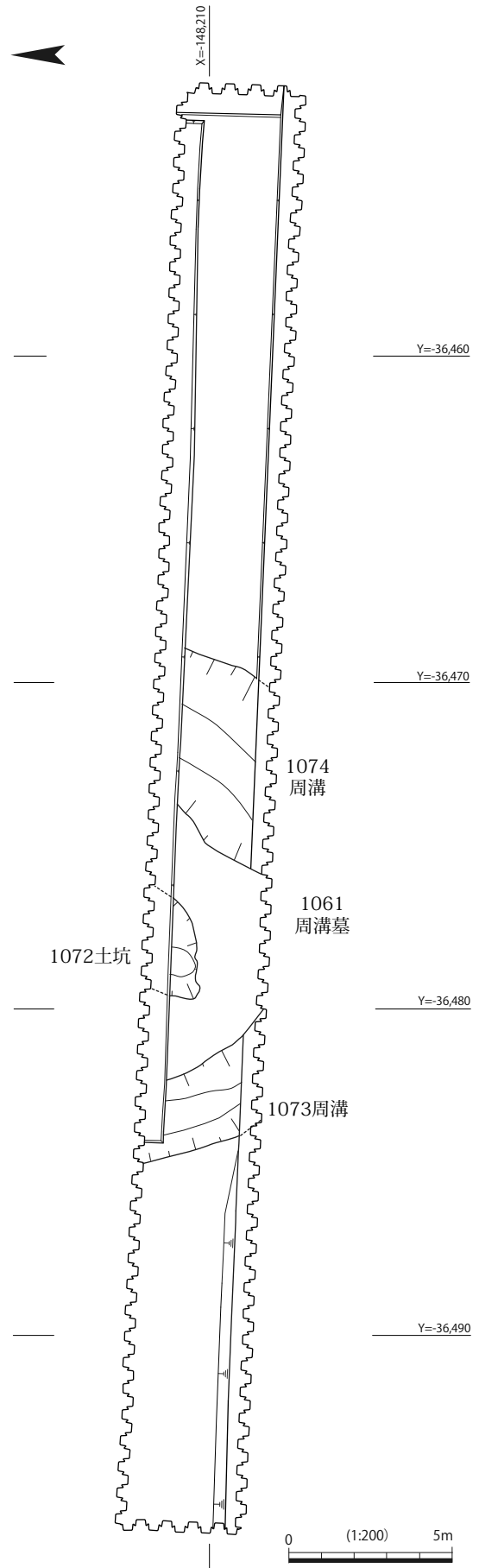
1070 土器だまり 調査区中央部において検出した土器だまりである。甕、鉢の破片が出土した（図版45-4-1・45-4-2）。

1071 土器だまり 調査区中央部において検出した土器だまりである。長頸壺（図版45-5-1）がほぼ完形で出土した。

第12遺構面・第13遺構面（第38図・第39図） 弥生時代中期後半の遺構面である。第11-2層を



第 38 图 10-1-1 区 第 12 遺構面全体図



第 39 图 10-1-1 区 第 13 遺構面全体図

除去した段階で検出した。この遺構面の基盤層となる第 12 層は、調査区中央部において検出した周溝墓の盛土である。このため、第 12 遺構面は、周溝墓周辺でのみ確認された遺構面となる。また、上面を覆う第 11 - 2 層は薄層であり、かつ部分的な残存に留まるため、現地調査では第 11 - 2 遺構面と第 12 遺構面はほぼ同じレベルでの検出である。第 12 遺構面では、方形周溝墓 1 基（墳丘及び周溝）と土坑（土器棺墓）3 基を検出した。

また、第 12 遺構面において検出した周溝墓 1061 の盛土を除去して検出した範囲を、第 13 遺構面とした。周溝墓 1061 は、土器棺墓を造る際に西辺の周溝を埋め、墳丘部を拡張したようである。第 13 遺構面では、周溝墓 1061 の主体部の一部とみられる 1072 土坑と、周溝 2 条（1073 周溝・1074 周溝）を検出した。

1061 周溝墓 調査区中央部において検出した遺構である。今回確認したのは、墳丘の南半部にあたる約 2 分の 1 の範囲である。墳丘の北半部と南のコーナーは、それぞれ調査区外へと続いている。北接する既往の調査では、連続する墳丘「方形周溝墓 S05220」が確認されている。この報告とあわせると、1061 周溝墓の規模は、墳丘上端の長辺（北東 - 南西方向）が 7.0 m、短辺（北西 - 南東方向）が 5.5 m 程度に復元できる。付随する周溝の外縁から外縁まででは、長辺 11.5 m、短辺 10.5 m となる。

既往の調査報告によると、「方形周溝墓 S05220」の東西には別の周溝墓が存在するが、周溝の共有や切り合い関係は認められない。周溝墓の北西を廻る周溝「周溝 S05221」の西側には堤状遺構があり、この先端が 10 - 1 - 1 区へと伸びている。しかし、今回の調査では連続する高まりを確認できなかった。上面遺構である弥生時代後期の流路（1058 流路）によって削平されたものと考えられる。

1061 周溝墓墳丘の残存状態は良好で、南東辺を廻る周溝（1062 周溝）底面からの比高差は 1.0 m を測る。墳丘の南コーナー付近では、この墳丘の上面から掘り込まれた土坑を 3 基検出した（1066 土坑・1067 土坑・1068 土坑）。土坑内には壺や甕、鉢が組み合った状態で存在することから、土器棺墓であると推測される。

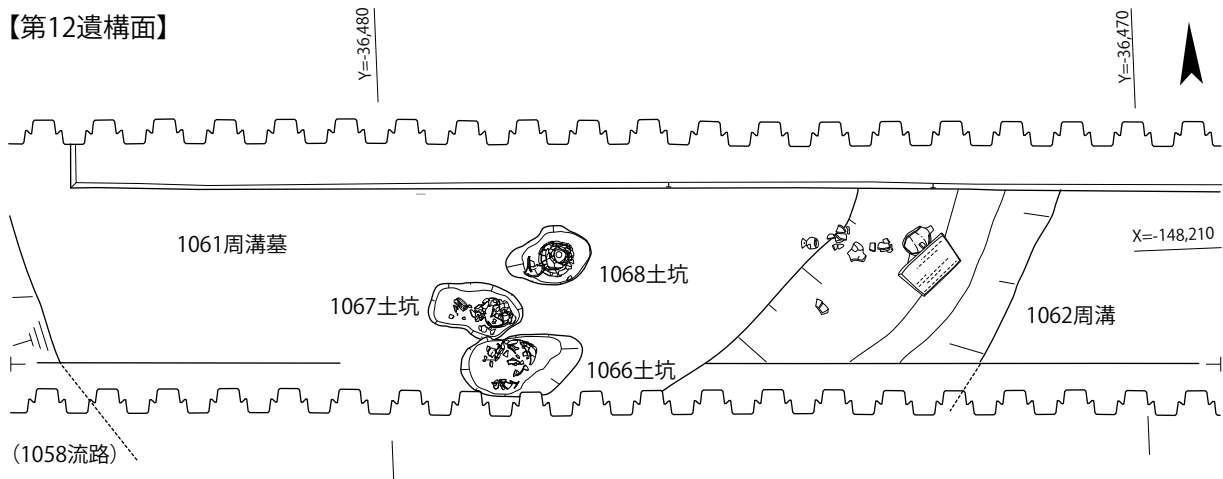
また、1061 周溝墓の中央部では、土坑を 1 基確認した（1072 土坑）。検出範囲が狭小であるためこれを周溝墓の主体部として判断する材料には欠くが、既往の調査では、近接する位置に「方形周溝墓 S05220」の主体部として報告される遺構「主体部 S05225」が検出されている。1072 土坑も同様にその可能性が考えられる（後述）。

1061 周溝墓の築造時期は、土器棺墓や供献土器と見られる 1062 周溝からの出土遺物の年代を下限とすることができる。なお、既往の調査報告では、「方形周溝墓 S05220」の北西周溝「周溝 S05221」から水差し形土器、広口壺等の出土があり、その年代にややばらつきがあることが指摘されている（河内Ⅲ～Ⅳ - 2 様式）。

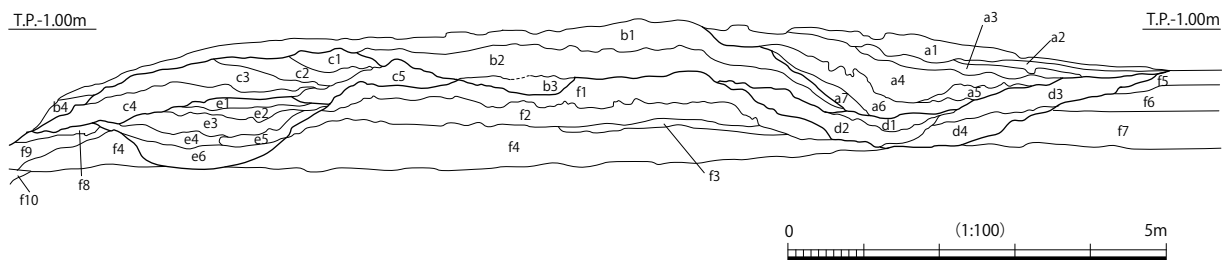
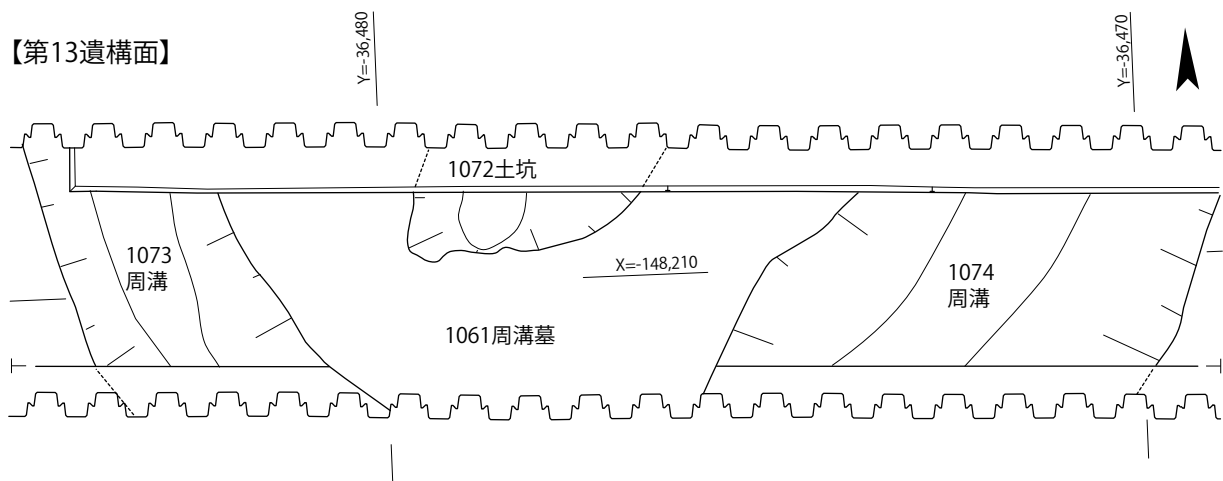
今回の調査では、1061 周溝墓墳丘上層及び 1062 周溝を掘り進めた段階で、下面に存在する遺構を検出した（1073 溝・1074 溝）。1073 溝は、1061 周溝墓の墳丘西半部を 0.5 m 程度掘り下げたレベルで検出した。また 1074 溝は、1062 周溝を完掘した段階で確認した。ともに 1061 の墳丘裾部をめぐることから、周溝墓に関連する遺構であると推測される。断面観察からは、本来 1061 の周溝として掘削された 1073 溝及び 1074 溝がある程度埋没した段階で西側に盛土を拡張し、その上面から土器棺墓を掘り込んだ経緯を認めることができる（第 39 図）。

1073 周溝からは、弥生時代中期中葉の土器片（第 51 図 1）が出土し、1062 周溝からは中期後葉の遺物が出土することから、既往の調査区においてばらつきがあると捉えられた周溝墓の年代は、周溝

【第12遺構面】



【第13遺構面】



1062 周溝

a1)	N4/0-3/0	灰～暗灰色	中砂～細礫混じりシルト
	10GY6/1	緑灰色	シルトブロック含む
a2)	N5/0	灰色	中砂～粗砂混じりシルト
a3)	10G6/1	緑灰色	中～粗砂混じりシルト
a4)	10G6/1	緑灰色	シルト
	N5/0	灰色	中～粗砂混じりシルトブロック
	2.5GY6/1	オリーブ灰色	極細砂ブロック含む (填丘崩落土)
a5)	10G6/1	緑灰色	シルト
	5Y7/2	灰白色	中～粗砂含む
a6)	2.5Y3/1-2/1	黒褐～黒色	中砂～極粗砂混じり極細砂質シルト
			植物遺体・有機物混じる
a7)	N5/0	灰色	極細砂～シルト
	7.5GY6/1	褐灰色	中～粗砂含む

1061 周溝墓盛土・1066 土坑

b1)	N4/0-5Y7/2	灰色～浅黄色	細砂～極細砂	中砂～砂礫含む
b2)	10GY5/1-N4/0	緑灰色～灰色	中砂～粗砂	極細砂ブロック含む
b3)	N4/0-5Y7/2		灰色～浅黄色	細砂～極細砂
			極細砂ブロック少量含む	
b4)	7.5GY5/1-N4/0	緑灰色～灰色	中～極細砂	極細砂ブロック含む
c1)	N4/0	灰色	中～粗砂混じり細砂～極細砂	極細砂ブロック含む
c2)	7.5GY5/1-N4/0	緑灰～灰色	中砂～極粗砂質極細砂	極細砂ブロック含む
c3)	N4/0	灰色	中砂混じり極細砂極粗砂	極細砂ブロック含む
c4)	7.5GY5/1	緑灰色	極細砂	中砂～粗砂ブロック含む
c5)	7.5Y7/2	灰白色	粗砂～極粗砂	細砂ブロック含む

第40図 10-1-1区 第12遺構面・第13遺構面 1061周溝墓平面・断面図

1073 周溝

e1) N4/0	灰色	中砂～粗砂混じり極細砂
e2) 7.5Y3/1	オリーブ黒色	細砂～極細砂
5Y4/1	灰色	シルトブロック含む
e3) 5Y3/1	オリーブ黒色	シルト～微砂
e4) 5Y3/1	オリーブ黒色	シルト～微砂
5Y4/1	灰色	極細砂ブロック含む
e5) 10Y4/1	灰色	極細砂混じりシルト
7.5Y3/1	オリーブ黒色	シルトブロック含む
7.5Y6/2	灰オリーブ色	細砂ブロック含む
e6) 7.5Y5/2	灰オリーブ色	細砂～粗砂
7.5Y4/1	灰色	シルトブロック含む

1074 周溝

d1) 10GY6/1	緑灰色	細～中砂混じりシルト 有機物含む
d2) 7.5GY5/1	緑灰色	細砂～極細砂 粗砂含む
d3) N5/0	灰色	極細砂～シルト
7.5GY6/1	緑灰色	中砂～粗砂
d4) 10GY6/1	緑灰色	中～細砂
N5/0	灰色	粗砂ブロック混じる

周溝墓基盤層（第13層・第14層）

f1) N4/0	灰色	中砂混じり極細砂 暗色化
f2) 5Y4/1	灰色	極細砂
5Y3/1	灰色	シルトブロック含む
f3) 7.5Y4/1	灰色	細砂～シルト やや軟質
f4) 7.5Y6/2	灰オリーブ色	粗砂～細砂
7.5Y4/1	灰色	シルト 筋状に含む
f5) 5GY6/1	オリーブ灰色	シルト 均質
f6) 5Y5/1	灰色	極細砂 やや軟質
f7) 5Y4/2	灰オリーブ色	粗砂
f8) 10Y4/1	灰色	シルト
10Y3/1	オリーブ黒色	シルト
f9) 7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト
7.5Y5/1	灰色	細砂 筋状に含む
f10) 10Y4/2	オリーブ灰色	細砂～粗砂
7.5Y3/1	オリーブ黒色	粘土ブロック含む

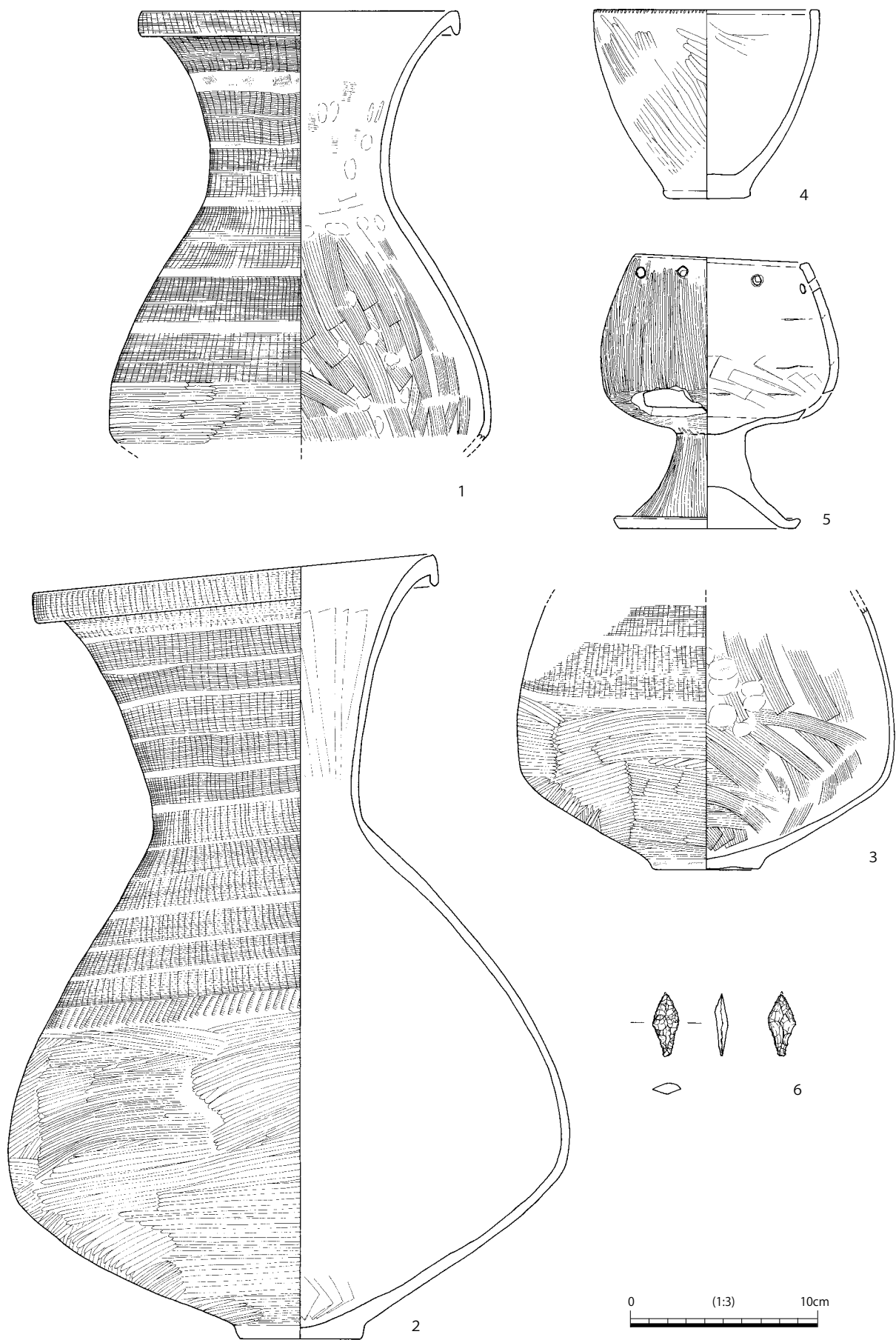
墓の築造→墳丘の拡張→土器棺墓の埋葬→周溝の埋没→周溝の再掘削という過程における時間幅であると考えられる。

1062 周溝 1961 周溝墓の北東辺を廻る溝である。北接する既往の調査区から連続する遺構で、今回の調査では 3.0 m の長さを検出した。最大幅は 2.2 m、最大深度は 1.0 m を測る。溝の断面形状は椀形に近く底面には凹凸が認められる。埋土は溝本来の堆積層である黒褐色から黒色を呈する砂混じり極細砂質シルトと灰色細砂が下位にあり、その上位に墳丘からの崩落土である灰色シルトブロックを含む緑灰色シルト、さらにその上位に弥生時代後期包含層である第 11-2 層の溜まりがある。溝の底面付近からは、板状木製品（図版 104-1）とサヌカイト製石鏃（第 41 図 6）がそれぞれ 1 点ずつ出土した。また中位の崩落土からは弥生時代中期後半の壺 3 点が、周溝の上端付近では小型の台付無頸壺と鉢が 1 点ずつ出土した（第 41 図 4・5）。

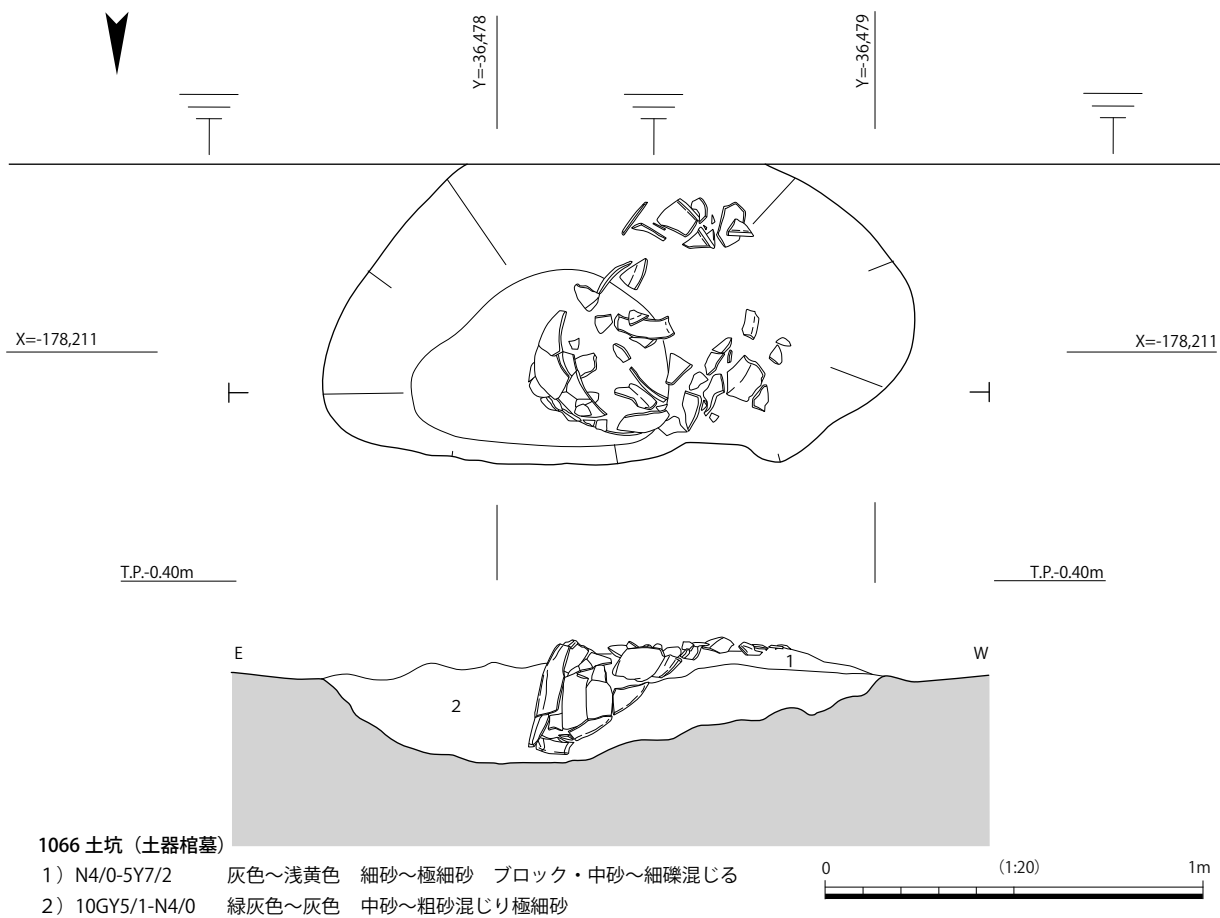
第 41 図 1 は、広口壺の口縁部から胴部である。横方向のミガキを施した体部とタテ方向のハケ後ミガキを施した頸部から口縁部までの間に、簾状文を計 6 条施す。施文原体の幅は 2.7 cm 前後であるが、下位の幅 1 cm にわたる部位が鋭く、上位より強く刻まれるという特徴にある。口縁端部にも同じく簾状文を付している。体部内面は斜め方向のハケ目、口縁部は横方向のハケの後、丁寧にユビナデを施す。胎土は生駒西麓産である。

第 41 図 2（図版 47-4）も同じく広口壺である。大型品で、底部から口縁部までの図上復元が可能である。胴部下半部が大きく張り出し、ふくらみを持ちながら頸部へと続く。胴部の一部には大きな黒斑が認められる。外面調整は、胴部下半部から底部には横～斜め方向の密なミガキ、内面はヘラナデの後、ユビナデを施す。底部外面中央にも疎らなミガキを施しており、やや上方に窪ませる。胴部上半から頸部、口縁部にかけて計 12 条の簾状文を施し、その最下段に櫛描列点文を付している。また、簾状文の最上段（垂下させた口縁端部の根元付近）には、幅 3 mm 程度の櫛描文が一筋入る。簾状文と列点文、櫛描文はすべて原体幅が異なるため、同一工具による施文ではない。口縁端面には第 41 図 1 と同様、簾状文を施している。胎土は生駒西麓産である。1061 周溝墓の崩落土内より、口縁を北東に向けた横位置で出土した。

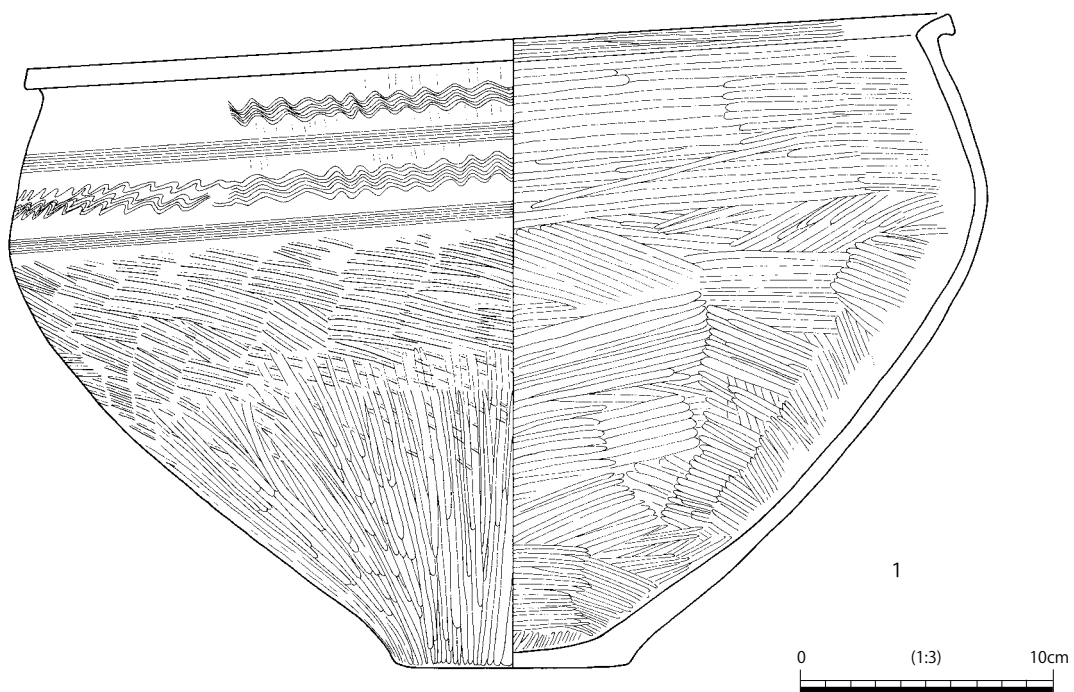
第 41 図 3 は、広口壺底部から胴部にかけての部位である。2 に比べてやや小型品である。外面調整



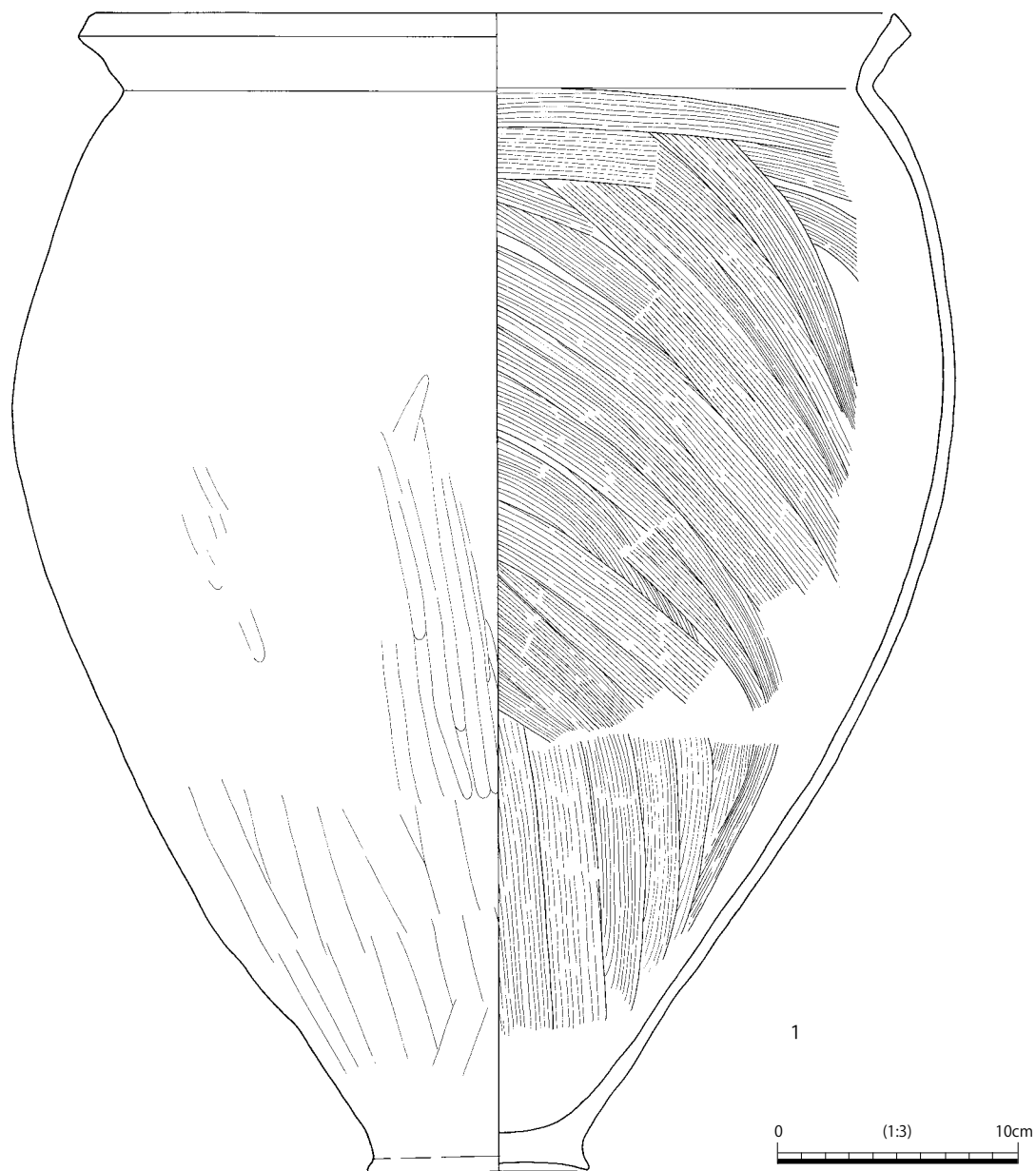
第41图 10-1-1区 第12遺構面 1061周溝墓・1062周溝出土遺物実測図



第 42 図 10-1-1 区 第 12 遺構面 1066 土坑平面断面図



第 43 図 10-1-1 区 第 12 遺構面 1066～1068 土坑出土遺物実測図



第44図 10-1-1区 第12遺構面1066土坑出土遺物実測図

は、横方向の密なミガキ、内面はハケ後ナデを施す。胴部上半の外面には簾状文を付している。施文原体の幅や下端が強く残る特徴は、1と共通する。底部外面には縦方向のミガキを施す。胎土は生駒西麓産の胎土である。

第41図4（図版44-1）は、小型鉢である。外面調整は斜め方向のミガキ、内面は摩滅が著しいが、口縁部付近に僅かにミガキの痕跡が残る。底部内面には指頭圧痕が残る。胎土は生駒西麓産である。口縁端部はナデて面を作り出し、外面に小さく刻み目を入れる。埋土上層から出土した。

第41図5（図版46-2-1）は、台付無頸壺である。全長14.8cmを測る小型品で、ワイングラスに似たフォルムをもつ。口縁部には2個1対の孔を設けることから、蓋を伴う貯蔵器であることがわかる。上位の壺部分は丸みを帯び、口縁に向かって内湾する。胴部以上の外面調整は縦方向の細かいミガキ、底部付近は横方向のミガキを施す。内面は工具ナデの後、ユビナデで器壁を整えている。下位の脚部は緩やかに開き、裾を折り曲げて端面を作る。外面調整は縦方向のミガキ、内面はユビナデを施す。壺部

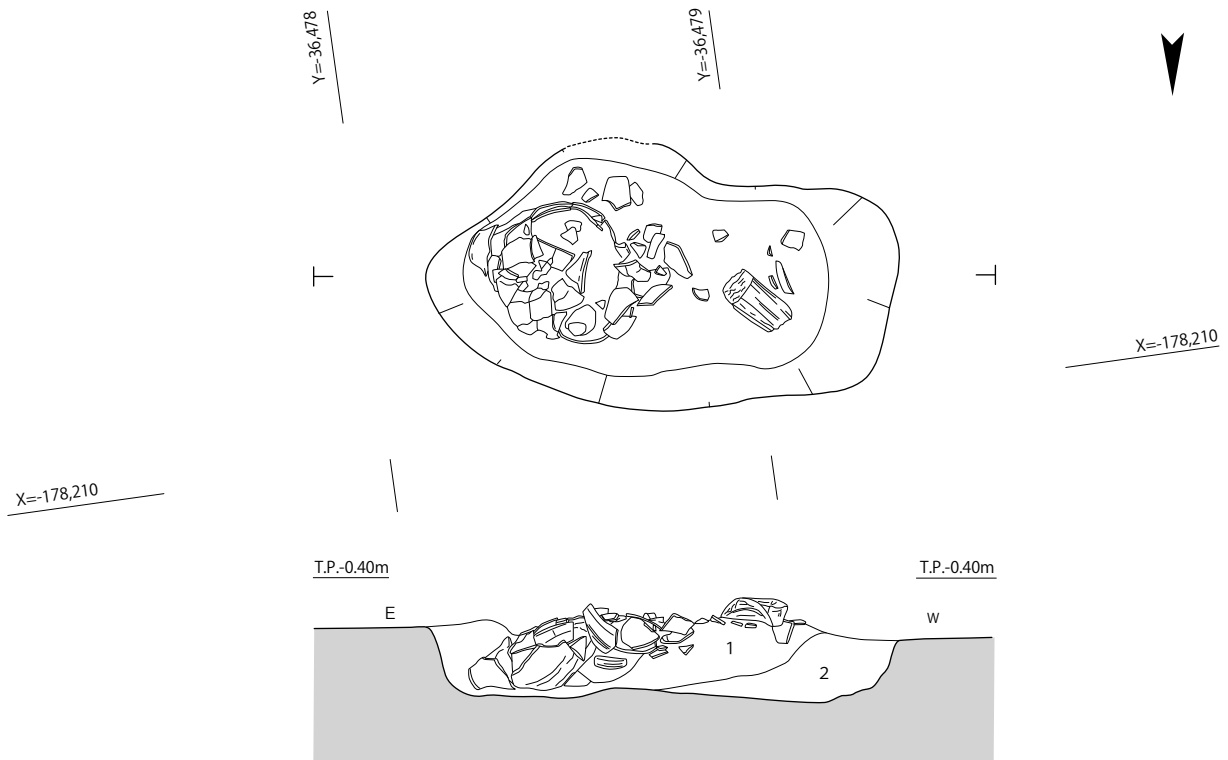
の底部付近に焼成後の穿孔が認められる。生駒西麓産の製品である。1061 周溝墓斜面（1062 周溝の上位）より、口縁を東に向けた横位置で出土した。

第 41 図 6 は、サヌカイト製の石鏃である。長さ 3.2cm、最大幅 1.5cm、最大厚 0.6cm を測る。先端部を僅かに欠損する。尖基型で、平面形状は菱形を呈する。調整は細かく、縁辺部を鋸歯状にする。

図版 104-1 は、板状木製品である。最大長 80.0cm、最大幅 45.0cm、最大厚 7.0cm を測る。表裏面の加工痕は明確ではないが、先端は切断した痕跡が顕著に認められる。用材はヒノキである。周溝の底面より出土したことから棺材の可能性が考えられるが、周辺に掘り方は確認できなかった。先端部の加工が粗雑なことから、1 点のみの出土であることから、未使用品や残材の可能性もある。

弥生時代の棺はコウヤマキが主な用材として知られているが、瓜生堂遺跡では、ヒノキのほかモミヤクスノキをコウヤマキと併せて用いる例も報告されている。特にヒノキは、小人用棺の棺身や棺蓋、成人用棺の小口板として用いられる例が多い。沖積低地の中にあり、巨大な木材を入手することが困難である瓜生堂遺跡の立地に起因する特色であろう。

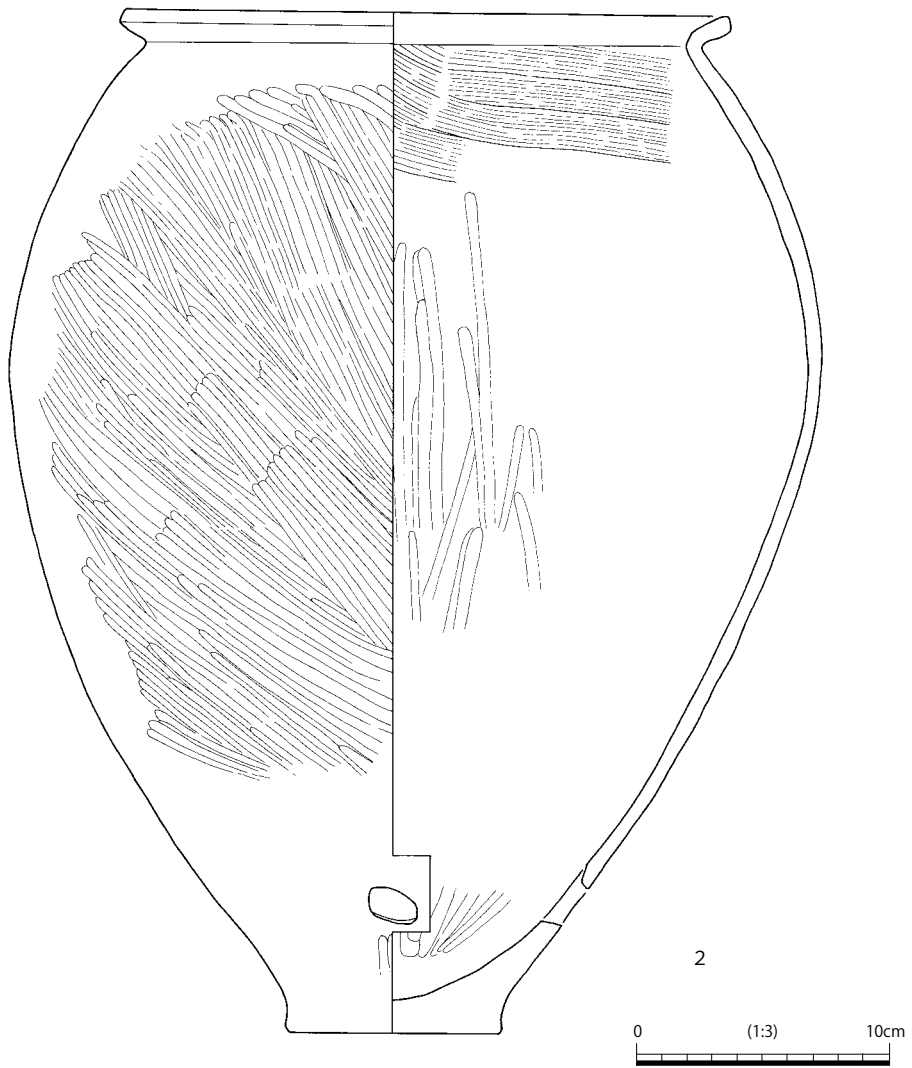
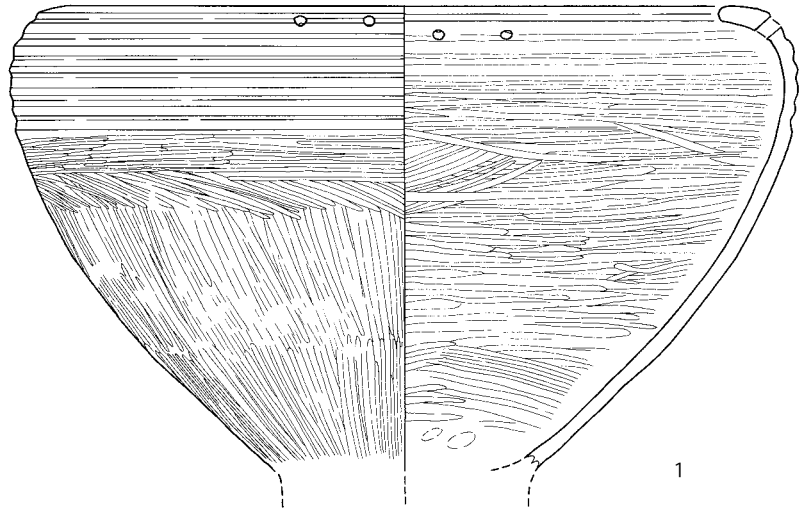
1066 土坑（土器棺墓） 1061 周溝墓墳丘上の南端で検出した遺構である（第 42 図）。平面形状は東西に長い不定形で、長軸 1.9 m、短軸 0.9 m、最大深度 0.5 m を測る。埋土は緑灰色から灰色を呈する砂混じり極細砂である。遺構内の中央からは棺身に利用されたと見られる甕が西に口縁を向け、斜めに据えられた状態で出土した（第 44 図 1）。また、上層からは蓋に転用したと考えられる鉢の破片がまとまって出土した（第 43 図 1）。この土器棺は、棺身、棺蓋ともに 3 基の中で最も大きい。また遺構の



1067 土坑（土器棺墓）

- | | | |
|----------|--------|---------------|
| 1) 5B5/1 | 青灰色 | 極細砂シルトブロックと |
| 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 細砂～粗砂ブロックの混合層 |
| 2) N4/0 | 灰色 | 極細砂 |
| 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 細砂～粗砂混じる |

第 45 図 10-1-1 区 第 12 遺構面 1067 土坑平面断面図

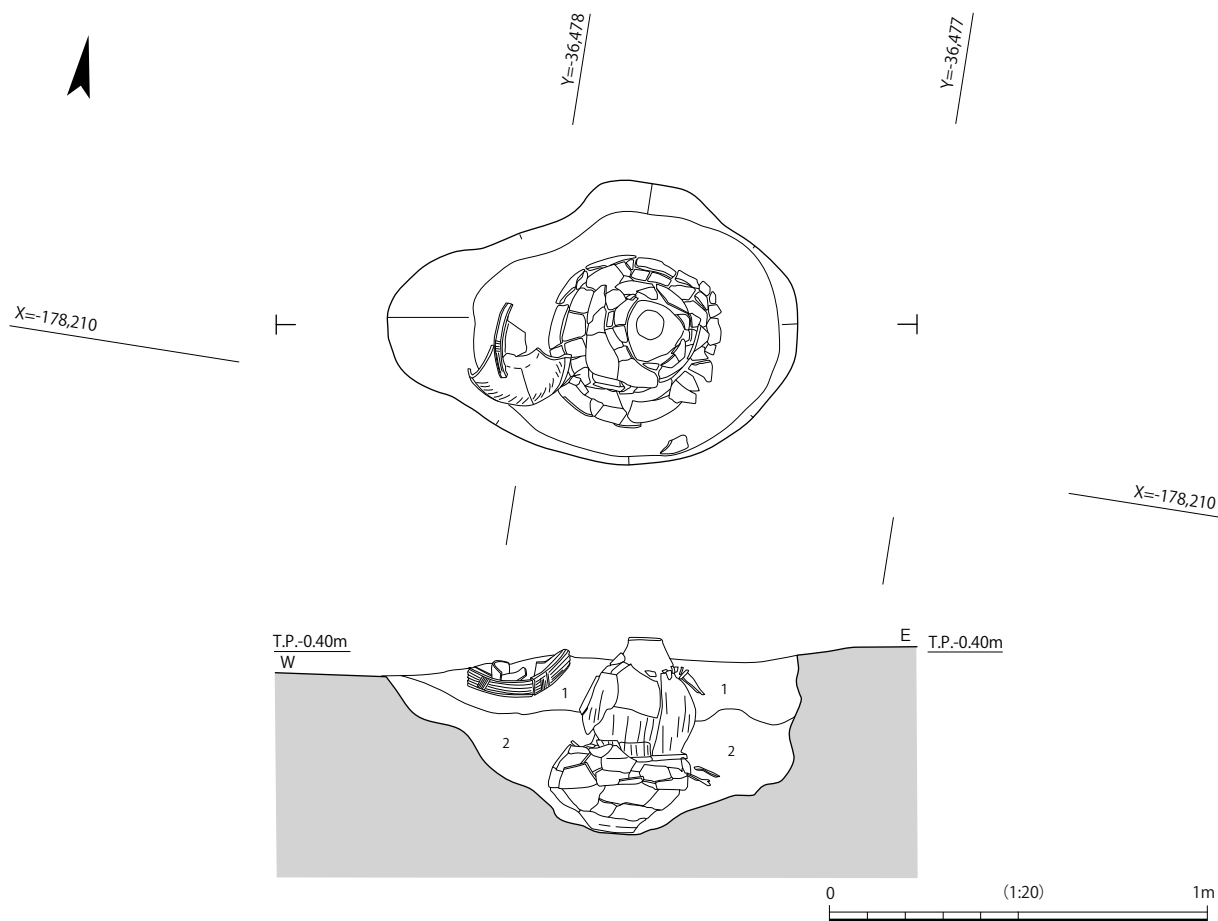


第 46 图 10-1-1 区 第 12 遺構面 1067 土坑出土遺物実測図

平面規模も、3基の中では最も広い。遺構埋土は全て持ち帰り洗浄を行ったが、土器棺以外の遺物を確認することはできなかった。遺構の時期は、弥生時代中期後半である。

第43図1(図版48-1-1)は、大型の鉢である。器高は25.3cm、復元口径は36.6cmを測る。平底から大きく開いて立ち上がり、最大径をもつ胴部に至る。口縁部は内傾し、端部を屈曲して外反させる。口縁端部はナデで端面を作る。中心軸に対して口縁は大きくひずむ。外面調整は、底部付近が縦方向のミガキ、胴部が斜め方向の強いミガキ、口縁部が縦方向のミガキを施す。口縁部には櫛描文と波状文を交互に2条付す。上位と下位の櫛描文は施文原体の幅が異なる。波状文に乱れが見える等、付文は粗雑かつ浅い。内面調整は、底部から胴部が斜め方向のミガキ、口縁部は横方向のミガキである。出土状況では確認できていないが、本来は棺蓋として棺身である第43図1に被せて納められていたと考えられる。

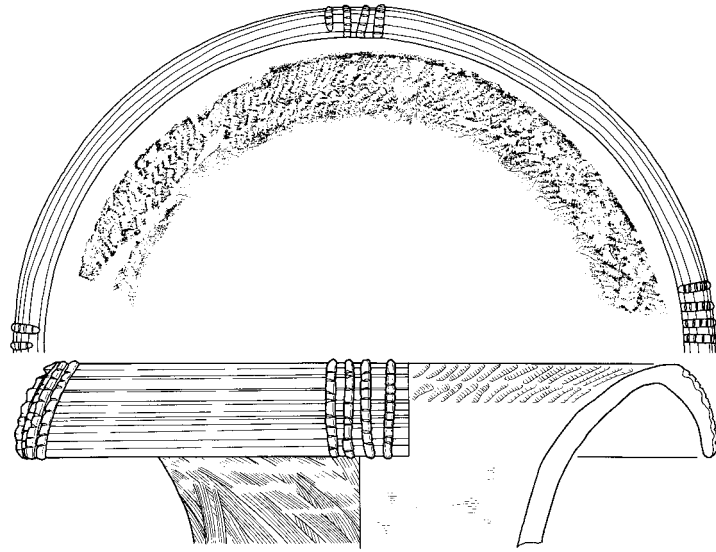
第44図1(図版46-3-1)は、棺身として使用されたと考えられる甕である。器高48.4cm、口径33.2cmを測る大型品である。底部外面はユビナデによって中央部を窪ませ、外縁部をつまんで碁笥底状に作る。肩部が張る器形をもつ。口縁は「く」の字形につくり、端部をナデで面を作る。体部の外面調整は底部付近がヘラヘズリ、胴部以上には僅かにミガキの痕跡が残る。ヘラケズリには、下から上へ工具を運ぶ造作と、逆方向に動かす造作が認められる。内面は縦方向及び斜め方向のハケである。黒斑



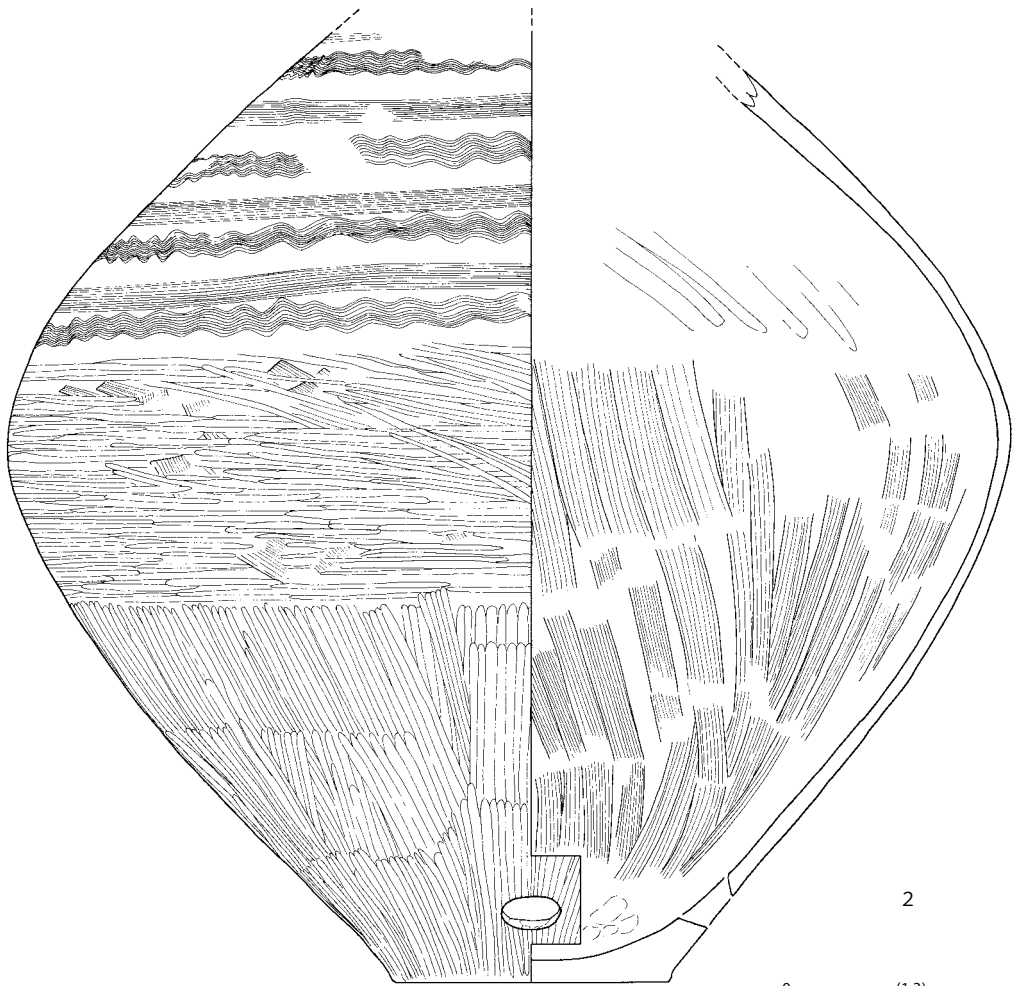
1068 土坑 (土器棺墓)

- 1) 7.5Y6/1-6/2 灰～灰オリーブ色 細砂～粗砂 極細砂ブロック僅かに含む
- 2) 5Y5/1 灰色 中砂混じりシルト
- 7.5Y6/2 灰オリーブ色 中砂ブロック混じる

第47図 10-1-1区 第12遺構面 1068土坑平面断面図



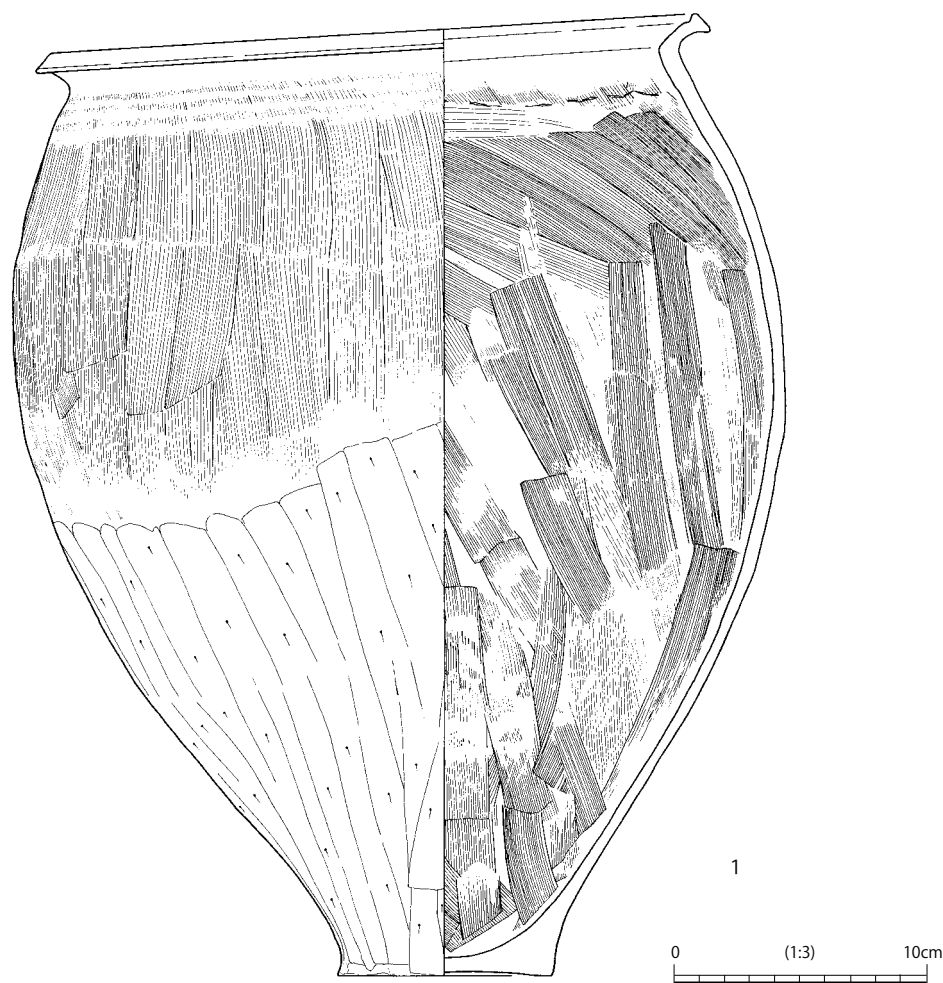
1



2

0 (1:3) 10cm

第 48 图 10-1-1 区 第 12 遺構面 1068 土坑出土遺物実測图 1



第49図 10-1-1区 第12遺構面 1068土坑出土遺物実測図2

は認められるが煤の付着はない。甕として煮炊きに実用されたとは考えにくい。生駒西麓産胎土をもつ「河内型甕」である。

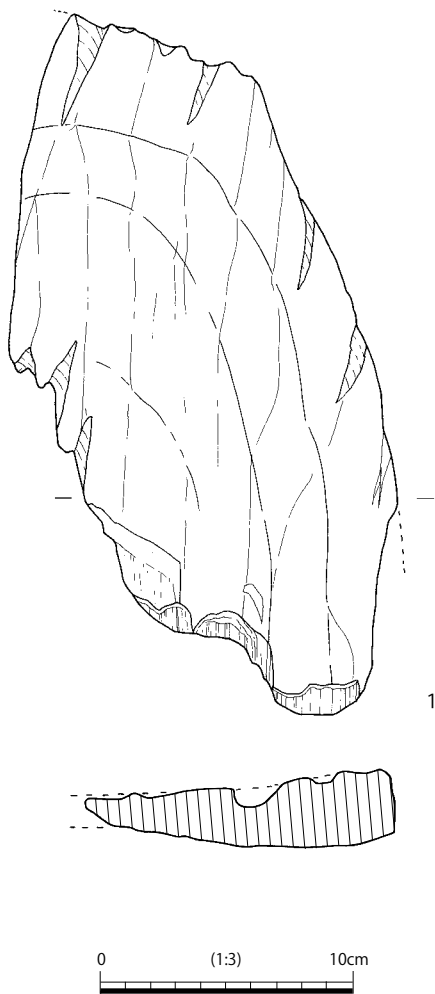
1067土坑（土器棺墓） 1066土坑の北側において検出した遺構である（第45図）。1066土坑と切り合う関係にあり、1067土坑のほうが先行する。平面形状は東西に長い不定形で、長軸1.25m、短軸0.7m、最大深度0.2mを測る。埋土は青灰色極細砂シルトブロックと灰オリーブ色細砂～粗砂ブロックとの混合層を主体とする。断面形状は、逆台形に近い。

土坑の東半部からは棺身に利用されたと見られる甕が、西に口縁を向けた横位置で出土した（第46図2）。また中央部上層からは、鉢の破片がまとまって出土した（第46図1）。遺構の上位は擾乱を受けており、第46図1は、本来の位置を留めていないようである。

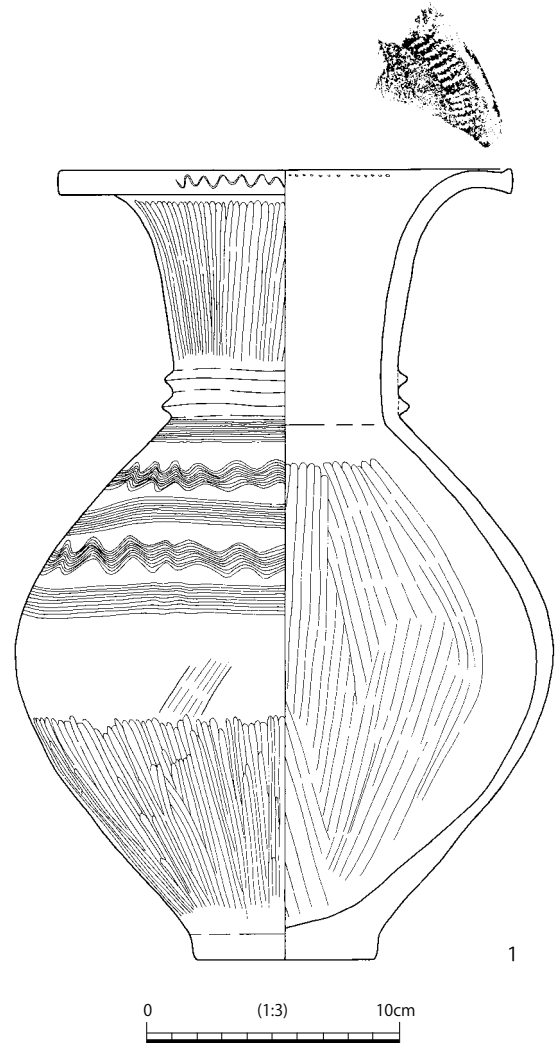
この第46図1の破片は、1066土坑と1068土坑内からも出土している。1066土坑からの出土は小片1点であるが、1068土坑からは、体部の約2分の1に相当する破片がまとまって出土した。1066土坑に土器棺を埋設する際、先行する1067土坑の土器棺が破損し、混入したものか。あるいは1068土器棺埋葬の際に、先行する1067土坑の土器棺を一部割り裂いて一部を利用したものか。

1067土坑の上層からは、棺のほか焼痕のある木片が出土した。加工等は認められず、製品とは考えにくい。棺材である土器の年代から、1067土坑の時期は弥生時代中期中葉～後葉と考えられる。

第46図1（図版48-2-1）は、鉢である。器高は18.5m、復元口径は34.8cmを測る。底部から胴



第 50 図 10-1-1 区 第 13 遺構面 1072 土坑
出土遺物実測図



第 51 図 10-1-1 区 第 13 遺構面 1073 周溝
出土遺物実測図

部は丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は強く内湾し、大きく口径内へ入り込む。口縁端部断面はユビナデにより、丸く作る。2 個 1 対の焼成前穿孔が 2 箇所にてなされている。外面調整は、底部から胴部にかけて縦方向のミガキ、胴部には斜め～横方向のミガキを施す。最大径を測る口縁部付近には、凹線が 6 条認められる。胎土は生駒西麓産であるが、器形は播磨地方の特徴を有する製品である。

第 46 図 2 (図版 47-1-1) は、棺身として使用された甕である。器高 45.0cm、口径 23.7cm を測る。平底の底部から張りのある肩部、短く屈曲外反させた口縁をもつ。口縁端部はナデによって面を作る。外面調整は、底部から肩部付近まで斜め方向のミガキを密に施す。内面にはハケメと疎らなミガキが認められる。底部外面付近には、煤の付着が認められることから、実用品であったと考えられる。生駒西麓産胎土をもつ「河内型甕」である。

1068 土坑 (土器棺墓) 1067 土坑の北東において検出した遺構である (第 47 図)。平面形状は不定形で、やや東西に長い。長軸は 1.08 m、短軸は 0.75 m、最大深度は 0.47 m を測る。断面形状は不定形で底面には凹凸が認められる。埋土は、灰～灰オリーブ色を呈する細砂～粗砂と灰色中砂混じりシルトに灰オリーブ色中砂ブロックを含む上下層で構成される。遺構の中央からは棺蓋に用いられた甕が逆位

置で出土し（第 49 図 1）、その下から棺身である壺がほぼ正位置で出土した（第 48 図 2）。また、壺の口縁とみられる部位が、土坑の西半部上層より出土した（第 48 図 1）。この土器棺は、棺身に襖を用い、大形鉢で蓋をする他の 2 基とは明らかに違う土器を棺材として用いている。特に、壺の口縁部を打ち欠いて利用する点は、10-1-6 区において出土した土器棺との共通性を感じさせる。

第 48 図 1、第 48 図 2 は、壺である。同一個体であるが、頸部を打ち欠いて分断するため接合点は確認できていない。第 48 図 2 の残存器高は 37.5cm、打ち欠かれた頸部の内径は 16.5cm 内外である。胴部中央に最大径を有し、頸部は細く作る器形である。口縁部は大きく開いた後、口縁端部を広く垂下させている。体部外面はハケ後、縦方向と横方向のミガキが密に施されている。胴部上半には櫛描文と波状文を 4 条ずつ交互に刻む。頸部付近の外面調整は、縦方向のハケ後ミガキ、ユビナデである。口縁端部の垂下帯は、6 条の凹線を施した後、幅 0.3～0.4cm の粘土帯を 4 本ずつ 4 箇所貼り付ける。粘土帯の表面には刻み目が入れている。口縁内面上位には櫛描列点文が 2 列付される。体部の内面調整は縦方向のハケメ及びヘラミガキである。底部には指頭圧痕が顕著に残る。底部付近には、焼成後穿孔が認められる。弥生時代中期中葉の製品である。

第 49 図 1 は、棺蓋として使用された襖である。器高は 38.2cm、口径は 25.5cm を測る。肩部が張る器形を持ち、中心軸に対して大きくひずむ。口縁は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は僅かに上方へ摘み上げる。外面調整は底部から胴部がケズリ、胴部から肩部には縦方向のハケを施す。肩部上辺では、ハケ目の上に付した横ナデが認められる。内面は、縦～斜め方向のハケ調整である。器面に煤等の付着は認められない。

1072 土坑 1061 周溝墓の中央付近において検出した土坑である。調査区北側の鋼矢板とこれに沿って設けた側溝の影響により、検出し得た部分は不定形である。南北長 3.0 m、東西幅 0.9 m を測る。断面形状は皿状で、中央部の最大深度は 0.18 m である。埋土は灰オリーブ色細砂混じりシルトを主体とする。上述の通り、既往の調査では 1072 土坑の北東側において「主体部 S05225」が検出されている。木棺は確認されず、人骨のみの出土したことから、土坑墓と判断された。1071 土坑の埋土からは人骨の出土は確認できていないが、位置から見て、主体部の一部である可能性が考えられる。遺構内からは、木片が 1 点出土した（第 50 図 1）。

第 50 図 1 は、板状木製品である。材の表面を削り込み、曲面を作り出している。劣化が著しいものの、表裏面ともに滑らかで、裏面と側面には加工痕が認められる。大型容器が棺材に転用されたものか。用材はクスノキである。

1073 周溝 1061 墳丘墓の表層 0.5 m を除去した段階で確認した遺構である。1061 周溝墓の南西辺を廻り、調査区外へと続く。検出長さは 4.0 m、最大幅 2.5 m、最大深度 0.8 m を測る。断面形状は浅い椀形を呈する。埋土はオリーブ黒色シルトを主体とし、有機質を多く含む底面の傾斜はほとんど認められない。埋土からは、壺が 1 点出土した（第 51 図 1）。

第 51 図 1 は、中型の広口壺である。最大径を測る胴部はやや丸みを帯びて窄まり、直線的のびる頸部へと続く。口縁部は外反して大きく開く。底部付近の外面調整は縦方向のミガキ、肩から胴にかけては、櫛描文 3 条と波状文 2 条を施す。施文原体の幅は 1.2cm である。頸部の根元には、断面を三角形に整えた貼付け突帯が 2 本廻る。頸部外面の調整は縦方向のミガキ、口縁部は上方に摘み上げ、端部をナデて面を作る。端面には波状沈線が一筋付されている。底部から胴部にかけての範囲と、頸部上半から口縁部にかけて、広い範囲で煤が付着することから、下方から火を受けたことがわかる。図上では

復元できていないが、底部から胴部にかけての割れ口の一部に焼成後穿孔の痕跡が残る。供献土器であろう。

1074 周溝 1062 周溝の下面において検出した溝である。1062 周溝より広く、1061 周溝墓の南東辺を廻り、調査区外へ続く。検出長 3.0 m、最大幅 4.3 m、最大深度は 0.4 m を測る。断面形状は浅い椀形を呈する。底面には凹凸が認められる。埋土は、緑灰色細砂～中砂混じりシルトを主体とし、有機物を少量含む。1062 周溝に比べて、基盤層に由来するブロック土の混じり込みが多い。遺構内からの遺物の出土は確認できなかった。

第 14 遺構面 第 13 層を除去した段階で検出した遺構面である。第 14 層は、周溝墓の基盤層であり、調査区中央部のみに堆積するため、遺構面の残存範囲も限られている。顕著な遺構は確認できなかった。

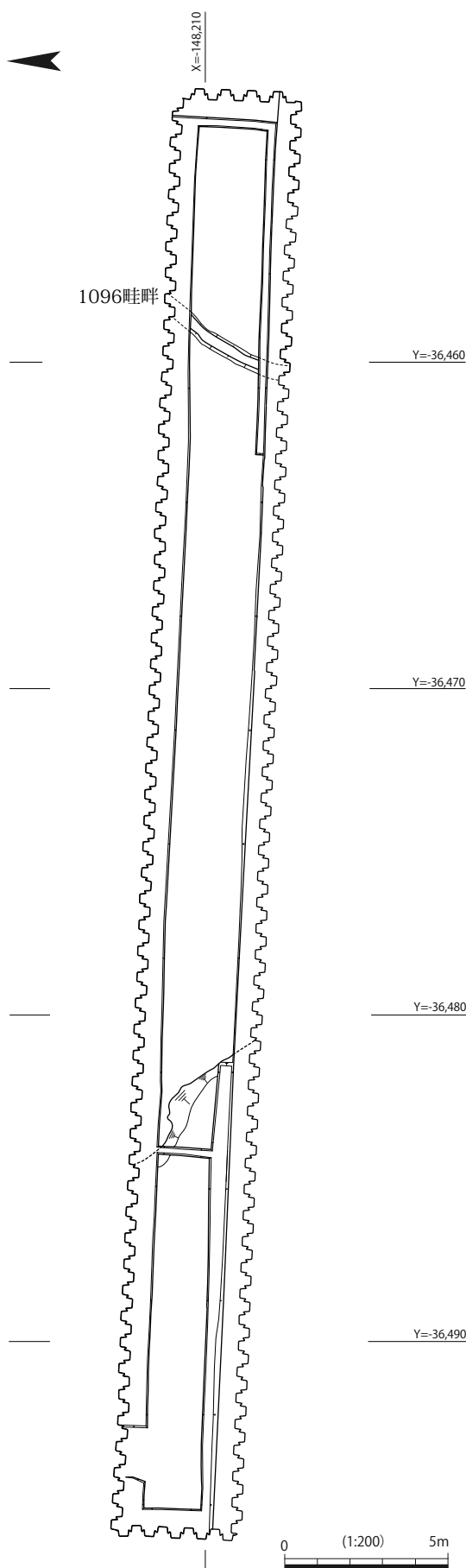
第 15 遺構面 (第 52 図) 第 15 遺構面は、第 15 層の上面において検出した遺構面である。

第 15 遺構面では、畦畔を有する水田跡を検出した。遺構面のレベルは、西に向かって傾斜し、調査区の東端と西端とでは 0.4 m の比高差が生まれている。水田畦畔は、調査区東半部に 1096 畦畔を認めるのみであり、これより西では確認できていない。一方、東に隣接する第 10-1-2 区では、同一遺構面において畦畔をもつ水田を検出したことから、この時期の水田が微高地である 10-1-2 区を中心として広がっていたことがわかる。1096 畦畔は、この水田の西端を限る畦として機能した可能性がある。

遺構面からの出土遺物は確認できていないが、10-1-2 区の調査成果より、第 15 遺構面の時期は弥生時代中期初頭であると推測される。

なお、北接する既往の調査区 99-5 区とその北側に位置する東大阪市 47-1 次調査でも、水田土壌であると推測される層の広がり確認されている。畦畔の検出には至っていないが、10-1-2 区を中心とする範囲に、一定程度の広が地をもつ水田が営まれていた可能性が高い。

1096 畦畔 北東-南西方向に、彎曲しながらのびる畦畔である。検出長は 2.5 m、基部の幅は 0.4 ~ 0.5 m、



第 52 図 10-1-1 区 第 15 遺構面全体図

残存高は 0.08 m を測る。畦畔の東側に比べて西側は 8 cm 前後水田面のレベルが低い。また、東側がほぼ水平であるのに対して、西側は一定の傾斜をもって下がる。このことから、1096 畦畔より西側には水田は続かないと考えられる。

第 16 遺構面・第 17 遺構面・第 18 遺構面 第 16 遺構面～18 遺構面は、弥生時代前期の遺構面である。すべての遺構面において、東から西に向かい緩やかに下がる傾斜が認められる。調査区東半部の土壌は軟質で植物遺体を多く含むことから、湿地が広がっていたことが想像できる。

調査区西半部は、弥生時代後期の流路である 1058 流路の攪乱が第 18 層中まで及ぶため、この時期の様相は不明である。いずれの遺構面においても顕著な遺構を検出することはできなかった。

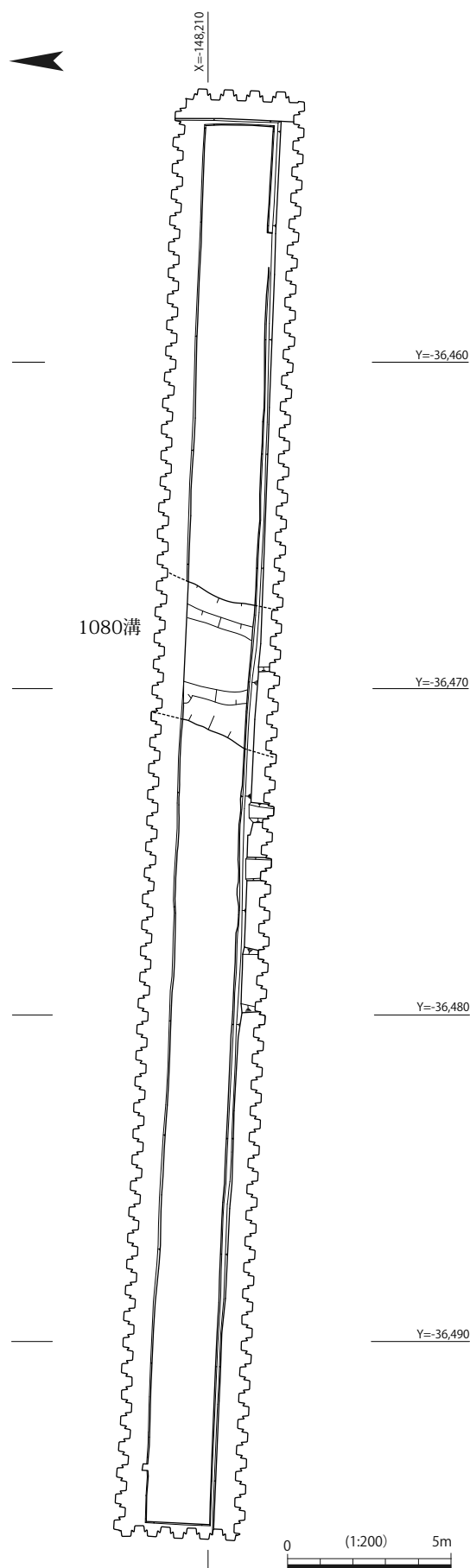
第 19 遺構面 第 18 層を除去して検出した遺構面である。調査区中央部において東から西へ下がる段を検出したが、これは下層遺構である 1080 溝埋土の沈み込みに由来するものである。特に顕著な遺構は確認できなかった。

第 20 遺構面 (第 53 図) 第 19 層を除去して検出した遺構面である。第 19 層は薄層で、調査区東半部にのみ堆積するため、遺構面のレベルは変化が少ない。

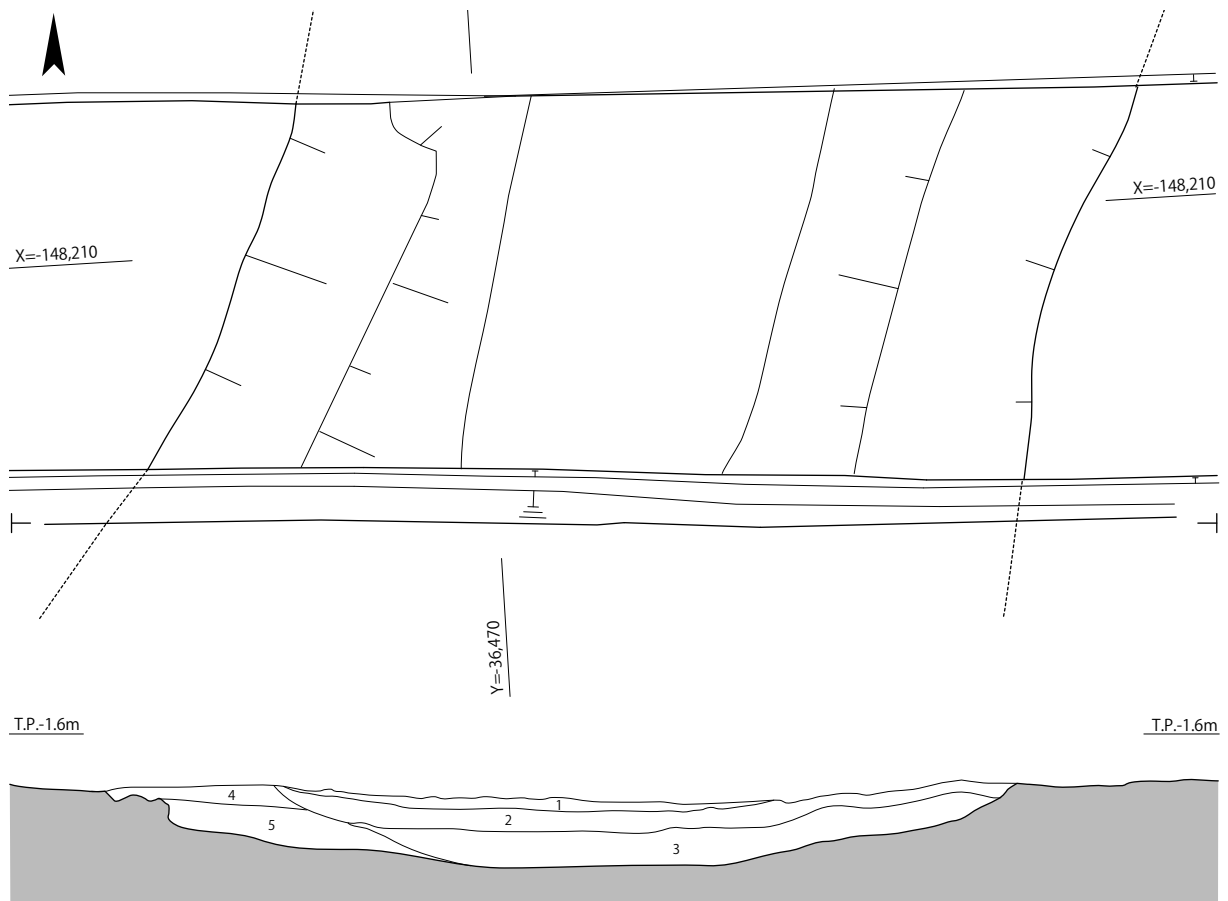
第 20 遺構面は、弥生時代前期中葉の集落域にあたる。調査区中央において、大溝を検出した。

1080 溝 調査区中央を北北東-南南西に通る溝である(第 54 図)。検出長 2.0 m、最大幅 4.0 m、最大深度 0.35 m を測る。既往の調査区 99-5 区においても連続する遺構が確認されており、これを併せると長さ 11 m 以上となる。但し、その北側に位置する市教委第 47-2 次調査区では確認されていない。99-5 区の北辺では溝の東岸が大きく東へ広がるため、99-5 区と 47-1 次調査区までのどこかで東へ進路を変える可能性が高い。

この溝は、最低 1 回の掘り直しが認められる。新溝の掘り方は、旧溝より 0.8 m 程度東へ移動する。旧溝の断



第 53 図 10-1-1 区 第 20 遺構面全体図



1080 溝

- | | | | |
|------------|--------|--------------|---------------------|
| 1) 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 細砂混じり粘土質シルト | 下位に向かって粗粒化 |
| | | | 植物遺体・有機物・土器少量に混じる |
| 2) 5Y2/1 | 黒色 | 極細砂混じり粘土 | |
| 5Y4/1 | 灰色 | 極細砂ブロック含む | 植物遺体・有機物・土器多量に混じる |
| 3) 5Y2/1 | 黒色 | 極細砂混じり粘土質シルト | |
| 5Y4/1 | 灰色 | 極細砂ブロック含む | 植物遺体・有機物・土器多量に混じる |
| 4) 7.5Y2/1 | 黒色 | 粘土質シルト | 7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック含む |
| 5) 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 極細砂混じり粘土 | 5Y4/1 灰色 極細砂ブロック含む |

0 (1:40) 1m

第 54 図 10-1-1 区 第 20 遺構面 1080 溝平面断面図

面は不定形、新溝は浅い椀形を呈している。埋土はともに黒色砂混じり粘土を主体とするが、旧溝は緑色味が強くより粘土質であるのに対して、新溝は灰色極細砂ブロックを含む割合が高い。また、新溝埋土のほうが出土遺物や有機質、植物遺体を多く含んでいる。

1080 溝の性格について、既往の調査報告では、調査区東側に広がる弥生時代前期中葉集落の西側を廻る環濠としての役割が想定されている。1080 溝の断面を見ると、溝の東岸と西岸では、明らかに地表レベルが異なっている。このため、居住域として利用される微高地とそれ以外を区切る遺構であることは確実である。さらに、今回の調査でも、溝の東エリアに比べて西エリアは出土遺物量が極端に少ない傾向が認められた。これらのことから、1080 溝は集落の西端を区切る溝（環濠）として機能した可能性が高いと考える。遺構内からは、弥生土器壺、甕、鉢等が出土した。

第 21 遺構面（第 55 図） 第 20 層を除去した段階において検出した遺構面である。調査区内では、東が高く西に向かって緩やかに下がる。比高差は 0.1 m 程度である。第 20 遺構面では、溝、土坑、ピッ

トを検出した。

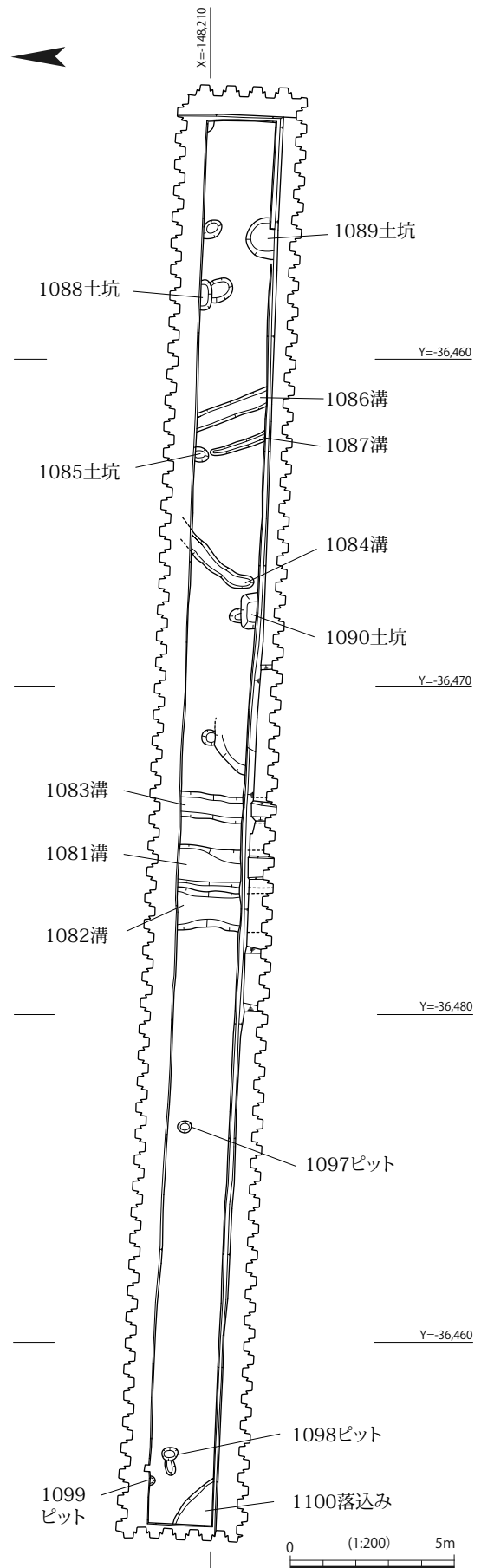
1081 溝 調査区中央部において検出した遺構である。検出長 2.0 m、最大幅 1.2 m、最大深度は 0.1 m を測る。断面形状は薄いレンズ形を呈する。埋土は黒色微砂混じり粘土にオリブ黒色粘土ブロックを少量含む。軟質でしまりが悪い。底面には南から北へ向かう傾斜が認められる。遺構の性格は不明である。埋土からは、甕の破片が出土した。

1082 溝 1081 溝の西側を平行して通る溝である。検出長 2.0 m、最大幅 1.3 m、最大深度は 0.1 m を測る。断面形状は薄いレンズ形を呈する。埋土は 1081 溝に近似しており、底面も同じく南から北へ向かって傾斜する。遺構の性格は不明であるが、99-5 区では二者が合流してさらに北へ向かうようである。埋土からは、壺及び甕の破片が出土した。

1083 溝 1081 溝の東側を平行する溝である。検出長 2.0 m、最大幅 0.7 m、最大深度は 0.15 m を測る。断面形状は不定形である。埋土は黒色微砂混じり粘土で、第 20 層とほぼ同質である。南から北へ向かい傾斜する。99-5 区では連続する遺構は確認されていない。遺構の性格は不明である。遺物の出土はなかった。

1084 溝 調査区東半部において検出した遺構である。調査区内を起点とし、北東方向にのびて調査区外へと続く。検出長 2.5 m、最大幅 0.4 m、最大深度は 0.05 m を測る。断面形状は薄いレンズ形である。埋土はオリブ黒色粘土に灰色ブロックを少量含む。底面は僅かであるが北東へ向かって傾斜する。99-5 区では連続すると考えられる小溝が調査区内を北東方向に突き抜け、調査区外へと続く。類似した溝は集落居住域内に数多く認められるようである。埋土から遺物の出土は確認できていない。

1085 土坑 調査区東半部の北辺において検出した遺構である。検出長 0.4 m、最大幅 0.4 m、最大深度は 0.2 m を測る。断面形状は椀形で、遺構の掘り方は明確である。埋土はオリブ黒色粘土を主体とする上層と、これに灰色微砂ブロックが混じる下層から成る。植物遺体や炭片を少量含む。遺構の性格は不明であるが、居住域を構成する遺構と捉えてよいだろう。遺物の出土は確認で



第 55 図 10-1-1 区 第 21 遺構面全体図

きなかった。

1086 溝 調査区中央部において検出した遺構である。検出長 2.3 m、最大幅 0.5 m、最大深度は 0.1 mを測る。断面形状は不定形で底面が波打つ。埋土は黒色粘土に灰色微砂ブロックを少量含む。軟質である。埋土から遺物の出土はなかった。

1087 溝 1086 溝の西側に平行してのびる小溝である。調査区中央部において検出した遺構である。検出長 0.3 m、最大幅 0.9 mという僅かな範囲での検出である。最大深度は 0.1 mを測る。断面形状及び埋土は 1086 溝に近似する。遺物の出土はなかった。

1088 土坑 調査区東部北辺において検出した遺構である。検出長 2.3 m、最大幅 0.5 m、最大深度は 0.1 mを測る。断面形状は楕形、最大深度は 0.15 mを測る。埋土は黒色粘土に灰色微砂ブロックを少量含む。下位に向かい軟化する。埋土から遺物の出土はなかった。

第 17 層～20 層出土遺物 第 56 図には、第 17 層～19 層において出土した弥生時代前期の遺物を示した。第 56 図 1 は、線刻が認められる壺である。最大径部が器高のほぼ中央にあり、器高が体部最大径を若干上回る器形をもつ。口縁部は外反して開き、口縁端部は丸くおさめる。底部から胴部にかけての外面調整は、縦方向のハケ目の後、斜め方向のミガキを施す。底部付近にはさらに横方向のミガキを行なう。胴部から肩部は、縦方向のハケ後ミガキ、さらにナデで器面を滑らかに整え、その上から線刻を施している。頸部には沈線を 1 条廻らせる。

肩部の線刻は、斜線の上から横方向の沈線を等間隔で 3 本刻む施文帯と、その上位に刻まれた線刻画から成る。確認できる線刻画は 3 点である。まず 4 本×2 箇所、計 8 本の線刻を蝶が羽根を広げたような格好を表現するもの(①)が 1 点、その右には計 5 本の線刻が手を広げたように配されたもの(②)があり、これとほぼ同じものがその右側にもう 1 点(③)刻まれている。同時代に類例が見出せず、線刻の意味は不明である。

第 56 図 2 は、甕の口縁部である。肩が張らない器形で、外反する口縁部の先端面に刻み目を施す。外面には僅かにヘラナデとユビナデが残る。肩部に 4 条の沈線を廻らせる。生駒西麓産胎土である。

第 56 図 3 は、直径 18cm を測る大型の底部で、鉢の一部かと推測される。生駒西麓産胎土である。第 56 図 1～3 は、第 17 層～18 層から出土した。

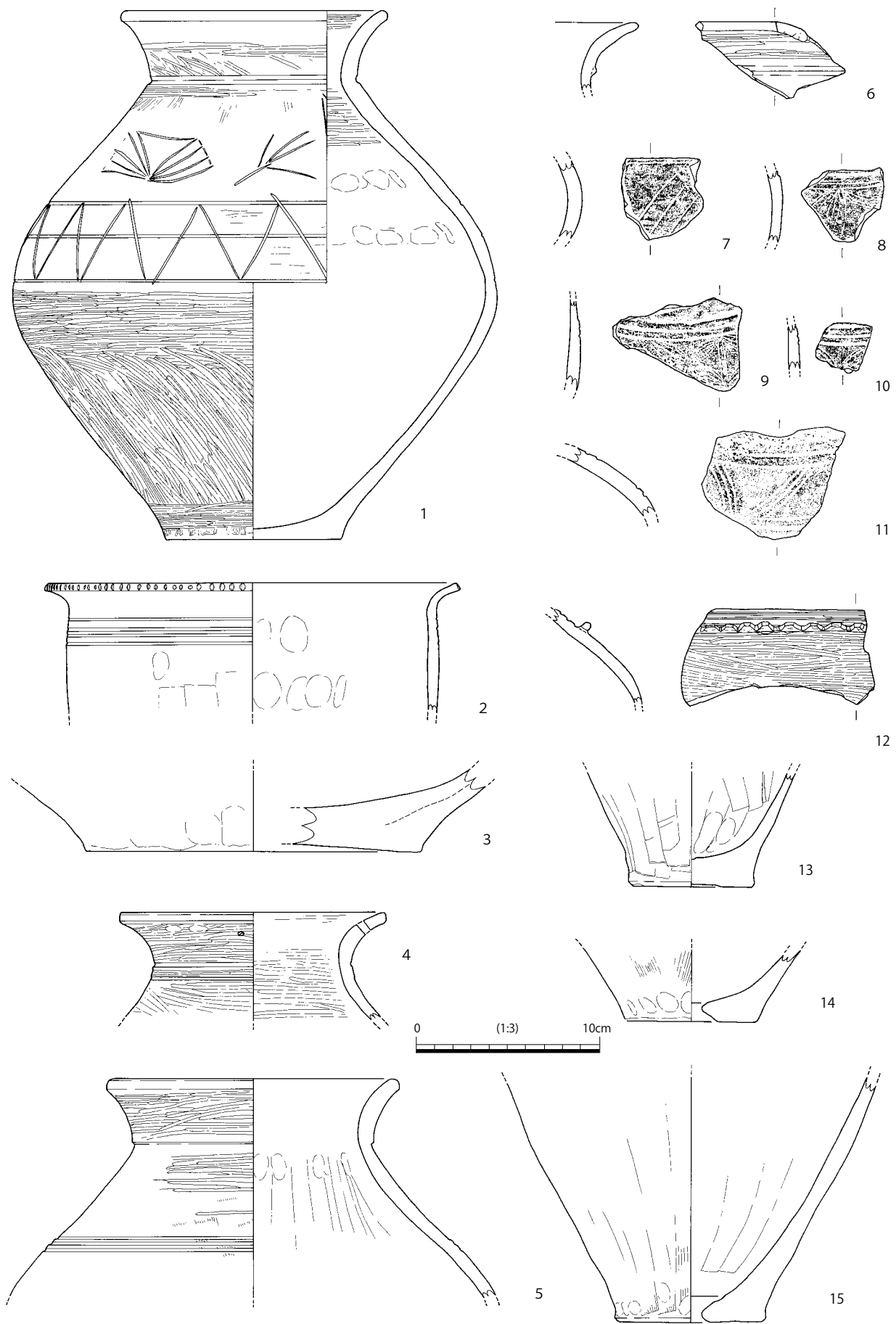
第 56 図 4～6 は、壺の口縁部である。4 の外面は横方向のミガキが顕著に認められる。頸部に削出し突帯が 1 条設けられている。外反する口縁部には、焼成前穿孔が 1 箇所残る。5 は、頸部に段、肩部に 3 条の沈線を有する。外面調整は、縦方向のハケ後横方向のミガキである。内面調整は、工具によるナデが施されている。

第 56 図 6 は頸部に断面三角形の貼付突帯を施す。

第 56 図 7～12 は、壺の肩部から胴部にかけての破片である。7 は、最大径を測る胴部破片で、横方向の沈線と斜線が認められる。8 は、4 条の沈線と木の葉文、9 と 10 は同一個体で、3 条の沈線と木の葉文を刻む。11 は、沈線の間山形文を配している。

第 56 図 12 は、肩部に貼付突帯を廻らせた破片である。突体の上面には刻み目を施すが、工具で切り欠いたようなシャープな装飾となっている。貼付突帯の上位には沈線 3 条を付す。

第 56 図 13～15 は、甕の底部である。外面はハケまたはヘラナデ、内面はヘラナデを施す。13・14 の底部中央には焼成後穿孔が認められる。



第56图 10-1-1区 第17層~第19層出土遺物実測図

2. 10-1-2区

10-1-2区は、10-1-1区の東側に設定した調査区である。調査区内に電鉄鉄塔の基礎と近現代の水路が通るため地表の一部を損なうが、これ以外の範囲では弥生時代前期から近世に至るまでの包含層が良好な状態で残存する。10-1-2区では、計26枚の遺構面を検出した。

第1遺構面（第57図） 機械掘削層除去面である。調査区の北辺は近現代の水路による攪乱を受ける。中央部付近には、炭化物や焼土が集中する炭だまりが認められる。基盤層となる第1層からは、瓦質土器鉢・火鉢、土師器炮烙、陶器天目茶碗・鉢・播鉢・皿・湯呑、染付碗、瓦、砥石、木製容器蓋等、中世末～近世の遺物が多数出土した(図版48-3～49-1・50-1)。特に多いのは、16～17世紀の製品である。

図版49-1-1～49-1-3は、染付である。49-1-1は器高が低い碗で、見込み部に砂目を残す。49-1-2は皿で、内面に鉄釉で文様を描く。底部外面は無釉、見込み部には砂目を残す。49-1-3も同じく皿で、見込み部に砂目、高台には離れ砂が付着する。

図版49-1-4～49-1-6、49-2-5は砥石である。49-1-4は、和泉砂岩製で3面に研磨面が認められる。49-1-5は、褐色味を帯びた粘板岩性で、研磨面は1面残存する。49-1-6は片麻岩製で、研磨面には刃物傷が縦横に認められる。49-2-5は粘板岩製で、研磨面は4面残る。うち1面に刃物傷がある。

図版49-1-7は、土師器の蓋である。外面に花の陽刻があり、中央に突起状の摘みを作る。

図版49-1-8は、陶器の小型壺である。体部外面は、横方向にハケ目様の刻みを施した後、等間隔に粘土を掻き取る装飾を凝らす。一部に柿釉の塗布がある。底部外面には糸切り痕が残る。

図版49-1-9は、唐津焼碗の底部である。白土を渦状に塗布する「刷毛目唐津」で、体部外面には意図的に刷毛目を乱す造作が為される。見込み部には砂目が残る。

図版49-2-1は陶器の鉢か。須恵質で、内面は表層が黒く染まる。内外面とも調整は丁寧なナデである。底部外面には丸に武田菱をあしらった印が小さく押される。

図版49-2-2は丹波焼の播鉢である。内面に4本1組の播目が明確に残る。

図版49-2-7は、円筒埴輪の破片である。須恵質で灰色を呈する。外面調整は縦方向のハケ、内面にはユビナデと斜め方向のハケ目が認められる。

図版50-1-2は、瓦質土器深鉢の口縁部である。体部に雲形のスカシを作り、その周囲に粘土帯を縦横に貼り付けて装飾する。内外面ともに煤の付着が認められる。

図版50-1-4・50-1-5は、土師質の丁銀形土製品である。ともにほぼ実寸大で、文様まで細かく再現されている。表面には「実」等の裏文字が陽印されている。50-1-5には、焼成前穿孔が1点認められる。

図版50-1-7は、土師質の土人形である。頭部を欠くが、旅僧が座す姿を模したものと思われる。肩に荷を結び、右手に笠をもつ。内部は中空である。

図版50-1-10は、瓦質土器浅鉢の一部である。焼成が甘く、土師質に近い。底部には短い脚が1箇所残る。口縁部外面には凹線が2条浅く残る。底部外面の一部に煤が付着する。

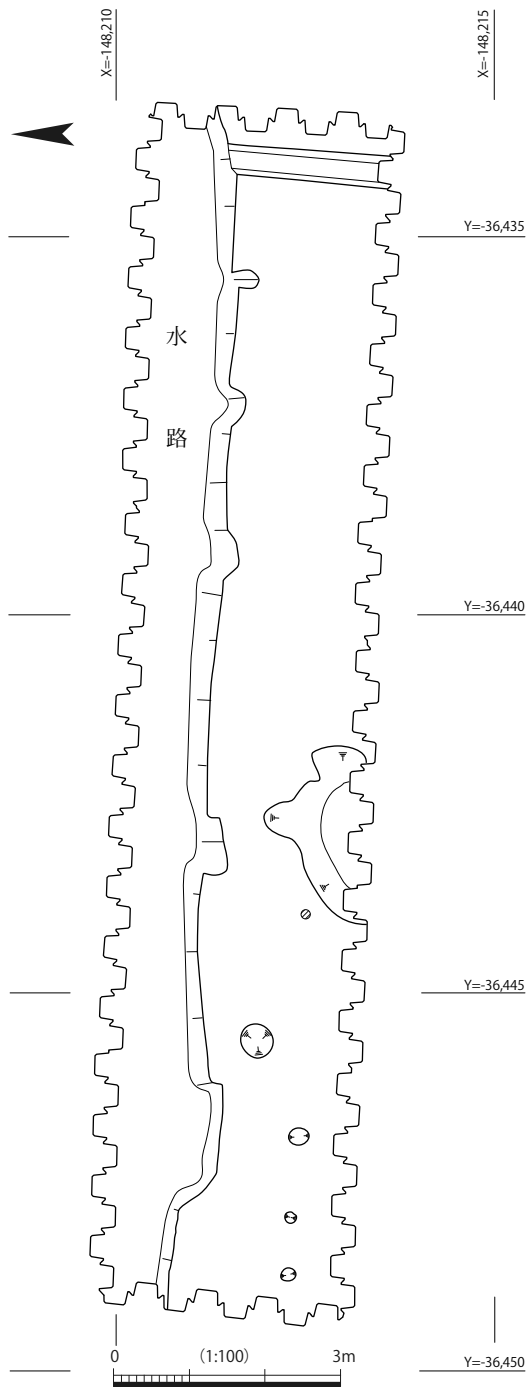
第2遺構面（第58図） 第1層を除去して検出した近世初頭の遺構面である。調査区中央から西半部へ段をもって下がり、北西部ではさらに落込む（2005落込み）。2005落込みからは、円筒埴輪、瓦器碗、陶器播鉢、磁器、瓦質土器鉢、瓦、土製品等が、焼土塊や炭とともに出土した。

図版 50-1-1 は、球状の石製品である。一面を平たく加工する以外は、細かい敲打を加えることにより曲面を作り出す。石造物の一部か。

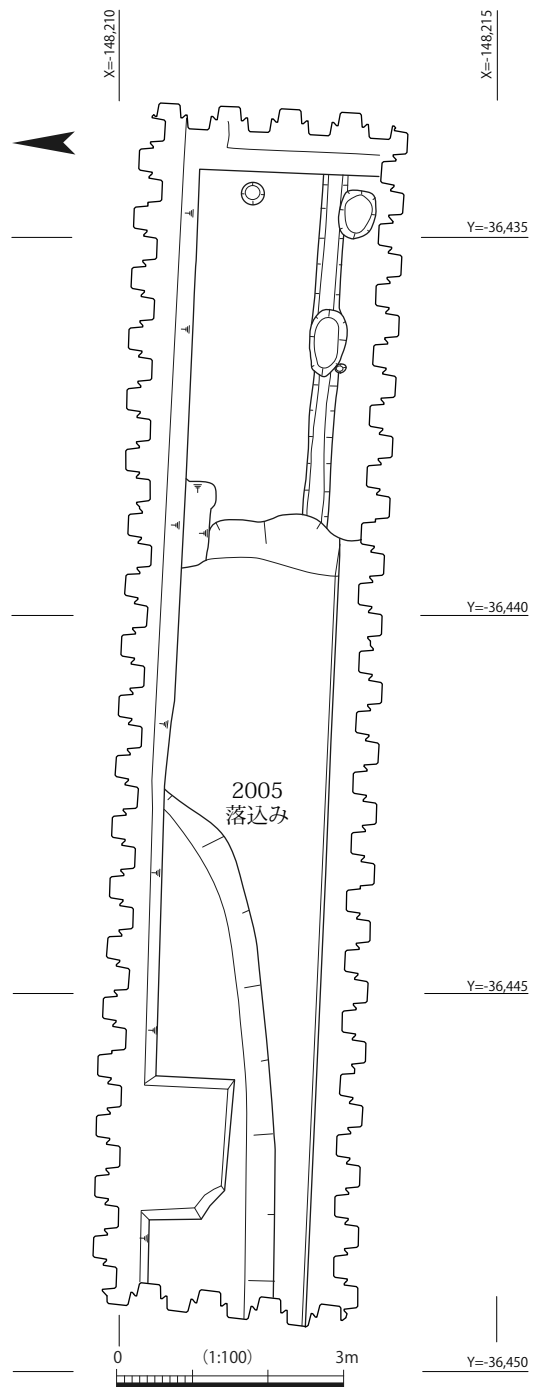
図版 50-1-3 は土師質の土人形である。50-1-3 は、地蔵を模したものである。側面には型抜き時にはみ出した粘土を削り取る痕跡が認められる。底面には 6 mm を測る孔が穿たれている。

図版 50-1-8・50-1-9 は、瓦質土器土器の深鉢である。内面には煤の付着が顕著に認められる。

図版 50-1-11 は、土製品（土馬）である。頭から上半身に当たる部位で、下半身と 4 本の足、頭部の右面は欠損する。胴部に比べて頭部は扁平に作られている。頭部全面には、左目を表現する線刻がかすかに認められる。2005 落込み付近の側溝内より出土した。中世以前の製品か。



第 57 図 10-1-2 区 第 1 遺構面全体図



第 58 図 10-1-2 区 第 2 遺構面全体図

第3遺構面（第59図） 第2層を除去して検出した遺構面である。調査区東半部には西へ下がる段があり、これより東では東西方向にのびる溝とピットを検出した。また段より西では南北方向にのびる溝を検出した。遺構面の時期は、中世末～近世初頭である。

2001ピット 調査区東端部において検出した遺構である。直径0.25 m、最大深度は0.18 mを測る。断面形状は、深い椀形を呈する。埋土は暗オリーブ灰色極粗砂混じりシルトを主体とする。遺構内からは、土師器皿、瓦質土器三足釜の一部が出土した。

2002溝 調査区東辺部を東西にのびる溝である。検出長3.3 m、最大幅は0.5 mを測る。断面形状はレンズ形、最大深度は0.1 mである。傾斜角度はほとんど認めることができない。埋土は灰色砂混じりシルトで、上位に堆積する第2層に近似する。集落内の区画溝か。遺物の出土は確認できていない。

2003溝 調査区の中央を南北に通る遺構である。検出長0.43 m、最大幅0.18 m、最大深度0.15 mを測る。溝幅を増減させながら北へ向かって緩やかに傾斜し、調査区外へと続く。埋土は、上層の落込み埋土である灰色シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。埋土からは、瀬戸焼碗、軒平瓦等が出土した。近世の遺構である。

2004溝 調査区西辺を南北に通る溝である。検出長は短く、1.0 m余り、最大幅は4.1 mを測る。断面形状は皿型、最大深度は0.1 mを測る。埋土は暗灰色細砂混じりシルトを主体とする。断面には弱い葉理が残る。遺物の出土は確認できなかった。

第4遺構面（第60図） 第3層を除去して検出した遺構面である。ピット、溝、落込みを検出した。遺構面の年代は中世後期である。

2005溝（＝2005落込み下層） 第2遺構面において検出した落込みの初形態は、調査区北西を流れる溝である。近世遺物を多量に含む上層と、中世遺物を少量含む下層に大別できることから、ここでは下層を中世遺構として図示する。

2005溝の検出長は6.5 m、最大幅は1.5 m、最大深度0.5 mを測る。埋土は黒色シルトを主体とする軟質層で、植物遺体を少量含む。埋土からは白磁壺（図版49-2-6）、瓦器椀（図版51-1-2）、土師器皿が出土した。

図版49-2-6は、白磁の壺（四耳壺か）の口縁部である。やや外彎して立ち上がる口縁部の先端は、外方へ折り曲げて垂下させている。調整はナデ、内面の一部にケズリが認められる。釉薬の一部には僅かに気泡が認められる。中世前期の製品である。

図版51-1-2は、和泉型の瓦器椀である。低い器高と小さな貼付け高台をもつ。磨滅のため、ミガキ、暗文などは確認できない。胎土は粗く、一辺5mmの角礫が混じる箇所がある。中世前期の製品である。

2006溝 調査区中央を南北に通る遺構である。検出長2.5 m、最大深度1.1 m、断面形状は、レンズ形、最大深度は0.25 mを測る。下層遺構である2025大溝の最終形態である。埋土からは、瓦質土器捏鉢・浅鉢・播鉢、土師器皿、平瓦、須恵器器台の破片（図版51-1-5）が出土した。

図版51-1-5は、器台の脚部である。破片であるが、一部に方形スカシが認められる。外面は波状文3条が密に施されている。内面はヨコナデの後、3本の沈線から成るヘラ記号を刻む。古墳時代中期の製品である。

第4遺構面では多数のピットを検出したが、このうち、明確な掘り方をもつ遺構は以下の4点である。

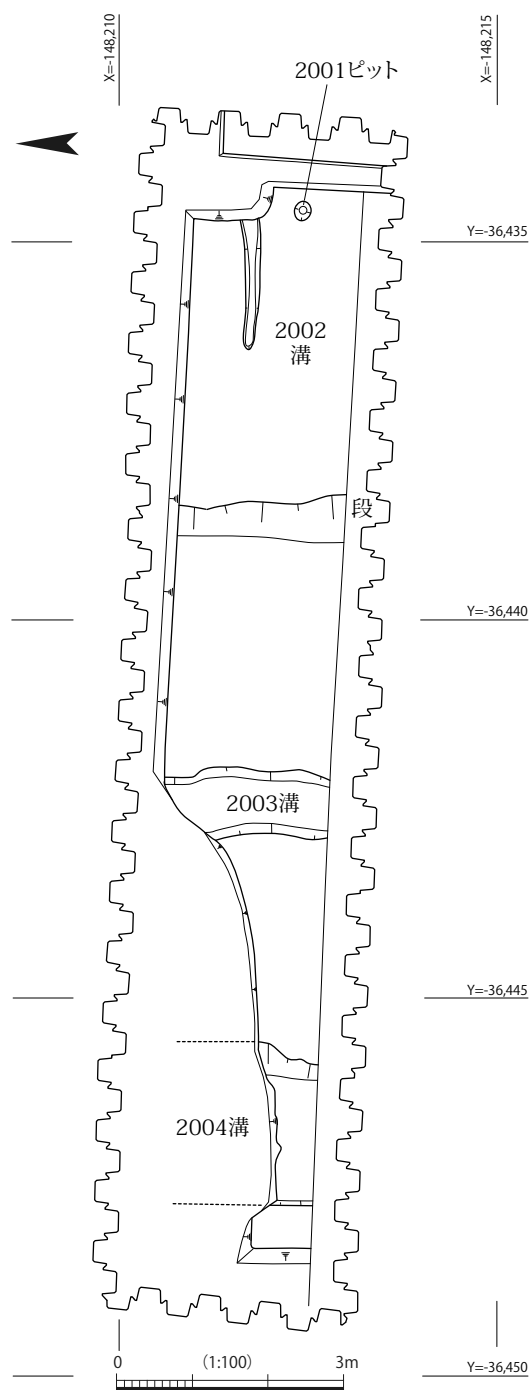
2010ピット 調査区東半部の中央において検出した。平面形状は直径0.19 mを測る円形、断面形状

はU字形で最大深度0.16 mを測る。埋土は灰色細砂混じり粘土質シルトである。遺物の出土はなかった。

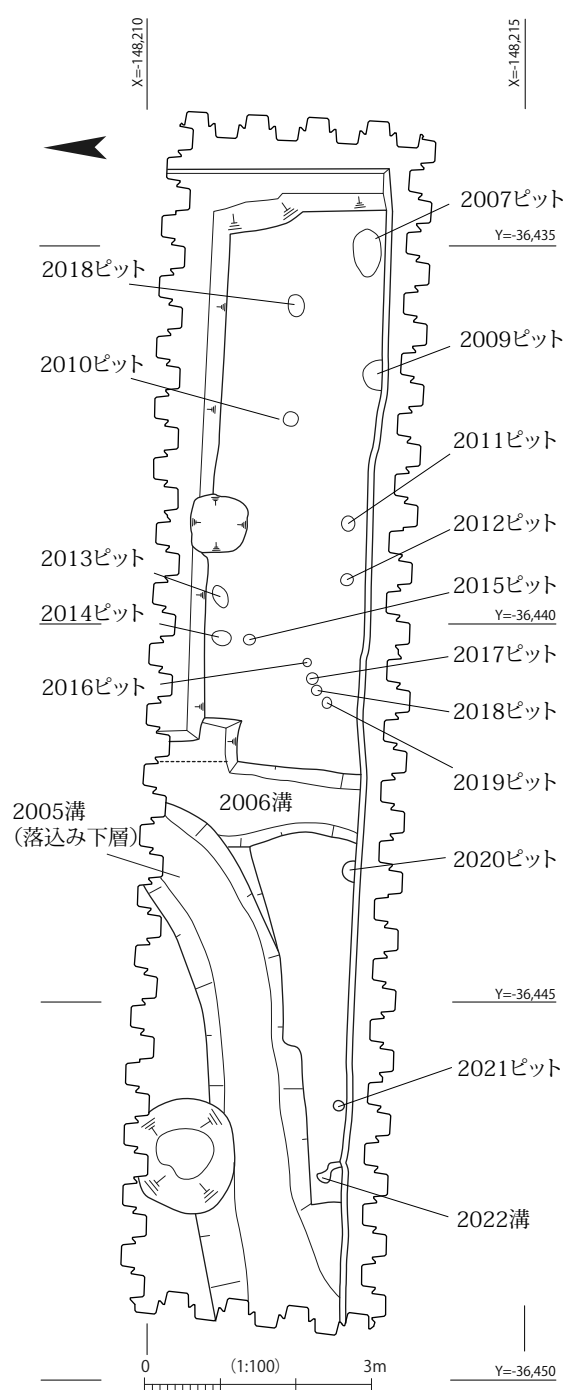
2013ピット 調査区中央部の北辺において検出した。平面形状は長円形で、長径0.28 m、短径0.15 mを測る。断面形状は深いU字形で最大深度0.46 mを測る。埋土は灰色細砂混じり粘土質シルトである。締まりが悪く、軟質である。遺物出土はなかった。

2014ピット 2013ピットの西側において検出した。平面形状は長円形で、長径0.22 m、短径0.15 mを測る。断面形状は深い逆台形で最大深度0.22 mを測る。埋土は2013ピットと同質、遺物の出土は確認できていない。

2015ピット 2014ピットの南側において検出した。平面形状は直径0.16 mを測る円形、断面形状は



第59図 10-1-2区 第3遺構面全体図



第60図 10-1-2区 第4遺構面全体図

逆台形で最大深度 0.15 m を測る。埋土は 2013 ピットと同質、遺物の出土はなかった。

第 5 遺構面 (第 61 図) 第 4 層を除去して検出した遺構面である。調査区中央西寄りの地点において、南北にのびる大溝を確認した。また中央東寄りの地点では、土坑 2 基を検出した。遺構面の時期は、中世後期である。

2023 土坑 平面形状は不定形、長径(南北長) 0.9 m、短径(東西長) 0.6 m を測る。南北方向の断面形状は皿型、最大深度は 0.15 m を測る。埋土は灰色シルトに中砂～極細砂を含む。遺構の性格は不明である。埋土からは土師器皿と釜の破片が出土した。

2024 土坑 平面形状は不定形、長径(東西長) 0.5 m、短径(南北長) 0.4 m を測る。東西方向の断面形状は U 字形、最大深度は 0.4 m を測る。埋土は暗灰色シルトに中砂～極細砂を含む。軟質で下に植物遺体を含む。遺構の性格は不明である。遺物の出土は確認できなかった。

2025 溝 調査区を南北に横断する大型遺構である。検出長は 3.0 m、最大幅は 4.0 m を測る。断面形状は不定形な椀形で、最大深度は 1.1 m を測る。数度の掘り直しが行われたと考えられるが、そのいずれかの段階で、溝岸が東へ拡張され、杭列が設けられた。杭の用材には、マツとタケを用いている。

埋土は、主に黒色シルトと灰色細砂の互層で構成される。今回の調査では、溝埋土を分層線ごとに掘り分けて、出土遺物の新旧比較を試みたが、明確な時期差を判断することはできなかった。おそらく何度も行われた掘り直しによって、層序の混同がおこったものと解釈される。2025 溝の出土遺物の年代幅は、中世前期～後期(13～15 世紀)である。

この 2025 溝は、既往の調査では、L 字形に曲がると報告されていた遺構であるが、今回の調査により、南北方向を主軸とする大溝から、99-4 区と 10-1-2 区の接点付近において東へ分岐し、「卜」形を呈することが明らかとなった。既往の調査区 99-4 区、市教委 47-1 次調査 D トレンチの成果を合わせると、この大溝は計 24 m 以上の長さにわたって南北方向へ続くこととなる。同種の大溝は、10-1-1 区、10-1-4 区でも確認されており、40～50 m の間隔で並行して存在する。明確な機能は明らかではないが、瓜生堂集落内の区画や防御などの機能を担ったのではないかと推測されている。

2025 溝の埋土からは、土師器皿・羽釜、須恵器甕・杯、灰釉陶器碗、青磁碗、白磁碗、瓦器椀・皿、瓦質土器播鉢・羽釜・三足釜・甕・鍋、備前焼播鉢、鬼瓦、円筒埴輪、ミニチュア土器、木製曲物、漆器碗、柄杓、砥石等、多彩な遺物が出土した(図版 51-2・52-1・52-2・53-1・54-1・55-1・56-1・57-1・58-1・106-1・107-1)。特に土師器皿は、完形品がまとまって出土した。

第 6 遺構面 (第 62 図) 第 5 層を除去して検出した遺構面である。調査区東半部から中央にかけての北辺では 2026 溝を検出した。この溝は延伸して 2025 溝と合流する。このため、遺構面は南東部の一角と西端部のみに残存する。調査区南東部では、小溝と土坑を検出した。

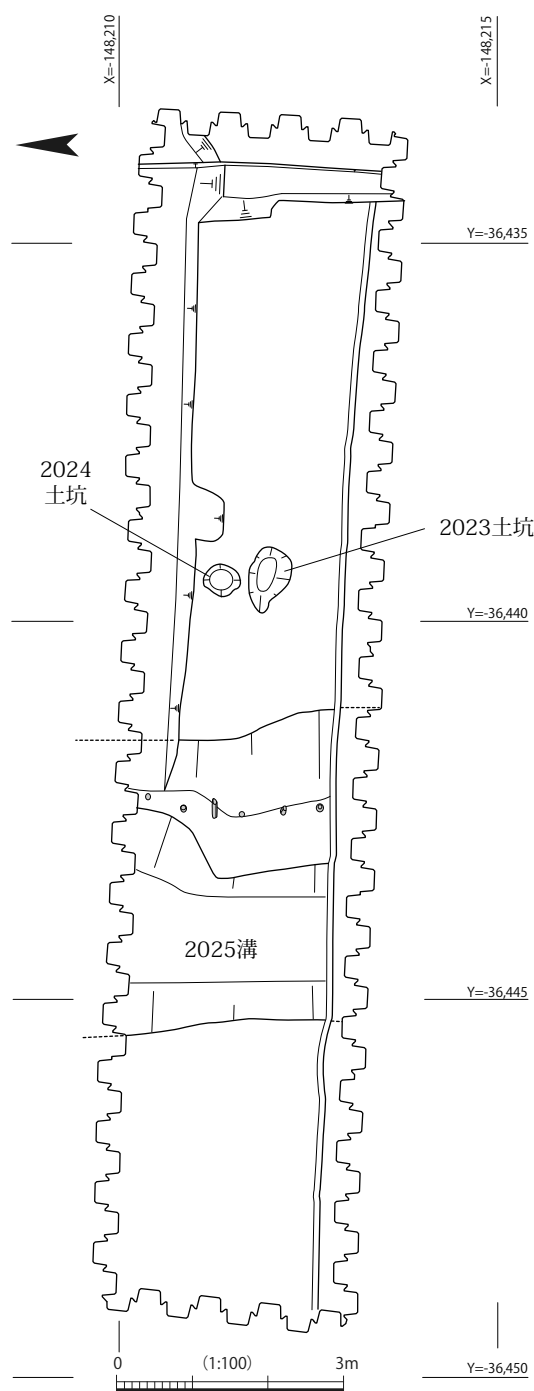
2026 溝 東西方向に主軸をもつ溝である。検出長 8.2 m、検出幅 2.2 m を測る。断面形状は逆台形、最大深度は 0.75 m を測る。埋土は、暗オリーブ灰色シルトを主体とする上層と、暗灰色極細砂混じりシルトを主体とする下層に大別できる。下層には植物遺体が多く含まれている。埋土からは、瓦器皿、土師器皿、瓦質土器羽釜、須恵器甕が出土した。遺物の年代幅は 13 世紀～14 世紀である。このため、開削時期は 2025 溝とほぼ同時であるが、埋没した時期は 2025 溝より早かったと考えられる。

2027 土坑 調査区東辺において検出した遺構である。平面形状は直径 0.3m を測るひずんだ円形である。

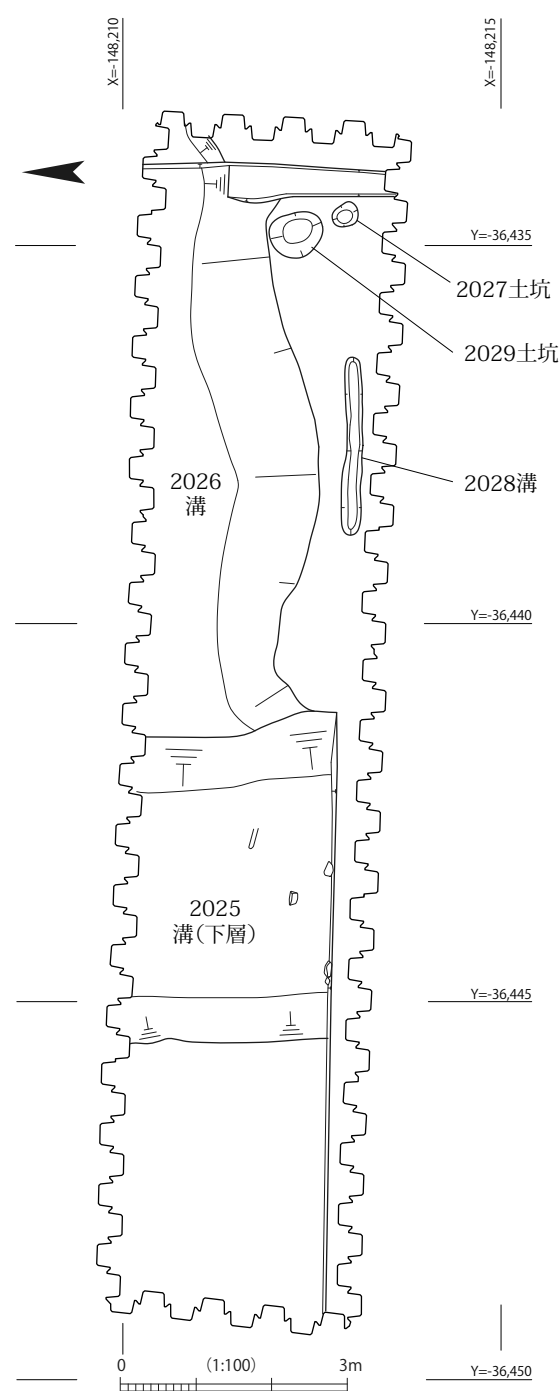
断面形状はレンズ形で、最大深度は 0.1 m を測る。埋土は褐灰色シルト～極細砂を主体とする。炭化物、植物遺体が少量混じる。埋土からは、須恵器甕、瓦器碗の破片が出土した。

2028 溝 調査区東半部南辺において検出した遺構である。東西方向に主軸をもつ。最大長 2.3 m、最大幅 0.24 m を測る。断面形状は浅いレンズ形、最大深度は 0.05 m を測る。埋土は灰色極細砂混じりシルトを主体とする。遺物の埋土からは、施釉陶器皿の破片が出土した。

2029 土坑 調査区東辺において検出した遺構である。平面形状は長径 0.7 m、短径 0.6 m を測る長円形である。断面形状はレンズ形で、最大深度は 0.1 m を測る。埋土は灰オリーブ色極粗砂混じりシルトを主体とする。炭化物が少量混じる。埋土からは、須恵器甕、瓦器碗の破片が出土した。



第 61 図 10-1-2 区 第 5 遺構面全体図

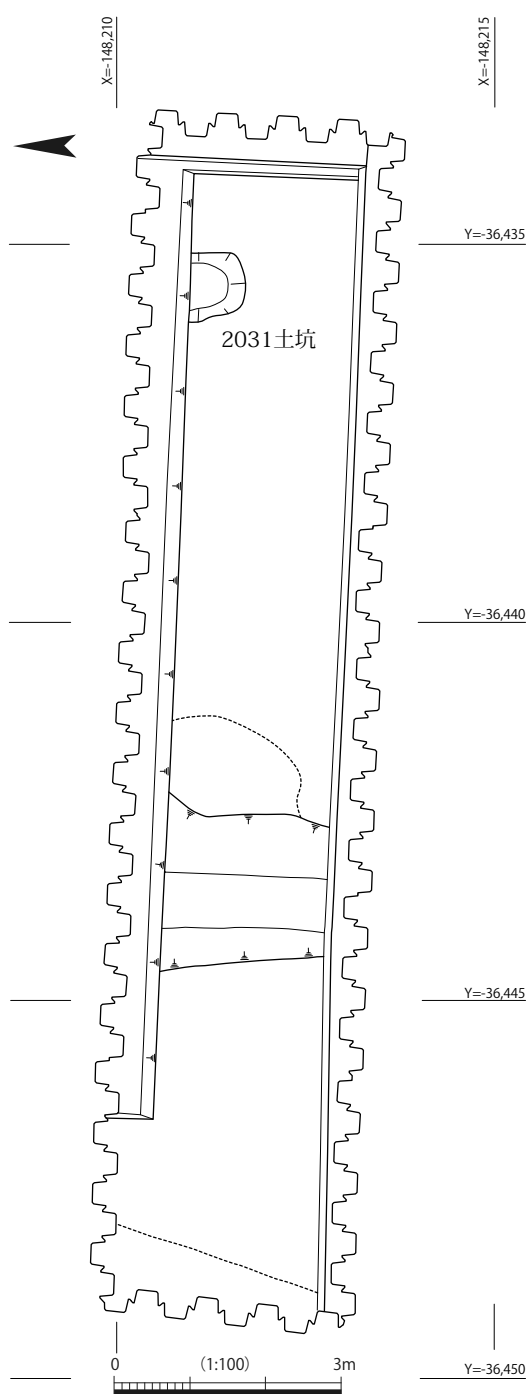


第 62 図 10-1-2 区 第 6 遺構面全体図

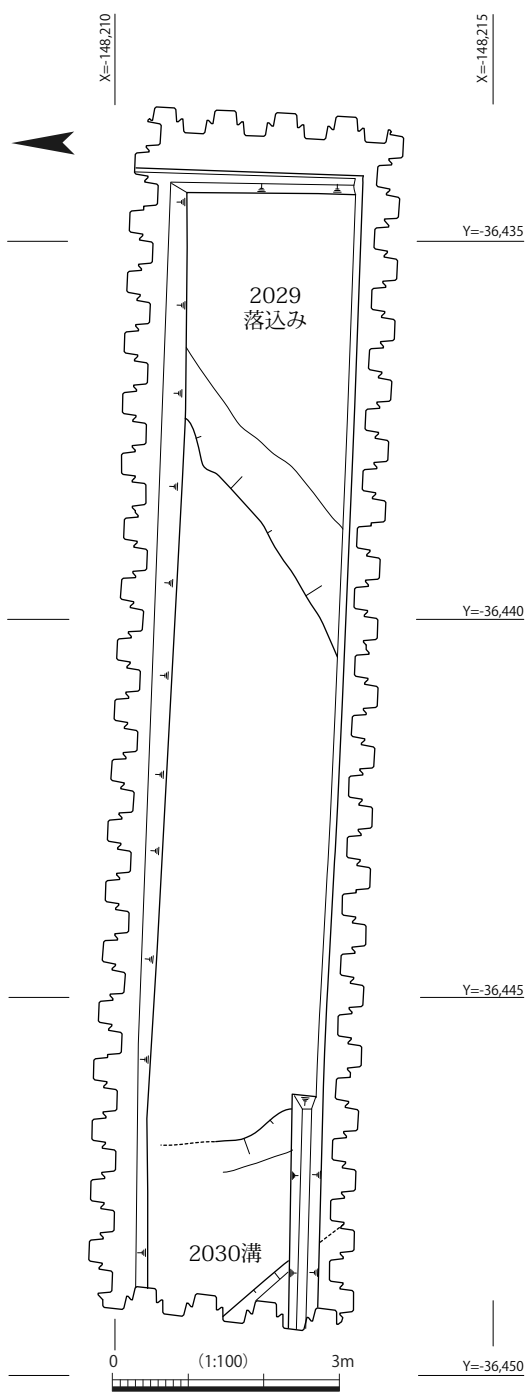
第7遺構面・第8遺構面 古代～中世前期に相当する遺構面である。ともに明確な遺構を検出することはできなかった。

第9遺構面 (第63図) 古代包含層である第8層を除去した段階で検出した遺構面である。遺構面は東から西へ向かって緩やかに下がる。この遺構面では、土坑を1基検出した。

2031土坑 調査区東半部北辺において検出した遺構である。一部を側溝によって失うが、南北に主軸をもつ長円形であると推測される。南北長0.7m、東西幅0.9mを測る。東西方向の断面形状はレンズ形で、最大深度は0.05mを測る。埋土は、オリーブ黒色極細砂混じりシルトを主体とする。遺物の出



第63図 10-1-2区 第9遺構面全体図



第64図 10-1-2区 第15遺構面全体図

土は確認できなかった。

第 10 遺構面～第 14 遺構面 古墳時代前期流路の上面が第 10 遺構面、下面が第 11 遺構面である。両面ともに起伏は認められるものの、特に顕著な遺構は検出できなかった。

第 12 層～第 14 遺構面は、弥生時代後期相当面であるが、今回の調査では明確な遺構を検出することができなかった。第 12 層～14 層は、植物遺体を多く含む湿地堆積の重なりである。このため、当該時期の調査区周辺は葦類が繁茂する湿地が広がっていたと推測される。

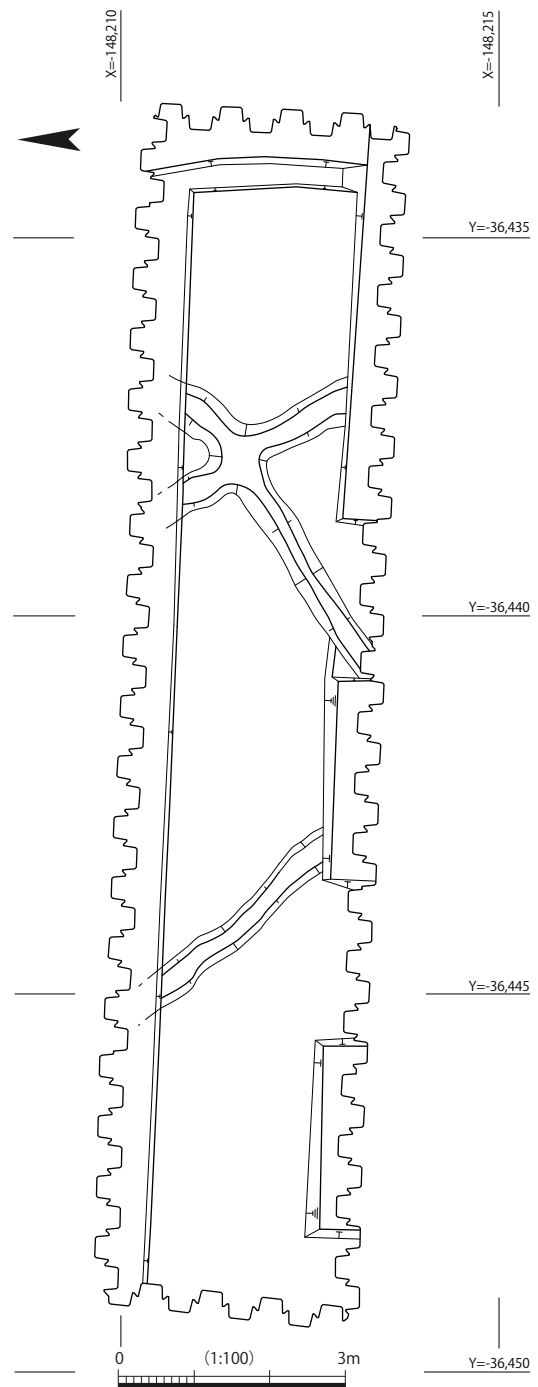
第 15 遺構面 (第 64 図) 第 14 層を除去した段階で検出した遺構面である。10-1-1 区では、周溝墓を検出した弥生時代中期後半遺構面に相当する。この遺構面では、落込みと溝を検出した。

2030 溝 調査区西端部において検出した溝である。西岸は調査区外にあるため、遺構の規模は不明である。検出長は 2.0 m、検出幅は 3.0 m 程度である。東岸より 2.0 m の地点に段があり、さらに西に向かって落ちる。この部分の最大深度は 0.1 m 程度である。埋土は灰色細砂を主体とする。水流は、南東から北西に向かっていたと推定される。遺物の出土は確認できていない。

第 16 遺構面・第 17 遺構面 弥生時代中期に相当する遺構面である。今回の調査では、ともに顕著な遺構を検出できなかった。

第 18 遺構面 (第 65 図) 第 17 層を除去した段階で検出した遺構面である。第 17 層は細砂～粗砂層であったため、粘土質である水田耕土上面の畦畔を容易に検出することができた。検出範囲は狭小であるが、小畦畔により区画されていたことが明瞭にわかる。既往の調査では確認されていない遺構面であり、瓜生堂遺跡の変遷と土地利用を知る上で有効な手がかりとなる。耕作土の層厚は南に向かって増すことから、水田域も南へ広がる可能性が高い。

遺物の出土が確認できていないため、この水田の時期は明確ではないが、10-1-3 区において確認されている弥生時代前期末の水田遺構面とは、層序が対応しないようである。前後の層序関係から、弥生時代中期の早い段階において形成された水田と判断した。



第 65 図 10-1-2 区 第 18 遺構面全体図

第 19 遺構面・第 20 遺構面 ともに弥生時代中期初頭に相当する遺構面である。今回の調査では、顕著な遺構を検出できなかった。

第 21 遺構面 (第 66 図) 弥生時代前期包含層である第 21 層の上面において検出した遺構面である。調査区東半部で土坑を、西半部で溝を検出したが、2033 土坑は、後に下層遺構 2034 土坑の表層であることが判明した。このため、第 21 遺構面で検出した明確な遺構は、2032 溝のみである。

2032 溝 調査区西半部を横断する溝である。検出長 2.3 m、最大幅 1.1 m を測る。断面形状は薄いレンズ形、最大深度は 0.05 m を測る。南から北へ向かって幅を広げ、調査区外へと連続する。埋土は灰色シルトである。僅かにラミナが観察できることから、ごく弱い水流があったものと推測される。遺物の出土は確認できていない。

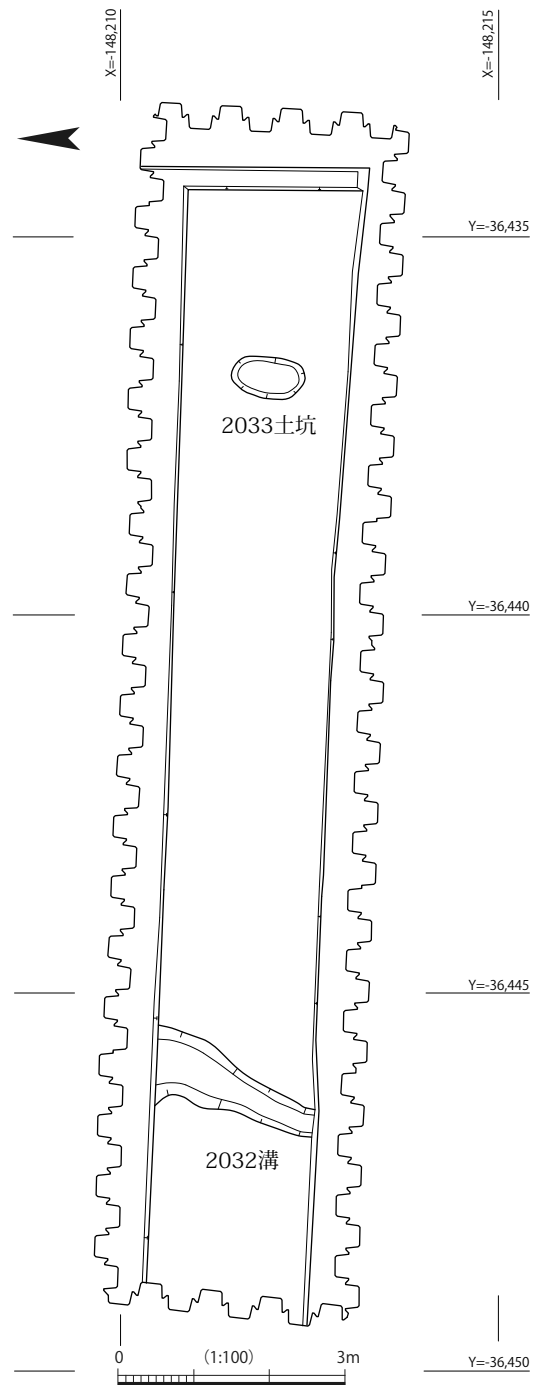
第 21 層出土遺物 第 21 層からは、弥生時代前期の土器がまとまって出土した (第 67 図)。

第 67 図 1～3・10・11 は、壺の口縁部である。1 (図版 59-1-7) は、頸部に削出し突帯を設け、その上から刺突文を施す。口縁部には蓋孔が焼成前に穿たれている。外面調整は斜め斜め方向のミガキであるが、口縁部外面にはミガキの上から横方向にハケ目を入れ、装飾性を持たせている。2 (図版 58-3-9) は、大きく外反させて口縁の端面をナデて面を作り、その上にミガキを一条施す。調整は内外面ともに横方向のミガキである。3 (図版 59-1-1) は、頸部に沈線を有する削出し突帯をもつ。短く外反させた口縁の端部には沈線を 1 条めぐらせている。調整は内外面ともに横方向のミガキである。10 (図版 59-1-3) は、大型壺の一種で、広い頸部と外反する口縁部をもつ。外面調整は縦方向のハケ後、斜め～横方向のミガキを施す。その上から頸部に強く沈線状のミガキを 2 本廻らせている。口縁端部は粘土を貼り付けて厚く作る。11 (図版 58-3-8) は、大型の広口壺で、口縁部端面に沈線を 1 条施す。

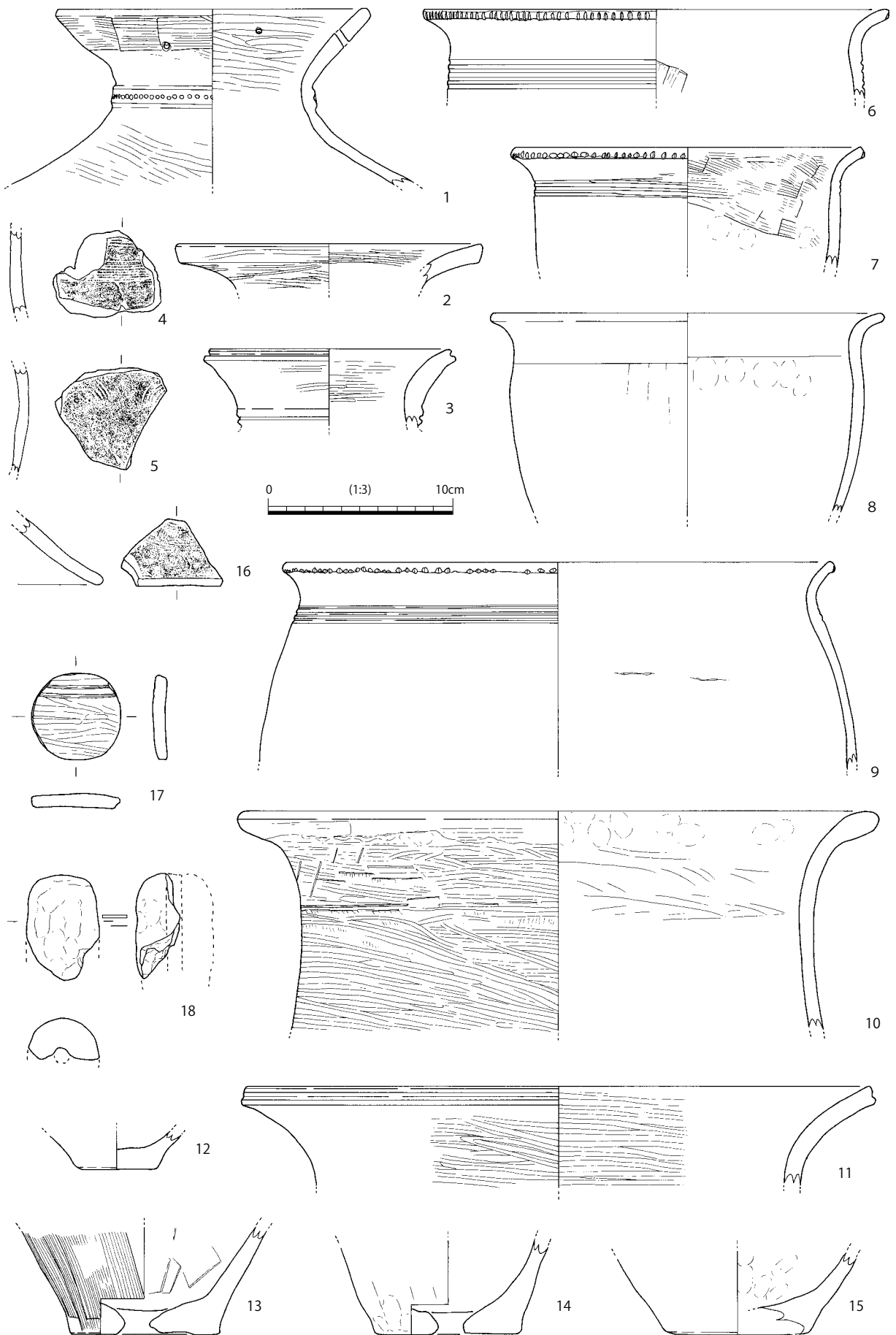
第 67 図 4 (図版 58-3-5) は、壺の肩から頸部の破片で、外面に櫛描文が 2 条認められる。

第 67 図 5 (図版 58-3-6) は、壺の体部で円弧状の沈線を重ねて文様とする。

第 67 図 6～9 は、甕の肩から口縁にかけての部位である。6 (図版 58-3-4) は、張りのない肩部に 4 条の沈線を廻らせ、口縁端部に刻み目を入れる。外面調整は



第 66 図 10-1-2 区 第 21 遺構面全体図



第67图 10-1-2区 第21层出土遗物实测图

ナデ、内面にはハケ目が僅かに残る。7（図版 58-3-7）は、肩部に3条の沈線を廻らせ、口縁端部に刻み目を入れる。外面はハケ後ナデ、内面は斜め方向のハケ調整を行なう。8（図版 59-1-4）は沈線が認められない。外面にはハケの痕跡が僅かに残る。9（図版 59-1-2）は大型品で、肩部がやや張る器形である。肩部外面には3条の沈線、口縁端部には刻み目を入れる。

第67図 12～15は、甕または壺の底部である。12（図版 60-1-8）は、小型壺の底部である。13（図版 60-1-2）は甕の底部で、外面調整は縦方向のハケ、内面はヘラナデを施す。底面には焼成後穿孔が認められる。14（図版 60-1-1）も同じく甕の底部で、底面に焼成後穿孔が認められる。調整は内外面ともにナデである。15（図版 59-1-6）も同様に甕の底部である。やや丸みを帯びた器形をもつ。

第67図 16（図版 58-3-1）は蓋の一部である。磨滅が著しいが、縁に沿う二条の沈線とその内側に木の葉文、さらに沈線2条を介して木の葉文が施されている。

第67図 17（図版 58-3-2）は、土製円板である。壺の肩部を打ち欠いて作り出した円板で、側面には擦痕が認められる。直径は4.5～4.8cmを測る。

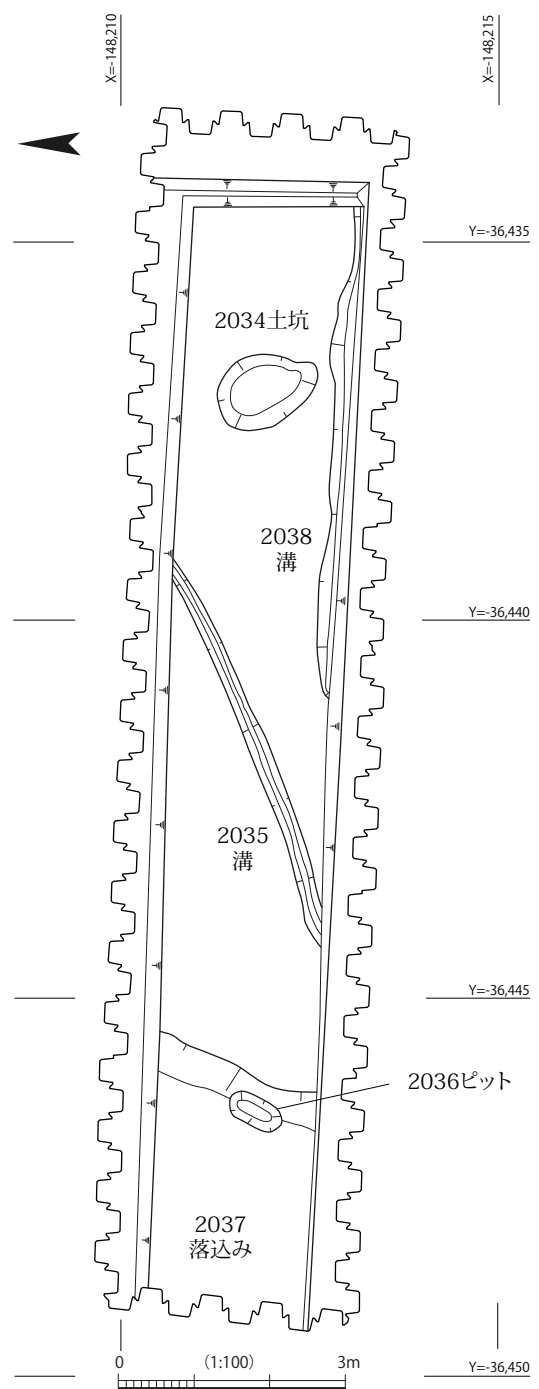
第67図 18（図版 58-3-3）は、土錘である。4分の3以上を欠損するが、内面には孔の痕跡が残る。

第22遺構面（第68図） 第21層を除去した段階で検出した遺構面である。東から西に向かって緩やかに下がる。土坑、ピット、溝、落込みを検出した。遺構面の時期は、弥生時代前期中葉である。

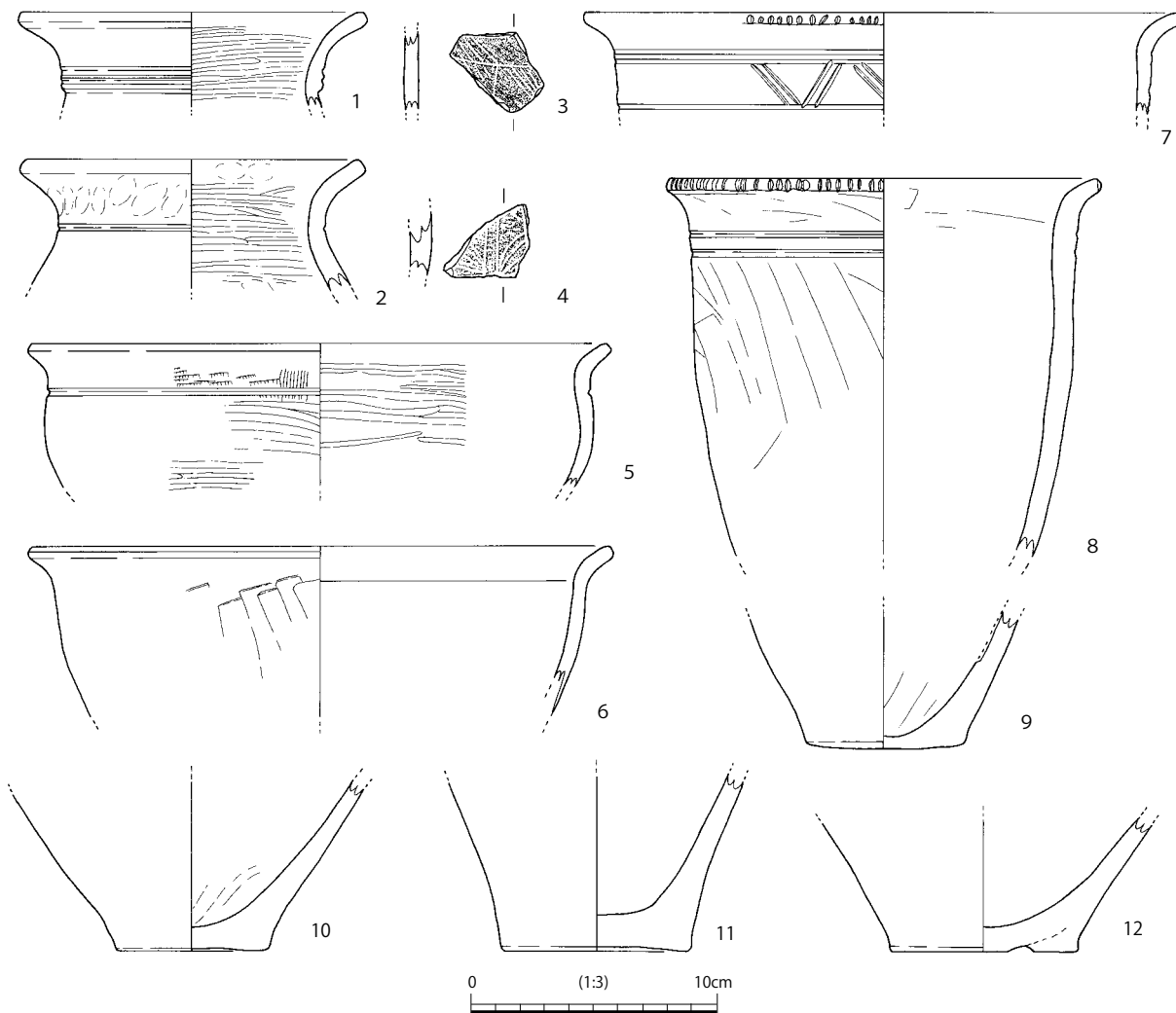
2034土坑 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状はいびつな楕円形で、長径1.4m、短径1.1mを測る。断面形状は皿形、最大深度は0.16mである。埋土は、黒色シルトを主体とする。植物遺体を少量含んでいる。埋土からは壺、甕の破片、棒状木製品（図版 106-2）が出土した。

図版 106-2-4は、角棒状の木製品である。両端を折損するが、表裏面ともに加工痕が残されている。用途は不明であるが、部材を割り裂いたものか。用材はヒノキである。図版 106-2-5も同じく角棒状の木製品である。先端、側面、表裏面のいずれにも加工が施されている。用途は不明、用材はヒノキである。図版 106-2-6は、板状木製品である。側面の一部に加工が認められるが、用途は不明である。用材はシイ属である。

2035溝 調査区中央において検出した遺構である。北東-南西方向に主軸を持ち、僅かに弧を描きながら調査区外へと続く。検出長5.2m、最大幅0.3m、断面形状



第68図 10-1-2区 第22遺構面全体図



第 69 図 10-1-2 区 第 22 遺構面・第 22 層出土遺物実測図

はレンズ形で最大深度は 0.05 m を測る。埋土は黒色シルトである。遺物の出土は確認できていない。

第 22 層出土遺物 (第 69 図) 第 68 図 1・2 は壺の口縁部である。1 (図版 60-1-4) は、上面に沈線を 1 条廻らせた削出し突帯を頸部に作る。内外面の調整は横方向のミガキである。2 (図版 60-1-5) は、頸部に直接沈線を 1 条廻らせる。内外面ともにミガキ調整を施すが、口縁部には指頭圧痕が目立つ。

第 69 図 3・4 は壺の一部で、線刻装飾が認められる破片である。3 (図版 62-1-2) は、1 条の沈線の上に山形文を配する。4 (図版 62-1-6) は、縦に入れた沈線の左右に木の葉文を刻む。

第 69 図 5・6 は、鉢の口縁部である。5 (図版 60-1-6) は、外面に縦方向のハケ後横方向のミガキを施す。肩部には沈線を 1 条廻らせる。6 (図版 60-1-9) は、肩が張らない器形で、装飾を施さない。

第 69 図 7・8 は甕の口縁部である。7 (図版 60-1-3) は、外面肩部に上下 2 条の沈線をめぐらせ、その中に山形文を配する。口縁端部には刻み目を施す。8 (図版 61-1-1) は、やや小型品で、肩部に 2 条の沈線をめぐらせ、口縁端部には刻み目を入れる。

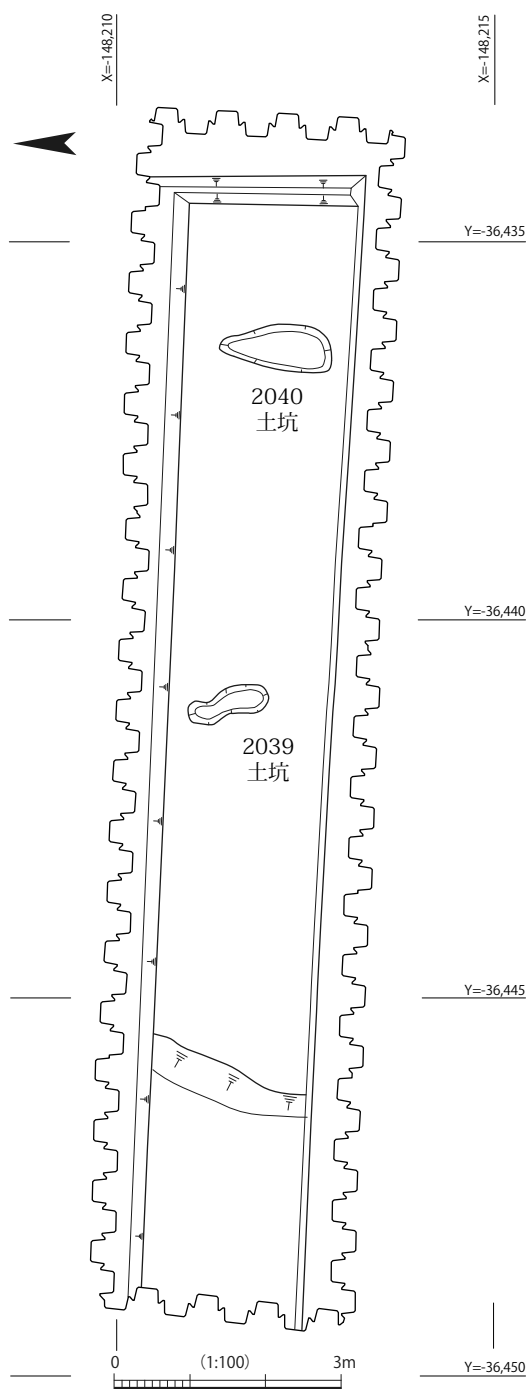
第 69 図 9～12 は甕の底部である。9 (図版 61-1-7) は小型品で、内面にへら状工具の圧痕が残る。10 (図版 61-1-3) の内面には煤の付着が認められる。また底部外面には糶の圧痕が残る。11 (図版 61-1-6) は磨滅が著しい。12 (図版 61-1-5) は、底部に輪状の粘土を付して土器を作成した痕跡が

顕著に残る。

第23遺構面（第70図） 第22層を除去した段階で検出した弥生時代前期中葉の遺構面である。調査区東半部において、土坑を2基検出した。

2039土坑 調査区中央部において検出した遺構である。平面形状は不定形、長径1.1m、短径0.4mを測る。断面形状は浅い皿型で、最大深度は0.06mである。埋土は黒色極細砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

2040土坑 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状はいびつな長円形で、長径1.5m、短径0.6mを測る。断面形状はレンズ形、最大深度は0.05mを測る。埋土は黒色極細砂混じりシルトに炭化物が少量含まれている。遺構内からは、石製品と甕の破片が出土した（第71図）。



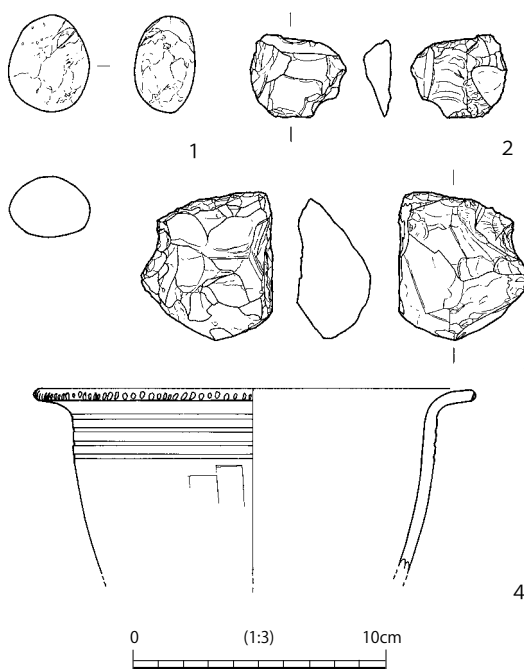
第70図 10-1-2区 第23遺構面全体図

第71図1（図版58-2-3）は、卵型をした石である。チャート製で、石製投弾の可能性はある。

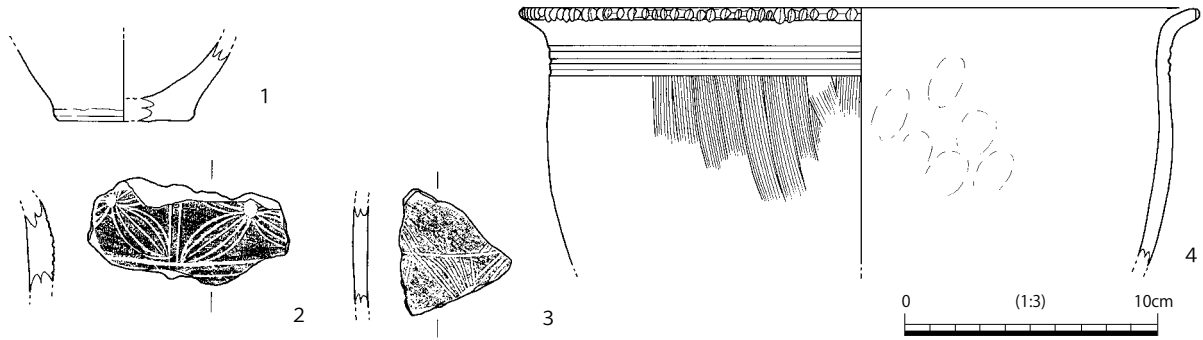
第71図2（図版58-2-1）・3（図版58-2-2）はサヌカイトの切片である。いずれも一部に自然面を残す。

第71図4（図版60-1-4）は、甕の胴から口縁にかけての部位である。肩部に4条の沈線をめぐらせ、口縁端部には刻み目を施す。

第23層出土遺物 第23層からは、弥生土器壺、甕が出土した（第72図）。



第71図 10-1-2区 第23遺構面遺構内出土遺物実測図



第72図 10-1-2区 第23層出土遺物実測図

第72図1（図版60-1-8）は、小型壺の底部である。

第72図2・3は、壺体部の破片である。2（図版62-1-1）は胴部の最も張り出した部位である。2条の沈線で区切る範囲に木の葉文を配する。3（図版62-1-5）は、肩部の破片で、横方向に沈線をめぐらせ、その上下に山形文を刻む。

第72図4（図版60-1-11）は、甕の口縁部である。外面調整は縦方向のハケ、肩部に沈線3条を廻らせる。口縁端部には刻み目を施す。

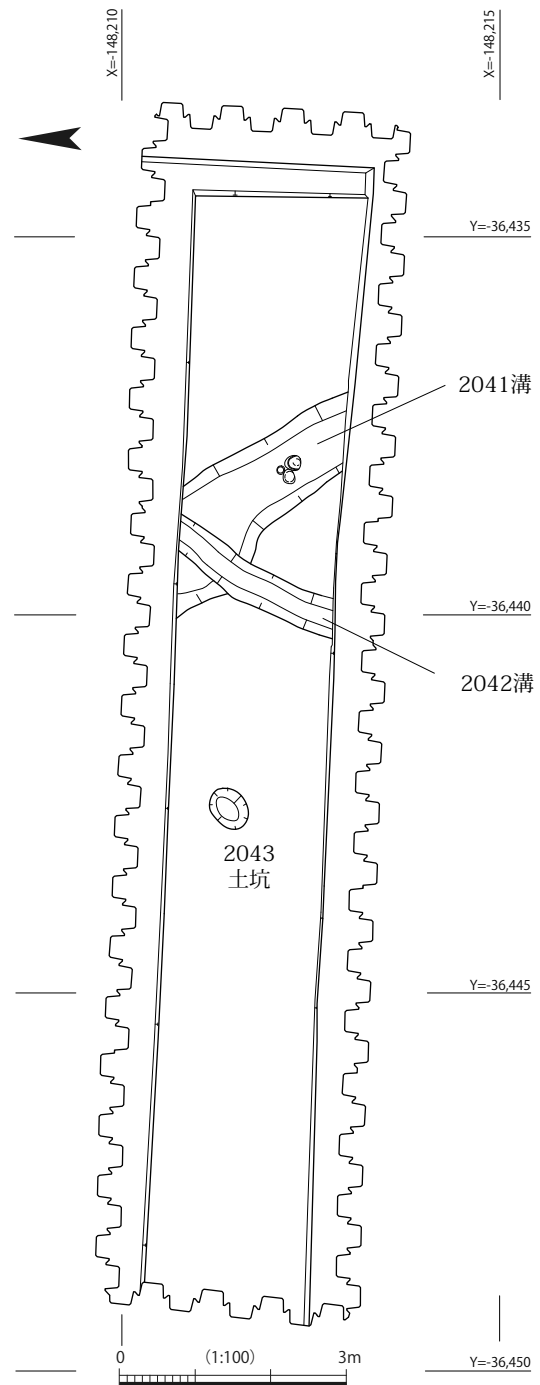
第24遺構面（第73図） 第23層を除去した段階において検出した遺構面である。調査区東半部において切り合い関係にある溝を2本、中央部において土坑を1基検出した。遺構面の時期は弥生時代前期中葉である。

2041溝 調査区東半部を南東から北西に向かって流れる溝である。検出長3.0m、最大幅1.3mを測る。断面形状は皿型で、底面は平坦である。最大深度は0.12mを測る。埋土は黒褐色シルトを主体とする。炭化物や植物遺体を多く含む。底面からは、弥生土器壺の底部が重なって出土した。また、埋土からは弥生土器壺、甕がまどまって出土した（第74図・第75図）。

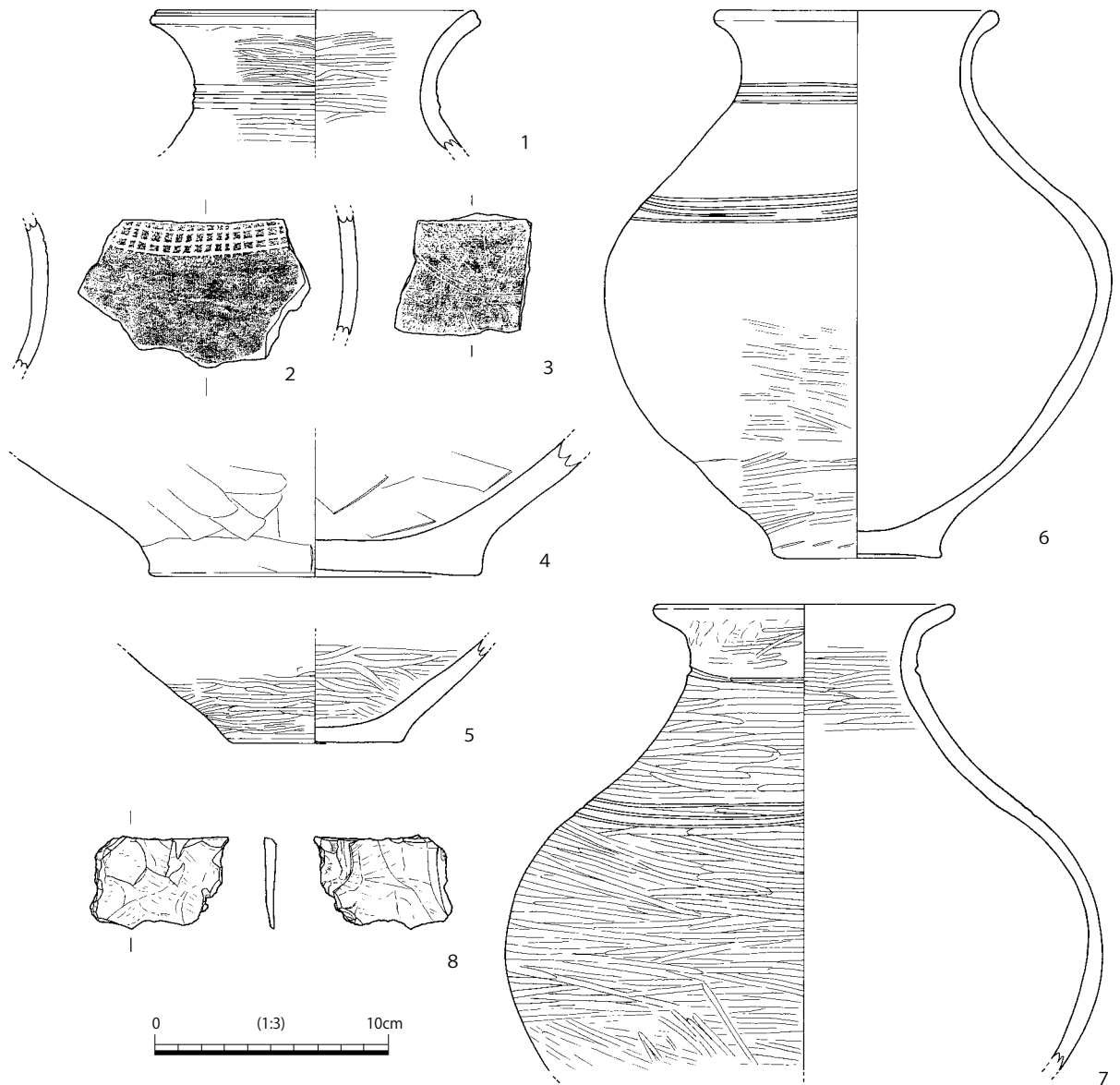
第74図1（図版63-1-1）は、壺の口縁部である。内外面ともに横方向のミガキ調整を施す。頸部外面には削出し突帯を作り、上に沈線1条を刻む。口縁端部にも沈線1条を施す。

第74図2・3は、線刻のある壺の破片である。2（図版63-1-3）は、肩部に格子文を施す。3（図版62-1-4）は、横方向の沈線2条の上位に木の葉文を配する。

第74図4・5は壺の底部である。4（図版64-1-4）



第73図 10-1-2区 第24遺構面全体図



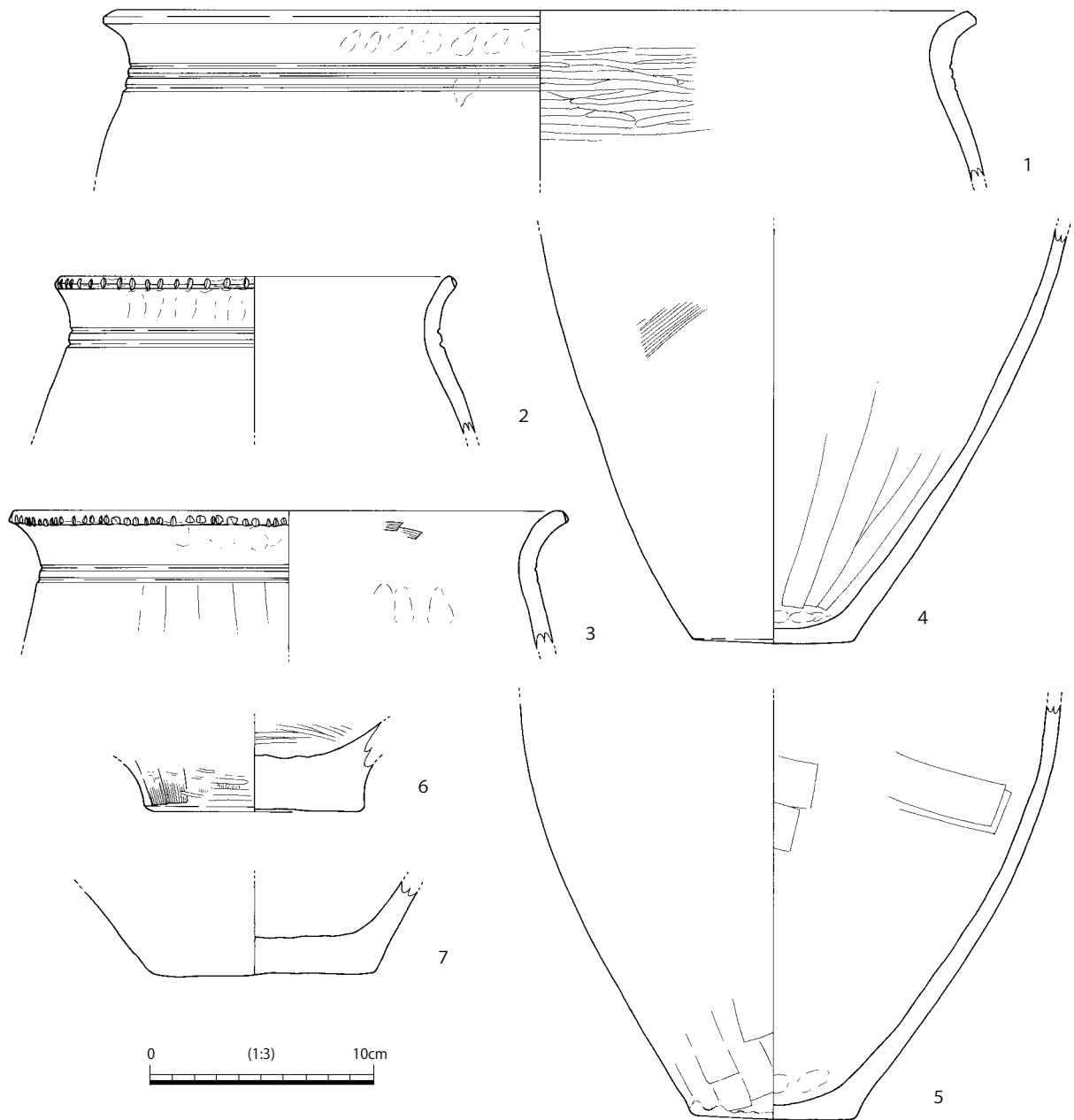
第74図 10-1-2区 第24遺構面2041 溝出土遺物実測図

は大型品である。調整は、内外面ともにヘラナデを施す。5（図版61-1-4）は、内外面ともに綿密なミガキを施す。

第74図6・7は壺である。6（図版64-1-1）は、胴部最大径よりも器高の方が僅かに勝る。外面には横方向のミガキを施し、肩部に4条、頸部に3条の沈線を廻らせる。口縁端部は肥厚させ、丸く作る。器壁の色調は灰色で、胎土に細かい黒色礫を多く含む。7（図版63-1-4）は、底部を欠く。外面調整は斜め～横方向の密なミガキを施す。肩部に3条、頸部に1条の沈線を廻らせる。口縁部には指頭圧痕が顕著に残る。

第74図8（図版62-3-1）は、サヌカイトの切片である。石質が悪く、表面剥離が複数個所に認められる。刃の作り出しは為されていない。

第75図1・2は、甕の口縁部である。1（図版61-1-2）は大型品で、肩部にふくらみをもつ。頸部には3条の沈線を廻らせる。内面にはミガキ調整が残る。2（図版62-1-8）は、中型品で、同じく肩部に張りがある。頸部に2条の沈線、口縁端部に刻み目を付す。口縁部外面には、縦方向にヘラ痕が



第75図 10-1-2区 第24遺構面2041・2042溝出土遺物実測図

残る。外面には煤が付着する。

第75図4～7は、甕の底部である。4(図版64-1-5)は、中心軸が一方に傾く。外面に煤の付着がある。5(図版64-1-2)は、内外面ともにヘラナデの痕跡が残る。外面には煤が付着する。6(図版62-3-2)は、他に比べて底部に厚みがある。外面は縦方向のハケ後横方向の疎らなミガキ、内面には横方向のミガキを施す。底部内面は、指頭圧痕が顕著に残るため器壁が波打つ。7(図版62-3-3)は、やや大型の甕底部で、外面の一部に工具によるキズが残る。

2042溝 2041溝を切って流れる遺構である。検出長2.3m、最大幅0.5mを測る。断面形態は皿形、最大深度は0.08mを測る。埋土はオリブ黒色シルトを主体とする。埋土からは甕の口縁部1点が出土した(第75図3)。

第75図3(図版62-1-3)の外面調整は縦方向のハケ、頸部には2条の沈線を施す。口縁端部には

刻み目を付す。内面には僅かにハケの痕跡が残る。外面に煤が付着が認る。

2043 土坑 調査区中央において検出した遺構である。平面形状は、北東―南西に長い長円形である。長径 0.6 m、短径 0.45 m を測る。断面形状はやや深い皿形で、最大深度は 0.15 m を測る。弥生土器甕・壺の破片が出土した。

また、第 24 遺構面の基盤層である第 24 層からは、壺の破片が出土した。第 77 図 4 (図版 62-1-10) は、壺の肩部である。横方向に 3 条の沈線を 2 箇所に入れ、その間に山形文を刻み込んでいる。

第 25 遺構面 (第 76 図) 第 24 層を除去した段階で検出した遺構面である。今回の調査において、弥生時代前期集落のうち最も濃密に遺構を検出した遺構面である。竪穴、溝、ピットを検出した。切り合い関係にある遺構も多いことから、ある程度の期間にわたり存続した遺構面であると推測される。竪穴建物が溝に切られる状況があることから、居住域の移動や拡大または縮小が行われたことが窺える。

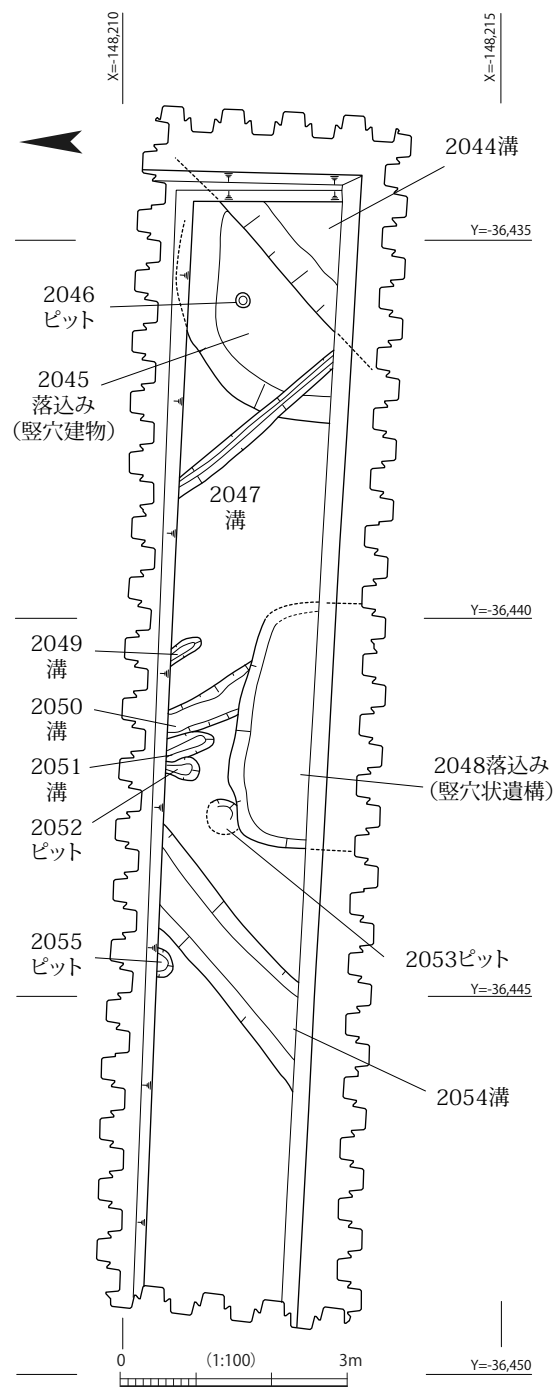
2044 溝 調査区南東隅を斜めに横切る溝で、直線的に調査区外へと伸びている。検出長 1.5 m、最大幅 1.8 m を測る。断面形状は椀形で、最大深度は 0.35 m を測る。2045 竪穴や 4047 溝とは切り合い関係にある。埋土は、底面付近に植物遺体を多く含む腐植土層があり、その上に黒色極細砂混じりシルトの堆積がある。有機質を多く含んでおり、長く滞水状態にあったことが分かる。底面の傾斜はほとんど確認できない。埋土からは弥生土器壺、甕が出土した。

2045 竪穴建物 調査区東端部において検出した遺構である。検出時は落ち込みとして認識したが、平面形状が円形に廻ることと断面観察状況から、竪穴建物であると判断した。中央部を隅丸方形に掘り窪める造作を行なう。遺構の規模は、上端ラインから直径 4 m 程度に復元できる。掘削を進めたところ、柱穴と思われるピットを 1 点確認した (2046 ピット)。

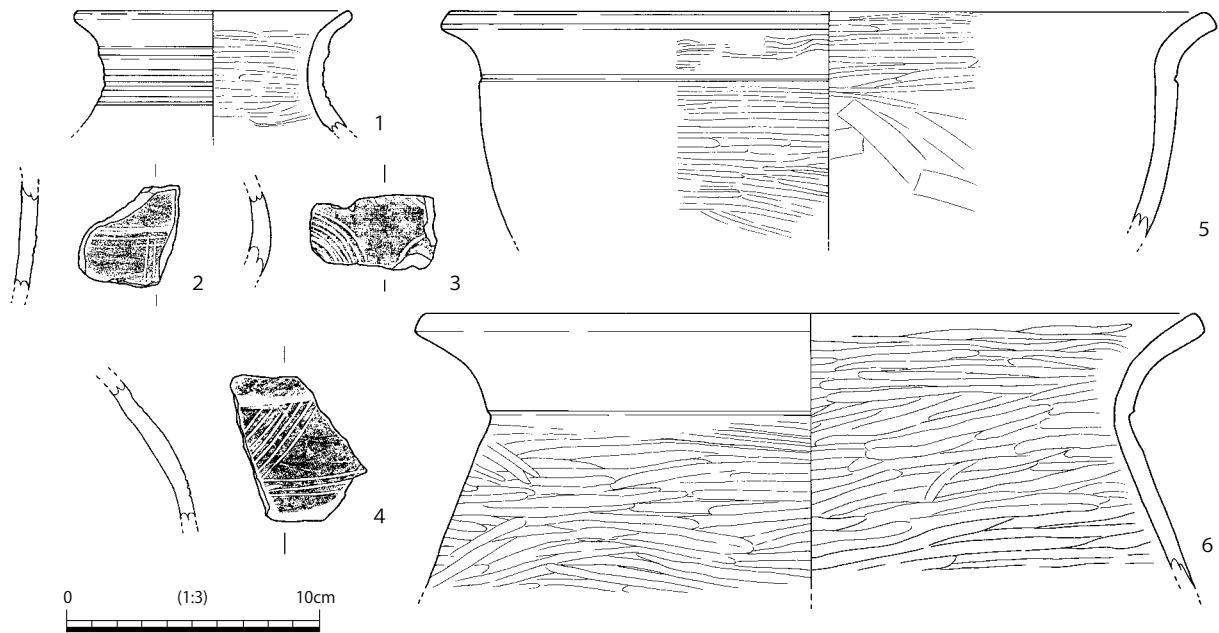
2045 竪穴の埋土は有機質を含む黒色シルトを主体とする。埋土からは、弥生土器甕、壺、鉢の破片が出土した (第 77 図 5・6)。

第 77 図 5 (図版 62-2-1) は、鉢の口縁部である。外面調整は横方向のミガキ、内面調整は口縁部がミガキ、体部には僅かにハケメが残る。外面の口縁部下には沈線が 2 条施されている。

第 77 図 6 (図版 64-2-1) は、大型の壺である。内



第 76 図 10-1-2 区 第 25 遺構面全体図



第 77 図 10-1-2 区 第 25 遺構面・第 26 遺構面出土遺物実測図

外面ともに密なミガキ調整を施す。口縁下には段が削り出されている。

2046 ピット 2045 竪穴内で検出した遺構である。平面形状は、直径 0.2 m を測る円形である。断面形状は椀形、最大深度は 0.12 m である。埋土はオリーブ黒色シルトで、底面付近は木片が混じる。埋土からは弥生土器壺の小片が出土した。

2047 溝 調査区東辺において検出した遺構である。南東-北西方向に直線的にのびる。南東端は、2045 竪穴建物を切った後、さらに 2044 溝を切る。北西端は調査区外へ続くようである。断面形状は逆台形、最大深度は 0.06 m を測る。埋土は暗灰色シルトを主体とし、炭化物や植物遺体を少量含む。埋土からは、甕の破片が出土した。

2048 落込み（竪穴） 調査区中央部南辺において検出した遺構である。平面形状は隅丸方形を呈する。東西幅は 3.2 m、南北方向の検出長は 1.1 m を測る。2045 竪穴と同様、当初は落ち込みとして認識したが、2045 竪穴の中央が隅丸方形に落ち込むのを確認し、2048 も同様の遺構であると判断した。おそらく、2045 と同様の円形掘り方が上位にあったと推測される。削平により隅丸方形を呈する下部構造のみが残ったのであろう。

2049 溝 調査区中央部北辺において検出した遺構である。北西-南東方向にのびる。検出長 0.5 m、最大幅 0.2 m を測る。断面形状は浅いレンズ形、最大深度は 0.08 m を測る。埋土は黒色シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。2047 溝に並行する方向性をもつ。

2051 溝 同じく調査区中央部北辺において検出した遺構で、北西-南東方向にのびる。検出長 0.6 m、最大幅 0.3 m を測る。断面形状は逆台形、最大深度は 0.1 m を測る。埋土は黒色シルトを主体とし、僅かに炭化物を含む。遺物の出土は確認できていない。2047 溝、2049 溝に並行する方向性をもつ。

2052 ピット 2051 溝の西に接して検出した遺構で、一部を 2051 溝に切られている。平面形状は楕円形、長径 0.4 m、短径 0.3 m を測る。断面形状は椀形、最大深度は 0.18 m である。明確な掘り方である。埋土は黒色シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

2050 溝 調査区中央部において検出した遺構である。北西から南東へ続き、2048 落込みに切られて

消滅する。検出長 1.1 m、最大幅 0.45 mを測る。断面形状はいびつな皿形、最大深度は 0.06 mを測る。埋土は黒褐色極細砂混じりシルトを主体とし、炭化物を多く含む。切り合い関係からは、最も早い時期に掘削された遺構であると考えられる。既往の調査成果では、連続する遺構を確認できていない。遺物の出土はなかった。

2053 ピット 調査区中央部、2048 落込み（竪穴）に接して検出した遺構である。攪乱によって 2 分の 1 以上を失うが、平面形状は直径 0.5 mを計る円形に復元できる。断面形状は皿形、最大深度は 0.08 mである。埋土は、暗灰色極細砂混じりシルトを主体とする。下層には細砂ブロックを多く含む。遺物の出土は確認できていない。2048 落込み（竪穴）に関連する遺構か。

2054 溝 調査区東半部を北東から南西に続く溝である。検出長 2.8 m、最大幅 0.9 mを測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.3 mを測る。埋土はオリーブ黒色シルトを主体とする。炭化物と植物遺体を僅かに含む。埋土からは弥生土器壺、甕の小片が出土した。

この溝は、既往の調査区 99-4 区においても検出されている。北東に向かって直線的に伸びており、今回の検出長を併せると、12 m以上の長さとなる。また、2044 溝もこれと平行することから、同じ時期に掘削された可能性が高い。

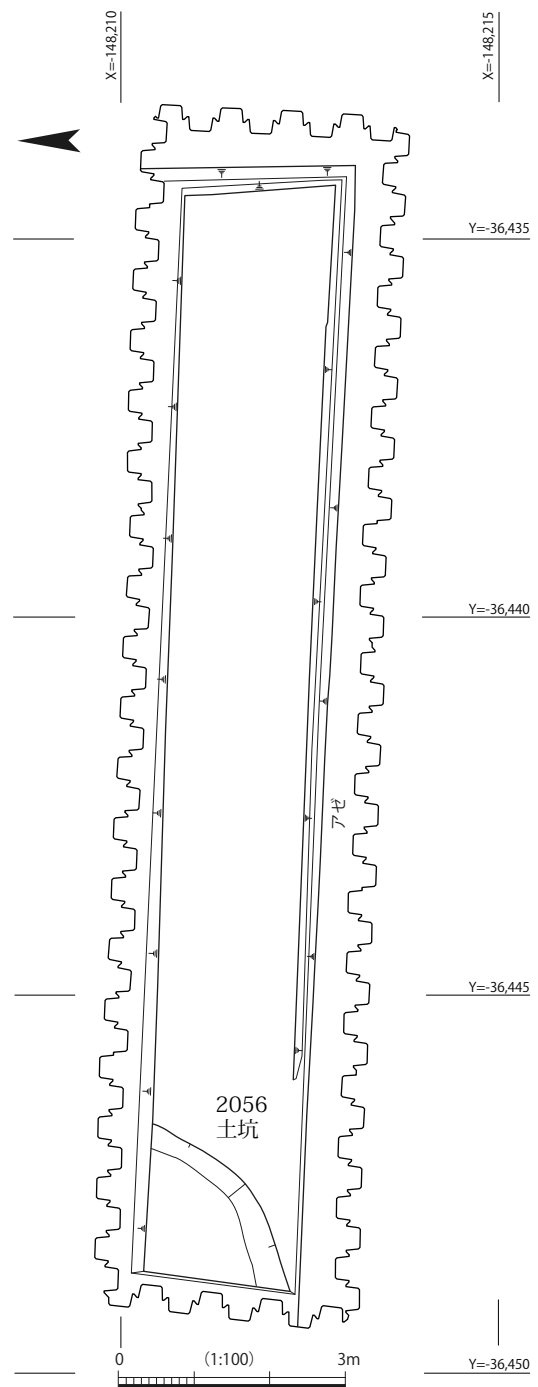
2055 ピット 調査区西半部北辺において検出した遺構である。側溝によって 2 分の 1 以上を失うが、平面形状は直径 0.35 mを計る円形に復元できる。断面形状はいびつな碗形、最大深度は 0.09 mである。埋土はオリーブ黒色シルトを主体とする。細かい炭化物、植物遺体を少量を含む。遺物の出土は確認できていない。

第 26 遺構面 第 25 層を除去して検出した遺構面である。自然堆積と見られる砂層の上面にあたる。調査区西端部では落込みを検出した。また、調査区中央付近では、サヌカイト製石鏃とオニグルミの種子が出土した。

2056 土坑 調査区北西端部において検出した遺構である。検出規模は、南北長 1.8 m、東西幅 2.0 mを測る。東西方向の断面形状は皿型を呈する。南北方向の断面形状は不定形で、大きく南へ下がる形状を示す。最大深度は 0.25 mを測る。埋土は黒褐色極細砂混じりシルトを主体とし、下位に灰色細砂ブロックを含む。上位には 1cm 未満の炭化粒を多く含む。

掘り方は明瞭で人為的な遺構であると考えられるが、性格は不明である。遺物の出土は確認できていない。

今回の調査ではもっとも早い時期の遺構である。

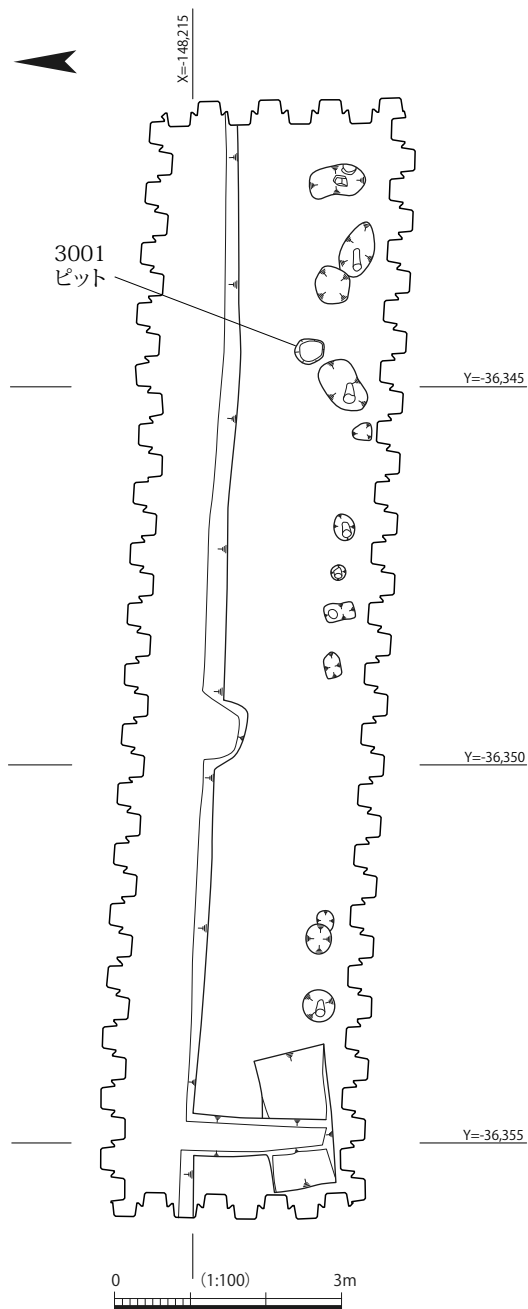


第 78 図 10-1-2 区 第 26 遺構面全体図

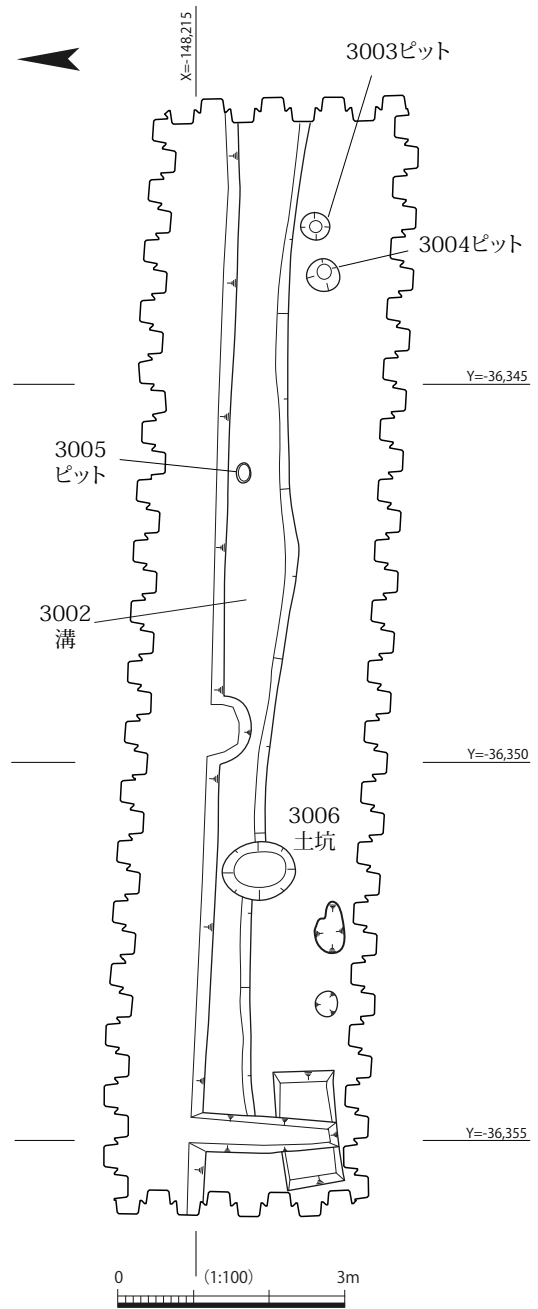
3. 10-1-3区

10-1-3区は、第10-1-2区とは里道を隔てた東側に設定した調査区である。中世以降の地盤が高く、近世堆積層はほとんど削平されて残っていない。このため現地盤より0.5m掘削したレベルですでに中世包含層が露出する。この調査区では、弥生時代前期から中世後期まで、計17枚の遺構面を検出した。

第1遺構面（第79図） 機械掘削層除去面である。中世後期包含層の上面にあたる。調査区北辺は、近現代の水路によって大きく損なわれている。調査区南辺には、鉄道敷設時の立杭による攪乱が並ぶ。このうち、中世に遡る遺構は、ピットを1基のみである。遺構面の基盤層となる第1層からは、瓦質土



第79図 10-1-3区 第1遺構面全体図



第80図 10-1-3区 第2遺構面全体図

器鍋・羽釜・鉢、須恵器甕、土師器羽釜・皿、施釉陶器碗、平瓦、砥石等が出土した。遺構面の時期は、15世紀を下限とする。

3001 ピット 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状は歪んだ楕円形、長径 0.4 m、短径 0.3 mを測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.05 mである。埋土は黄灰色粗砂混じりシルトである。遺物の出土は確認できていない。

第2遺構面 (第 80 図) 第 1 層を除去した段階で検出した遺構面である。地盤は、調査区中央より緩やかな段をもって南から北へ下がる。この遺構面ではピット、土坑を検出した。遺構内からは、12～14世紀の遺物が出土した。遺構面の時期は中世中期である。

3003 ピット 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状は円形、直径 0.4 mを測る。断面形状はいびつな U 字形、最大深度は 0.4 mである。埋土は灰色～黄灰色シルトを主体とする。中央部には直径 0.1 mを測る柱痕跡が残る。埋土からは、瓦器皿・椀、土師器皿の破片が出土した。

3004 ピット 3003 ピットの西側において検出した遺構である。平面形状は円形、直径 0.4 mを測る。断面形状はいびつな U 字形、最大深度は 0.4 mである。埋土は黄灰色シルトを主体とする。中央には直径 0.15 mを測る柱痕跡が残る。埋土からは、瓦器皿・椀、土師器皿の破片が出土した。

3005 ピット 調査区中央部北辺において検出した遺構である。平面形状は長円形、長径 0.25 m、短径 0.18 mを測る。断面形状は逆台形、最大深度は 0.11 mである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。径 5 mm 未満の焼土塊を多く含む。埋土からは、瓦器椀、土師器皿の破片が出土した。

3006 土坑 調査区西半部において検出した遺構である。平面形状は長円形、長径 1.0 m、短径 0.8 mを測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.15 mである。埋土は灰黄褐色シルトで、底部には炭化物を多量に含む暗灰黄色シルトが堆積する。土坑内で有機物を燃焼させたと考えられる。埋土からは、瓦器椀、土師器皿の破片が出土した。遺物の年代は、12～14世紀である。

第3遺構面 (第 81 図) 第 2 層を除去して検出した遺構面である。集落の居住域にあたり、調査区全面において柱穴、土坑、溝、井戸、落込みなどを稠密に検出した。柱穴列は、東西方向に並ぶものが多い。既往の調査では、東西方向にのびる道状遺構が検出されていることから、この方向軸に沿って建物が建てられていた可能性が考えられる。計 7 箇所を数える井戸は、大きな掘り方をもち、木製曲物の側板を積み上げて井戸枠としたものが多い。遺構埋土からは瓦器椀・皿、土師器皿・羽釜・須恵器鉢・甕等、11～13世紀に所産時期をもつ遺物が多数出土した。遺構面の時期は、中世前期である。

3008 井戸 調査区南西部において検出した遺構である。平面形状は不定形、長径 1.8 m、短径 1.4 mを測る。断面形状は椀形、最大深度は 0.65 mである。埋土は、黒褐色細砂混じり粘土質シルトに、オリーブ褐色シルトブロック、黄灰色粗砂ブロック、黒色粘土ブロック、灰色粗砂ブロック、炭化物などが混じる。掘り方の中央付近には、木製曲げ物の側板を 3 段積み上げた井戸枠が据えられている (図版 14-3)。遺構内からは、須恵器甕・東播系鉢、瓦質土器甕、土師器羽釜・皿、瓦器椀が出土した (図版 66-1・66-2・67-1)。

3009 井戸 調査区中央部北辺において検出した遺構である。平面形状は 2 分の 1 以上を損なうが、円形に復元できる。直径は 2.8 mを程度である。南北方向の断面形状は椀形、最大深度は 0.7 mである。埋土は 3008 井戸に近似する。井戸枠がない、素掘りの井戸である。遺構内からは土師器羽釜、瓦器皿・

碗のほか、古墳時代の土師器甕・高杯等が出土した（図版 67-2）。

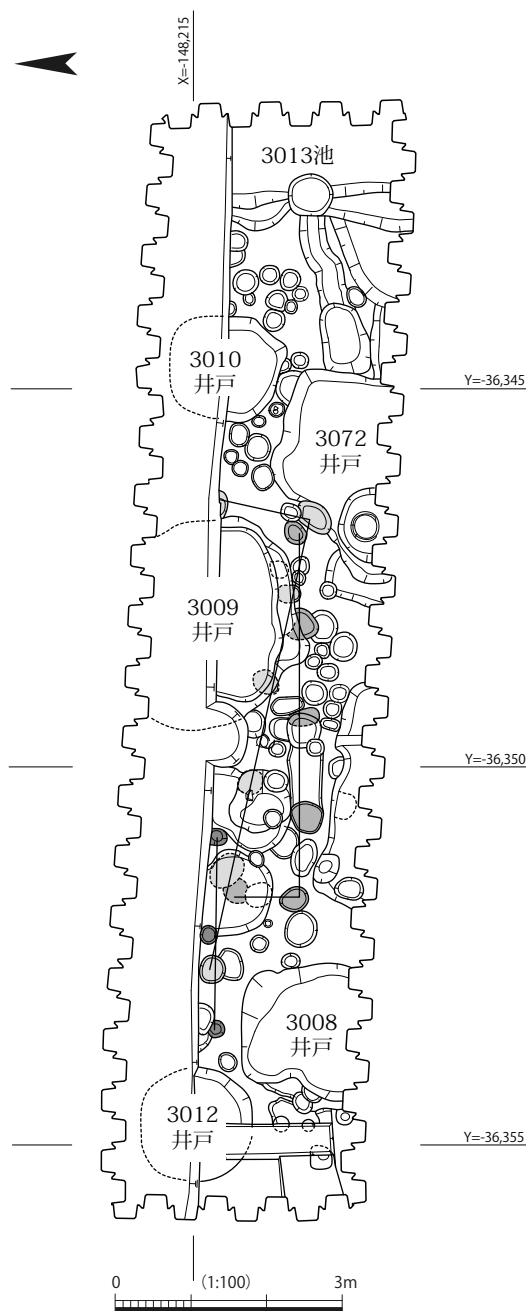
3010 井戸 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状は不定形、検出（南北）長 0.8 m、東西径 1.4 mを測る。断面形状は椀形、最大深度は 0.6 mである。掘り方の埋土は、黒褐色粗砂混じりシルト、オリブ黒色シルト、黒褐色シルト混じり粗砂等で構成される。遺構中央よりやや東寄りに、木製曲物の側板を 2 段重ねた井戸枠を据えている（図版 107-5-1）。遺構内からは、瓦器椀、土師器甕・皿などの中世遺物のほか、須恵器甕、円筒埴輪が出土した（図版 67-3）。

3012 井戸 調査区北西端部において検出した遺構である。およそ 4 分の 3 を損なうが、平面形状は円形に復元できる。直径は 1.5 m 程度であろう。断面形状は逆凸形、最大深度は 0.85 m である。掘り方の中央に木製曲物側板を 3 段重ねた井戸枠が据えられている。埋土は、井戸枠内の堆積層が黒褐色細砂混じりシルト、黄灰色粘土質シルト、黒褐色粘土、掘り方部分が灰色粘土質シルト、黒色粘土を主体とする。井戸枠内の埋土は総じて軟質、掘り方埋土には粘土ブロックが多量に含まれている。遺構内からは、瓦器椀・皿、土師器皿、羽釜、須恵器甕等中世遺物のほか、円筒埴輪が出土した（図版 67-4・67-5・68-1・68-2・70-1）。

3013 池 調査区東端部において検出した遺構である。全体形状は明らかではないが、北接する既往の調査区に 01-3 区において、池と報告される遺構に連続する。検出したのは南北長 2.0 m、南北幅 1.2 m の範囲である。西岸には段があり、杭列が打ち込まれている。調査区内での最大深度は 0.45 m を測る。埋土は、上層が黒褐色粗砂混じりシルト、下層が黒褐色粗砂混じりシルトで、総じて軟質である。埋土からは瓦器椀、須恵器甕、土師器皿等が出土した（図版 69-1-1・69-1-4・69-1-5・69-2-8）。

3072 井戸 調査区東半部南辺において検出した遺構である。平面形状は不定形、検出（南北）長 1.7 m、東西幅 2.6 m を測る。断面形状は逆台形、最大深度は 0.5 m を測る。埋土は黒褐色粗砂混じり粘土質シルト、暗オリブ褐色粘土質シルト、黒褐色微砂混じりシルト、黒褐色粘土質シルト等が堆積する。遺構中心より 1 m ほど西へずれたところに羽釜を転用した井戸枠が据えられている（図版 72-1）。遺構内からは、瓦器椀、土師器皿、羽釜、須恵器甕、瓦質土器羽釜・鉢、東播系鉢のほか、古墳時代後期～中世に至るまでの遺物が多数出土した。

第 4 遺構面（第 82 図） 第 3 層を除去して検出した遺構面である。地盤は東から西へ向かって緩やかに下がる。



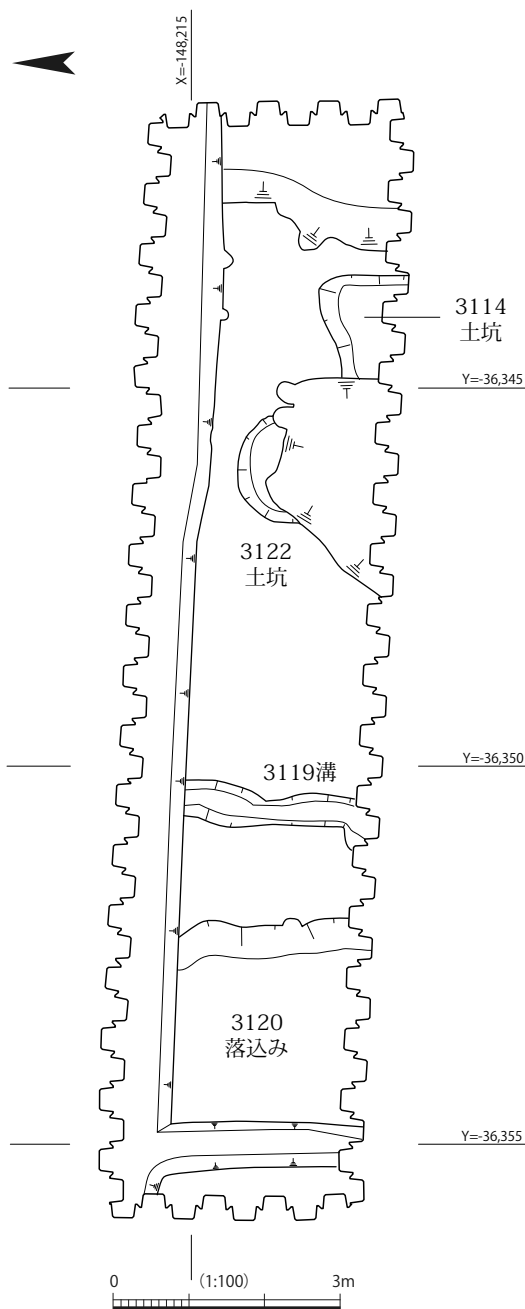
第 81 図 10-1-3 区 第 3 遺構面全体図

土坑、溝、落込みを検出した。遺構面の時期は、古代～中世初頭である。

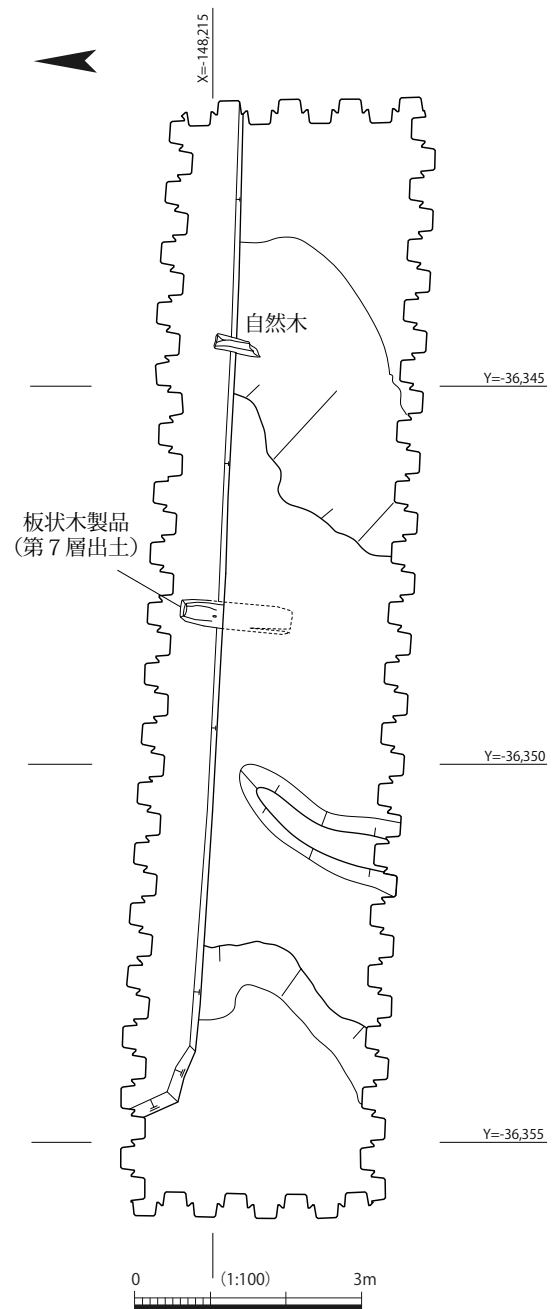
3114 土坑 調査区東半部南辺において検出した遺構である。平面形状は不定形、検出範囲は南北長 1.2 m、東西幅 1.3 m である。断面形状は皿形、最大深度は 0.2 m である。埋土は黄灰色シルトを主体とする。埋土上層からは、瓦器椀、土師器皿の破片が出土した。また下層からは、円筒埴輪の破片が出土した。この破片は、3122 土坑より出土した破片と接合した（図版 70-4-1）。

3122 土坑 調査区東半部中央において検出した遺構である。平面形状は円形に復元できる。断面形状は椀形、最大深度は 0.2 m である。埋土は黄灰色シルトを主体とする。埋土からは、土師器甕、須恵器杯身、円筒埴輪等、古墳時代後期～古代の遺物が出土した。

3119 溝 調査区西半部において検出した遺構である。ほぼ南北方向に流れ、調査区外へと続く。検出長 2.6 m、最大幅 0.5 m を測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.08 m を測る。埋土は黄灰色シルトに



第 82 図 10-1-3 区 第 4 遺構面全体図



第 83 図 10-1-3 区 第 6 遺構面全体図

灰オリーブ色微砂質シルトブロックを含む。締まりが悪く、軟質である。埋土からは、土師器甕と須恵器甕の破片が出土した。

第5遺構面・第6遺構面 古墳時代の流路堆積である第5層の上面が第5遺構面、下面が第6遺構面である。第5遺構面では特に顕著な遺構は確認できなかった。第6遺構面では、遺構面の基盤層である第6層上面を水流が削り取った凹凸が目立つ。第6層からは、自然木が出土した。

第7遺構面・第8遺構面 ともに弥生時代後期に相当する面である。今回の調査では、両面ともに顕著な遺構は確認できなかった。遺構面の基盤層となる第7層、第8層は軟質で、葦等の植物遺体が層状に積み重なって堆積する。このため、当該時期のこの地点は、湿地帯であったと解釈される。第7層からは、板状木製品が出土した（図版 108-1-1）。

図版 108-1-1 は、長さ 1.5 m を測る大型部材である。端部は折損するが表裏面及び側面には加工が認められる。用材はミズキである。調査区中央付近より出土した。

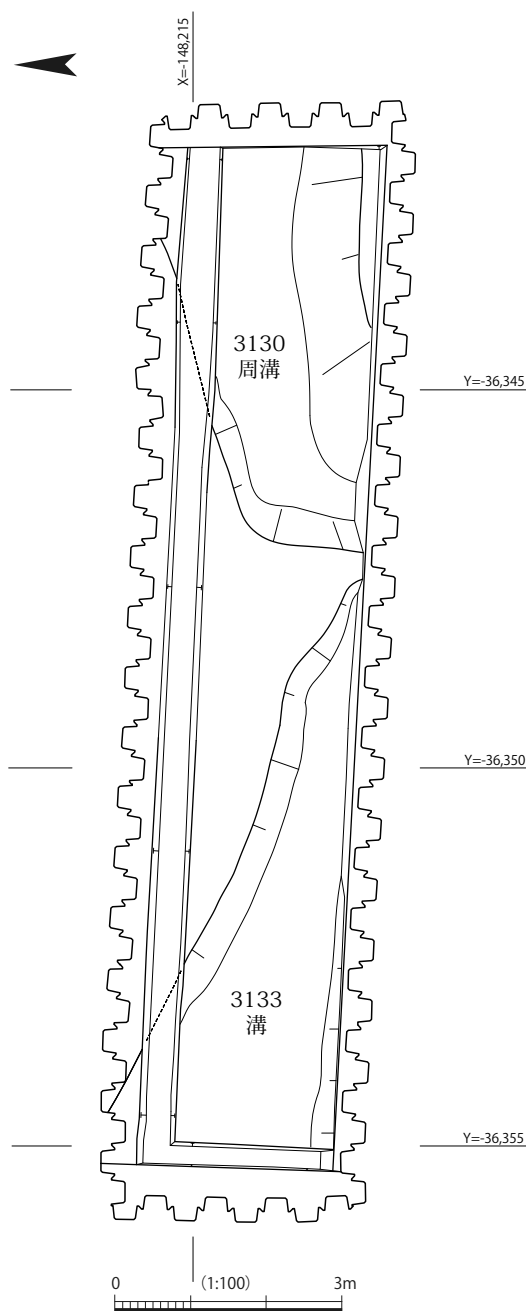
第9遺構面（第 84 図） 第8層を除去して検出した遺構面である。方形周溝墓を主体とする墓域を形成する弥生時代中期後半の遺構面に相当する。調査区東半部では周溝墓墳丘と推測される盛土と、その裾を廻る溝（周溝）を検出した。

3130 周溝 調査区東半部において検出した遺構である。調査区南東角を廻るように、東西方向から南へと湾曲する。検出長 5.3 m、最大幅 2.5 m を測る。断面形状はなだらかな逆台形で、最大深度は 0.15 m を測る。調査区南東角の盛土上端と溝底面の比高差は、0.46 m である。周溝底面には起伏があり、北西角コーナー付近が最も深く、南壁にぶつかる西辺が浅い。

埋土は、黒色粘土を主体とする上層、オリーブ黒色粘土に灰色粘土ブロックを含む中層、オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする下層に識別できる。遺物の出土は確認できなかった。

3133 溝 調査区西半部において検出した溝である。調査区の南西部には、壁に沿って基盤層の盛り上がり認められるが、これが周溝墓の墳丘となるか定かではないため、ここでは周溝ではなく溝として報告する。

北東から南西に続く溝で、検出長 5.0 m 程度、溝幅は 2 m 以上にわたる。断面形状は逆台形、最大深度は 0.3 m を測る。埋土は 3130 周溝に近似する。底面の高低差

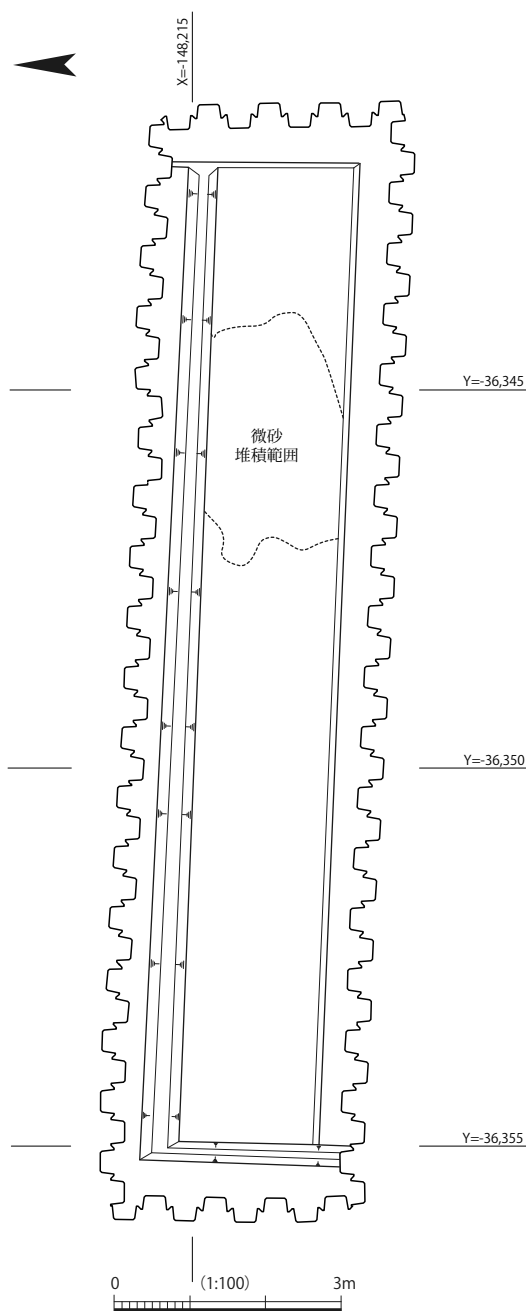


第 84 図 10-1-3 区 第 9 遺構面全体図

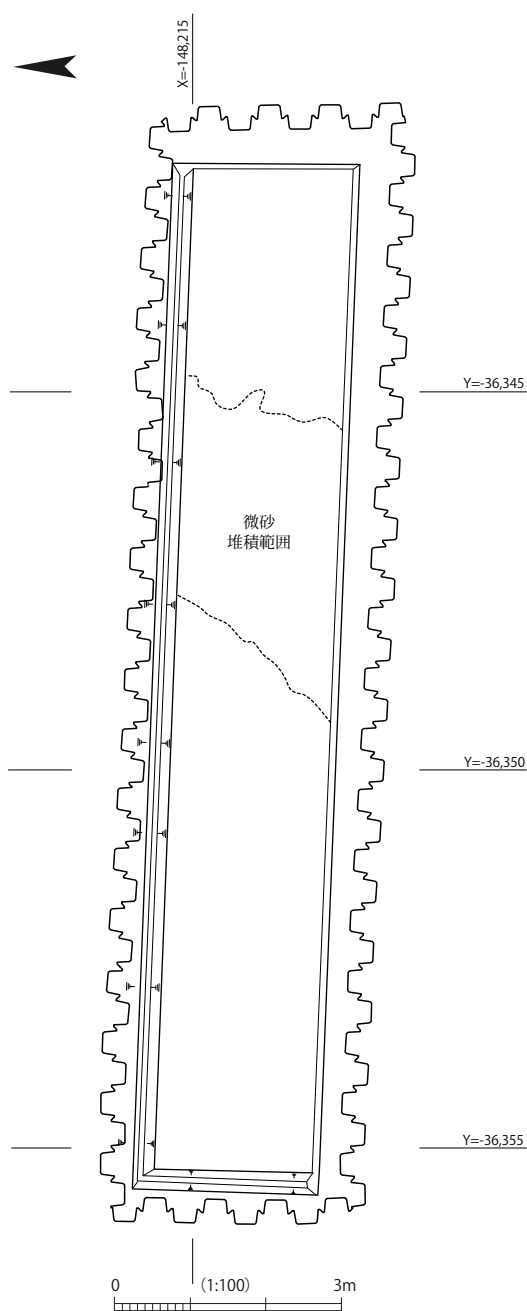
は、調査区中央部に比べて西端のほうが0.1 m程度低い。遺物の出土は確認できなかった。

北接する既往の調査区01-3区では、ほぼ南北方向に主軸をもつ方形周溝墓が存在する。3130周溝がこの軸に沿うかどうかは判断が難しい。一方、3133溝の方向軸は、01-3区の西側の調査区99-3区において検出された周溝群と軸が揃うようである。いずれにしても今回の調査により、弥生時代中期後葉における瓜生堂遺跡の墓域がさらに南へ広がることは明確となった。

第10遺構面～第15遺構面 第10遺構面は、周溝墓の基盤層上面、第11遺構面～第15遺構面は、湿地状堆積の上面でいずれにおいても顕著な遺構を確認することはできなかった。第13遺構面（第85図）及び第15遺構面（第86図）では、調査区東半部において微砂の流れ込みを確認したが、人為的な遺構とは考えにくい。第14遺構面は、第10-1-2区において中期初頭の水田面に対応すると



第85図 10-1-3区 第13遺構面全体図

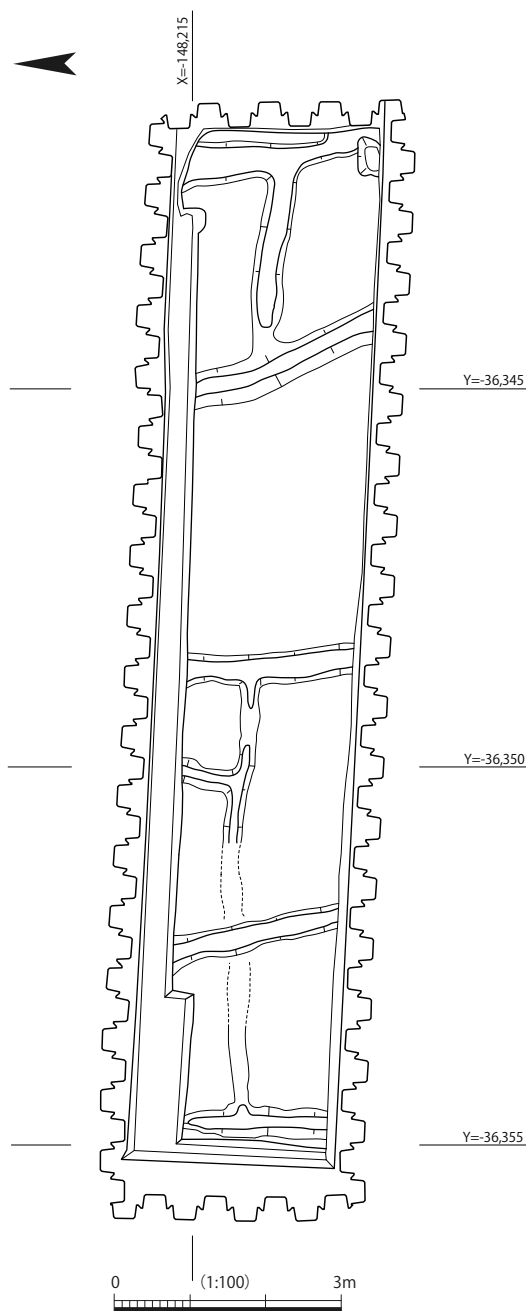


第86図 10-1-3区 第15遺構面全体図

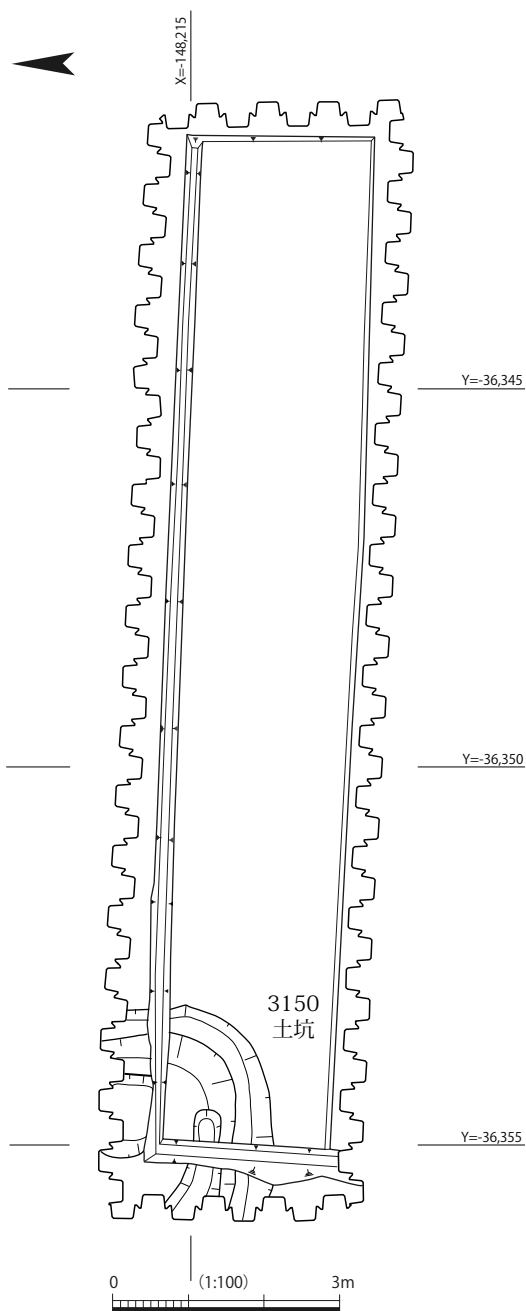
考えられる遺構面である。基盤層となる第 14 層は耕作土と目される土壌であるが、明確な畦畔を検出するには至っていない。但し、既往の調査成果においても、弥生時代中期初頭の水田の存在を示唆する記述が複数例認められる。10-1-2 区において検出された弥生時代中期初頭の水田は一定以上の広がりをもつ可能性が高い。

第 16 遺構面（第 87 図） 第 15 層を除去して検出した遺構面である。遺構面の時期は弥生時代前期である。畦畔を伴う水田跡を検出した。

畦畔は、南北～北西-南東方向に向かうものを主軸とし、ここから南北へ小畦畔が分岐する様相を認めることができる。南北方向の畦畔は盛り上がりが高く、0.1 m 程度の高さを測る。逆に東西方向の小畦畔は脆弱で、消滅する箇所も多い。既往の調査区 01-3 区でも連続する畦畔が検出されており、



第 87 図 10-1-3 区 第 16 遺構面全体図

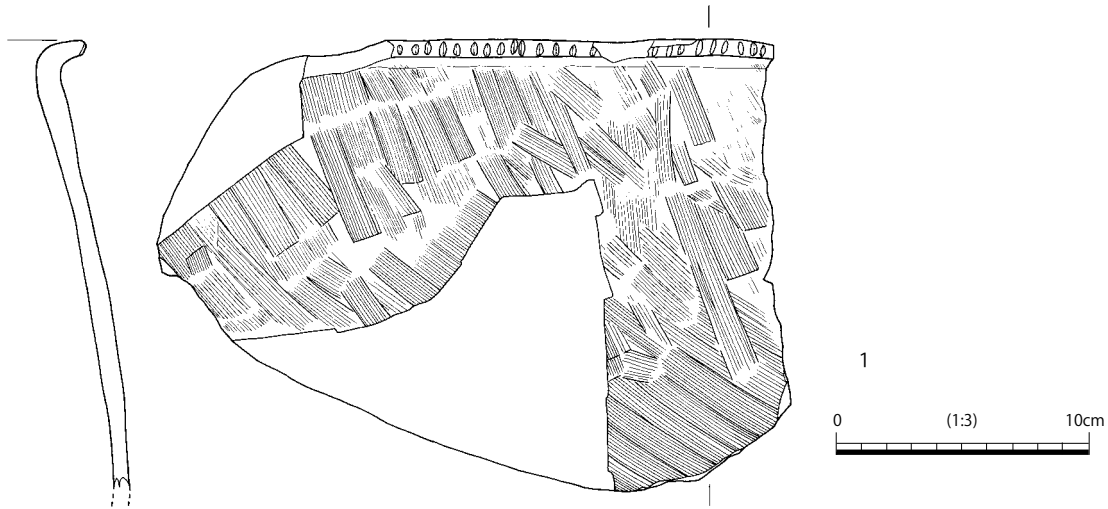


第 88 図 10-1-3 区 第 17 遺構面全体図

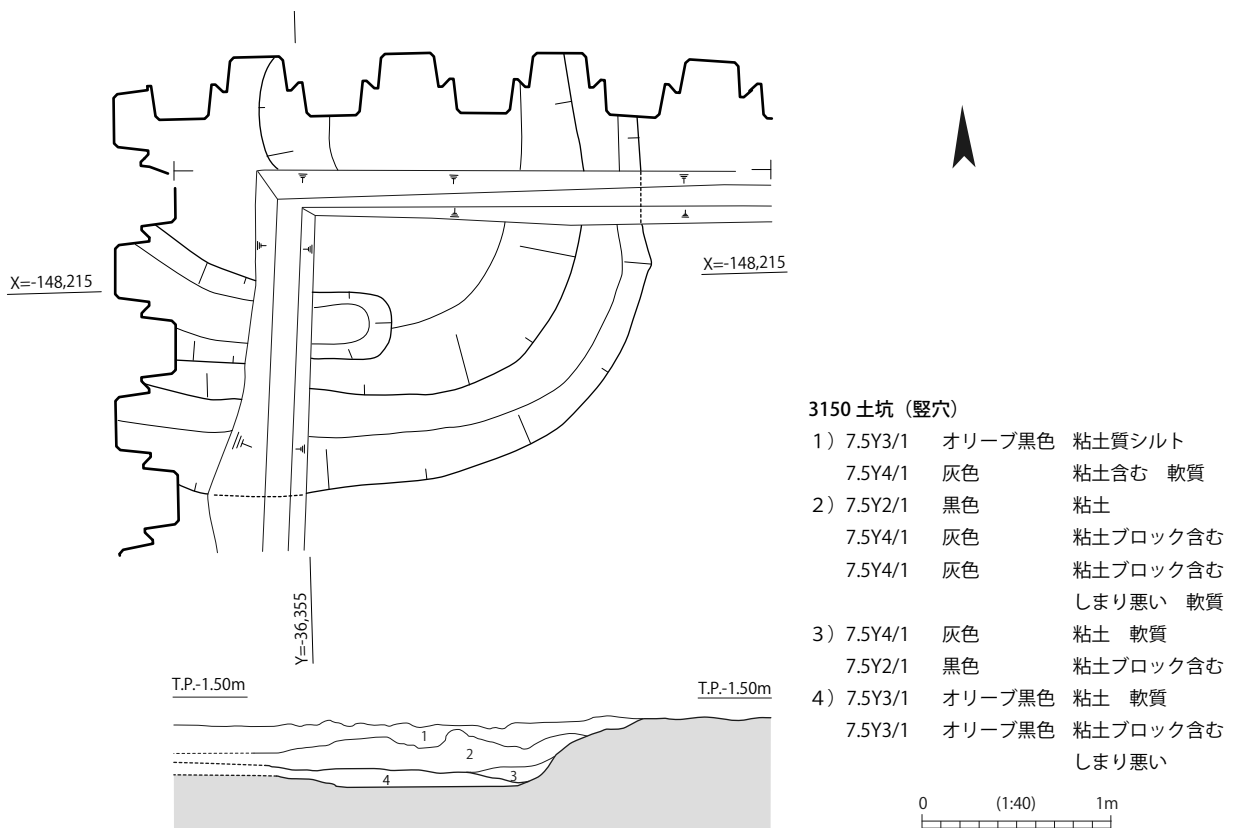
これを併せると、南北 11m、東西 15 m以上の範囲で水田が営まれていたことがわかる。耕作土である第 16 層からは、弥生時代前期の遺物が出土した（第 89 図 1）。

第 89 図 1 は、大型甕の口縁部である。外面調整は斜め方向のハケ、内面はハケ後ユビナデを施す。短く屈曲させた口縁端部には刻み目を施す。

第 17 遺構面（第 88 図） 第 16 層を除去した段階で検出した弥生時代前期遺構面である。調査区北西部において土坑を検出した。既往の調査では、集落居住域の東縁辺部にあたることから、竪穴建物の可能性が考えられる。上位水田との関係から、居住域が廃絶した後に生産域として利用されたことが窺え



第 89 図 10-1-3 区 第 16 層出土遺物実測図



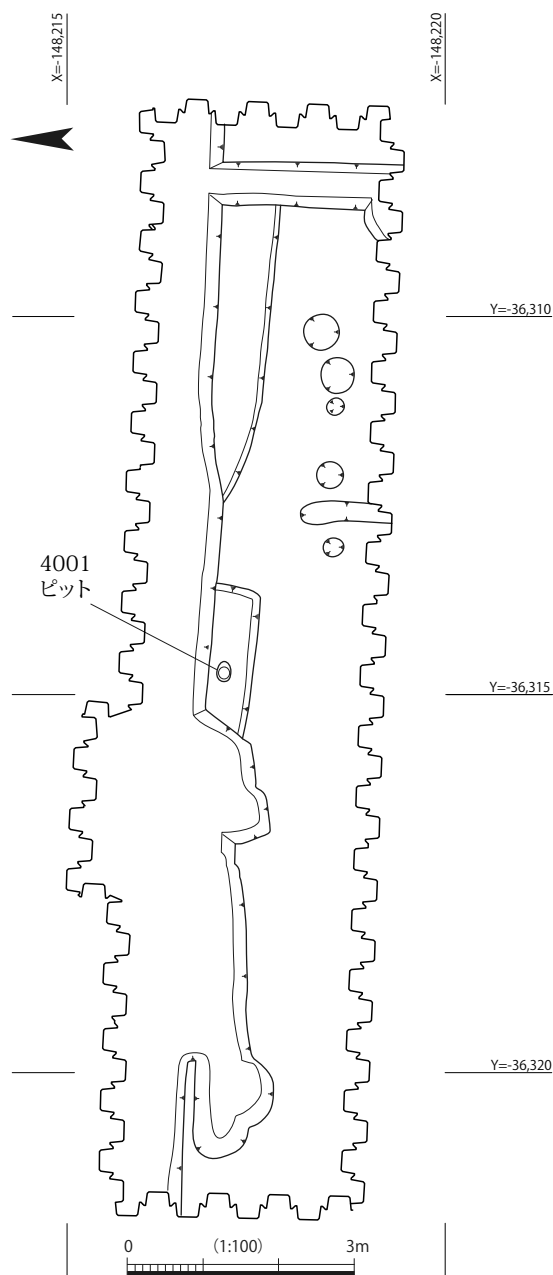
第 90 図 10-1-3 区 第 17 遺構面 3150 土坑（竪穴）平面断面図

る。

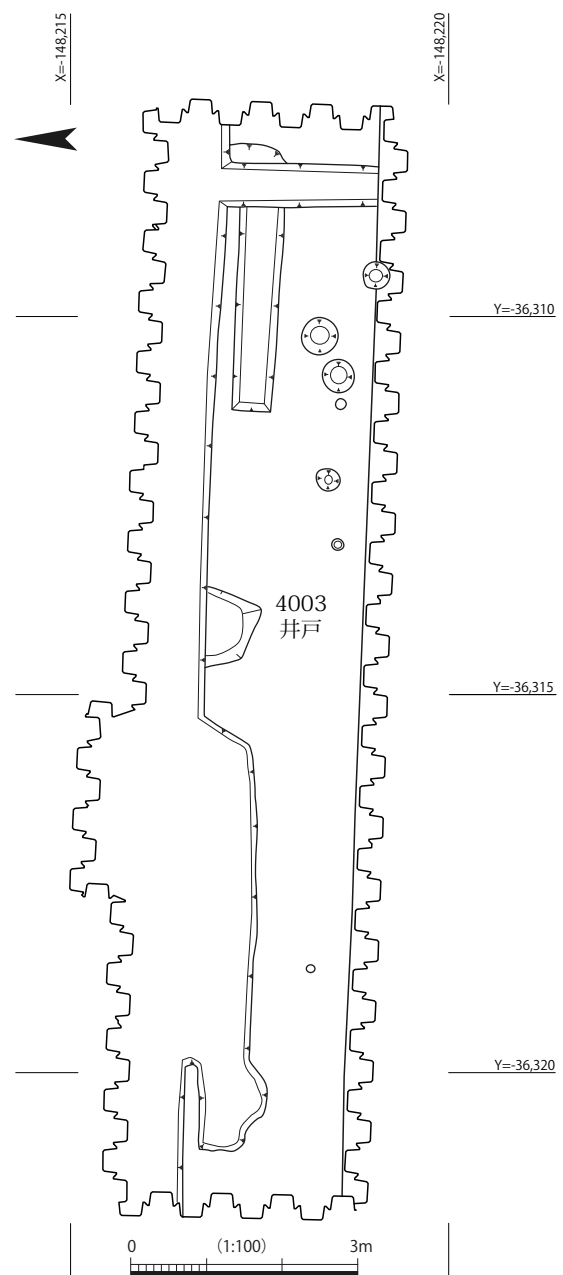
3150 土坑（竪穴）（第 90 図） 南北長 2.5 m、東西幅 2.0 m 程度の範囲において検出した。平面形状は円形に復元できる。遺構の縁辺には段を作り、南側の一角には、段に沿って小溝を廻らせている。埋土はオリブ黒色粘土質シルトや黒色粘土を主体とする。遺物の出土は確認できなかった。

4. 10-1-4 区

10-1-4 区は、10-1-3 区の東側に設定した調査区である。近現代水路と電鉄鉄塔基礎の埋設時の攪乱により、調査区北辺部分の中世遺構面は亡失する。その他の範囲では、弥生時代前期から中世末期まで、計 17 枚の遺構面を検出した。



第 91 図 10-1-4 区 第 2 遺構面全体図



第 92 図 10-1-4 区 第 3 遺構面全体図

第1遺構面・第2遺構面（第91図） 第1遺構面は、機械掘削層除去面である。顕著な遺構は確認できていない。第2遺構面では、調査区中央においてピットを1基検出した。基盤層となる第2層からは、土師器甕、須恵器甕、瓦器椀、東播系須恵器鉢、青磁碗、瓦質土器播鉢、施釉陶器、備前焼鉢、染付碗等が出土した。

第3遺構面（第92図） 第2層を除去した段階で検出した遺構面である。井戸を検出した。遺構面の存続時期は中世末～近世初頭である。基盤層となる第3層は中世後期包含層で、15世紀までの遺物を含む。瓦質土器鉢、青磁碗、土師器皿等が出土した（図版73-1-1・73-1-4）。

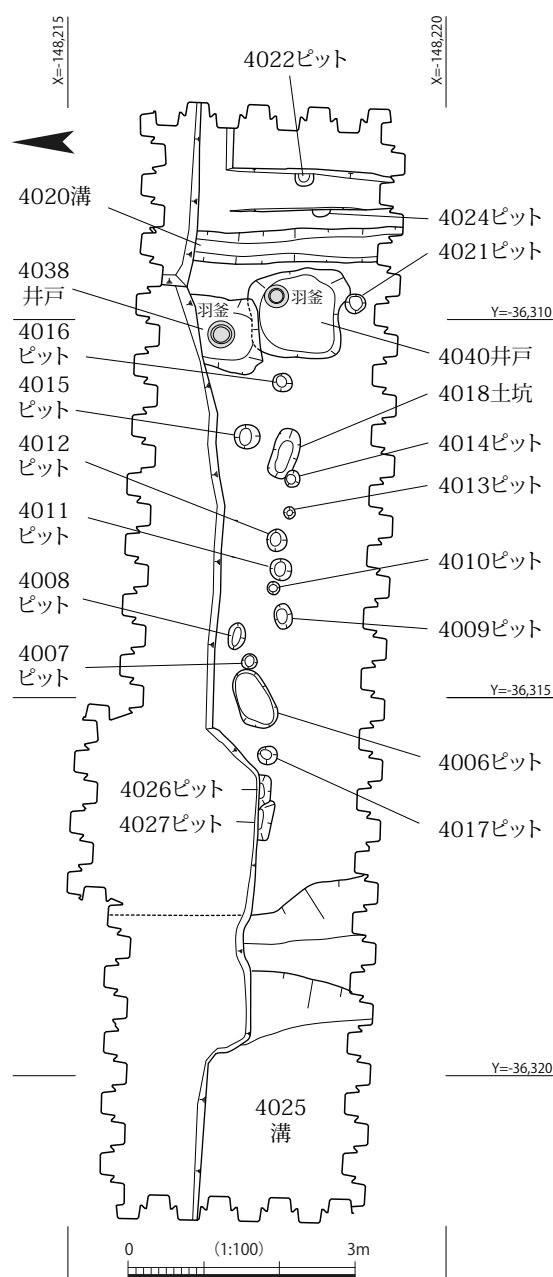
4003井戸 調査区中央部北辺において検出した遺構である。平面形状は不定形、残存する南北長は0.7m、東西幅は1.1mを測る。断面形状は台形、最大深度は0.4mである。埋土は灰黄褐色シルトに同色ブロックが混じる。埋土からは、瓦質土器鉢が出土した。

第4遺構面（第93図） 第3層を除去して検出した遺構面である。10-1-3区において中世集落を検出した第3遺構面に対応する。10-1-3区に比べて遺構密度は希薄であるが、東西方向に柱穴が並ぶことから、連続する居住域として利用されたことは明確である。井戸、ピット、大溝を検出した。

4025溝 調査区西端部において検出した大型遺構である。南北方向へ通直にのびる。西岸は確認できていない。検出長2.1m、検出最大幅4.3m、最大深度は0.88mを測る。断面形状は東岸に段をもつため丸みのある逆凸形に似る。

埋土は、遺物を多く含む上層と自然堆積層である下層に大別できる。上層は、黄灰色シルトにブロック土が多く混じる。下層は暗灰色粘土～シルトを主体とし、弱いラミナが認められる。溝が掘削された初期段階は、比較的静かな環境下で埋没が始まったと推測される。遺構内上層からは、土師器羽釜・皿、須恵器甕、東播系須恵器鉢、瓦質土器三足釜・羽釜、軒丸瓦等が出土した（図版73-2・74-1・74-2・75-1・75-2）。遺物の年代幅より、遺構は13～15世紀にかけて埋没したと考えられる。

4038井戸 調査区東半部において検出した遺構である。4040井戸とは切り合い関係にある。平面形状は不定形、検出南北長0.8m、東西幅0.9mを測る。断面形状は方形、最大深度は0.4mである。埋土は黄灰色シルト～極細砂を主体とする。掘り方中央



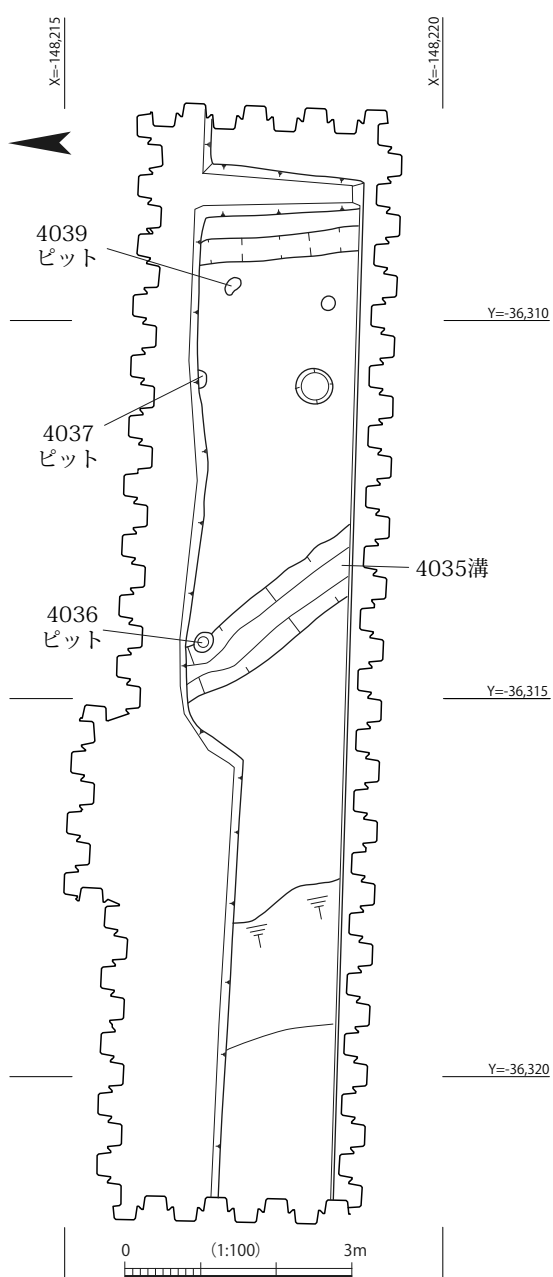
第93図 10-1-4区 第4遺構面全体図

部には、瓦質土器羽釜を2段に重ねた井戸枠が据えられている。井戸枠内からは、瓦器椀2点（図版76-1-1・76-1-2）、東播系須恵器鉢の破片が出土した。遺構の時期は、14世紀後半である。

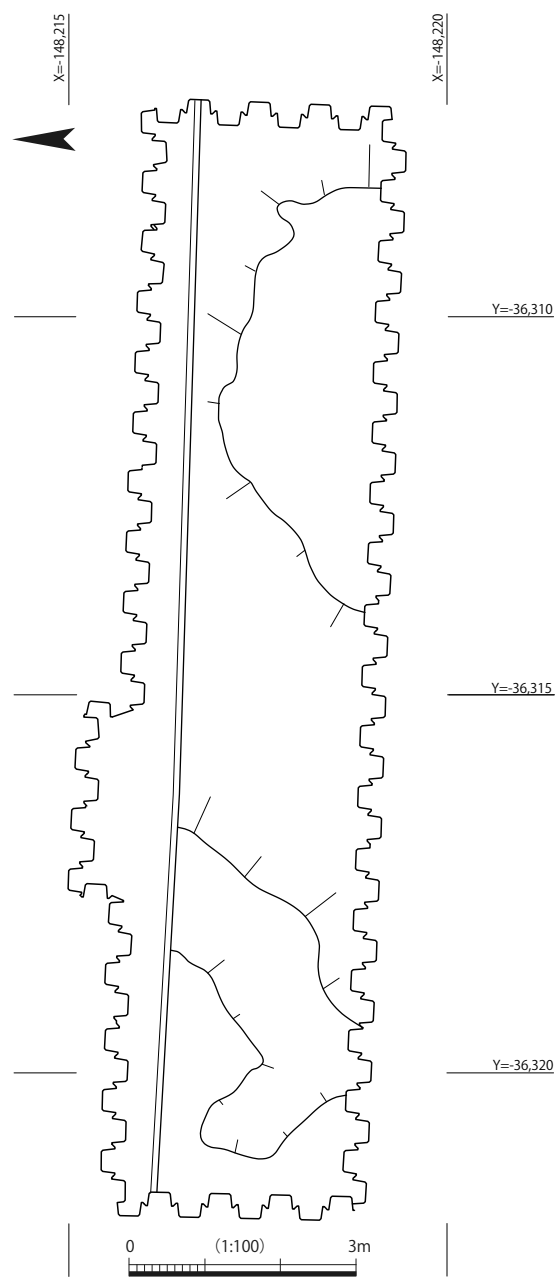
4040 井戸 4038 井戸の南側において検出した遺構である。平面形状は不定形、南北最大径1.3m、東西最大幅1.2mを測る。断面形状は方形形、最大深度は0.35mである。埋土は、黒褐色シルト、黄灰色シルト～極細砂、黒褐色シルト等の堆積がある。掘り方の北東位置より、土師器羽釜を転用した井戸枠が出土した（図版76-1-3）。この井戸枠内からは、自然石とともに瓦器椀が出土した。井戸の掘り方埋土からは、土師器羽釜・皿、瓦器椀が出土した。遺構の時期は、14世紀である。

第5遺構面（第94図） 第4層を除去して検出した遺構面である。ピット、溝を検出した。この遺構面の存続時期は、古代～中世初頭である

4035 溝 調査区中央部において検出した遺構である。北西から南東へとのび、調査区外へと続く。検



第94図 10-1-4区 第5遺構面全体図



第95図 10-1-4区 第8遺構面全体図

出長 3.0 m、最大幅 0.7 mを測る。断面形状は U 字形、最大深度は 0.14 mを測る。埋土は灰黄褐色シルト～極細砂を主体とする。溝底面は、南東から北西へ向かって緩やかに下降する。埋土からは、須恵器杯身、土師器小型器台、庄内式甕等を出土した。遺構の時期は 8 世紀である。

第 6 遺構面・第 7 遺構面・第 8 遺構面・第 9 遺構面 第 10-1-4 区では、古墳時代の流路堆積を土質によって上下 2 層に細分した。古墳時代の流路堆積である第 6 層の上面が第 6 遺構面、中面が第 7 遺構面、下面が第 8 遺構面となる。第 8 遺構面では、流水による地表面の乱れが凹凸として残る(第 95 図)。

第 9 遺構面は、第 8 層を除去した遺構面で、弥生時代後期に相当するが、顕著な遺構を確認することはできなかった。

第 10 遺構面 (第 96 図) 第 9 層を除去して検出した遺構面である。弥生時代中期後半の墓域を検出する遺構面に相当する。第 10 遺構面では、北西-南東方向に通る溝を複数条検出した。遺構埋土を比較すると溝の埋没には時期差がある。このため、溝は複数回にわたって開削されたと考えられる。

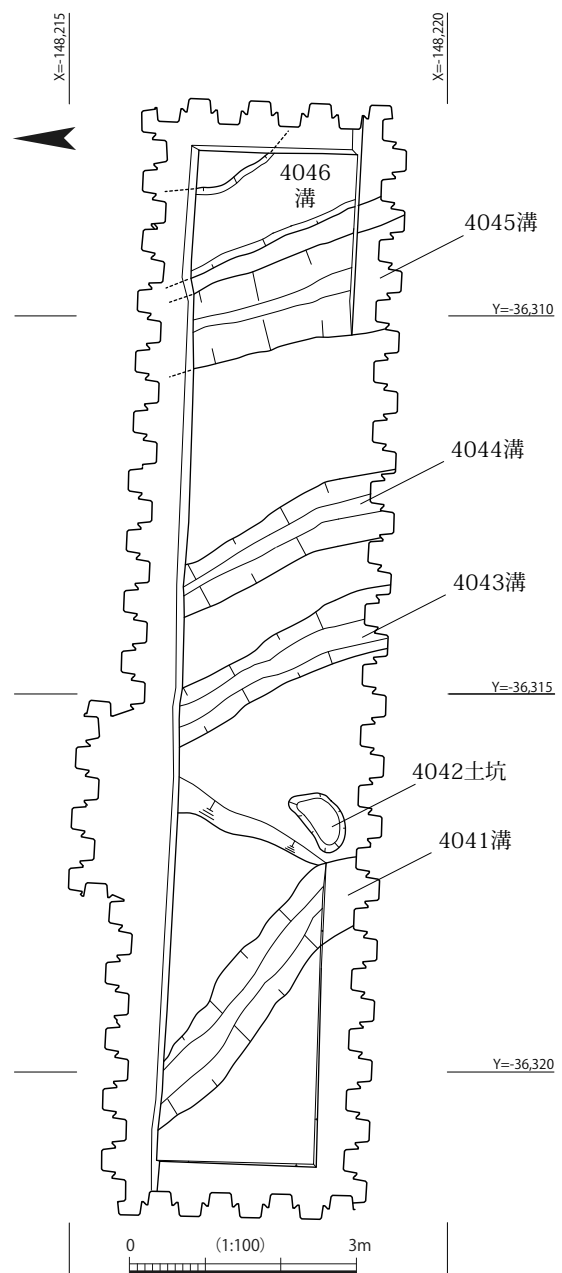
10-1-4 区の遺構面レベルは周溝墓を検出した 10-1-3 区や 10-1-5 区より低く周辺の水が集まりやすい環境にあったようである。第 10-1-3 区と第 10-1-5 区、両者の墓域を区画する溝か、あるいは排水溝として機能した可能性がある。

今回検出した溝は全て、既往の調査区 99-2 区、01-2 区においても確認されている。

4041 溝 調査区西半部において検出した遺構である。調査区南辺から北西方向に進路を変えて進む。検出長 3.7 m、最大幅 0.9 mを測る。断面形状は不定形ながら逆凸形に似る。最大深度は 0.3 mを測る。埋土は、灰白色極細砂、黄灰色極細を主体とする。遺物の出土は確認できていない。溝群の中では、比較的早い段階で掘削されたと考えられる。

4042 土坑 4041 溝の東側において検出した遺構である。平面形状はいびつな長円形、長径 0.9 m、短径 0.5 mを測る。断面形状は浅い皿形、最大深度は 0.05 mである。埋土は灰白色細砂～粗砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

4043 溝 調査区中央部において検出した遺構である。調査区南辺から北西方向へ進み、調査区外へと続く。検出長 2.8 m、最大幅 0.8 mを測る。断面形状は碗形、最大深度は 0.4 mを測る。埋土は褐灰色中砂～粗砂を主体とする。埋土から、弥生土器甕の破片が出土した。著しく磨滅を受けるため、時期は判断できない。

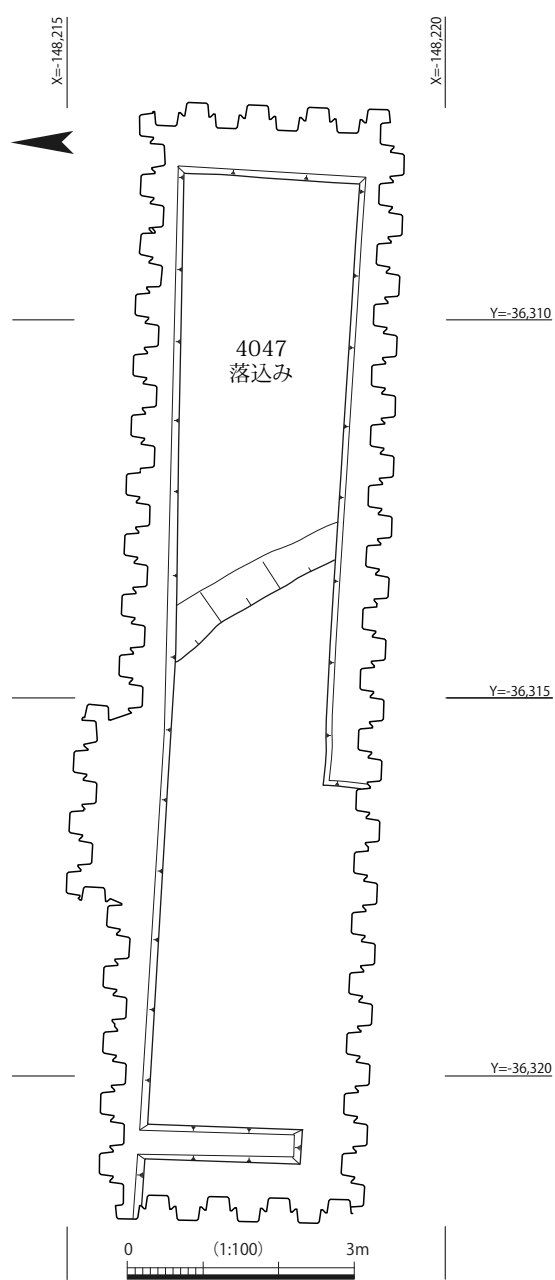


第 96 図 10-1-4 区 第 10 遺構面全体図

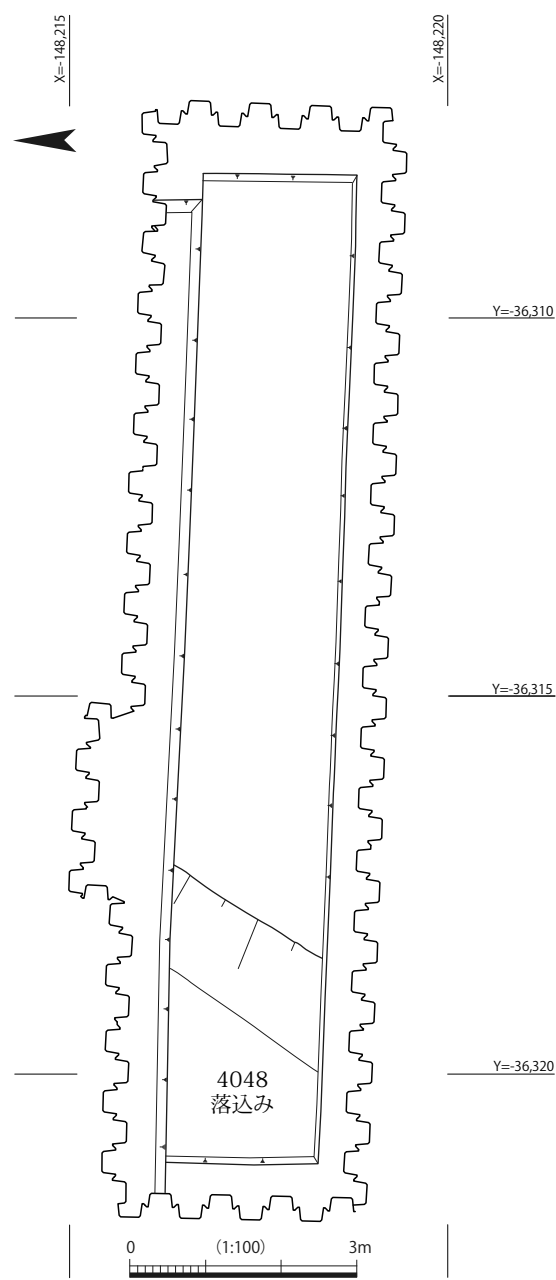
4044 溝 4043 溝の東側を併走する遺構である。調査区中央付近で僅かに湾曲し、溝幅を減じながら調査区外へと続く。検出長 2.7 m、最大幅 1.9 m を測る。断面形状は V 字形、最大深度は 0.32 m を測る。埋土は褐灰色粗砂～砂礫混じりシルト質極細砂～粗砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

4045 溝 調査区東半部において検出した遺構である。調査区南辺から北西方向に進み、幅を減じながら調査区外へと続く。検出長 2.5 m、最大幅 1.2 m を測る。断面形状は不定形で底面が波打つ。最大深度は 0.4 m を測る。埋土は黒褐色～黒色シルト、灰色極細砂、灰色中砂～粗砂混じり極細砂シルト、灰色細砂等から成る。遺物の出土は確認できていない。

4046 溝 調査区の東端部において検出した遺構である。検出長 3.0 m、最大幅 1.1 m を測る。断面形状は浅い皿形、最大深度は 0.06 m を測る。埋土は 黒褐色～褐灰色細砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。4041 溝と同様、他の溝に先駆けて掘削されたと考えられる。



第 97 図 10-1-4 区 第 11 遺構面全体図

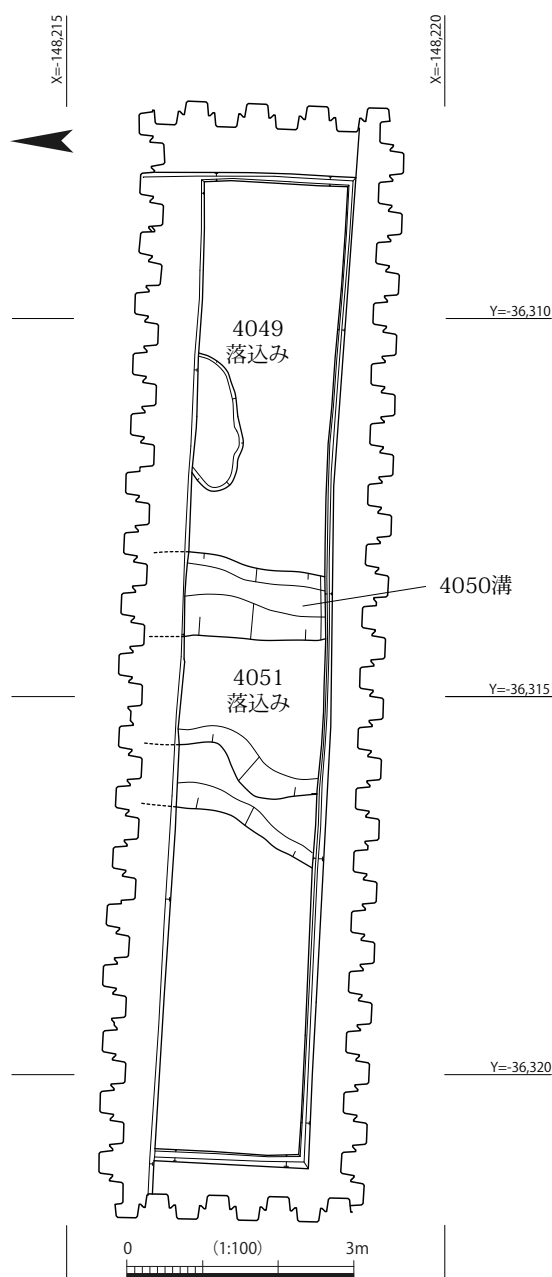


第 98 図 10-1-4 区 第 14 遺構面全体図

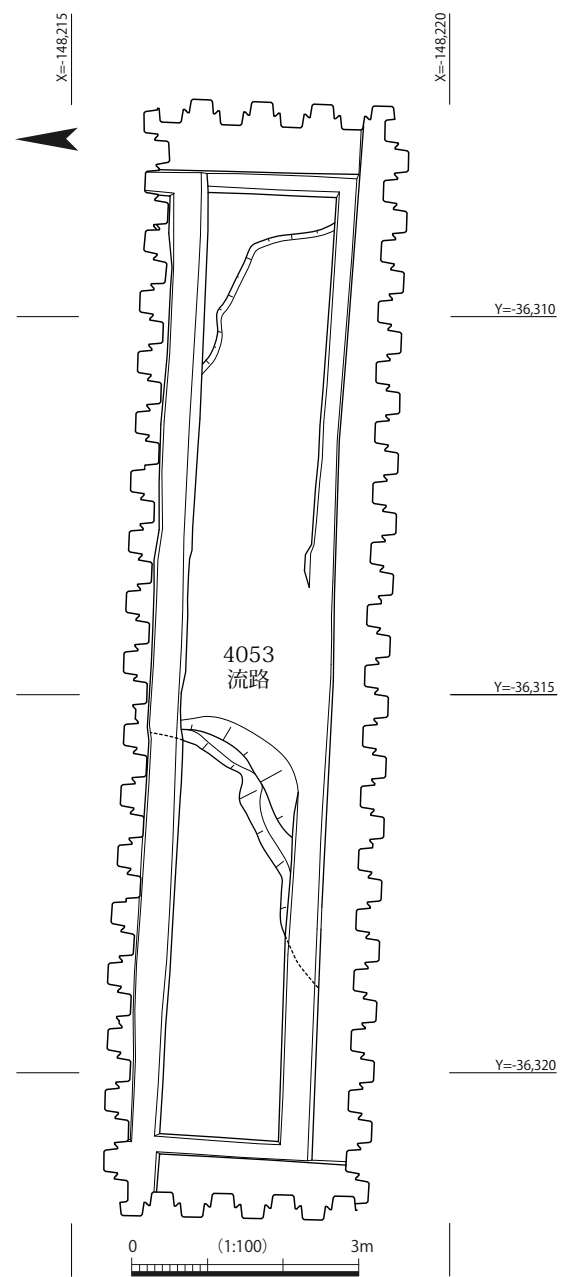
第 11 遺構面・第 12 遺構面・第 13 遺構面 第 11 遺構面（第 97 図）は、弥生時代中期流路堆積である第 11 層上面において検出した。東へ緩やかに下がる落込みを検出したが、人為的な遺構は確認できていない。第 12 遺構面・第 13 遺構面は、ともに湿地堆積層の上面にあたる。弥生時代中期相当遺構面であるが、特に明確な遺構は確認できていない。

第 14 遺構面・第 15 遺構面 第 14 遺構面（第 98 図）は、第 13 層を除去した段階において検出した面である。弥生時代前期末～中期初頭遺構面に相当する。調査区西端部において北西方向へ下がる落込みを確認したが、人為的な遺構を検出することはできなかった。基盤層である第 14 層からは、弥生土器壺の破片が出土した。

第 15 遺構面は、第 14 層を除去した段階で検出した。湿地状堆積の広がりであり、特に顕著な遺構は確認できなかった。遺構面の時期は、弥生時代前期に相当する。



第 99 図 10-1-4 区 第 16 遺構面全体図



第 100 図 10-1-4 区 第 17 遺構面全体図

第16遺構面（第99図） 第15層を除去した段階で検出した遺構面である。遺構面の時期は弥生時代前期である。調査区中央に南北方向の溝があり（4050溝）、この周辺が大きく落込む（4051落込み）。また、地震の変形により、地表面が窪んでできた落込みも認められる（4049落込み）。4051落込みからは、弥生時代前期壺の破片が2点出土した。

4050溝 調査区中央部において検出した遺構である。南北方向に直通し、調査区外へと続く。検出長1.8m、最大幅1.1mを測る。断面形状は角の丸い逆台形、最大深度は0.45mを測る。埋土は灰色シルトを主体とし、底部付近に灰色極細砂ブロックが混じる。遺物の出土は確認できていない。

第17遺構面（第100図） 第16層を除去した段階で検出した遺構面である。基盤層である第17層は黒褐色シルトを呈する湿地堆積で、自然堆積層として認識されている。調査区中央では流路上面を検出した。

5. 10-1-5区

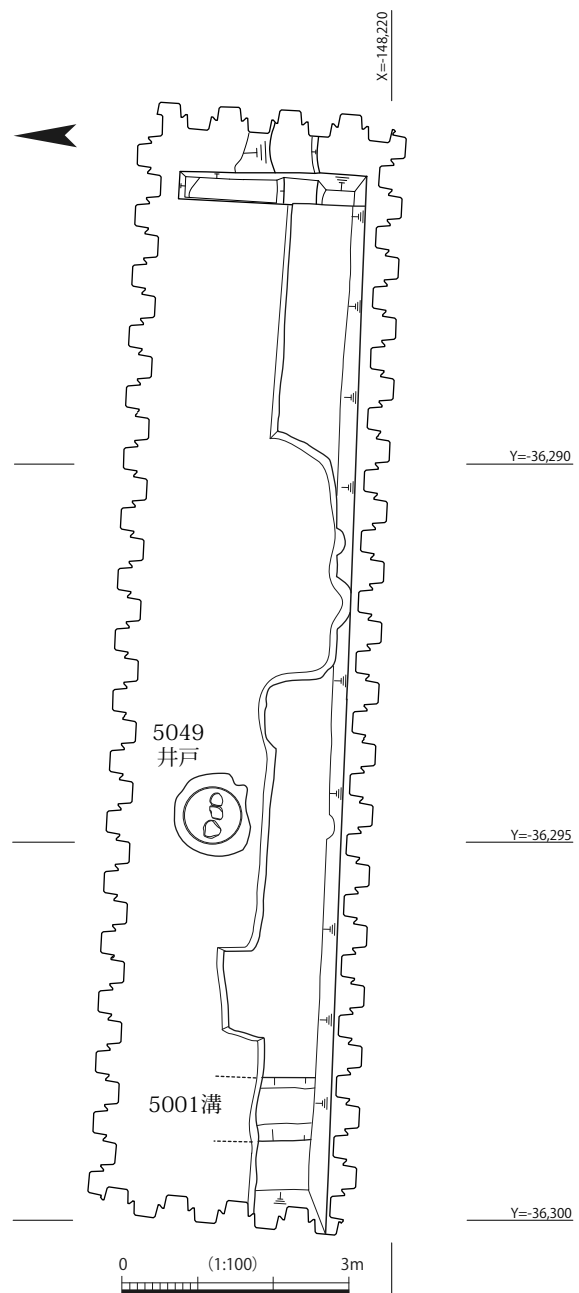
10-1-5区は、10-1-4区の東側に設定した調査区である。瓜生堂遺跡範囲の東端部にあたる。今回の調査では、掘削深度が浅いため弥生時代中期遺構面を最終掘削面とする。確認した遺構面は計9枚である。

第1遺構面・第2遺構面 第1遺構面は機械掘削層除去面である。近現代水路による攪乱が広範囲にわたるため、遺構面の残存範囲は狭い。基盤層である第1層からは、陶磁器、染付、瓦器椀、須恵器甕、土師器釜等が出土した。

第2遺構面は、近世前期遺構面である。上面同様、遺構面の残存範囲は狭い。同じく、顕著な遺構を検出することはできなかった。第2層からは、施釉陶器（瀬戸・美濃焼）急須、瓦質土器羽釜、須恵器甕等が出土した。

第3遺構面（第101図） 第2層を除去して検出した遺構面である。調査区西半部において、溝、井戸を検出した。遺構面の時期は、中世末～近世初頭である。基盤層である第3層からは、土師器皿、瓦器、瓦質土器甕、土玉、銭貨等が出土した（図版77-1）。

5049井戸 調査区中央部において検出した遺構で



第101図 10-1-5区 第3遺構面全体図

ある（図版 20-2）。平面形状はいびつな円形で、長径 1.1 m、短径 0.9 m を測る。断面形状は方形、最大深度は 0.5 m である。埋土は灰黄褐色シルトを主体とする。掘り方の中央に結物桶を井戸枠として据え、その外面に瓦質土器鉢及び東播系須恵器の鉢の破片を差し込んで補強を行っている。井戸枠内からは、土師器羽釜・皿、瓦質土器羽釜（図版 78-5-1）・甕、瓦器椀（図版 79-1-2）、東播系須恵器鉢（図版 79-1-1）土師質のミニチュア高杯（図版 79-1-3）等が出土した。遺物の下限年代は、16 世紀初頭である。井戸の最終埋没段階には、自然石や大型の砥石（図版 78-5-2）が投げ込まれたようである。

第 4 遺構面（第 102 図） 第 3 層を除去した段階で検出した遺構面である。攪乱により亡失する範囲は依然として大きいものの、土坑、井戸、柱跡等の遺構を検出することができた。第 10-1-3 区第 3 遺構面、第 10-1-4 区第 4 遺構面に対応する中世集落面である。遺構出土の遺物の下限年代は、14 世紀である。ただし、井戸掘り方出土遺物には 11～12 世紀に製作時期をもつものがあることから、集落の形成は古代末～中世初頭に始まったと考えられる。

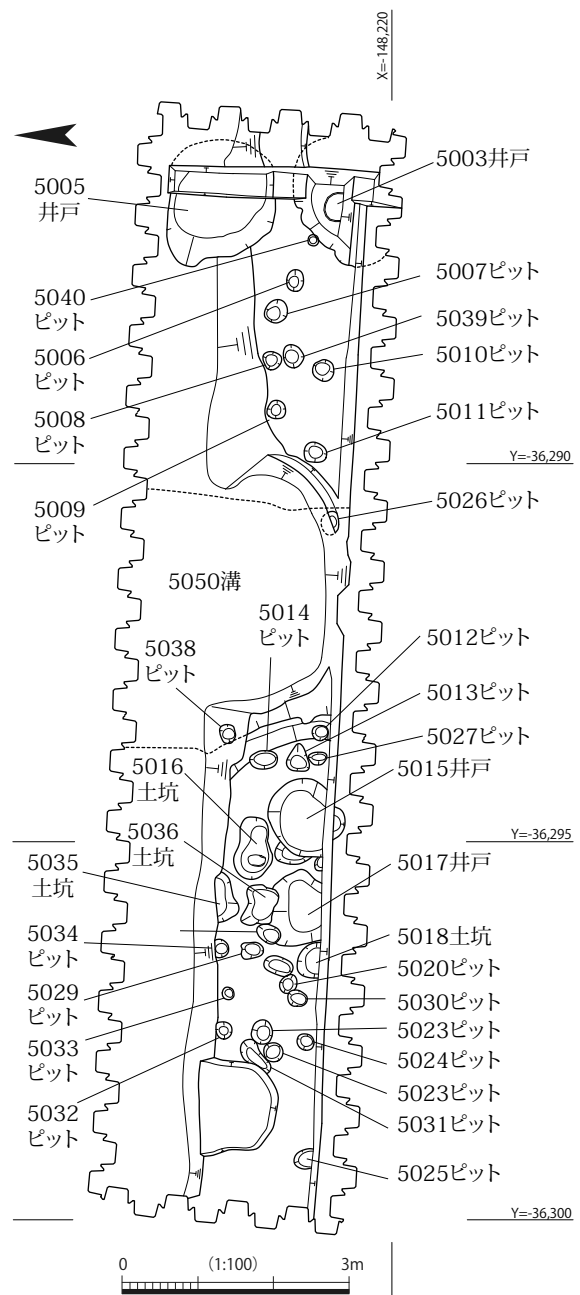
5003 井戸 調査区南東隅において検出した遺構である。平面形状は不定形、検出南北長は 1.1 m、同東西幅は 0.8 m を測る。断面形状は方形、最大深度は 0.8 m である。埋土は黒褐色シルト、黄灰色シルト～細砂、灰色シルト等が堆積する。

掘り方中央より北西に寄った位置に曲物側板を据え、井戸枠とする（図版 109-1-1）。井戸枠内からは、瓦器椀、土師器皿、須恵器甕、瓦質土器羽釜の破片が出土した。

5005 井戸 調査区北東隅において検出した遺構である（図版 20-3）。平面形状は不定形、検出南北長は 1.5 m、同東西幅は 1.1 m を測る。東西方向における断面形状は逆台形、最大深度は 0.55 m である。埋土は灰オリーブ中砂～細砂を主体とする。

掘り方中央付近に木製曲物側板を 3 段重ねて据え、井戸枠とする（図版 109-2）。井戸枠内からは、土師器皿と瓦器椀（図版 78-2）が出土した。また、井戸枠内からは、土師器皿、瓦器椀、須恵器甕、砥石が出土した。掘り方出土の遺物は 12 世紀前半であるが、井戸枠内出土の遺物の下限年代は、14 世紀である。

5015 井戸 調査区中央付近において検出した遺構である。平面形状はいびつな円形、検出南北長 0.7 m、東西幅 1.1 m を測る。断面形状は逆台形、最大



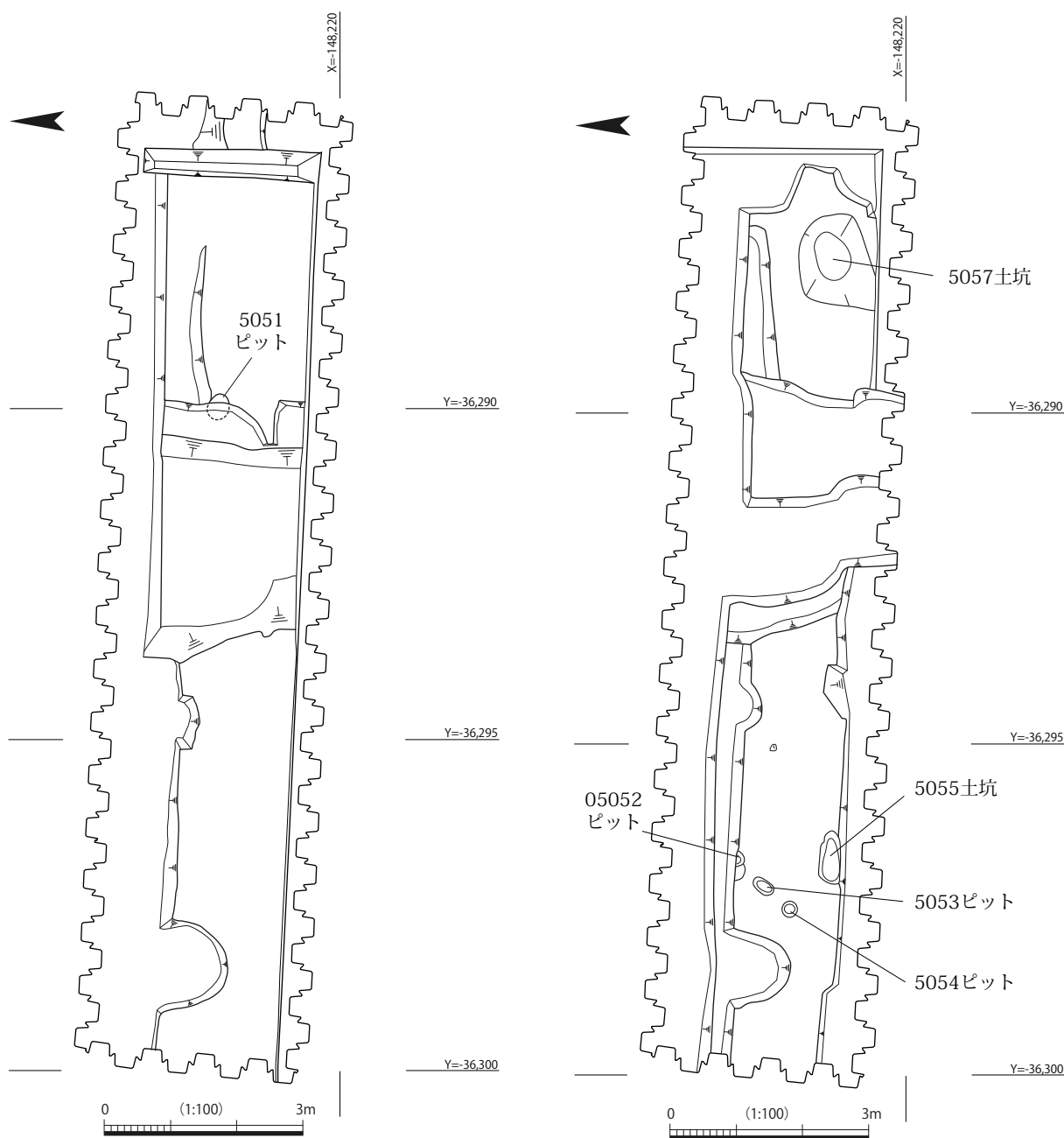
第 102 図 10-1-5 区 第 4 遺構面全体図

深度は 0.55 m である。埋土はオリーブ黄色中砂～粗砂、褐灰色粗砂～中砂、黄灰色シルトなどが堆積する。掘り方埋土からは、土師器皿（11 世紀）が出土した（図版 78-3）。

第 5 遺構面（第 103 図） 第 4 層を除去した段階で検出した遺構面である。調査区東半部において、ピットを検出した。遺構面の時期は古代である。

第 6 遺構面（第 104 図） 第 5 層を除去して検出した遺構面である。基盤層である第 6 層は古墳時代の流路堆積であるため、遺構面は砂質で脆い。この遺構面では、土坑、ピットを検出した。時期は古代である。

5057 土坑 調査区東部において検出した遺構である。平面形状は不定形、長径 1.4 m、短径 1.1 m を測る。



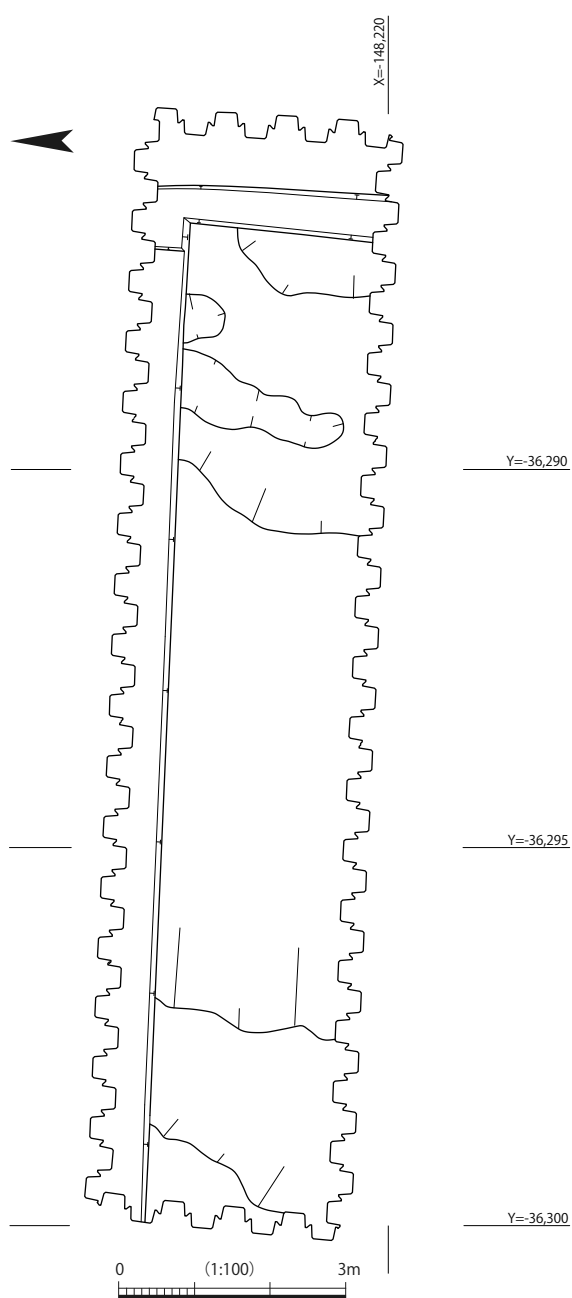
第 103 図 10-1-5 区 第 5 遺構面全体図

第 104 図 10-1-5 区 第 6 遺構面全体図

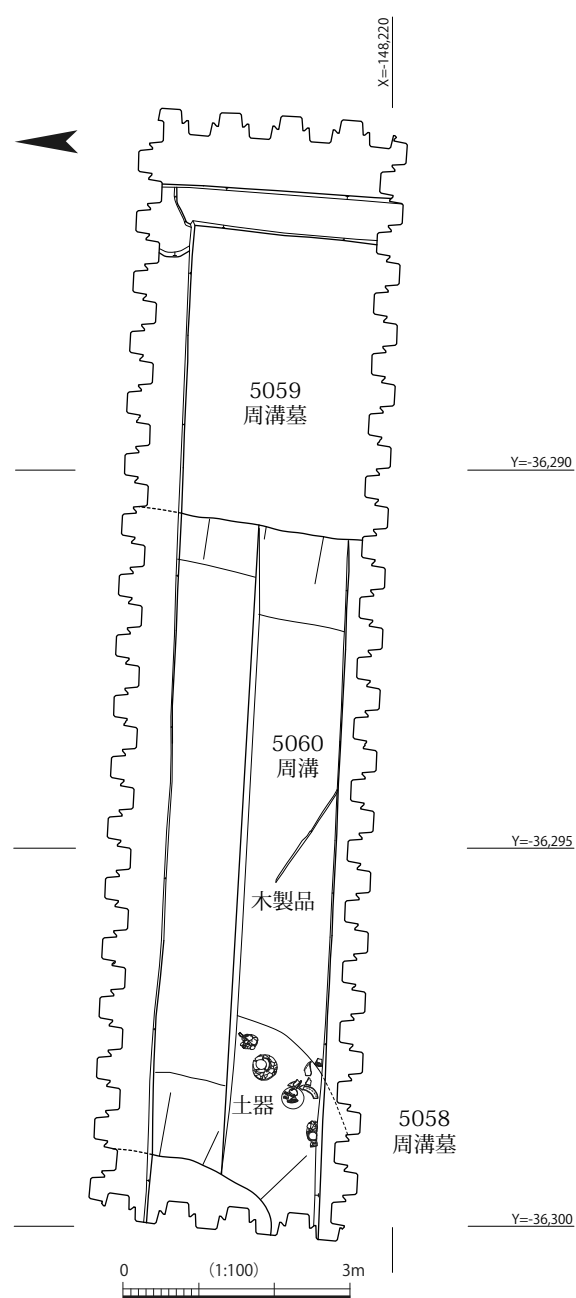
断面形状は椀形、最大深度は 0.3 m である。埋土は褐灰色シルト、黄褐色細砂～粗砂が堆積する。埋土からは土師器杯が出土した。

第7遺構面・第8遺構面 第7遺構面（第105図）は、古墳時代の流路堆積である第6層除去面である。流水による地表面の乱れが認められるが、人為的な意向は確認できていない。第8遺構面は、第7層を除去した遺構面で、弥生時代後期に相当するが、顕著な遺構を確認することはできなかった。

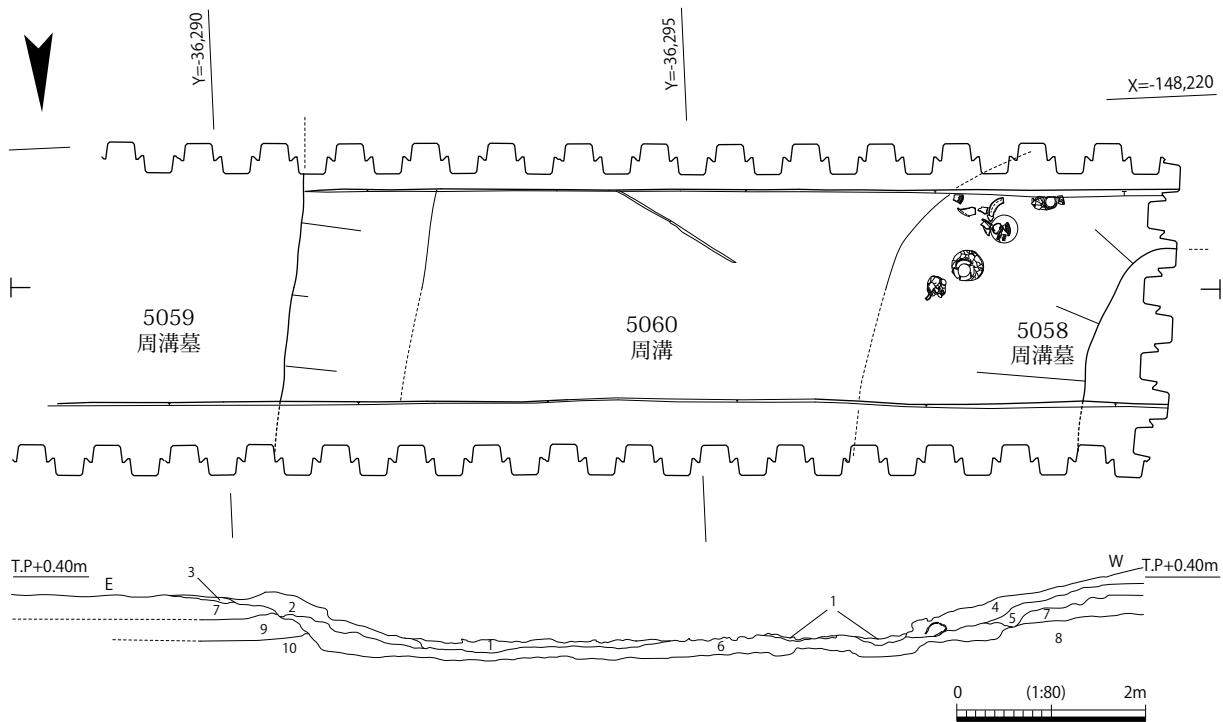
第9遺構面（第106図） 湿地帯積層である第8層を除去して検出した遺構面である。弥生時代中期後半の墓域を覆う暗色帯の上面にあたる。この遺構面では、下層遺構である周溝墓の墳丘が高まりとして現れた。また、供献土器の一部が露出した。



第105図 10-1-5区 第7遺構面全体図



第106図 10-1-5区 第9遺構面全体図



5058 周溝墓・5059 周溝墓・5060 周溝

- | | | | | |
|----------------|--------|-------------------|-------------------|-------------------------|
| 1) N5/0 | 暗灰色 | 中砂～極粗砂混じりシルト | シルトがブロック状を呈する傾向あり | 土壌化層 |
| 2) 2.5Y3/1-2/1 | 黒褐～黒色 | 粗砂～細礫混じり極細砂～シルト | | |
| | | 極細砂～シルトがブロック状を呈する | | 土壌化層 (5059 周溝墓墳丘斜面の暗色帯) |
| 3) 2.5GY6/1 | オリーブ灰色 | 極細砂 | | |
| 5Y5/1 | 灰色 | シルトブロック含む | (5059 周溝墓盛土) | |
| 4) 2.5Y2/1 | 黒色 | 粗砂～細礫混じりシルト質極細砂 | 極細砂～シルトがブロック状を呈する | 土壌化 (5058 周溝墓墳丘斜面) |
| 5) 7.5Y7/1 | 灰白色 | 極細砂 | ブロックを多く含む | (5058 周溝墓盛土) |
| 6) 7.5Y6/1-7/1 | 灰～灰白色 | 極細砂～シルトブロック | | |
| 5Y7/1-7/2 | 灰白色 | 中砂～細礫多く含む | (5060 周溝の加工時形成層) | |
| 7) N5/0 | 灰色 | シルト質極細砂 | 土壌化層 | (墳丘構造前の土壌) |
| 8) 7.5Y5/1-6/1 | 灰色 | 極細砂～シルト | 淘汰良好 | (墳丘構造前の土壌) |
| 10) 5Y6/1-7/1 | 灰～灰白色 | 細砂～中砂 | やや上方粗粒化 | (墳丘構造前の土壌) |

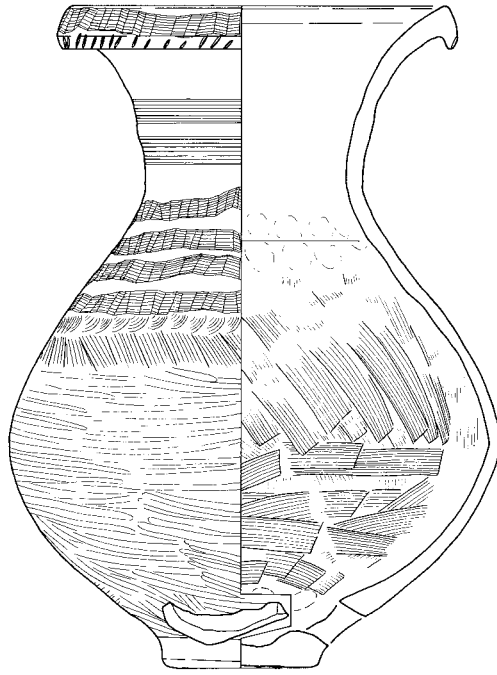
第 107 図 10-1-5 区 第 9 遺構面 5058・5059 周溝墓・5060 周溝平面断面図

この時点で、第 10-1-5 区では掘削設計深度に達したため、以下の調査は、深堀トレンチを設定して行った。その結果、2 基の方形周溝墓を検出した。

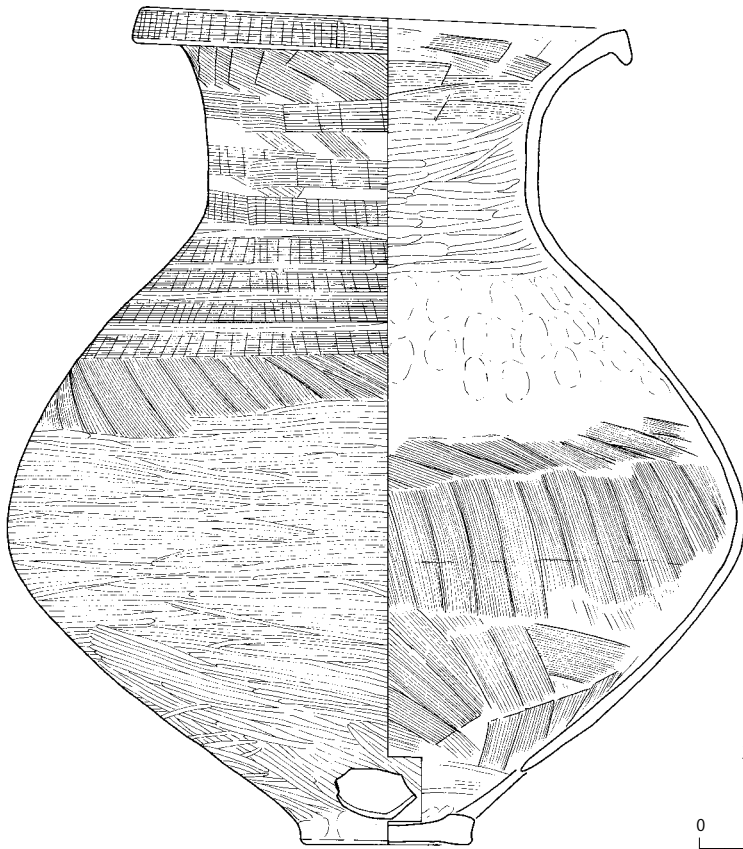
5058 周溝墓 (第 107 図) 調査区西端において検出した周溝墓である。東端に位置する周溝墓 5059 とは周溝 (5060 周溝) を共有する。周溝底面から墳丘上端までは、0.4 m の比高差を測る。主体部は、確認できていない。

今回検出したのは、周溝墓の南東コーナー部分である。斜面からは、供献土器と思われる弥生土器壺が 3 点出土した。すべて、墳丘から崩落した堆積層からの出土である。1 点は横位置であるが、残る 3 点は正位置で出土した。原位置を保つ状態であると考えられる。

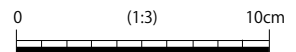
第 108 図 1 は、最も北から出土した広口壺である。口縁部を北東方向に向けた横位置で出土した。墳丘上より転落したと考えられる。器形は、丸みを帯びた体部となだらかに外反する口縁をもつ。口縁端部は折り曲げて垂下させる。外面調整は斜め方向のハケ後横方向のミガキ、内面はハケ後ユビナデを施す。頸部には櫛描文を 2 条、肩部には簾状文 4 条、その下に扇形櫛描列点文を施す。口縁端面には簾状文を廻らせ、その下位に刻み目を入れる。櫛描文の原体幅は、1.1cm を測る。底部付近に焼成後穿孔



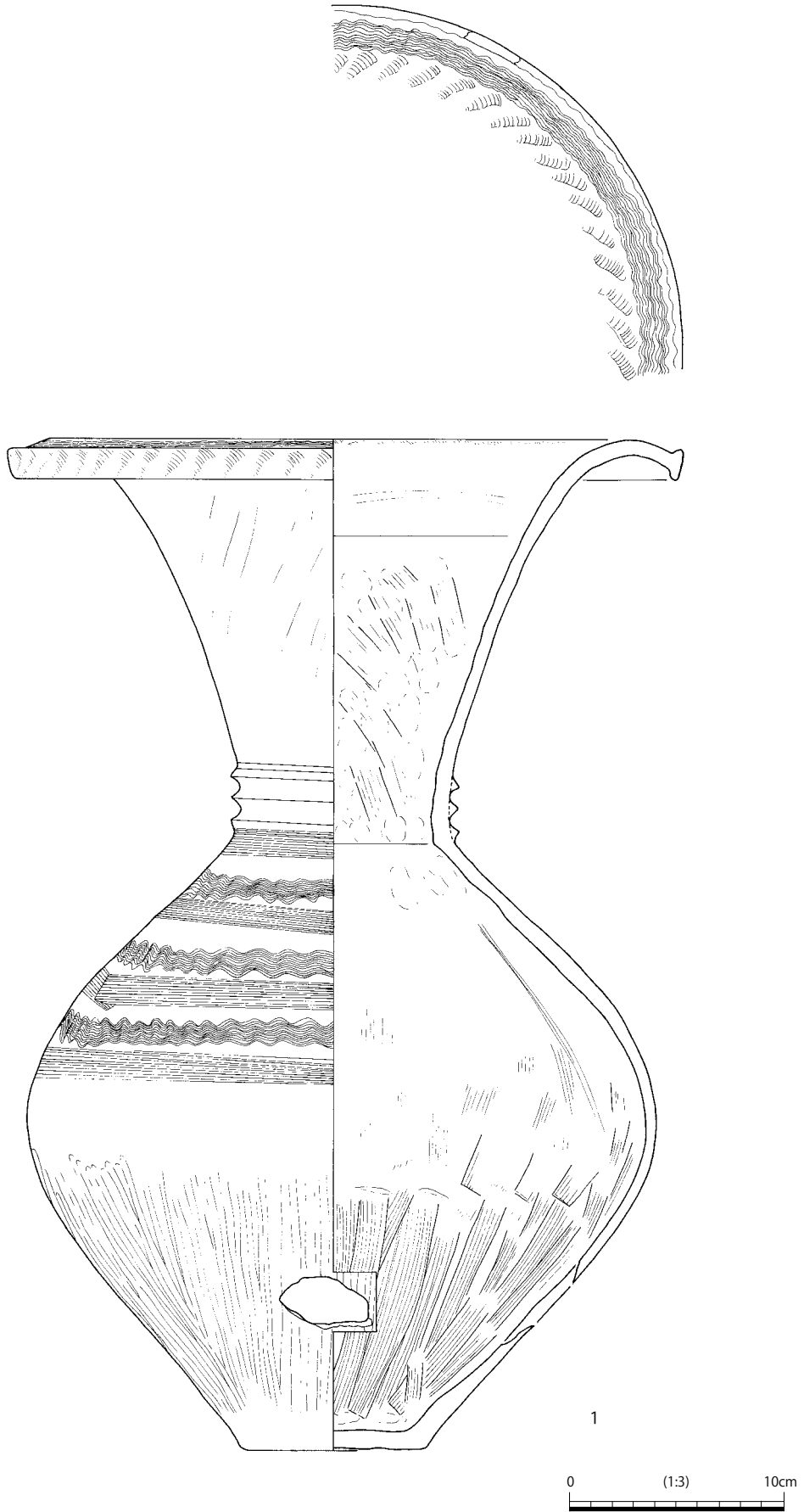
1



2



第 108 图 10-1-5 区 第 9 遺構面 5058 周溝墓出土遺物実測图 1

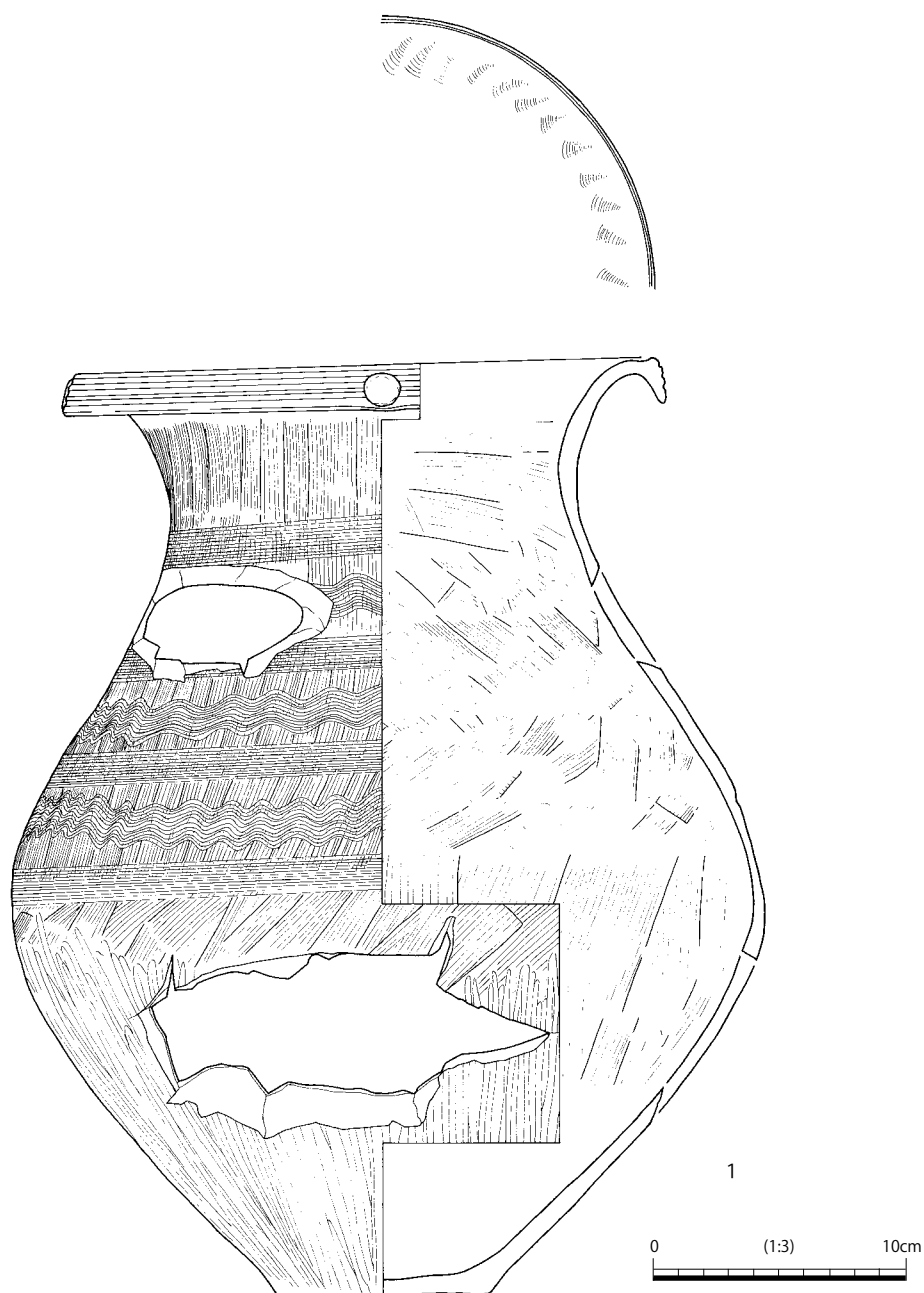


第109图 10-1-5区 第9遺構面 5058周溝墓出土遺物実測图2

を施す。

第 108 図 2 は、1 の南より出土した広口壺である。口縁部を僅かに北へ傾けた状態で出土した。器形は張り出した胴部と太い頸部が特徴的である。口縁部は外方へ折り曲げて垂下させる。器面調整は、外面が斜め方向のハケ後横方向のミガキ、底部付近には斜め方向のミガキも認められる。内面調整は、体部がハケメ後ユビナデ、頸部は横方向のミガキ、口縁部にはハケ目が残る。器面装飾は、肩部から頸部にかけて、6 条の簾状文を施す。口縁端面にも簾状文が認められる。底部付近には、焼成後穿孔が施されている。

第 109 図 1 は、107 図 3 の南側より出土した広口壺である。やや頸を東へ傾けた状態で出土した。口縁部は破損して、東側に散在していた。器形は、張り出した胴部から頸部が小さく窄まり、上方へ大



第 110 図 10-1-5 区 第 9 遺構面 5058 周溝墓出土遺物実測図 3

きく外反して口縁に至る。口縁端部は粘土帯を貼り付けて肥厚させ、面を作る。外面調整はハケ後縦方向のミガキ、口縁部にはハケの痕跡が僅かに残る。内面は縦方向のハケ後ユビナデを行う。器壁の装飾は、頸部に断面三角形の粘土帯3本を貼付けて突帯とする。その下位には櫛描文4条と櫛描波状文2条を交互に付す。口縁端面には扇形の櫛列点文を施す。口縁内面には、櫛描波状文と列点文を廻らせる。底部付近には、焼成後穿孔が認められる。

第110図1は、最も南側から出土した広口壺である。口縁部を西に傾けた状態で出土した。器形は、張り出した胴部から太く短い頸部を経て、外反する口縁部に至る。口縁端部は外方へ折り曲げ、垂下させる。器壁の外面調整は縦方向のハケ後縦方向のミガキ、胴部上半から頸部ではハケ目が顕著に残る。内面調整は、ハケ後ユビナデを施す。指頭圧痕が随所に認められる。器壁の装飾は、胴部から頸部にかけて櫛描文4条と櫛描波状文3条を交互に付す。口縁端面は凹線文をいれ、計4箇所に円形浮文を配する。口縁部内面には扇形の櫛描列点文を廻らせる。胴部下と肩部を打ち欠き、焼成後穿孔を施す。

第3節 岩田遺跡の遺構と遺物

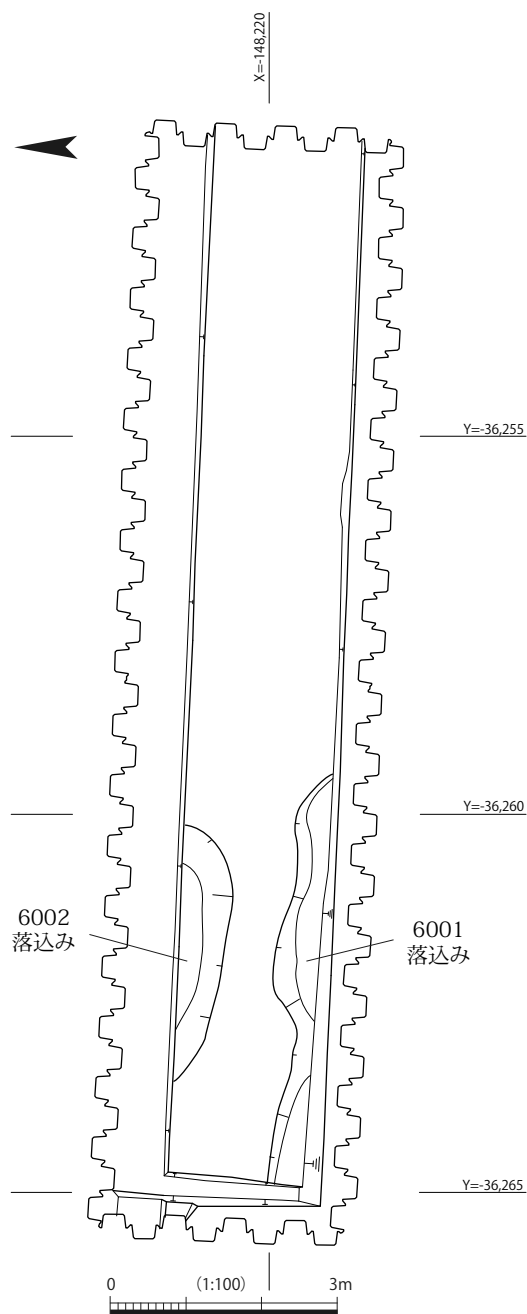
1. 10-1-6区

10-1-6区は、瓜生堂遺跡範囲内の10-1-5区とは里道を隔てた東側に設定した調査区である。この里道より東は字名が変わり、岩田遺跡と呼称する。この調査区は大きな攪乱を受けておらず、遺構面の残存状態は良好である。第10-1-6区では、弥生時代前期から中世後期まで、計22枚の遺構面を検出した。

第1遺構面 機械掘削層除去面である。鉄道敷設前の当該地区は、水田が営まれていたため、近世遺物の出土もごく僅かである。基盤層である第1層からは、須恵器甕・高杯、土師器羽釜・皿、施釉陶器壺（図版80-1）、東播系須恵器鉢、須恵器甕、瓦器椀、染付碗、備前焼甕、平瓦等が出土した。

第2遺構面（第111図） 第1層を除去して検出した遺構面である。調査区西半部において落込みを検出した。このうち、6001落込みは下層遺構の影響による沈み込みである。人為的な遺構は確認できていない。

遺構面の時期は、中世末～近世初頭である。基盤層で



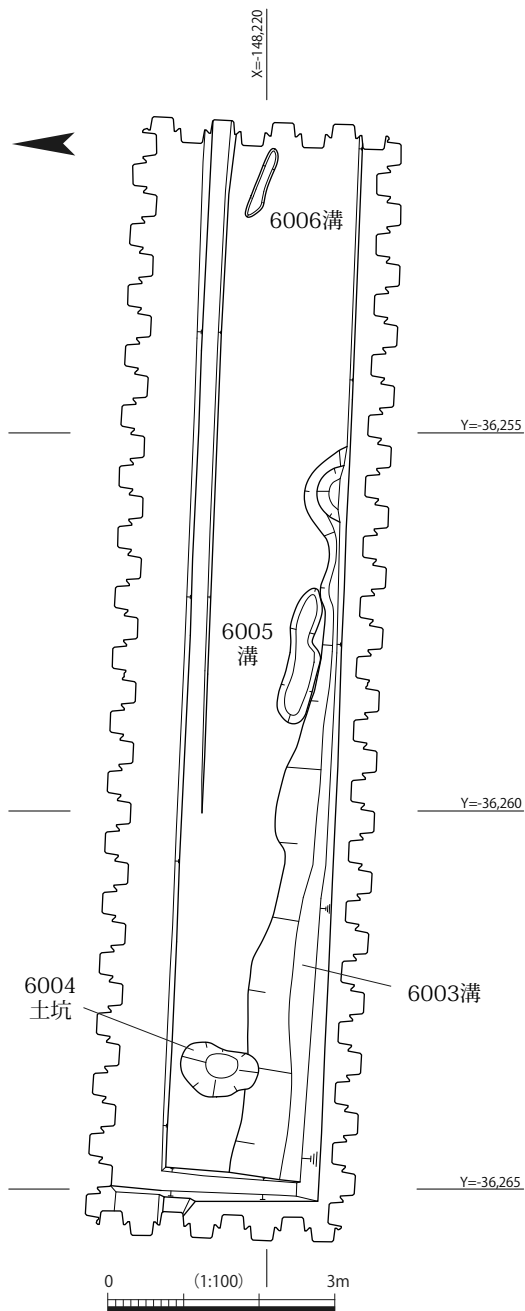
第111図 10-1-6区 第2遺構面全体図

ある第2層からは、東播系須恵器鉢、須恵器杯身、土師器羽釜・甕が出土した。

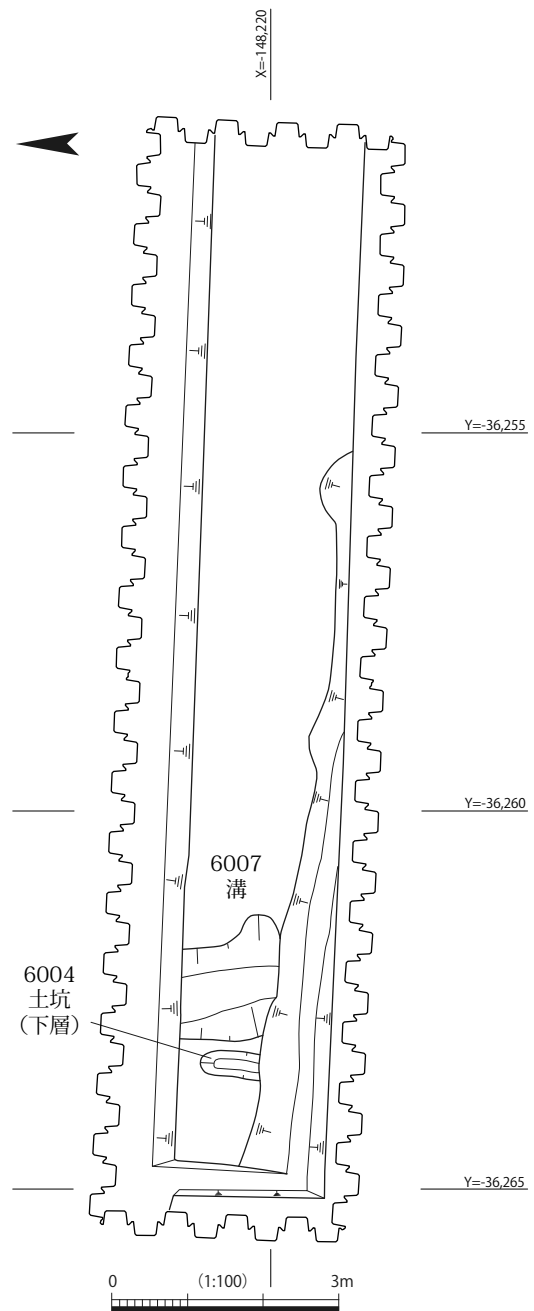
第3遺構面 第2層を除去して検出した遺構面である。中世後期遺構面に相当する。地盤はほぼ平坦であり、耕作地として利用されていたと考えられる。明確な遺構を検出することはできなかった。基盤層である第3層からは、須恵器壺（第117図3）・杯（第117図2）・甕・罎（第117図4）、土師器皿、釜、瓦器椀、灰釉陶器碗、平瓦が出土した。

第117図1は、灰釉陶器碗の底部である。内面及び外面の一部に黄オリーブ色の釉薬が塗布されている。第117図2は、須恵器杯の底部である。第117図3は、須恵器壺の底部である。第117図4は、須恵器罎の口縁部である。外面に波状文が認められる。

第117図7は、壁断面からの出土である。円柱状の柱材で、上方は焼失する。根元は粗く切断し、



第112図 10-1-6区 第4遺構面全体図



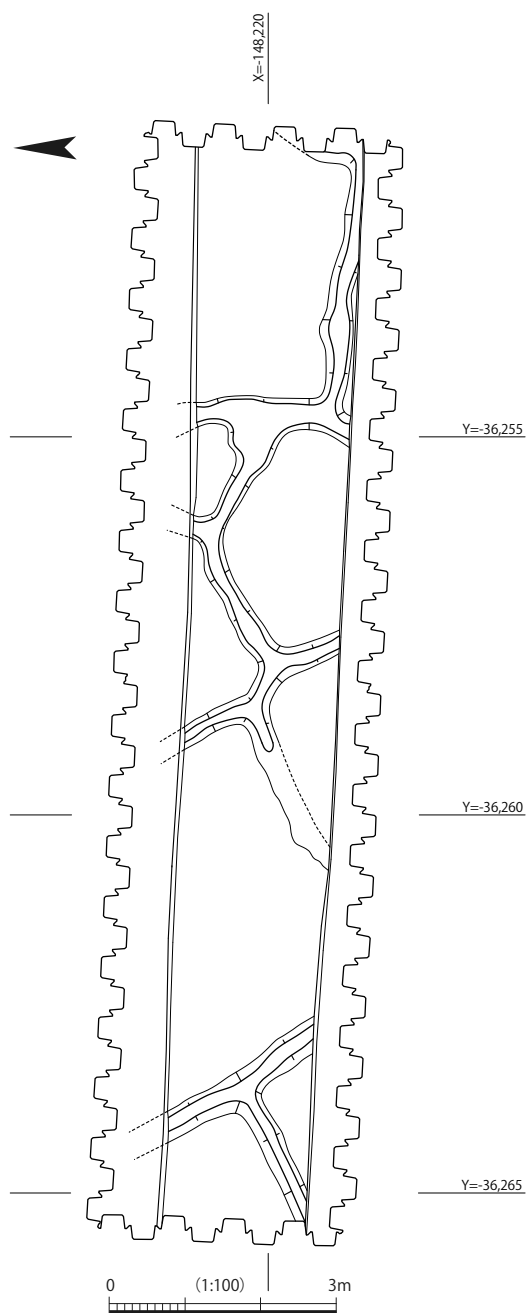
第113図 10-1-6区 第5遺構面全体図

紐掛け溝を設けている。古代～中世包含層より出土した。用材はスギである。

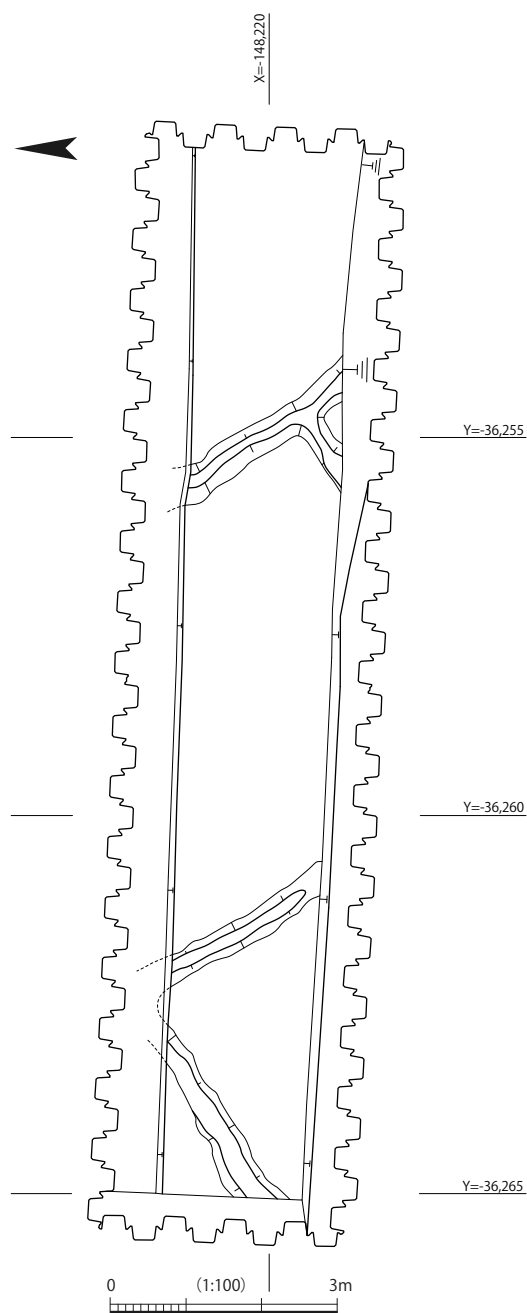
第4遺構面 第3層を除去して検出した中世後期遺構面である。溝、土坑を検出した。

6003 溝 調査区南西部において検出した遺構である。座標東に対し、2度南へ振った方向軸で通直にのびる。検出長9.0m、検出幅1.0mを測る。断面形状は碗形、最大深度は0.25mを測る。埋土は暗オリーブ灰色シルトを主体とする。埋土からは、東播系須恵器鉢・甕、土師器羽釜・皿、瓦質土器鉢・三足釜、青磁碗が出土した。遺物の下限年代は15世紀である。

第5遺構面 第4層を除去して検出した古代遺構面である。調査区西半部では、溝を検出した。既往の調査区である01-1区では、奈良時代から平安時代初頭の集落を検出した遺構面に相当する。



第114図 10-1-6区 第10遺構面全体図



第115図 10-1-6区 第12遺構面全体図

6007 溝 調査区西半部を南北方向に通る溝である。検出長 1.2 m、最大幅 1.6 mを測る。断面形状は不定形、最大深度は 0.55 mを測る。埋土は黄灰色シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第 6 遺構面・第 7 遺構面・第 8 遺構面・第 9 遺構面 第 6 遺構面及び第 7 遺構面は、古代相当遺構面である。第 6 層からは土師器甕の破片が出土した（第 117 図 5）。

第 117 図 5 は、土師器甕肩から口縁部である。外面調整はタタキを密に施す。内面はケズリである。口縁端部を上方へ緩く摘み上げている。古墳時代前期の製品である。

第 6 遺構面～第 9 遺構面では、特に顕著な遺構は確認できなかった。第 8 遺構面及び第 9 遺構面は、古墳時代流路堆積の間に介在する遺構面である。やや土壌化が認められるものの、遺構の検出には至らなかった。

第 10 遺構面 厚く堆積する古墳時代前期洪水砂を除去した段階で検出した遺構面である。基盤層である第 10 層は、その直下に堆積する洪水砂である第 11 層の上面が土壌化したシルト層である。第 10 遺構面では、古墳時代初頭の水田を検出した。

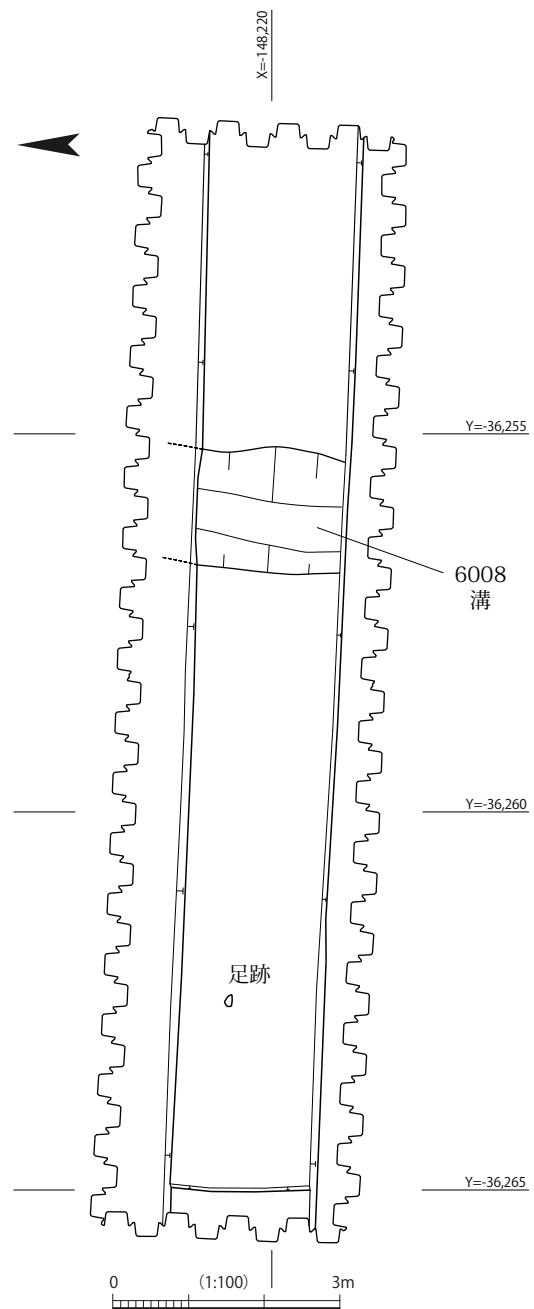
水田は小畦畔の高まりを随所に認めることができる。方形ないし多角形に区画された、小区画水田である。調査区西半部では方形の水田を形作るが、東半部ではやや不定形となる。既往の調査区では確認されていないため、小規模な耕作地として利用されていたと考えられる。

第 11 遺構面 弥生時代後期～古墳時代初頭の洪水砂層の上面において検出した遺構面である。遺構面の高さはほぼ平坦である。顕著な遺構は検出していない。

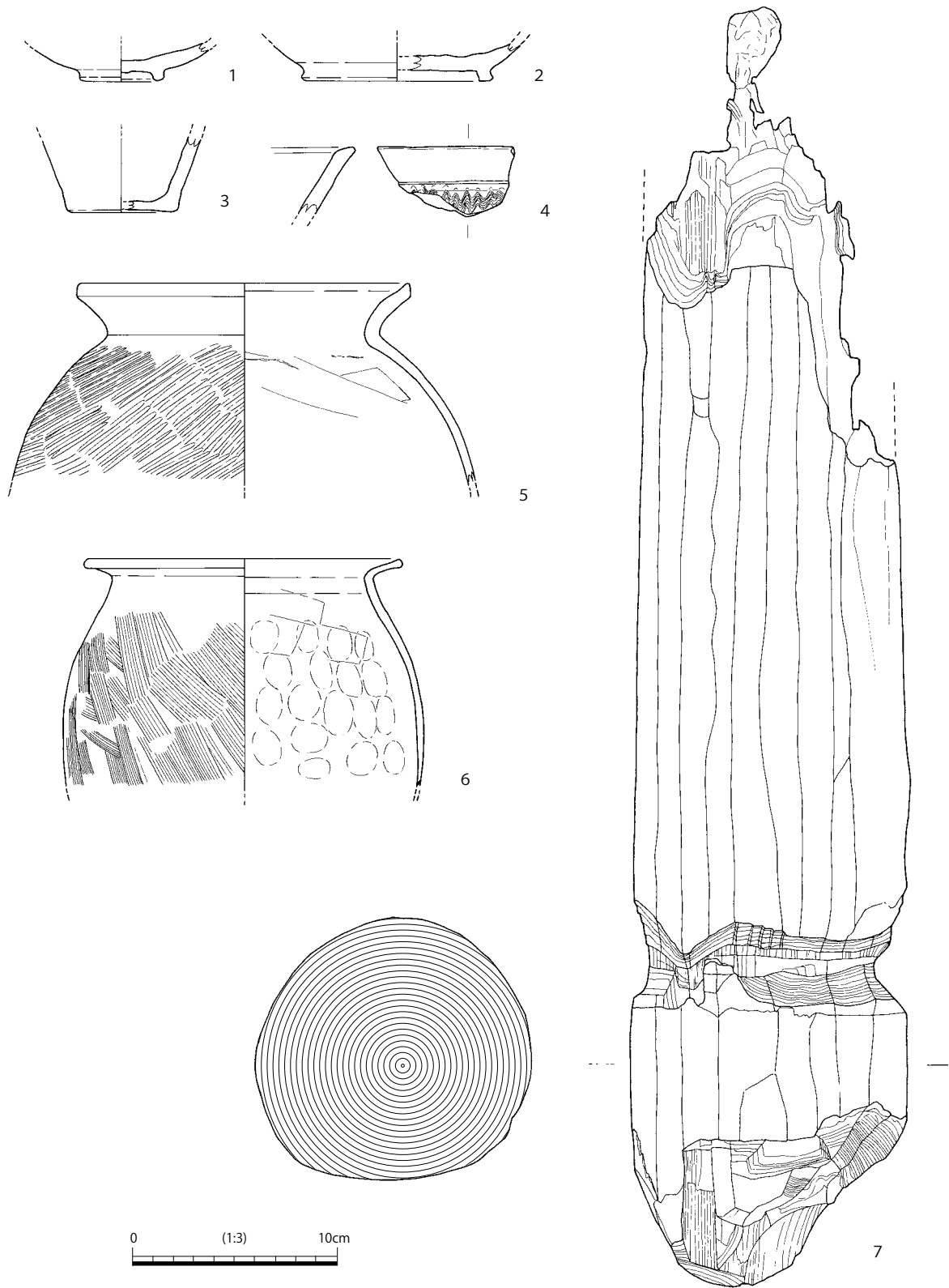
第 12 遺構面（第 115 図） 弥生時代後期の水田跡遺構面である。第 11 層を除去した段階で検出した。脆弱な耕作土をもつ上層水田とは異なり、粘質性のあるシルト層を基盤とする。

水田は、北西－南東方向に主軸をもつ畦畔が平行四辺形に近い水田を形成する。既往の調査でも確認されていることから、一定規模の広さをもつ水田が周囲に広がっていたことがわかる。

第 13 遺構面・第 14 遺構面・第 15 遺構面 弥生時代中期末～後期に相当する遺構面である。今回の調査で



第 116 図 10-1-6 区 第 16 遺構面全体図



第 117 图 10-1-6 区 第 3 层~第 16 层出土遗物实测图

は、顕著な遺構は確認できなかった。遺構面の基盤層は軟質で、植物遺体が層状に積み重なって堆積する。このため、当該時期のこの地点は、湿地帯であったと解釈される。

第 16 遺構面 第 15 層を除去した段階で検出した遺構面である。調査区東半部では南北方向に通る溝を確認した。また調査区西半部では、ヒトの足跡を検出した。

6008 溝 検出長 2.0 m、最大幅 1.6 m を測る。断面形状は逆凸形、最大深度は 0.25 m を測る。埋土は黄灰色中砂～粗砂まじりシルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

この溝は、既往の調査区においても南北方向へ通直する溝として認識されている。弥生時代中期の遺構であること、また墓域の東側を廻ることから、墓の外郭を廻る区画溝の可能性が考えられる。但し、土器棺墓は下層遺構にあたるため、層序的には時間差がある。基盤層である第 16 層からは、弥生土器甕が 1 点出土した。

第 117 図 6 は、弥生土器甕の口縁部から胴部である。僅かに張る肩から口縁部を広く外反させる器形をもつ。外面調整は斜め方向のハケ、内面はヘラナデ後ユビナデを施す。外面には煤の付着が認められる。

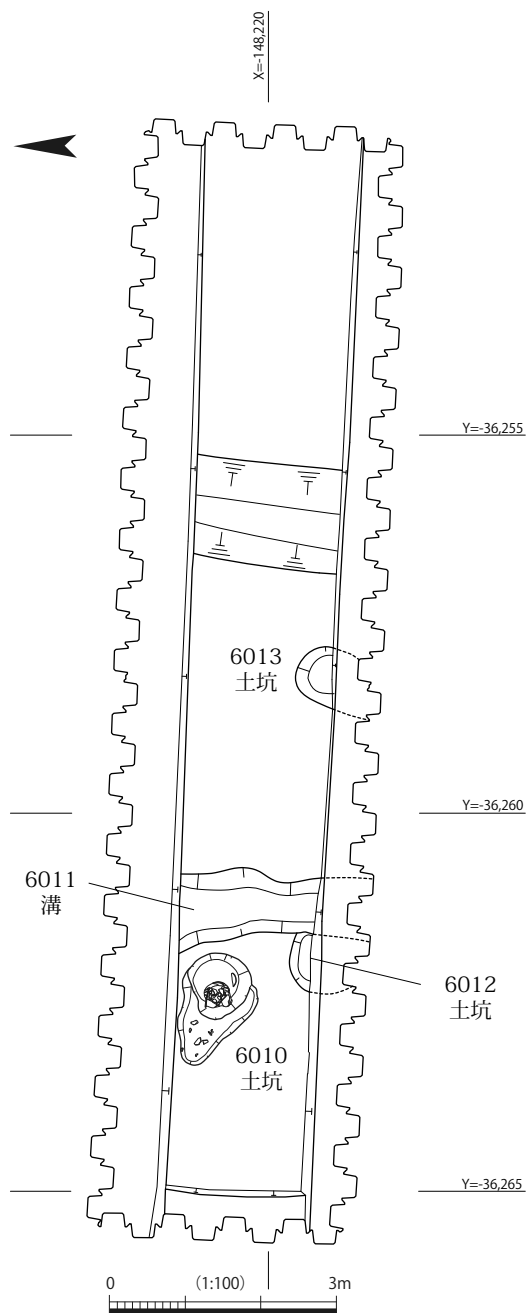
第 17 遺構面 (第 118 図) 第 16 層を除去した段階で確認した遺構面である。瓜生堂遺跡において、弥生時代中期後半の墓域を検出した遺構面に対応する。調査区西半部では、土器棺墓を 1 基検出した。

6010 土坑 (土器棺墓) (第 119 図) 調査区西半部において検出した遺構である。平面形状は不定形、長径 1.5 m、短径 1.0 m を測る。平面隅丸三角形を呈する遺構の一部が丸く掘り窪められており、ここに壺と甕、石を組み合わせた土器棺が埋納されていた。

埋納土坑の断面形状は隅丸方形に近い。最大深度は 0.5 m である。埋土は、灰～暗灰色細砂質極細砂、灰色細砂質極細砂、オリーブ灰色細砂～中砂等で構成される。

土器棺は、壺を頸部で切断し、その壺の口縁部を土坑の底面に口縁を上にして置き、その上に壺体部を乗せ、壺が転倒しないように固定している。壺の上に別個体の甕を逆位置にしてかぶせて蓋とし、さらにその上に石を置く。石は特に加工は認められない。

なお、この土器棺墓を取り巻くようにのびる溝 (6011 溝) より以東は当該時期の明確な遺構が希薄である。このため、墓域を限る区画溝と考えられる。6010 土器棺墓は、当時の墓域の東端に設けられた墓



第 118 図 10-1-6 区 第 17 遺構面全体図

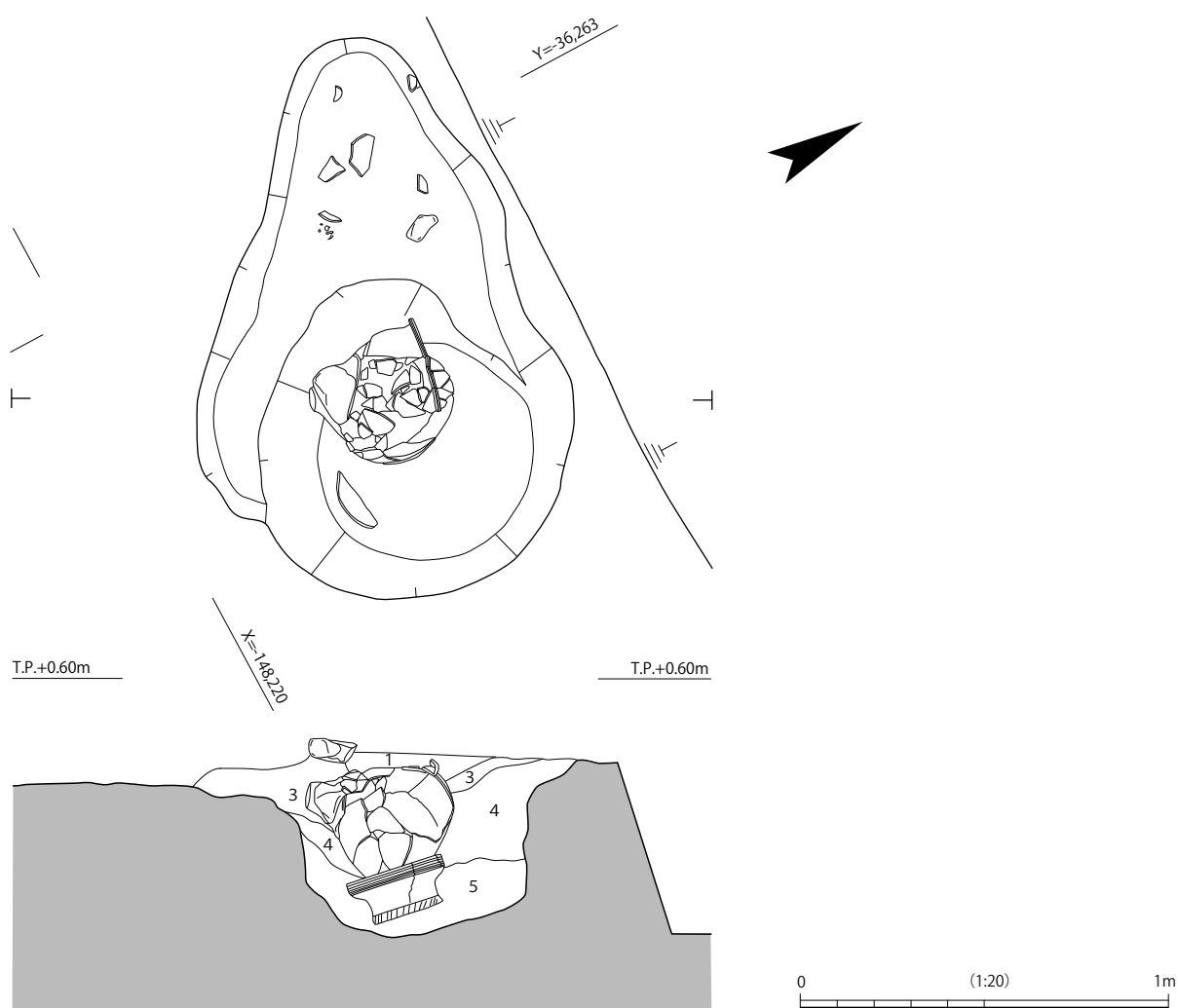
だとみてよいだろう。

第120図1は、土器棺墓の最上部に載せられていた石である。自然石で特に加工は認められない。平面は隅丸三角形を呈する。石種は、砂岩である。

第120図2は、土器棺の蓋に転用された甕である。検出時には既に割れており、一部の破片のみが棺身である壺体部の上を覆うような状態であった。

膨らんだ肩部と「く」字状に口縁を外販させる器形を有する。外面調整は底部から肩部付近まで縦方向のハケ後ミガキ、肩部は縦方向のハケのみを施す。内面は斜め方向のヘラナデを調整に用いる。口縁端部は面を作り、沈線2条を廻らせる。内外面ともに煤の付着が認められる。

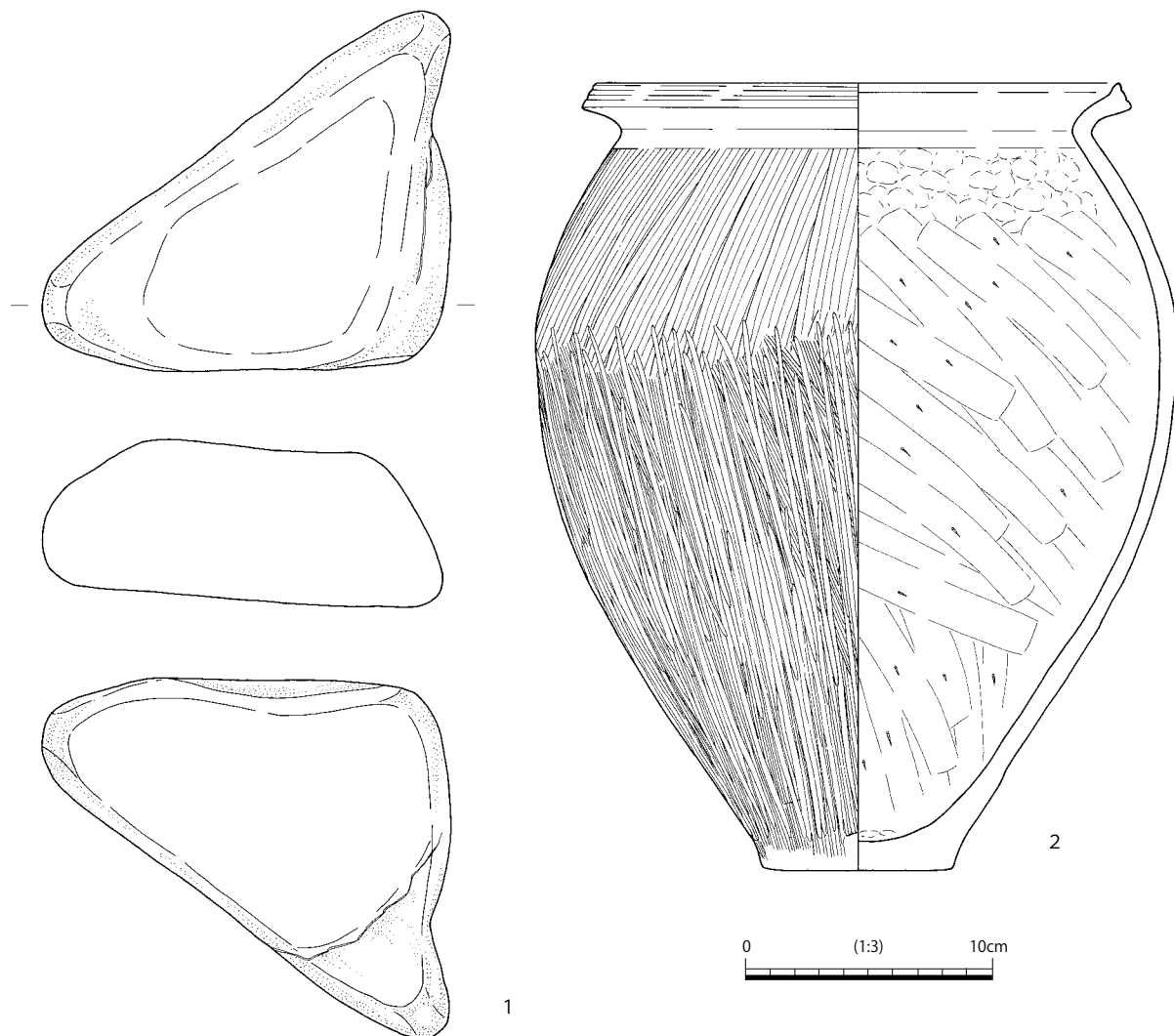
第121図1・2は、広口壺である。1と2は同一個体であるが、故意的に頸部を打ち欠き、棺材として用いられている。このため、細かい欠損箇所が多く、接合させることができない。



6010 土坑

- | | | | | |
|----|----------|--------|---------|-------------------------------------|
| 1) | N4/0-3/0 | 灰～暗灰色 | 細砂質極細砂 | 中砂～細礫僅かに含む有機物混じる |
| 2) | N4/0 | 灰色 | 細砂～中砂 | 極細砂ブロック含む（壺内部に充填された土壌） |
| 3) | N4/0 | 灰色 | 細砂質極細砂 | 2.5GY6/1 オリーブ灰色 細砂含む |
| 4) | 2.5GY6/1 | オリーブ灰色 | 細砂～中砂 | N4/0-3/0 灰～暗灰色 極細砂ブロック含む 粗砂～細砂僅かに含む |
| 5) | 5GY6/1 | オリーブ灰色 | 極細砂～シルト | 2.5GY6/1 オリーブ灰色 細砂ブロック含む |
| | N4/0-3/0 | 灰～灰白色 | 極細砂ブロック | 僅かに含む |

第119図 10-1-6区 第17遺構面 6010土坑平面断面図



第120图 10-1-6区 第17遺構面6010土坑出土遺物実測図1

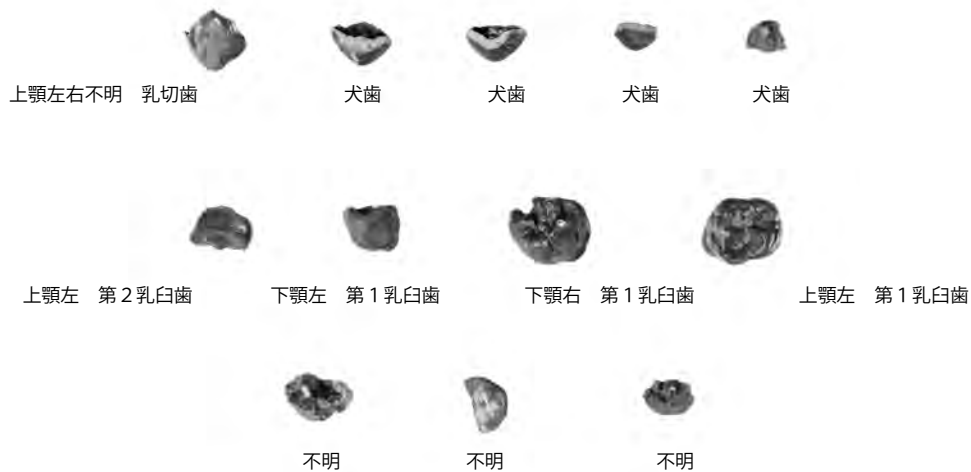


写真29 10-1-6区 第17遺構面6010土坑(土器棺墓)出土人齒



第121図 10-1-6区 第17遺構面6010土坑出土遺物実測図2

1は、なだらかに開く頸部から受け口状の口縁部を屈曲させ、上方へ直立させている。口縁端部は肥厚させ、端面をナデてやや内側へ折り曲げる。器壁の調整は内外面ともに斜め方向のハケ後ナデである。口縁部外面には、4条の凹線文を施す。頸部には平たい粘土帯を貼付け、さらにその上をハケ状工具でナデて櫛描文を付し、立体的な波状文として表現している。

2は、薄い底部から最大径を測る胴部上位まで、丸みをもたせて立ちあがる。外面陶製はハケ、底部にはその後ミガキを頬越している。体部のほぼ中央に、焼成後穿孔を施す。器壁の色調は、淡い橙色である。外来系の土器である。

この壺体部のなかに充填された土壌を持ち帰り、洗浄したところ、ヒトの歯が数点出土した。大阪市

立大学大学院医学研究科助教 安部みき子氏の鑑定によると、幼児の乳歯であることが判明した。従って、第 121 図 2 は小児棺であることが確定し、6010 土坑は土器棺墓であることが確定となった。

6010 土坑出土人歯 (写真 29) 遺存していた乳歯は全てエナメル質で、萌出前のものである。歯種の同定できたものは 4 点あり、左上顎第 1 乳臼歯、左上顎第 2 乳臼歯、左下顎第 1 乳臼歯と右下顎第 1 乳臼歯であった。また、左右不明の上顎乳臼歯が 1 点、部位が不明の乳犬歯が 4 点あった。歯種が全く分からないものが 4 点見られた。これらの歯の状態から推定した被葬者の年齢は、生後 6 カ月前後である。

6011 溝 調査区西半部において検出した遺構である。南北に調査区を横断し、調査区外へと続く。検出長 1.9 m、最大幅 1.0 m を測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.2 m を測る。埋土は、灰色中砂～粗砂混じり極細砂を主体とし、同色シルトブロックを含む。遺物の出土は確認できていない。

この溝より以東では遺構が希薄となるため、6011 溝は墓域の東限を区切る遺構の可能性がある。あるいは、既往の調査成果では、北西方向へ屈曲すると報告されていることから、周溝となる可能性も考えられる。

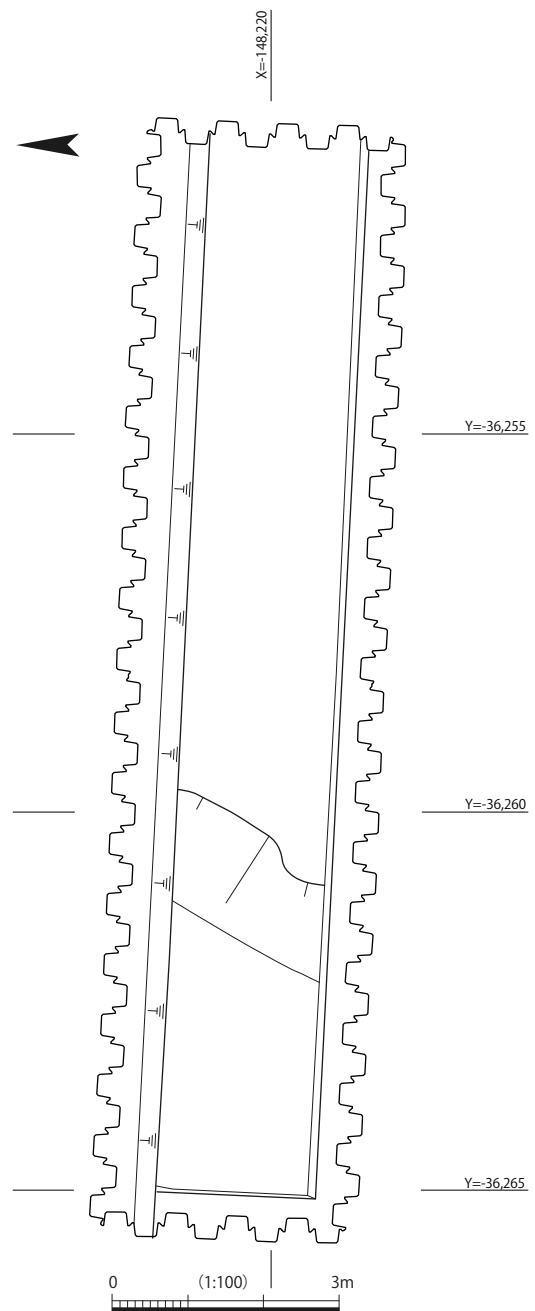
6012 土坑 調査区西半部南辺において検出した遺構である。断面形状は、直径 0.9 m 程度の円形に復元できる。断面形状は皿形、最大深度は 0.2 m である。埋土は灰色極細砂ブロックとオリーブ灰色細砂の混合層である。遺物の出土は確認できていない。

6013 土坑 調査区中央部南辺において検出した遺構である。平面形状は長円形に復元できる。最大幅は 0.8 m を測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.25 m を測る。埋土は灰色～暗灰色を呈する細砂～極細砂ブロックにオリーブ灰色細砂が僅かに混じる。遺物の出土は確認できていない。

第 18 遺構面・第 19 遺構面・第 20 遺構面・第 21 遺構面 弥生時代中期に相当する遺構面である。今回の調査では、顕著な遺構は確認できなかった。

洪水砂の上面にあたる第 18 遺構面 (第 122 図) では、北西方向へ下がる落込みを検出した。また軟質で、植物遺体が層状に積み重なって堆積するシルト層を基盤とする第 21 遺構面 (第 123 図) では、調査区西半部において南北方向へのびる高まりを検出したが、いずれも人為的な遺構とは考えにくい。

第 22 遺構面 (第 124 図) 第 21 層を除去した段階で確認した遺構面である。調査区中央部では溝を、西端部

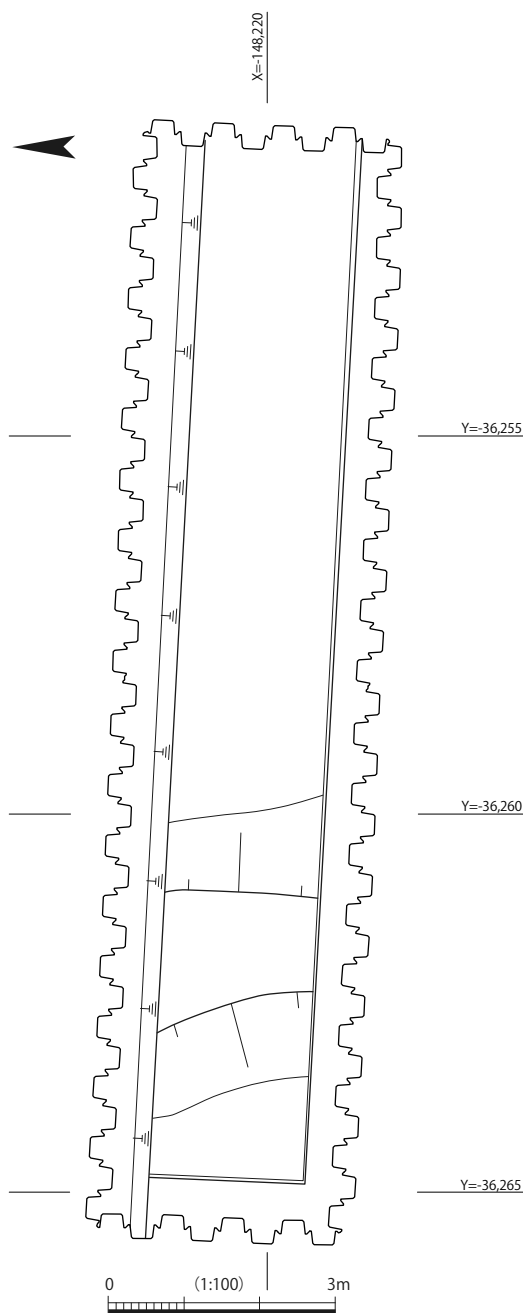


第 122 図 10-1-6 区 第 18 遺構面全体図

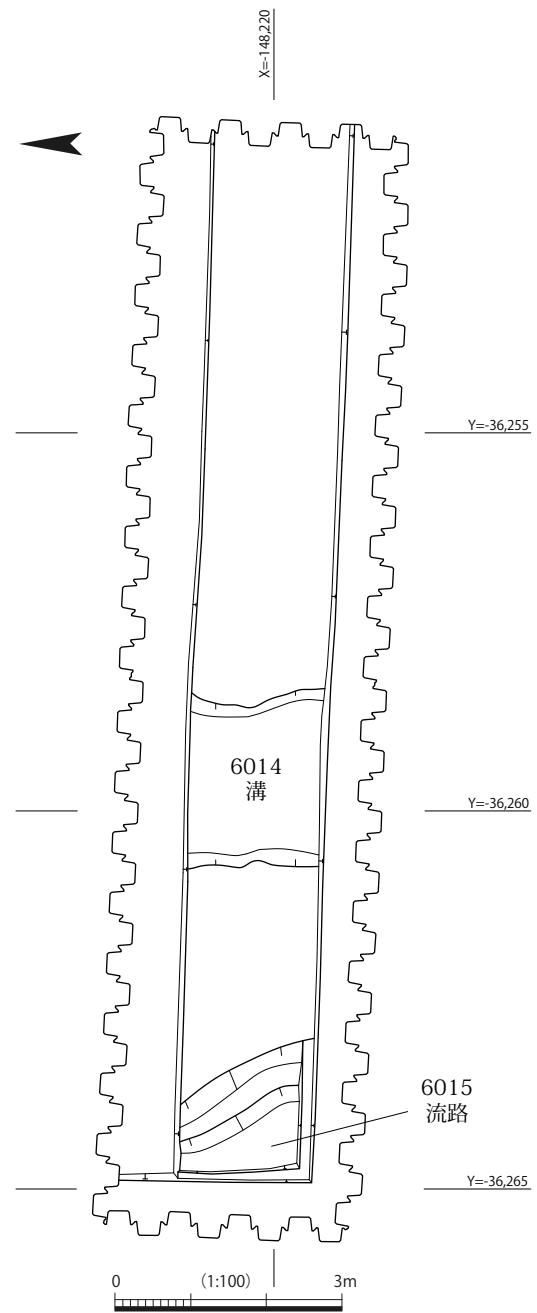
では流路を検出した。

6014 溝 調査区を南北方向に横断し、調査区外へと続く溝である。検出長 1.8 m、最大幅 2.2 m を測る。断面形状は不定形で、底面には凹凸が顕著に認められる。最大深度は 0.25 m を測る。埋土は黄灰色～黒褐色極細砂質シルトブロックに粗砂が混じる。遺物の出土は確認できていない。

6015 流路 調査区西端部において検出した流路である。断面観察からは、南東から北東方向への流水を窺うことができるが、ここで検出したのは流路の最終形態であり、これより下層では、さらに大規模な河川の動きが想定される。第 22 遺構面は弥生時代前期末から中期初頭に相当すると考えられる遺構面であるが、その基盤層となる第 22 層は湿地堆積、その下位の第 23 層、第 24 層は、ともに流路の構成砂である。弥生時代前期から中期初頭にかけて、大規模な流路がこの場所に存在していたため、集落は及ばなかったと考えられる。



第 123 図 10-1-6 区 第 21 遺構面全体図



第 124 図 10-1-6 区 第 22 遺構面全体図

2. 10-1-7区

10-1-7区は、10-1-6区東側に設定した調査区である。ここでは、弥生時代前期から中世後期まで、計22枚の遺構面を検出した。

第1遺構面・第2遺構面・第3遺構面 第1遺構面は、機械掘削層除去面である。鉄道敷設前の当該地区では、水田が営まれていたためか、遺物の出土量は他の調査区に比べて僅かである。基盤層である第1層からは、須恵器甕・高杯、土師器羽釜・皿、施釉陶器壺、東播系須恵器鉢、須恵器甕、瓦器椀、染付碗、備前焼甕、平瓦等が出土した。

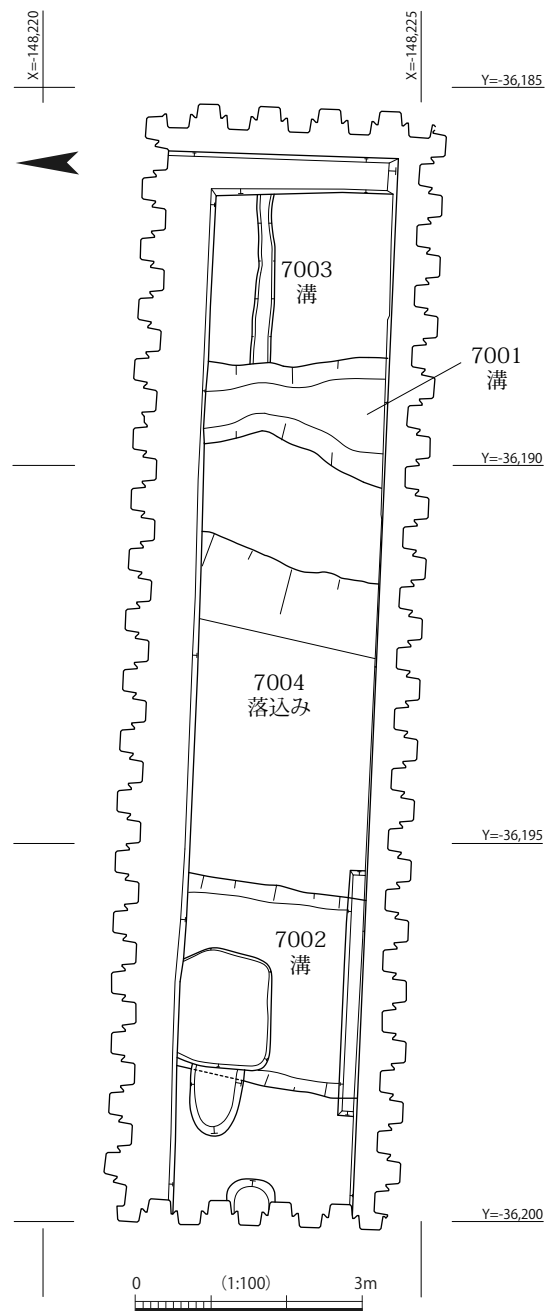
第2遺構面、第3遺構面は、ともに近世の水田跡である。第2層からは、染付碗、土師器皿・釜、瓦器椀平瓦が出土した。第3層からは、常滑焼壺、須恵器甕・杯・高杯、土師器皿・釜、瓦器椀、平瓦、砥石等が出土した(図版81-1-1・81-1-2)。

第4遺構面(第125図) 中世後期包含層である第3層を除去して検出した遺構面である。調査区東半部に南北方向の溝があり、これより以西は緩やかに下がる。包含層は攪拌痕跡が顕著であることから、耕作地として利用されたと推測される。

7001溝 調査区東半部において検出した遺構である。溝幅を増減させながら南北方向へと続く。検出長3.3m、最大幅1.7mを測る。断面形状は碗形、最大深度は0.22mを測る。埋土は暗オリーブ灰色シルトを主体とする。弱い葉理が認められる。地形の変化点にあることから、耕作地の区画及び用排水を担った溝であると推測される。埋土からは、瓦器椀、土師器皿、釜、須恵器杯蓋・甕の破片が出土した。

7002溝 調査区西半部において検出した遺構である。南北方向にのび、調査区外へと続く。検出長2.3m、最大幅2.2mを測る。断面形状は浅いレンズ形である。最大深度は0.1mを測る。埋土は暗オリーブ灰色極細砂まじりシルトを主体とする。7004落込みの上位に位置する遺構である。7001溝と方向性を同じくすることから、ともに耕作に関わる遺構であると推測する。埋土からは、白磁碗、土師器甕、須恵器甕・蓋等が出土した。

7003溝 調査区東端部において検出した遺構であ



第125図 10-1-7区 第4遺構面全体図

る。東西方向にのびる小溝で、西端は、7001 溝に切られて消滅する。検出長 2.2 m、最大幅 0.2 m、断面形状は浅い皿型で、最大深度は 0.1 m を測る。埋土は 7001 溝に近似する。耕作溝か。埋土からは瓦器椀、土師器皿、須恵器壺の破片等が出土した。

7004 落込み 微高地である調査区東半部から緩やかに西へ下がる落込みである。埋土は攪拌痕跡が顕著であり、基盤層である第 4 層、第 5 層に由来するブロック土を多く含む。このため、中世遺物に混じり、古代の遺物の出土が一定量認められるが、細片が多い。

第 130 図 4 (図版 81-1-4) は、須恵器杯身の底部の小片である。ヘラケズリで仕上げられる底部外面には、縦横方向にヘラ記号が刻まれている。また、ナデ及び指頭圧痕の痕跡が強く残る内面には、僅かに墨痕が認められる。奈良時代の初頭の製品である。

図版 81-2 は、須恵器提瓶の頸部から肩にかけての部位である。焼成が甘く、全体的に白色を呈する。紐掛け用の突起は認められない。古墳時代の製品である。

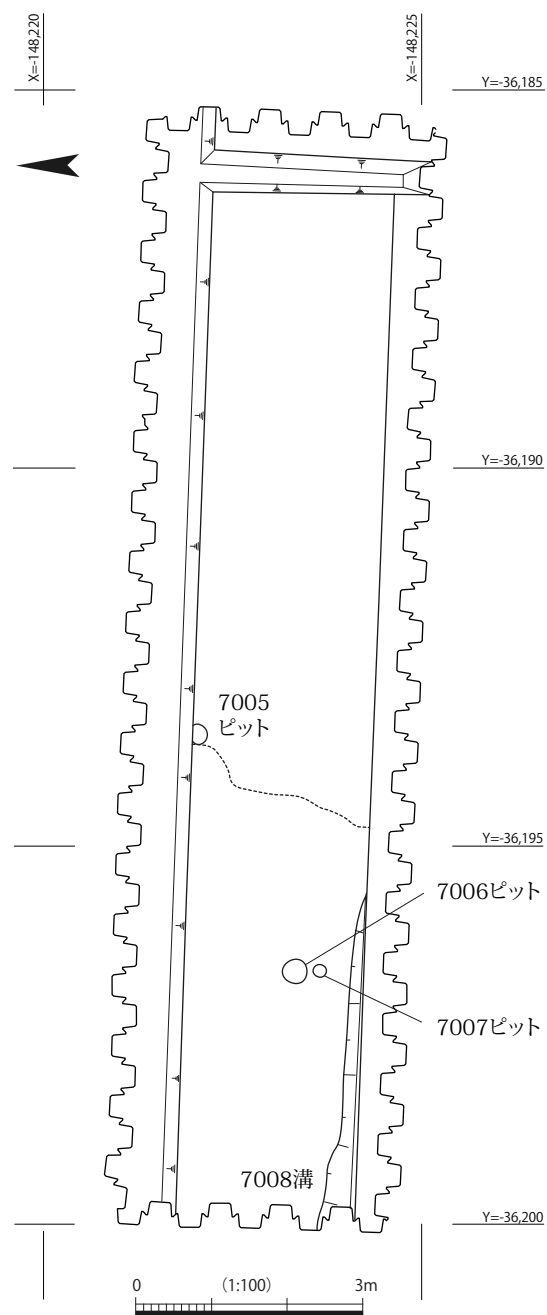
第 5 遺構面 (第 126 図) 古代～中世包含層である第 4 層を除去して検出した遺構面である。調査区の西半部において、溝、ピットを検出した。遺構面は、ほぼ平坦であるが、西半部が僅かに下がる。

7005 ピット 調査区中央部北辺で検出した遺構である。一部北半分を損なうが、平面形状は直径 0.3 m 程度の円形と想定される。断面形状は碗形で、最大深度は 0.15 m を測る。埋土は暗オリーブ灰色極細砂混じりシルトを主体とする。炭化物が多く含まれている。遺物の出土は確認できていない。

7006 ピット・7007 ピット 調査区西半部において検出したピットである。7006 は直径 0.35 m、7007 は直径 0.15 m を計る円形の平面形状をもつ。断面形状はともに碗形、7006 はややいびつで、底面に凹凸が認められる。埋土も同じく暗オリーブ灰色極細砂混じりシルトである。基盤層に由来するブロックを多く含む。遺物の出土は確認できていない。

7008 溝 調査区西半部の南辺に沿って検出した遺構である。方向軸は、10-1-7 区において検出された東西溝(6003 溝)に近似する。検出長 4.1 m、検出最大幅は 0.6 m 程度である。

断面形状は逆凸形で、フラットな段をもつ。埋土は暗オリーブ灰色極細砂混じりシルトを主体とする。遺構内からは、土師器甕の破片が出土した。

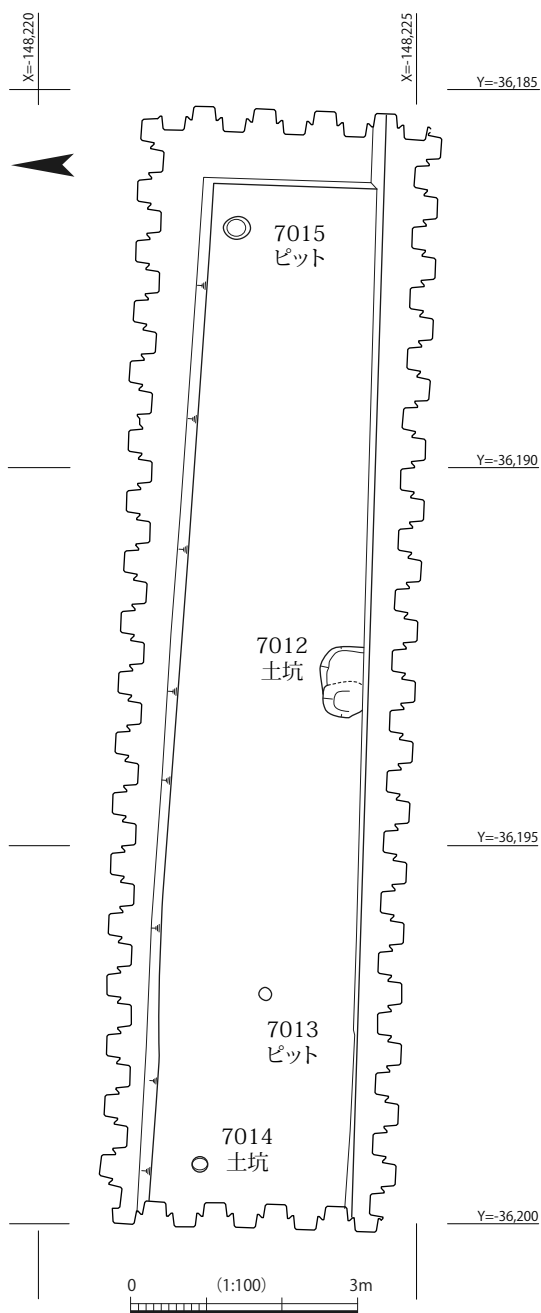


第 126 図 10-1-7 区 第 5 遺構面全体図

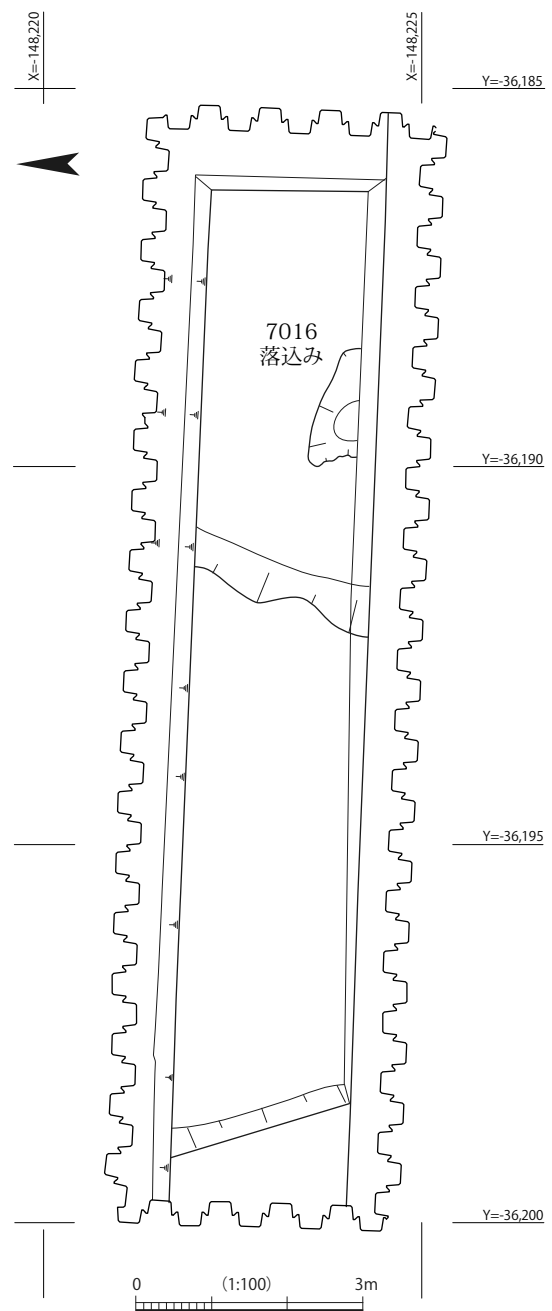
第6遺構面（第127図） 古代包含層である第5層を除去して検出した遺構面である。既往の調査において奈良時代～平安時代初頭の居住域が検出された遺構面に相当する。この面では、ピットおよび土坑を検出した。

7012土坑 調査区中央部南辺において検出した遺構である。平面形状は長円形、長径0.9m、短径0.7mを測る。断面形状は不定形で、東半部が浅く、西半部が楕円に大きく掘り込まれている。最大深度は0.3mである。埋土は暗オリーブ灰色極細砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

7013ピット 調査区西半部において検出した遺構である。平面形状は直径0.2mを測る円形、断面形状は浅い楕円形で、最大深度は0.12mである。埋土は、暗青灰色極細砂混じりシルトに粗砂が僅かに混じる。遺物の出土は確認できていない。



第127図 10-1-7区 第6遺構面全体図



第128図 10-1-7区 第8遺構面全体図

7014 ピット 調査区西端部において検出した遺構である。平面形状は直径 0.2 m を測る円形、断面形状はごく浅い椀形で、最大深度は 0.08 m である。埋土は 7013 ピットに近似するが、やや粗砂を多く含む。遺物の出土は確認できていない。

7015 ピット 調査区東端部において検出した遺構である。平面形状は直径 0.3 m を測る円形、断面形状は浅い椀形である。最大深度は 0.18 m、埋土は暗緑灰色極細砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第 7 遺構面 古代包含層である第 6 層を除去して検出した遺構面である。特に顕著な遺構を確認できていない。第 6 層からは、土師器甕や須恵器甕、提瓶または横瓶の破片が出土した。

第 8 遺構面 (第 128 図) 第 7 層を除去して検出した古代遺構面である。上層までとは異なり、地盤は東へ向かい緩やかに下がる。調査区東半部において落込みを検出した。

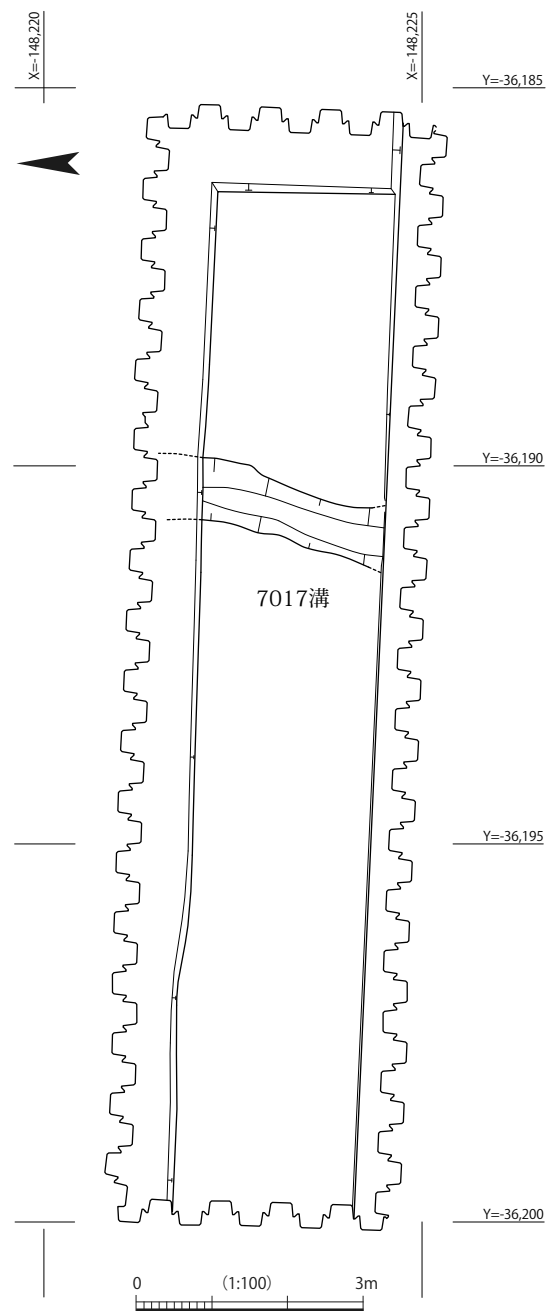
7016 落込み 調査区東半部において検出した土坑である。平面形状は不定形、検出し得た南北長は 0.6 m、東西幅は 1.5 m を測る。断面形状はレンズ形、最大深度は 0.1 m である。埋土は暗オリーブ色極細砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第 9 遺構面 (第 129 図) 古代包含層である第 8 層を除去して検出した遺構面である。調査区東半部において、溝を検出した。

7017 溝 調査区東半部を南北方向に流れる溝である。僅かに蛇行しながら調査区外へと続く。検出長 2.5 m、最大幅 0.8 m を測る。掘り方は明確で、断面形状は椀形、最大深度は 0.32 m を測る。埋土はオリーブ灰色シルトを主体とする。有機物が集中して混じるため、黒色を呈する部分が多い。遺物の出土は確認できていない。

第 10 遺構面 第 10 層は、古墳時代の流路堆積である。第 10 遺構面は、この上層で検出したが、顕著な遺構を確認することはできなかった。第 10 層からは、弥生時代から古墳時代前期の遺物が一定量出土した。但し、磨滅が著しく、残存状態は総じて悪い。

第 130 図 1・2 は、ともに砥石の破片である。ともに研磨面が一部に残る。粘板岩製である。

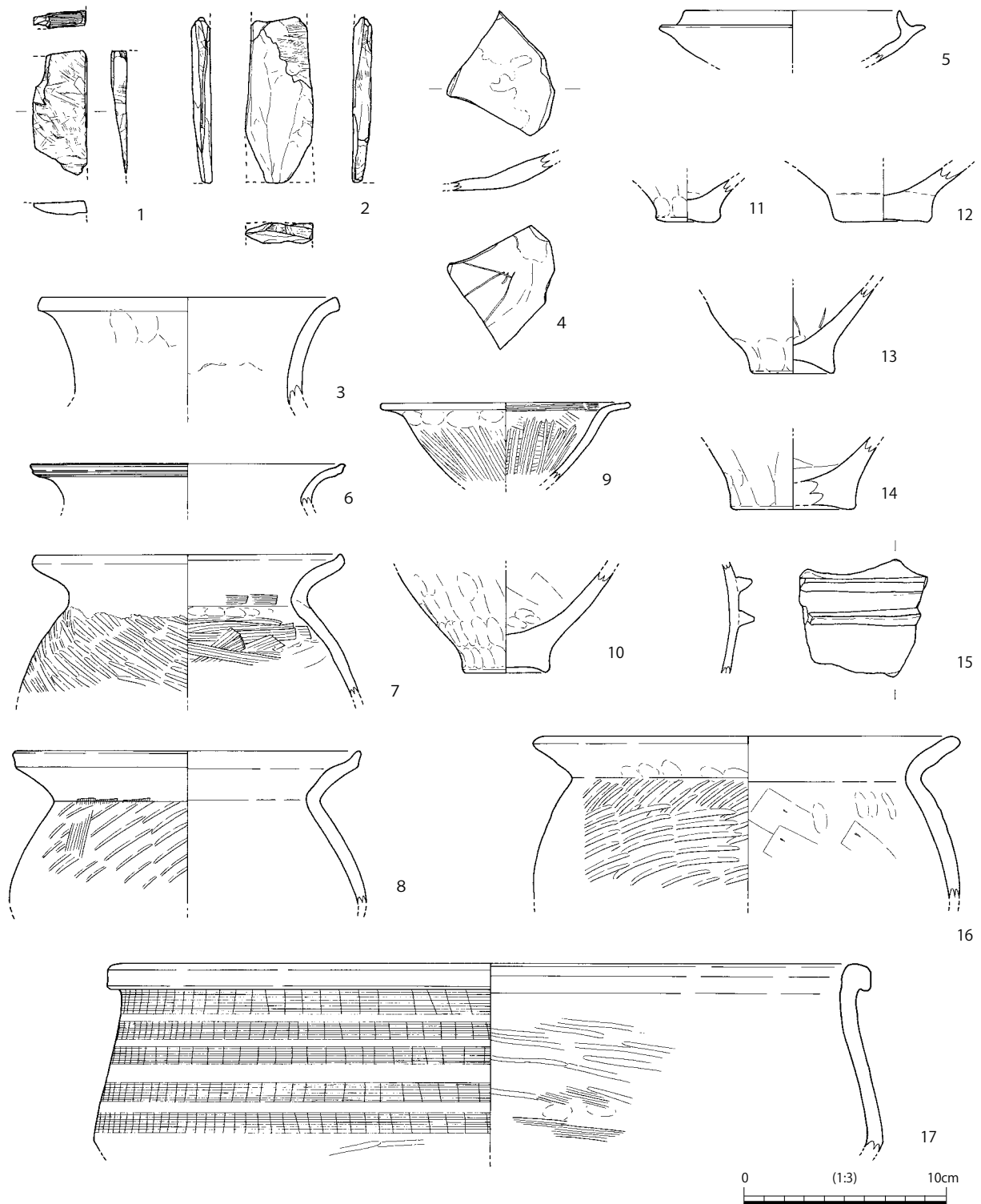


第 129 図 10-1-7 区 第 9 遺構面全体図

第130図3（図版81-4-4）は、広口壺の口縁部である。口縁部外面に僅かにナデの痕跡を残すが、磨滅が著しい。生駒西麓産胎土である。

第130図5は、須恵器杯身の一部である。短い口縁の立ち上がりをもつ。

第130図6～8は、土師器甕の口縁部である。すべて口縁端部を上方へ摘み上げる庄内式土器の特徴を備える。6（図版81-4-1）は外面に煤が付着する。7（図版82-1-3）の外面調整はタタキ、内面



第130図 10-1-7区 第3層～第10層出土遺物実測図

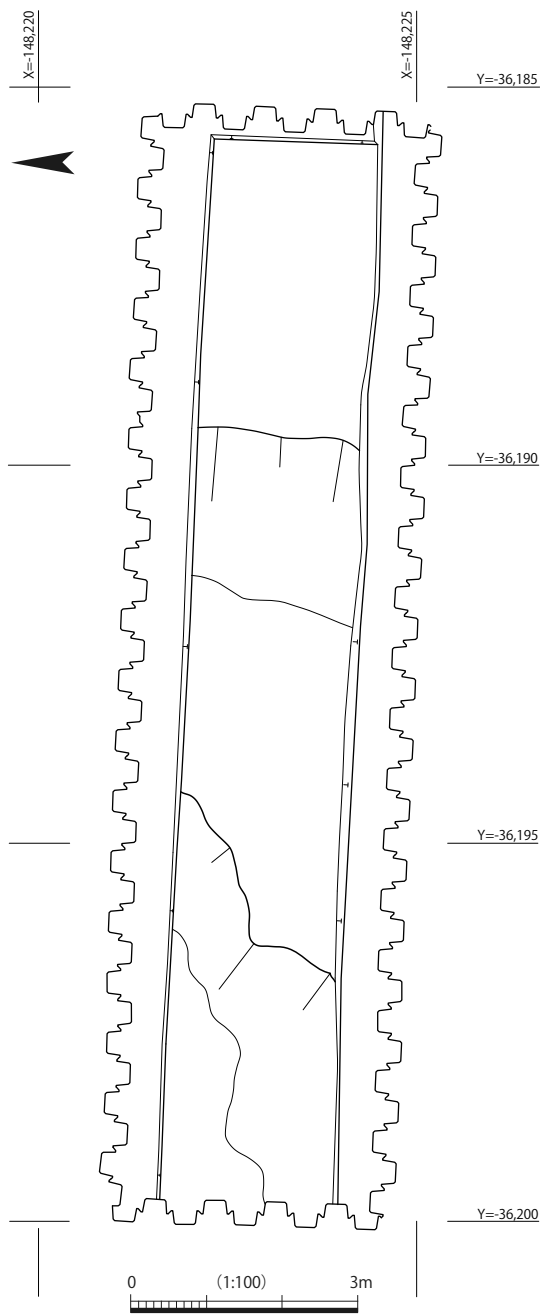
には横方向にハケを密に施す。8（図版 82-1-1）の外表面調整は、斜め方向の粗いタタキの後、縦方向にハケを施している。

第 130 図 9（図版 81-4-3）は、鉢の口縁部である。内外面ともに体部は縦方向のミガキ、口縁部はヨコナデを施す。口縁端部の処理が甘く波打つためか、精緻な印象はうけない。弥生時代後期の製品である。

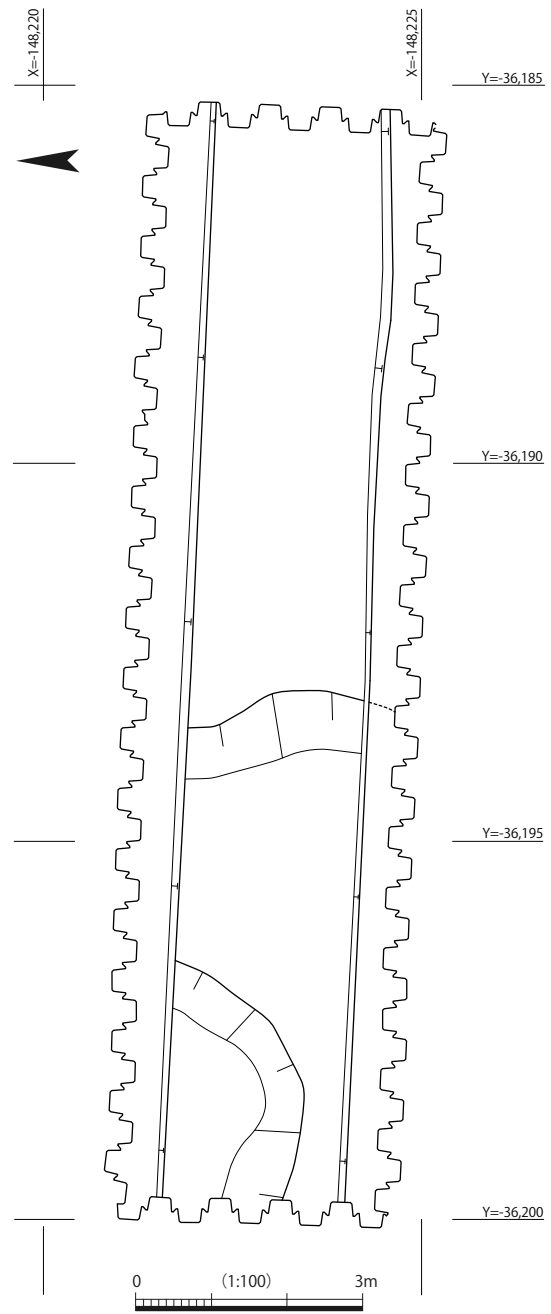
第 130 図 10～14 は弥生土器底部である。11（図版 81-4-6）はミニチュア土器の甕で、底部外面をドーナツ形に作る。13（図版 81-4-9）は、底部外面のくぼみが大いため、蓋の可能性もある。

第 130 図 15（図版 81-4-7）は、弥生土器壺の胴部である。外面に断面三角形の突帯を 2 条貼り付ける。生駒西麓産胎土である。

第 130 図 16（図版 82-1-2）は、弥生土器の甕である。外面はタタキ、内面はヘラナデで仕上げる。



第 131 図 10-1-7 区 第 11 遺構面全体図



第 132 図 10-1-7 区 第 14 遺構面全体図

第130図17は、弥生土器の大型鉢である。内傾しながら立ち上げた口縁部は、先端を外方へ折り曲げ、粘土帯を足して肥厚させている。外面には5条の簾状文を付す。原体幅は、1.0～1.3cmである。生駒西麓産胎土である。

第11遺構面・第12遺構面・第13遺構面・第14遺構面 第11遺構面（第131図）は、流路堆積である第10層を除去して検出した遺構面である。水流が地盤を抉った痕跡が、遺構面上に凹凸として残る。

第12遺構面、第13遺構面は、ともに弥生時代後期相当層であるシルト層の上面である。比較的静かな堆積で、特に顕著な遺構を確認することはできなかった。

第14遺構面（第132図）も同じく弥生時代後期遺構面である。地盤は西に向かって下がり、段をもって傾斜を為す。但し、人為的な造作とは考えにくい。

第15遺構面（第133図） 弥生時代後期流路堆積の上面において検出した遺構面である。ピットを2基検出した。

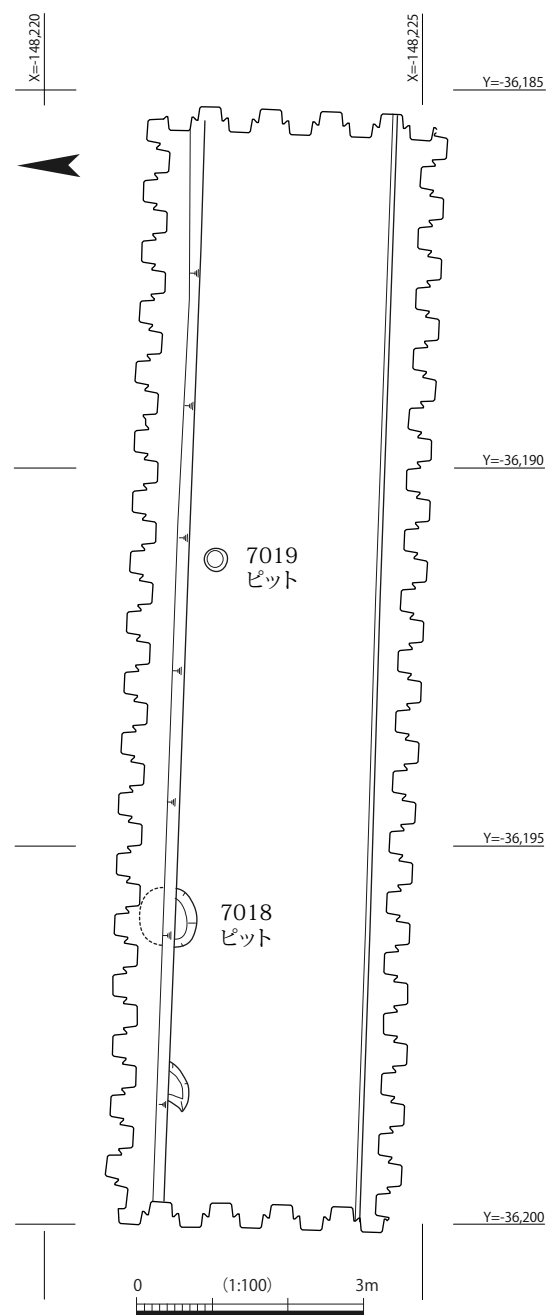
7018ピット 調査区西半部において検出した遺構である。半分以上を損なうが、平面形状は円形であったと推定される。直径は0.7m程度に復元できる。掘り方は明確で、断面形状は隅丸方形、最大深度は0.38mを測る。埋土は、灰色極細砂質シルトを主体とする。下位にはオリーブ灰色細砂ブロックを一定量含む。遺物の出土は確認できていない

7019ピット 調査区中央において検出した遺構である。平面形状は円形、直径0.35mを測る。断面形状はいびつな逆台形、最大深度は0.22mである。埋土は7018土坑と同様、灰色極細砂質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第16遺構面（第134図） 弥生時代中期相当遺構面である。調査区中央において溝を検出した。

7020溝 調査区中央を南東から北西へ向かってのびる溝である。検出長1.8m、最大幅1.0mを測る。断面形状は椀形、最大深度は0.3mを測る。埋土は、上層流路堆積と同質の灰色細砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

第17遺構面 第17層は調査区東半部に堆積する薄層である。第17遺構面はその上面であるが、顕著な遺構は検出できなかった。また、第18遺構面は、弥生時代前期包含層の上面に当たるが、同じく遺構は確



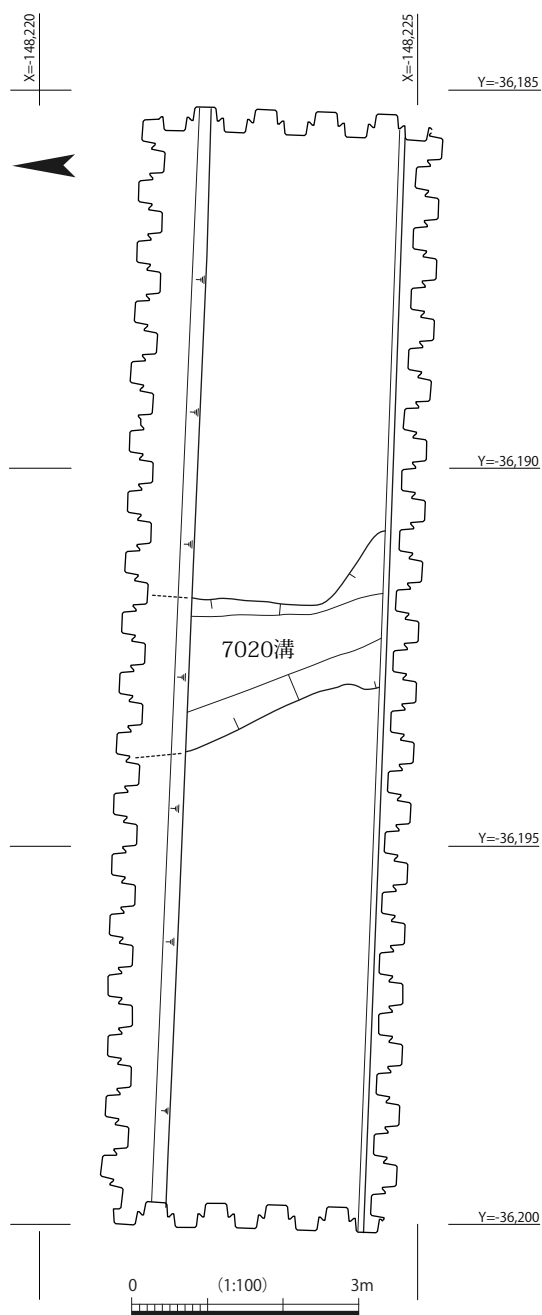
第133図 10-1-7区 第15遺構面全体図

認できていない。

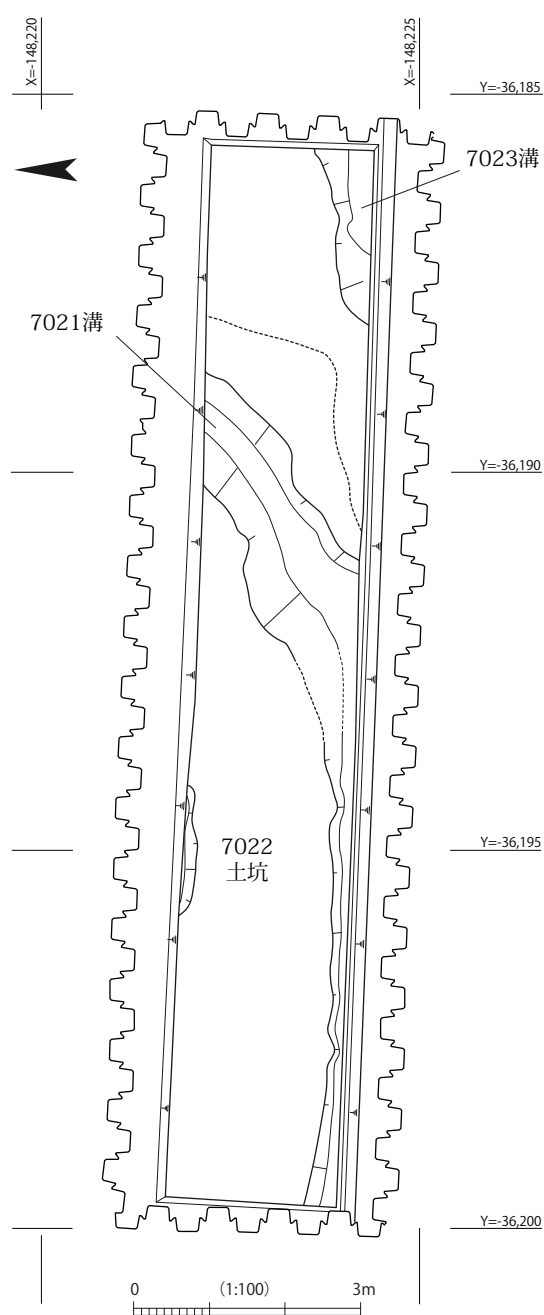
第19遺構面(第135図) 弥生時代前期包含層である第18層を除去した段階で検出した遺構面である。土坑及び溝を検出した。

7021溝 調査区南西端から東半部にかけて検出した遺構である。調査区北辺から幅を広げながら南西方向へ弧を描いて進む。その後、西へ方向を変え、調査区外へと続いている。検出長10.0m、最大幅1.5mを測る。断面形状は不定形で、北西岸寄りの底面が深い。最大深度は0.45mを測る。埋土は、黒褐色中砂質極細砂を主体とする。遺構内からは弥生土器鉢の破片が出土した。

7022土坑 調査区中央北辺において検出したが、損失範囲が大きく遺構の特徴は不明である。



第134図 10-1-7区 第16遺構面全体図



第135図 10-1-7区 第19遺構面全体図

7023 溝 調査区南東隅において検出した遺構である。東へ向かって進むようである。検出長 2.2 m、検出最大幅 0.8 m を測る。断面形状は逆台形に近い、最大深度は 0.3 m を測る。埋土は、灰色細砂～粗砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

この遺構面の基盤層となる第 19 層からは、弥生土器が出土した。

第 137 図 1 は、広口壺の口縁部である。外反させた口縁部の先端はナデで端面を作る。内外面とも調整は、多方向からのミガキである。生駒西麓産胎土である。

第 137 図 2・3 は、甕の底部である。2 は厚みのある底部外面を、縦～斜め方向のハケ調整する。3 は体部外面にハケを施した後、底部付近に横～斜め方向のミガキを施す。生駒西麓産の胎土である。

第 20 遺構面 (第 136 図) 弥生時代前期包含層である第 19 層を除去して検出した遺構面である。南西から北東に向かい、弧を描くようにのびる溝と、これに接する土坑を確認した。

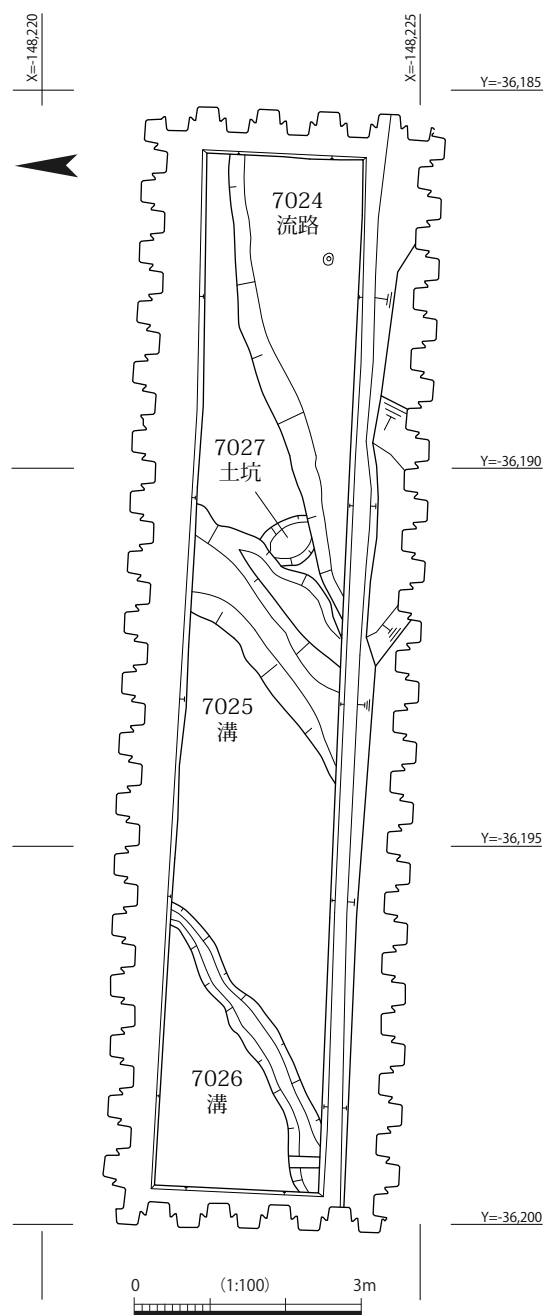
7024 流路 調査区東半部において検出した遺構である。北東から南西に続く。検出長 6.5 m、検出最大幅 1.7 m を測る。断面形状は不定形で底部に凹凸が認められる、最大深度は 0.3 m を測る。埋土は、黒褐色細砂～中砂を主体とする。底面から、弥生土器鉢が 1 点出土した (第 137 図 4)。

第 137 図 4 (図版 82-3-1) は、大型鉢の体部から口縁部である。画内外面ともに斜め方向のハケ調整を施す。生駒西麓産胎土である。

第 137 図 5 (図版 82-3-2) は、小さな底部から丸みをもって立ち上がる器形をもつ。口縁部を欠損するため明らかではないが、大型の蓋の可能性も考えられる。生駒西麓産胎土である。

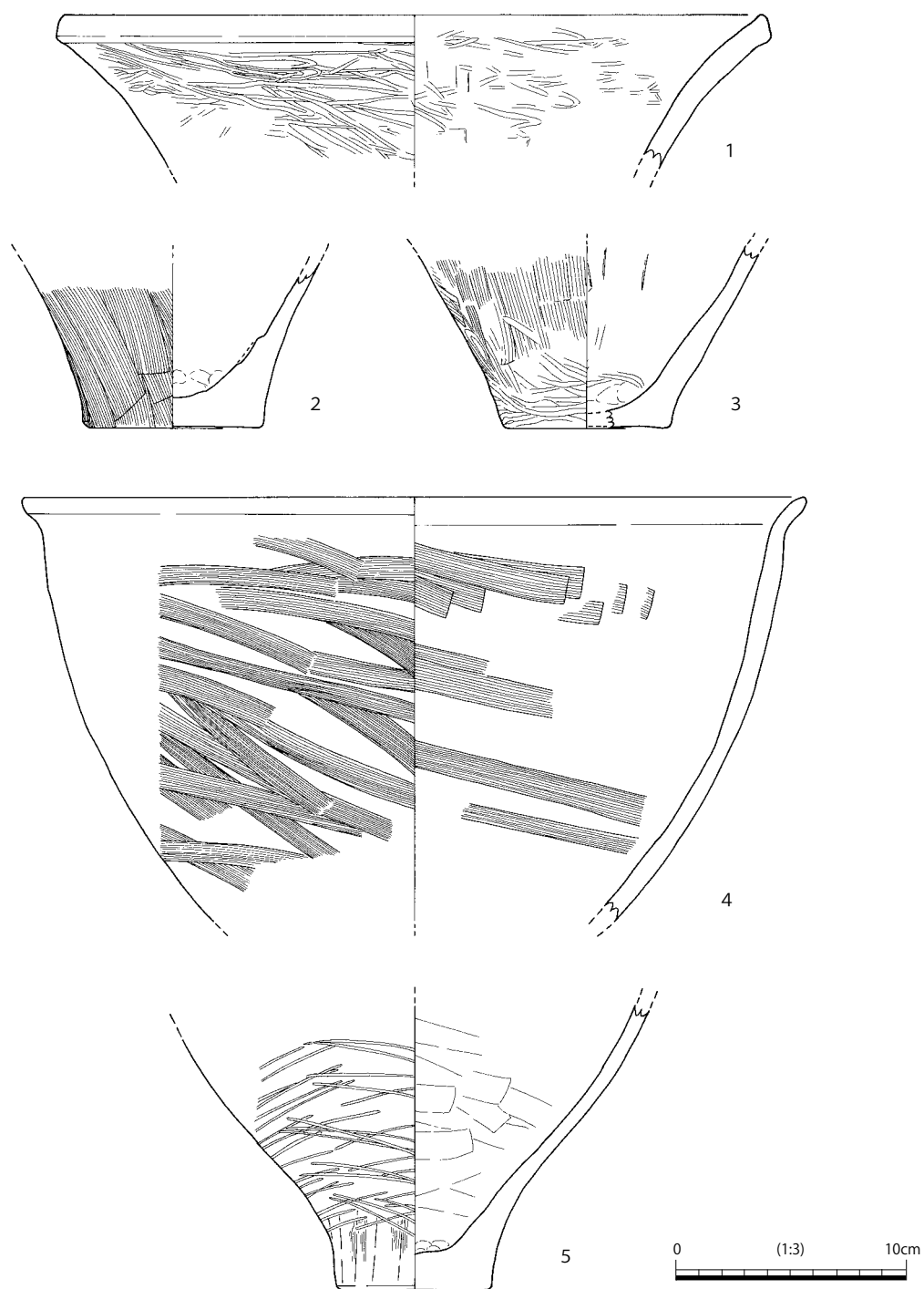
7025 溝 調査区中央部において検出した遺構である。北東から南西へ進み、そのまま調査区外へと続く。検出長 3.0 m、最大幅 1.0 m を測る。断面形状は不定形、最大深度は 0.35 m を測る。埋土は黒褐色細砂～中砂を主体とする。弥生土器の破片が出土したが、7024 流路出土遺物と接合した。

7026 溝 調査区西半部において検出した遺構である。北東から南西へ続く小溝である。検出長 3.8 m、最大幅 0.5 m を測る。断面形状は不定形、最大深度は 0.15 m を測る。埋土は黄灰色中砂にシルトブロックが混じる。遺構内からの遺物出土は確認できていない。



第 136 図 10-1-7 区 第 20 遺構面全体図

7027 土坑 調査区中央付近において検出した遺構である。平面形状は長円形、長径 0.6 m、短径 0.5 m を測る。断面形状は不定形、底面に凹凸が認められる。最大深度は 0.1 m である。埋土は黄灰色中砂に極細砂質シルトブロックが混じる。遺物の出土は確認できていない。

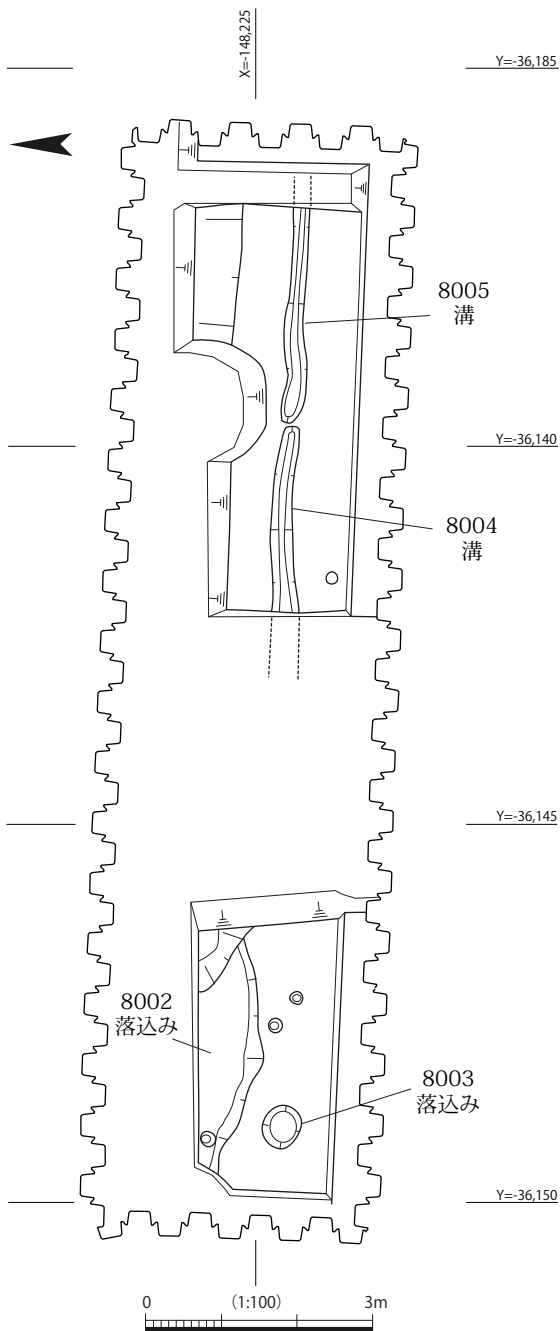


第 137 図 10-1-7 区 第 19 層・第 20 遺構面出土遺物実測図

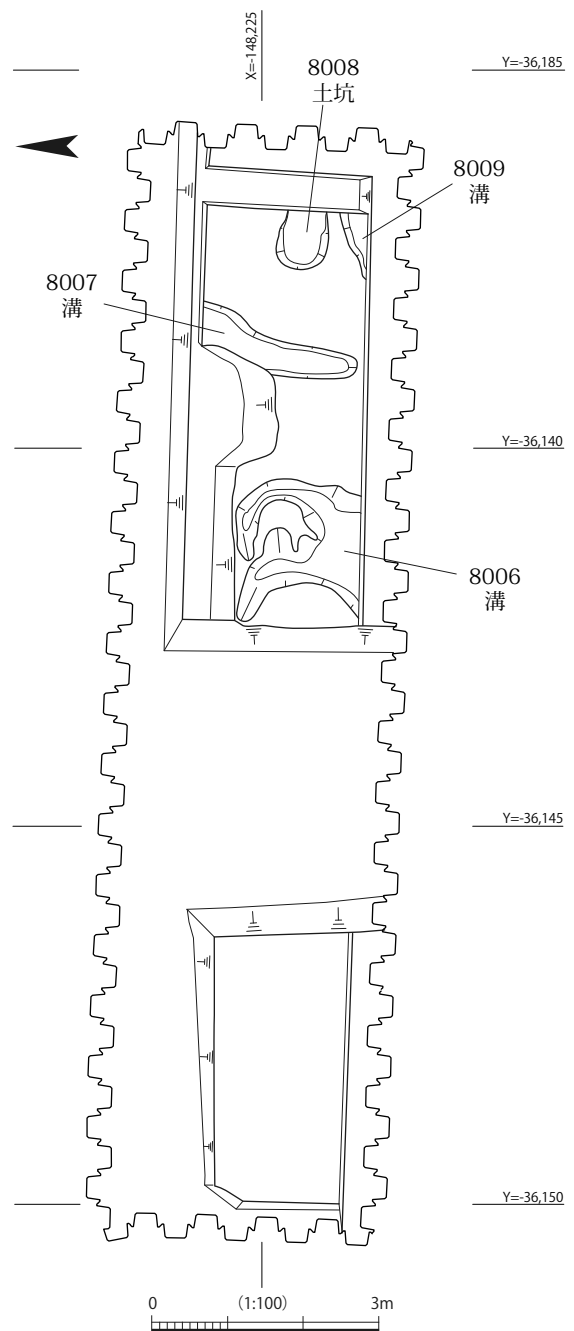
3. 10-1-8区

10-1-8区は、10-1-7区の東側に設定された調査区である。10-1-8区では、弥生時代中期後半から中世後期まで、計18枚の遺構面を検出した。なお調査区の中央部には、電鉄の鉄塔基礎設営の際にうけた攪乱が大きく残る。このため、上位層である中世包含層及び中世遺構面の残存状態は悪く、限られた面積での検出となった。

第1遺構面 機械掘削層除去面である。近世遺構面に相当する。10-7-1区と同じく、鉄道敷設前は水田耕作地である。基盤層である第1層からは、土師器羽皿、瓦器椀、染付碗が出土した。



第138図 10-1-8区 第2遺構面全体図



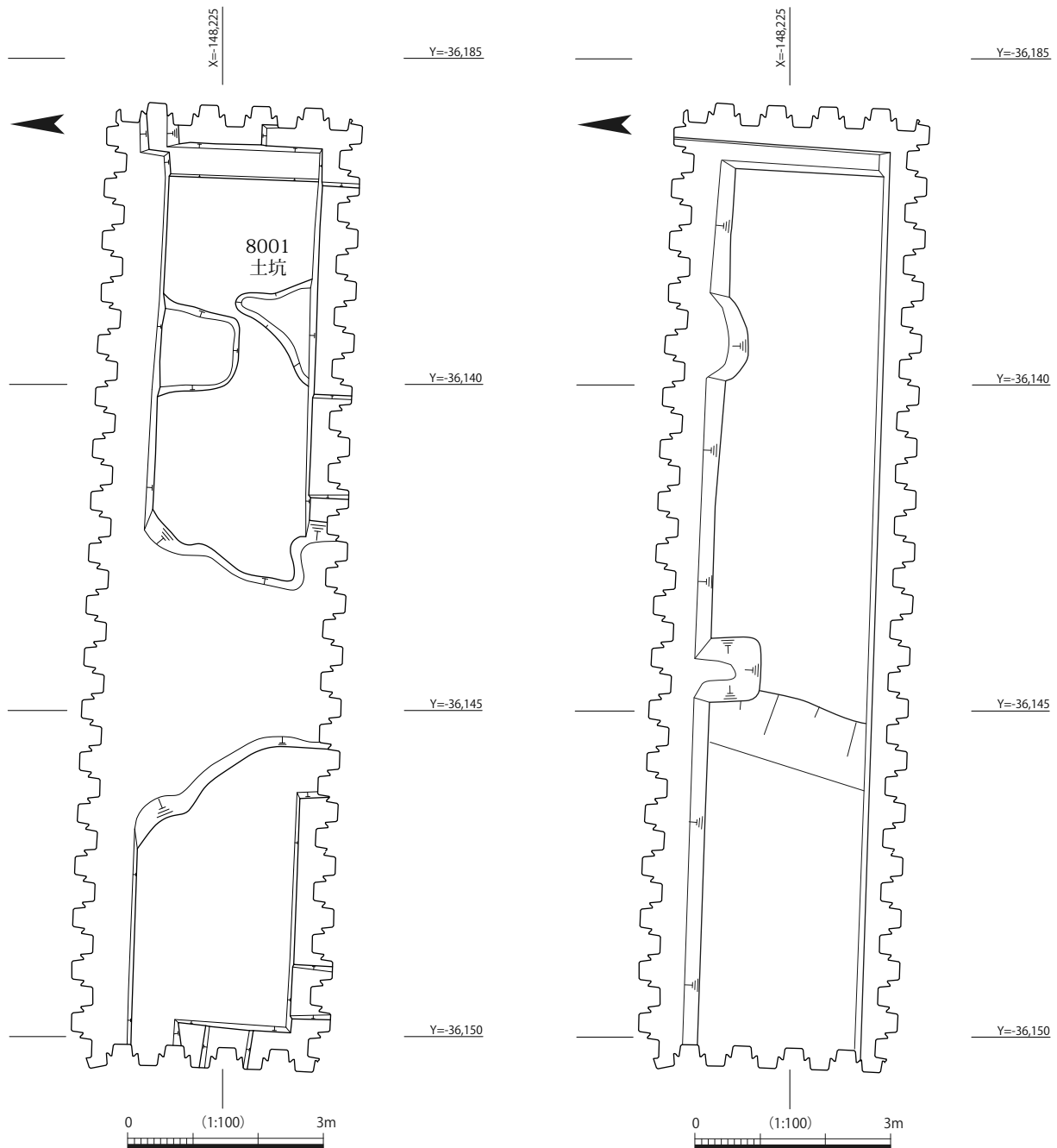
第139図 10-1-8区 第3遺構面全体図

第2遺構面（第138図） 第1層を除去した段階で検出した遺構面である。溝、落込みを検出した。すべて中世以後の遺構である。

基盤層である第2層からは、土師器鍋、瓦質土器播鉢・羽釜、瓦、須恵器甕、染付碗が出土した。

第3遺構面（第139図） 第2層を除去した段階で検出した遺構面である。中世末～近世初頭に相当する。遺構面の地盤は東が高く、西に向かって緩やかに下がる。調査区東半部では、溝、土坑を検出した。このうち、人為的な遺構である可能性があるものは以下の2点である。

8007 溝 調査区東半部において検出した溝である。ほぼ南北方向にのびる。底面は、南から北へ向かい、緩やかな傾斜角度をもつ。検出長 2.2 m、最大幅 0.3 mを測る。断面形状はレンズ形、最大深度は 0.15



第140図 10-1-8区 第7遺構面全体図

第141図 10-1-8区 第13遺構面全体図

mを測る。埋土は黄灰色を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

8008 土坑 調査区東端部において検出した遺構である。平面形状は長円形で一部を側溝によって失う。検出長は 0.8 m、最大幅 0.6 m を測る。断面形状は椀形、最大深度は 0.2 m である。埋土は黄灰色シルトに粗砂と炭化物を含む。遺物の出土は確認できていない。

第3遺構面の基盤層である第3層からは、土師器甕、白磁碗、瓦器椀、灰釉陶器椀、丸瓦等が出土した。但し、どれも細片である。

第4遺構面・第5遺構面・第6遺構面 全て中世遺構面である。第4遺構面は、第3層を除去して検出した遺構面で、中世遺構面に相当する。耕作地が広がる様相を確認したが顕著な遺構は検出できなかった。基盤層である第4層からは、土師器甕、皿、須恵器甕の細片が出土した。

同じく第5遺構面でも耕作痕跡を確認したが、遺構の検出には至っていない。第5層からは、土師器羽釜の破片と須恵器甕・杯、平瓦が出土した。

第6遺構面においても、特に顕著な遺構は確認できなかった。基盤層である第6層からは、瓦質土器羽釜、瓦器椀、土師器甕、須恵器甕、平瓦が出土した。

第7遺構面 (第140図) 中世包含層である第6層を除去して検出した遺構面である。調査区東半部において、土坑を検出した。

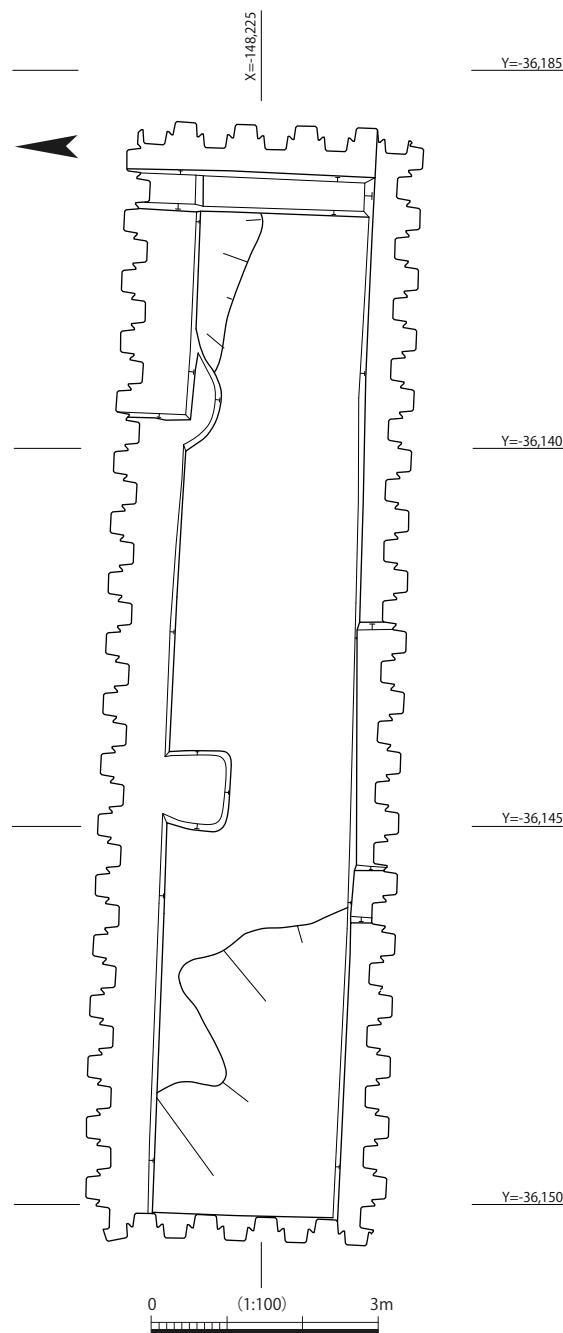
8001 土坑 平面形状は不定形、検出した南北長は 1.1 m、東西幅 1.5 m を測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.1 m である。埋土はオリーブ灰色中砂に細砂ブロックを含む。遺物の出土は確認できていない。

第8遺構面・第9遺構面・第10遺構面・第11遺構面・第12遺構面 いずれも古代相当遺構面であるが、特に顕著な遺構は確認できなかった。

第9層からは、須恵器杯身・杯蓋、土師器甕の破片が出土した。

第13遺構面 (第141図) 古代相当遺構面である。調査区西半部では西側へ下がる段を検出した。

段の落ち際付近において、須恵器甕・杯、土師器甕の破片が出土した。



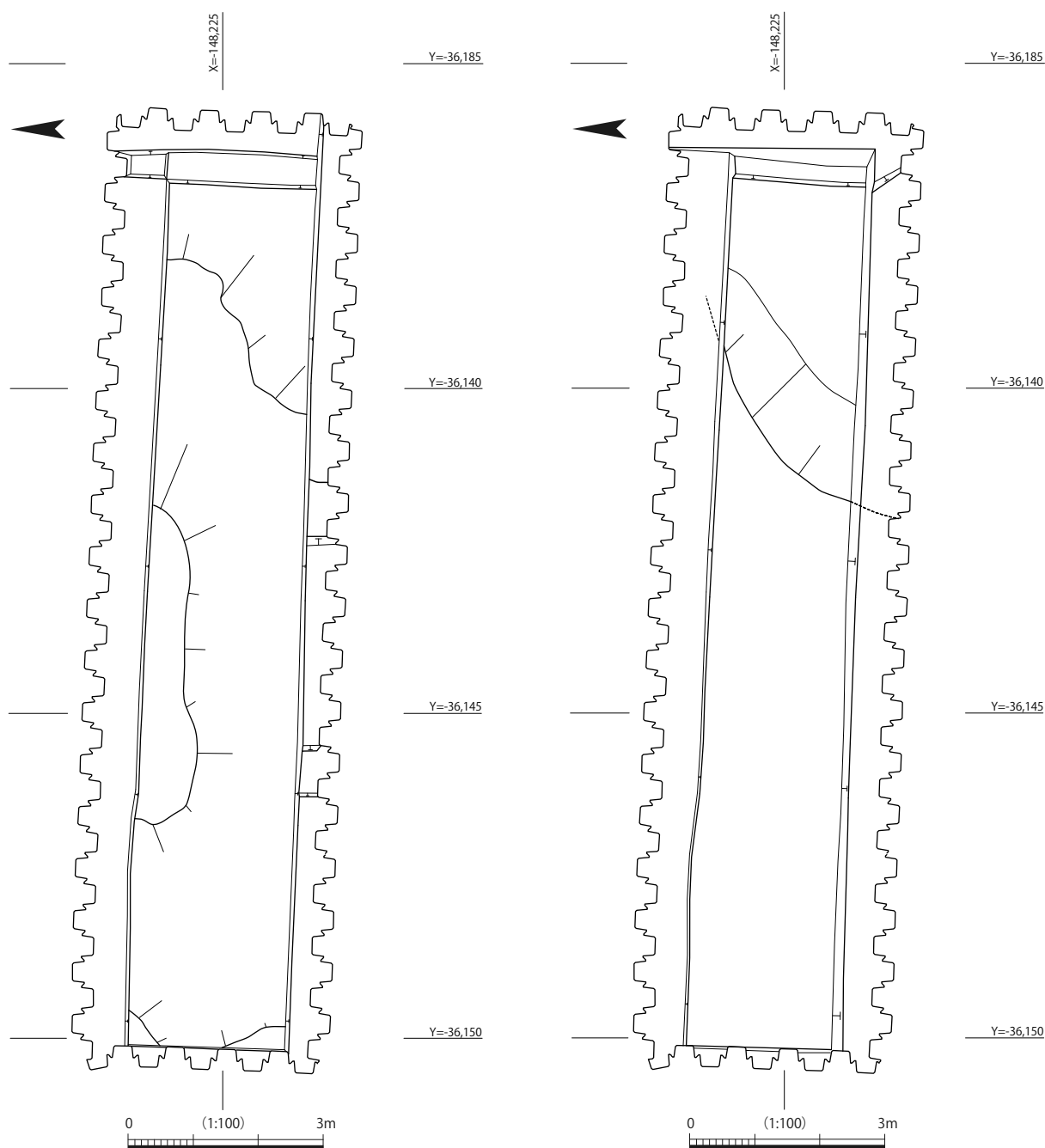
第142図 10-1-9区 第14遺構面全体図

第14遺構面・第15遺構面・第16遺構面 第14遺構面は、古墳時代後期相当面である。調査区内の地盤は、中央部が高く、東西に向かって緩やかに下がる。顕著な遺構は確認できていない。

第15遺構面は、古墳時代前期流路堆積の上面にあたる。地盤の起伏は目立つが、遺構の検出には至っていない。

第16遺構面（第143図）は流路堆積の下面である。調査区の地盤は中央北寄りが高いため、水流が調査区の南側を東から西へ抜けたことが、推察される。

第17遺構面・第18遺構面 第17遺構面は、弥生時代後期に相当する面である。植物遺体を何枚も介在させる堆積は、周辺が湿地状であったことを示している。



第143図 10-1-8区 第16遺構面全体図

第144図 10-1-8区 第18遺構面全体図

第18遺構面(第144図)は、弥生時代中期後半遺構面に相当する。調査区東半部では、南東方向へ下がる落ち込みを検出したが、人為的な遺構とは考えにくい。なお、第10-1-8区では、第18遺構面を検出した段階で、掘削限界に到達した。

第4節 花屋敷遺跡の遺構と遺物

1. 10-1-9区

10-1-9区は、花屋敷遺跡内に設定した調査区である。河内花園駅のホーム跡地を含むため、駅施工時の基礎工事による攪乱を大きく蒙る箇所がある。今回の調査では、計7枚の遺構面を検出した。

第1遺構面(第145図) 中世以降の遺構面である。調査区の北側には、調査区ラインと平行して東西方向に水路(近世～近代)が通る。この前身となる用水路(近世)の掘り方上端を、調査区内の中央において検出した。また、調査区南際においても、南へ下がる落ち込みを確認した。

第1遺構面の基盤層である第1層からは、土師器皿・羽釜、瓦器碗、東播系須恵器鉢、陶磁器、丸瓦、平瓦、染付碗、砥石等が出土した。

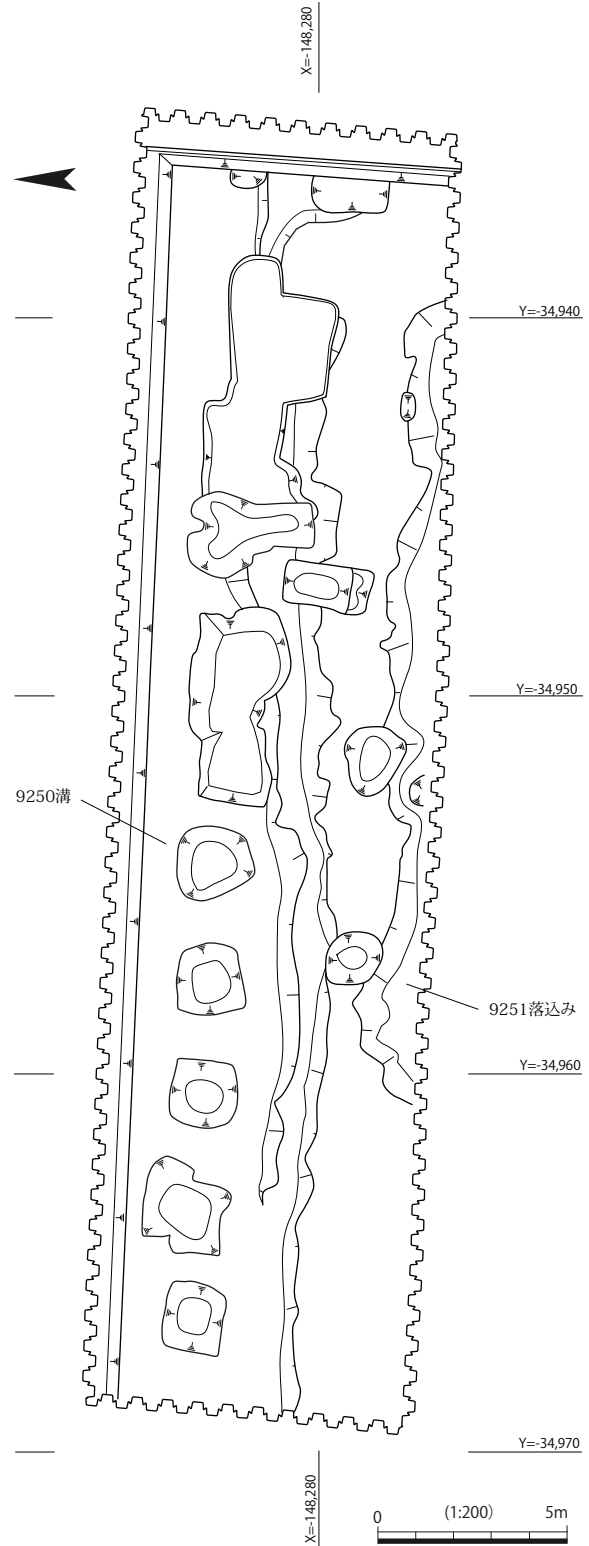
第147図14は、砥石である。3方向の研磨面が残存する。

第147図16は、木製部材である。小型品で、溝、ほぞ、ほぞ穴孔を持つ。ほぞ周辺には欠損(使用痕?)が認められる。用材はヒノキである。

第2遺構面(第146図) 第1層を除去して検出した中世以降の遺構面である。近世用水路の前身と大溝がさらに明確な掘り方となって現れる。掘り方の断面形状は逆凸形で、調査区北側ライン付近で一段下がる。調査区南辺の落ち込みも広がりを見せる。基盤層である第2層からは、土師器釜・皿、須恵器鉢、瓦器碗、陶磁器類が出土した。

第147図7(図版83-1-1)は陶器壺の口縁部である。土師質に近い風合いを持つ。

第147図10(図版83-1-4)は、東播系須恵器



第145図 10-1-9区 第1遺構面全体図

鉢の口縁部である。13世紀の製品である。

第147図13・15(図版83-1-6・83-1-8)は、折損した砥石である。3方向に研磨面が残る。

第3遺構面(第148図) 第3遺構面は、第2層を除去した段階で検出した遺構面である。時期は中世以降である。遺構面の地盤は上層水路による攪乱のため北へ向かって大きく下がるが、残存部では東に高く西に低い地形を呈している。特に第3遺構面以下において検出した遺構面では、この特徴が明確となり、調査区東端より8mの範囲が高台として西半部の低地とは異なる土地利用のあり方を示すようになる。

第3遺構面では、溝および杭列を検出した。

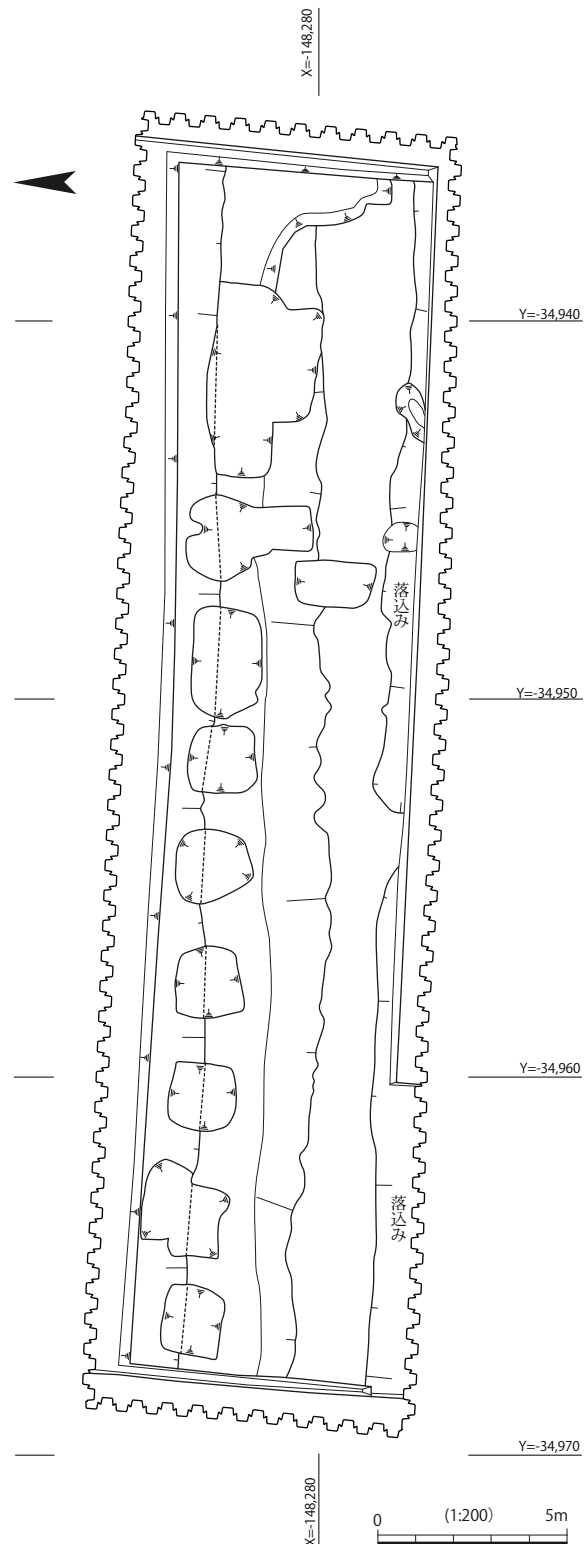
9001溝 調査区東半部において検出した遺構である。南から北へ向けて直線的に進み、調査区外へと連続する。この遺構より以東が高台、以西が低地となる。9001溝は、高台の裾を巡るように設けられた区画溝であると考えられる。検出長7.0m、最大幅1.5mを測る。断面形状は皿形、最大深度は0.15mを測る。埋土は褐灰色粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

杭列 調査区中央付近において検出した2本の杭である。数が限られているため、柵や土留めではなく、足場施設の基礎材として打ち込まれた可能性が高い。用材は、ともにマツである。

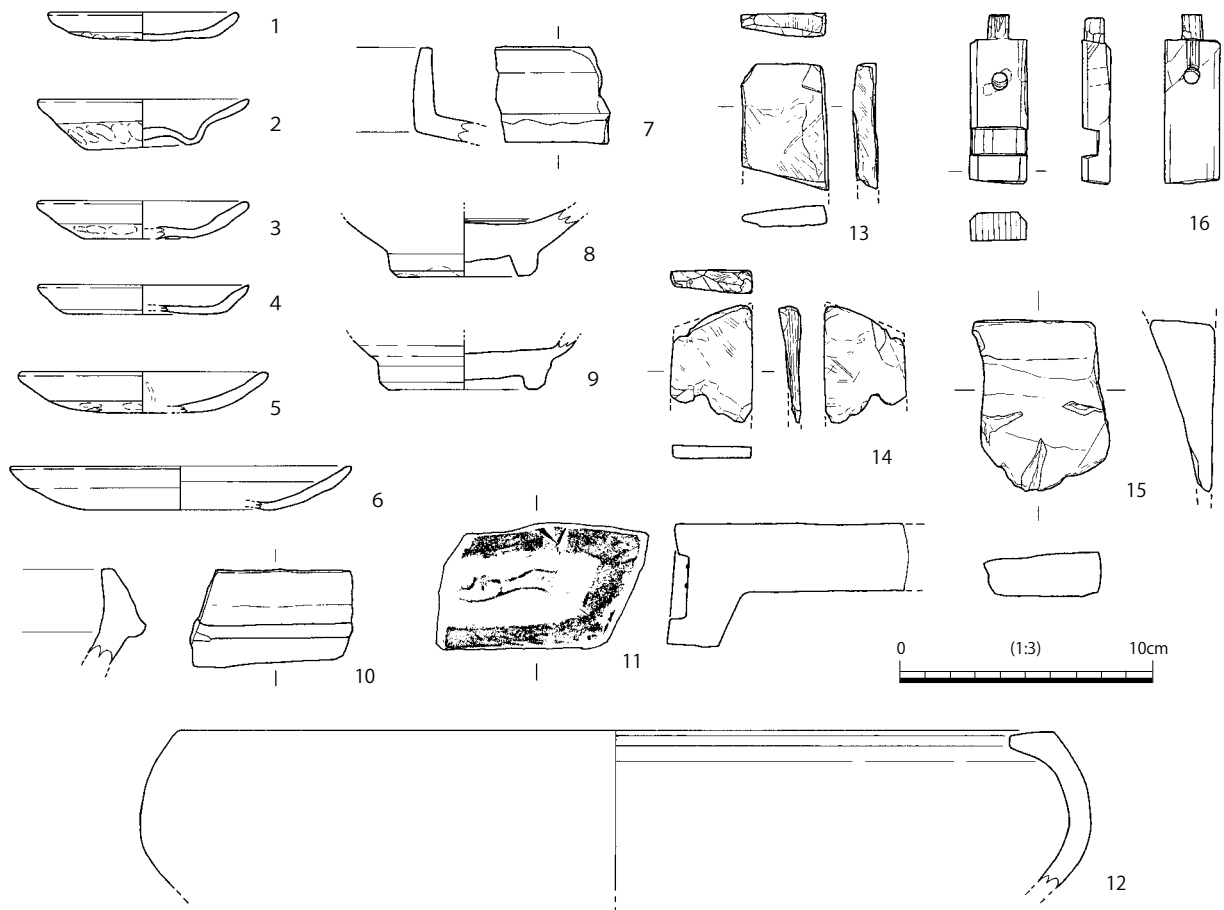
第3遺構面の基盤層である第3層からは、中世の遺物がまとまって出土した。

第147図1～6は土師器皿である。1～5は中型品、6は大型品に類される。8は青磁碗、9は、施釉陶器の底部である。12は瓦質土器の浅鉢である。丸みのある器体に3本の脚が付くタイプである。

第4遺構面(第149図) 第3層を除去して検出した遺構面である。時期は中世末～近世初頭に相当する。この遺構面では、井戸、溝、段を検出した。遺構面の地盤は、東端部の高台から階段状に西へ下がる。



第146図 10-1-9図 第2遺構面全体図



第147図 10-1-9区 第1層～第3層出土遺物実測図

9004 井戸 調査区南東部において検出した遺構である。平面形状は不定形、検出し得た南北最大長は2.0 m、東西方向の最大幅は4.0 mを測る。掘り方は連続して調査区外へと続くことから、本来は5～8 m程度の掘り方を持つ大型遺構であったことがわかる。

断面形状は播鉢形、最大深度は1.2 mである。埋土は、オリーブ黒色粗砂混じりシルト、灰色粗砂混じりシルト、灰オリーブ色細砂～粗砂から成る。掘り方のほぼ中央に、結物桶の井戸枠が据えられていたと考えられる。断ち割ったところ、桶の側板はすべて取り除かれた状態で、上下2本の箍のみが地中から出土した。また、井戸枠の周囲には、板材を基礎材として組んでいた様子も明らかとなった。遺構内からは、陶器甕、東播系須恵器鉢のほか、丸瓦、平瓦が出土した。

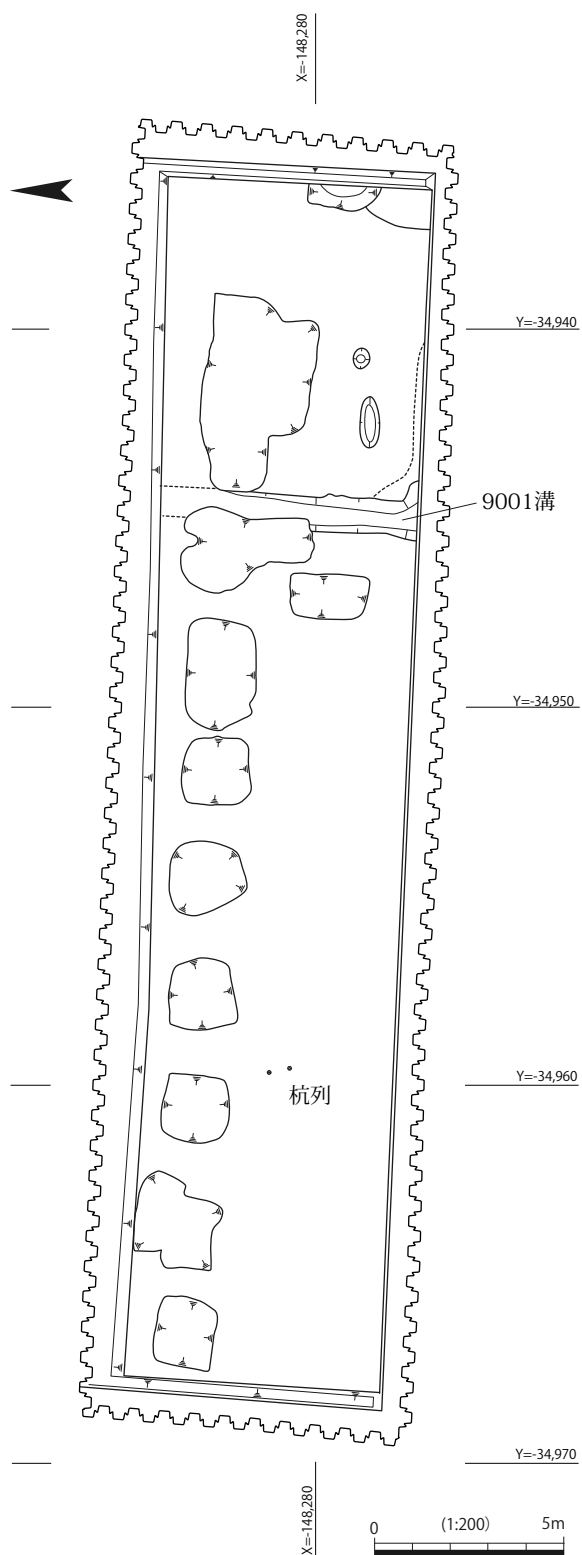
9005 溝 調査区西半部において検出した幅広の溝である。南北方向へほぼ直線的に続く。検出長7.5 m、最大幅3.5 mを測る。断面形状は皿形、最大深度は0.15 mを測る。埋土は杯オリーブ色粗砂を主体とする。この溝は、9005 溝の東に位置する段を掘り下げた時点で検出した。幅広の溝は、大型水路とも考えられるが、この溝の埋土が攪拌された状態であること、また溝と溝に挟まれた部分が畦状に高まることから島畠状の水田である可能性も高い。埋土からは、施釉陶器碗、瓦質土器三足釜、甕、須恵器甕、土師器皿、備前焼播鉢、平瓦、丸瓦が出土した。

第150図1は、土師器皿である。直線的に開く器形をもつ。中世の製品である。

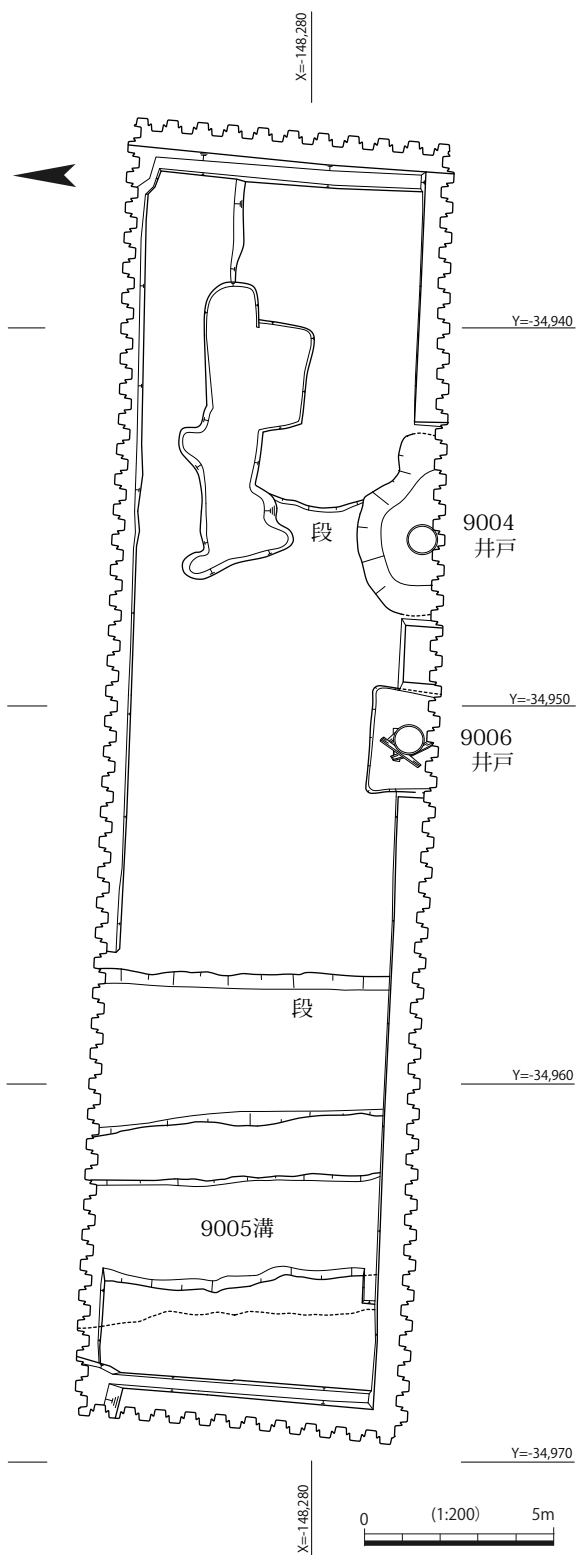
第150図2は、灰釉陶器の底部である。

第150図3・4・は、青磁碗である。3は底部で、内面に溶着による器面剥離が認められる。4は

口縁部のみ出土である。外面の木の葉文は省略化され、線を刻むのみである。16世紀の製品である。
9006 井戸 9004 井戸の西側で検出した遺構である。平形状は方形、南北検出長 1.5 m、東西幅 2.7 mを測る。断面形状は方形、最大深度は 1.6 mである。埋土は灰オリーブ色粗砂混じり粘土質シルト、灰オリーブ色粗砂～細砂、灰色シルト質粗砂等で構成される。掘り方のほぼ中央に木製曲物を据えた井



第148図 10-1-9区 第3遺構面全体図



第149図 10-1-9区 第4遺構面全体図

戸枠を検出した。井戸枠の下には、板材を敷き、基礎とする。遺構内からは平瓦、瓦質土器土器が出土した。

第 150 図 5・6 は筒型瓦質土器である。6 は完存品、5 は一端を欠く。筒型に胎土を丸め、一方を外反させる形状をもつ。それぞれを継ぎ合わせ、土管のように連ねて使用したと想定される製品である。16 世紀、大和で生産がさかんに行われた。

また、第 4 遺構面の基盤層である第 4 層からは、中世に生産された遺物がまとまって出土した。

第 151 図 1～6 は、土師器皿である。中型品で、法量が揃う製品である。1 は、平坦な底部と斜め上方へなで上げた口縁部を持つ。2、4～6 は、底面を上げ底状に作る一群である。

第 151 図 7 は、和泉型の瓦器碗で、すでに高台が省略された型式のものである。器高は低く、明確な暗文も認められない。14 世紀の製品である。

第 151 図 8 は、土瓶もしくは急須などの蓋である。窪ませた頂部の中に摘みが作り出されている。

第 151 図 9 は、灰釉陶器碗の底部である。底部外面はへら切りのため、中央部が突出する。

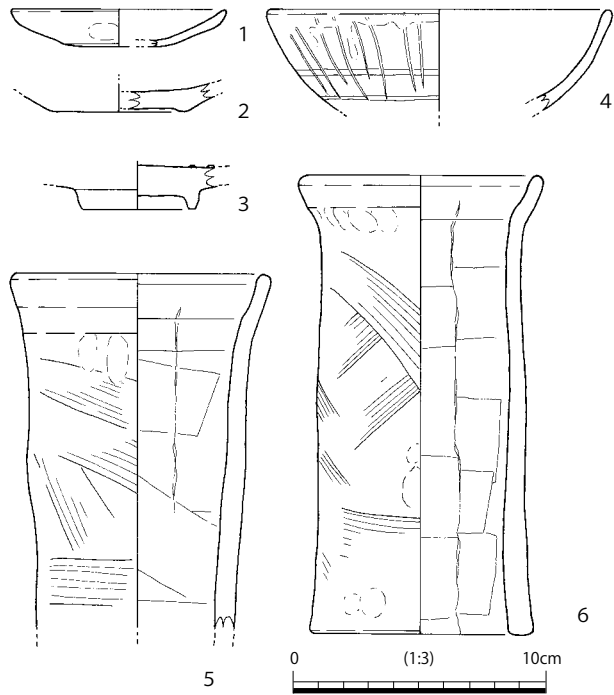
第 151 図 10 は、白磁碗である。

第 151 図 11 は、青磁碗である。外面の高台付近は露胎する。

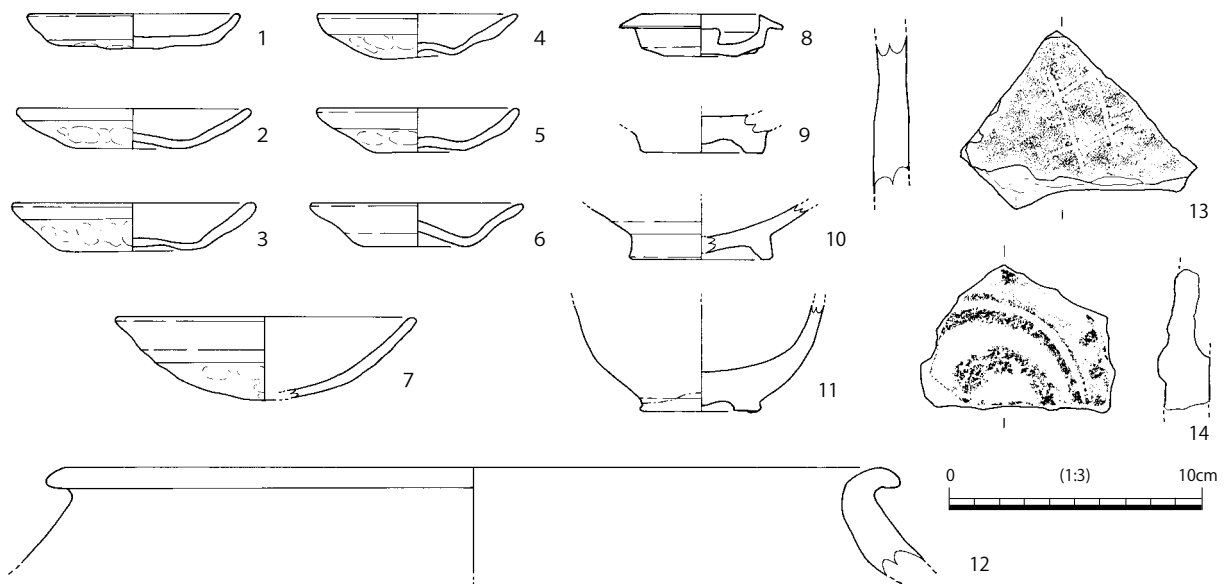
第 151 図 12 は、瓦質土器甕の口縁部である。

第 151 図 13 は陶器甕の一片である。外面に「#」のへら記号を付す。

第 151 図 14 は、巴文のある軒丸瓦である。



第 150 図 10-1-9 区 第 4 遺構面遺構内出土遺物実測図



第 151 図 10-1-9 区 第 4 層出土遺物実測図

磨滅が著しい。

第5遺構面（第152図） 中世後半包含層である第4層を除去した段階で検出した遺構面である。調査区東半部の高台では、炭だまり土坑を、低地では溝、ピットを検出した。

9015炭だまり（第153図） 高台上では、焼土炭、被熱した瓦の集積があり、これらがいくつかの高まりを作る。このうち、もっとも顕著な遺構が9015と9016の炭だまりである。

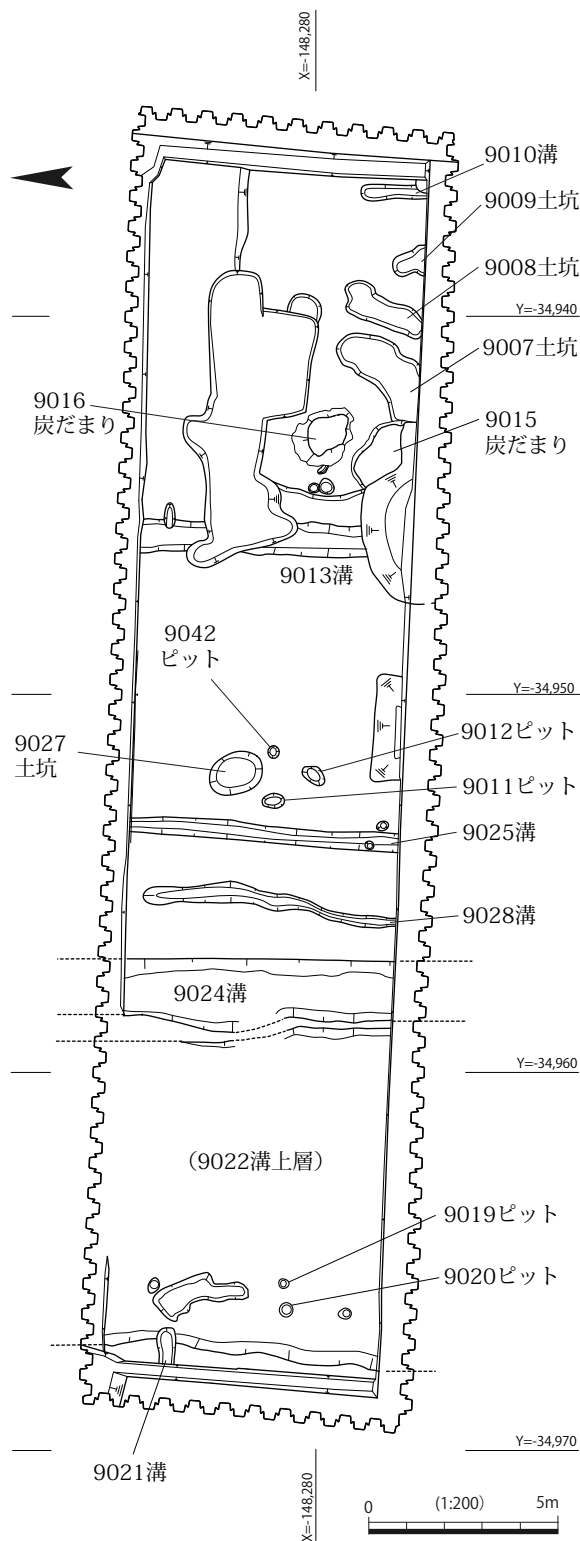
9015炭だまりは調査区の南辺にあり、上層遺構である9004井戸の攪乱に切られている。検出することができたのは、南北長・東西幅ともに1.3mの程度の範囲である。平面形状は不定形、遺構面の上に0.1～0.15mを測るマウンドがあり、炭化物、瓦、焼土、石、スサ入りの土塊（壁土？）等が含まれていた。

このマウンドを断ち割ったところ、地盤上面の土が被熱のため硬く締まり、さらにその下にピット状の窪みが存在することが判明した。

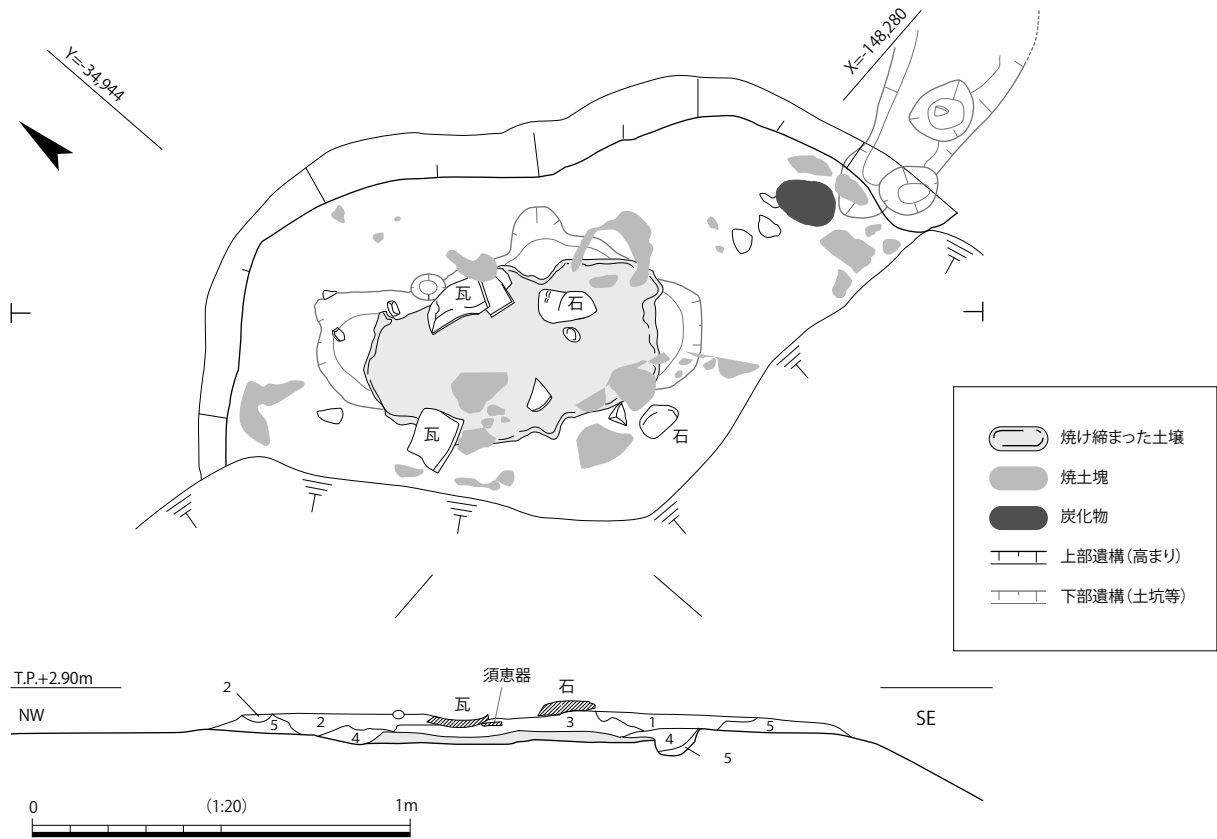
高まりとその下位にあるピットが一連の遺構であるかどうかは判断が難しいが、9015のすぐ北側にある類似した遺構9016、また東側にいくつか見える、埋土に炭や焼土が混じる土坑が存在することは、この高まりの性格を知る手がかりとなりそうである。

窯産や鍛冶等、この場所で生産活動が行われていたならば、金属滓や焼けひずんだ土器等の残骸が認められるはずである。しかし今回の出土品にそれはなく、高まり出土の土器や瓦も僅かである。従って、この場所で恒常的に火を使う生産作業をしたと考えるよりも、偶発的（あるいは必然的）におこった火事等で、この場所にあった建物の一部が火災にあったのではないかと考える。その際に焼け落ちた瓦や壁土をまとめて山積みしたり、掘った穴に集めた結果、炭を多く含む土坑や高まりが作られたのであろう。

9015炭だまりの下面では焼け締まった土壌を確認したが、これは一時の被熱によるものではなく、繰り返し火を受けた痕跡である。おそらくこの場所



第152図 10-1-9区 第5遺構面全体図



9015 炭だまり

- | | | | | |
|-------------|-------|----------|------------------|--------------------|
| 1) 10YR4/3 | 鈍い黄褐色 | 粗砂混じりシルト | 径1cm未満の礫少量入る | 焼土塊・炭・瓦片多量に含む |
| 2) 10YR3/3 | 暗褐色 | 粗砂混じりシルト | 10YR5/4 鈍い黄褐色 | 粘土質シルトブロック 20%程度含む |
| 3) 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗砂混じりシルト | 炭化物多量に入る | やや締まる |
| 4) 7.5YR4/3 | 褐色 | 粘土質シルト | 径0.3cm未満の礫少量含む | マンガン粒少量入る 締まり良い |
| 5) 10YR5/4 | 鈍い黄褐色 | 砂措置シルト | 4) 層ブロック 30%程度含む | |

第153図 10-1-9区 第5遺構面9015炭だまり平面断面図

に焼け残った木材等を集め、さらに燃焼させたのであろう。9015 高まりの埋土からは、平瓦、土師器皿、石等が出土した。

9016 炭だまり(第154図) 9015 炭だまりの北側で検出した類似する遺構である。平面形状は不定形、最大長1.9m、最大幅1.4mを測る。マウンドの高さは0.2m程度で、その埋土中に、炭化物や焼土、焼け固まった壁土などが含まれている。9015と違う点は、地盤上面に焼け固まった土が無く、単純に炭化物や焼けた土の集積と見られる点である。

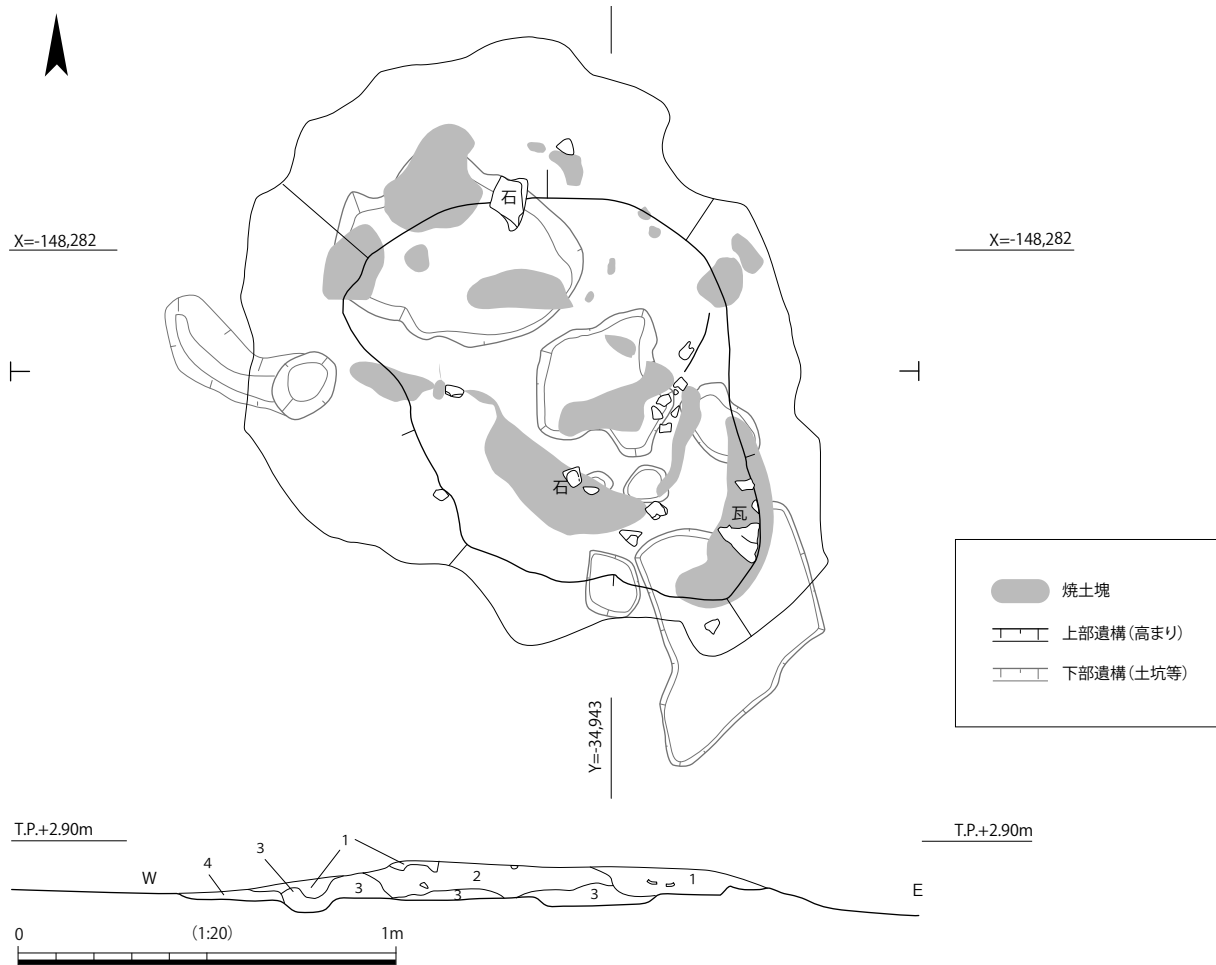
このほか、高台周辺からは、遺物がまとまって出土した(第155図)。炭だまりをはじめ、遺構内からも遺物が出土した(第156図)。また、第5遺構面の基盤層となる第5層からは、石鍋や須恵器甕、土師器羽釜、皿等の遺物が出土した(第157図)。

第155図1～3、第156図1～3は土師器皿である。

第155図4・5、第156図4～6は、瓦器碗である。すべて和泉型である。4は、小型でミガキも僅かである。第155図4～6も器高が低く、高台も認められない。14世紀の製品である。第155図5は内外面ともに暗文が施されている。12世紀の製品である。

第155図6は、軒平瓦である。中央の菱形文から左右に唐草文がのびる。

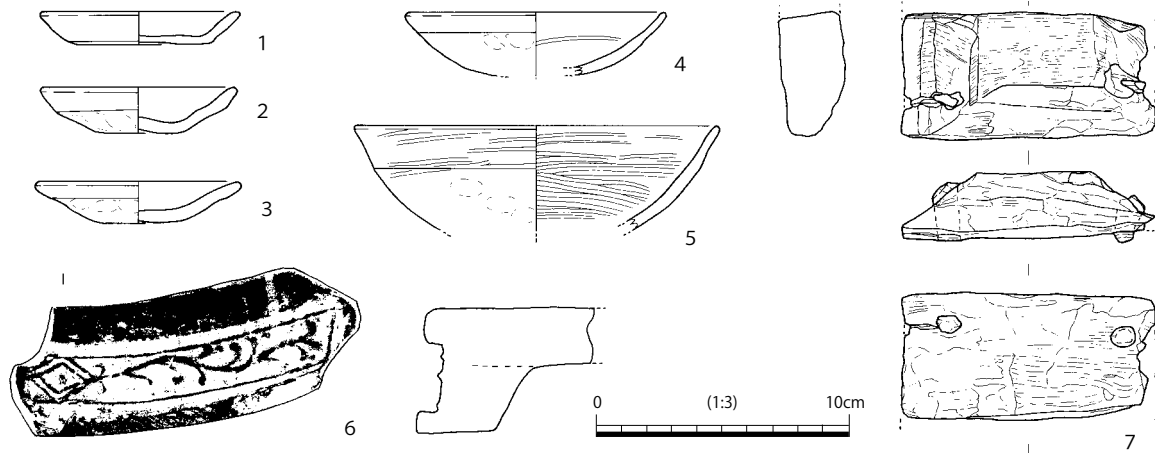
第155図7は、木製部材である。断面台形に削り出した板状品の2箇所を鉄釘を打ち込む。一方の



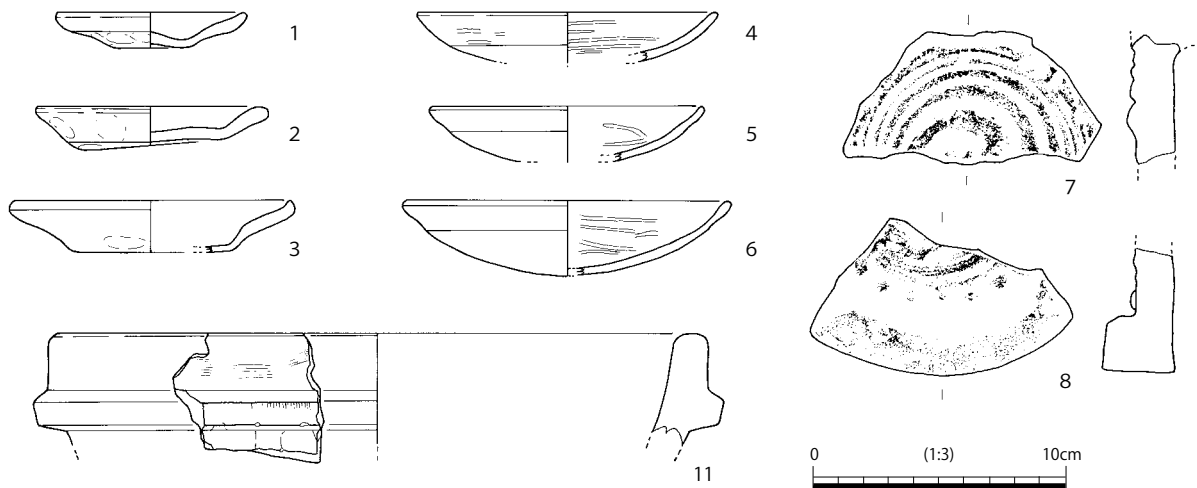
9016 炭だまり

- | | | | | | | |
|-------------|-------|----------|------------------|-------|-----------------|-----------|
| 1) 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗砂混じりシルト | 10YR5/4 | 鈍い黄褐色 | シルトブロック 10%程度含む | 焼土多量に含む |
| 2) 10YR4/3 | 鈍い黄褐色 | 細砂混じりシルト | 7.5YR4/3 | 褐色 | シルトブロック 10%程度含む | 焼土・炭多量に含む |
| 3) 10YR3/4 | 暗褐色 | 粗砂混じりシルト | 径 0.3cm 未満の礫少量含む | | やや締まり悪い | |
| 4) 7.5YR4/3 | 褐色 | 粘土質シルト | 径 0.3cm 未満の礫少量含む | | マンガン粒少量入る | やや締まり悪い |

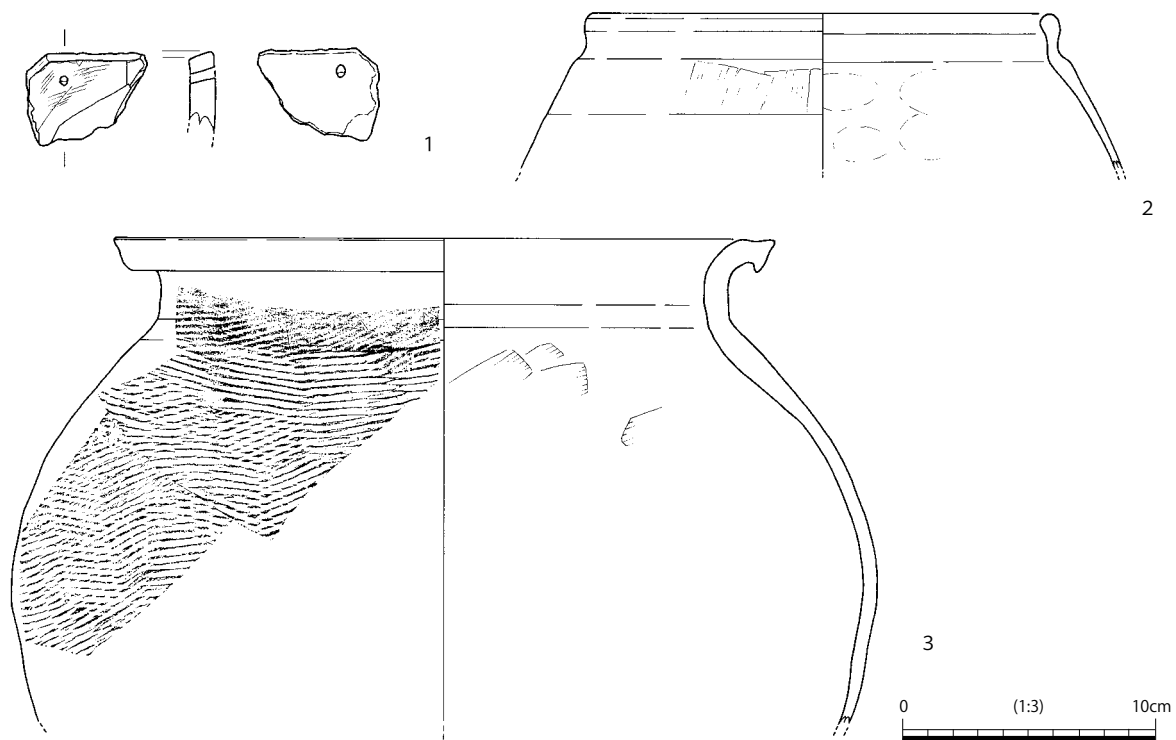
第 154 図 10-1-9 区 第 5 遺構面 9016 炭だまり平面断面図



第 155 図 10-1-9 区 第 5 遺構面出土遺物実測図



第 156 图 10-1-9 区 第 5 遺構面遺構内出土遺物実測図



第 157 图 10-1-9 区 第 5 層出土遺物実測図

側面は折損する。用途不明である。

第 156 図 11、第 157 図 1 は、滑石製の石鍋の破片である。第 156 図 11 は、外面の鐙が残る。第 157 図 1 には、把手を掛けるための小孔が穿たれている。

第 156 図 7・8 は、巴文をもつ軒平瓦である。ともに 9027 土坑より出土した。

第 156 図 9 は、瓦質土器土器鉢である。やや内傾して立ち上がる口縁部を持つ。

第 157 図 3 は、中世須恵器の甕である。外面には密にタタキが施されている。

第 6 遺構面（第 158 図） 中世後期の包含層である第 5 層を除去した段階において検出した遺構面である。この面では、ピット、井戸、溝を有する集落跡を検出した。中世後期遺構面に相当する。

調査区西半部には、南北方向に大溝（9022 溝）が通り、北半部には大溝に直交する形で東西方向に溝（9026 溝）が走る。調査区中央部には、ピットや井戸が点在する。井戸は多くが素掘りであるが、調査区中央に位置する 9030 井戸からは、土師質および瓦質の羽釜を 3 段積み上げた井戸枠が出土した。ピットは数基を検出したが、建物の復元には至らなかった。遺構面の時期は、14 世紀後半である。

第 6 面出土遺物（第 159 図） 第 6 遺構面では精査時に多くの遺物が出土した。

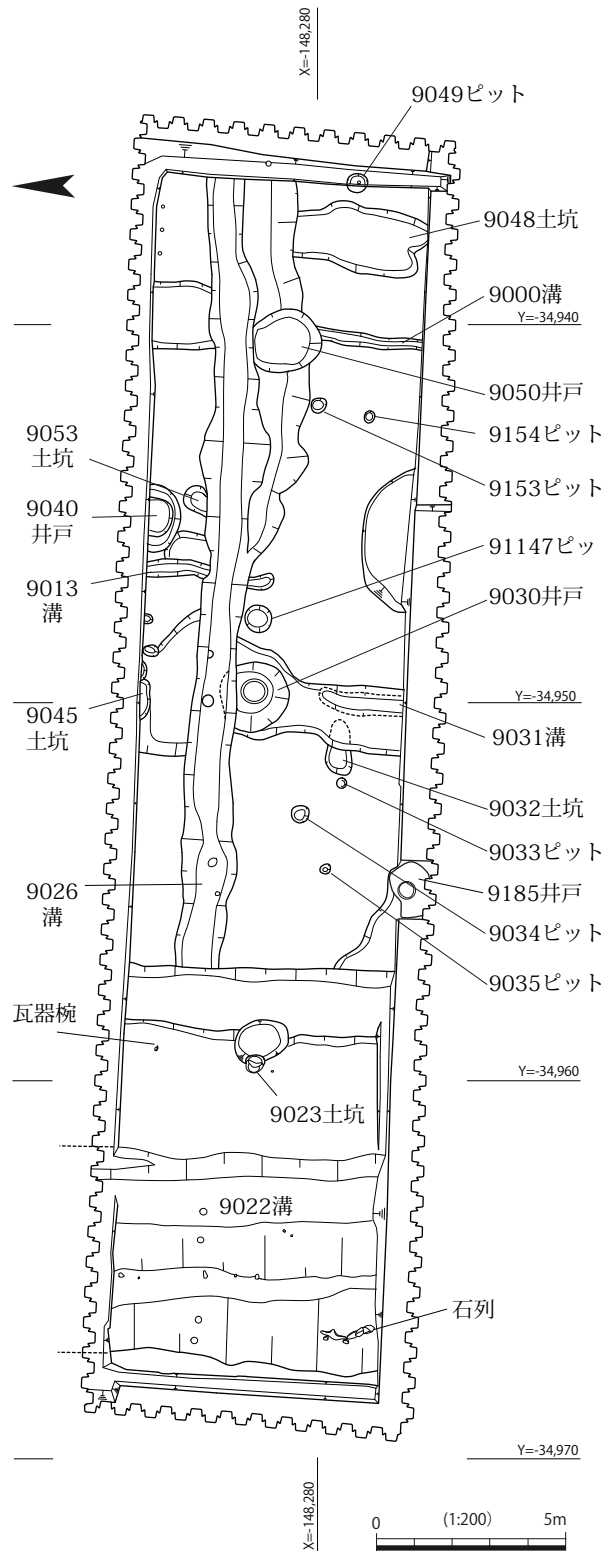
第 159 図 1 は土師器皿、2～6 は瓦器椀である。瓦器椀はすべて和泉型、内面のみに疎らな暗文を施す。5・6 は、調査区西半部北辺より口縁部を重ね合わせた状態で出土した。底部内面に平行線状暗文と数条のミガキを施し、底部外面には小さく低い高台を張り付ける。13 世紀半ばの製品である。

第 159 図 7 は瓦質土器浅鉢の口縁部である。外面に菊花文のスタンプが押されている。14 世紀後半の製品である。

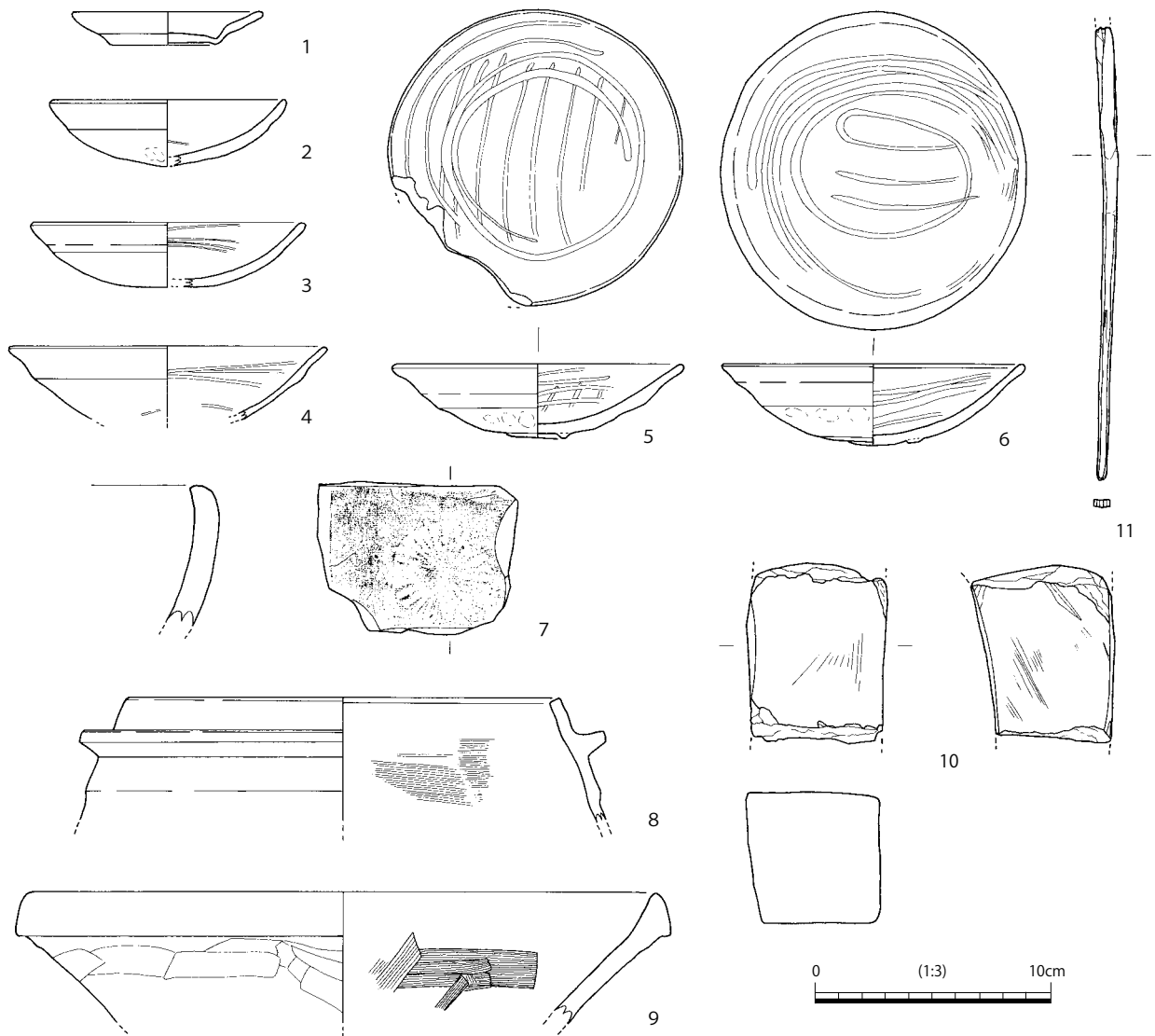
第 159 図 8 は土師質土器の釜で、丸みのある体部から内傾する口縁部、その外面に短い鐙をもつ。

第 159 図 9 は瓦質土器播鉢である。外面は粗いヘラケズリ、内面には横方向のハケの後、斜め方向に播目を入れる。14 世紀後半の製品である。

第 159 図 10 は砥石である。柱状に切り出した粘板岩で、4 面に研磨面がある。うち 1 面には刃物



第 158 図 10-1-9 区 第 6 遺構面全体図



第159図 10-1-9区 第6遺構面出土遺物実測図

痕が残る。

第159図11は木製箸である。持ち手の断面形状は方形、先端部は細く丸く加工する。持ち手の上端は折損する。用材はヒノキである。

9022 溝 調査区西半部において検出した遺構である。南北方向に調査区を横断し、さらに調査区外へと続く。検出長7.2 m、最大幅8.8 mを測る。断面形状は逆凸形、最大深度は0.7 mを測る。埋土は黒褐色シルト、灰色極細砂、暗灰色シルトから成る。植物遺体や炭を含む。

この溝の両岸にはテラス状の段があり、その中心軸よりやや西寄りの地点を溝の本体が通る。現地調査では、テラス部分を上層、本体部分を下層として掘り分けた。東岸の上層を除去したところ、銭貨を埋納した土坑を検出した(9023土坑)。

溝の西岸(テラス斜面)には、石列や杭列、杭列に沿って横木が渡される箇所があり、護岸工事の痕跡とみることができる。溝の上層からは人頭大の角礫が数点出土するが、おそらく護岸石が転落したものであろう。後世の整地等により破壊された石列もあったと思われる。

この9022溝は、既往の調査においても連続する遺構が確認されている。北に接する既往の調査区06-2-3区では、連続する大溝がさらに北へ向かって直線的にのびている。その北側に位置する06

— 1 調査区では攪乱のため全貌は明らかではないが、溝の東岸と推測される土壌の一部が発見されている。これらを併せると、9022 溝は、30 m以上を測る南北溝であることがわかる。既往の調査報告では、条里に基づく区画溝ではないかと推測されている。

9022 溝の埋土からは、土師器皿、羽釜、瓦器碗・皿、須恵器甕・鉢、瓦質土器鉢・蓋、羽釜、陶磁器、軒丸瓦、軒平瓦、砥石、石臼、木製曲物側板・底板・部材・板草履、鉄製刀の刃の一部等が出土した（第 160～163 図・図版 86-1～89-1）。溝の上下層における出土遺物の時期差は明確には認められないが、下層に瓦や木製品の出土が集中する傾向はある。

第 160 図 1～6 は、土師器皿である。小型～中型品で、すべて直線的に開く口縁部をもつ。へそ皿底面の上方への突出は、それほど顕著ではない。13～14 世紀の製品である。

第 160 図 11 は、施釉陶器である。古瀬戸焼の合子の身か。丸みのある体部外面に小さな菊花文のスタンプを押圧し、淡いオリーブ色の灰釉を塗布する。14 世紀前半の製品である。

第 160 図 7～10 は、瓦器碗である。和泉型で器高が低い。7 は内面にごく省略化した圏線ミガキを「の」字状に施す。10 は胎土が粗く、径 0.5cm 程度の角礫を含む。すべて 14 世紀の製品である。

第 160 図 14 は、白磁碗口縁部で、白色釉を施す。12 世紀の製品である。

第 160 図 15 は、備前焼甕の口縁部である。13 世紀末～14 世紀の製品である。

第 160 図 16 は、施釉陶器甕の体部破片である。外面に花卉状のタタキを施す。

第 160 図 19・20 は、瓦質土器の挿鉢である。19 は、口縁部に片口を設ける。14 世紀の製品である。

第 160 図 21 は瓦質土器甕の口縁部である。直線的に外反させた口縁部先端はナデて端面を作る。外面調整は格子状タタキ、口縁部はその上にユビナデを施す。

第 160 図 22 は鉄製刀の刃先である。両端を折損する。全面が錆に覆われているが、断面形状を見ると、背面が太く腹面が薄い刀の形状を捉える事ができる。

第 161 図 1～5 は羽釜である。1・2・4 は小型の土師質土器、3 は瓦質土器の三足釜、5 は大型の土師質土器である。2 は体部外面に吹きこぼれの痕跡が筋状に残る。

第 161 図 6 は、石鍋の口縁部である。穿孔が 1 点認められる。材質は滑石である。

第 161 図 7 は、石臼の破片である。回転させる上臼（雌石）の一部で、下面に溝（目）が刻まれている。溝はすべて副溝であるため、分画数は復元できない。相当の使用に耐えたもので、本来ならば上臼の中位に設ける把手の差し込み口が下面に接するほど擦り減った状態である。材質は砂岩である。

第 162 図 1～3 は軒丸瓦、4～7 は軒平瓦である。すべて瓦当部付近のみの残存で丸瓦部は失われている。1 の瓦当文様は蓮華文、2・3 は左巻の三巴文である。3 は巴の尾が長く、珠文を密に配している。瓦当背面の下部が後方へ突出する形状をもつ。4・5 は、中心飾りに半裁された菊花を配し、左右に向かって流水文を付す。6 は唐草文、7 は花文である。

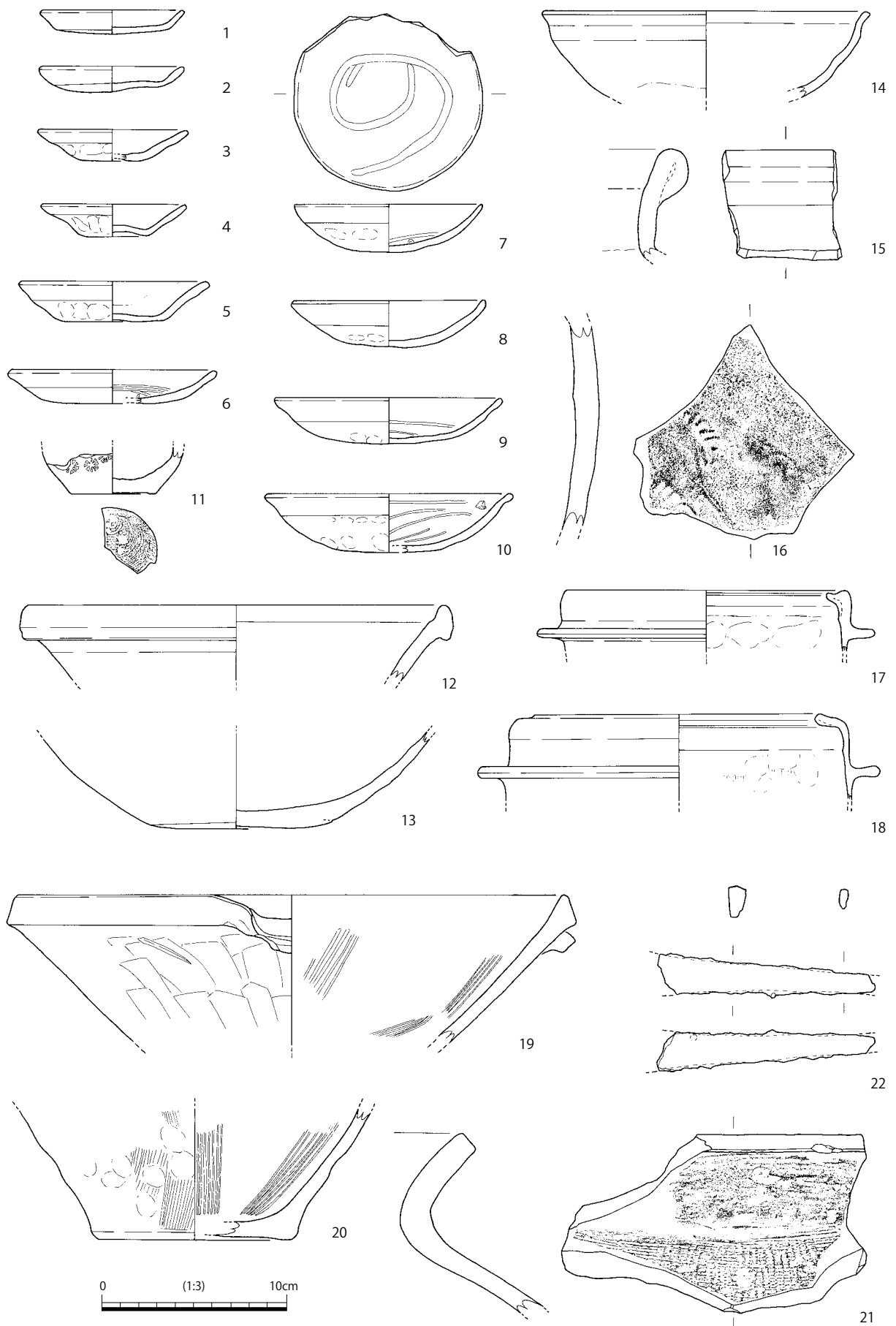
第 162 図 8・9・11 は、切り欠き段のある木製部材、10 は曲げ物の底板である。10 は側面に木釘が残る。用材はすべてスギである。

第 163 図 1 は、板草履の一部で、中央部先端に鼻緒孔がある。用材はヒノキである。

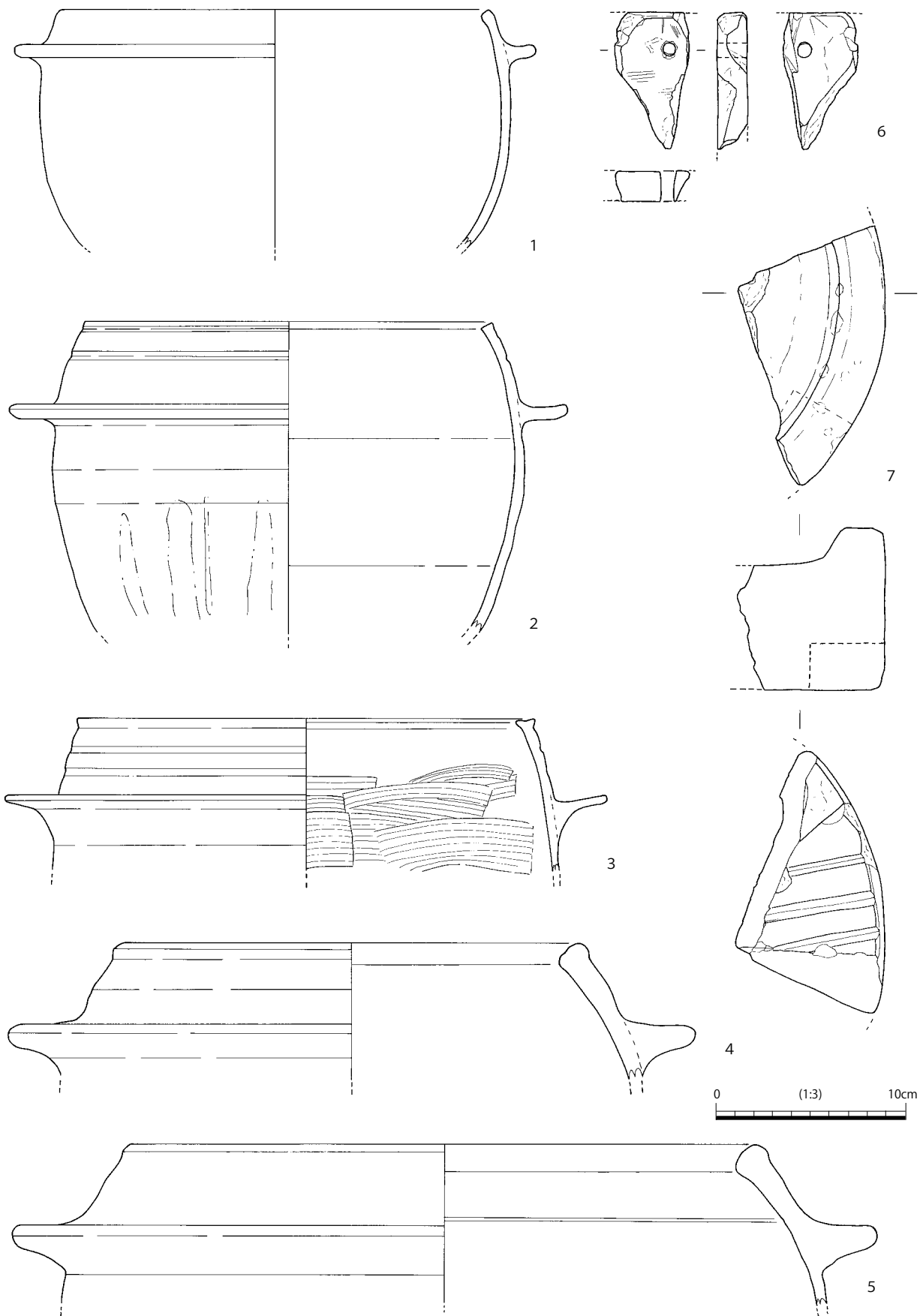
第 163 図 2 は、部材の一部で、上面にほぞ、中央縦方向に浅い溝を作る。用材はケヤキである。

第 163 図 3 は、砥石の一部である。薄い板状で両先端は折損する。粘板岩製の仕上げ砥石である。

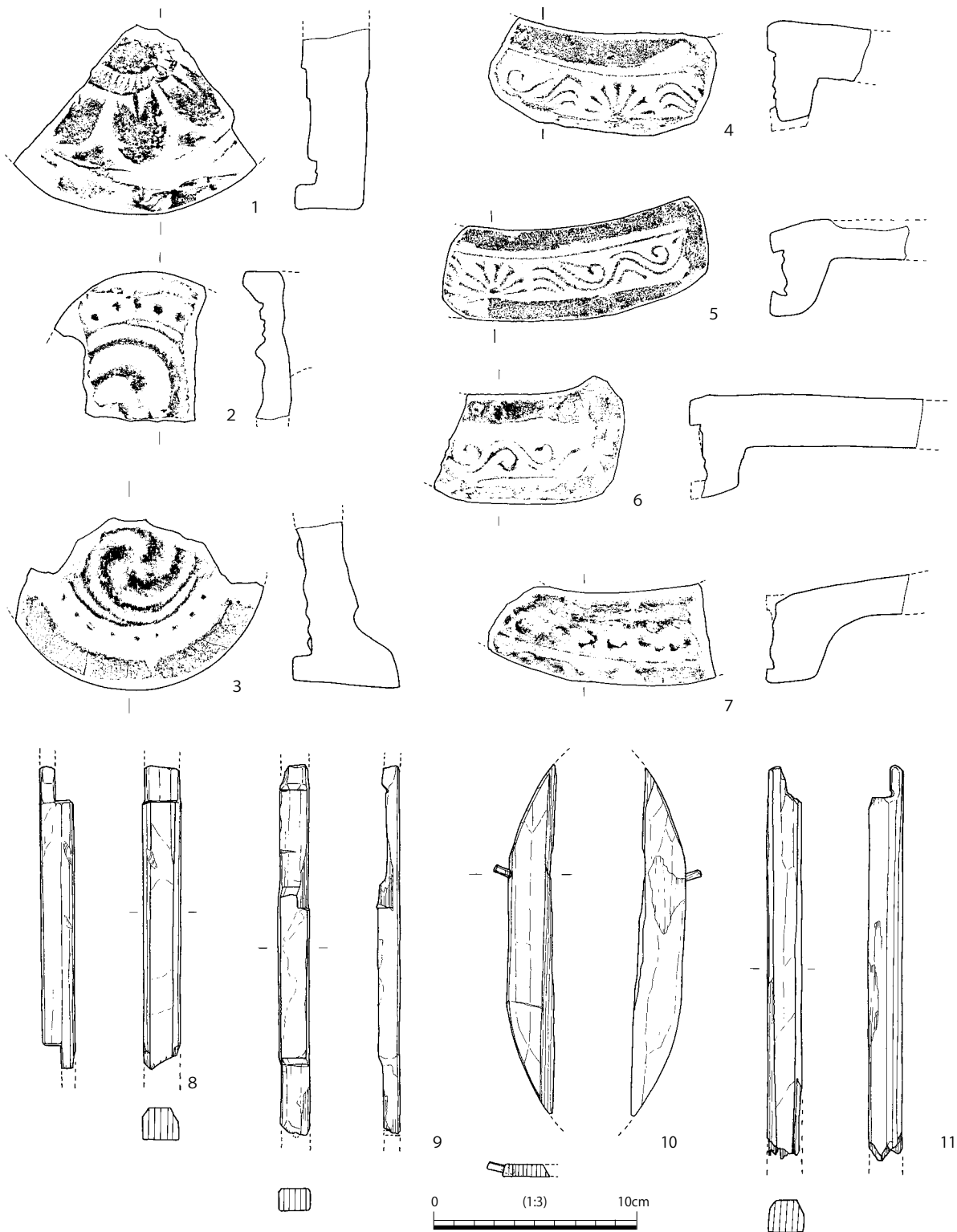
9026 溝 調査区北半部において検出した遺構である。調査区を東西に縦断してのびており、東端は溝幅を減じながら調査区外へと続く。検出長 21.0 m、最大幅 1.8 m を測る。断面形状は椀形、最大深度



第 160 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9022 溝出土遺物実測图 1



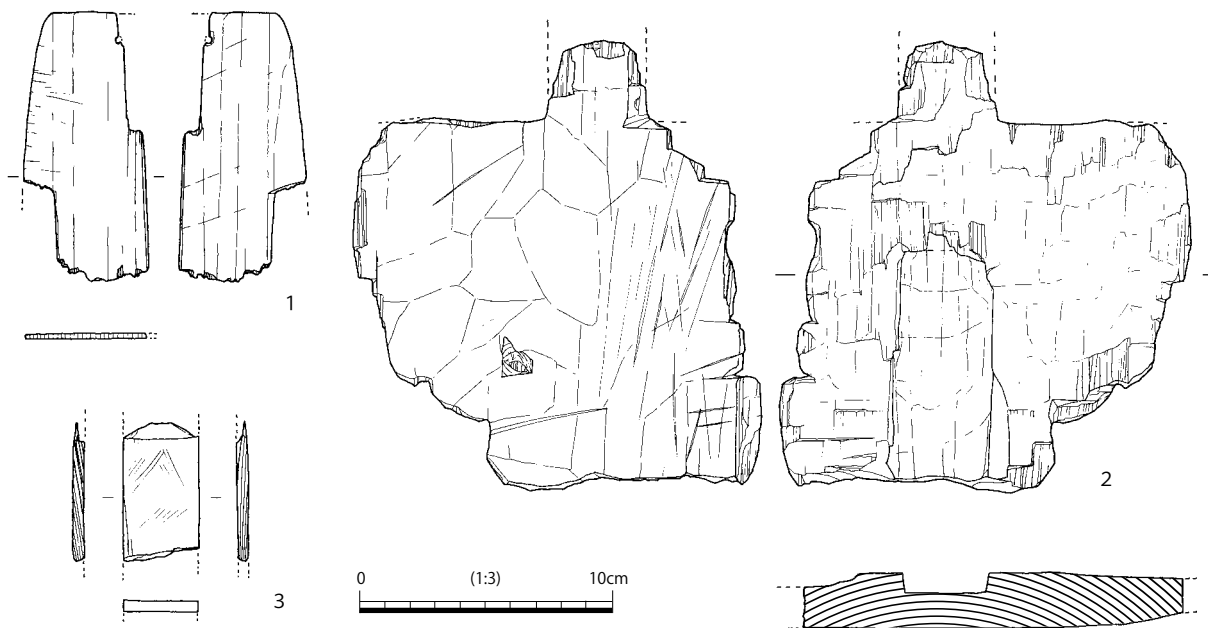
第161图 10-1-9区 第6遺構面9022溝出土遺物実測図2



第 162 図 10-1-9 区 第 6 遺構面 9022 溝出土遺物実測図 3

は 0.4 m を測る。底面の傾斜は僅かに東から西へ傾いており、検出長の東端と西端の比高差は 4 cm 程度、水の流れは緩やかであったと解釈される。埋土は灰色～暗灰色砂質シルトを主体とする。9030 井戸等、他の遺構と切り合う関係にあることから、この遺構面では新しい時期に開削された遺構である。埋土からは、土師器皿・軒平瓦、瓦質土器蓋、土師釜の破片等が出土した（第 165 図 1～6・9）。

第 166 図 1～4 は、土師器皿である。4 は燈明皿で、口縁部の内外に煤が付着する。



第 163 図 10-1-9 区 第 6 遺構面 9022 溝出土遺物実測図 4

第 166 図 5・6 は瓦器椀である。ともに和泉型である。14 世紀の製品である。

第 166 図 8・9 は、瓦質土器である。8 は、平面が円形を呈する浅鉢の口縁部である。内湾して立ち上がる口縁部の外面に、菊花のスタンプを押す。9 は蓋の一部である。平面が方形に作られた浅鉢に組み合う製品である。外面調整はミガキとナデ、コーナー部分には猪目形の焼成前穿孔が施されている。ともに 14 世紀の製品である。

9030 井戸 (第 159 図) 調査区中央部において検出した遺構である。北側の一部が 9026 溝と切り合い関係にある。平面形状は円形、長径 1.85 m、短径 1.80 m を測る。断面形状は逆凸形、最大深度は 0.8 m である。掘り方の埋土は灰色細砂、井戸枠周辺の埋土はオリーブ黒色粗砂混じりシルトを主体とする。全体的に埋土の締まりは悪い。

掘り方のほぼ中央からは、羽釜を 3 段積み重ねて据えた井戸枠が出土した。羽釜はすべて底部を打ち欠き、筒状に加工して重ねられている。このうち、上位 2 体の羽釜の底部破片が、掘り方埋土の中から出土した。井戸を設置する際、この場で羽釜の底部を打ち欠いて据え、重ね具合を調整したと推測される。井戸枠内部からは、平瓦、瓦器椀、白磁壺の破片等が出土した。

井戸枠に転用された釜は、上段と中段が土師質土器、下段が瓦質土器である。

第 165 図 1 は上段に置かれた釜で、丸みのある体部から内湾させた口縁部、僅かに上方へ摘み上げた口縁端部をもつ。鏝の張り出しは短い。外面調整はタテ方向のヘラケズリ後、鏝の下に横方向にハケ目を 1 条廻らせている。口縁部外面は横方向に強くナデる。外面には、煤の付着が認められる。打ち欠かれた底面の破片は、そのほとんどが井戸の掘り方から出土した。

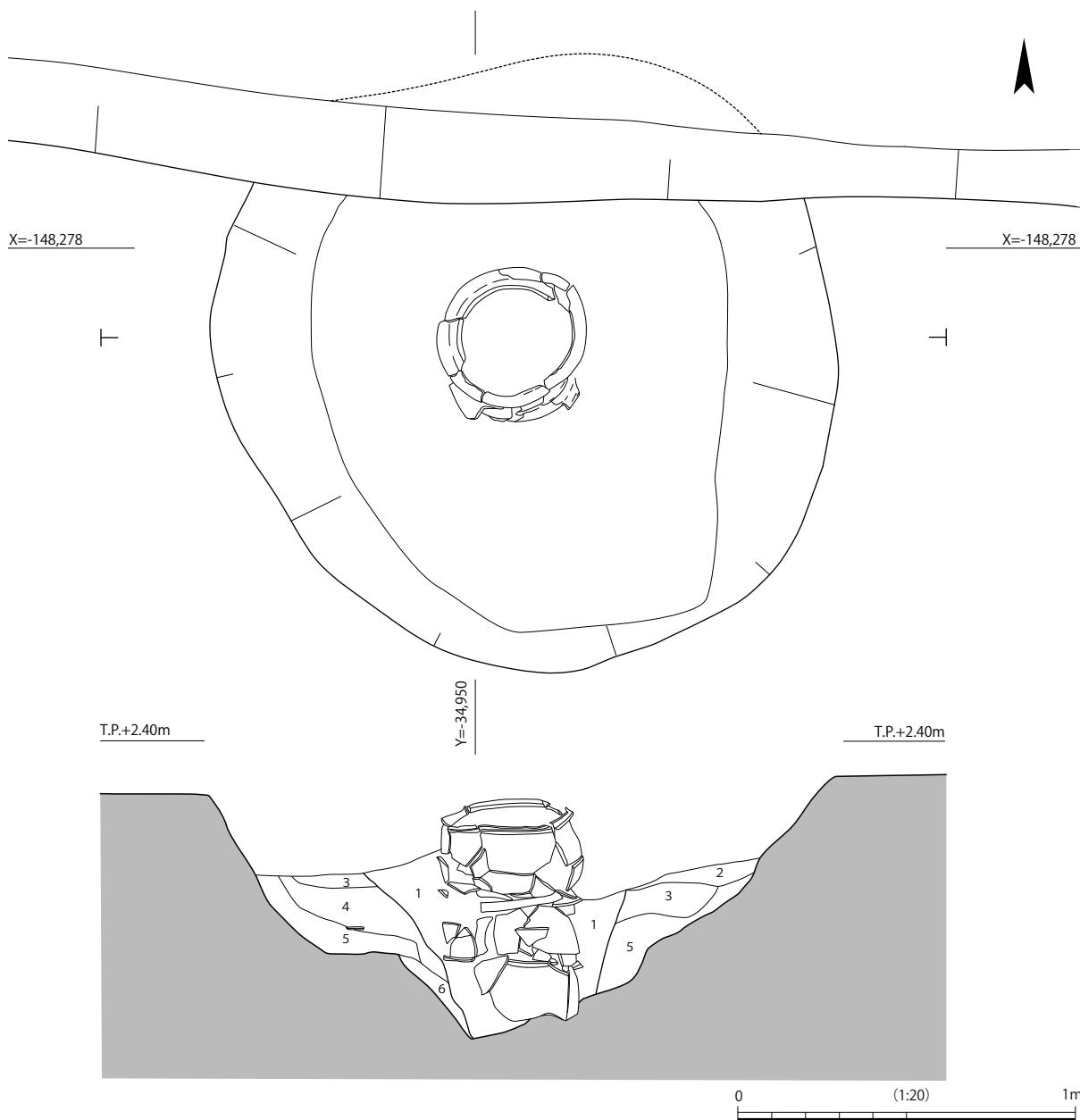
第 165 図 2 は中段に重ねられたの羽釜である。丸みのある体部から内傾させた口縁部をもつ丸口縁端部は肥厚させて丸くおさめる。大きめの鏝が付されている。羽釜全体の法量は、上段の釜よりも一回り小さい。外面には同じく煤が付着する。また、上段羽釜と同様、打ち欠かれた底面の破片は、ほとんどが井戸の掘り方から出土した。

第 165 図 3 は瓦質土器の羽釜である。丸みのある体部とユビナデによって端面を作った口縁部をも

つ。外面調整はユビナデ、内面調整は横方向の密なハケ目である。法量は、中段羽釜よりもさらに小さい。なお、この羽釜の底部の破片は、井戸の埋土からは出土しなかった。

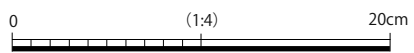
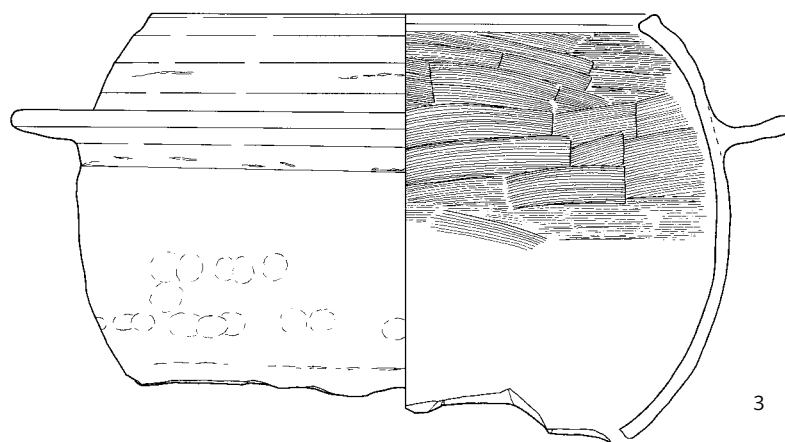
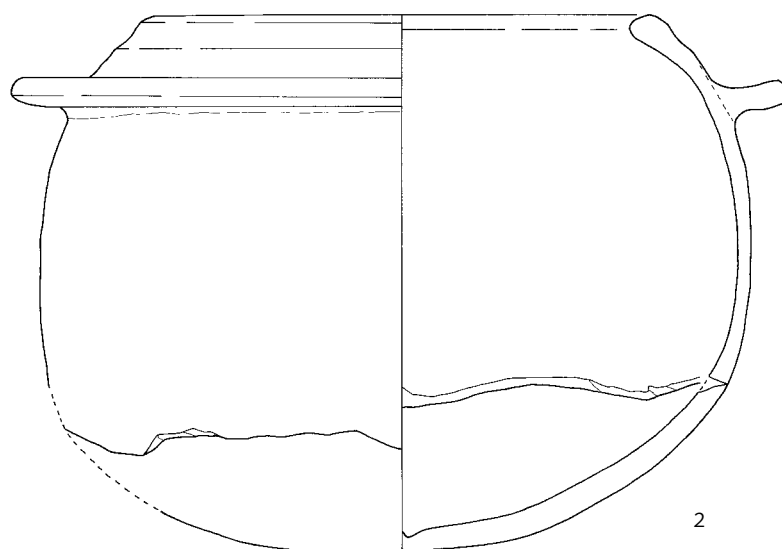
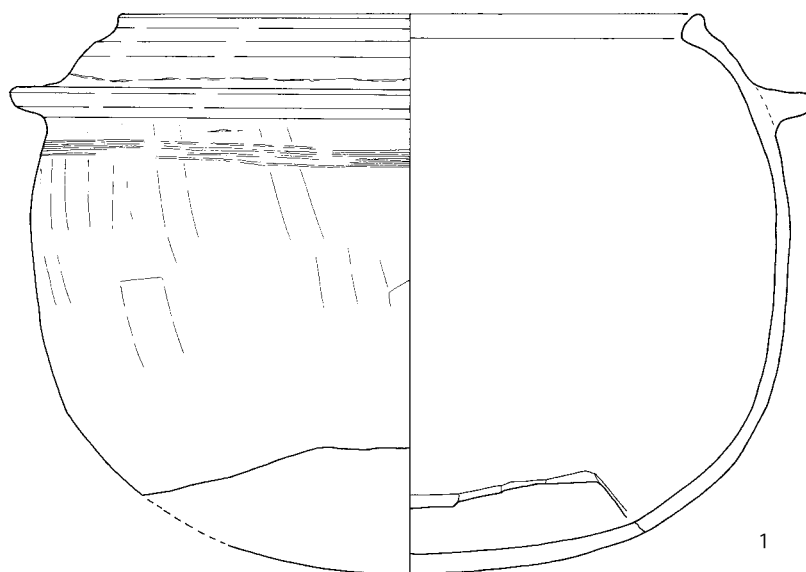
9040 井戸 調査区東半部北辺において検出した遺構である。平面形状は円形に復元できる。直径は長径 1.8 m、断面形状は凸形で最大深度は 0.5 m を測る。埋土は灰色シルトを主体とする。埋土から瓦質土器三足釜（第 166 図 12）と瓦器椀（第 166 図 10）が出土した。

9185 井戸 調査区中央南辺において検出した遺構である。平面形状は不定形、一部は調査区外へと続く。東西方向にある長径は 1.4 m、短径は 1.0 m を測る。断面形状は椀形、最大深度は 0.7 m である。埋土



- | | | | |
|----|------------|--------|---|
| 1) | 7.5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粗砂混じりシルト |
| | 7.5Y4/1 | 灰色 | 粘土ブロック 10% 程度含む 径 0.5cm 未満の礫少量入る 締まり悪い |
| 2) | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色 | 粗砂混じりシルト 径 1cm 未満の礫少量入る |
| 3) | 7.5Y4/1 | 灰色 | 細砂 締まり悪い |
| 4) | 5Y5/1 | 灰色 | 粗砂～細砂 土器片入る |
| 5) | 10Y4/1 | 灰色 | シルト質細砂 締まり悪い |
| 6) | 10Y5/1-4/1 | 灰色 | 細砂 10Y3/1 オリーブ黒色 シルトブロック 10% 程度含む 締まり悪い |

第 164 図 10-1-9 区 第 6 遺構面 9030 井戸平面断面図



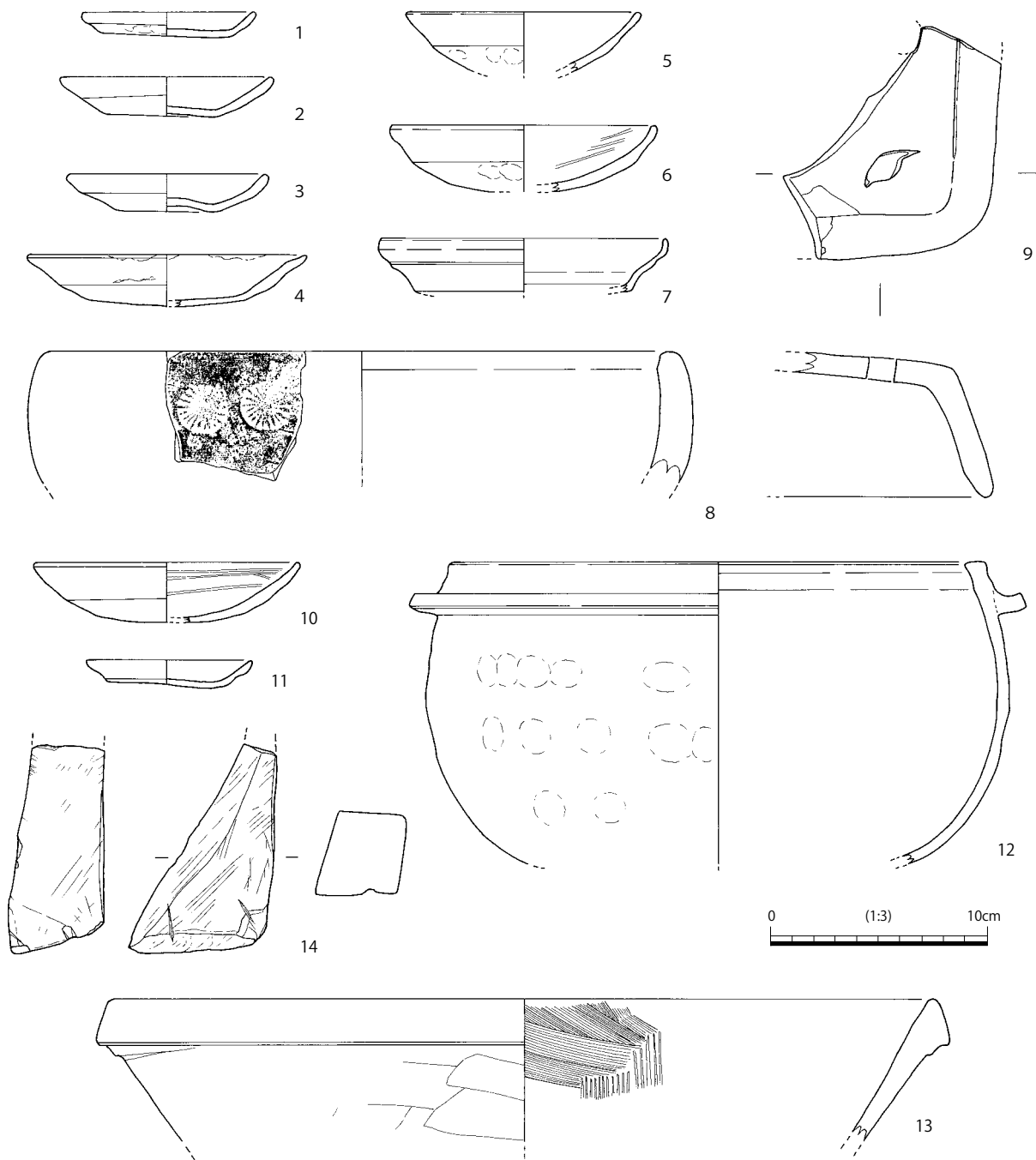
第 165 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9030 井戸出土遺物実測図

は暗灰色シルトを主体とする。掘り方の中央からは、曲物の側板を重ねた井戸枠が出土した。また、掘り方埋土からは、瓦質土器鉢（第 166 図 13）が出土した。

第 166 図 13 は、瓦質土器播鉢の口縁部である。外面調整はヘラケズリ、内面は斜め方向のハケ後、10 本 1 単位の播目を入れる。14 世紀の製品である。

9195 井戸 調査区東半部において検出した遺構である。南辺は 9130 井戸に切られている。検出し得た南北長は 1.8 m、東西幅は 1.5 m を測る。断面形状は皿形、最大深度は 0.2 m である。埋土は灰色粗砂混じりシルトを主体とする。遺構内からは、砥石が 1 点出土した（第 165 図 14）。

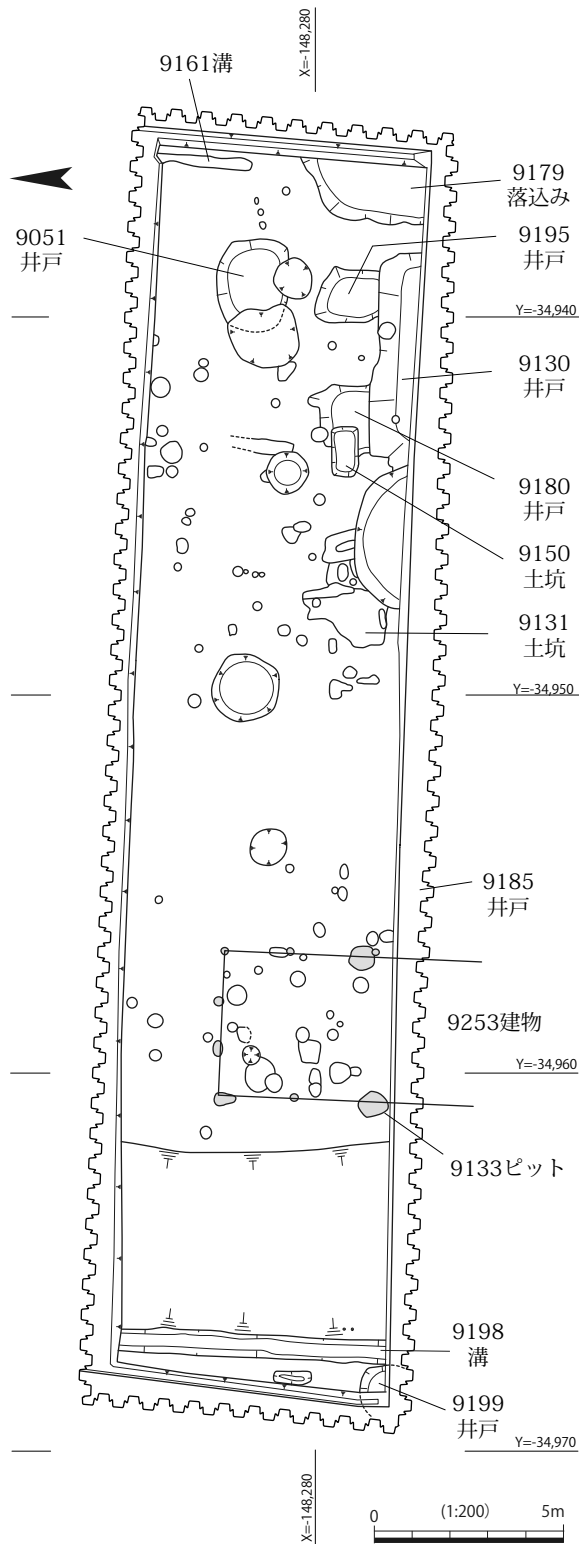
第 166 図 14 は、粘板岩性の砥石の破片である。一端は折損する。研磨面は計 4 面であるが、うち 1 面が大きく磨り減っている。一部に刃物痕跡が残る。仕上げ砥石である。



第 166 図 10-1-9 区 第 6 遺構面遺構内出土遺物実測図

第7遺構面（第167図） 中世包含層である第6層を除去した段階で検出した遺構面である。この面では、多くのピットと井戸、落込みを検出した。遺構面の時期は中世前葉～中葉である。

9051井戸 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状は長円形、長径2.4m、短径2.2mを測る。断面形状は皿形、最大深度は0.18mである。埋土は、灰色シルト質粗砂に灰オリーブ色細砂ブロックが少量混じる。軟質でしまりが悪い。埋土から、瓦器椀（第168図4）が出土した。



第167図 10-1-9区 第7遺構面全体図

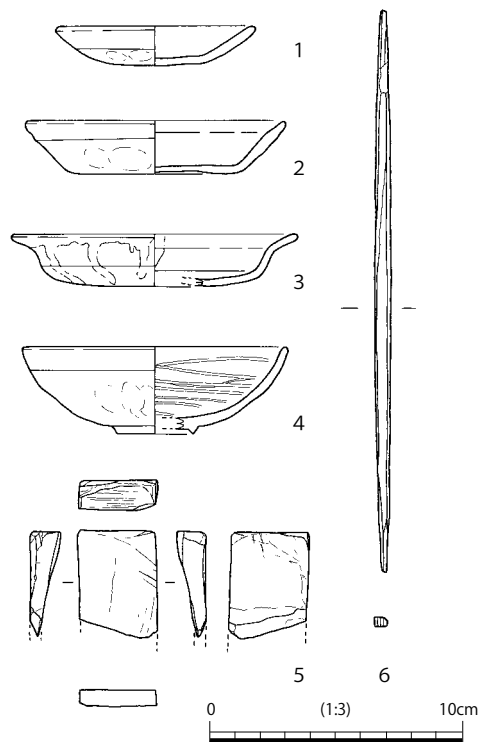
第168図4は、楠葉型の瓦器椀である。外面調整はナデ、内面には疎らなミガキを施す。13世紀の製品である。

9179落込み 調査区南東隅において検出した落込みである。南北長3.2、東西幅1.5m以上の規模をもつ。最大深度は0.25mを測る。埋土から木製箸（第168図6）と鬼瓦（図版93-1）が1点出土した。

第168図6（図版112-3-2）は、ほぼ完存品である。中央部は方形、両端は細く尖らせて作る。用材はヒノキである。

図版93-1は、鬼瓦の脚または肩部。外面は細かい筒型工具の刺突により、鱗状に作る。

9180井戸 調査区東半部において検出した遺構である。平面形状は不定形、南側を9130井戸に切ら



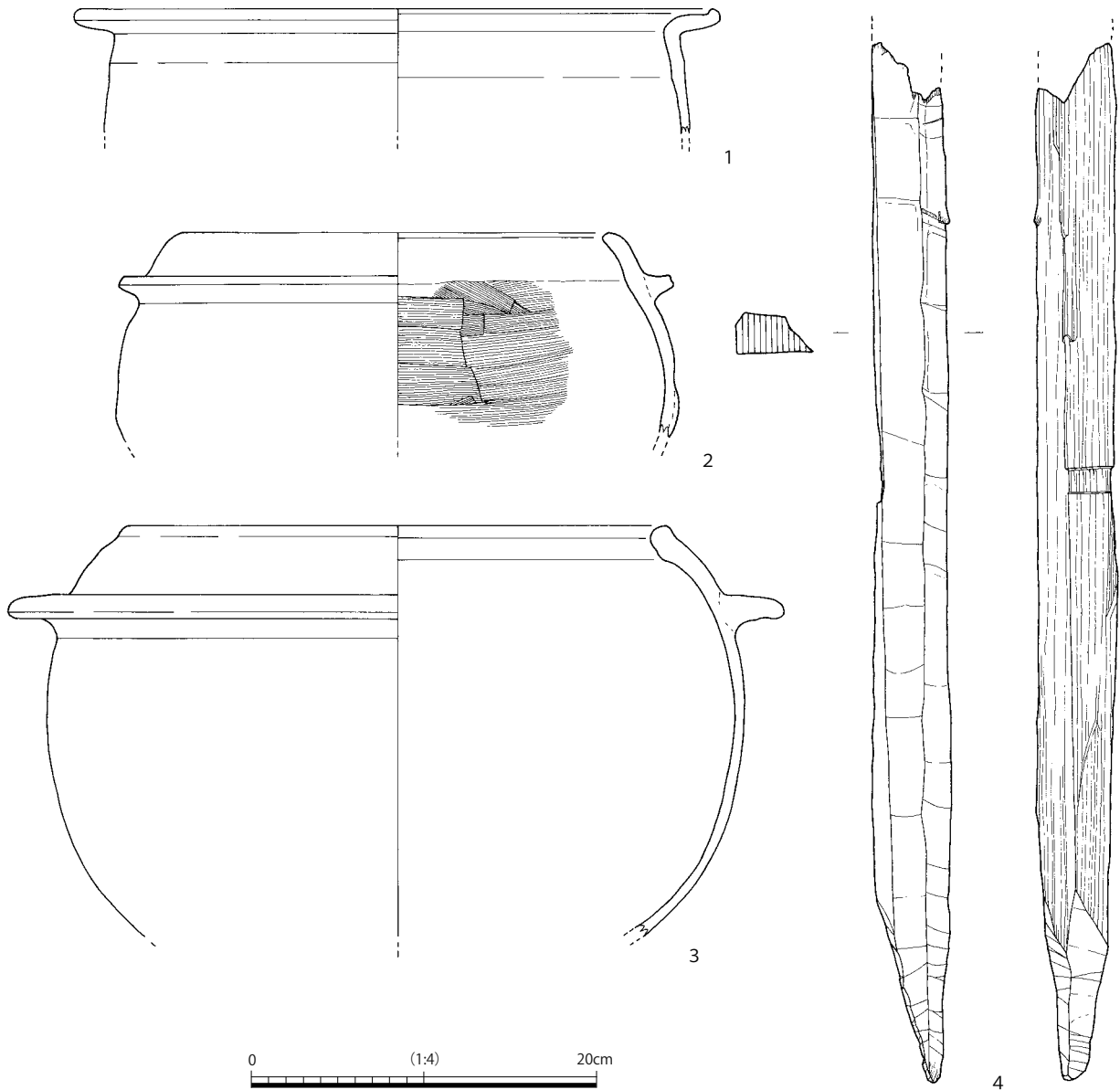
第168図 10-1-9区 第6層・第7遺構面
遺構内出土遺物実測図

れるが、西側では 9150 土坑を切る。検出南北長は 1.5 m、東西幅は 1.8 m を測る。断面形状は、いびつな形、最大深度は 0.32 m である。埋土は、オリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とする。埋土からは、土師器皿（第 168 図 1～3）が出土した。

第 168 図 1～3 は、すべて土師器皿である。1・2 は、底面から屈曲させて直線的に開く口縁部を作る。3 はさらに外方へ開く器形となり、口縁部に 2 段のナデを施す。内面には煤の付着がある。また外面には油滴が焦げ付いた痕跡が黒く筋状に残る。燈明皿である。12 世紀の製品である。

9253 建物 調査区西半部において検出した掘立柱建物である。確認した柱穴は 8 基であるが、さらに調査区外へと続く可能性がある。建物の規模は 3 間×2 間以上である。建物の主軸はほぼ南北方向である。このうち、西列を構成する 9133 ピットからは、柱根が出土した（図版 112-2-1）。用材はスギである。

第 7 遺構面出土遺物 第 169 図 1 は、土師質土器甕の口縁部である。口縁部は屈曲して外販し、蓋受けを作る。13 世紀の製品である。



第 169 図 10-1-9 区 第 7 遺構面出土遺物実測図

第 169 図 2 は、瓦質土器の三足釜である。丸みのある体部に短い鏝がつく。内面は横方向の細かいハケ調整、外面には煤が多量に付着する。14 世紀の製品である。

第 169 図 3 は、土師質土器の羽釜である。鏝の先端は、下方へ張り出す。内湾させた口縁部は肥厚し、丸くおさめる。14 世紀の製品である。

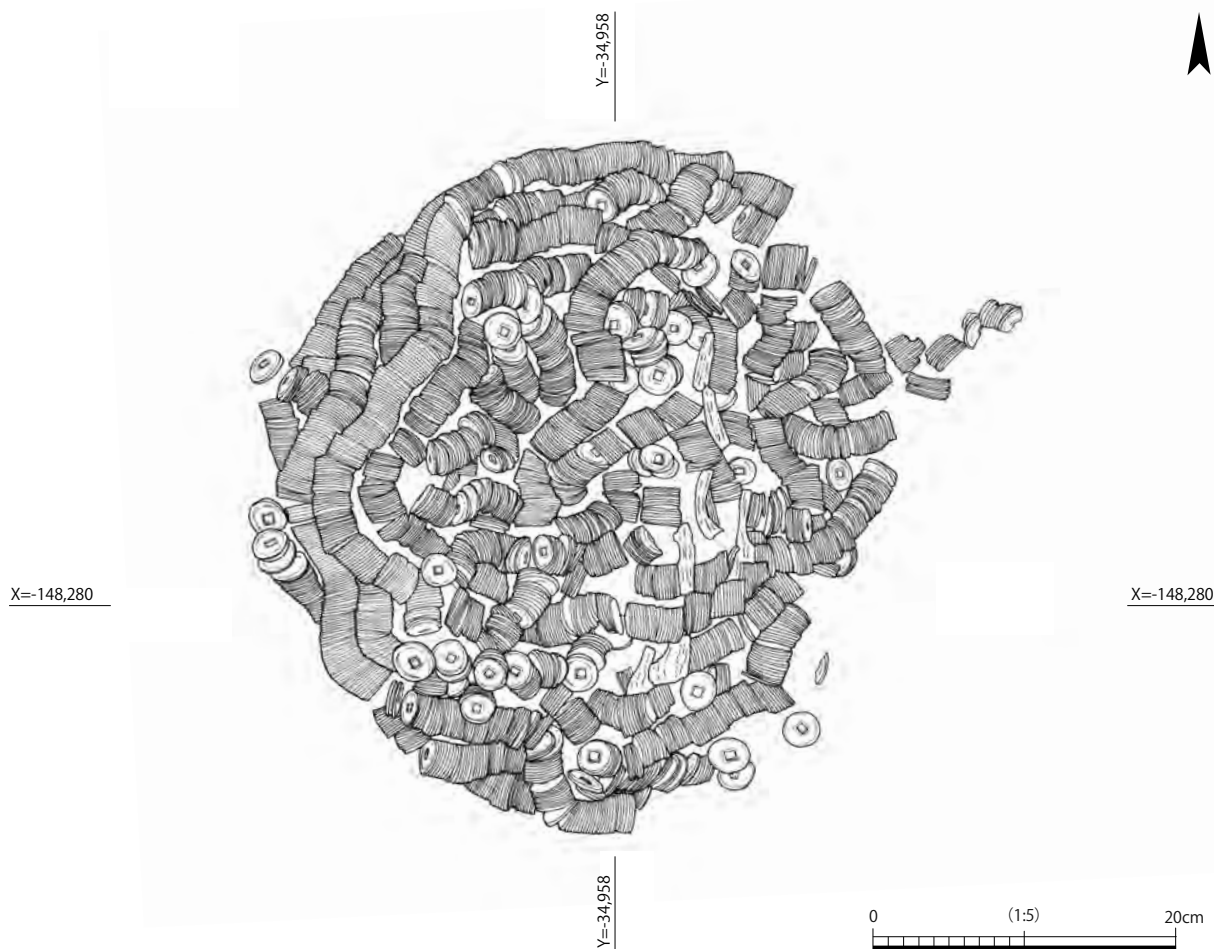
第 169 図 4 は、木製杭の先端部である。側面及び先端部を鋭く加工する。用材はスギである。

2. 銭貨埋納遺構

9023 土坑 10-1-9 区第 6 遺構面では、調査区西半部において、銭貨を埋納した土坑を検出した(9023 土坑)。この遺構は第 6 層を除去する段階で確認したが、それ以前にも周辺から 2 枚の銭貨の出土があった。このため表層に存在した銭貨は、後世の攪乱を受け、ある程度、上層に巻き上げられた可能性が高い。また、調査の着手前には 9023 土坑の東側に調査区支保用の鋼立杭が圧入されたため、周辺の土壌が引きずられて沈み込む現象がおこった。土坑 9023 も埋納された銭貨ごと東側半分が地中に引き込まれており、銭貨は、大きく東下方へ傾いた状態で発見された。

そのような状況下であったが、15,390 枚の銭貨は拡散することなくまとまって出土した。今回報告する銭貨は、この枚数に上層から出土した 2 枚の銭貨を合わせた、合計 15,392 枚についてである。

銭貨は南北長 0.45 m、東西幅 0.42 ~ 0.5 m を測るいびつな円形の範囲におさまって出土した。東西幅のブレは、上述の通り鋼立杭の影響によって引き込まれた銭貨があるためで、これを除くとおよそ



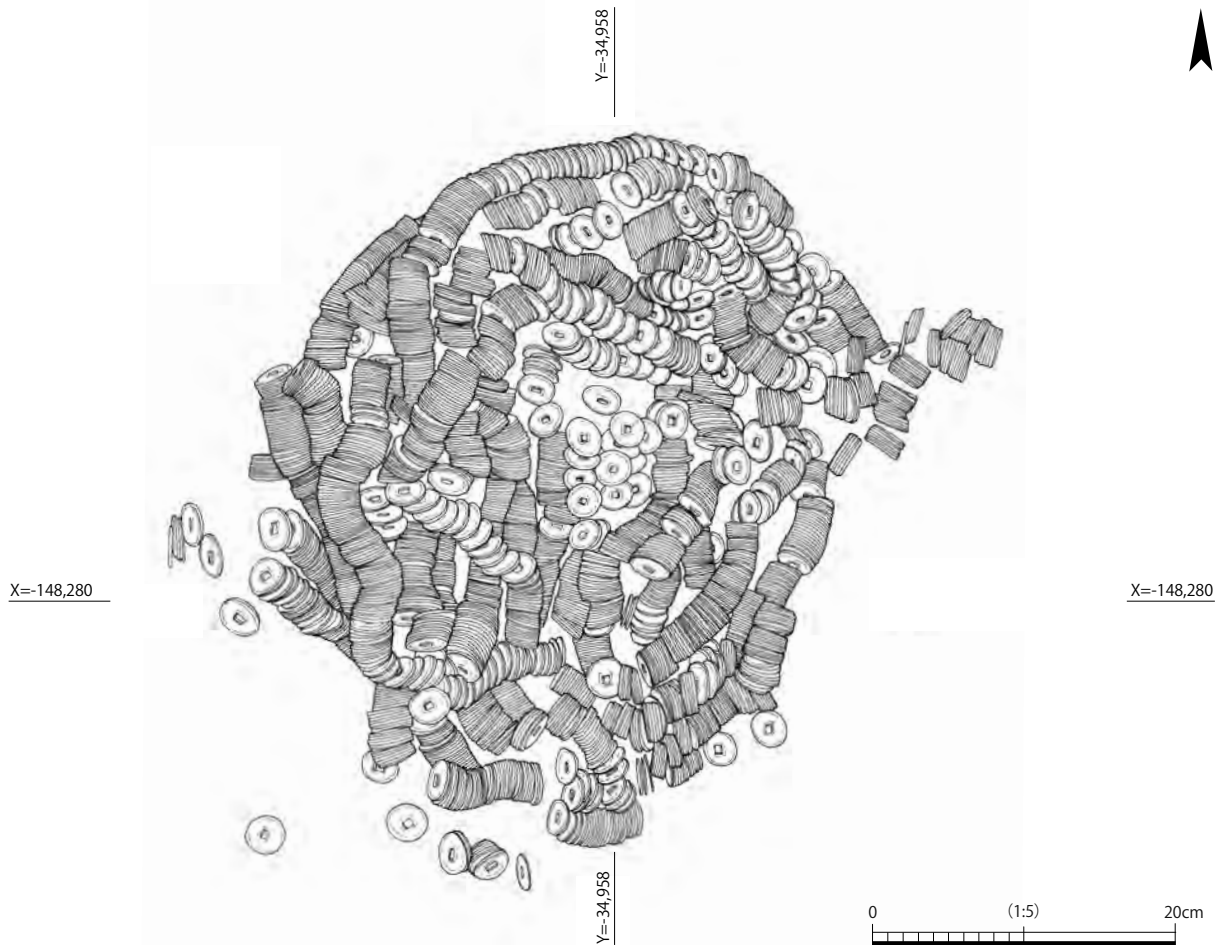
第 170 図 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑銭貨出土状況図 1

直径 0.45 m 程度の円形の中におさまる規模となる。

発見当初、銭が円を描いて出土したことについて、曲物や桶等におさめて埋められ、後にこれが腐食し、消滅したのではないかとの推測があった。しかし、ごく近隣の層内からは曲物を転用した井戸杵が完存して出土していることから、周辺は木質遺物が残りやすい環境下にあるといえる。このため、銭を入れた曲物や桶のみが消滅したとは考えにくい。また、銭の緡^{さし}が全く残っていないことから、布製の袋に入れて地中に埋め、後にこれが腐食して緡とともに消滅したのではないかとの推察も掲げられたが、銭をすべて取り上げた段階においても、その証拠となるような積極的な物証を得ることはできなかった。このため現時点では、緡に通された銭は裸のまま地中に穴を掘って埋められた可能性を考えている。

9023 土坑は、第 6 遺構面ではその掘り方を見出すことができなかった。また、遺構周辺にサブトレンチを設定して掘削を試みたが、やはり遺構の断面形状を確認できなかった。しかし、銭をすべて取り除き、遺構埋土を周辺の土ごと断ち割って確認したところ、掘り方の底面のみをようやく確認することができた。つまり銭貨は、直径 0.45 m の土坑を掘り、その平面形状に合わせて渦を巻くように、隙間なくおさまられたと考えられる。但し、銭貨の表面に細い木片が残ることから、籠や笊等の編物がかぶせられていた可能性はある。

9023 土坑掘り方の断面形状は椀形で、銭表面からの最大深度は 0.35 m である。埋土は、灰オリーブ色粗砂混じりシルトを主体とする。



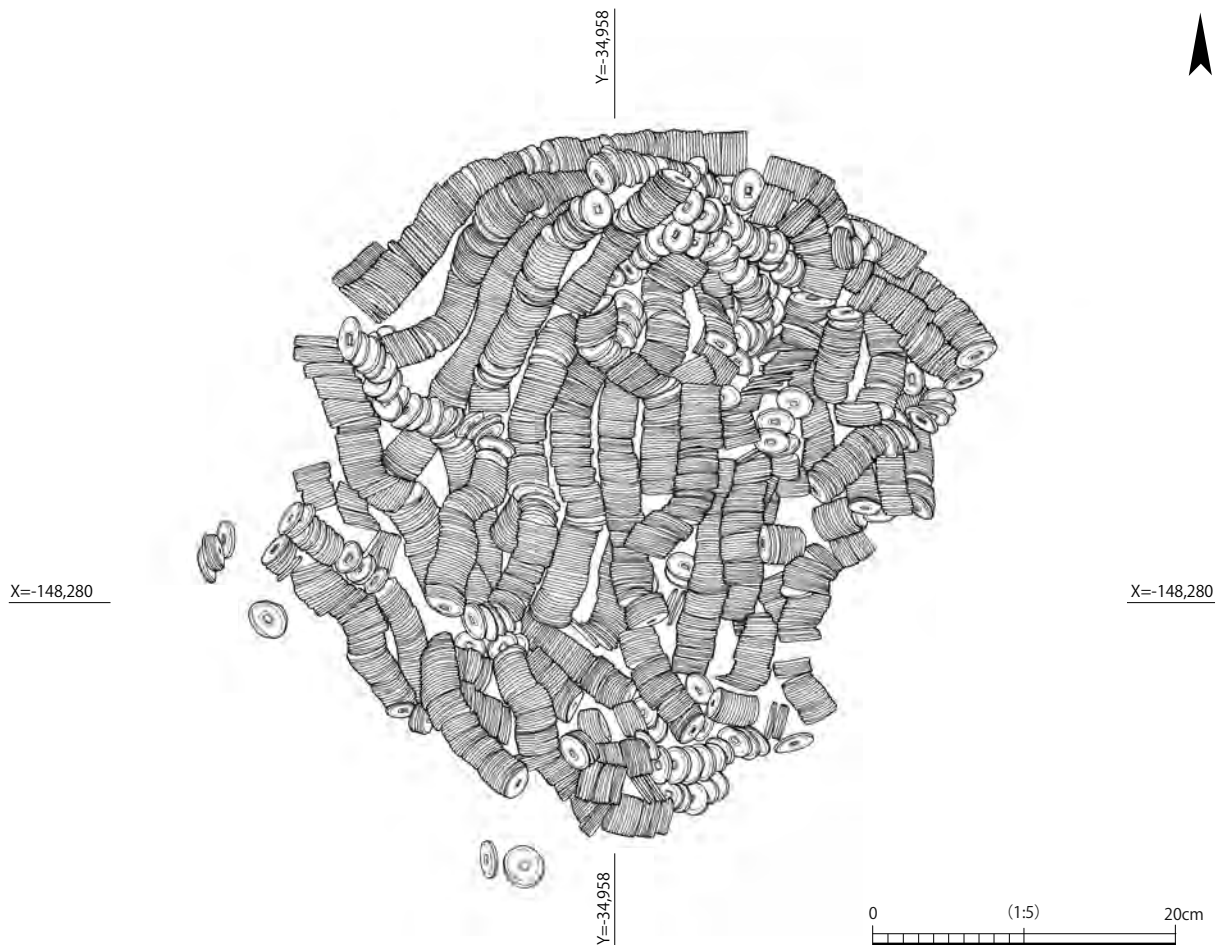
第 171 図 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑銭貨出土状況図 2

出土銭貨の埋納状況 上述の通り、銭貨は列を成し、渦を巻くような状態で発見された（第170図）。銭孔に紐状の緋を通した緋銭の状態で見られたと考えられる。但し、緋は全く残存していない。

銭貨は、大きく3つのまとまり（層位）に分かれている。出土時に見えていた銭は、緋が円を描くようにおさまられている。この状態で見える銭をすべて取り除くと、その下層に再び銭の層が現れた（第171図）。この段階では、緋銭は土坑の縁辺に沿って円を描くようにおさまった後、中央部分にバラ銭を置いている。さらにこの段階で見える銭をすべて取り除いたところ、今度は中央部分の緋銭が南北方向に揃う状態でおさまられた銭を確認することができた（第172図）。緋が全く残っていない状況であるため、「貫」や「結」等、どこまでが銭のまとまりであるかは判断しがたいが、少なくとも全ての銭をまとめて土坑に放り込んだわけではないようである。

なお、今回出土した銭貨は、確認しうる限り連続して連なるまとまりごとに取り上げた。しかしその枚数は42枚～173枚までとばらつきがあり、何枚の銭が一緋として数えられていたかは判別が難しい。

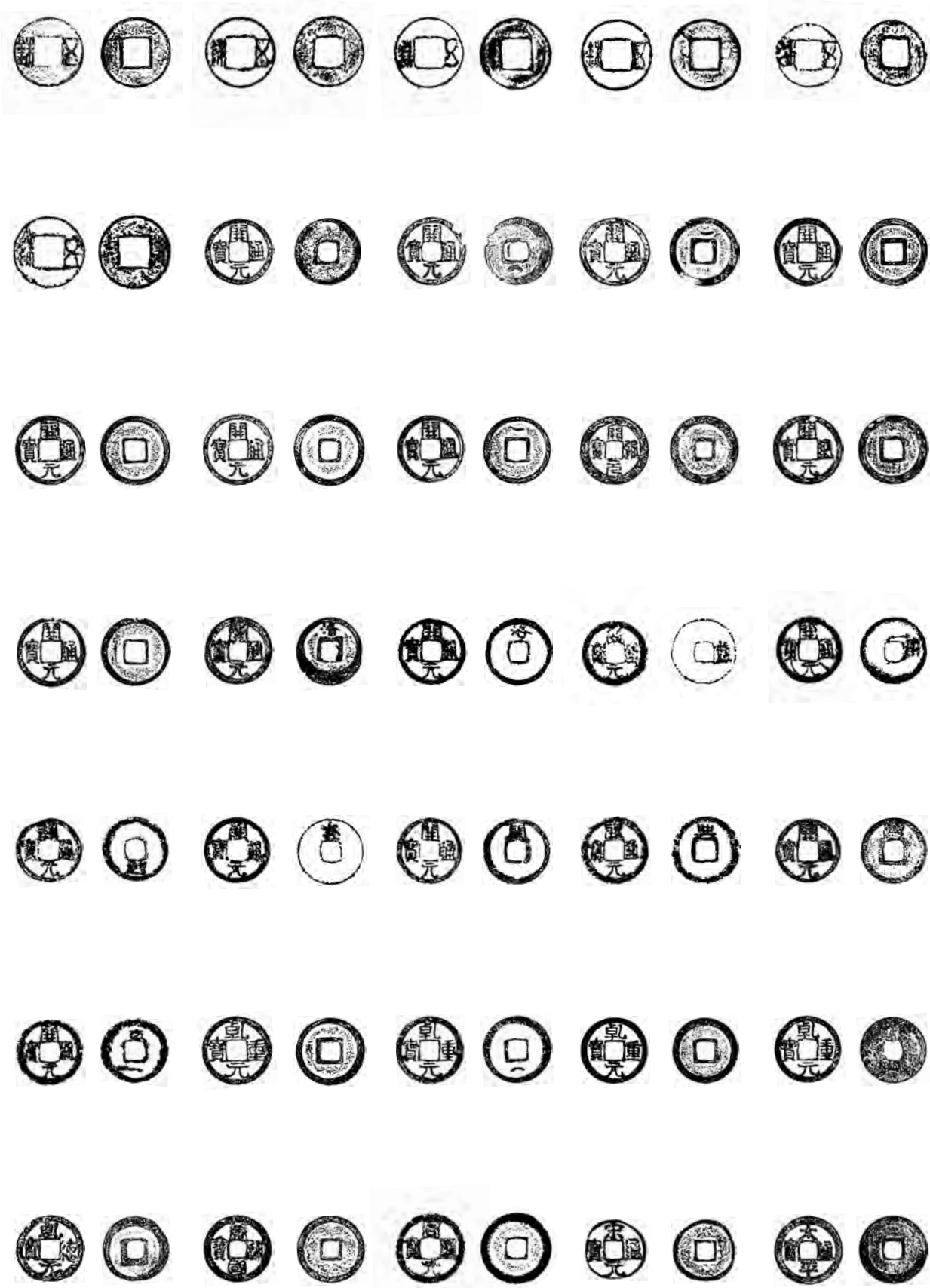
出土銭貨の種類 今回出土した銭貨は、90種類15,392枚に及ぶ。全て中国銭であるが、日本で铸造されたのではないかと推測されるいわゆる島銭や無文銭も含まれている。必ずしも銭種によって選別がなされてはいないようである。銭の铸造年代から見ると、最も古いものは五銖銭、最も新しいものは元国の至大通宝（1308～1311年铸造）である。9023土坑を検出した第6遺構面の時期は、14世紀中頃～後半であるため、至大通宝は比較的早い段階で入手され、埋納されたこととなる。



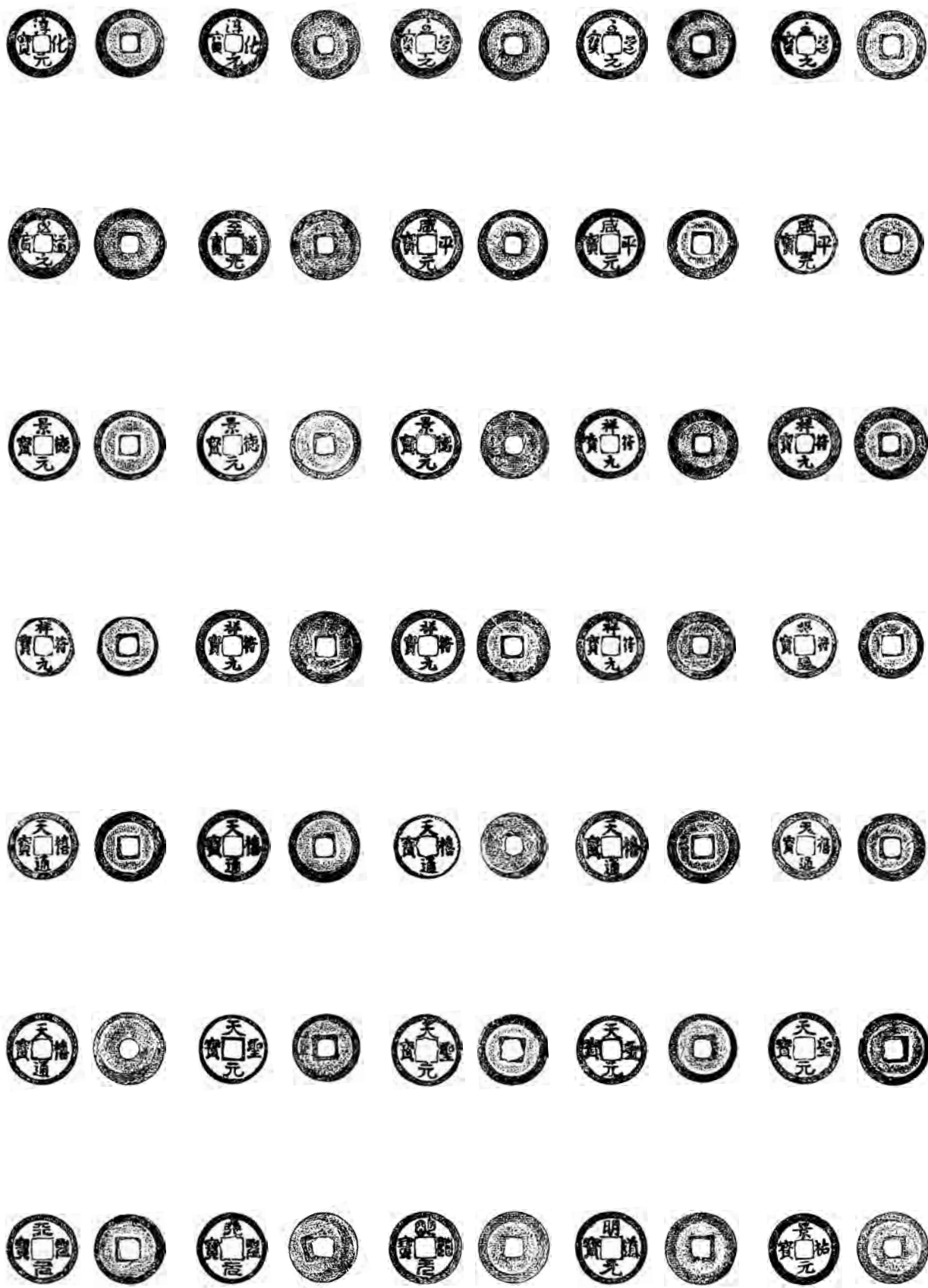
第172図 10-1-9区 第6遺構面9023土坑銭貨出土状況図3

第 173 図～第 181 図には、今回出土した銭貨拓影のうち、すべての種類について掲載した。同じ銭種であっても書体に違いがあるもの、背面に文字や記号があるもの、特徴があるものも並べて図示した。以下、銭種ごとに列記しておく。

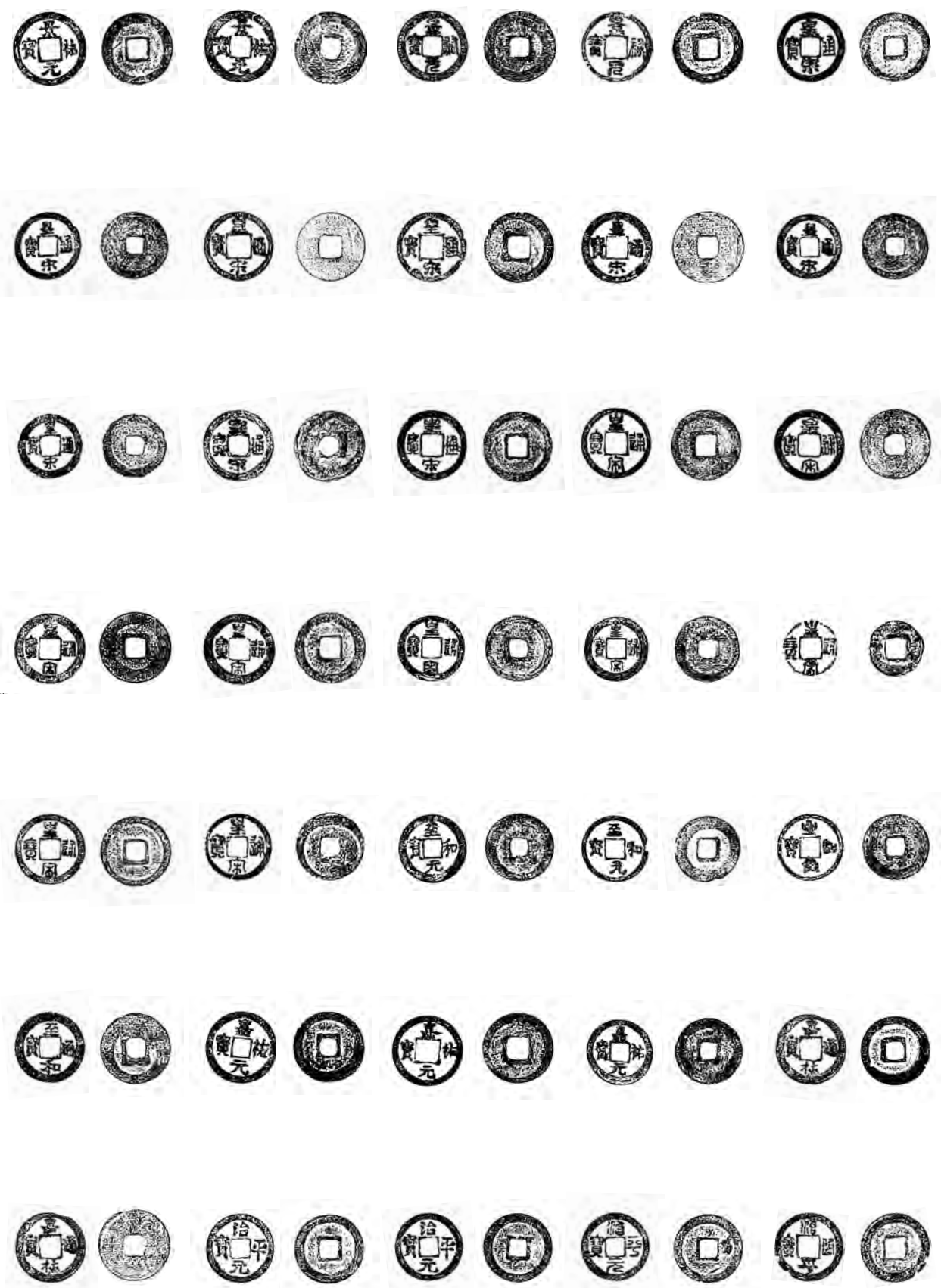
- ①隋以前の銭貨 五銖銭〔铸造年代 581～617 年〕計 11 点出土。
- ②唐の銭貨 開元通宝〔846-859〕〔618～626〕楷書、篆書あわせて、1,384 枚出土。
背面に記号や文字あり「洛」「藍」「荆」「越」「哀」「潤」「興」。
乾元重宝〔762-779〕楷書のみ、73 枚出土。
- ③五大十国時代の銭貨 前蜀国 乾徳元宝〔901-925〕9 枚出土。
南唐国 唐国通宝〔937-975〕16 枚出土。
後周国 周通元宝〔951-960〕1 枚出土。
- ④北宋の銭貨 宋通元宝〔968-975〕楷書のみ、67 枚出土。
太平通宝〔976-983〕楷書のみ、159 枚出土。
淳化元宝〔991〕楷書・草書あわせて、158 枚出土。
至道元宝〔995-997〕楷書・篆書・行書あわせて、146 枚出土。
咸平元宝〔998-1003〕楷書のみ、262 枚出土。
景德元宝〔1004-1007〕楷書のみ、351 枚出土。
祥符元宝〔1008〕楷書のみ、395 枚出土。
祥符通宝〔1008〕楷書のみ、395 枚出土。
天禧通宝〔1017-1021〕楷書のみ、202 枚出土。
天聖元宝〔1023〕楷書・篆書あわせて、739 枚出土。
明道元宝〔1032〕楷書・篆書あわせて、59 枚出土。
景祐元宝〔1034〕楷書・篆書あわせて、239 枚出土。
皇宋通宝〔1039〕楷書・篆書あわせて、2,097 枚出土。
至和元宝〔1054〕楷書・篆書あわせて、196 枚出土。
嘉祐元宝〔1056-1063〕楷書のみ、157 枚出土。
嘉祐通宝〔1056-1063〕楷書のみ、372 枚出土。
治平元宝〔1064-1067〕楷書・篆書あわせて、291 枚出土。
治平通宝〔1064-1067〕楷書・篆書あわせて、59 枚出土。
熙寧元宝〔1068〕楷書・篆書・行書あわせて、1,489 枚出土。
元豊通宝〔1078〕篆書・行書あわせて、1,778 枚出土。
元祐通宝〔1093〕篆書・行書あわせて、1,418 枚出土。
紹聖元宝〔1094-1098〕篆書・行書あわせて、598 枚出土。
紹聖通宝〔1094-1098〕篆書、1 枚出土。
元符通宝〔1098-1100〕篆書・行書あわせて、294 枚出土。
聖宋元宝〔1101〕篆書・行書あわせて、576 枚出土。
大観通宝〔1107〕楷書のみ、169 枚出土。
宣和通宝〔1119-1125〕篆書・行書あわせて、567 枚出土。
- ⑤南宋の銭貨 建炎通宝〔1127-1130〕行書のみ 8 枚出土。



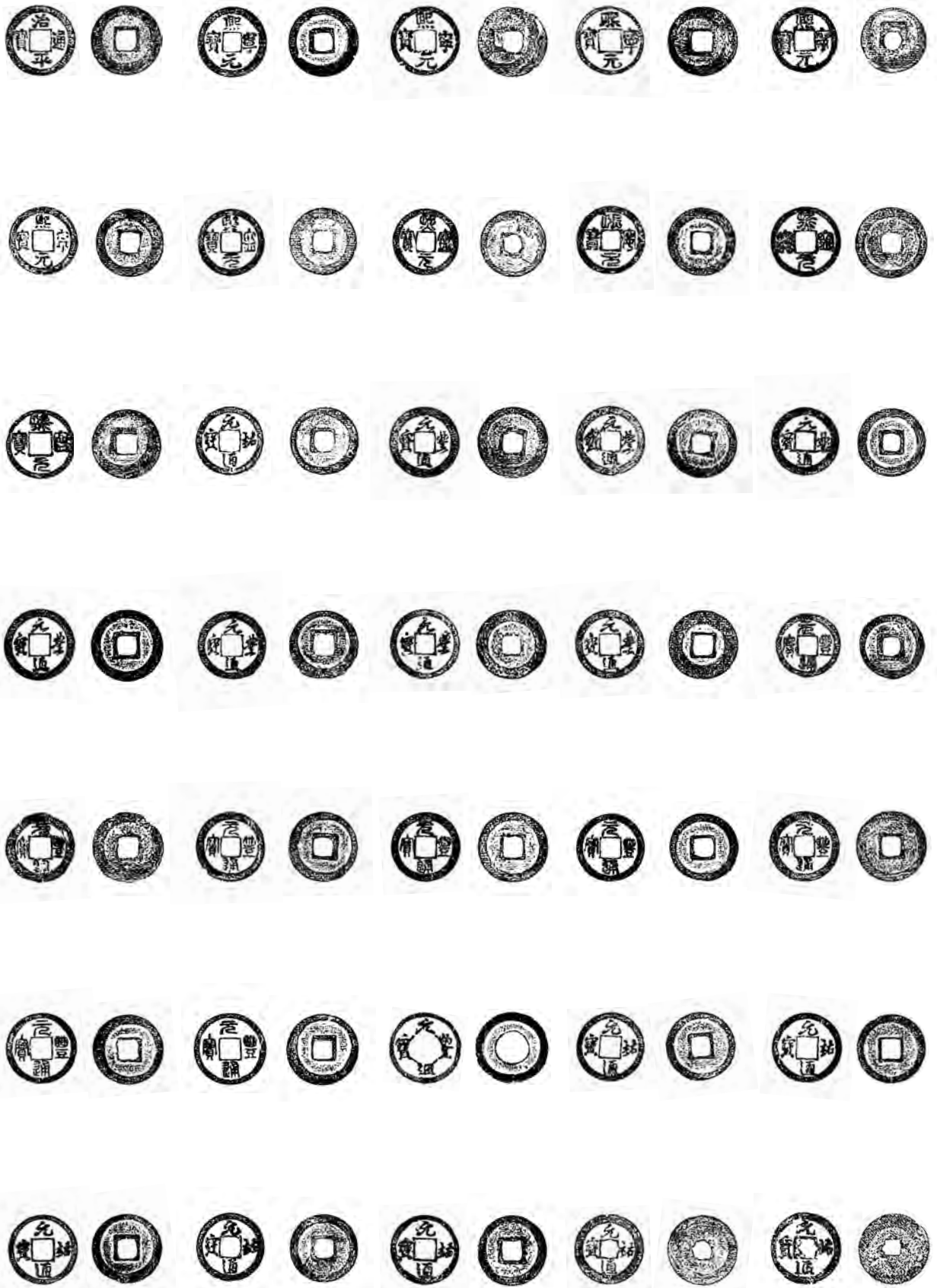
第 173 圖 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 1



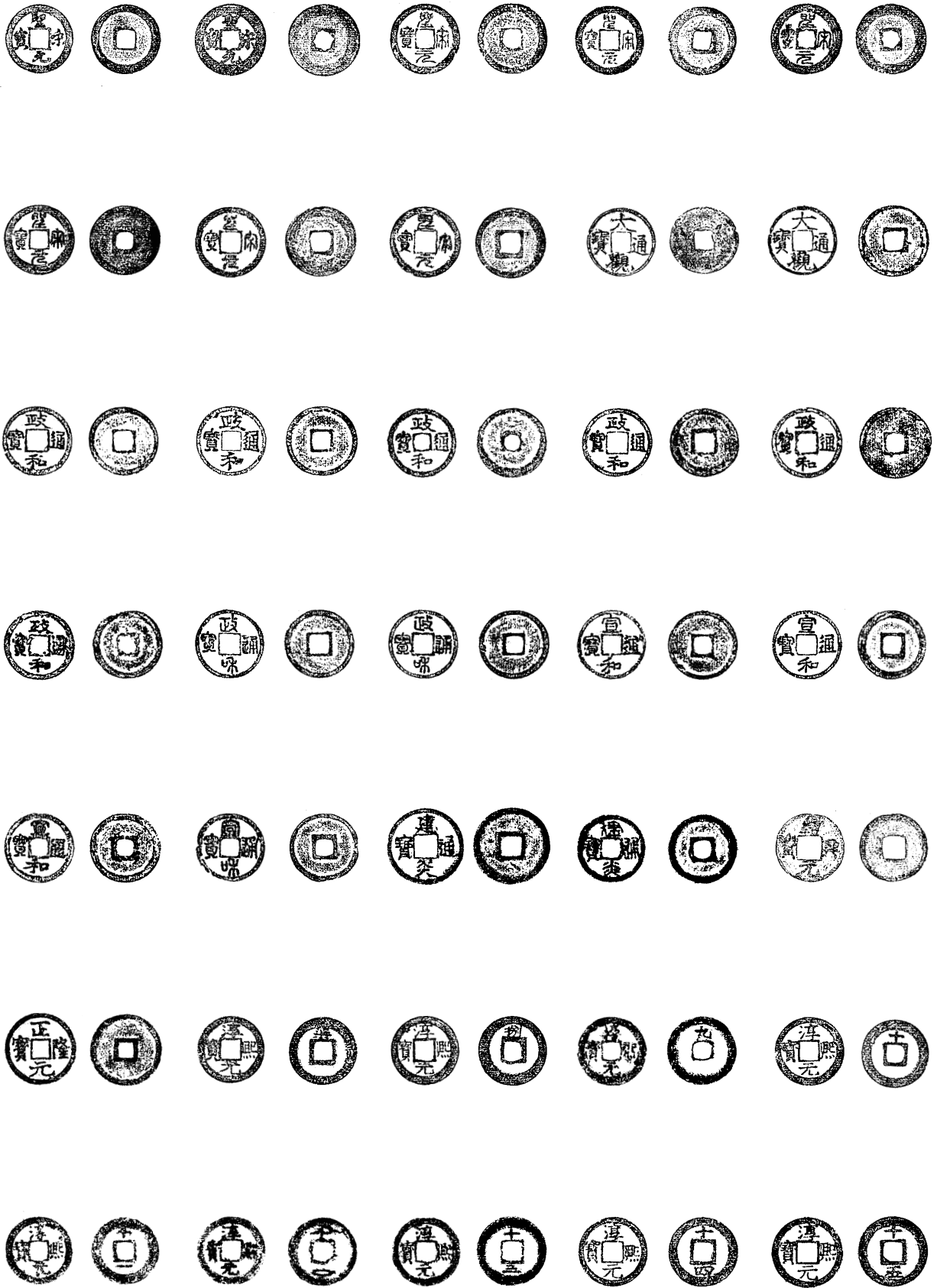
第 174 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 2



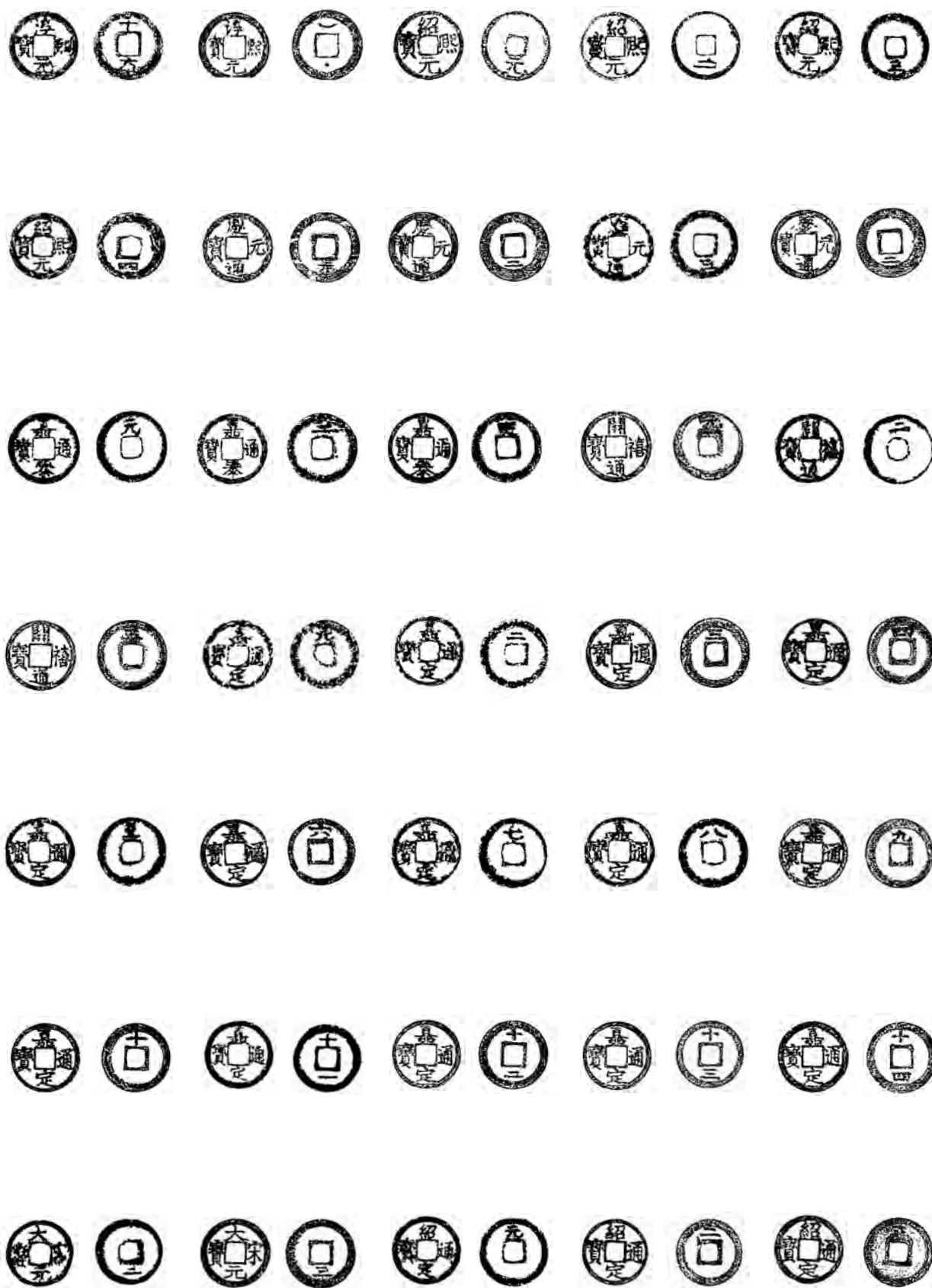
第 175 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 3



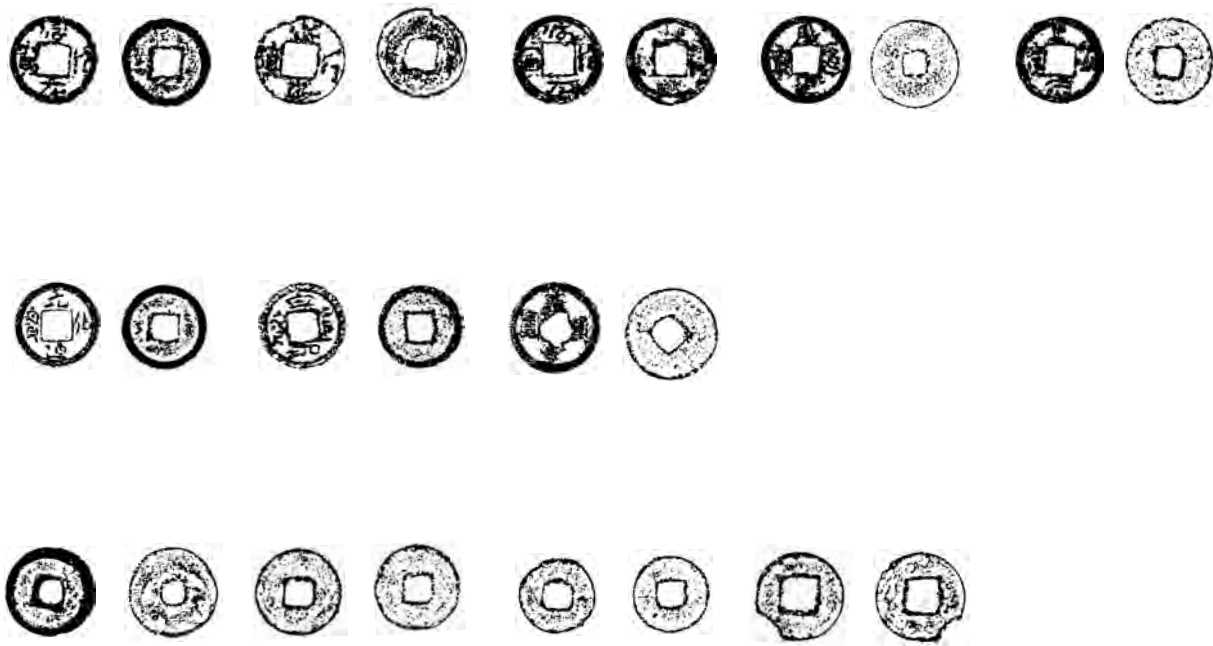
第 176 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 4



第 178 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 6



第 179 图 10-1-9 区 第 6 遺構面 9023 土坑出土錢貨 7



第 181 図 10-1-9区 第6遺構面 9023 土坑出土銭貨 9

- 紹興元宝〔1131〕 行書のみ、12 枚出土。
 正隆元宝〔1157〕 行書のみ、10 出土。
 淳熙元宝〔1174〕 行書のみ、100 枚出土。
 紹熙元宝〔1190〕 行書・篆書あわせて 34 枚出土。
 慶元通宝〔1195〕 行書・篆書あわせて 36 枚出土。
 嘉泰通宝〔1201〕 行書・篆書あわせて 26 枚出土。
 開禧通宝〔1205〕 行書・篆書あわせて 9 枚出土
 嘉定通宝〔1208〕 行書・篆書あわせて 92 枚出土。
 大宋元宝〔1228〕 行書・篆書あわせて 6 枚出土。
 紹定通宝〔1228〕 行書・篆書あわせて 30 枚出土。
 瑞平元宝〔1234〕 行書・篆書あわせて 3 枚出土。
 嘉熙通宝〔1237〕 行書・篆書あわせて 6 枚出土。
 淳祐元宝〔1241〕 行書・篆書あわせて 25 枚出土。
 皇宋元宝〔1253〕 行書・篆書あわせて 14 枚出土。
 開慶通宝〔1259〕 行書のみ 1 枚出土。
 景定元宝〔1260〕 行書・篆書あわせて 24 枚出土。
 咸淳元宝〔1265〕 行書・篆書あわせて 29 枚出土。
 至大通宝〔1309〕 楷書のみ 3 枚出土。
 天盛元宝 楷書のみ 1 枚出土。
 (鳥銭) 9 枚出土。(無文銭) 9 枚出土。
 (不明) 3 枚出土。

- ⑥元の銭貨
 ⑦西夏の銭貨
 ⑧日本の銭貨

第4章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

1. 分析の目的

今回の調査では、瓜生堂遺跡及び岩田遺跡において、弥生時代前期から中世までの遺構面及び堆積層序を確認した。但し、調査面積が限られていること、また遺物を含まない層も多く認められることから、どのような条件下において形成された層であるのかを把握できていないものも多い。

瓜生堂遺跡では、これまでに「亜泥炭」とも呼ばれる暗色帯が累重する層準が確認されている。これらは有機物・植物遺体薄層が何枚も挟在する地層であり、河内湖の水位上昇に伴って湿原化して堆積したと評価されているが、その年代については、弥生時代後期～古墳時代前期と推定されるのみであり、詳細は不明な点が多い。

一方、瓜生堂遺跡東部には、「亜泥炭」の累重する層準からその上位にかけて、大和川の分流路である「若江分流路」の堆積物が存在することが知られている。この流路の流れ始める時期は正確には不明であり、漠然と古墳時代前期頃と推定されていた。しかし、これはその上流部である「小阪合分流路」の流れ始める時期とは齟齬を生じており、詳しい検討が必要とされる場所である。さらに、今回の調査では、10-1-6区より「亜泥炭」に対比される層準から2時期の水田が検出されたが、これらと流路堆積物のとの関係が明確ではない。

このため、今回の調査では、瓜生堂遺跡と岩田遺跡の双方の調査区から「亜泥炭」を採取し、放射性炭素年代測定を行うことにより、その実年代を明らかにすることを試みた。瓜生堂遺跡の「亜泥炭」層や岩田遺跡の有機物薄層・水田作土層に含まれる植物遺体の年代を知ることにより、当遺跡周辺の堆積環境・土地利用変遷を明らかにするための手がかりとしたい。

2. 試料と分析方法

測定試料の情報、調製データは表4のとおりである。いずれも現地でブロック状に採取された堆積物のサンプルより、木の根を避けるべく、葉や種実を優先して抽出した。葉や種実が確認できなかった場合は炭化材を試料とした。

10-1-2区より採取した試料は、計4点である（試料No. 2-2, 2-4, 2-5, 2-6）。

試料No. 2-2 (PLD-19426) は、調査区Bの第7層より採取した部位不明炭化材である。試料No. 2-3 (PLD-19427) は、第8層より採取した部位不明炭化材である。試料No. 2-5 (PLD-19428) は、第13層上部より採取した葉及び炭化種実の破片である。試料No. 2-6 (PLD-19429) は、第14層上部より採取した葉である。

10-1-6区より採取した試料は、計2点である（試料No. 6-1, 6-2）。

試料No. 6-1 (PLD-19430) は、第8層より採取した部位不明炭化材である。試料No. 6-2 (PLD-19431) は、第10層より採取した部位不明炭化材である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表4 放射性炭素年代測定試料内容一覧

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-19426	試料No. 2-2 調査区: 10-1-2 遺跡名: 瓜生堂遺跡 層位: 第7層	試料の種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-19427	試料No. 2-3 調査区: 10-1-2 遺跡名: 瓜生堂遺跡 層位: 第8層	試料の種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-19428	試料No. 2-5 調査区: 10-1-2 遺跡名: 瓜生堂遺跡 層位: 第13層上部	試料の種類: 葉、炭化種実破片 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-19429	試料No. 2-6 調査区: 10-1-2 遺跡名: 瓜生堂遺跡 層位: 第14層上部	試料の種類: 葉 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-19430	試料No. 6-1 調査区: 10-1-6 遺跡名: 岩田遺跡 層位: 第8層	試料の種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)
PLD-19431	試料No. 6-2 調査区: 10-1-2 遺跡名: 岩田遺跡 層位: 第10層	試料の種類: 炭化材 試料の性状: 不明 状態: wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N)

表5 放射性炭素年代測定結果及び暦年較正結果一覧

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-19426 試料No. 2-2	-25.41 \pm 0.17	1846 \pm 20	1845 \pm 20	130AD (45.0%) 178AD 189AD (23.2%) 213AD	90AD (2.9%) 101AD 124AD (92.5%) 235AD
PLD-19427 試料No. 2-3	-26.27 \pm 0.17	1849 \pm 20	1850 \pm 20	129AD (45.4%) 177AD 189AD (22.8%) 213AD	86AD (5.3%) 106AD 121AD (90.1%) 235AD
PLD-19428 試料No. 2-5	-26.58 \pm 0.17	1870 \pm 21	1870 \pm 20	83AD (51.5%) 140AD 155AD (8.0%) 169AD 195AD (8.7%) 209AD	79AD (95.4%) 217AD
PLD-19429 試料No. 2-6	-26.44 \pm 0.15	1912 \pm 20	1910 \pm 20	70AD (32.7%) 90AD 100AD (35.5%) 124AD	33AD (0.9%) 36AD 52AD (94.5%) 130AD
PLD-19430 試料No. 6-1	-24.11 \pm 0.13	1889 \pm 21	1890 \pm 20	81AD (68.2%) 129AD	64AD (91.7%) 175AD 193AD (3.7%) 211AD
PLD-19431 試料No. 6-2	-19.62 \pm 0.16	1851 \pm 21	1850 \pm 20	128AD (45.5%) 179AD 188AD (22.7%) 213AD	86AD (7.5%) 110AD 119AD (87.9%) 234AD

3. 測定結果

同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を表 5 に、暦年較正結果を第 181 図にそれぞれ示した。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載したものである。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は、以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

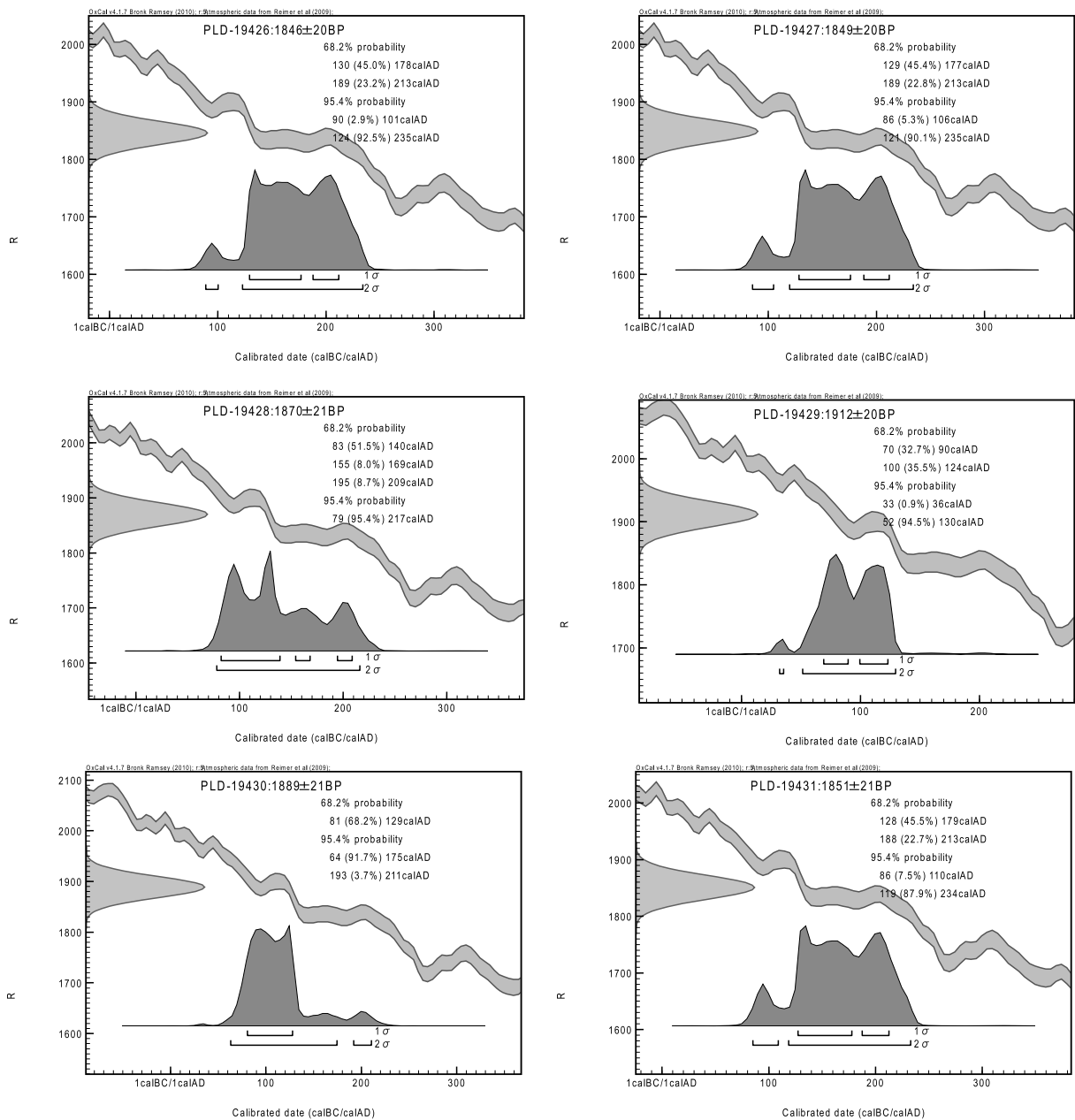
4. 考察

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) を基に結果を整理する。

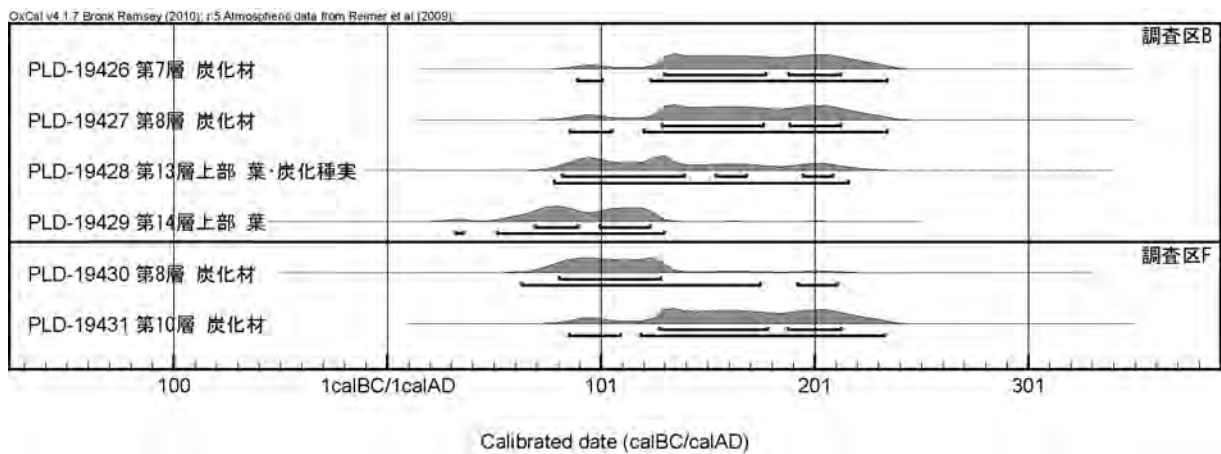
10-1-2 区では、第 7 層の炭化材 (試料 No. 2-2: PLD-19426) が、90-101 cal AD (2.9%) 及び 124-235 cal AD (92.5%) となり、1 世紀末～3 世紀前半の範囲を示した。第 8 層の炭化材 (試料 No. 2-3: PLD-19427) は、86-106 cal AD (5.3%) 及び 121-235 cal AD (90.1%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。第 13 層上部の葉・炭化種実 (試料 No. 2-5: PLD-19428) は、79-217 cal AD (95.4%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。第 14 層上部の葉 (試料 No. 2-6: PLD-19429) は、33-36 cal AD (0.9%) 及び 52-130 cal AD (94.5%) となり、1 世紀前半～2 世紀前半の範囲を示した。

10-1-6 区では、第 8 層の炭化材 (試料 No. 6-1: PLD-19430) は、64-175 cal AD (91.7%) 及び 193-211 cal AD (3.7%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。第 10 層の炭化材 (試料 No. 6-2: PLD-19431) は、86-110 cal AD (7.5%) 及び 119-234 cal AD (87.9%) となり、1 世紀後半～3 世紀前半の範囲を示した。

10-1-2 区と 10-1-6 区の試料はいずれも 1 世紀～3 世紀の範囲内で、これは小林 (2009) によると弥生時代後期に相当する。Sakamoto et al. (2003) や尾崎 (2009) で示されているように、1 世紀～3 世紀は欧米産樹木で作られた較正曲線 IntCal と日本産樹木との間に ^{14}C 年代の違いが認められている。すなわち、日本産樹木では IntCal よりも系統的に数十年古い ^{14}C 年代を示す。今回測定した



第 182 図 暦年較正結果



第 183 図 暦年代分布図

これら 6 点の暦年代範囲も、この問題を反映して真の年代より数十年古くなっている可能性が高い。

また木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の部分を測定すると最外部からの年輪分に応じて古い年代が得られる（古木効果）。今回測定した炭化材試料 4 点（試料No. 2-2、試料No. 2-3、試料No. 6-1、試料No. 6-2）についても、いずれも最外年輪の確認されていない試料であるため、古木効果の影響を考慮しておく必要がある。

【参考文献】

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82, 雄山閣.
- 中村俊夫 2000 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- 尾寄大真 2009 日本版校正曲線の作成と新たな課題. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 4-8, 雄山閣.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. 2009
IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP.
Radiocarbon, 51, 1111-1150.
- Sakamoto, M., Imamura, M., van der Plicht, J., Mitsutani, T. and Sahara, M. 2003
Radiocarbon Calibration for Japanese Wood Samples. *Radiocarbon*, 45(1), 81-89.

第 2 節 大型植物遺体分析

1. 分析の目的

今回の調査では、瓜生堂遺跡、岩田遺跡、花屋敷遺跡それぞれの調査区において、種子や木材などの大型植物遺体が出土した。これらの出土資料は、人為的な加工を受けてはいないものの、当時の生活環境や植生等を知る上では、有用なデータとなる。特に大径木が育ちにくい沖積低地に位置する今回の調査区では、食物や木質資源の入手状態が注視される場所である。今回は、遺構内から出土した種実や木材の樹種を主として同定し、当時の植物利用に関する資料を得る。

2. 試料と分析方法

10-1-1 区において採取した分析試料は、第 1 遺構面 1001 溝から出土した種実 1 試料 1 個（登録番号 432）、第 3 遺構面 1027 溝から出土した種実 1 試料 2 個（登録番号 501）、第 10 遺構面 1058 流路集石遺構から出土した木材 1 試料 4 個（登録番号 634）、第 15 遺構面から出土した種実 1 試料 2

個（登録番号 603）の計 9 個である。

10-1-2 区において採取した分析試料は、第 6 遺構面 2025 溝から出土した種実 1 試料 2 個（登録番号 358）、第 26 層中より出土した種実 1 試料 2 個（登録番号 474）の計 4 点である。

10-1-4 区において採取した分析試料は、第 4 遺構面 4025 溝最下層から出土した種実 1 試料 9 個（登録番号 386）である。

10-1-9 区において採取した分析試料は、第 5 遺構面 9004 井戸から出土した種実 1 試料 2 個（登録番号 256）、第 6 遺構面 9022 溝から出土した種実 1 試料 7 個（登録番号 101）、計 9 個である。

試料に含まれている種実については、大型植物遺体同定を行った。大型植物遺体同定は、まず試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本及び石川（1994）、中山ほか（2000）等との比較から、分類群と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、大型植物遺体を分類群毎に容器に移し、約 70% のエタノール溶液を入れて保管する。

また、木質資料については、樹種同定を行った。樹種同定の方法は、まず木材の形状・木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。作成したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にした。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考とした。

3. 大型植物遺体同定結果

裸子植物 1 分類群（針葉樹のマツ属複維管束亜属）3 個、被子植物 7 分類群（広葉樹のオニグルミ、クスノキ、ウメ、モモ、センダン、草本のトウガン、メロン類）24 個、計 27 個の大型植物遺体が同定された（表 1）。栽培種は、ウメの核が 1 個、モモの核が 5 個、トウガンの種子が 2 個、メロン類（マクワ・シロウリ型）の種子が 1 個の、計 9 個が確認された。以下に、大型植物遺体の遺跡別出土状況を記す。

弥生時代前期とされる登録番号 474 からは、落葉高木のオニグルミの核が 2 個（接合し 1 個体）確認された。弥生時代中期後半～後期とされる登録番号 603 からは、常緑高木のマツ属複維管束亜属の球果が 2 個確認された。中世とされる 4025 溝最下層（登録番号 386）からは、落葉高木のセンダンの核の破片が 5 個、種子が 4 個確認された。中世末期とされる 2025 溝（登録番号 358）と 1027 溝（登録番号 501）からは、栽培種のモモの核が各 2 個、計 4 個確認された。中世以降とされる 1001 溝（登録番号 432）からは、栽培種のモモの核が 1 個確認された。

中世とされる 9022 溝（登録番号 101）からは、栽培種のウメの核が 1 個、メロン類（マクワ・シロウリ型）の種子が 1 個と、常緑高木のマツ属複維管束亜属の球果が 1 個、クスノキの種子が 4 個、計 7 個が確認された。中世以後とされる 9004 井戸（登録番号 256）からは、栽培種のトウガンの種子が 2 個確認された。

本分析で確認された各分類群の写真を写真 30 に、デジタルノギスで計測した各個体の大きさ（長

さ、幅、厚さ)を表6に示し、形態的特徴等を以下に記す。

マツ属複維管束亜属 (Pinus subgen. Diploxylon) マツ科 球果は黒褐色、長さ3.5～5cm、2.2～2.4cm程度の円錐状広卵体。球果は木質で、長楕円状矩形の種鱗が覆瓦状、螺旋状に配列する。種鱗外面は不規則な四～五角形で肥厚し、横の稜線とその中央部に短く突起する臍点がある。瓜生堂遺跡の登録番号603は、2個とも表面が摩耗している(写真30-1,2)。花屋敷遺跡の登録本号101は、基部に柄が残る(写真30-12)。

オニグルミ (Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitamura) クルミ科
クルミ属 核は灰褐色、長さ2.7cm、径2.4cm程度の頂部が尖る広卵体。出土核は、1本の縦の縫合線に沿って割れた半分2個で、接合して1個体となる。縫合線上にネズミ類による食痕と思われる円形の孔がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある(写真30-3)。

クスノキ (Cinnamomum camphora (L.) Presl) クスノキ科ニッケイ属 種子は茶～灰黒褐色、長さ5.8～6.3mm、幅5.5～5.8mm、厚さ5.1～5.5mmの偏球体。頂部にやや突出する臍からはじまる低い稜があり、側面の途中で終わる。種皮は硬く表面は平滑または粗面、断面は柵状(写真30-13～16)。1個に食痕と思われる径1.05mmの円形の孔がある(写真30-13)

ウメ (Prunus mume (Sieb.) Sieb. et Zucc.)バラ科サクラ属 核(内果皮)は灰褐色、長さ2.5cm、幅1.7cm、厚さ1.4cm程度のやや扁平な広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する。側面頂部には、鋭利な刃による切断痕がみ

表6 大型植物遺体同定結果一覧

試料情報						同定結果				計測値(mm)				
遺跡名	調査区	地区	層・面	遺構名	登録番号	時期	分類群	部位	状態	個数	長さ	幅(径)	厚さ	備考
瓜生堂	A	5M7b	第2面	1溝	432	近世	モモ	核	完形	1	27.84	19.31	14.13	頂部尖る
瓜生堂	A	5M9b	第3面	27溝	501	中世末	モモ	核	完形	2	31.3	20.73	14.71	頂部鋭く尖る
											27	20.86	15.87	頂部尖る
瓜生堂	A	5M9b	第11面	58流路集石遺構	634	弥生時代後期	マツ属複維管束亜属	木材	破片	1	-	直径21	-	芯持丸木
							マツ属複維管束亜属	木材	破片	1	-	直径30	-	芯持丸木
							サカキ	木材	破片	1	-	直径18	-	芯持丸木
							コナラ属アカガシ亜属	木材	破片	1	-	幅15	-	分割状
瓜生堂	A	5M9b	第15面		603	弥生時代中期後半～後期	マツ属複維管束亜属	球果	完形	2	50.34	24.34	-	表面摩耗
											40.42 +	23.24	-	表面摩耗
瓜生堂	B	5M4b	第6面	25溝	358	中世末	モモ	核	完形	2	31.56	19.29	15.96	頂部鋭く尖る
											27.94 +	19.22	14.19	頂部やや欠損
瓜生堂	B	5M4b	第26層		474	弥生時代前期	オニグルミ	核	破片	2	31.77	23.71 +	23.56	接合し1個体、縫合線食痕、
瓜生堂	D	4M2b3b	第4面	25溝最下層	386	中世	センダン	核	破片	5	11.23 +	-	-	1個分
								種子	完形	1	4.85 +	2.82 +	1.3	
									破片	3	-	-	-	
花屋敷	I	10M5b	第5面	4井戸	256	近世	トウガン	種子	完形	2	10.37	7.18	2.35	
											10.08	7.64	1.35	
花屋敷	I	10M7b	第6面	22溝	101	中世	マツ属複維管束亜属	球果	完形	1	35.17	21.71	-	柄残存(長さ7.35mm, 径4.89mm)
							クスノキ	種子	完形	4	6.03	5.78	5.46	食痕(径1.05mm)
											5.77	5.61	5.15	
											6.3	5.62	5.22	
											5.97	5.52	5.09	
							ウメ	核	完形	1	20.45 +	17.25	13.9 +	側面頂部:鋭利な刃による切断痕
							メロン類(マクワ・シロウリ型)	種子	完形	1	7.47	2.99	1.38	

注)種実の計測値はデジタルノギスによる

られる (写真 30-17)。

モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属 核 (内果皮) は灰褐色、長さ 2.7 ~ 3.2cm、幅 1.9 ~ 2.1cm、厚さ 1.4 ~ 1.6cm のやや偏平な広楕円体。1 本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線の上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

センダン (*Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel) センダン科センダン属 核 (内果皮) は灰褐色、完形ならば長さ 1 ~ 1.3cm、径 0.7 ~ 0.8cm の楕円体。背面は浅く広い 5 ~ 6 個の縦溝と縦隆条が交互に並び、上面観は星型。半割している。表面は粗面。破片は縦隆条に沿って割れており、最大長 1.1cm、最大幅 4.5mm 程度。内面には、長さ 6mm、幅 3mm、厚さ 1mm 程度の非対称長楕円体の種子が入る浅い窪みがあり、窪みの表面には微細な横方向の筋が流れる (図版 1-9,10)。種子は黒褐色、長さ 5mm、幅 2.8mm、厚さ 1.3mm 程度の非対称長楕円体。種皮は薄く、表面は粗面 (写真 30-11)。

トウガン (*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属 種子は淡灰褐色、長さ 1cm、幅 7.2 ~ 7.6mm、厚さ 1.4 ~ 2.4mm 程度の偏平な倒卵体。基部は斜切形で楕円形の臍がある。種皮表面は粗面で、両面の縁は段差があり薄くなる (写真 30-18,19)。

メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属 種子は淡灰褐色、長さ 7.5mm、幅 3.0mm、厚さ 1.4mm の偏平な狭倒皮針形。藤下 (1984) の基準による中粒のマクワ・シロウリ型 (長さ 6.1 ~ 8.0mm) に該当する。基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する (写真 30-20)。

4. 樹種同定結果

試料 4 点は、芯持丸木 3 点と分割状の木片 1 点で、芯持丸木は、直径が 2.1 cm、3.0 cm、1.8 cm であり、直径 2.1 cm の木材は表面に樹皮が残存している。直径 3.0 cm の木材は、樹皮は認められず、表面の一部が炭化している。直径 1.8 cm の木材も樹皮は認められない。分割状の木材は、幅 1.5 cm でミカン割状に近い断面形状を示す。直径 3.0 cm の木材に火を受けた痕跡が見られる他は、加工痕は明瞭ではない。

芯持丸木 2 点が針葉樹のマツ属複維管束亜属、1 点が常緑広葉樹のサカキ、分割材状が常緑広葉樹のアカガシ亜属に同定された (表 6)。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科 軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急~やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1 ~ 10 細胞高。

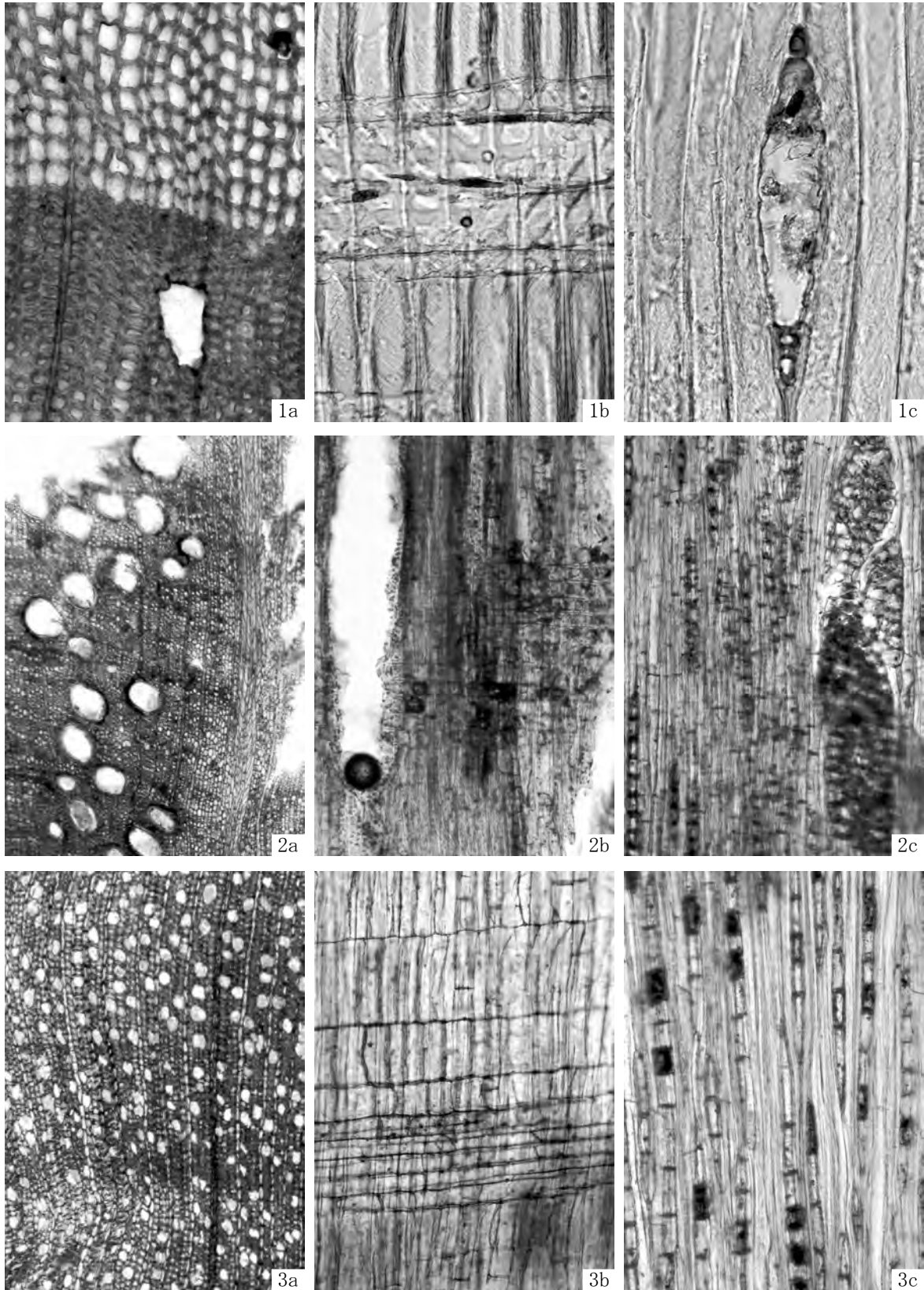
コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科 放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ~ 15 細胞高のものと同定された複合放射組織とがある。

サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属 散孔材で、小径の道管が単独または 2 ~ 3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布



- | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| 1. マツ属複維管束亜属 球果(瓜生堂遺跡;登録番号603) | 2. マツ属複維管束亜属 球果(瓜生堂遺跡;登録番号603) |
| 3. オニグルミ 核(食痕)(瓜生堂遺跡;登録番号474) | 4. モモ 核(瓜生堂遺跡;登録番号432) |
| 5. モモ 核(瓜生堂遺跡;登録番号501) | 6. モモ 核(瓜生堂遺跡;登録番号501) |
| 7. モモ 核(瓜生堂遺跡;登録番号358) | 8. モモ 核(瓜生堂遺跡;登録番号358) |
| 9. センダン 核(瓜生堂遺跡;登録番号386) | 10. センダン 核(瓜生堂遺跡;登録番号386) |
| 11. センダン 種子(瓜生堂遺跡;登録番号386) | 12. マツ属複維管束亜属 球果(花屋敷遺跡;登録番号101) |
| 13. クスノキ 種子(花屋敷遺跡;登録番号101) | 14. クスノキ 種子(花屋敷遺跡;登録番号101) |
| 15. クスノキ 種子(花屋敷遺跡;登録番号101) | 16. クスノキ 種子(花屋敷遺跡;登録番号101) |
| 17. ウメ 核(花屋敷遺跡;登録番号101) | 18. トウガン 種子(花屋敷遺跡;登録番号256) |
| 19. トウガン 種子(花屋敷遺跡;登録番号256) | 20. メロン類(マクワ・シロウリ型) 種子(花屋敷遺跡;登録番号101) |

写真30 大型植物遺体同定 検出種子



1. マツ属複維管束亜属 (登録番号634)
2. コナラ属アカガシ亜属 (登録番号634)
3. サカキ (登録番号634)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: 3a
 100 μ m: 1-2a, 4b, c
 100 μ m: 1-2b, c

写真31 大型植物遺体同定 自然木

密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

5. 考察

瓜生堂遺跡 弥生時代前期集落の基盤層とされる第26層からは、オニグルミの核が出土した。オニグルミは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育する落葉高木である。当時の周辺域に生育していたと考えられる。また、オニグルミは、核内部の種子が生食・長期保存可能で収量も多いことから、古くより植物質食糧として利用され、遺跡出土例も多い有用植物である。出土した核には、人による利用の痕跡は認められないが、当時の植物質食糧として利用された可能性はあろう。

弥生時代中期後半～後期とされる第15遺構面では、湿地状堆積とみられる遺構面上の落込みからマツ属複維管束亜属の球果が出土した。複維管束亜属は、当時の周辺域の森林に生育していたと考えられる。

弥生時代後期とされる1058流路は、弥生時代中期後半の墓域の上を通る流路で、底面付近に拳大の円礫を集めた集石遺構があり、土器片や加工痕のある木材、板状木製品が出土している。分析を実施した資料は、芯持丸木3点と分割状1点の4点である。芯持丸木2点が針葉樹のマツ属複維管束亜属、1点が常緑広葉樹のサカキ、分割材状の木片1点が常緑広葉樹のアカガシ亜属に同定された。複維管束亜属は、軽軟で加工は容易であるが、強度・保存性は高い。アカガシ亜属とサカキは、重硬で強度が高い。

瓜生堂遺跡の調査事例（松田,1980,1981; 東大阪市教育委員会,200; 財団法人大阪府文化財センター,2004）では、複維管束亜属は、弥生時代後期～古墳時代初頭の棒材、方形穿孔板、有頭棒に確認されている。アカガシ亜属は、農具（鍬・鋤・えぶり・豎杵 or 横槌）、紡織具、方形皿状容器等に確認されている。サカキは、杵、有頭状木製品、男茎状木製品、杭に確認例がある。今回の資料では、芯持丸木の1点に火を受けた痕跡が見られる他は、人による利用の痕跡が明瞭ではないが、確認された分類群は、いずれも過去の調査で木製品に利用例がある。遺構内から加工木や板状木製品と共に出土していることも考慮すれば、出土の背景には人の関与が推定される。

中世とされる10-1-4区の4025溝最下層からは、センダンの核と種子が出土した。センダンは海岸近くの日当たりのよいところに生育する落葉高木である。当時の周辺域に生育していたと考えられる。中世末とされる10-1-2区の2025溝、10-1-1区の1027溝と、中世以後とされる10-1-1区の1001溝からは、栽培種のモモの核が出土した。当時利用された植物質食料と示唆される。

花屋敷遺跡 中世とされる9022溝は、調査区を南北に通る大溝で、既存の調査では、居住域（屋敷地）を廻る濠として報告されている。9022溝からは、栽培種のウメの核とメロン類（マクワ・シロウリ型）の種子、常緑高木の複維管束亜属の球果とクスノキの種子が出土した。ウメとメロン類は、当時利用された植物質食料と示唆される。また、木本植物の複維管束亜属とクスノキは、当時の周辺域に生育していたと考えられる。中世以後の大型井戸とされる9004井戸からは、栽培種のトウガンの種子が出土した。当時利用された植物質食料と示唆される。

【引用・参考文献】

藤下典之 1984 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 古文化財の自然科学的研究, 古文化財編集

委員会編, 同朋舎, 638-654.

- 林 昭三 1991 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 東大阪市教育委員会 2001 瓜生堂遺跡第 47-1 次発掘調査中間報告書. 84p.
- 石川 茂雄 1994 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 松田隆嗣 1980 木質遺物の樹種について. 「瓜生堂 近畿自動車道天理 - 吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」, 大阪府教育委員会大阪文化財センター, 445-448.
- 松田隆嗣 1981 瓜生堂・巨摩庵寺遺跡出土木質遺物の樹種について. 「巨摩・瓜生堂 近畿自動車道天理 - 吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」, 大阪府教育委員会大阪文化財センター, 361-374.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織. 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 財団法人大阪府文化財センター 2004 「瓜生堂遺跡 1 - 近畿日本鉄道奈良線連続立体交差事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」 財団法人大阪府文化財センター調査報告書. 第 106 集, 464p.

第5章 総括

今回の調査では、既往の調査成果を追認するとともに、さらに新たな情報を得ることができた。

瓜生堂遺跡、岩田遺跡では、既往の調査成果より弥生時代前期、弥生時代中期後半、弥生時代後期～古墳時代初頭、中世遺構面が主要な遺構面として認識されていた。今回はこれに弥生時代前期末～中期初頭遺構面を加えることができた。これまでも当センターにおける「99-8区」の調査や東大阪市教育委員会による「第47-2次D地区」の調査において、水田関係遺構を部分的に把握していたものであるが、今回はその成果を一層明確なものにしたといえよう。

また花屋敷遺跡の調査では、既往の調査により報告された中世集落跡がさらに南側へ広がることを確認し、さらに府内でも希少な銭貨埋納遺構を発見することができた。以下、時期ごとに概括する。

弥生時代前期 瓜生堂遺跡では、これまで推測されていたとおり、東西幅 200 m 程度の範囲にわたって弥生時代前期の集落が形成されていたことを追認した。居住域は微高地上に作られており、南西及び南東の低地より 0.2～0.4 m 程度、地盤が高い。基本層序をみると、居住域内で最も標高が高いのは 10-1-2区から 10-1-3区までの間であり、T.P.-1.6 m 前後を測る。既往の調査成果でも竪穴建物が集中して確認されている範囲にあたることから、集落の中心はこの付近にあったと予測される。

居住域は、幅 4 m 前後の大溝（環濠？）で囲まれていたと考えられる。今回の調査では、10-1-1区において、居住域の西端を限ると推測される大溝を検出した。反対側の東側を廻る溝は、今回の調査では確認されていないが、居住域と外界の間に、水田が作られていたことがわかっている。水田の外側には、大規模な流路が流れていたことから、天然の境界として機能していた可能性もある。

大溝や流路で囲まれた集落の中では、竪穴建物や土坑、小溝を検出した。この遺構群は干潟堆積の上面にある黑色シルトを基盤層とするが、今回の調査では、10-1-1区や 10-1-2区において、この層の除去面でさらに溝や土坑を検出した。このため、この地域への人的関与の時期はさらに遡る可能性がある。10-1-1区では、この層内よりサヌカイト製の石鏃が 1 点が出土した。

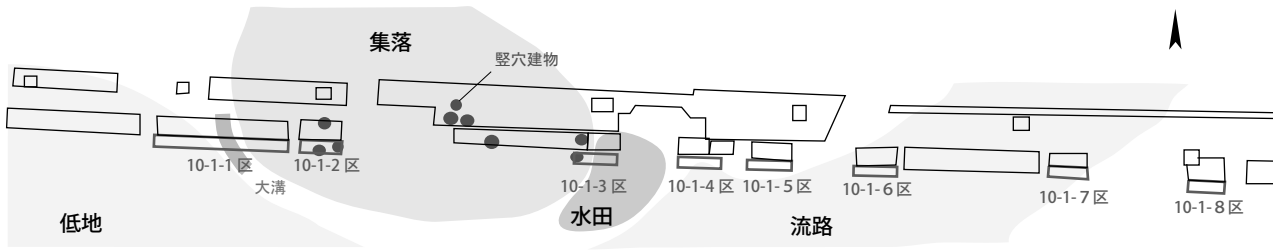
弥生時代前期末～中期初頭 弥生時代前期末には、かつて集落であった範囲が水田として利用されたと考えられる。既往の調査では 10-1-3区の北側トレンチにおいて弥生時代前期の水田が検出されていることから、この付近において最も早く水田が営まれはじめたと考えられる。

水田畦畔は 10-1-1区から 10-1-3区にまで及んでいる。10-1-4区では後世の攪乱により水田土壌が失われた可能性がある。遺構面の標高は 10-1-2区が最も高く、T.P.-0.9 m である。水田が低地ではなく、微高地上に作られていたことは、当時の人々が用水よりも排水に苦しんだことを示している。

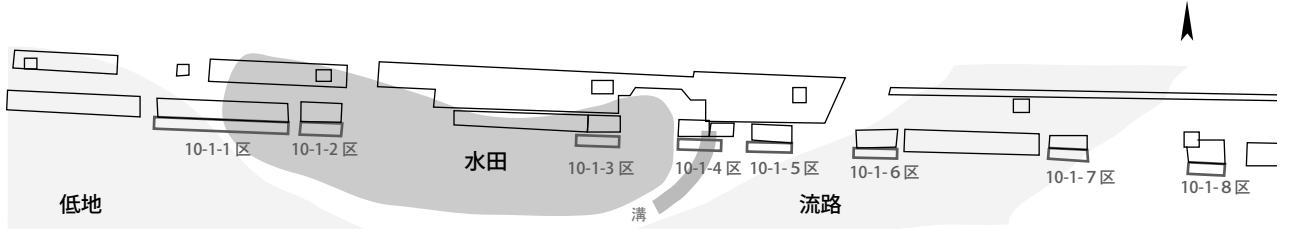
なお、今回の調査区では、10-1-6区において弥生時代前期の溝を検出した。これが水田の東を限るものかどうかは定かではないが、その東に位置する 10-1-7区において大規模な河川が確認されたことから、水田がこれより東へ続いていたとは考えにくい。このため、当時の水田は、300 m 程度の範囲にわたって営まれていたと推測することができる。

弥生時代中期後半 弥生時代中期後半の遺構面では、墓域がさらに南側へ広がることを確認した。方形周溝墓の立地状況より、墓が少なくとも 3 つの小群に分かれて存在することが改めて明らかとなった。

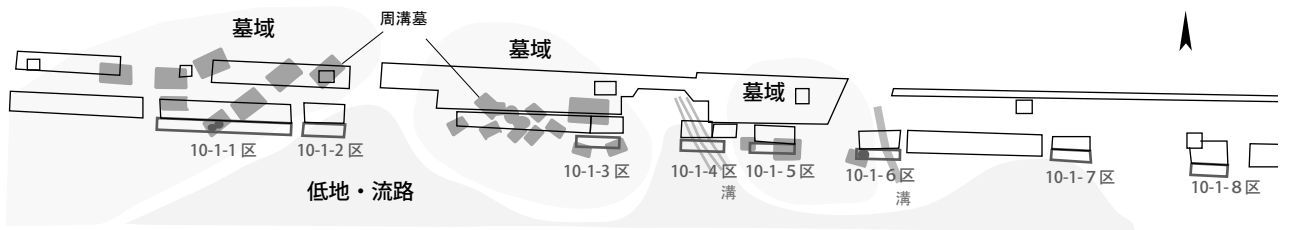
① 弥生時代前期遺構面



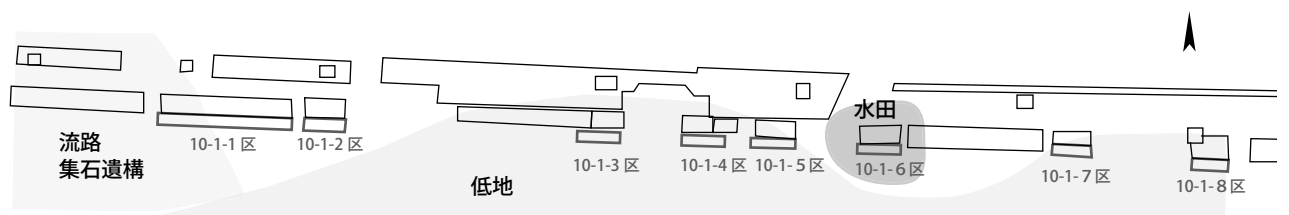
② 弥生時代前期末～中期初頭遺構面



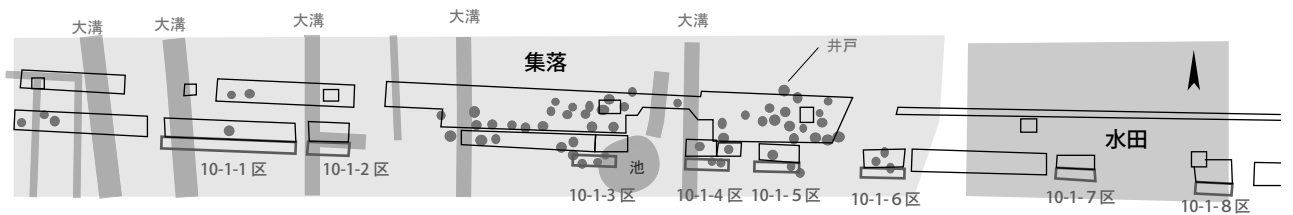
③ 弥生時代中期後半遺構面



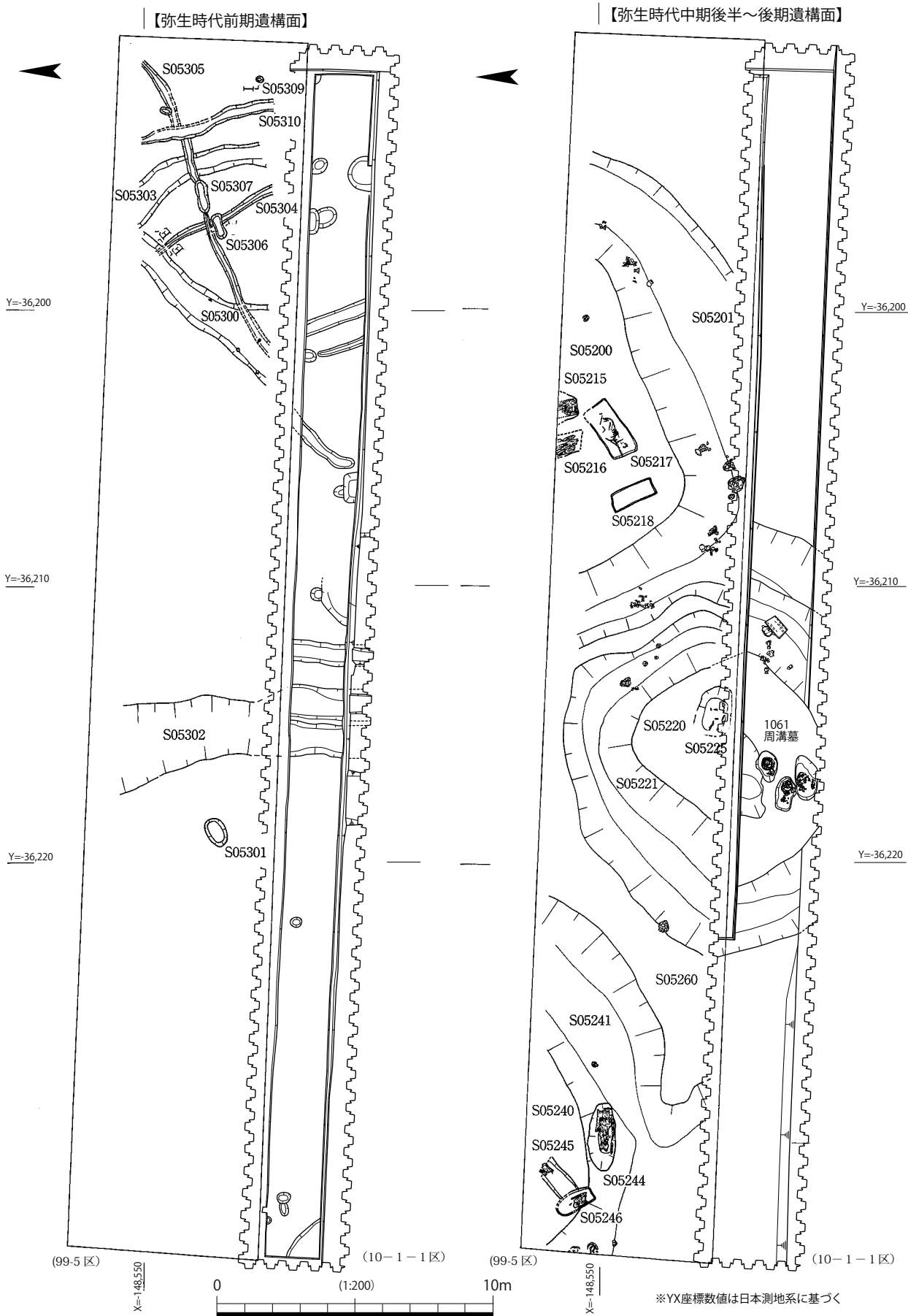
④ 弥生時代後期～古墳時代初頭遺構面



⑤ 中世遺構面



第 184 図 瓜生堂遺跡・岩田遺跡 遺構変遷概括図

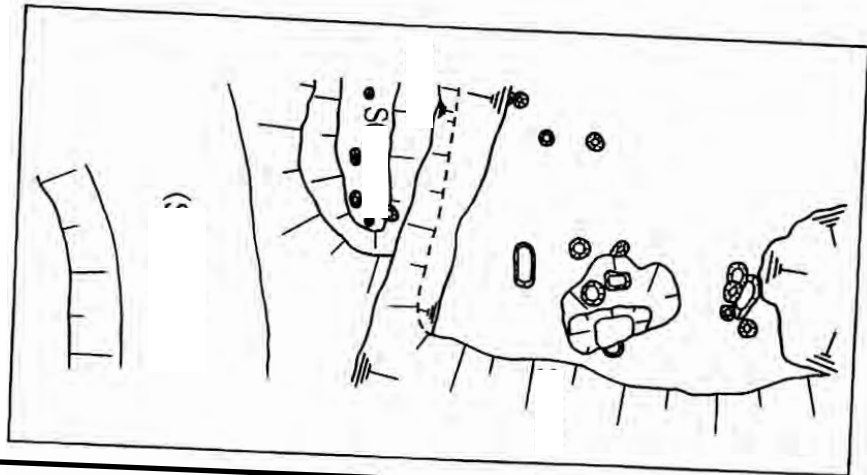


第 185 図 瓜生堂遺跡 遺構面合成図 1

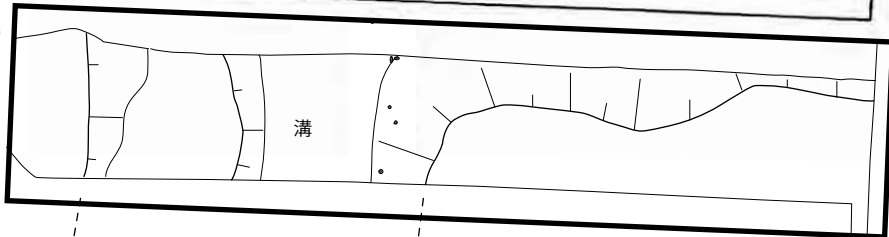
【中世遺構面】

(99-4区)

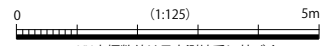
X=-148,550



(10-1-2区)



Y=-36,180

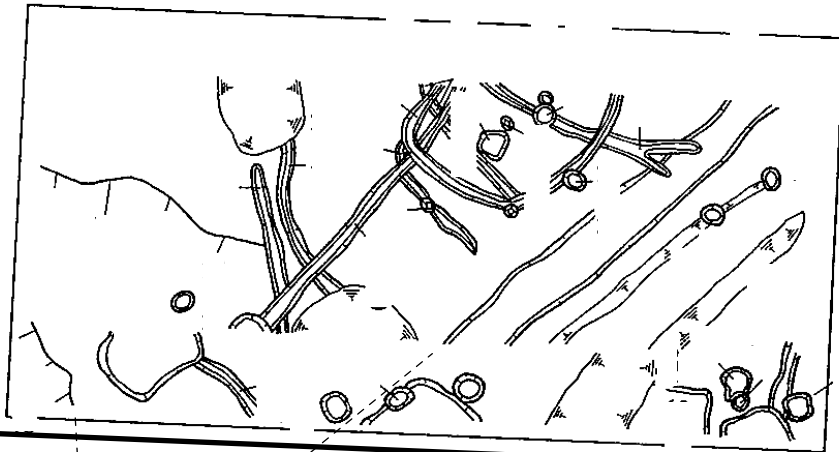


※YX座標数値は日本測地系に基づく

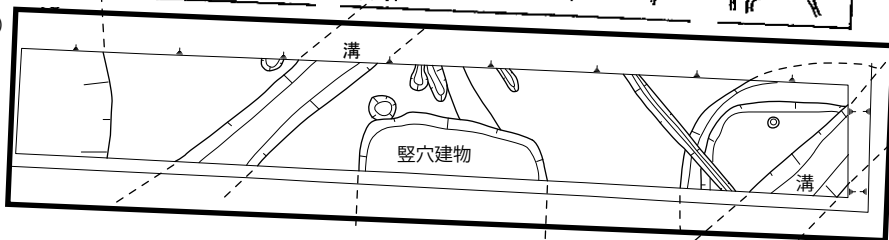
【弥生時代前期遺構面】

(99-4区)

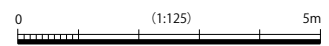
X=-148,550



(10-1-2区)

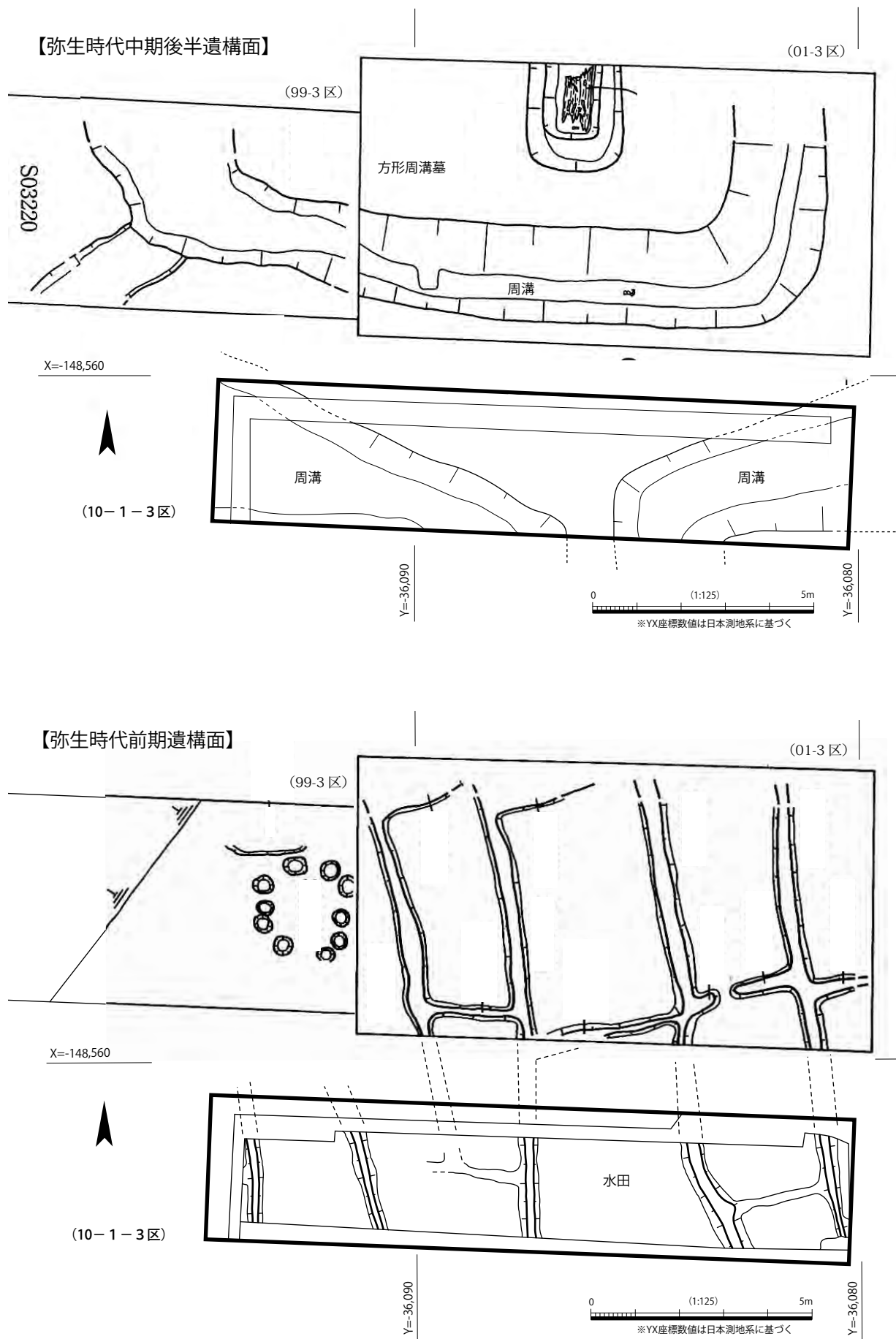


Y=-36,180



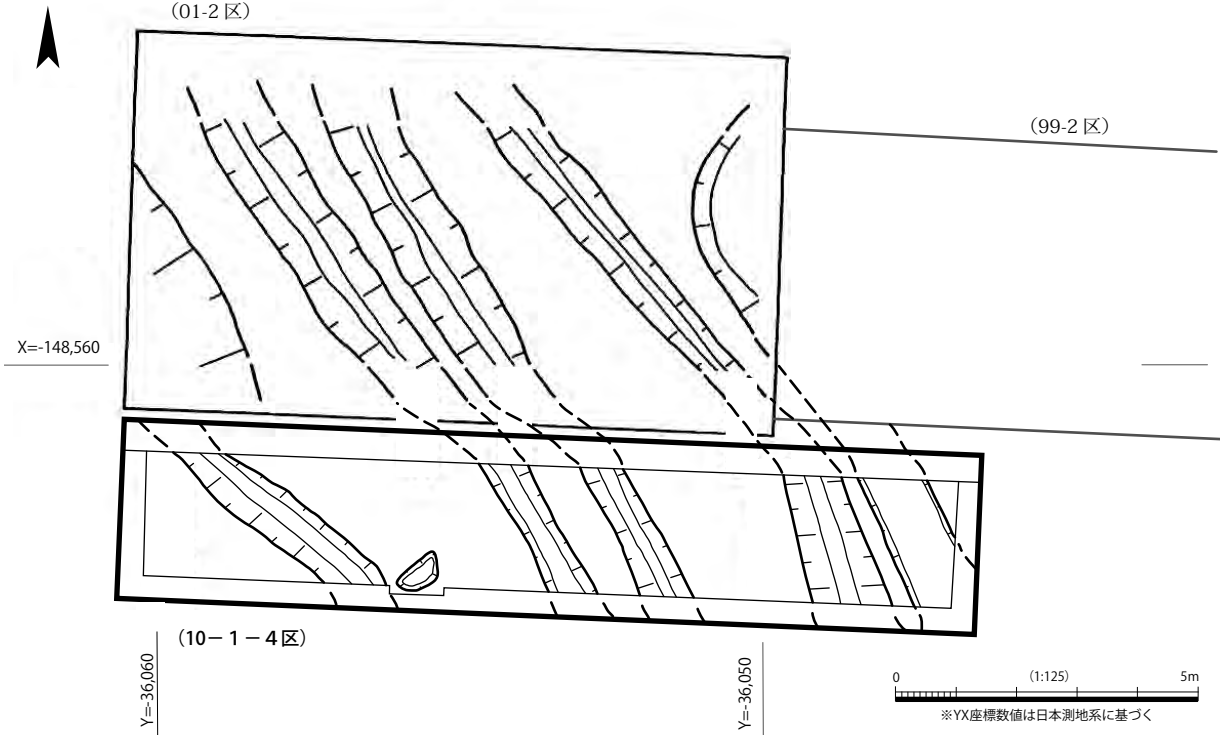
※YX座標数値は日本測地系に基づく

第186図 瓜生堂遺跡 遺構面合成図2

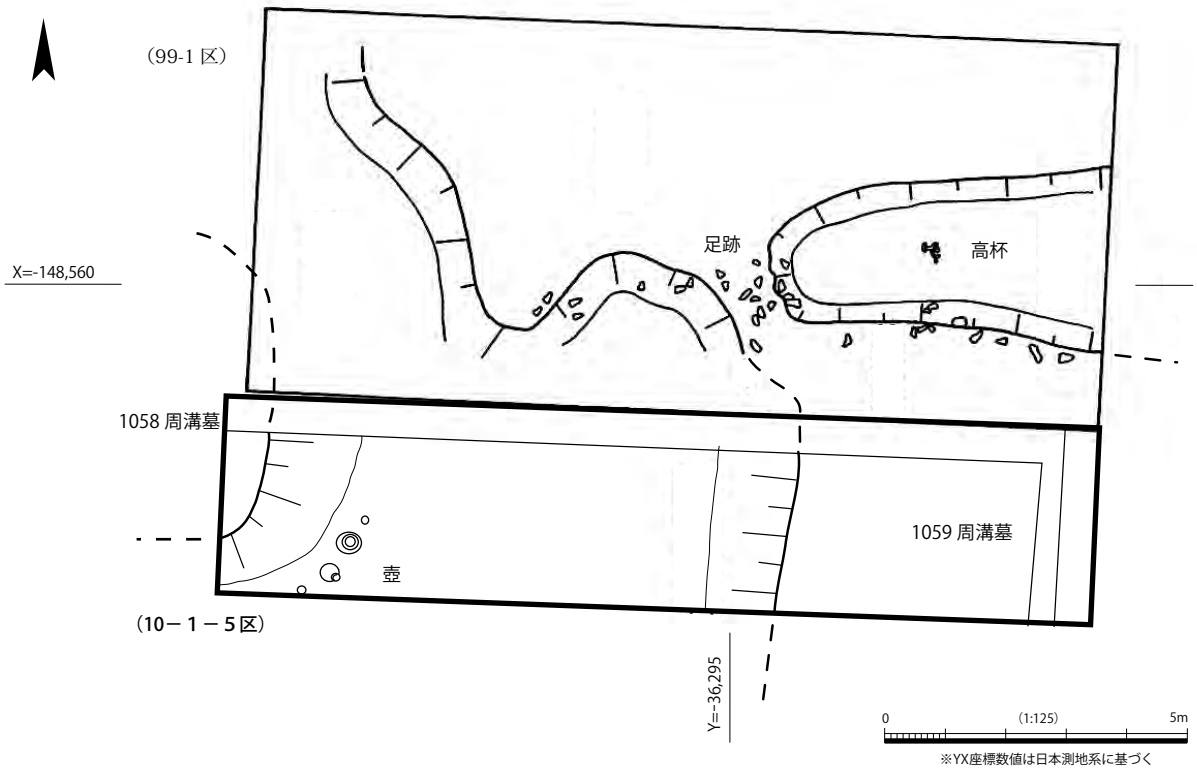


第 187 図 瓜生堂遺跡 遺構面合成図 3

【弥生時代中期遺構面】

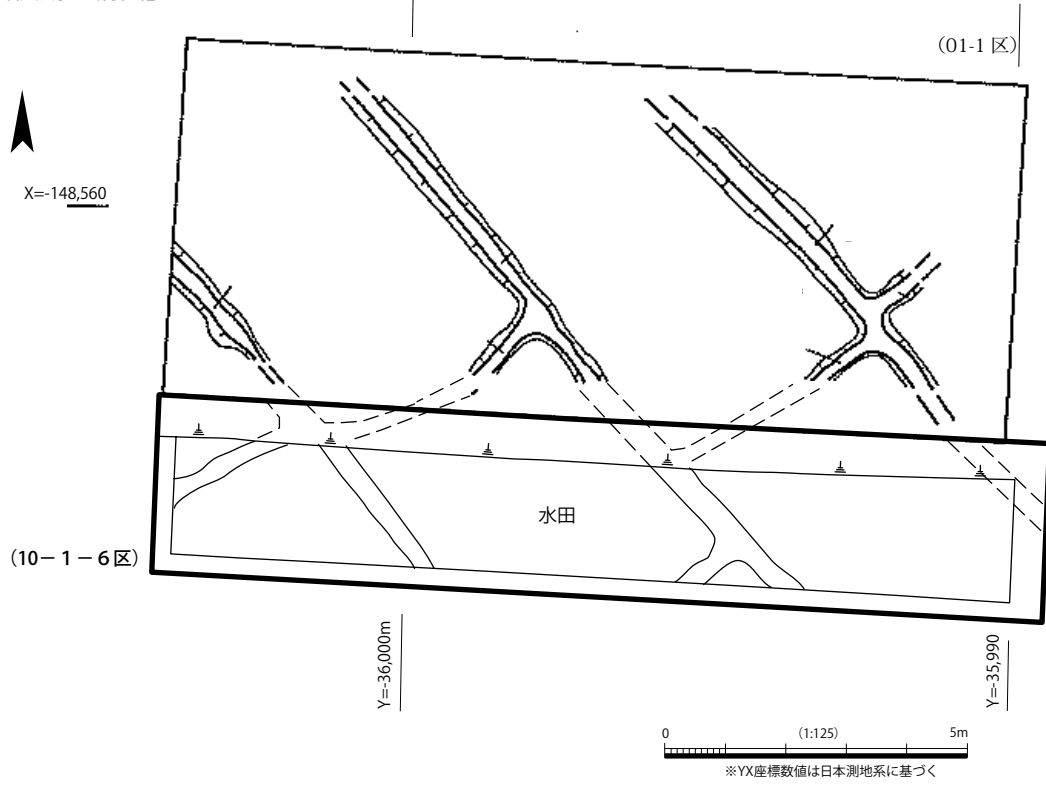


【弥生時代中期後半遺構面】

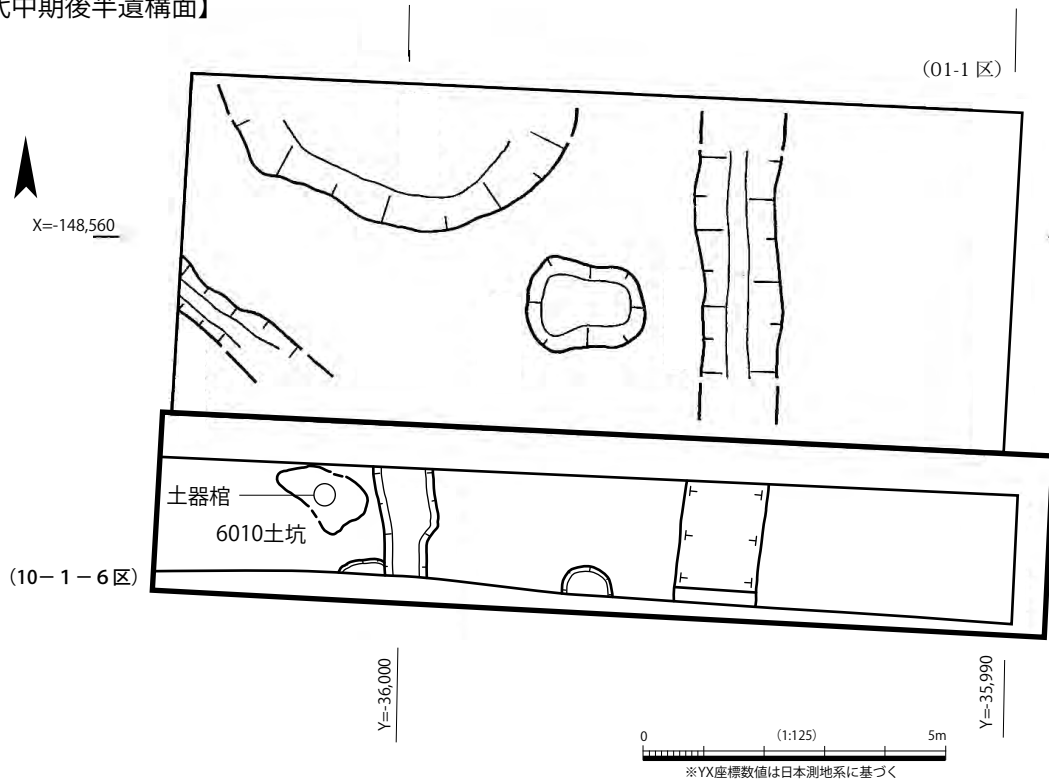


第 188 図 瓜生堂遺跡 遺構面合成図 4

【弥生時代後期遺構面】

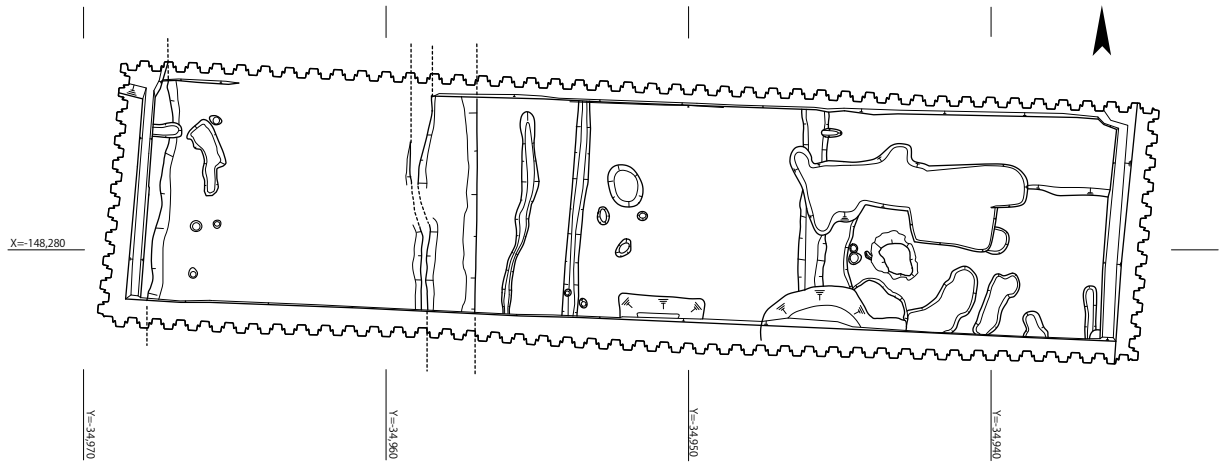


【弥生時代中期後半遺構面】

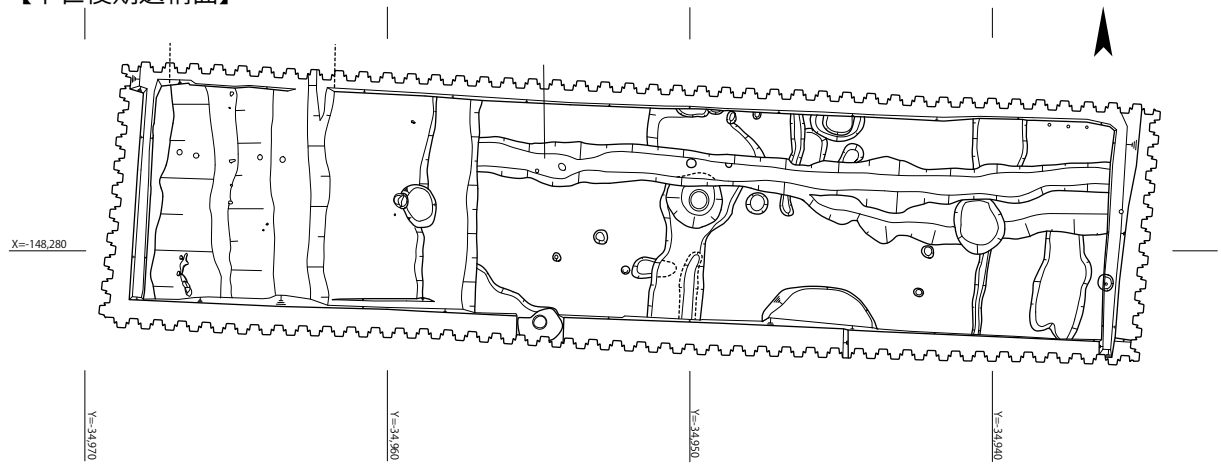


第 189 図 岩田遺跡 遺構面合成図

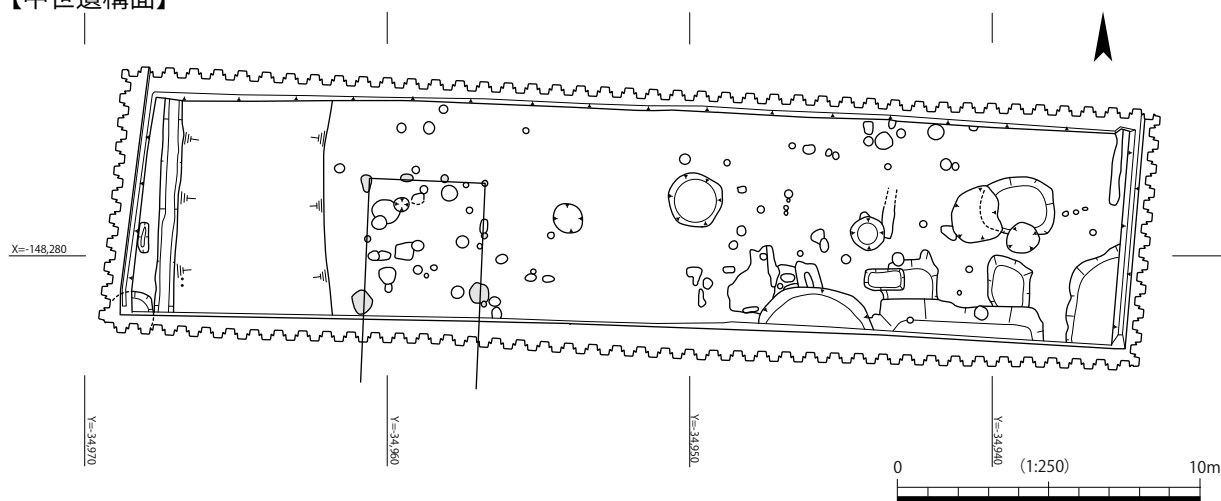
【中世末～近世初頭遺構面】



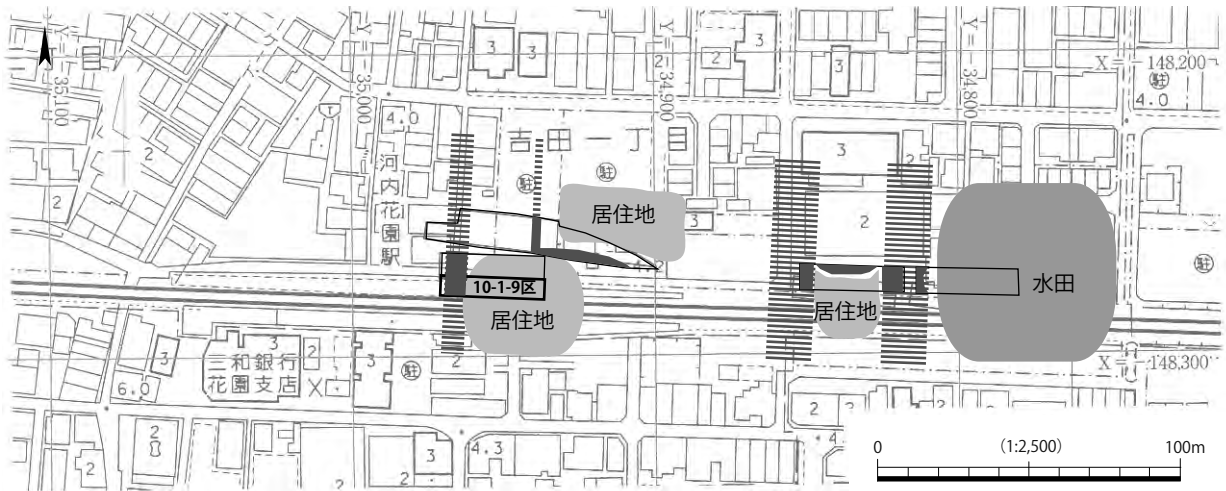
【中世後期遺構面】



【中世遺構面】



第 190 図 花屋敷遺跡 遺構変遷図



第 191 図 花屋敷遺跡 中世遺構概括図

検出遺構面の標高は T.P.-0.5 m～T.P.+0.3 m で、東端に位置するグループである 10-1-5 区、10-1-6 区付近が最も高い。10-1-4 区では、当該時期に複数条の溝を検出したことから、墓域が溝によって区画されていた可能性が考えられる。なお今回の調査では、埋葬施設は土器棺の発見にとどまっており、木棺墓の新たな検出はない。

弥生時代後期・古墳時代初頭 弥生時代後期及び古墳時代初頭遺構面では、10-1-1 区において弥生時代後期から古墳時代初頭の集石遺構や土器だまりを、10-1-6 区において弥生時代後期から古墳時代初頭の水田跡を確認した。その間の調査区では湿地状堆積（低地）が続いており、遺構の存在は希薄である。10-1-1 区で確認した集石遺構には土器とともに木器未成品が残されていたことから居住域がごく近隣に存在していた可能性が高い。

なお、10-1-6 区において検出された古墳時代初頭の水田跡は、耕作層の残存状態が良好であったため、新たに確認することができた遺構面である。

古代 今回の調査では、岩田遺跡範囲内において、古代の遺物の出土を確認した。明確な居住域を検出することはできなかったが、既往の調査区と連続する遺構面を確認し、ピットや東西方位に沿う溝を確認した。古墳時代の大規模な河川の氾濫は、瓜生堂地区よりも岩田地区のほうが早く収束したと推測される。

中世 瓜生堂遺跡と岩田遺跡の中世遺構面は、これまで報告されてきたとおり、12 世紀後半から 15 世紀までの年代幅で存在する。その東端は 10-1-6 区であり、これ以东は生産域（水田）として機能したと考えられる。集落内には多数の井戸や柱穴が設けられているが、南北方向を主軸とする大溝とは、時間差がある。遺構の分布は 10-1-2 区から 10-1-5 区の範囲が濃密であり、遺物の出土量も多い。

一方、花屋敷遺跡では 13 世紀後半～16 世紀初頭の遺構面を計 3 面検出した。集落面を検出したことに加えて、銭貨埋納遺構を発見したことの意義は大きい。経済的な力をもつ人々の起居が改めて示されたといえる。

【参考文献】

- 秋山浩三 2004 「弥生中期大形集落・瓜生堂遺跡の一構成単位」『瓜生堂遺跡1－考察・分析・写真図版編－』（財）大阪府文化財センター調査報告書第106集（財）大阪府文化財センター
- 秋山浩三・川瀬貴子ほか 2004 『瓜生堂遺跡1－本文編－』（財）大阪府文化財センター調査報告書第106集（財）大阪府文化財センター
- 岡本圭司 2007 「第5章 まとめ」『花屋敷遺跡Ⅰ』（財）大阪府文化財センター調査報告書第161集（財）大阪府文化財センター
- 岡本圭司・影山美智与 2007 「第6章 まとめ」『花屋敷遺跡Ⅱ』（財）大阪府文化財センター調査報告書第162集（財）大阪府文化財センター
- 金光正裕・川瀬貴子 2004 「第6章第2節 古代集落の展開」『岩田遺跡』（財）大阪府文化財センター調査報告書第121集（財）大阪府文化財センター
- 金村浩一ほか 1999 『瓜生堂遺跡第45次発掘調査概要報告』（財）東大阪市文化財協会
- 才原金弘・小川紀子 2007 「Ⅴ. まとめ」『瓜生堂遺跡第53次発掘調査報告』東大阪市教育委員会
- 福永信雄ほか 2002 「Ⅷ 総括」『瓜生堂遺跡第46、47－1・2次発掘調査報告書』東大阪市教育委員会

遺物觀察表

表7 遺物観察表(土器)

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 胴径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
38-1-1		10-1-1 1001 溝	染付 碗	12.0 5.65 -	- - -	外) 2.5GY8/1 灰白色 内) 2.5GY8/1 灰白色 断) N/8 灰白色	良好 良好	40	
38-1-2		10-1-1 1001 溝	染付 碗	- (3.3) -	- - -	外) 7.5GY8/1 明緑灰色 内) 7.5GY8/1 明緑灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	50	
38-1-3		10-1-1 1001 溝	平瓦	- - -	(8.9) (6.4) -	外) 7.5GY8/1 明緑灰色 内) 7.5GY8/1 明緑灰色 断) N8/0 灰白色	- -	10	
38-2-1		10-1-1 1020 井戸	土師器 皿	8.6 1.4 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	100	
38-2-2		10-1-1 1020 井戸	土師器 皿	8.9 1.9 -	- - -	外) 5Y6/2 灰オリーブ色 内) 5Y6/2 灰オリーブ色	良好 良好	100	
38-2-3		10-1-1 1020 井戸	土師器 皿	8.9 1.65 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	100	
38-2-4		10-1-1 1020 井戸	土師器 皿	9.2 (1.5) -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	100	
38-3-1		10-1-1 1027 溝	青磁 碗	(16.0) 4.05 -	- - -	外) 2.5GY6/1 オリーブ灰色 内) 2.5GY6/1 オリーブ灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	10	
38-3-2		10-1-1 1027 溝	瓦器 碗	- (1.4) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	10	
38-3-3		10-1-1 1027 溝	土師器 皿	7.6 1.8 -	- - -	外) 10YR8/3 浅黄橙色 内) 10YR8/3 浅黄橙色 断) N4/0 灰色	良好 良好	40	
39-1-1		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	7.8 1.85 -	- 0.49 -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 やや甘	完形	
39-1-2		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	8.1 1.75 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 やや甘	100	
39-1-3		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	(8.7) 2.3 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	50	
39-1-4		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	10.4 2.4 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	90	
39-1-5		10-1-1 1027 溝	土師器 皿	10.6 2.1 -	- - -	外) 2.5Y7/3 浅黄色 内) 2.5Y8/4 浅黄色 断) 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好 良好	70	
39-1-6		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	7.9 1.75 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断)	良好 良好	100	
39-1-7		10-1-1 27 溝	土師質 皿	(8.35) 1.7 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	60	
39-1-8		10-1-1 1027 溝	土師器 皿	9.4 1.95 -	- - -	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 10YR8/4 浅黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	70	
39-1-9		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	(10.4) 2.3 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	60	
39-1-10		10-1-1 1027 溝	土師質 皿	10.0 2.25 -	- 0.4 -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
39-1-11		10-1-1 攪乱	瓦器 椀	(15.6) (4.8) -	- - -	外) N4/0 灰色, N8/0 灰白色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	15	
39-1-12		10-1-1 第3面 27 溝	瓦質土器 搥鉢	(29.0) (7.2) -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
40-1		10-1-1 第8層最上 部	弥生土器 壺	16.3 (10.9) -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
40-2		10-1-1 第9面	弥生土器 台付甕	14.7 15.0 -	- - -	外) N2/ 黒色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	85	
40-3		10-1-1 第11-1層	弥生土器 壺	11.4 22.0 -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	90	
40-4-1		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 壺	- (26.5) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	10	
40-4-2		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 長頸壺	14.2 (22.7) -	- - -	外) 2.5Y7/3 浅黄色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 2.5Y7/3 浅黄色	良好 良好	60	
40-4-3		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 壺	(10.6) (16.3) -	- - -	外) 10YR8/2 灰白色・ 7.5YR7/3 にぶい橙色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色・	良好 良好	25	
41-1-1		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 壺	(16.7) (9.1) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	40	
41-1-2		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	13.9 19.0 -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	80	
41-1-3		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 壺	- (21.2) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	50	
41-1-4		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	14.6 (7.4) -	- - -	外) 10YR2/1 黒色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	10	
41-1-5		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 壺	- (26.8) -	- - -	外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 内) 10YR5/3 にぶい黄褐色 断) 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好 良好	50	
41-1-6		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 細頸壺	- (14.6) -	- - -	外) 2.5Y8/1 灰白色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	40	
41-1-7		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 広口壺	15.0 (10.7) -	- - -	外) 10YR2/1 黒色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	10	
41-1-8		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	12.7 (6.5) -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色・2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	10	
42-1-1		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	15.6 (22.9) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色・2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 やや甘	50	
42-1-2		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	13.4 22.8 -	- - -	外) 10Y7/2 にぶい黄橙色 内) 10Y7/2 にぶい黄橙色 断) 10Y7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	90	
42-1-3		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器	- (7.2) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y3/1 黒褐色	やや粗 良好	50	
42-1-4		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	(16.6) (12.6) -	- - -	外) N2/ 黒色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	10	
42-1-5		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	15.5 (21.3) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色・N2/ 黒色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	10	
42-1-6		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	- (14.6) -	- - -	外) N2/ 黒色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	50	
43-1-1		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	9.6 12.1 -	- - -	外) 5YR5/3 にぶい赤褐色 内) 7.5YR5/2 灰褐色 断) 7.5YR4/1 褐灰色	良好 やや甘	50	
43-1-2		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器	- (12.5) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	50	
43-1-3		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 甕	17.6 28.0 -	- - -	外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 内) 5YR6/6 褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	80	
43-1-4		10-1-1 1064土器 溜まり	弥生土器 高杯	26.2 15.5 -	- - -	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	80	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
43-1-5		10-1-1 1064 土器 溜まり	弥生土器 高杯	24.5 14.5 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	80	
43-1-6		10-1-1 1064 土器 溜まり	弥生土器 甗	16.8 (7.2) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	やや粗 良好	10	
43-1-7		10-1-1 1064 土器 溜まり	弥生土器 広口壺	14.4 (8.4) -	- - -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) 2.5Y5/3 黄褐色	やや粗 良好	50	
44-1	41-4	10-1-1 1062 周溝	弥生土器 直口鉢	(11.2) 10.1 -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	やや粗 良好	40	
44-2		10-1-1 第 11-1 層	弥生土器 細頸壺	- (14.3) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 10YR3/1 黒褐色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	10	
44-3-1	34-3	10-1-1 58 流路	弥生土器 直口壺	15.0 (15.4) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/3 浅黄色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 やや甘	80	実 524 と 同一個体か？
44-3-2	34-2	10-1-1 集石 60	弥生土器 直口壺	12.0 (11.3) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) 2.5Y6/21 灰黄色	良好 良好	50	
44-3-3		10-1-1 58 流路	弥生土器	- - -	- - -	外) 7.5GY8/1 明緑灰色 内) 7.5GY8/1 明緑灰色 断) N8/0 灰白色	良好 やや甘	50	
44-3-4		10-1-1 58 流路	弥生土器	- - -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	2	
44-3-5		10-1-1 58 流路	弥生土器 広口壺	12.4 (4.9) -	- - -	外) 2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	20	
44-3-6	34-8	10-1-1 集石 60	弥生土器 蓋	(8.0) (1.8) -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	25	
44-3-7		10-1-1 58 流路	弥生土器	- - -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 やや甘	10	
44-3-8		10-1-1 58 流路	弥生土器 広口壺	- - -	- - -	外) 2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 やや甘	10	
44-3-9		10-1-1 58 流路	弥生土器	- - -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 5Y5/1 灰色	良好 やや甘	20	
45-1-1	34-12	10-1-1 集石 60	弥生土器 広口壺	(17.1) 22.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/3 浅黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	やや粗 良好	50	
45-1-2	35-5	10-1-1 58 流路	弥生土器 高杯	- (7.55) -	- - -	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	良好 良好	20	
45-2	35-1	10-1-1 58 流路	弥生土器 壺	- (19.0) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/3 灰黄色	良好 良好	80	
45-3		10-1-1 1063 土器 溜まり	弥生土器 壺	15.4 (13.4) -	- - -	外) 2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	10	
45-4-1		10-1-1 1064 土器 溜まり	弥生土器 広口壺	14.4 (6.0) -	- - -	外) 2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色	やや粗 良好	10	
45-4-2		10-1-1 1070 土器 溜まり	弥生土器 鉢	19.5 8.6 -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい褐色 内) 7.5YR6/3 にぶい褐色 断) 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好 良好	70	
45-5		10-1-1 1071 土器 溜まり	弥生土器 壺	10.8 24.2 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y4/1 黄灰色・5YR7/6 橙色 断) 2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	80	
46-1-1		10-1-1 第 11-1 層	弥生土器 高杯	31.0 14.4 19.2	- - -	外) 7.5YR4/2 灰褐色 内) 7.5YR4/3 褐色 断) 7.5YR4/3 褐色	良好 良好	99	
46-2-1	41-5	10-1-1 1061 周溝 墓	弥生土器 高杯	- 14.7 -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	99	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
46-3-1	44-1	10-1-1 1066 土器 棺墓	弥生土器 甕	33.2 48.4 -	- - -	外) 10YR4/3 にぶい黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	99	
47-1	46-2	10-1-1 1068 土器 棺墓	弥生土器 甕	23.7 45.0 -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	70	
47-2-1	48-1	10-1-1 1068 土器 棺墓	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR8/2 灰白色	良好 良好	10	
47-2-2	48-2	10-1-1 1068 土器 棺墓	弥生土器 壺	- (37.6) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR8/2 灰白色	良好 良好	10	
47-3	49-1	10-1-1 1068 土器 棺墓	弥生土器 甕	25.5 38.2 - 8.4	- - - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色・ 7.5YR6/3 にぶい褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色・ 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好 良好	90	
47-4	41-2	10-1-1 1062 周溝	弥生土器 広口壺	21.4 6.4 42.0	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR6/3 にぶい黄褐色	良好 良好	80	
48-1-1	43-1	10-1-1 1066 土器 棺墓	弥生土器 鉢	(36.55) 25.9 -	- - -	外) 10YR4/4 褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	60	
48-2-1	46-1	10-1-1 1068 土器 棺墓	弥生土器	(24.8) 18.5 -	- - -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	やや粗 良好	50	
48-2-1		10-1-2 第1層	軒丸瓦	- -	(5.3) (7.4) -	外) N5/0 灰色 断) N8/0 灰白色	- -	5	
48-2-2		10-1-2 第1層	軒丸瓦	- -	(5.5) (2.6) -	外) N4/0 灰色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	5	
48-2-3		10-1-2 中央落込み	軒丸瓦	- -	- -	外) 5Y6/1 灰色 内) N6/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-4		10-1-2 第1層	軒平瓦	- -	- -	外) N6/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-5		10-1-2 第1層	軒丸瓦	- -	- -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-6		10-1-2 第1層	軒平瓦	- -	- -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-7		10-1-2 第1層	軒平瓦	- -	- -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-8		10-1-2 第1層	軒平瓦	- -	- -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	10	
48-2-9		10-1-2 3溝	軒平瓦	- -	- -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	- -	10	
49-1-1		10-1-2 第1層	磁器 皿	11.6 3.3 -	- - -	外) (釉) 2.5GY7/1 明オリーブ灰色 内) 2.5GY7/1 明オリーブ灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	40	
49-1-2		10-1-2 側溝	陶磁器	11.9 3.3 2.2	- - -	外) (釉) 7.5Y7/1 灰白色 (素地) 2.5Y7/2 灰黄色 内) (釉) 7.5Y8/1 灰白色 (素地) 7.5Y7/3 浅黄色 断) N8/00 灰白色	良好 良好	60	
49-1-3		10-1-2 第1層	磁器	(11.8) (2.3) -	- - -	釉) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
49-1-7		10-1-2 第1層	磁器	(4.2) 1.0 -	- - -	外) 7.5YR8/2 灰白色 内) 7.5YR8/2 灰白色 断) 7.5YR8/2 灰白色	良好 良好	45	
49-1-8		10-1-2 第1層	陶器	- 4.1 -	- - 1.0	釉) 10YR3/3 暗褐色 地) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	40	
49-1-9		10-1-2 北側側溝	陶器 椀	- (2.6) -	- - -	釉) 2.5Y8/2 灰白色・5Y6/3 オリーブ黄色 外) (7.5YR6/4 にぶい) 褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	15	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
49-2-1		10-1-2 第1層	須恵質陶器?	- (1.9) -	- - -	外) 10YR4/1 褐灰色 内) 10YR4/1 褐灰色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	20	
49-2-3		10-1-2 第2層(攪乱層)	埴輪	- - -	(10.7) (10.1) -	外) N7/0 灰白色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	-	
49-2-4		10-1-2 2025 溝上層	陶器壺	(7.4) (7.7) -	- - -	外) 5YR4/6 赤褐色・N4/00 灰色 内) 7.5YR5/3 にぶい褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	20	
49-2-6		10-1-2 2005 落込み	白磁四耳壺?	(12.2) (5.1) -	- - -	外釉) 10Y7/1 灰白色 内釉) 10Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	20	
49-2-7		10-1-2 第1層	埴輪	- - -	(7.0) (5.9) -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	-	
50-1-2		10-1-2 第1層	火舎	- 10.0 -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色・10YR3/1 黒褐色 内) 7.5YR4/2 灰褐色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	20	
50-1-3		10-1-2 第1層	土師器土人形	- - -	7.0 3.3 1.5	釉) 7.5YR7/4 にぶい橙色 地) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	90	
50-1-4・5		10-1-2 第1層	丁銀型土製品	- - -	(4.1) (3.2) -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	良好 良好	-	
50-1-6		10-1-2 第1層	土師器泥メソコ	- - -	6.0 3.3 0.7	釉) 5YR5/6 明赤褐色 地) 5YR5/6 明赤褐色 断) 5YR5/6 明赤褐色	良好 良好	-	
50-1-7		10-1-2 中央落込み	土人形	- (4.75) -	- 6.4 -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	70	
50-1-8		10-1-2 落込み西半部	火鉢? 火舎?	(27.9) (13.25) -	- - -	煤) 2.5Y3/1 黒褐色 地) 10YR5/2 灰黄褐色 内) (煤) N3/0 暗灰色	良好 良好	-	
50-1-9		10-1-2 落込み西半部	火舎	- (12.1) -	- - -	外) 7.5YR5/1 褐灰色 内) 10YR4/1 褐灰色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	25	
50-1-10		10-1-2 第1層	火舎	- (8.7) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい褐色 断) 7.5YR7/4 にぶい褐色	良好 良好	5	
50-1-11		10-1-2 北側側溝	土製品馬	- (6.9) -	- - -	外) 10YR8/2 灰白色 内) 7.5YR7/4 にぶい褐色 断) 10YR8/2 灰白色・2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
51-1-1		10-1-2 2025 溝	瓦器皿	(11.8) 2.8 -	- - -	外) N4/0 灰色 N5/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
51-1-2		10-1-2 2005 溝	瓦器椀	14.6 3.8 -	- 0.5 -	釉) N3/0 暗灰色 地) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	25	
51-1-3		10-1-2 2025 溝上層	瓦器椀	(15.4) (3.7) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
51-1-4		10-1-2 2025 溝		- (2.8) -	- - -	外) (釉) 2.5GY6/1 オリーブ灰色 内) 2.5GY6/1 オリーブ灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	35	
51-1-5		10-1-2 2006 溝	須恵器器台	- - -	- - -	外) 7.5Y6/1 灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	2	
51-1-6		10-1-2 2025 溝上層	瓦質土器鍋	(29.4) (5.0) -	- - -	外) 7.5Y6/1 灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	5	
51-2		10-1-2 2025 溝	土師質羽釜	(24.0) (7.0) -	- - -	外) N1.5/0 黒色 内) N1.5/0 黒色 断) 2.5Y8/2 灰白色	やや粗 良好	10	
52-1-1		10-1-2 2025 溝	土師器甕	(29.2) (3.2) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	5	
52-1-2		10-1-2 2025 溝	土師器皿	(15.4) (1.7) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	5	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
52-1-5		10-1-2 2025 溝	瓦器 皿	(8.8) 1.6 -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
52-1-6		10-1-2 第1層	土師器 小甕?	- (3.1) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 5YR6/6 橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	やや粗 良好	10	
52-1-7		10-1-2 2025 溝層 内	瓦質土器 羽釜	(25.6) (5.8) -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	10	
52-1-8		10-1-2 2025 溝層 内	瓦質土器 羽釜	(18.0) (8.4) -	- - -	外) N2/ 黒色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	20	
52-1-9		10-1-2 2025 溝	瓦質土器 火鉢	- 6.8 -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
52-2-1		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(8.4) 1.6 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	50	
52-2-2		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(9.8) 2.1 -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	50	
52-2-3		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(15.2) 2.5 -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
52-2-4		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(8.8) 2.1 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	25	
52-2-5		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(8.5) 1.8 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	40	
52-2-8		10-1-2 2025 溝	埴輪	(14.4) (7.3) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	5	
53-1-1		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	(8.4) (1.6) -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	60	
53-1-2		10-1-2 2025 溝(東岸)	土師器 皿	(8.4) 1.7 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	40	
53-1-3		10-1-2 2025 溝(東岸)	土師器 皿	(8.8) 1.7 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	50	
53-1-4		10-1-2 2025 溝(東岸)	土師器 皿	(8.2) 1.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	40	
53-1-5		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	(14.2) (2.3) -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	25	
53-1-6		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	(13.2) (2.5) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/1 灰白色・2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	20	
53-1-7		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	7.2 (2.0) -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	75	
53-1-8		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	7.4 1.2 -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	100	
53-1-9		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	7.3 1.9 -	- - -	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	75	
53-1-10		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.4 1.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	100	
53-1-11		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.0 1.9 -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断)	良好 良好	90	
53-1-12		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.6 1.95 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	60	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
53-1-13		10-1-2 2025 溝東岸	土師器 皿	8.2 1.6 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	60	
53-1-14		10-1-2 2025 溝東岸	土師器 皿	8.4 1.8 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	70	
53-1-15		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.2 1.9 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	98	
53-1-16		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.0 1.7 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	50	
54-1-1		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	17.0 1.9 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	100	
54-1-2		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.0 1.6 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	70	
54-1-3		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.0 1.9 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	95	
54-1-4		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	7.6 1.6 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
54-1-5		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.1 1.9 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	98	
54-1-6		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	7.85 1.7 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	100	
54-1-7		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.5 1.5 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	90	
54-1-8		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	8.6 1.9 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y5/1 灰色	良好 やや甘	90	
54-1-9		10-1-2 2025 溝上層	土師器 皿	9.8 2.2 -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	99	
54-1-10		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	8.0 1.8 -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	80	
54-1-11		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	8.05 2.0 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	90	
54-1-12		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	8.4 1.85 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	70	
54-1-13		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	7.9 1.8 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	60	
54-1-15		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.0 1.9 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	99	
54-1-16		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.2 1.7 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	80	
55-1-1		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	(8.4) 2.0 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	50	
55-1-2		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.4 2.0 -	- - 0.45	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 5Y6/2 灰オリーブ色	良好 良好	95	
55-1-3		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.0 1.8 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	70	
55-1-4		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.1 1.9 -	- - -	外) 5Y6/2 灰オリーブ色 内) 5Y6/2 灰オリーブ色	良好 良好	70	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
55-1-5		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	(8.4) 1.9 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	50	
55-1-6		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.0 1.85 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	70	
55-1-7		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.1 1.9 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断)	良好 良好	95	
55-1-8		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.5 1.75 -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断)	良好 良好	85	
55-1-9		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.4 (1.9) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	40	
55-1-10		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.6 1.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	60	
55-1-11		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.4 1.95 -	- - -	外) 7.5Y7/2 灰白色 内) 7.5Y7/2 灰白色 断)	良好 良好	70	
55-1-12		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	8.3 2.0 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断)	良好 良好	100	
55-1-13		10-1-2 2025 溝東 岸	土師器 皿	9.7 2.1 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	98	
55-1-14		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	10.8 2.15 -	- - -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄色 内) 2.5Y7/3 浅黄色 断) 2.5Y7/3 浅黄色	良好 良好	60	
56-1-1		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	10.1 1.9 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	やや粗 良好	99	
56-1-2		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	8.4 2.05 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断)	良好 良好	75	
56-1-3		10-1-2 2025 溝	土師器 皿	(9.4) 2.1 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	40	
56-1-4		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	10.4 1.9 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色・2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y8/1 灰白色 断) 7.5Y8/2 灰白色	良好 良好	70	
56-1-5		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	8.2 1.5 -	- - 0.5	外) 5Y6/2 灰オリーブ色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断)	良好 良好	30	
56-1-6		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	9.4 2.4 -	- - 0.5	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断)	良好 良好	98	
56-1-7		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	9.7 2.4 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断)	良好 良好	95	
56-1-8		10-1-2 2025 溝 最下層	土師器 皿	(9.7) 2.3 -	- - 0.55	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断)	良好 良好	60	
56-1-9		10-1-2 2025 溝上 層	土師器 皿	(16.3) 2.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	30	
56-1-10		10-1-2 2001pit	土師器 皿	(9.6) (2.1) -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	15	
56-1-11		10-1-2 第3層	陶磁器 不明	- - -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	-	
56-1-12		10-1-2 中央落込み	須恵器 不明	- - -	- - -	外) N6/0 灰色 内) 2.5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	-	波状文あり
57-1-1		10-1-2 2006 溝	土師器 皿	9.7 1.9 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	99	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
57-1-2		10-1-2 2006 溝	瓦質土器 火舎	(44.6) (6.8) -	- - -	外) N6/0 灰色 内) 2.5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	5	
57-1-3		10-1-2 2006 溝	瓦質土器 擂鉢	(33.2) (6.8) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	20	
57-1-4		10-1-2 2026 溝 (下層)	瓦質土器 擂鉢	(33.6) (6.8) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	10	
57-1-5		10-1-2 2028 溝	施釉陶器	- (1.4) -	- - -	釉) 7.5Y6/3 オリーブ黄色 地) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	10	
57-1-6		10-1-2 東壁 2026 溝内	土師器 皿	7.9 1.6 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	100	
57-1-7		10-1-2 東壁 2026 溝内	土師器 皿	8.2 1.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好	60	
57-1-8		10-1-2 2026 溝	土師器 皿	8.5 1.9 -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	100	
57-1-9		10-1-2 2026 溝	土師器 皿	8.3 (1.8) -	- - -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	40	
57-1-10		10-1-2 東壁 2026 溝内	土師器 皿	7.9 (1.6) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	60	
57-1-11		10-1-2 2026 溝下 層	土師器 皿	8.9 2.0 -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	70	
57-1-12		10-1-2 2026 溝下 層	土師器 皿	9.0 1.7 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	50	
58-3-1	67-16	10-1-2 側溝	弥生土器 壺蓋	- (3.6) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	10	
58-3-2	67-17	10-1-2 東側側溝 (第21層)	土製円盤 (壺の転用)	- - -	4.65 4.8 -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR3/1 黒褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	10	
58-3-3	67-18	10-1-2 第21層	土製品 土錘	- - -	(5.6) 4.0 -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	10	
58-3-4	67-6	10-1-2 第21層	弥生土器 甕	(25.4) (4.8) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	5	
58-3-5	67-4	10-1-2 第21層上 層	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色 断) 10YR4/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
58-3-6	67-5	10-1-2 第21層上 層	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 2.5Y3/2 黒褐色 内) 2.5Y3/2 黒褐色 断) 2.5Y3/2 黒褐色	良好 良好	10	
58-3-7	67-7	10-1-2 第21層	弥生土器 甕	(19.0) (6.5) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	15	
58-3-8	67-11	10-1-2 北側側溝	壺?	(34.0) (5.3) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 5Y4/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	-	
58-3-9	67-2	10-1-2 第21層上 層	弥生土器 壺	(16.6) (2.4) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	25	
58-3-10		10-1-2 第21層上 層	弥生土器 甕	- 2.2 -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	20	
59-1-1	67-3	10-1-2 側溝	弥生土器 壺	(13.2) (4.1) -	- - -	外) 7.5YR8/3 浅黄褐色 内) 7.5YR8/3 浅黄褐色 断) 7.5YR8/3 浅黄褐色	良好 良好	30	
59-1-2	67-9	10-1-2 側溝	弥生土器 甕	(29.8) (11.2) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色・ 10YR6/2 灰黄褐色・N4/0 灰色 内) 10YR5/2 灰黄褐色・	良好 良好	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
59-1-3	67-10	10-1-2 北側側溝	弥生土器 大甕?・壺?	(12.0) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	10	
59-1-4	67-8	10-1-2 側溝	弥生土器 甕	(21.2) (10.8) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	15	
59-1-5		10-1-2 第22層	弥生土器 壺?	- - -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色	不良 甘	10	
59-1-6	67-15	10-1-2 側溝	弥生土器 甕	(4.5) -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
59-1-7	67-1	10-1-2 第21層上層	弥生土器 壺	16.8 (9.6) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	10	
60-1-1	67-14	10-1-2 側溝	弥生土器 甕	8.0 (5.2) -	- - -	外) 10YR4/1 褐灰色 内) 10YR5/1 褐灰色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	60	
60-1-2	67-13	10-1-2 北側側溝	弥生土器	- 5.9 -	- - -	外) 4Y4/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	45	
60-1-3	69-7	10-1-2 第22層	弥生土器 甕	(24.2) (4.1) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	10	
60-1-4	69-1	10-1-2 第22層	弥生土器 壺	(14.0) (3.9) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	良好 良好	10	
60-1-5	69-2	10-1-2 第22層	弥生土器 壺	(13.6) (5.3) -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	20	
60-1-6	69-5	10-1-2 第22層	弥生土器	(23.6) (5.8) -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	5	
60-1-7	67-12	10-1-2 第21層	弥生土器 壺?甕?	(2.1) -	- - -	外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 内) 10YR5/3 にぶい黄褐色 断) 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好 良好	10	
60-1-8	72-1	10-1-2 第23層	弥生土器	(3.2) -	- - -	外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 内) 10YR5/3 にぶい黄褐色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	40	
60-1-9	69-6	10-1-2 第22層	弥生土器	(23.6) (6.9) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	5	
60-1-10	71-4	10-1-2 2040土坑	弥生土器 甕	(17.2) (7.3) -	- - -	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色・2.5Y3/2 黒褐色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	5	
60-1-11	72-4	10-1-2 第23層	弥生土器 甕	(26.7) (10.2) -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色・2.5Y2/1 黒色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
61-1-1	69-8	10-1-2 第22層	弥生土器 甕	(17.4) (15.3) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	10	
61-1-2	75-1	10-1-2 (2041溝上層)	弥生土器 甕	(38.2) (7.4) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
61-1-3	69-10	10-1-2 第22層	弥生土器	(7.0) -	- - -	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	10	
61-1-4	73-5	10-1-2 (2041溝上層)	弥生土器	(4.5) -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	60	
61-1-5	69-12	10-1-2 西側落込み 第22層	弥生土器	- 5.5 -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 10YR5/1 褐灰色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	60	
61-1-6	69-11	10-1-2 第22層	弥生土器	(7.4) (7.3) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR4/1 褐灰色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	50	
61-1-7	69-9	10-1-2 第22層	弥生土器	- - -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
62-2-2	72-2	10-1-2 第23層	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	10	
62-1-2	69-3	10-1-2 第23層	弥生土器 壺	- - -	(5.0) - -	外) 7.5YR6/2 灰褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 外・内と同じ	良好 良好	10	
62-1-3	75-3	10-1-2 42溝	弥生土器	(24.4) (6.2) -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい褐色・N2/ 黒色 内) 2.5Y4/1 黄灰色・7.5YR7/2 明褐色 断) 7.5YR6/1 褐灰色	良好 良好	5	
62-1-4	74-3	10-1-2 (2041溝上層)	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい褐色・N2/ 黒色 内) 2.5Y4/1 黄灰色・7.5YR7/2 明褐色 断) 7.5YR6/1 褐灰色	良好 良好	10	
62-1-5	72-2	10-1-2 第22層	弥生土器 壺?	- - -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい褐色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
62-1-6	69-4	10-1-2 第22層	弥生土器 壺	- - -	(3.0) - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	5	
62-1-7	77-3	10-1-2 44溝	弥生土器 壺	- - -	(3.0) - -	外) 10YR3/1 黒褐色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	5	
62-1-8	75-2	10-1-2 (2041溝上層)	弥生土器 甕	(17.6) (7.0) -	- - -	外) 2.5Y3/1 黒褐色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	5	
62-1-9	77-2	10-1-2 第24層(西側)	弥生土器 壺	- - -	- - -	外) 7.5YR5/3 にぶい褐色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	2	
62-1-10	77-4	10-1-2 44溝	弥生土器 壺	- - -	(5.8) - -	外) 2.5Y8/2 灰白色・10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 2.5Y8/2 灰白色・10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	2	
62-1-11	77-1	10-1-2 第24層	弥生土器 壺	(10.8) (4.7) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR6/1 褐灰色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	20	
62-2-1	77-5	10-1-2 東端部落込み	弥生土器 鍋	(30.0) (8.9) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
62-2-2		10-1-2 東端部落込み	弥生土器	- (5.9) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	45	
62-3-2	75-6	10-1-2 2041溝	弥生土器	- (4.0) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色・N3/0 暗灰色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	10	
62-3-3	75-7	10-1-2 2041溝	弥生土器	- (4.4) -	- - -	外) 7.5YR4/1 褐灰色 内) 7.5YR4/1 褐灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	10	
63-1-1	74-1	10-1-2 2041溝	弥生土器 壺	(13.8) (6.0) -	- - -	外) 7.5YR5/3 にぶい褐色 内) 7.5YR5/3 にぶい褐色 断) 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好 良好	90	
63-1-2		10-1-2 2041溝	弥生土器	- - -	- - -	外) 7.5YR5/3 にぶい褐色 内) 7.5YR5/3 にぶい褐色	良好 良好	2	
63-1-3	74-2	10-1-2 2041溝	弥生土器	- - -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	2	
63-1-4	74-7	10-1-2 2041溝	弥生土器 壺	(12.6) (20.0) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	40	
64-1-1	74-6	10-1-2 2041溝	弥生土器 壺	(11.8) (23.45) -	- - -	外) 2.5Y4/1 黄灰色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 5Y5/2 灰オリープ色	良好 良好	80	
64-1-2	75-5	10-1-2 2041溝	弥生土器 甕	- (18.6) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色・10YR2/1 黒色 断) 10YR5/2 灰黄褐色・10YR4/2 灰黄褐色	良好 良好	5	
64-1-3		10-1-2 2041溝	弥生土器	- (8.0) -	- - -	外) 5YR5/4 にぶい赤褐色 内) 5YR5/4 にぶい赤褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	10	
64-1-4	74-4	10-1-2 2041溝	弥生土器	- (6.0) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
64-1-5	75-4	10-1-2 2041 溝	弥生土器 甕	- (18.6) -	- - -	外) 10YR3/1 黒褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色 断) 10YR4/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
64-2	77-6	10-1-2 東端部落込み	鍋?	(30.4) (10.9) -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい褐色 内) 7.5YR5/2 灰褐色 断) 7.5YR5/2 灰褐色	良好 良好	25	
65-1-1		10-1-3 第1層	土師器 皿	(9.2) 1.6 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	25	
65-1-2		10-1-3 第1層	須恵器 鉢	(35.0) - -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	5	
65-1-3		10-1-3 第1層	瓦質土器 火鉢	- (6.2) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	25	
65-1-5		10-1-3 南北側溝 (掘削時)	須恵器 甕	(26.8) (5.2) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N5/0 灰色	良好 良好	5	
65-2		10-1-3 機械掘削 (中近世層)	土師器 皿	9.3 1.5 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	100	
65-3		10-1-3 第2面精査	土師器 皿	9.6 (1.9) -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	50	
65-4		10-1-3 第2層掘削	瓦器 皿	8.8 2.1 -	9.2 - 0.6	外) N5/0 灰色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 甘い	60	
65-5-1		10-1-3 第2層掘削	瓦器 椀	(15.4) (3.4) -	(15.8) - 0.5	外) N5/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) 7.5YR8/1 灰白色	良好 甘い	10	
65-5-2		10-1-3 第2層掘削	土師器 皿	(6.6) (1.25) -	(7.0) - 0.5	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	良好 良好	30	
65-5-3		10-1-3 第2層掘削	土師器 皿	8.4 (1.3) -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	25	
65-5-4		10-1-3 第2層掘削	土師器 皿	9.3 1.5 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄褐色 内) 10YR6/3 にぶい黄褐色 断) 10YR6/3 にぶい黄褐色	良好 良好	25	
65-5-5		10-1-3 第2層掘削	瓦器 椀	- (1.2) -	(7.4) - 0.45	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 5Y4/1 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 やや甘い	5	
65-5-6		10-1-3 第2層掘削	土師器 皿	12.4 (2.0) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色 断) 7.5YR7/3 にぶい橙色	良好 良好	16	
65-5-7		10-1-3 第2層掘削	土師器 皿	(9.6) 2.1 -	(9.8) - 0.4	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 5Y3/1 オリーブ黒色	良好 やや甘い	12	
65-5-8		10-1-3 南北側溝 (掘削時)	土師器 皿	15.7 (3.1) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	15	
65-5-9		10-1-3 第2層掘削	瓦器 椀	- 1.6 -	(8.6) - 0.35	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N7/0 灰白色	良好 やや甘い	15	
65-5-11		10-1-3 第2層掘削	埴輪	- - -	(9.1) (7.3) 2.0	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	5	
65-5-12		10-1-3 第2面精査	埴輪	- (6.25) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	5	
66-1-1		10-1-3 3008 井戸	土師器 皿	7.2 (1.5) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	25	
66-1-2		10-1-3 3008 井戸	土師器 皿	7.6 (1.2) -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	25	
66-1-3		10-1-3 3008 井戸	土師器 皿	(8.4) (1.3) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	良好 良好	25	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
66-1-4		10-1-3 3008 井戸	土師器 皿	13.2 (2.9) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	18	
66-1-5		10-1-3 3008 井戸		22.3 (2.2) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
66-1-6		10-1-3 3008 井戸 (西半分)	土師器 皿	(8.8) 1.6 -	- - 0.55	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 5YR7/4 にぶい褐色	良好 良好	30	
66-1-7		10-1-3 3008 井戸	土師器 皿	12.3 (2.3) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR8/3 浅黄橙色	良好 良好	20	
66-1-8		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	11.6 (5.1) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	17	
66-1-9		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	16.4 (4.0) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 10YR5/1 褐灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
66-1-10		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	(13.6) (3.85) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	10	
66-1-11		10-1-3 3008 井戸 (西半分)	土師質 羽釜	(25.0) (4.6) -	- - (1.2)	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好 良好	5	
66-2-1		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	(15.8) 4.3 -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	15	
66-2-2		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	(18.4) (4.0) -	- - 0.45	外) N4/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	10	
66-2-4		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	- 1.9 -	- - 0.35	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	20	
66-2-5		10-1-3 3008 井戸	瓦器 椀	- (2.1) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	80	
66-2-6		10-1-3 3008 井戸	瓦器 皿?	(9.6) 2.3 -	- - 0.6	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 やや甘	50	
67-1-1		10-1-3 3008 井戸	須恵器 壺	(21.6) (5.9) -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) N7/0 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
67-2-1		10-1-3 3009 井戸	土師器 高坏	- (6.8) -	- - -	外) 7.5YR5/4 にぶい褐色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) N3/0 暗灰色	やや粗 やや甘	10	
67-2-2		10-1-3 3013 池		(17.9) (6.0) -	- - -	外) 7.5YR8/4 浅黄橙色 内) 10YR8/4 浅黄橙色 断) N4/0 灰色	やや粗 やや甘	10	
67-2-3		10-1-3 3009 井戸	土師器	- - -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色・10YR5/2 灰黄褐色 断) 7.5YR8/3 浅黄橙色	やや粗 良好	5	
67-3-1		10-1-3 3010 井戸	瓦器 椀	(13.8) (3.8) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
67-3-2		10-1-3 3010 井戸	瓦器 椀	- (1.7) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
67-3-3		10-1-3 3010 井戸	瓦器 椀	- (1.2) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	5	
67-3-4		10-1-3 3010 井戸	瓦器 椀	16.0 (5.0) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	50	
67-4-1		10-1-3 3012 井戸	瓦器 椀	(15.0) (4.9) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色・N4/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	30	
67-4-2		10-1-3 3012 井戸 (最下層)	瓦器 椀	(15.4) 5.5 -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	40	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
67-5		10-1-3 3012 井戸 (最下層)	土師器 皿	12.6 (2.6) -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	9	
68-1-1		10-1-3 3012 井戸	瓦器 椀	(14.4) 4.9 -	- - 0.5	外) 7.5Y5/1 灰色～N3/0 暗灰色 内) 7.5Y4/1 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 甘い	20	
68-1-2		10-1-3 3012 井戸	土師器 皿	(14.3) (2.8) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR4/1 褐灰色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	50	
68-1-3		10-1-3 3012 井戸	土師器 皿	13.4 (2.7) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	33	
68-2-1		10-1-3 3012 井戸 (側溝内)	土師器 皿	(14.1) 2.8 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	やや粗 やや甘	20	
68-2-2		10-1-3 3012 井戸 (最下層)	土師器 皿	(9.5) 1.9 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	30	
68-2-3		10-1-3 3012 井戸	瓦器 椀	(15.3) (4.4) -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
68-2-4		10-1-3 3012 井戸 (側溝内)	瓦器 椀	(15.4) (4.7) -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色・N3/0 暗灰色 内) 5Y7/1 灰白色・N3/0 暗灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	20	
68-2-5		10-1-3 3012 井戸 (最下層)	瓦器 椀	(15.4) (4.6) -	- - -	外) 5Y8/1 灰白色 内) 5Y8/1 灰白色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
68-2-6		10-1-3 3012 井戸 (最下層)	瓦器 皿	(10.0) 2.1 -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	30	
68-2-7		10-1-3 3012 井戸 (側溝内)	瓦器 椀	- (2.5) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	80	
68-2-8		10-1-3 3012 井戸	瓦器 椀	(1.8) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
69-1-1		10-1-3 3013 池	瓦器 椀	(16.0) 5.2 -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	20	
69-1-2		10-1-3 3017pit	須恵器 杯身	9.0 (2.1) -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) 5RP6/1 紫灰色	良好 良好	30	
69-1-3		10-1-3 3014 焼土 坑	瓦器 椀?	(9.4) 2.8 -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	15	
69-1-4		10-1-3 3013 池	瓦器 皿	- (0.85) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	12	
69-1-5		10-1-3 3013 池	土師器 皿	(9.5) (1.8) -	- - -	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好 良好	25	
69-1-6		10-1-3 03024	土師器 皿	8.0 (1.1) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	15	
69-1-7		10-1-3 3014 焼土 坑	土師器 皿	(7.6) 1.1 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR8/3 浅黄橙色 断) 10YR7/1 灰白色	良好 良好	25	
69-1-8		10-1-3 3031pit	土師器 皿	(9.2) 1.15 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	14	
69-1-9		10-1-3 3044 溝	土師器 皿	8.8 (0.9) -	- - -	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	20	
69-1-10		10-1-3 3050pit		(7.2) 1.3 -	- - 0.45	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 10YR7/1 灰白色	良好 やや甘	25	
69-1-11		10-1-3 3031pit	土師器 皿	6.3 (1.2) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	13	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
69-1-12		10-1-3 3057pit	瓦器 椀	- (1.7) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	底 28	
69-1-13		10-1-3 3069 土坑	瓦器 椀	(15.8) (2.1) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	5	
69-1-14		10-1-3 3069 土坑	土師器 皿?	(13.6) (2.1) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR8/4 浅黄橙色	良好 良好	5	
69-2-1		10-1-3 3050pit	土師器 皿	(8.4) 1.3 -	- 0.45 -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	25	
69-2-2		10-1-3 3070pit	土師器 皿	9.5 (1.55) -	- - -	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好 良好	11	
69-2-3		10-1-3 3070pit	土師器 皿	8.7 (1.2) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	14	
69-2-4		10-1-3 3096pit	瓦器 皿	7.8 1.75 -	- - -	外) N5/0 灰色・5Y6/1 灰色 内) N4/0 灰色・N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
69-2-5		10-1-3 3094pit	土師器 皿	9.6 (1.6) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	12.	
69-2-6		10-1-3 3094pit	土師器 皿	(7.0) 1.25 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	16	
69-2-7		10-1-3 3094pit	土師器 皿	7.2 (1.3) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	15	
69-2-8		10-1-3 3013 池	壺?	- (2.8) -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	40	
69-2-9		10-1-3 3102 土坑 (西半部)	土師器 皿	9.4 (1.5) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	20	
69-2-10		10-1-3 3094pit	瓦器 皿	(8.9) 2.3 -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	30	
69-2-11		10-1-3 3102 土坑 (西半部)	土師器 甕	(22.4) (3.8) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	5	
69-2-12		10-1-3 3102 土坑 (西半部)	土師質 羽釜	- (5.0) -	- - -	外) 10YR6/4 にぶい黄褐色 内) 10YR6/3 にぶい黄褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	5	
69-2-13		10-1-3 3102 土坑	瓦器 椀	- (0.9) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	14	
69-2-14		10-1-3 3102 土坑	須恵器 杯身	13.8 (2.1) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5RP6/1 紫白色	良好 良好	15	
70-1-1		10-1-3 3012 井戸 (側溝内)	瓦器 皿	(9.6) 2.05 -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	30	
70-1-2		10-1-3 3012 井戸	土師器 皿	9.4 1.4 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	40	
70-2		10-1-3 3103 溝	土師器 皿	9.55 1.7 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 2.5YR7/4 淡赤橙色 断)	良好 良好	80	
70-3		10-1-3 3116 土坑	瓦器 椀	(15.4) (5.1) -	- 0.5 -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 10Y3/1 黒褐色	良好 甘い	25	
70-4		10-1-3 3122 落込み	埴輪	- (22.8) -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	5	
70-5		10-1-3 3102 土坑 (西半部)	埴輪	(18.2) (10.4) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 10YR4/1 褐灰色	良好 良好	5	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
71-1-1		10-1-3 3072 井戸	土師器 皿	(6.6) 1.3 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	20	
71-1-2		10-1-3 3072 井戸	土師器 皿	9.8 (1.5) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR8/4 浅黄橙色	良好 良好	19	
71-1-3		10-1-3 3072 井戸	土師器 皿	(9.2) (1.5) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 5YR6/4 にぶい橙色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
71-1-4		10-1-3 3072 井戸	土師器 皿	16.2 (2.2) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR8/3 浅黄橙色 断) 7.5YR7/3 にぶい橙色	良好 良好	14	
71-1-5		10-1-3 3072 井戸	土師器 皿	(8.4) (1.5) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色 断) 7.5YR6/3 にぶい褐色	良好 良好	25	
71-1-6		10-1-3 3072 井戸	瓦器 椀	(13.8) (2.9) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 やや甘	5	
71-1-7		10-1-3 3072 井戸	瓦器 椀	- (1.5) -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) N6/0 灰色	良好 良好	8	
71-1-8		10-1-3 3088pit	瓦器 椀	- - -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N6/0 灰色	良好 良好	5	
71-1-9		10-1-3 3072 井戸	土師器 羽釜	- 5.3 -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
71-1-10		10-1-3 3072 井戸	土師器 高坏	- (2.0) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
71-1-11		10-1-3 3072 井戸	須恵器 鉢	(33.2) (2.7) -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	5	
71-2		10-1-3 3072 井戸 (最下層)	瓦器 椀	14.8 (5.0) -	- - -	外) N4/0 灰色・2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y4/1 黄灰色・2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	17	
71-3-1		10-1-3 3117pit	瓦器 椀	(14.4) (3.8) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
71-3-2		10-1-3 3117pit	瓦器 椀	- (1.7) -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	50	
71-4		10-1-3 3072 井戸 (最下層)	瓦器 椀	14.9 (5.4) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
72-1		10-1-3 3072 井戸 (最下層)	土師質 羽釜	27.7 20.35 -	- - -	外) 5YR4/4 にぶい赤褐色 ~ N2/ 黒色 内) 5YR6/6 橙色~ N2/ 黒色	やや粗 良好	60	
72-2-1		10-1-3 第3面精査	土師器 皿	(10.6) 1.8 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	12	
72-2-2		10-1-3 第3層	土師器 皿	8.0 (1.3) -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	15	
72-2-3		10-1-3 第3面精査	土師器 皿	(8.0) 1.2 -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	20	
72-2-4		10-1-3 第3-1層	土師器 皿	(12.4) 2.1 -	- - -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	10	
72-2-5		10-1-3 第3面精査	土師器 皿	(11.2) (2.1) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	15	
72-2-6		10-1-3 西壁1~4 層	瓦器 椀	(15.9) (3.9) -	- - -	外) N4/0 灰色・N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	10	
72-2-7		10-1-3 第3層	泥面子?	- - -	2.4 1.85 -	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	?	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
72-2-8		10-1-3 第2層掘削	土師器	(20.0) (3.9) -	- - -	外) 5YR6/6 橙色 内) 5YR5/4 にぶい赤褐色 断) 5YR6/6 橙色	良好 良好	5	
72-2-9		10-1-3 第3層	二重口縁壺	20.5 (6.8) -	- - -	外) 5YR6/6 橙色 内) 5YR6/6 橙色 断) 5Y2/1 黒色	良好 良好	18	
72-2-10		10-1-3 第3-1層	弥生土器? 壺?	- (6.8) -	- - -	外) 10YR8/3 浅黄橙色 内) 7.5YR8/3 浅黄橙色 断) 5Y6/1 灰色	良好 やや甘	5	
72-2-11		10-1-3 第5層(東 半部)	土師器 甕	- (3.6) -	- - -	外) 10YR5/1 褐灰色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	5	
73-1-1		10-1-4 第3層下層	青磁 碗	- (1.9) -	- - -	釉) 5G7/1 明緑灰色 地) 10YR5/1 褐灰色 内) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	40	
73-1-2		10-1-4 第4層	瓦器 椀	(11.6) (2.8) -	- - -	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	20	
73-1-3		10-1-4 8pit	不明土製品	- - -	6.2 5.1 3.3	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
73-1-4		10-1-4 第3層下層	備前 甕	- (6.4) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	5	
73-1-5		10-1-4 第4層	灰釉陶器 平椀	5.8 (1.9) -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	95	
73-1-6		10-1-4 第4層	須恵器 壺 A	- (6.4) -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
73-1-7		10-1-4 第4層	青磁 碗	- (4.1) -	- - -	釉) 5Y6/3 オリーブ黄色 地) 5Y6/2 灰オリーブ色	良好 良好	20	
73-2-1		10-1-4 25溝	土師器 皿	(8.4) 1.0 -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
73-2-2		10-1-4 4025大溝	土師器 皿	(10.4) 1.5 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	40	
73-2-3		10-1-4 4025大溝	土師器 皿	(11.6) 1.8 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色 断) 5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	25	
73-2-4		10-1-4 4025大溝	土師器 皿	10.0 2.3 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	70	
73-2-5		10-1-4 4025大溝	瓦器 碗	- (1.3) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	95	
73-2-6		10-1-4 4025大溝	青磁 碗	- (2.9) -	- - -	釉) 7.5GY6/1 オリーブ灰色 地) 7.5Y6/1 灰色 内) 2.5GY6/1 オリーブ灰色	良好 良好	30	
73-2-7		10-1-4 4025溝	須恵器 甕	(19.4) (4.6) -	- - -	外) 7.5Y6/1 灰色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
73-2-8		10-1-4 4025大溝	須恵器 鉢	(23.6) (3.3) -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) N6/0 灰色	良好 良好	10	
73-2-9		10-1-4 4025大溝	瓦質土器? 播鉢?	- (3.3) -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y4/1 灰色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
74-1-1		10-1-4 4025大溝	瓦質土器 火鉢?	(25.4) (7.5) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	10	
74-1-2		10-1-4 4025溝	瓦質土器 鉢	(29.6) (4.8) -	- - -	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	5	
74-1-3		10-1-4 4025溝上 層	瓦質土器 鉢	(20.6) (6.7) -	- - -	外) 10YR4/1 褐灰色 内) N6/0 灰色 断) 10YR8/1 灰白色	良好 良好	5	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
74-1-4		10-1-4 4025 大溝	陶器 播鉢	(31.8) (5.3) -	- - -	外) 7.5YR5/2 灰褐色・5YR6/3 にぶい橙色 内) 7.5YR5/2 灰褐色・5YR6/3 にぶい橙色 断) 7.5YR8/2 灰白色・5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
74-1-5		10-1-4 4025 溝	陶器 鉢	- (7.1) -	- - -	外) 10YR5/1 褐灰色 内) 10YR5/1 褐灰色 断) 10YR にぶい黄橙色・10YR7/1 灰白色	良好 良好	10	
74-2-1		10-1-4 4025 大溝	土師器 羽釜	(34.0) (5.7) -	- - -	外) N4/0 灰色・5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	5	
74-2-2		10-1-4 4025 溝	土師器 羽釜	- (5.3) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
74-2-3		10-1-4 4025 溝	土師器 羽釜	(25.6) (7.0) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	良好 良好	10	
74-2-4		10-1-4 4025 溝	土師器 羽釜	- (8.6) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
75-1-1		10-1-4 4025 大溝	瓦質土器 羽釜	(20.6) (5.3) -	- - -	外) 7.5Y2/1 黒色 内) 7.5Y2/1 黒色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
75-1-2		10-1-4 4025 溝	瓦質土器 羽釜	(28.2) (9.3) -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	5	
75-1-3		10-1-4 4025 大溝	瓦質土器 羽釜	(30.2) (5.8) -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
75-1-4		10-1-4 4025 大溝	瓦質土器 羽釜	(15.0) (7.5) -	- - -	外) 5Y8/1 灰白色・2.5Y3/1 黒褐色 内) 5Y8/1 灰白色・2.5Y3/1 黒褐色 断) 5Y8/1 灰白色・2.5Y3/1 黒褐色	良好 良好	25	
75-2-1		10-1-4 4025 溝	軒丸瓦	- - -	(11.4) (7.3) -	外) 5Y6/1 灰色 内) N5/01 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	5	
75-3-1		10-1-4 4038 井戸	土師器 皿	(8.2) (1.1) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	5	
75-3-2		10-1-4 4039pit	青磁 碗	(15.8) (4.3) -	- - -	釉) 7.5Y5/2 灰オリーブ色 内) 7.5Y5/2 灰オリーブ色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
75-3-3		10-1-4 4039pit	青磁 碗	- (4.9) -	- - -	釉) 7.5GY7/1 明緑灰色 内) 7.5GY7/1 明緑灰色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
75-3-4		10-1-4 4040 井戸	須恵器 鉢	(31.4) (6.2) -	- - -	外) N5/0 灰色・7.5Y6/1 灰色 内) N5/0 灰色・7.5Y6/1 灰色 断) 7.5Y6/1 灰色	良好 良好	10	
76-1-1		10-1-4 4040 井戸	瓦器 椀	11.1 2.9 -	- - -	外) N4/0 灰色・2.5Y7/1 灰色 内) N5/0 灰色・2.5Y7/1 灰色 断) 2.5Y7/1 灰色	良好 良好	80	
76-1-2		10-1-4 4040 井戸	瓦器 椀	11.0 3.0 -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	99	
76-1-3		10-1-4 4040 井戸	瓦質土器 羽釜	27.0 21.1 -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	80	
76-1-4		10-1-4 4040 井戸	土師質 羽釜	29.7 (27.8) -	(42.0) - -	外) 7.5Y2/2 黒褐色 (体部) 2.5Y7/6 橙色 (口縁) 内) 5YR7/6 橙色	良好 良好	70	
76-1-5		10-1-4 4040 井戸	瓦質土器 羽釜	27.0 20.0 -	- - -	外) N6/0 灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	80	
76-2-1		10-1-4 第4層	土師器 小型器台	- - -	- - -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) 2.5Y6/3 にぶい黄色	良好 良好	10	
76-2-2		10-1-4 第6層	土師器 蓋?	- 6.6 -	- - -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄色 断) 2.5Y6/3 にぶい黄色	やや粗 良好	20	
76-2-5		10-1-4 第6層	弥生土器 外来系壺	(13.6) (3.2) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	5	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
76-2-6		10-1-4 第6層	弥生土器 V 甗	- (2.6) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR3/1 黒褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	50	
76-2-7		10-1-4 第6層	弥生土器 甗	(15.6) (3.8) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
77-1-1		10-1-5 東側側溝 第3～5層	土師器 皿	(10.0) (1.9) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	10	
77-1-2		10-1-5 第1～3層 上部	土師器 皿	(11.4) (2.2) -	- - -	外) 10YR7/4 にぶい黄褐色 内) 10YR7/4 にぶい黄褐色 断) 10YR4/1 褐灰色	良好 良好	0	
77-1-3		10-1-5 第3層	施釉陶器 小壺	- (2.1) - (7.9)	- - -	釉) 5Y6/2 灰オリーブ色 地) 10YR8/3 浅黄橙～2.5YR5/4 にぶい赤褐色 内) 2.5Y8/3 浅黄色 断) 7.5YR7/3 にぶい橙色	やや粗 やや甘	10	
77-1-4		10-1-5 第1～3層 上部	瓦器 椀	15.0 3.6 -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	15	
77-1-5		10-1-5 東側側溝 第3～5層	瓦器 椀	(13.3) (2.6) -	- - -	外) N4/0 灰 内) N4/0 灰 断) N8/0 灰白	良好 良好	10	
77-1-6		10-1-5 第3層	不明	- (2.8) -	- - -	外) 2.5Y3/1 黒褐色 内) 2.5Y3/1 黒褐色 断) N5/0 灰	良好 良好	110	
77-1-7		10-1-5 第3層～第 4面遺構	瓦質土器 甗	(19.4) (3.8) -	- - -	外) 7.5Y4/1 灰色 内) 7.5Y5/1 灰色・N3/0 暗灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	20	
77-1-8		10-1-5 第3層	土製品	- - -	2.4 2.3 -	外) 10YR6/3 にぶい黄褐色	良好 良好	10	
77-2-1		10-1-5 5005 井戸	土師器 皿	(8.1) (1.1) -	- - -	外) 7.5YR7/3 にぶい橙色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色 断) 7.5YR7/3 にぶい橙色	良好 良好	10	
77-2-2		10-1-5 5007pit	土師器 皿	8.0 1.6 -	- - -	外) 5YR6/4 にぶい橙色 内) 5YR6/4 にぶい橙色 断) 5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	15	
77-2-3		10-1-5 5007pit	瓦器 皿	10.0 2.4 -	- - -	外) N5/0 灰 内) N5/0 灰 断) N8/0 灰白	良好 良好	20	
77-2-4		10-1-5 5010pit	瓦器 椀	(12.3) (2.1) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
77-2-5		10-1-5 5049 井戸	土師器 皿	(10.8) 2.4 -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	10	
77-2-6		10-1-5 5049 井戸	土師器 皿	8.0 1.7 -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色・7.5YR6/4 にぶい橙色 内) 10YR6/2 灰黄褐色・7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	95	
77-2-7		10-1-5 5049 井戸	須恵器	- 9.4 -	- - -	外) 5Y7/1 灰白色 内) N4/0 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	5	
78-2-1		10-1-5 5005 井戸	瓦器 椀	(14.0) (4.3) -	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	35	
78-2-2		10-1-5 5005 井戸	瓦器 椀	(15.0) (4.85) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	40	
78-2-3		10-1-5 5005 井戸	瓦器 椀	(14.2) 5.2 - 5.0	- - -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) N8/0 灰白色	良好 良好	50	
78-3		10-1-5 5015 井戸	土師器 皿	(14.45) 3.2 -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色・5YR6/4 にぶい橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色・10YR3/2 黒褐色	良好 良好	90	
78-5-1		10-1-5 5049 井戸	土師器 羽釜	(21.6) (5.1) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色・N1.5/ 黒色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	15	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
79-1-1		10-1-5 5049 井戸	瓦質土器鉢	(29.8) (8.2) -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	良好 良好	10	
79-1-2		10-1-5 5049 井戸	瓦質土器鉢	(28.6) (9.7) -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	20	
79-1-3		10-1-5 5049 井戸	土師器	- (4.3) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色・(N4/0 灰色)	良好 良好	10	
79-2-1	108-1	10-1-5 5058 周溝墓裾部	弥生土器壺	(14.8) 26.4 -	- - -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	80	
79-2-2	108-2	10-1-5 5058 周溝墓裾部	弥生土器壺	19.0 33.2 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	90	
79-2-3	110-1	10-1-5 5058 周溝墓裾部	弥生土器広口壺	31.5 47.4 -	- - -	外) 10YR5/3 にぶい黄褐色 ~ N2/ 黒色 内) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	90	
79-2-4	109-1	10-1-5 5058 周溝墓裾部	弥生土器壺	22.9 37.25 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色	良好 良好	90	
52-1-3・4		10-1-2 2025 溝	土師器ミニチュア?羽釜	(7.4) (2.6) -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	5	
66-2-3 67-1-2		10-1-3 308 井戸(西半分)	須惠器鉢	(28.6) 10.2 -	- - -	外) 5Y5/1 灰色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	25	
77-2-8・9		10-1-5 5049 井戸	軒丸瓦	- - -	- - -	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
80-1-1		10-1-6 第1層	陶器	- - -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	5	
80-1-2	117-1	10-1-6 第3層	陶器	(1.8) - -	- - -	釉) 5Y6/1 灰色 地) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y6/1 灰色	良好 良好	30	
80-1-3		10-1-6 第3層	瓦	- - -	(7.0) (5.2) 2.3	外) 7.5YR6/1 灰色 内) 7.5YR6/1 灰色 断) 7.5YR6/1 灰色	良好 良好	10	
80-1-4	117-2	10-1-6 第3層	須惠器杯?	(1.9) - -	- - -	外) N5/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) N5/ 灰色	良好 良好	25	
80-1-5	117-3	10-1-6 第3層	須惠器底部	(3.7) - -	- - -	外) N6/ 灰色 内) N7/ 灰白色 断) 2.5YR6/2 灰赤色	良好 良好	30	
80-1-6	117-4	10-1-6 第3層	須惠器	3.3 - -	- - -	外) N4/ 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	5	
80-2	117-5	10-1-6 第6層下部	土師器甕	(16.0) (9.9) -	- - -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	50	
80-3	117-6	10-1-6 第16層最上部	弥生土器甕	(15.2) (11.2) -	- - -	外) 10YR2/2 黒褐色 内) 10YR4/2 灰黄褐色 断) 10YR4/2 灰黄褐色	良好 良好	25	
80-4-3	120-2	10-1-6 6010 土坑	弥生土器甕	21.2 31.8 -	- - 2.0	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 7.5YR6/4 にぶい橙色 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	良好 良好	60	
80-4-4	121-1	10-1-6 6010 土坑	弥生土器壺	23.35 (14.8) -	- - -	外) 5YR8/4 淡橙色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	やや粗 甘	10	
80-4-5	121-2	10-1-6 6010 土坑	弥生土器壺	(38.7) - -	- - -	外) 5YR7/4 にぶい橙色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	やや粗 良好	10	
81-1-3	130-5	10-1-7 第4層	須惠器杯身	10.6 (2.6) -	- - -	外) N7/ 灰白色 内) N6/ 灰色 断) N4/ 灰色	良好 良好	20	
81-1-4	130-4	10-1-7 7004 落込み	須惠器杯身	(1.8) - -	- - -	外) N7/ 灰白色 内) N7/ 灰白色 断) N7/ 灰白色	良好 良好	5	へラ記号あり

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
81-1-5		10-1-8 第5層	瓦	- - -	8.1 8.8 2.7	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	- -	10	
81-2		10-1-7 7004 落込み	須恵器 提瓶	- - -	- - -	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	- -	30	
81-3	130-10	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 底部	- (5.0) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 5Y2/1 黒色	良好 良好	10	
81-4-1	130-6	10-1-7 第10層(下層)	土師器? 甕	(15.4) (2.1) -	- - -	外) N2/ 黒色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	良好 良好	10	
81-4-2		10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 壺	13.6 (5.0) -	- - 0.9	外) 7.5YR5/3 にぶい褐色 内) 7.5YR5/3 にぶい褐色 断) 10YR2/2 黒褐色	良好 良好	5	
81-4-3	130-9	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 鉢	(12.2) (3.9) -	- - -	外) 7.5YR6/3 にぶい黄 内) 5YR6/6 橙色・5YR4/2 灰褐色 断) 5YR6/6 橙色	良好 良好	25	
81-4-4	130-3	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 壺	14.6 (5.3) -	- - -	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	5	
81-4-5	130-14	10-1-7 第10層(最下層)ト	弥生土器 底部	- (3.55) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	良好 良好	5	
81-4-6	130-11	10-1-7 第10層(最下層)ト	ミニチュア 土器 底部	- (2.1) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	良好 良好	5	
81-4-7	130-15	10-1-7 第10層(下層)		- - -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	良好 良好	5	
81-4-8	130-12	10-1-7 第10層(砂)	弥生土器 壺?	- (2.6) -	- - -	外) 5Y6/2 灰オリーブ色 内) N4/ 灰色 断) 5Y6/2 灰オリーブ色	良好 良好	10	
81-4-9	130-13	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 底部	- (4.3) -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/3 にぶい黄褐色 断) 10YR5/3 にぶい黄褐色	良好 良好	5	
82-1-1	130-8	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 甕	17.0 (7.5) -	- - 0.7	外) 7.5YR3/2 黒褐色 内) 7.5YR3/1 黒褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	5	
82-1-2	130-16	10-1-7 第10層(最下層)ト	弥生土器 甕	20.2 (8.0) -	- - -	外) 5Y3/1 オリーブ黒色 内) 5Y3/1 オリーブ黒色 断) 5Y3/1 オリーブ黒色	良好 良好	10	
82-1-3	130-7	10-1-7 第10層(最下層)ト	弥生土器 甕	15.0 (7.1) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 10YR5/3 にぶい黄褐色・ 断) 10YR4/3 にぶい黄褐色	良好 良好	10	
82-1-4	130-17	10-1-7 第10層(下層)	弥生土器 鉢	37.2 (9.3) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色 断) 2.5Y5/2 暗灰黄色	良好 良好	5	
82-2-1	137-2	10-1-7 第19層	弥生土器 甕	- 7.1 -	- - -	外) 10YR3/1 黒褐色 内) 2.5Y3/2 黒褐色 断) 2.5Y3/2 黒褐色	良好 良好	10	
82-2-2	137-3	10-1-7 第19層	弥生土器 甕	- (7.9) -	- - -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	10	
82-3-1	137-4	10-1-7 7024 溝	弥生土器 鉢	33.6 (18.4) -	- - -	外) 10YR3/2 黒褐色 内) 10YR3/2 黒褐色 断) 10YR3/2 黒褐色	良好 良好	20	
82-3-2	137-5	10-1-7 7024 溝	弥生土器 底部	- (12.3) -	- - -	外) 10YR4/2 灰黄褐色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y4/1 黄灰色	良好 良好	10	
-	137-1	10-1-7 第19層	弥生土器 壺	30.2 (6.6) -	- - -	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/1 黄灰色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	10	
83-1-1	147-7	10-1-9 第2層	土師器 甕?	- (3.7) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 2.5Y6/2 灰白色 断) 7.5YR8/2 灰白色	良好 良好	10	
83-1-2		10-1-9 東壁 第1~6層	軒丸瓦	- - -	- - -	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR5/2 灰黄褐色 断) 10YR5/2 灰黄褐色	- -	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
83-1-3	147-6	10-1-9 第2層	土師器皿	(13.5) (1.75)	- -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	20	
83-1-4	147-10	10-1-9 第2層	陶器鉢	(3.0)	- -	外) 7.5YR5/2 灰褐色・7.5YR6/3 にぶい褐色 内) 7.5YR7/3 にぶい褐灰色・N4/ 灰色 断) 7.5YR6/6 橙色	良好 良好	10	
83-1-5		10-1-9 第2層	埴輪	- -	- -	外) 10Y6/3 にぶい黄橙色 内) 10Y6/3 にぶい黄橙色 断) 2.5Y7/1 灰白色	- -	10	
83-2-1		10-1-9 第3層	土師器皿	(8.2) 1.5	- -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	45	
83-2-2		10-1-9 北側側溝 第3層	土師器皿	(8.4) (1.2)	- -	外) 10Y6/3 にぶい黄橙色 内) 10Y6/3 にぶい黄橙色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
83-2-3		10-1-9 北側側溝 第3層	土師器皿	7.5 1.2	- -	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 10YR6/2 灰黄褐色	良好 良好	70	
83-2-4		10-1-9 北側側溝 第3層	青磁碗	(2.0)	- -	釉) 7.5Y6/2 灰オリーブ色 地) 7.5YR4/3 褐色 内) 7.5YR4/3 褐色	良好 良好	10	
83-2-5		10-1-9 西側側溝 第1～3層	土師器皿	8.4 2.0	- -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	60	
83-2-6		10-1-9 第3面中央 トレンチ(瓦器皿	(9.8) (1.6)	- -	外) N6/ 灰色 内) N6/ 灰色・5Y8/1 灰白色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
83-3-1		10-1-9 高台 第4層	土師器皿	(4.9) (1.8)	- -	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR7/3 にぶい黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	80	
83-3-2		10-1-9 第4層	青磁碗	(4.2)	- -	釉) 10Y6/2 オリーブ灰色 地) 5Y7/1 灰白色・7.5YR6/3 にぶい褐色 内)	良好 良好	10	
83-3-3		10-1-9 高台 第4層	土師器皿	9.9 1.8	- -	外) 7.5YR7/3 にぶい橙色 内) 7.5YR7/3 にぶい橙色 断) 7.5YR7/3 にぶい橙色	良好 良好	100	
83-3-4		10-1-9 高台下 第4層下層	土師器皿	9.5 1.95	- -	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	良好 良好	100	
84-1-1	151-13	10-1-9 第4層	須恵器 甕	- -	6.0 -	外) 5Y5/1 灰色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 5Y5/1 灰色	良好 良好	10	
84-1-2		10-1-9 南壁	軒平瓦	- -	(9.2) (6.2)	外) N6/ 灰 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色・N6/ 灰色 断) N6/ 灰・7.5YR7/6 褐色	良好 やや甘	20	
84-1-3	151-12	10-1-9 東西方向サブトレンチ	須恵器	(32.5) (4.3)	- -	外) N6/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	10	
84-1-4	150-6	10-1-9 南壁 9006 井戸	瓦器 土筒	9.4 18.2	- 1.0	外) N5/ 灰 内) N5/ 灰 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	80	
84-1-5	150-5	10-1-9 南壁 9006 井戸	瓦器 土筒	13.0 14.0	- 0.8	外) N3/ 暗灰色 内) N3/ 暗灰色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	50	
84-2-1	151-1	10-1-9 第4層	土師器皿	(8.4) 1.4	- -	外) 5Y7/2 灰白色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y7/2 灰白色	良好 良好	35	
84-2-2	151-6	10-1-9 第4層	土師器皿	(8.4) (1.75)	- -	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 7.5YR7/4 にぶい褐色	良好 良好	35	
84-2-3	151-2	10-1-9 高台中央部 第4層	土師器皿	(9.2) (1.6)	- -	外) 7.5YR6/4 にぶい褐色 内) 7.5YR6/4 にぶい褐色 断) 7.5YR6/4 にぶい褐色	良好 良好	30	
84-2-4	150-4	10-1-9 第4面精査	磁器?	(15.6) (4.0)	- -	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	10	
84-2-5	151-7	10-1-9 第4層	瓦器 椀	(11.8) (3.2)	- -	外) 7.5Y5/1 灰色・5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y5/1 灰色・5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径 器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
84-2-6	151-14	10-1-9 第4層下層	軒丸瓦	- - -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) N7/ 灰白色	- -	5	
84-2-7	151-9	10-1-9 東西方向サブ トレンチ	磁器 碗	(1.5) - -	- - -	釉) 2.5GY6/1 オリーブ灰色 地) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
84-2-8	151-8	10-1-9 第4層	陶器 蓋	- 1.7 -	- - -	釉) 5YR4/1 褐灰色 地) 5Y5/2 灰褐色 内)	良好 良好	95	
84-2-9	151-10	10-1-9 高台下 第4層下層	白磁 碗	(2.2) - -	- - -	釉) 5Y8/1 灰白色 地) 5Y8/1 灰白色 内) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	5	
84-2-10	150-11	10-1-9 南壁断面	青磁 碗	(2.6) - -	- - -	外) 10YR6/2 オリーブ灰色 内) 10YR6/2 灰黄褐色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	45	
85-1-1・ 3		10-1-9 第5面精査	土師器 皿	(8.0) (1.7) -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	45	
85-1-2	155-1	10-1-9 第5面精査	瓦器 椀?	(10.2) (2.5) -	- - -	外) 5Y6/1 灰色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
85-1-4	150-1	10-1-9 5溝	土師器 皿	(8.6) (1.5) -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	25	
85-1-5		10-1-9 7炭だまり	土師器 皿	(7.6) (1.4) -	- - -	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色 断) 2.5Y5/2 暗灰色黄	良好 良好	30	
85-1-6	150-2	10-1-9 9005溝	緑釉陶器	(1.1) - -	- - -	釉) 7.5 Y 5/3 灰オリーブ色 地) 7.5Y8/1 灰白色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	25	
85-1-7	150-3	10-1-9 9005溝	白磁 碗	(1.8) - -	- - -	釉) 10Y7/1 灰白色 地) N8/ 灰白色 内) N8/ 灰白色	良好 良好	30	唐津か
85-1-8	157-2	10-1-9 第5-1層	土師器	(18.4) (6.2) -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	良好 良好	10	
85-1-9		10-1-9 第5面精査	瓦器 椀	(14.4) (4.2) -	- - -	外) N5/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) N8/ 灰白色	良好 良好	20	
85-1-10	156-4	10-1-9 9013溝	瓦器 皿	(11.8) (2.0) -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) N8/ 灰白色	良好 良好	10	
85-2-1	155-1	10-1-9 第5面精査	土師器 皿	7.8 1.3 -	- - -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断)	良好 良好	100	
85-2-2	155-2	10-1-9 第5面精査	土師器 皿	7.6 1.8 -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断)	良好 良好	100	
85-2-3	156-2	10-1-9 9014土坑	土師器 皿	9.0 1.7 -	- - -	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 10YR6/3 にぶい黄橙色 断) 10YR6/3 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
85-2-4	155-6	10-1-9 第5面精査	軒平瓦	- - -	- - -	外) N3/ 暗灰色・N5/ 灰色 内) N3/ 暗灰色・N5/ 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
85-3	156-9	10-1-9 9009炭だ まり	瓦質 火舎	(43.6) (9.2) -	- - -	外) N3/ 暗灰色 内) N5/ 灰色 断) N8/ 灰白色	良好 良好	5	
85-4	157-3	10-1-9 第5層	須恵器 壺?	(26.0) (19.2) -	- - -	外) N5/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) 7.5Y7/1 灰白色	良好 良好	10	
86-1-1	160-3	10-1-9 9022溝	土師器 皿	(8.0) 1.7 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	20	
86-1-2	160-1	10-1-9 9022溝(最 下層)	土師質 皿	3.8 1.3 -	- 0.35 -	外) 2.5Y6/3 にぶい黄 内) 2.5Y6/3 にぶい黄 断) 10YR2/1 黒	良好 良好	45	
86-1-3・ 4		10-1-9 9022溝東 斜面	磁器	- - -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	- -	10	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
86-1-5	160-14	10-1-9 9022 溝	陶器 椀	(17.5) 4.7 -	- - 0.6	外面(釉): 7.5Y7/2 灰白色 外面(素地): 7.5Y8/1 灰白色 内) 7.5Y7/2 灰白色	良好 良好	16	
86-1-6	160-12	10-1-9 9022 溝 (南西すみ)	須恵器 鉢	(22.8) (4.1) -	- - -	外) N6/ 灰色 内) N6/ 灰色 断) N6/ 灰色	良好 良好	50	
86-1-7	160-11	10-1-9 9022 溝上層	瀬戸	- (2.6) -	- - -	釉) 5Y4/2 灰オリーブ色 地) 5Y8/1 灰白色 内) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
86-1-8	160-15	10-1-9 9022 溝 (南西すみ)	陶器	- (6.0) -	- - -	外) N5/ 灰色 内) 5YR5/3 にぶい赤褐色 断) 10YR6/1 褐灰色	良好 良好	10	
86-2-1	160-6	10-1-9 9022 溝	瓦器 皿	(10.1) 1.8 -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	15	
86-2-2	160-10	10-1-9 9022 溝 (最下層)	瓦器 椀	(13.2) 3.2 -	- - 0.45	外) N5/ 灰 内) 2.5Y5/1 黄灰 断) N8/ 灰	良好 良好	17	
86-2-3	160-9	10-1-9 22 溝東斜面	瓦器 皿	(12.3) 2.5 -	- - 0.4	外) N8/ 灰白色~ N4/ 灰 内) N6/ 灰~ N4/ 灰 断)	良好 良好	25	
86-2-4	160-2	10-1-9 22 溝 (南側側溝)	土師器 皿	7.8 1.4 -	- - -	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	60	
86-2-5	160-17	10-1-9 22 溝下層	土師質 羽釜	(13.2) (3.3) -	- - (0.95)	外) 10YR8/2 灰白色 内) 10YR8/2 灰白色 断) 10YR8/2 灰白色	良好 良好	20	
86-2-6	160-18	10-1-9 22 溝下層	土師質 羽釜	(14.9) (4.6) -	- - 0.6	外) 2.5Y8/3 浅黄 内) 2.5Y4/1 黄灰 断)	良好 良好	12	
86-2-7		10-1-9 22 溝 (南西すみ)	瓦質 蓋	- - -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) N8/ 灰白色	良好 良好	10	
87-1-1	160-4	10-1-9 9022 溝	土師質 皿	7.6 2.1 -	- - 0.41	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色・5YR6/6 橙色 内) 10YR6/4 にぶい黄橙色	良好 良好	99	
87-1-2	160-5	10-1-9 9022 溝	土師質 皿	10.0 2.2 -	- - 0.4	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	99	
87-1-3	160-7	10-1-9 9022 溝 (南西すみ)	瓦器 椀	10.2 2.6 -	- - -	外) N8/ 灰白色・N4/ 灰色 内) N8/ 灰白色・N4/ 灰色 断) N8/ 灰白色・N4/ 灰色	良好 良好	90	
87-1-4	160-8	10-1-9 9022 溝	瓦器 椀	15.0 2.6 -	- - 0.45	外) 10YR8/1 灰白色・N5/ 灰 内) 10YR8/1 灰白色・N5/ 灰 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	100	
87-1-5	160-16	10-1-9 9022 溝上層北半	須恵器 甕	- - -	- - -	釉) 5Y6/2 灰オリーブ色 地) N6/ 灰色 内) 10YR5/1 褐灰色	良好 良好	10	
87-1-6	160-13	10-1-9 9022 溝	須恵器	- (5.3) -	- - -	外) N6/ 灰色 内) N5/ 灰色 断) N5/ 灰色	良好 良好	10	
87-1-7	161-1	10-1-9 9022 溝	土師器 羽釜	(22.6) - -	- - -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	- -	10	
87-1-8	161-5	10-1-9 9022 溝西斜面	土師質 羽釜	33.0 8.5 -	- - 1.35	外) 10YR6/2 灰黄色褐 内) 10YR6/2 灰黄色褐 断) 7.5YR6/4 にぶい橙色	やや粗 良好	8	
87-1-9	161-4	10-1-9 9022 溝下層	土師質 羽釜	(24.0) (7.2) -	- - 1.3	外) 2.5Y6/2 灰黄色・2.5Y4/1 黄灰 内) 2.5Y5/2 暗灰色黄 断) 10YR6/2 灰黄色褐	良好 良好	10	
87-1-10	160-21	10-1-9 9022 溝	瓦器	- (9.65) -	- - -	外) N3/ 暗灰色 内) N3/ 暗灰色 断) N8/ 暗灰色	良好 良好	10	
87-1-11	161-3	10-1-9 9022 溝	瓦器 羽釜	(22.2) (8.0) -	- - 0.62	外) N4/ 灰色 内) N3/ 暗灰色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	25	
88-1-1	160-20	10-1-9 9022 溝	須恵器 鉢	- (7.2) -	- - -	外) N4/ 灰色・N8/ 灰白色 内) N4/ 灰色 断) N8/ 灰白色	良好 良好	40	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 胴径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
88-1-2	160-19	10-1-9 9022 溝下層	瓦質 播鉢	(39.6) (8.0) -	- - 1.05	外) 2.5Y4/1 黄灰 内) 2.5Y4/1 黄灰・5YR7/4 にぶい橙色・N2/ 黒 断)	やや粗 良好	16	
88-1-3	161-2	10-1-9 9022 溝	土師質 羽釜	(21.6) (16.4) -	- - 0.6	外) 5Y5/1 灰色 内) N3/ 暗灰色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
88-1-4	162-1	10-1-9 9022 溝	軒丸瓦	- - -	(3.6) (9.4) -	外) N5/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	25	
88-1-5	162-3	10-1-9 9022 溝	軒丸瓦	- - -	(5.3) (7.5) -	外) N3/ 暗灰色 内) N3/ 暗灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	50	
88-1-6		10-1-9 9022 溝	軒丸瓦	(12.2) -	(6.3) -	外) N5/ 灰 内) N4/ 灰 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	40	
88-1-7	162-2	10-1-9 22 溝上層	軒丸瓦	- - -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) 5Y6/1 灰色	良好 良好	5	
88-1-8	162-6	10-1-9 9022 溝	軒平瓦	- - -	(11.6) (8.0) -	外) N4/ 灰 内) N4/ 灰 断) 7.5Y8/1 灰白色	- -	40	
88-1-9	162-7	10-1-9 9022 溝	軒平瓦	- - -	- - -	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) N5/ 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	- -	30	
89-1-1	162-5	10-1-9 9022 溝	軒平瓦	- - -	(6.5) 4.8 -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	- -	5	
89-1-2	162-4	10-1-9 9022 溝上層	軒平瓦	- - -	- - -	外) N4/ 灰色 内) N4/ 灰色 断) N7/ 灰白色	良好 良好	5	
89-1-3		10-1-9 9022 溝	鬼瓦?	- - -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	- -	-	
90-1-1	159-1	10-1-9 第6面精査	土師質 皿	8.0 1.4 -	- - 0.4	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 10YR7/3 にぶい黄橙色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	50	
90-1-2	159-2	10-1-9 第6面精査	瓦器 椀	(9.8) 2.8 -	- - 5.5	外) 2.5Y6/1 黄灰 内) N5/ 灰・7.5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	やや粗 良好	25	
90-1-3	159-4	10-1-9 第6面精査	瓦器 椀	(13.4) (3.1) -	- - 0.42	外) N5/ 灰 内) N5/ 灰 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	25	
90-1-4	159-3	10-1-9 第6面精査	瓦器 椀	(11.5) 2.8 -	- - 0.45	外) 2.5Y7/1 灰白色・N4/ 灰 内) N4/ 灰 断) 2.5Y7/1 灰白色	やや粗 良好	25	
90-1-5	159-9	10-1-9 第6面精査	瓦器 播鉢	(26.6) (6.1) -	- - 1.45	外) N4/ 灰 内) N4/ 灰 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	25	
90-1-6	159-8	10-1-9 第6面精査	土師質 羽釜	(18.4) (5.2) -	- - 0.6	外) 5YR6/6 橙・10YR4/1 褐灰 内) 5YR6/6 橙・10YR4/1 褐灰 断) 10YR6/2 灰黄色褐	良好 良好	12	
90-2-1	156-10	10-1-9 9024 溝	信楽焼 壺	(36.6) (4.6) -	- - (1.6)	外) 2.5YR5/4 にぶい赤褐 内) 2.5YR6/4 にぶい橙色 断)	やや粗 良好	8	
90-2-2	166-7	10-1-9 9031 溝	土師質 皿	(13.2) (2.5) -	- - (0.4)	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好 良好	12	
90-2-3	156-5	10-1-9 9025 溝	瓦器 椀	(10.6) 2.2 -	- - 0.34	外) N7/ 灰白色 内) N5/ 灰 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
90-2-4	156-7	10-1-9 9027 土坑	軒平瓦	(5.15) -	- - 1.9	外) 10YR5/3 にぶい黄褐 内) 10YR4/1 褐灰 断) 5YR7/6 橙	良好 甘い	4	
90-2-5	166-10	10-1-9 9040 井戸	瓦器 椀	(5.0) 2.8 -	- - 0.55	外) 2.5Y7/1 灰白色～N3/ 暗灰色 内) 2.5Y8/1 灰白色～N4/ 灰 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	13	
90-2-6	156-6	10-1-9 9025 溝	瓦器 椀	(12.8) 3.0 -	- - 0.4	外) 2.5Y7/1 灰白色・N5/ 灰 内) N5/ 灰 断)	良好 良好	12	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径	最大長最大幅最大厚	色調	胎土焼成	残存率%	備考
90-2-7	156-8	10-1-9 9027 土坑	軒丸瓦	- (4.9) -	- - -	外) N4/ 灰 内) N4/ 灰 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	13	
90-2-8	168-4	10-1-9 9051 井戸	瓦器 椀	(10.1) 3.3 -	- - 0.35	外) 5Y6/1 灰~ N4/ 灰 内) N4/ 灰 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	25	
91-1-1	166-6	10-1-9 9026 溝	瓦器 椀	(12.2) (3.1) -	- - 0.6	外) N4/ 灰 内) N5/ 灰 断) 5Y8/1 灰白色	良好 良好	20	
91-1-2	166-5	10-1-9 9026 溝	土師質 椀	(10.6) (2.8) -	- - 0.54	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	20	
91-1-3	166-8	10-1-9 9026 溝	土師質 鉢?	(28.8) (6.1) -	- - 1.6	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y6/1 黄灰	良好 やや甘	6	
91-1-4		10-1-9 9021 溝	土師質 皿	(11.0) 2.1 -	- - 0.5	外) 7.5YR7/6 橙・2.5Y7/2 灰黄色 内) 7.5YR7/6 橙・2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	20	
91-1-5	166-4	10-1-9 9026 溝	土師質 灯明皿	(12.7) 2.4 -	- - 0.5	外) 2.5Y8/1 灰白色 内) 2.5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	30	
91-1-6		10-1-9 9026 溝	軒平瓦	- - -	(4.5) (4.3) -	外) N5/ 灰 内) N6/ 灰 断) N8/ 灰白色	良好 やや甘	12	
91-2-1	166-1	10-1-9 9026 溝	土師質 皿	7.85 1.25 -	- - 0.35	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
91-2-2	166-3	10-1-9 9026 溝	土師質 皿	9.1 1.8 -	- - 0.45	外) 10YR6/2 灰黄色褐 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色・ 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
91-2-3	166-2	10-1-9 9026 溝	土師質 椀	9.7 1.9 -	- - 0.41	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	100	
91-2-4	166-9	10-1-9 26 溝 90	瓦器 蓋形土器	- 6.7 -	- - 1.45	外) N4/ 灰 内) 2.5Y5/1 黄灰・2.5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y8/1 灰白色	良好 良好	10	
91-3	166-12	10-1-9 9040 井戸	瓦質 羽釜	(24.4) (14.0) -	- - -	外) N5/ 灰 内) N5/ 灰 断) 7.5Y8/1 灰白色	やや粗 良好	10	
91-4-1	159-5	10-1-9 第6面	瓦器 椀	12.2 3.2 -	- - 0.6	外) 7.5YR7/4 にぶい橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色	良好 甘い	90	
91-4-2	159-6	10-1-9 第6面	瓦器 椀	12.7 3.5 -	- - 0.5	外) 5Y8/1 灰白色・N4/ 灰 内) 5Y8/1 灰白色・N3/ 暗灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	100	
92-1-1	168-2	10-1-9 9180 井戸 周辺	土師質 皿	(10.0) 2.1 -	- - 0.45	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄 断) 2.5Y6/3 にぶい黄	良好 良好	33	
92-1-2	168-3	10-1-9 9180 井戸 枠	土師質 灯明皿	(11.4) 2.1 -	- - 0.3	外) 2.5Y7/3 浅黄 内) 2.5Y7/3 浅黄 断) 2.5Y6/6 明黄褐	良好 良好	40	
92-1-3	168-1	10-1-9 9180 井戸 枠	土師質 皿	8.0 1.6 -	- - 0.35	外) 2.5Y7/2 灰黄色 ・5B4/1 暗青灰 内) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	100	
92-2		10-1-9 9182pit	土師質 皿	7.9 1.8 -	- - 0.6	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色・10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 良好	100	
92-3-1	166-11	10-1-9 9185 井戸	土師質 皿	7.65 1.5 -	- - 0.4	外) 10YR7/3 にぶい黄橙色 内) 7.5YR7/4 にぶい橙色	良好 良好	100	
92-3-2	166-13	10-1-9 南壁 9185 井戸	瓦器 播鉢	(38.0) (6.5) -	- - 1.9	外) N5/ 灰 内) N6/ 灰 断) 5Y8/2 灰白色	良好 良好	8	
92-4-1		10-1-9 東側側溝 第6~7層	土師質 甕	14.1 (5.6) -	- - 0.7	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y4/1 黄灰	良好 良好	7	
92-4-2		10-1-9 第6層	土師質 鉢?	(30.2) (6.0) -	- - 1.1	外) 2.5Y5/1 黄灰 内) N4/ 灰・7.5YR8/6 浅黄橙 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	良好 やや甘	8	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高 器径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	残存率 %	備考
93-1		10-1-9 南壁 9179 落込	鬼瓦?	- - -	- - -	外) N4/0 灰色 内) N4/0 灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	- -	-	
93-2		10-1-9 第7・8層	瓦器 羽釜	(20.4) (8.8) -	- - 0.8	外) N3/ 暗灰色 内) N4/ 灰 断) 10YR8/1 灰白色	良好 良好	12	
93-3-1		10-1-9 第7・8層	土師器 羽釜	31.4 (23.8) -	- - 1.42	外) 7.5YR6/4 にぶい橙色・7.5YR2/1 黒 内) 5YR5/4 にぶい赤褐・10YR3/1 黒褐 断) 10YR6/2 灰黄色褐	良好 良好	12	
93-3-2		10-1-9 南壁	瓦器 壺	(30.0) (13.0) -	- - 1.2	外) N4/ 灰 内) N3/ 灰 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	12	

表8 遺物観察表(金属製品・銭貨)

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	最大長 最大幅 最大厚	材質	残存率	備考
86-2-8	160-22	10-1-9 9022 溝(最下層)	鉄製品 刀子	11.7 2.05 -	鉄	-	

(9023 土坑出土銭貨計測データ)

番号	種類	直径	孔径(縦)	厚さ	質量	残存率	比率	登録	備考
1	宣和通宝	2.5	0.60	0.2	3.1	完存	0.12	328	
2	宣和通宝	2.5	0.65	0.2	3.0	完存	0.12	329	
3	宣和通宝	2.5	0.60	0.2	3.3	完存	0.13	330	
4	宣和通宝	2.4	0.60	0.2	3.1	完存	0.13	331	
5	聖宋元宝	2.5	0.69	0.2	3.3	完存	0.13	308	
6	聖宋元宝	2.5	0.72	0.2	3.9	完存	0.16	309	
7	大観通宝	2.5	0.70	0.2	3.8	完存	0.15	312	
8	大観通宝	2.4	0.69	0.1	2.0	完存	0.08	313	
9	政和通宝	2.5	0.70	0.2	3.3	完存	0.13	315	
10	政和通宝	2.5	0.65	0.2	3.5	完存	0.14	316	
11	政和通宝	2.5	0.58	0.2	3.6	完存	0.14	317	
12	政和通宝	2.4	0.71	0.1	2.8	完存	0.12	318	
13	政和通宝	2.5	0.68	0.1	3.5	完存	0.14	319	
14	政和通宝	2.5	0.62	0.2	3.4	完存	0.14	320	
15	政和通宝	2.4	0.69	0.2	3.0	完存	0.13	326	
16	政和通宝	2.5	0.65	0.2	4.1	完存	0.16	327	
17	聖宋元宝	2.6	0.61	0.2	3.4	完存	0.13	296	
18	聖宋元宝	2.5	0.67	0.1	3.1	完存	0.12	297	
19	聖宋元宝	2.5	0.65	0.1	2.5	完存	0.10	298	
20	聖宋元宝	2.4	0.65	0.1	3.3	完存	0.14	299	
21	聖宋元宝	2.4	0.62	0.1	3.3	完存	0.14	300	
22	聖宋元宝	2.5	0.63	0.1	4.0	完存	0.16	301	
23	聖宋元宝	2.4	0.63	0.1	3.6	完存	0.15	302	
24	聖宋元宝	2.5	0.62	0.1	4.0	完存	0.16	303	
25	聖宋元宝	2.4	0.61	0.1	3.2	完存	0.13	304	

番号	種類	直径	孔径(縦)	厚さ	質量	残存率	比率	登録	備考
26	聖宋元宝	2.4	0.62	0.2	3.6	完存	0.15	305	
27	聖宋元宝	2.5	0.60	0.1	3.0	完存	0.12	306	
28	聖宋元宝	2.5	0.61	0.1	3.6	完存	0.14	307	
29	紹聖元宝	2.4	0.60	0.1	2.9	完存	0.12	280	
30	紹聖元宝	2.4	0.60	0.1	3.7	完存	0.15	281	
31	紹聖元宝	2.5	0.61	0.1	3.2	完存	0.13	282	
32	紹聖元宝	2.4	0.60	0.1	3.8	完存	0.16	283	
33	紹聖元宝	2.5	0.60	0.1	3.8	完存	0.15	284	
34	紹聖元宝	2.5	0.62	0.1	2.9	完存	0.12	285	
35	紹聖元宝	2.4	0.63	0.1	3.5	完存	0.15	286	
36	紹聖元宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	287	
37	元符通宝	2.5	0.62	0.1	2.9	完存	0.12	290	
38	元符通宝	2.4	0.66	0.1	3.2	完存	0.13	291	
39	元符通宝	2.4	0.63	0.1	3.7	完存	0.15	294	
40	元符通宝	2.5	0.61	0.1	3.7	完存	0.15	295	
41	元祐通宝	2.4	0.70	0.1	3.2	完存	0.13	256	
42	元祐通宝	2.4	0.65	0.1	3.2	完存	0.13	261	
43	元祐通宝	2.5	0.70	0.1	3.6	完存	0.14	262	
44	元祐通宝	2.4	0.71	0.1	3.9	完存	0.16	263	
45	元祐通宝	2.5	0.69	0.1	3.5	完存	0.14	264	
46	元祐通宝	2.4	0.59	0.1	2.9	完存	0.12	265	
47	元祐通宝	2.4	0.71	0.1	3.2	完存	0.13	266	
48	元祐通宝	2.4	0.71	0.1	3.5	完存	0.15	267	
49	紹聖元宝	2.3	0.66	0.1	3.2	完存	0.14	276	
50	紹聖元宝	2.5	0.60	0.1	3.8	完存	0.15	277	
51	紹聖元宝	2.5	0.70	0.1	3.9	完存	0.16	278	
52	紹聖元宝	2.2	0.60	0.1	3.0	完存	0.14	279	
53	元祐通宝	2.4	0.70	0.2	4.1	完存	0.17	244	
54	元祐通宝	2.4	0.71	0.2	4.0	完存	0.17	245	
55	元祐通宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	246	
56	元祐通宝	2.4	0.69	0.2	3.6	完存	0.15	247	
57	元祐通宝	2.5	0.70	0.1	3.6	完存	0.14	248	
58	元祐通宝	2.5	0.60	0.1	3.3	完存	0.13	249	
59	元祐通宝	2.5	0.70	0.1	3.3	完存	0.13	250	
60	元祐通宝	2.5	0.68	0.1	2.5	完存	0.10	251	
61	元祐通宝	2.5	0.62	0.1	3.5	完存	0.14	252	
62	元祐通宝	2.5	0.70	0.1	3.5	完存	0.14	253	
63	元祐通宝	2.5	0.65	0.1	3.0	完存	0.12	254	
64	元祐通宝	2.4	0.69	0.1	3.1	完存	0.13	255	
65	元豊通宝	2.5	0.63	0.1	3.6	完存	0.14	206	
66	元豊通宝	2.5	0.65	0.1	3.5	完存	0.14	207	
67	元豊通宝	2.5	0.65	0.1	3.6	完存	0.14	208	
68	元豊通宝	2.4	0.62	0.1	3.8	完存	0.16	209	
69	元豊通宝	2.5	0.70	0.1	3.8	完存	0.15	210	
70	元豊通宝	2.4	0.71	0.1	3.5	完存	0.15	211	
71	元豊通宝	2.5	0.65	0.1	3.3	完存	0.13	212	

番号	種類	直径	孔径(縦)	厚さ	質量	残存率	比率	登録	備考
72	元豊通宝	2.4	0.70	0.1	3.0	完存	0.13	213	
73	元豊通宝	2.3	0.65	0.1	2.8	完存	0.12	228	
74	元豊通宝	2.5	0.71	0.1	3.2	完存	0.13	229	
75	元豊通宝	2.5	0.64	0.1	3.0	完存	0.12	230	
76	元豊通宝	2.5	0.70	0.1	3.9	完存	0.16	231	
77	元豊通宝	2.4	0.70	0.2	3.9	完存	0.16	232	
78	元豊通宝	2.5	0.70	0.1	3.3	完存	0.13	233	
79	元豊通宝	2.5	0.75	0.1	3.9	完存	0.16	234	
80	元豊通宝	2.5	0.71	0.1	3.9	完存	0.16	235	
81	熙寧元宝	2.4	0.63	0.1	3.7	完存	0.15	169	
82	熙寧元宝	2.4	0.70	0.2	3.8	完存	0.16	170	
83	熙寧元宝	2.5	0.72	0.1	3.6	完存	0.14	171	
84	熙寧元宝	2.3	0.62	0.2	3.5	完存	0.15	172	
85	熙寧元宝	2.4	0.70	0.1	3.9	完存	0.16	173	
86	熙寧元宝	2.4	0.70	0.1	3.2	完存	0.13	185	
87	熙寧元宝	2.3	0.60	0.2	3.8	完存	0.17	186	
88	熙寧元宝	2.4	0.62	0.1	3.0	完存	0.13	187	
89	熙寧元宝	2.5	0.71	0.1	4.3	完存	0.17	188	
90	熙寧元宝	2.4	0.71	0.2	3.9	完存	0.16	189	
91	至和元宝	2.4	0.65	0.2	3.7	完存	0.15	156	
92	至和通宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	157	
93	嘉祐元宝	2.5	0.62	0.1	3.7	完存	0.15	158	
94	嘉祐元宝	2.5	0.80	0.1	3.3	完存	0.13	159	
95	嘉祐元宝	2.4	0.61	0.1	3.8	完存	0.16	160	
96	嘉祐通宝	2.5	0.74	0.1	3.4	完存	0.14	161	
97	嘉祐通宝	2.5	0.72	0.1	2.9	完存	0.12	162	
98	治平元宝	2.4	0.65	0.2	3.9	完存	0.16	163	
99	治平元宝	2.4	0.62	0.2	3.9	完存	0.16	164	
100	治平元宝	2.5	0.65	0.1	3.3	完存	0.13	168	
101	治平通宝	2.5	0.72	0.1	3.4	完存	0.14	7-2-2	
102	治平通宝	2.5	0.70	0.1	4.0	完存	0.16	7-3-83	
103	皇宋通宝	2.4	0.61	0.1	2.4	完存	0.10	107	
104	皇宋通宝	2.5	0.72	0.1	3.4	完存	0.14	128	
105	皇宋通宝	2.5	0.72	0.1	3.6	完存	0.14	129	
106	皇宋通宝	2.5	0.70	0.1	3.4	完存	0.14	130	
107	皇宋通宝	2.5	0.71	0.1	3.1	完存	0.12	131	
108	皇宋通宝	2.4	0.65	0.1	3.3	完存	0.14	132	
109	皇宋通宝	2.3	0.63	0.1	3.3	完存	0.14	133	
110	皇宋通宝	2.0	0.70	0.2	1.8	完存	0.09	134	
111	皇宋通宝	2.5	0.69	0.2	4.0	完存	0.16	135	
112	皇宋通宝	2.4	0.65	0.1	2.6	完存	0.11	136	
113	至和元宝	2.4	0.60	0.1	3.6	完存	0.15	154	
114	至和元宝	2.4	0.62	0.1	3.2	完存	0.13	155	
115	皇宋通宝	2.5	0.65	0.2	4.4	完存	0.18	99	
116	皇宋通宝	2.5	0.72	0.1	3.4	完存	0.14	100	
117	皇宋通宝	2.5	0.79	0.1	3.6	完存	0.14	101	

番号	種類	直径 (cm)	孔径(縦) (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	残存率	比率 (質量/直径)	登録 番号	備考
118	皇栄通宝	2.5	0.79	0.1	3.4	完存	0.14	102	
119	皇栄通宝	2.5	0.71	0.1	3.5	完存	0.14	103	
120	皇栄通宝	2.3	0.64	0.1	3.2	完存	0.14	104	
121	皇栄通宝	2.3	0.65	0.1	3.0	完存	0.13	105	
122	皇栄通宝	2.5	0.65	0.1	3.4	完存	0.14	106	
123	明道元宝	2.6	0.65	0.1	3.8	完存	0.15	93	
124	明道元宝	2.6	0.70	0.2	4.1	完存	0.16	9-4-12	
125	景祐元宝	2.5	0.60	0.1	3.2	完存	0.13	94	
126	景祐元宝	2.5	0.70	0.2	3.9	完存	0.16	95	
127	景祐元宝	2.5	0.70	0.1	2.7	完存	0.11	96	
128	景祐元宝	2.5	0.68	0.1	3.4	完存	0.14	97	
129	景祐元宝	2.5	0.72	0.1	3.4	完存	0.14	98	
130	天禧通宝	2.5	0.60	0.2	4.1	完存	0.16	63	
131	天禧通宝	2.6	0.64	0.1	3.6	完存	0.14	64	
132	天禧通宝	2.4	0.65	0.1	3.2	完存	0.13	65	
133	天禧通宝	2.6	0.68	0.1	3.9	完存	0.15	66	
134	天禧通宝	2.5	0.62	0.1	3.5	完存	0.14	67	
135	天禧通宝	2.6	0.66	0.1	3.0	完存	0.12	68	
136	天聖元宝	2.5	0.61	0.1	3.6	完存	0.14	70	
137	天聖元宝	2.5	0.79	0.2	3.7	完存	0.15	71	
138	天聖元宝	2.5	0.64	0.1	3.4	完存	0.14	72	
139	天聖元宝	2.6	0.71	0.1	3.7	完存	0.14	73	
140	天聖元宝	2.6	0.70	0.1	3.4	完存	0.13	84	
141	天聖元宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	85	
142	景德元宝	2.6	0.62	0.1	3.7	完存	0.14	47	
143	景德元宝	2.6	0.67	0.1	3.6	完存	0.14	48	
144	景德元宝	2.5	0.62	0.1	4.2	完存	0.17	49	
145	祥符元宝	2.5	0.60	0.1	3.7	完存	0.15	55	
146	祥符元宝	2.6	0.60	0.1	3.2	完存	0.12	56	
147	祥符元宝	2.2	0.60	0.1	2.2	完存	0.10	57	
148	祥符元宝	2.6	0.62	0.1	3.9	完存	0.15	58	
149	祥符元宝	2.6	0.62	0.1	3.4	完存	0.13	59	
150	祥符元宝	2.5	0.60	0.1	3.4	完存	0.14	60	
151	祥符通宝	2.4	0.62	0.1	2.4	完存	0.10	7-2-39	
152	至道元宝	2.5	0.63	0.2	3.5	完存	0.14	36	
153	至道元宝	2.5	0.61	0.1	3.4	完存	0.14	37	
154	至道元宝	2.5	0.61	0.2	3.7	完存	0.15	38	
155	咸平元宝	2.5	0.60	0.1	4.0	完存	0.16	39	
156	咸平元宝	2.5	0.61	0.1	3.3	完存	0.13	40	
157	咸平元宝	2.2	0.59	0.1	3.0	完存	0.14	41	
158	軋徳元宝	2.4	0.63	0.1	3.0	完存	0.13	8-33	
159	周通元宝	2.6	0.70	0.1	3.0	完存	0.12	116-91	
160	唐国通宝	2.5	0.60	0.1	3.0	完存	0.12	16-1-31	
161	宋通元宝	2.2	0.60	0.1	2.2	完存	0.10	28	
162	大平通宝	2.5	0.60	0.1	2.9	完存	0.12	29	
163	淳化元宝	2.5	0.58	0.1	4.0	完存	0.16	31	

番号	種類	直径 (cm)	孔径(縦) (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	残存率	比率 (質量/直径)	登録 番号	備考
164	淳化元宝	2.5	0.60	0.1	3.2	完存	0.13	32	
165	至道元宝	2.5	0.59	0.1	3.8	完存	0.15	34	
166	至道元宝	2.5	0.61	0.1	3.9	完存	0.16	35	
167	開元通宝	2.5	0.62	0.2	4.3	完存	0.17	8	「洛」の裏書
168	開元通宝	2.4	0.66	0.2	3.5	完存	0.15	72-182	「洛」の裏書
169	開元通宝	2.4	0.68	0.1	3.3	完存	0.14	138-1-38	「藍」の裏書
170	開元通宝	2.4	0.69	0.2	4.0	完存	0.17	105-124	「荊」の裏書
171	開元通宝	2.4	0.69	0.2	3.8	完存	0.16	58-20	「越」の裏書
172	開元通宝	2.4	0.72	0.1	3.7	完存	0.15	142-2-26	「袞」の裏書
173	開元通宝	2.4	0.68	0.1	3.4	完存	0.14	33-66	「潤」の裏書
174	開元通宝	2.5	0.67	0.1	3.4	完存	0.14	45-1-103	「興」の裏書
175	乾元重宝	2.5	0.70	0.2	4.3	完存	0.17	27	
176	乾元重宝	2.5	0.65	0.1	3.0	完存	0.12	40-2-16	
177	乾元重宝	2.4	0.62	0.1	3.0	完存	0.13	25	
178	乾元重宝	2.4	0.70	0.1	3.4	完存	0.14	26	
179	開元通宝	2.4	0.69	0.1	3.7	完存	0.15	1	
180	開元通宝	2.5	0.68	0.1	3.2	完存	0.13	2	
181	開元通宝	2.6	0.70	0.1	3.4	完存	0.13	3	「一」の裏書
182	開元通宝	2.5	0.64	0.1	3.4	完存	0.14	4	
183	開元通宝	2.5	0.70	0.1	3.6	完存	0.14	5	
184	開元通宝	2.6	0.65	0.2	4.1	完存	0.16	6	
185	開元通宝	2.4	0.69	0.1	3.1	完存	0.13	7	
186	開元通宝	2.5	0.58	0.1	3.6	完存	0.14	7-2-20	
187	開元通宝	2.5	0.70	0.1	2.3	完存	0.09	9	
188	開元通宝	2.5	0.71	0.1	3.3	完存	0.13	10	
189	開元通宝	2.4	0.70	0.1	3.0	完存	0.13	16-5-3	「昌」の裏書
190	開元通宝	2.4	0.65	0.2	3.9	完存	0.16	39-1-20	「京」の裏書
191	五銖	2.6	0.97	0.1	2.5	完存	0.10	16-1-50	
192	五銖	2.6	1.10	0.1	2.2	完存	0.08	75-84	
193	五銖	2.6	1.10	0.1	1.8	完存	0.07	95-144	
194	五銖	2.6	1.01	0.1	2.0	完存	0.08	95-176	
195	五銖	2.5	1.00	0.1	1.7	完存	0.07	102-27	
196	五銖	2.6	1.09	0.1	2.6	完存	0.10	55-24	
197	建炎通宝	2.7	0.74	0.1	2.9	完存	0.11	56-1-34	
198	建炎通宝	2.4	0.64	0.2	3.1	完存	0.13	124-3-180	
199	紹興元宝	2.4	0.80	0.1	1.7	完存	0.07	18-32	
200	正隆元宝	2.5	0.59	0.2	3.2	完存	0.13	16-3-66	
201	淳熙元宝	2.4	0.63	0.2	3.6	完存	0.15	7-3-53	「浜」の裏書
202	淳熙元宝	2.5	0.67	0.1	3.4	完存	0.14	11-66	「捌」の裏書
203	淳熙元宝	2.5	0.61	0.2	3.5	完存	0.14	72-152	「九」の裏書
204	淳熙元宝	2.4	0.62	0.1	3.4	完存	0.14	11-70	「十」の裏書
205	淳熙元宝	2.4	0.69	0.2	3.5	完存	0.15	30-1-61	「十一」の裏書
206	淳熙元宝	2.5	0.69	0.2	3.8	完存	0.15	42-1-65	「十二」の裏書
207	淳熙元宝	2.5	0.67	0.1	3.4	完存	0.14	87-67	「十三」の裏書
208	淳熙元宝	2.5	0.65	0.1	3.1	完存	0.12	7-3-79	「十四」の裏書
209	淳熙元宝	2.5	0.68	0.2	3.6	完存	0.14	16-1-67	「十五」の裏書

番号	種類	直径 (cm)	孔径(縦) (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	残存率	比率 (質量/直径)	登録 番号	備考
210	淳熙元宝	2.5	0.70	0.1	3.1	完存	0.12	33-8	「十六」の裏書
211	淳熙元宝	2.5	0.72	0.1	3.3	完存	0.13	7-3-70	「一」の裏書
212	紹熙元宝	2.5	0.60	0.2	3.2	完存	0.13	7-2-47	「元」の裏書
213	紹熙元宝	2.5	0.63	0.2	3.2	完存	0.13	35-4-28	「二」の裏書
214	紹熙元宝	2.5	0.63	0.2	3.3	完存	0.13	42-1-114	「三」の裏書
215	紹熙元宝	2.4	0.66	0.2	3.5	完存	0.15	30-2-48	「四」の裏書
216	紹熙元宝	2.4	0.70	0.1	3.1	完存	0.13	6-3-78	「五」の裏書
217	慶元通宝	2.5	0.70	0.1	3.3	完存	0.13	7-3-71	「元」の裏書
218	慶元通宝	2.5	0.68	0.1	3.3	完存	0.13	332	「二」の裏書
219	慶元通宝	2.5	0.70	0.2	3.6	完存	0.14	43-76	「三」の裏書
220	慶元通宝	2.5	0.69	0.1	3.3	完存	0.13	333	「四」の裏書
221	慶元通宝	2.5	0.70	0.2	4.0	完存	0.16	6-3-4	「六」の裏書
222	嘉泰通宝	2.5	0.70	0.1	3.5	完存	0.14	6-3-3	「元」の裏書
223	嘉泰通宝	2.5	0.70	0.1	3.5	完存	0.14	42-2-12	「元」の裏書
224	嘉泰通宝	2.5	0.70	0.1	3.6	完存	0.14	95-164	「三」の裏書
225	嘉泰通宝	2.5	0.70	0.1	4.0	完存	0.16	56-2-42	「四」の裏書
226	開禧通宝	2.5	0.65	0.2	4.0	完存	0.16	22-11	「元」の裏書
227	開禧通宝	2.5	0.68	0.2	3.4	完存	0.14	66-2-3	「二」の裏書
228	開禧通宝	2.5	0.70	0.1	3.5	完存	0.14	16-4-52	「五」の裏書
229	嘉定通宝	2.5	0.63	0.2	2.8	完存	0.11	50-2-25	「元」の裏書
230	嘉定通宝	2.5	0.62	0.2	3.8	完存	0.15	43-14	「二」の裏書
231	嘉定通宝	2.5	0.62	0.1	3.6	完存	0.14	7-3-25	「三」の裏書
232	嘉定通宝	2.5	0.68	0.1	3.6	完存	0.14	335	「四」の裏書
233	嘉定通宝	2.5	0.70	0.1	2.6	完存	0.10	62-21	「五」の裏書
234	嘉定通宝	2.4	0.65	0.2	3.5	完存	0.15	16-1-56	「六」の裏書
235	嘉定通宝	2.5	0.65	0.2	3.7	完存	0.15	69-3-16	「七」の裏書
236	嘉定通宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	39-2-30	「八」の裏書
237	嘉定通宝	2.5	0.62	0.1	3.3	完存	0.13	334	「九」の裏書
238	嘉定通宝	2.5	0.65	0.1	3.6	完存	0.14	16-4-41	「十」の裏書
239	嘉定通宝	2.4	0.70	0.2	3.9	完存	0.16	131-46	「十一」の裏書
240	嘉定通宝	2.5	0.70	0.1	3.8	完存	0.15	16-3-48	「十二」の裏書
241	嘉定通宝	2.4	0.68	0.1	3.6	完存	0.15	6-3-2	「十三」の裏書
242	嘉定通宝	2.5	0.62	0.2	4.1	完存	0.16	18-48	「十四」の裏書
243	大宋元宝	2.4	0.70	0.2	3.6	完存	0.15	105-128	「二」の裏書
244	大宋元宝	2.5	0.68	0.1	3.5	完存	0.14	13-12	「三」の裏書
245	紹定通宝	2.5	0.65	0.1	2.6	完存	0.10	87-55	「元」の裏書
246	紹定通宝	2.4	0.65	0.1	3.6	完存	0.15	336	「二」の裏書
247	紹定通宝	2.5	0.65	0.1	3.5	完存	0.14	21-6	「三」の裏書
248	紹定通宝	2.5	0.68	0.2	3.4	完存	0.14	84-1-178	「四」の裏書
249	紹定通宝	2.5	0.70	0.1	3.0	完存	0.12	22-16	「五」の裏書
250	紹定通宝	2.5	0.68	0.1	3.3	完存	0.13	16-4-12	「六」の裏書
251	端平元宝	2.4	0.63	0.2	4.0	完存	0.17	35-4-13	「元」の裏書
252	嘉熙通宝	2.5	0.62	0.1	3.5	完存	0.14	16-1-70	「三」の裏書
253	嘉熙通宝	2.5	0.70	0.2	2.9	完存	0.12	50-1-54	「四」の裏書
254	淳祐元宝	2.5	0.70	0.2	2.9	完存	0.12	104-65	「元」の裏書
255	淳祐元宝	2.5	0.72	0.2	2.9	完存	0.12	40-2-8	「二」の裏書

番号	種類	直径 (cm)	孔径(縦) (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	残存率	比率 (質量/直径)	登録 番号	備考
256	淳祐元宝	2.4	0.75	0.2	3.1	完存	0.13	132-2-21	「五」の裏書
257	淳祐元宝	2.5	0.68	0.1	3.6	完存	0.14	338	「七」の裏書
258	淳祐元宝	2.5	0.68	0.2	3.3	完存	0.13	70-2-14	「八」の裏書
259	淳祐元宝	2.5	0.68	0.1	3.1	完存	0.12	337	「九」の裏書
260	淳祐元宝	3.0	0.70	0.1	3.0	完存	0.10	141-1-41	「十」の裏書
261	淳祐元宝	2.5	0.71	0.1	2.5	完存	0.10	17-21	「十二」の裏書
262	皇宋元宝	2.5	0.71	0.1	3.1	完存	0.12	33-72	「元」の裏書
263	皇宋元宝	2.6	0.72	0.2	3.4	完存	0.13	83-12	「二」の裏書
264	皇宋元宝	2.6	0.71	0.1	3.7	完存	0.14	30-3-50	「三」の裏書
265	皇宋元宝	2.6	0.73	0.2	3.6	完存	0.14	37-7	「四」の裏書
266	皇宋元宝	2.5	0.70	0.1	3.4	完存	0.14	34-2-43	「五」の裏書
267	皇宋元宝	2.5	0.70	0.2	3.3	完存	0.13	53-1	「六」の裏書
268	開慶通宝	2.5	0.68	0.1	3.3	完存	0.13	不明 9-104	「元」の裏書
269	景定元宝	2.5	0.70	0.1	3.3	完存	0.13	9-2-9	「二」の裏書
270	景定元宝	2.5	0.70	0.1	3.8	完存	0.15	7-3-5	「三」の裏書
271	景定元宝	2.5	0.68	0.1	3.0	完存	0.12	8-74	「四」の裏書
272	景定元宝	2.5	0.70	0.1	3.5	完存	0.14	46-6	「五」の裏書
273	景定通宝	2.5	0.69	0.1	3.8	完存	0.15	22-38	「八」の裏書
274	咸淳元宝	2.5	0.70	0.1	3.7	完存	0.15	339	「元」の裏書
275	咸淳元宝	2.4	0.70	0.2	3.4	完存	0.14	30-3-21	「二」の裏書
276	咸淳元宝	2.4	0.75	0.1	3.0	完存	0.13	37-61	「三」の裏書
277	咸淳元宝	2.5	0.73	0.1	3.2	完存	0.13	74-44	「四」の裏書
278	咸淳元宝	2.4	0.72	0.1	3.0	完存	0.13	96-2-34	「五」の裏書
279	咸淳元宝	2.4	0.70	0.1	3.5	完存	0.15	39-1-13	「八」の裏書
280	咸淳元宝	2.4	0.70	0.2	3.0	完存	0.13	119-179	「七」の裏書
281	天盛元宝	2.4	0.60	0.1	3.0	完存	0.13	66-2-52	
282	海東通宝	2.4	0.62	0.2	3.9	完存	0.16	127-8	
283	至大通宝	2.4	0.55	0.2	4.0	完存	0.17	69-1-15	
284	島銭(淳化元宝)	2.4	0.73	0.1	2.5	完存	0.10	139-1-24	
285	淳化元宝	2.4	0.90	0.1	1.6	完存	0.07	151-2-7	
286	島銭(淳化元宝)	2.4	0.83	0.1	2.2	完存	0.09	41-2-37	
287	島銭(淳化元宝)	2.4	0.80	0.1	1.8	完存	0.08	160-56	
288	咸道通宝	2.4	0.70	0.1	2.6	完存	0.11	128-78	
289	島銭(皇栄通宝)	2.4	0.72	0.1	2.0	完存	0.08	75-4	
290	島銭(元化通宝)	2.3	0.78	0.1	2.2	完存	0.10	91-1-80	
291	島銭(宣和通宝)	2.3	0.75	0.1	1.6	完存	0.07	41-2-1	
292	無文銭	2.5	0.60	0.1	2.5	完存	0.10	98-2-32	
293	無文銭	2.5	0.69	0.1	1.4	完存	0.06	16-3-81	
294	無文銭	2.1	0.67	0.1	1.6	完存	0.08	84-1-74	
295	無文銭	2.4	0.90	0.1	2.0	ほぼ完存	0.08	57-2-75	
296	無文銭	2.5	0.85	0.1	2.2	完存	0.09	94-161	
297	無文銭	2.3	0.70	0.2	2.3	ほぼ完存	0.10	102-39	
298	無文銭	2.2	0.63	0.1	2.7	完存	0.12	124-3-118	
299	無文銭	2.5	0.82	0.1	2.1	完存	0.08	16-1-2	
300	元豊通宝	2.6	1.15	0.1	2.9	完存	0.11	83-87	
301	皇栄通宝	2.5	0.85	0.2	3.5	完存	0.14	85-1-72	

表9 遺物観察表(木製品)

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種・種別	口径 器高 胴径	最大長 最大幅 最大厚	材質	備考
94-1-1		10-1-1 第2面	棒状部材	- - -	- - -	スギ	
94-1-2		10-1-1 第2面	桶側板?	- - -	- - -	スギ	内面に横方向のスジあり、底板の圧痕か?
94-2-1		10-1-1 1005溝	曲物底板	- - -	18.2 (7.6) 0.5	スギ	遺存状態悪い
94-3-1		10-1-1 1009土坑	糸粋?	- - -	16.0 1.8 1.6	スギ	木釘1点残存
94-4-1		10-1-1 1027溝	下駄 (歯の部分)	- - -	20.2 10.8 2.2	キリ	栓残存 差歯残存
94-4-1		10-1-1 1027溝	下駄 (台の部分)	- - -	20.2 10.8 2.2	ツゲ	栓残存 差歯残存
94-5-1		10-1-1 1025溝	容器底板?	- - -	18.0 (3.5) 0.8	スギ	
94-6-1		10-1-1 第6層	椀	(11.0) 3.4 -	- - -	ケヤキ	内外面ともに黒漆塗布、見込部に撫子の文様を朱で描く。
95-1-1		10-1-1 1027溝	角棒状部材	- - -	- - -	ヒノキ	
95-2-1		10-1-1 第6層	杭	- - -	- - -	スギ	
95-2-2		10-1-1 第6層	板状部材	- - -	- - -	スギ	
95-2-3		10-1-1 第6層	分割材	- - -	44.9 11.9 2.7	ケヤキ	ミカン割材 加工あり
96-1-1		10-1-1 第6層	板状部材	- - -	57.4 12.4 1.9	スギ	
96-2-1	35-10	10-1-1 1058流路	棒状部材	- - -	38.7 (2.9) 2.5	カヤ	
96-2-2	35-9	10-1-1 1058流路	槌	- - -	34.7 6.0 6.0	マツ科	
96-3-1	35-11	10-1-1 1058流路	桶底板?	- - -	- - -	スギ	割物桶か?
96-3-2	36-12	10-1-1 1058流路	板状部材	- - -	37.5 10.4 3.1	シイ属	
97-1-6	36-4	10-1-1 1058流路	板状部材	- - -	53.8 6.3 1.8	ヒノキ	
98-1-1	36-1	10-1-1 1058流路	板状部材	- - -	57.0 16.5 2.2	シイ属	孔6点あり
98-1-2	36-3	10-1-1 1058流路	板状部材	- - -	47.7 7.0 1.9	ヒノキ	
98-1-10		10-1-1 1058流路	板状部材	- - -	11.5 3.3 1.2	スギ	
100-1-1	35-12	10-1-1 1058流路	棒状部材	- - -	- - -	ヤマグワ	
100-1-5	35-15	10-1-1 1058流路	棒状部材	- - -	12.6 (2.6) 1.2	クスノキ	

図版 番号	挿図 番号	調査区 遺構	器種・種別	口径 器高 胴径	最大長 最大幅 最大厚	材質	備考
100-1-6	35-14	10-1-1 1058 流路	棒状部材	- - -	- - -	ヒノキ	
100-1-7	35-18	10-1-1 1058 流路	棒状部材	- - -	- - -	サカキ	
100-1-9	35-16	10-1-1 1058 流路	棒状部材	- - -	- - -	サカキ	
104-1-1		10-1-1 1062 周溝	棺材?	- - -	- - -	ヒノキ	
105-1-1	49-1	10-1-1 1072 土坑	船材?	- - -	(27.5) (12.5) 2.4	クスノキ	
105-2-1		10-1-2 第1層	板状	- - -	12.2 4.2 1.3	スギ	残存良好
105-2-2		10-1-2 第1層	棒状部材	- - -	- - -	ヒノキ	
105-2-3		10-1-2 第1層	木製品	- - -	20.5 2.2 0.5	スギ	孔2点あり
105-3-1		10-1-2 第1層	蓋	- - -	9.9 7.4 1.2	ヒノキ	木釘孔6点、うち3点木釘残存
106-1-1		10-1-2 2025 溝	板状部材	- - -	- - -	スギ	
106-1-2		10-1-2 2025 溝	曲物底板	- - -	(9.5) (2.5) 0.8	スギ	柄杓?
106-1-3		10-1-2 第1面 落ち込み	漆器椀	- - -	- - -	トチノキ	
106-1-4		10-1-2 2025 溝上層	桶側板	- - -	(11.1) (5.2) 1.0	スギ	
106-1-5		10-1-2 2025 溝層内	曲物底板?	- - -	8.2 5.4 0.3	スギ	表面にキズあり
106-1-6		10-1-2 北側側溝	板状部材	- - -	8.8 (5.2) 0.6	スギ	
106-1-7		10-1-2 北側側溝	曲物底板	- - -	- - -	スギ	
106-2-4		10-1-2 2034 土坑	板状部材	- - -	(18.4) (2.5) 2.1	ヒノキ	
106-2-5		10-1-2 2034 土坑	棒状部材?	- - -	12.0 0.8 0.6	ヒノキ	
106-2-6		10-1-2 2034 土坑	板状部材?	- - -	(15.5) (5.1) 2.2	シイ属	割物か?
107-1-1		10-7-2 2025 溝	曲物	12.2 (5.2) 12.2	- - -	スギ	
107-2-1		10-1-2 2025 溝	椀	8.4 - -	- - -	ケヤキ	
107-3-1		10-1-2 2027 溝	椀	- (2.0) -	(11.0) - 0.2	ケヤキ	
107-4-1		10-1-3 3005 井戸(最下層)	曲物	- 12.2 -	- - -	ヒノキ	

図版 番号	挿図 番号	調査区 遺構	器種・種別	口径 器高 胴径	最大長 最大幅 最大厚	材質	備考
107-5-1		10-1-3 3010 井戸	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
108-1-1		10-1-3 第7層	曲物	- - -	- - -	ミズキ	
109-1-1		10-1-5 5003 井戸	曲物	42.5 27.3 -	- - -	ヒノキ	釘穴10ヶ所
109-2-1		10-1-5 5005 井戸	曲物	33.0 23.5 -	- - -	ヒノキ	
109-2-2		10-1-5 5005 井戸	曲物	32.8 21.6 -	- - -	ヒノキ	釘穴12ヶ所
109-3-1		10-1-5 第6層	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
109-4-1	116-7	10-1-6 西壁掘削中	柱	- - -	62.6 13.2 12.8	スギ	
109-5-1		10-1-5 第9層	板状部材	- - -	- - -	スギ	
110-1-1	146-16	10-1-9 第1面 北半部落ち込み	部材	- - -	6.7 2.2 1.2	スギ	全的に加工、ほぞ部分とほぞ孔部分に圧痕あり
110-2-1	163-2	10-1-9 9022 溝	部材	- - -	- - -	ケヤキ	
110-3-1		10-1-9 9030 井戸	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
110-3-2		10-1-9 9030 井戸	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
110-3-3		10-1-9 9030 井戸	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
110-3-4		10-1-9 9030 井戸	曲物	- - -	- - -	ヒノキ	
110-4-1	162-11	10-1-9 9022 溝南西隅	部材	- - -	19.4 1.7 1.6	スギ	角棒状部材、先端部に突起あり
110-4-2	162-9	10-1-9 9022 溝	部材	- - -	18.2 1.5 1.6	スギ	段・孔あり
110-4-3	162-10	10-1-9 9022 溝	曲物底板	- - -	17.2 2.2 0.6	スギ	木釘残存
110-4-6	163-1	10-1-9 9022 溝	板草履	- - -	10.7 4.9 0.2	スギ	
111-1-3	162-8	10-1-9 9022 溝	棒状部材	- - -	15.0 1.7 1.6	スギ	段あり、木目細かい
112-1-2	168-4	10-1-9 9022 溝	杭?	- - -	60.5 4.5 2.9	マツ	
112-2-1		10-1-9 9133pit	板状部材	- - -	37.5 10.4 3.1	スギ	孔1点あり
112-3-1		10-1-9 9179 落ち込み	箸	- - -	19.3 0.7 0.3	スギ	
112-3-2	167-6	10-1-9 9179 落ち込み	箸	- - -	22.2 0.6	スギ	

表 10 遺物観察表 (石器・石製品)

図版 番号	挿図 番号	調査区 遺構	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	残存率	備考
38-1-1		10-1-1 1 溝 (北西 隅部)	石製品 砥石	- - -	- - -	外) 5Y6/1 灰色	-	
38-3-4		10-1-1 1027 溝	石製品 砥石	- - -	(7.1) (6.8) -	外) 5Y8/2 灰白色 内) 5Y8/2 灰白色 断) 5Y8/2 灰白色	-	
49-1-4		10-1-2 第 1 層	石製品 砥石	- - -	(4.0) (2.4) -	外) 5Y6/2 灰オリーブ色 内) 5Y6/2 灰オリーブ色 断) 5Y6/2 灰オリーブ色	-	
49-1-5		10-1-2 第 1 層	石製品 砥石	- - -	5.7 4.1 2.6	外) 10YR7/4 にぶい黄橙色	-	
49-1-6		10-1-2 第 1 層	石製品 砥石	- - -	7.6 4.0 2.2	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
49-2-5		10-1-2 第 1 層	石製品 砥石	- - -	(5.0) (4.7) -	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	-	
50-1-1		10-1-2 中央落込み	or 台石	6.0 - -	- 7.4 -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	100	
52-2-6		10-1-2 2025 溝	台石	- - -	7.7 5.2 3.7	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
52-2-7		10-1-2 2025 溝	石製品 砥石	- - -	6.7 4.3 4.3	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
58-1		10-1-2 南壁	石製品	- - -	18.1 10.4 -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
58-2-1		10-1-2 第 21 層	石製品 切片	- - -	5.8 5.2 -	外) N3/0 暗灰色 内) N3/0 暗灰色 断) 5Y6/1 灰色	-	
58-2-2		10-1-2 第 21 層	石製品 剥片	- - -	3.3 3.8 -	外) N4/0 灰色	-	
58-2-3		10-1-2 2034 土坑	石製品 投弾?	- - -	3.9 3.3 2.4	外) 5Y8/1 灰白色	100	
62-3-1		10-1-2 2041 溝	石製品 剥片	- - -	4.0 6.0 -	外) N4/0 灰色	-	
65-1-4		10-1-3 第 1 層上面	石製品 砥石	- - -	4.1 3.4 2.0	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色 断) 10YR7/3 にぶい黄橙色	-	
65-5-10		10-1-3 第 2 面精査	石製品 砥石	- - -	(6.9) 4.4 3.2	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
70-6		10-1-3 102 土坑 (西半部)	石器 砥石	- - -	(6.9) (5.8) (3.6)	外) 2.5Y8/2 灰白色 ~ 5Y8/1 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色 ~ 5Y8/1 灰白色	-	
75-2-2		10-1-4 4025 溝	石製品	- - -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
78-1		10-1-5 5004pit	礎石?	- - -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
78-4		10-1-5 5016pit	礎石?	- - -	- - -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
78-5-2		10-1-5 5049 井戸	石製品 砥石	- - -	17.2 14.4 -	外) N4/0 灰色 断) N4/0 灰色	-	

図版番号	挿図番号	調査区遺構	器種器形	口径器高胴径底径	最大長最大幅最大厚	色調	残存率	備考
76-2-3・4		10-1-4 第6層	石製品 サヌカイト未 製品	- -	5.5 2.35 -	外) N4/0 灰色	-	
		10-1-1 62周溝	石製品 凸基式石鏃	- -	3.35 1.45 0.6	外) N2/0 黒色	99	
		10-1-1 第21面	石製品 石鏃	- -	2.05 1.25 0.4	外) N4/0 灰色	100	
80-4-1	120-1	10-1-6 6010土坑	磨製石器 台石	- -	16.5 14.0 7.4	外) N4/0 灰色	-	
80-4-2		10-1-6 6010土坑	石	- -	- -	外) N4/0 灰色	-	
81-1-1	130-2	10-1-7 第3層	石製品 砥石	- -	8.2 3.4 1.0	外) 7.5Y7/1 灰色 断) 2.5Y7/4 浅黄色・7.5Y7/1 灰色	-	
81-1-2	130-1	10-1-7 第3層	石製品 砥石	- -	(6.1) (2.7) (0.8)	外) 2.5Y7/1 灰色 断) 2.5Y7/4 浅黄色・7.5Y7/1 灰色	-	
83-1-6	147-13	10-1-9 第2層	石製品 砥石	- -	(5.0) (3.45) -	外) 10YR7/2 にぶい黄橙色・5Y7/2 灰白色 内) 10YR7/2 にぶい黄橙色・5Y7/2 灰白色 断) 10YR7/2 にぶい黄橙色・5Y7/2 灰白色	-	
83-1-7	147-14	10-1-9 1層近現代 水路を含む 北側側溝	石製品 砥石	- -	(4.7) 3.2 -	外) 10YR8/1 灰白色 内) 10YR8/1 灰白色 断) 10YR8/1 灰白色	-	
83-1-8	147-15	10-1-9 第2層	石製品 砥石	- -	(6.8) (5.5) -	外) N4/0 灰色	-	
85-1-11	157-1	10-1-9 第5層	石鍋	- -	(3.6) (4.8) -	外) N3/ 暗灰黄色 内) 7.5Y6/1 灰色 断) N7/ 灰白色	-	
86-1-9		10-1-9 9022溝下 層	石製品 羽釜	(1.8) -	- 1.1	外) 2.5Y2/1 黒 内) 2.5Y2/1 黒 断) 5Y5/1 灰	-	
86-1-10	161-6	10-1-9 9022溝	石製品 石鍋	- -	(7.2) (3.9) -	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) 7.5Y7/1 灰白色 断) 7.5Y7/1 灰白色	-	
86-1-11	163-3	10-1-9 9022溝	石製品 砥石	- -	5.5 3.0 -	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	-	
89-1-4	161-7	10-1-9 9022溝 (南側側溝)	石製品 石臼(上臼)	8.6 -	- 7.9	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	16	
89-2	159-10	10-1-9 第6面精査	石製品 砥石	- -	8.4 5.6 -	外) N4/0 灰色	-	
90-2-9		10-1-9 9025溝	石製品 羽釜	(13.0) (4.4) -	- 1.85	外) N3/ 暗灰色 内) 2.5Y7/1 灰白色	7	
92-3-3		10-1-9 9185井戸	石製品 砥石	- -	9.6 5.9 -	外) N4/0 灰色	-	
92-4-3	168-5	10-1-9 第6層	石製品 砥石	- -	4.2 3.2 -	外) 2.5Y7/2 灰黄色・2.5Y8/2 灰白色 断) 7.5YR7/2 明褐灰色	-	

※表中の遺構・器種・器形は、調査時の取上げラベル表記に従ったため、本文中の名称とは一部異なる。

写 真 图 版



1. 10-1-1区 第2遺構面 全景(東から)



2. 10-1-1区東半部 第2遺構面 全景(北西から)



3. 10-1-1区東半部 第3遺構面 全景(北西から)



4. 10-1-1区西半部 第4遺構面 全景(北東から)



5. 10-1-1区東半部 第4遺構面 全景(北西から)

図版2 遺構



1. 10-1-1区東半部 第5遺構面 全景(東から)



2. 10-1-1区西半部 第5遺構面 全景(東から)



3. 10-1-1区東半部 第6遺構面 全景(西から)



4. 10-1-1区西半部 第6遺構面 全景(東から)



5. 10-1-1区 第7遺構面 全景(東から)



6. 10-1-1区西半部 第8遺構面 全景(東から)



7. 10-1-1区 第8遺構面
1091 土器だまり 遺物出土状況(南から)



8. 10-1-1区 第9遺構面
1092 土器だまり 遺物出土状況(南から)



1. 10-1-1区東半部 第10遺構面 全景(東から)



2. 10-1-1区西半部 第10遺構面 全景(東から)

図版4 遺構



1. 10-1-1区 第10遺構面1058流路 完掘状況(西から)



2. 10-1-1区 第10遺構面1058流路 遺物出土状況



3. 10-1-1区 第10遺構面1058流路 遺物出土状況



4. 10-1-1区 第10遺構面
1059集石 遺物出土状況



5. 10-1-1区 第10遺構面
1060集石 遺物出土状況



1. 10-1-1区中央部 第11遺構面 全景(東から)



2. 10-1-1区 第11-1遺構面
1094 土器だまり 遺物出土状況



3. 10-1-1区 第11-1遺構面
1095 土器だまり 遺物出土状況



4. 10-1-1区 第11-1遺構面
1096 土器だまり 遺物出土状況



5. 10-1-1区 第11-2遺構面
1071 土器だまり 遺物出土状況



1. 10-1-1区中央部 第12遺構面 遺構検出状況（東から）



2. 10-1-1区 第12遺構面1066土坑
遺物出土状況（北東から）



3. 10-1-1区 第12遺構面1067土坑
遺物出土状況（北から）



4. 10-1-1区 第12遺構面1068土坑
遺物出土状況（南から）



5. 10-1-1区 第12遺構面1068土坑
遺物出土状況（南から）



1. 10-1-1区 第12遺構面1061周溝墓 遺物出土状況(北東から)



2. 10-1-1区 第13遺構面1061周溝墓 盛土除去状況(南西から)



1. 10-1-1区東半部 第15遺構面 全景（南西から）



2. 10-1-1区西半部 第15遺構面 全景（北西から）



1. 10-1-1区東半部 第19遺構面 全景（北西から）



2. 10-1-1区西半部 第19遺構面 全景（東から）



3. 10-1-1区 第19遺構面 1080溝 完掘状況（西から）



4. 10-1-1区東半部 第20遺構面 全景（西から）



5. 10-1-1区東半部 第20遺構面 全景（東から）

図版 10 遺構



1. 10-1-2区東半部 第2遺構面 全景（東から）



3. 10-1-2区 第5遺構面 全景（東から）



2. 10-1-2区 第4遺構面 全景（東から）



4. 10-1-2区 第6遺構面 2025溝 断面状況（北西から）



5. 10-1-2区 第6遺構面 2025溝 遺物出土状況



1. 10-1-2区 第6遺構面 全景(西から)



2. 10-1-2区 第7遺構面 全景(西から)



3. 10-1-2区 第8遺構面 全景(西から)



4. 10-1-2区 第9遺構面 全景(西から)



5. 10-1-2区 第12遺構面 全景(西から)



6. 10-1-2区 第14遺構面 全景(東から)



7. 10-1-2区 第15遺構面 全景(西から)



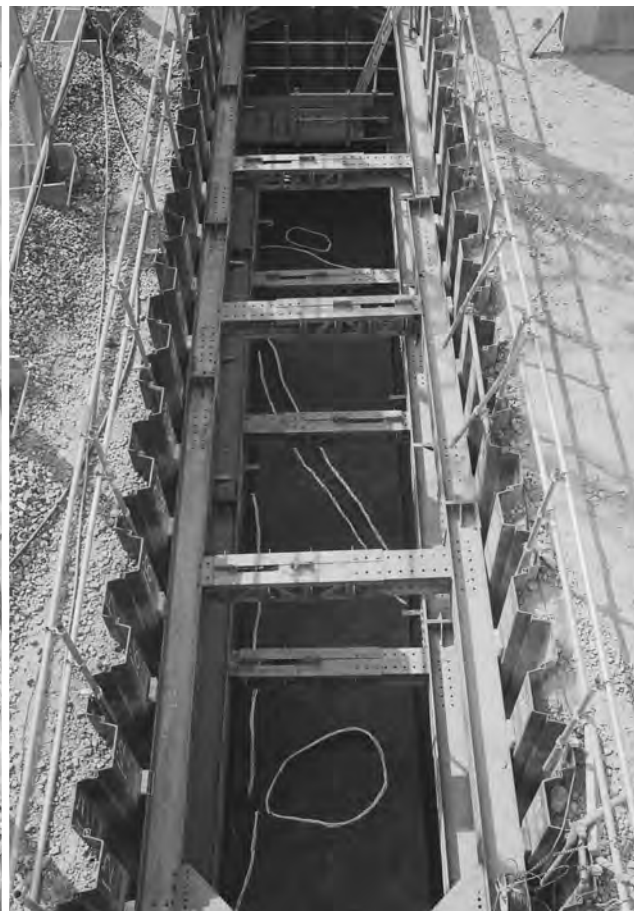
8. 10-1-2区 第16遺構面 全景(西から)



1. 10-1-2区 第18遺構面 全景(西から)



2. 10-1-2区 第19遺構面 全景(東から)



3. 10-1-2区 第22遺構面 全景(東から)



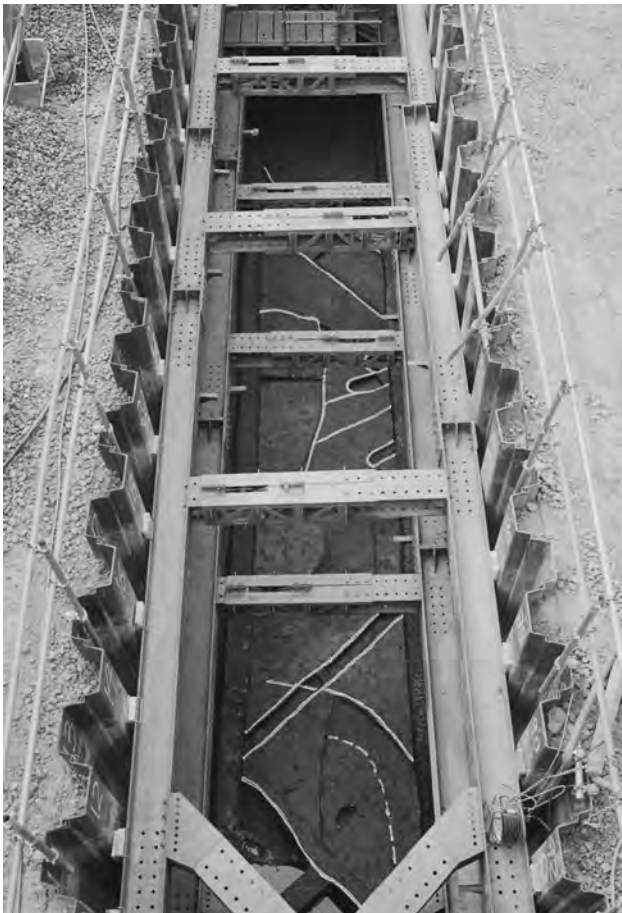
1. 10-1-2区 第24遺構面 全景(東から)



2. 10-1-2区 第24遺構面 全景(西から)



3. 10-1-2区 第24遺構面 2041溝 遺物出土状況



4. 10-1-2区 第25遺構面 全景(東から)



5. 10-1-2区 第25遺構面 2045 竪穴 検出状況(西から)



6. 10-1-2区 第25遺構面 遺構完掘状況(西から)



1. 10-1-3区 第3遺構面 全景 (西から)



2. 10-1-3区 第2遺構面 全景 (東から)



3. 10-1-3区 第3遺構面 3008井戸 井戸枠出土状況



4. 10-1-3区 第4遺構面 全景 (西から)



5. 10-1-3区 第5遺構面 全景 (西から)



1. 10-1-3区 第6遺構面 全景(北西から)



2. 10-1-3区 第7遺構面 全景(西から)



3. 10-1-3区 第7層 遺物出土状況



4. 10-1-3区 第8遺構面 全景(西から)



5. 10-1-3区 第9遺構面 全景(西から)



1. 10-1-3区 第9遺構面 3130周溝墓 検出状況(西から)



2. 10-1-3区 第9遺構面 3130周溝墓 完掘状況(西から)



3. 10-1-3区 第10遺構面 全景(西から)



4. 10-1-3区 第12遺構面 全景(西から)



5. 10-1-3区 第15遺構面 全景(東から)



1. 10-1-3区 第14遺構面 全景（東から）



2. 10-1-3区 第16遺構面 遺構検出状況（北西から）



3. 10-1-3区 第16遺構面 遺構検出状況（北から）



4. 10-1-3区 第17遺構面 全景（東から）



5. 10-1-3区 第17遺構面 3150 縦穴 検出状況（東から）



1. 10-1-4区 第2遺構面 全景 (東から)



2. 10-1-4区 第3遺構面 全景 (東から)



3. 10-1-4区 第4遺構面 全景 (東から)



4. 10-1-4区 第5遺構面 全景 (東から)



5. 10-1-4区 第6遺構面 全景 (東から)



1. 10-1-4区 第10遺構面 全景(西から)



2. 10-1-4区 第16遺構面 全景(東から)



3. 10-1-4区 第16遺構面溝群 完掘状況(南東から)



4. 10-1-4区 第17遺構面 全景(東から)



5. 10-1-4区 第18遺構面 全景(東から)



1. 10-1-5区 第4遺構面 全景 (西から)



2. 10-1-5区 第2遺構面 5049井戸
半裁状況 (南から)



3. 10-1-5区 第4遺構面 5005井戸
半裁状況 (西から)



4. 10-1-5区 第5遺構面 全景 (西から)



5. 10-1-5区 第6遺構面 全景 (西から)



1. 10-1-5区 第7遺構面 全景(東から)



2. 10-1-5区 第8遺構面 全景(東から)



3. 10-1-5区 第9遺構面
5059周溝墓 検出状況(西から)



4. 10-1-5区 第9遺構面 遺物出土状況(北から)



5. 10-1-5区 第9遺構面 5058周溝墓 検出状況(東から)

図版 22 遺構



1. 10-1-6区 第1遺構面 全景 (東から)



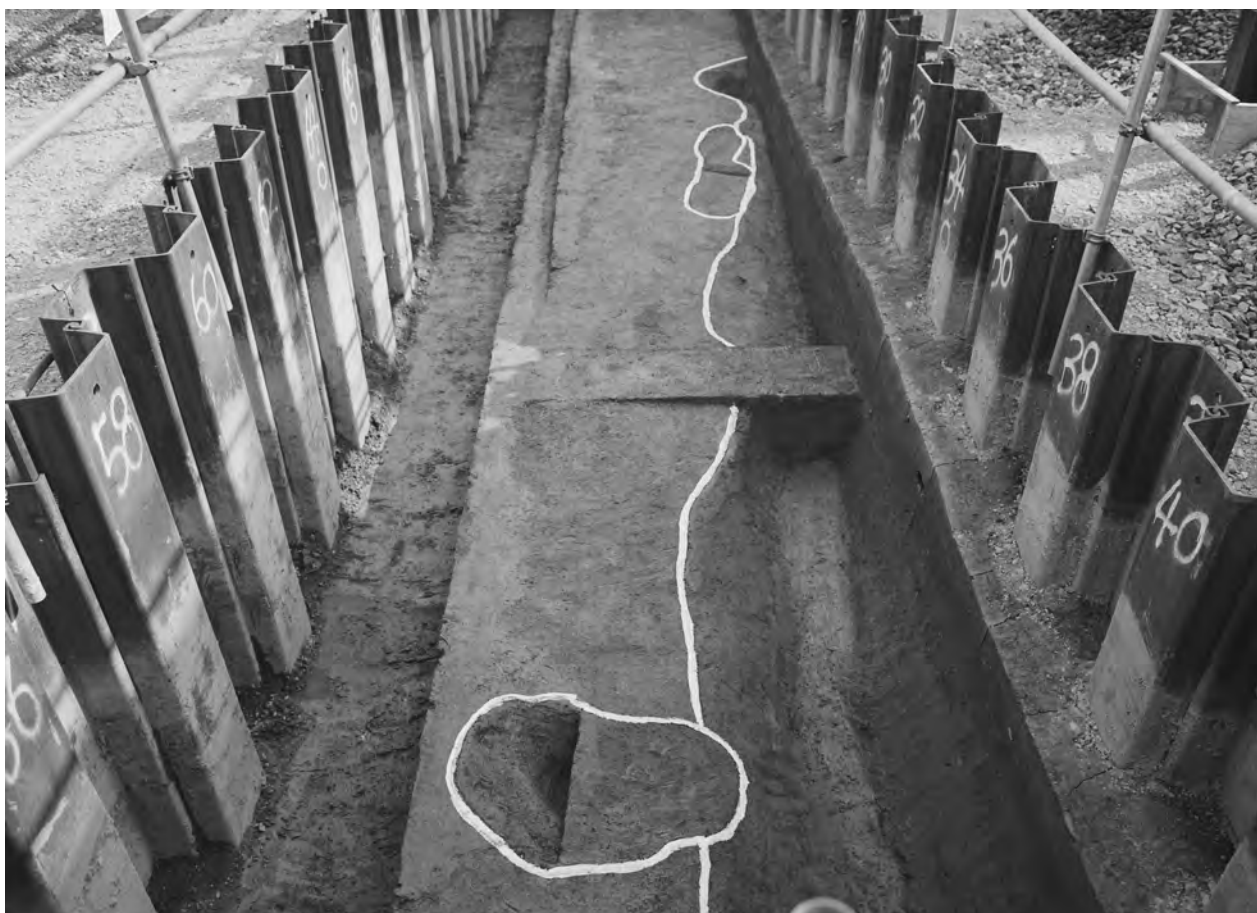
2. 10-1-6区 第2遺構面 全景 (東から)



3. 10-1-6区 第3遺構面 全景 (東から)



4. 10-1-6区 第5遺構面 全景 (東から)



5. 10-1-6区 第4遺構面 全景 (西から)



1. 10-1-6区 第6遺構面 全景(東から)



2. 10-1-6区 第7遺構面 全景(東から)



3. 10-1-6区 第8遺構面 全景(東から)



4. 10-1-6区 第9遺構面 全景(西から)



5. 10-1-6区 第10遺構面 全景(北西から)

図版 24 遺構



1. 10-1-6区 第11遺構面 全景(西から)



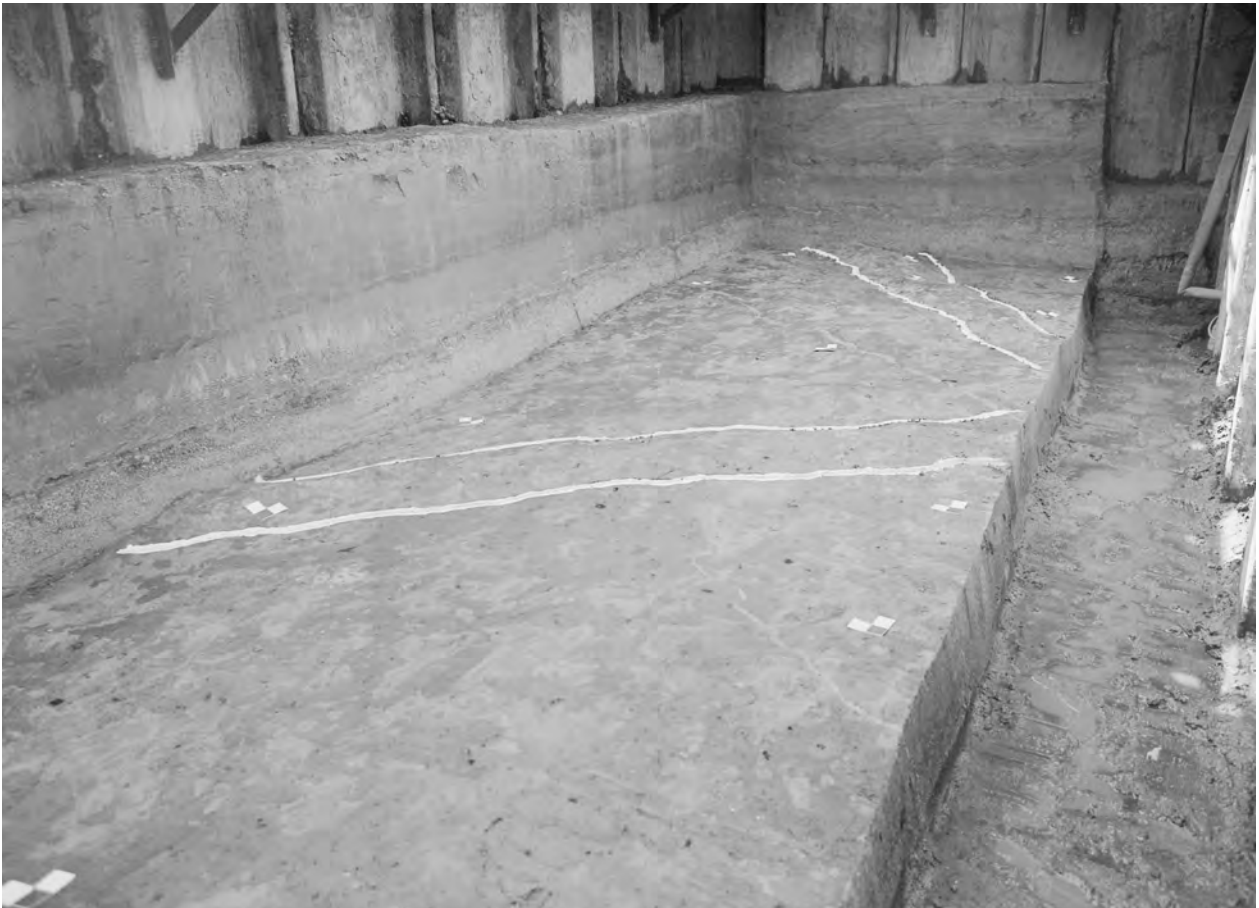
2. 10-1-6区 第11遺構面地割れ跡 検出状況(北から)



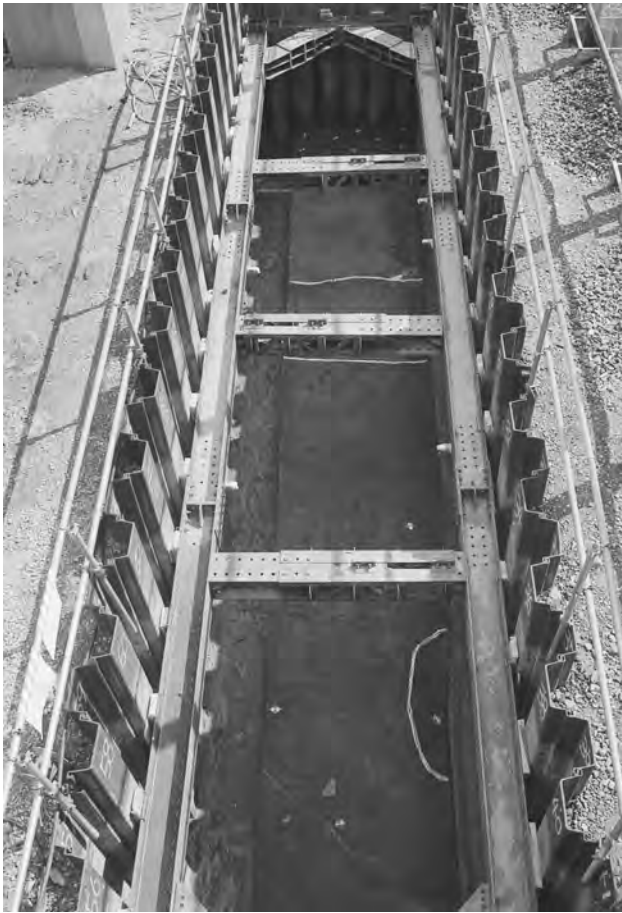
3. 10-1-6区 第12遺構面 全景(西から)



4. 10-1-6区 第13遺構面 全景(西から)



5. 10-1-6区西半部 第12遺構面 遺構検出状況(北東から)



1. 10-1-6区 第15遺構面 全景(西から)



2. 10-1-6区東半部 第15遺構面 全景(東から)



3. 10-1-6区 第17遺構面 6010土坑 遺物出土状況



4. 10-1-6区西半部 第17遺構面 全景(西から)

図版 26 遺構



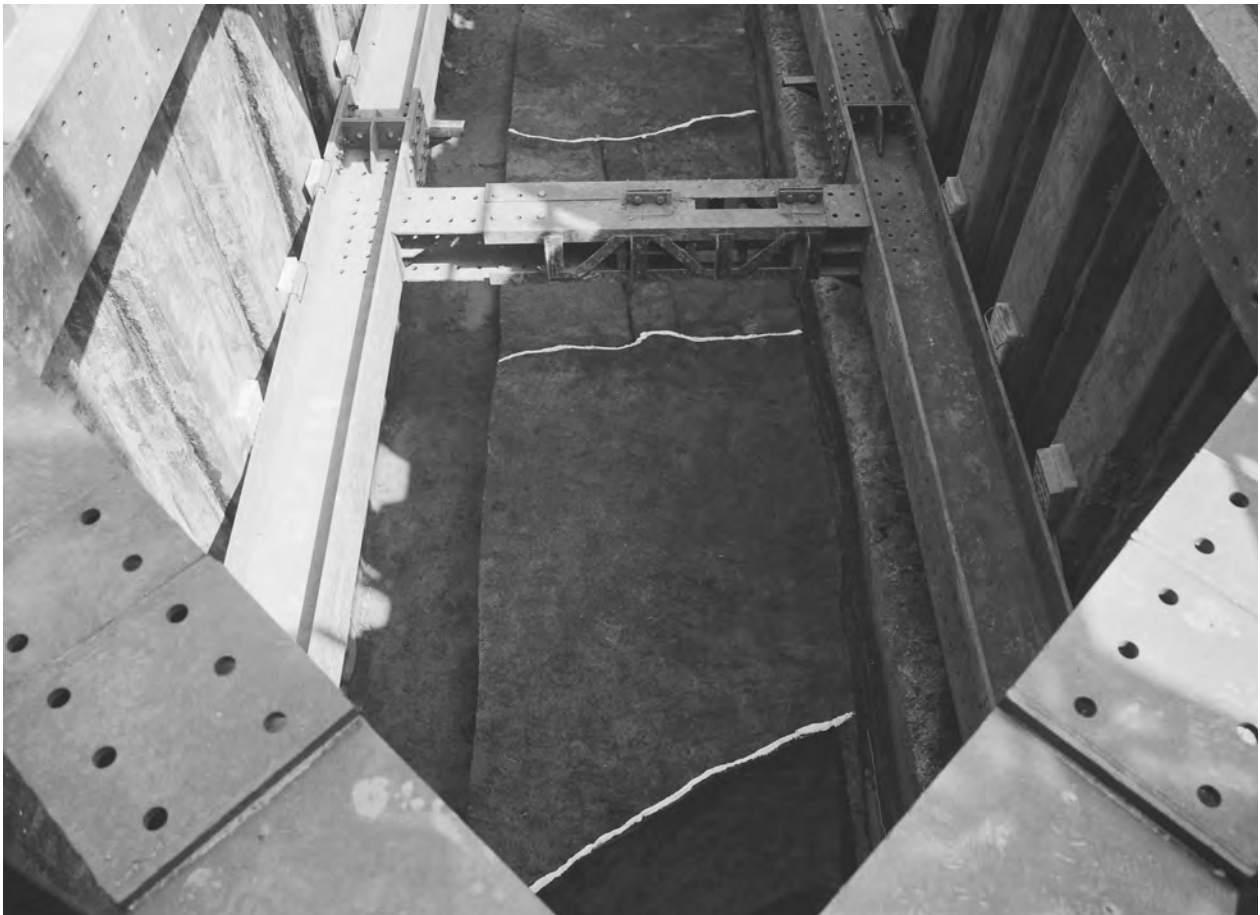
1. 10-1-6区 第18遺構面 全景(北西から)



2. 10-1-6区 第19遺構面 全景(西から)



3. 10-1-6区 第21遺構面 全景(東から)



4. 10-1-6区 第22遺構面 全景(西から)



1. 10-1-7区 第1遺構面 全景 (西から)



2. 10-1-7区 第2遺構面 全景 (東から)



3. 10-1-7区 第3遺構面 全景 (東から)



4. 10-1-7区 第5遺構面 全景 (東から)



5. 10-1-7区 第4遺構面 全景 (東から)

図版 28 遺構



1. 10-1-7区 第6遺構面 全景(東から)



2. 10-1-7区 第7遺構面 全景(東から)



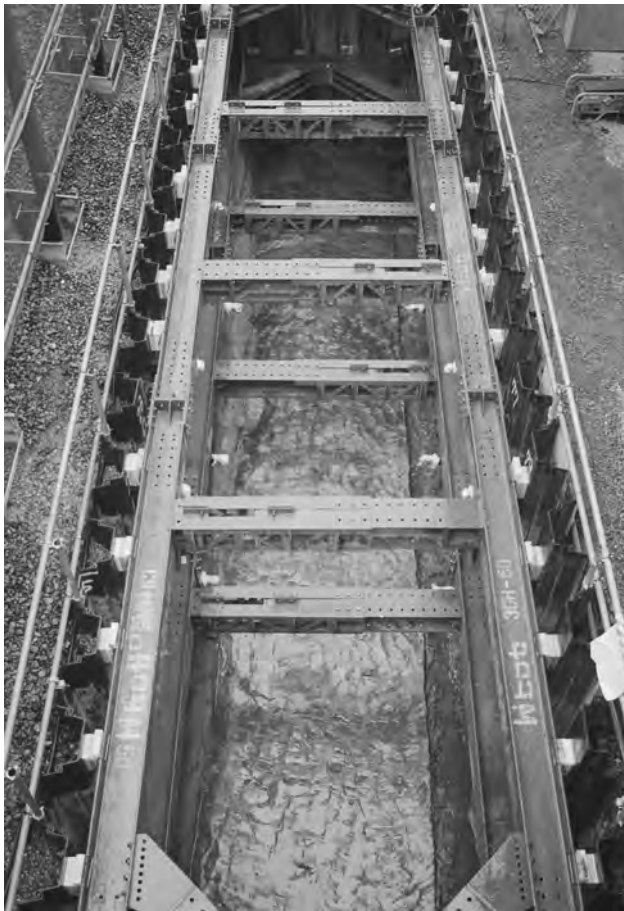
3. 10-1-7区 第8遺構面 全景(東から)



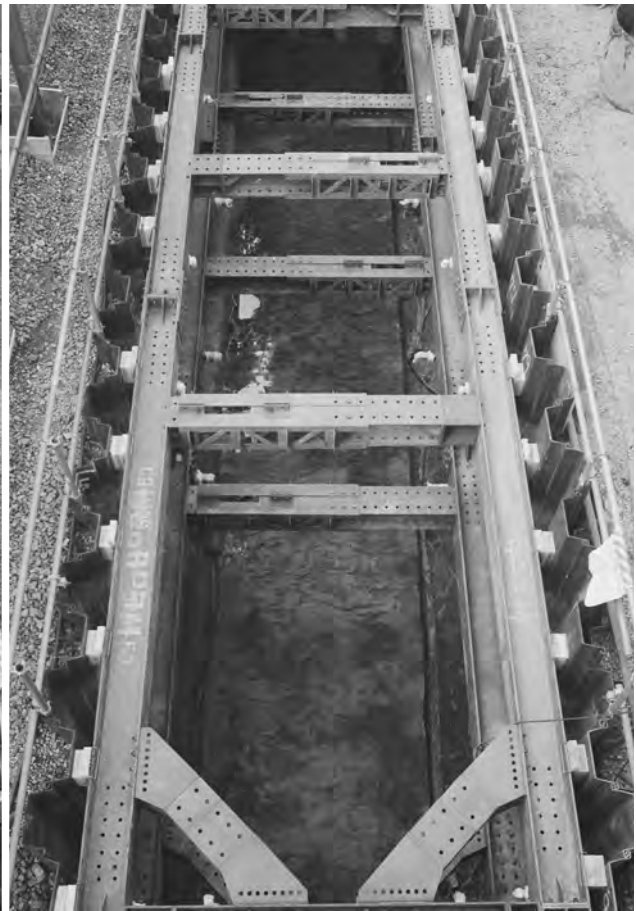
4. 10-1-7区 第10遺構面 全景(東から)



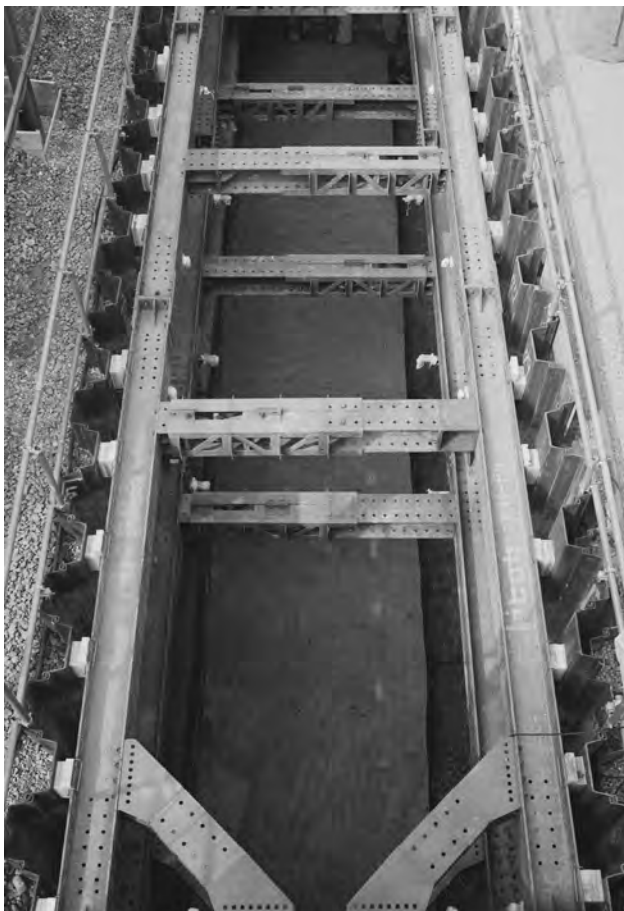
5. 10-1-7区 第9遺構面 全景(東から)



1. 10-1-7区 第11遺構面 全景(東から)



2. 10-1-7区 第12遺構面 全景(東から)



3. 10-1-7区 第15遺構面 全景(東から)



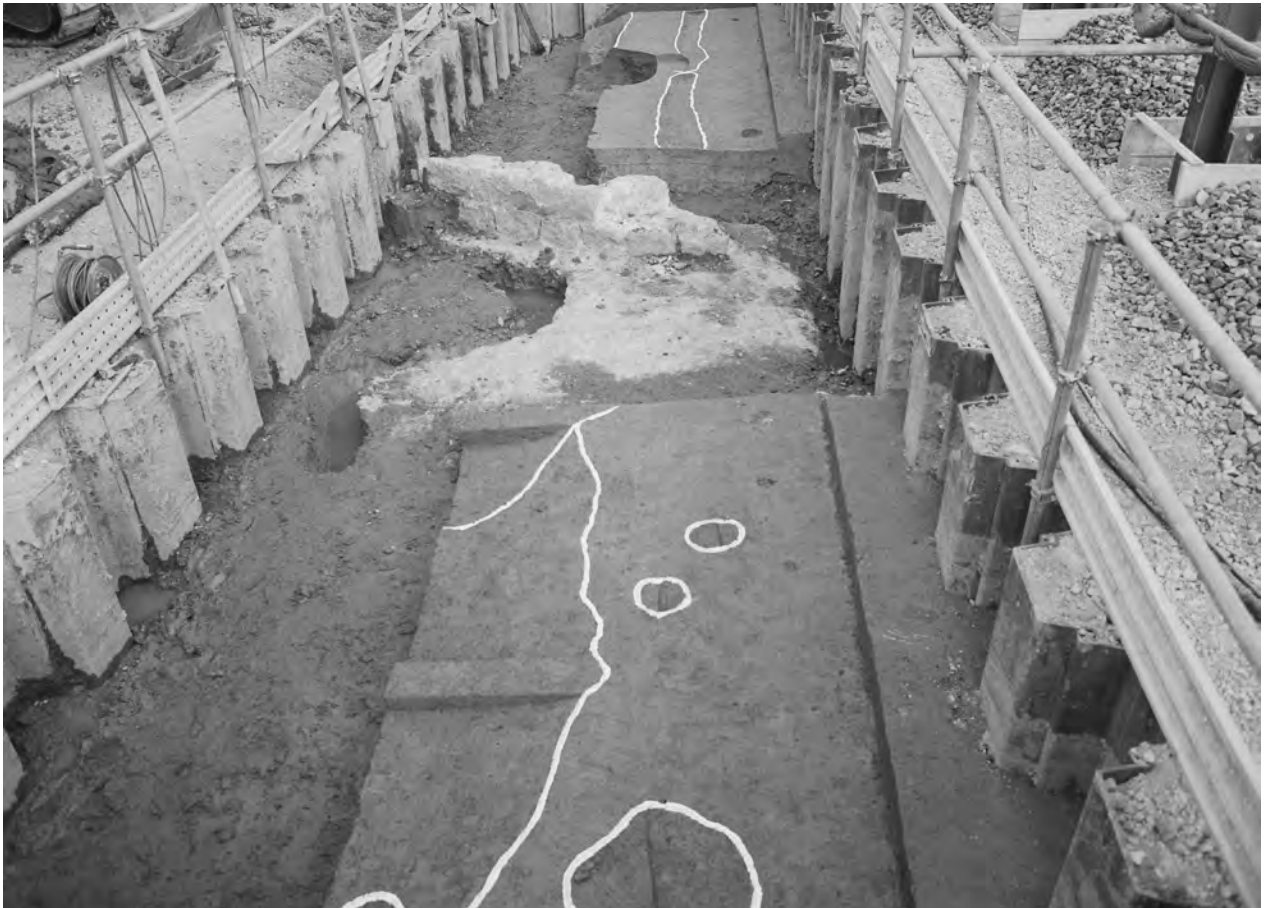
4. 10-1-7区 第16遺構面 全景(東から)



1. 10-1-7区 第19遺構面 全景(東から)



2. 10-1-7区 第20遺構面 全景(東から)



1. 10-1-8区 第2遺構面 全景 (西から)



2. 10-1-8区西半部 第3遺構面 全景 (北西から)



3. 10-1-8区東半部 第3遺構面 全景 (東から)



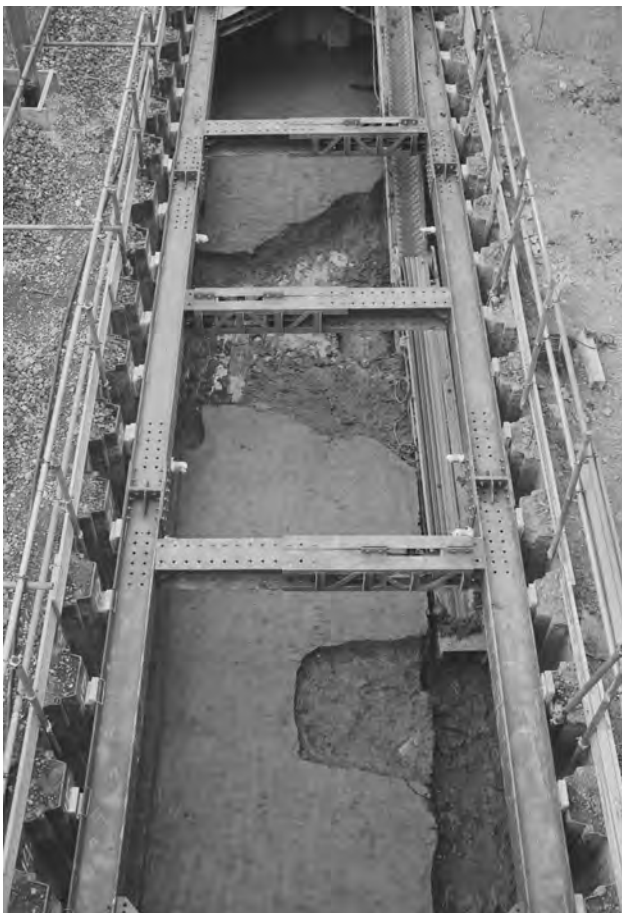
4. 10-1-8区西半部 第4遺構面 全景 (北西から)



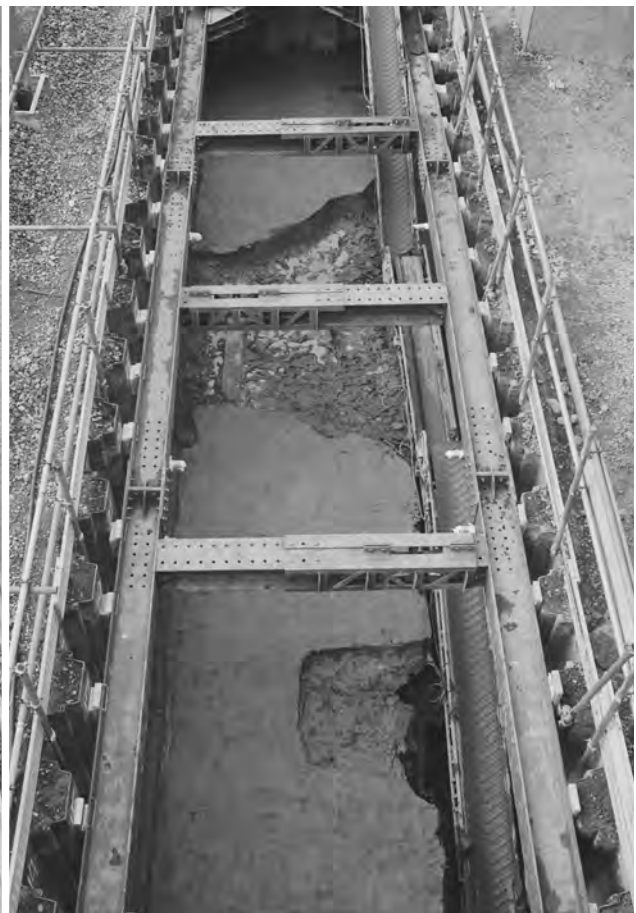
5. 10-1-8区東半部 第4遺構面 全景 (東から)



1. 10-1-8区 第7遺構面 全景 (東から)



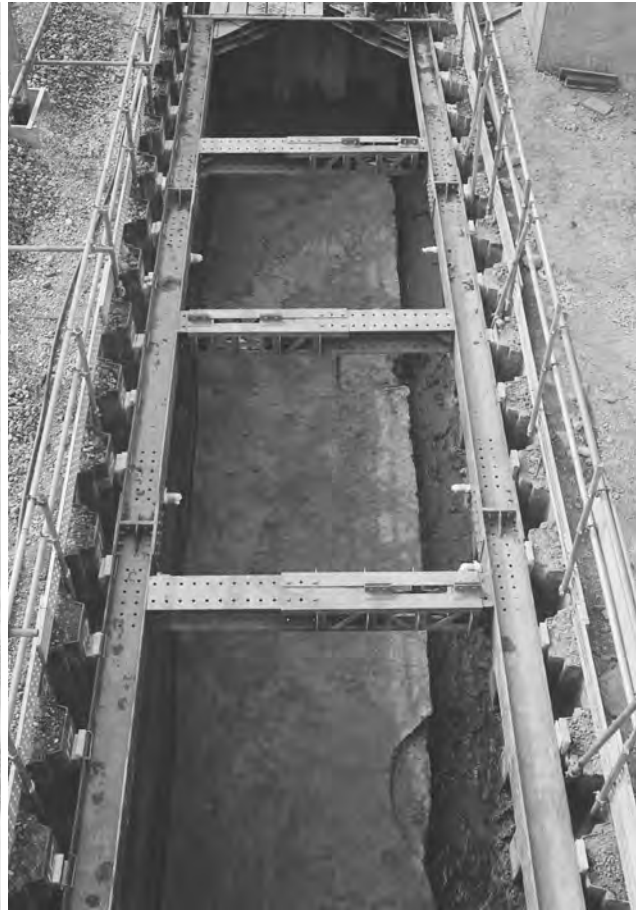
2. 10-1-8区 第8遺構面 全景 (東から)



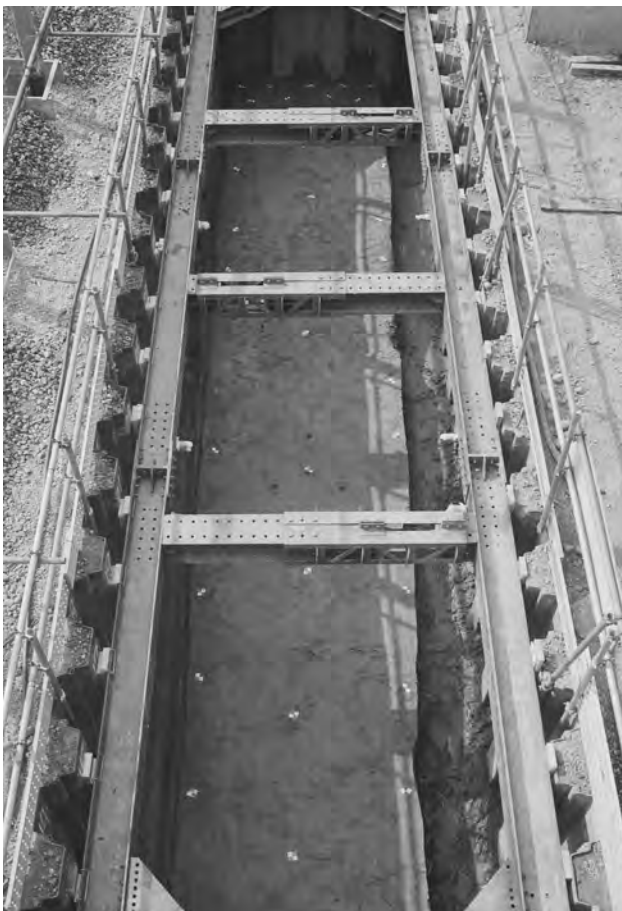
3. 10-1-8区 第9遺構面 全景 (東から)



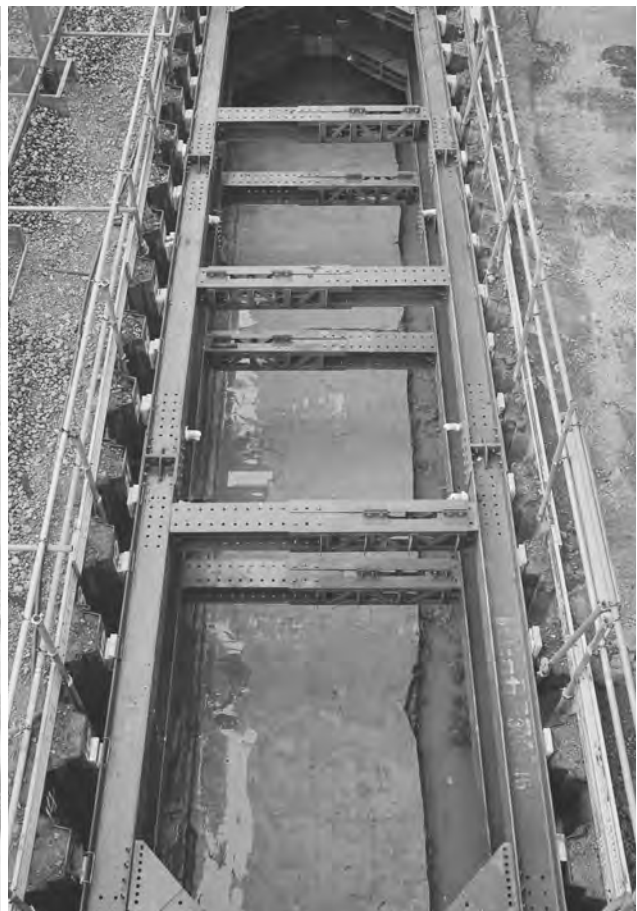
1. 10-1-8区 第12遺構面 全景(東から)



2. 10-1-8区 第15遺構面 全景(東から)



3. 10-1-8区 第16遺構面 全景(東から)



4. 10-1-8区 第17遺構面 全景(東から)

図版 34 遺構



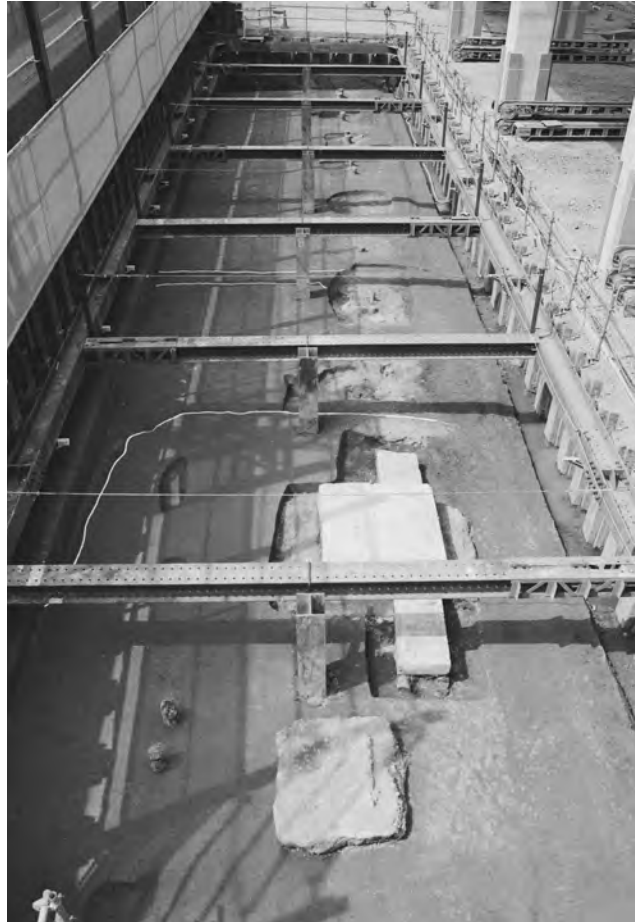
1. 10-1-9区 第1遺構面 全景 (東から)



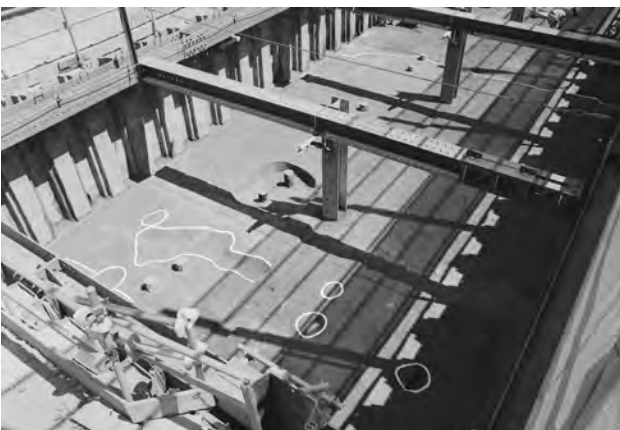
2. 10-1-9区 第2遺構面 全景 (東から)



3. 10-1-9区 第3遺構面 全景 (東から)



4. 10-1-9区 第4遺構面 全景 (東から)



5. 10-1-9区 第5遺構面 全景 (南西から)



6. 10-1-9区 第4遺構面
9004井戸 半載状況 (北から)



1. 10-1-9区 第5遺構面 全景 (東から)



2. 10-1-9区 第5遺構面 9015土坑 検出状況 (西から)



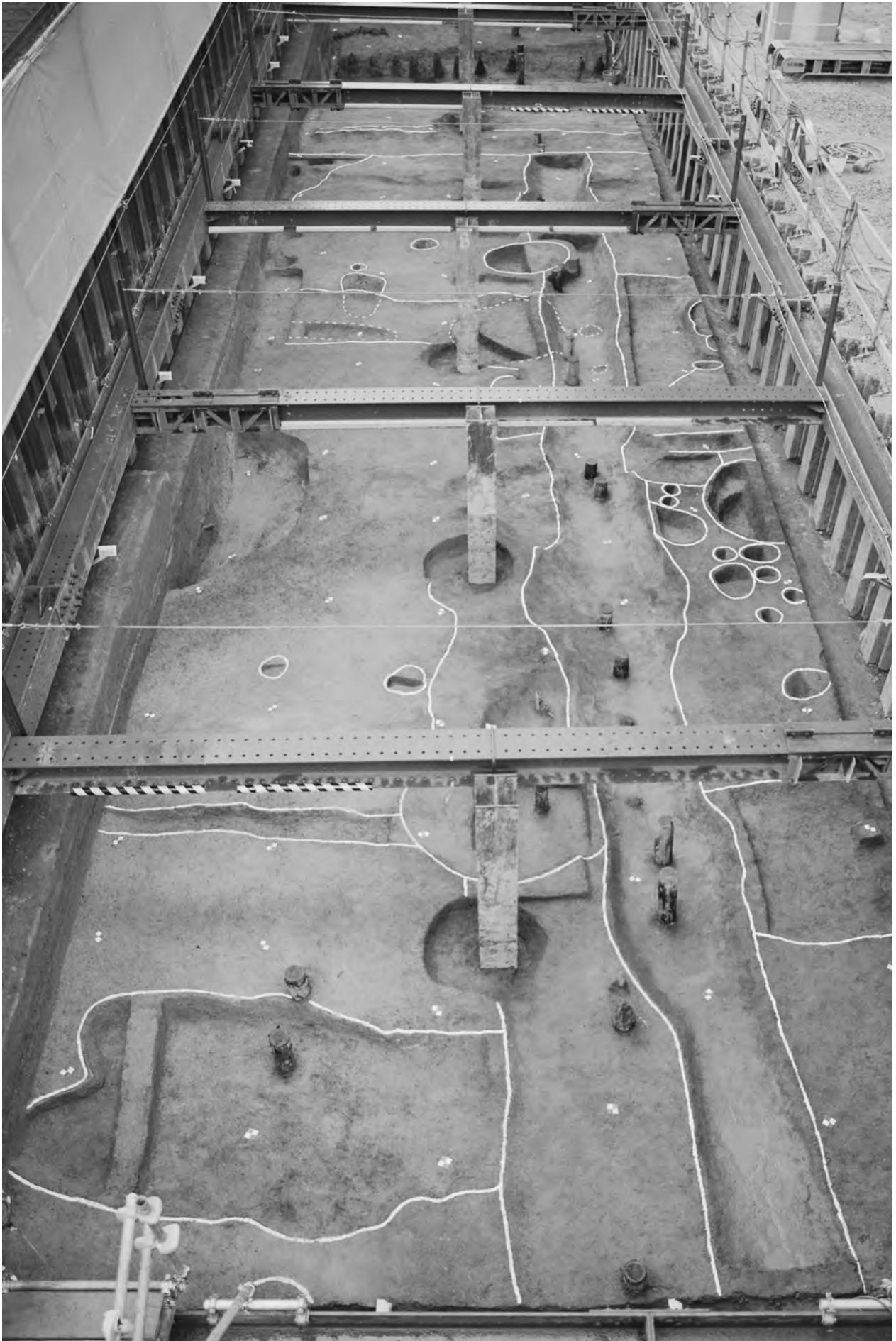
3. 10-1-9区 第5層 遺物出土状況



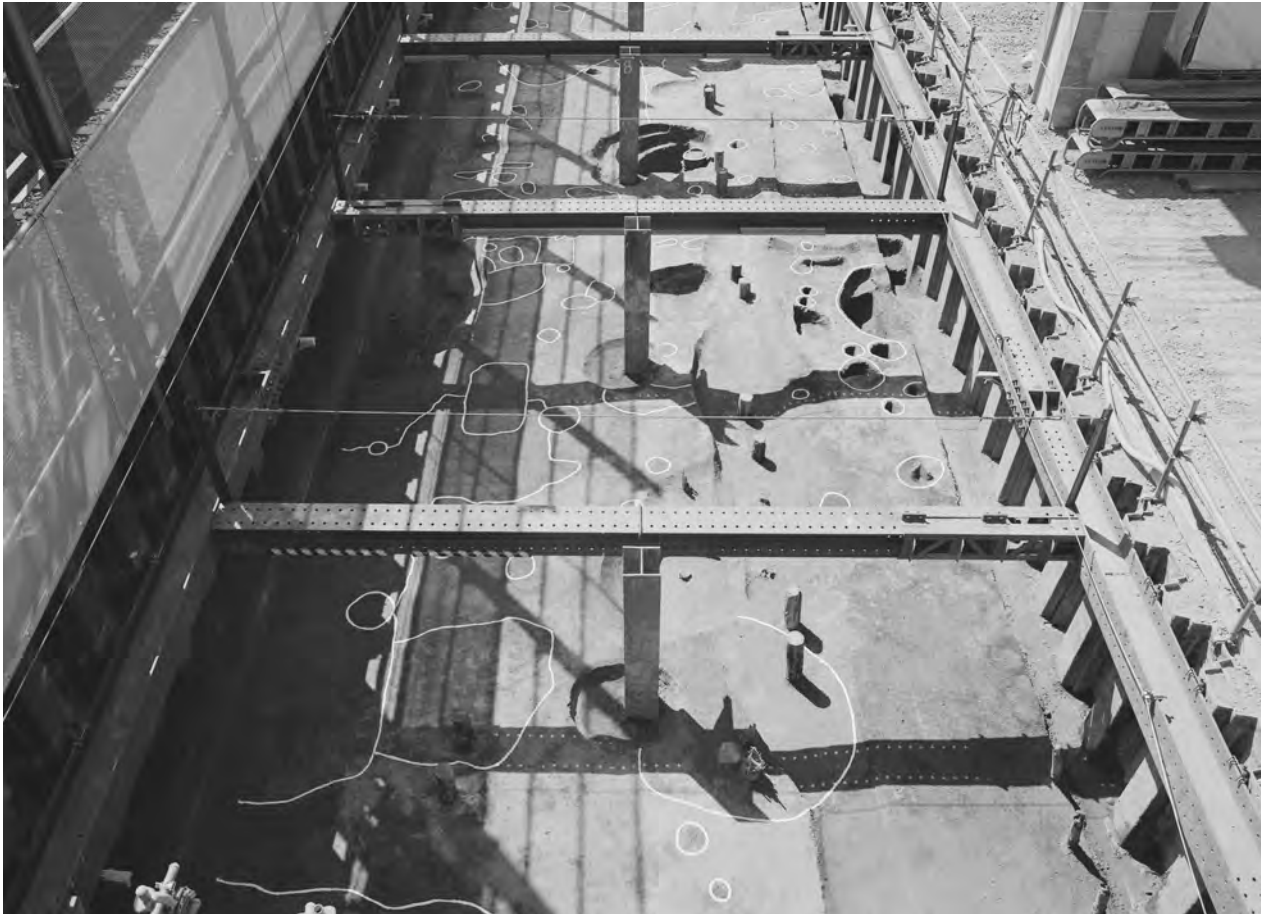
4. 10-1-9区 第6遺構面 9185井戸
検出状況 (北から)



5. 10-1-9区 第6遺構面 9026溝
完掘状況 (東から)



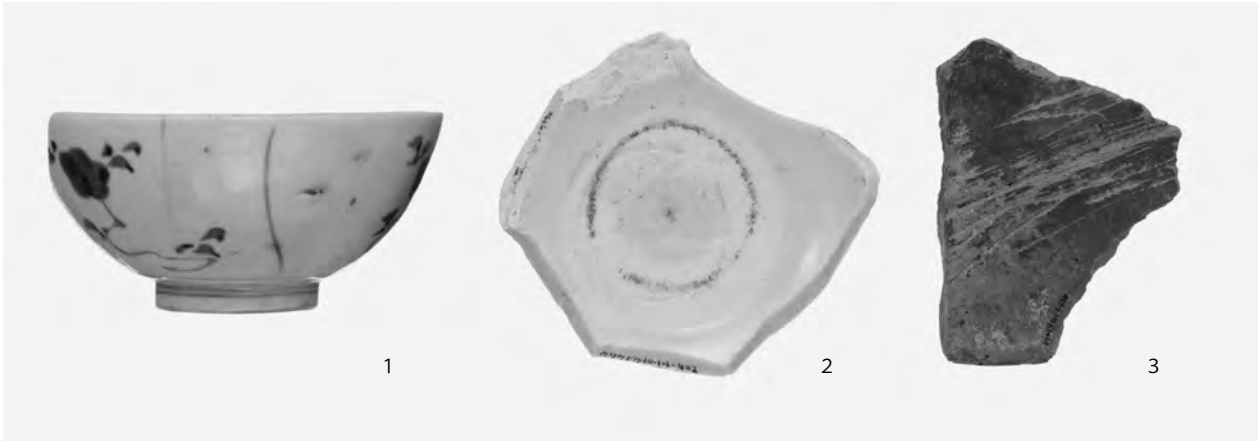
1. 10-1-9区 第6遺構面 全景 (東から)



1. 10-1-9区 第7遺構面 全景 (東から)



2. 10-1-9区 第8遺構面 全景 (東から)



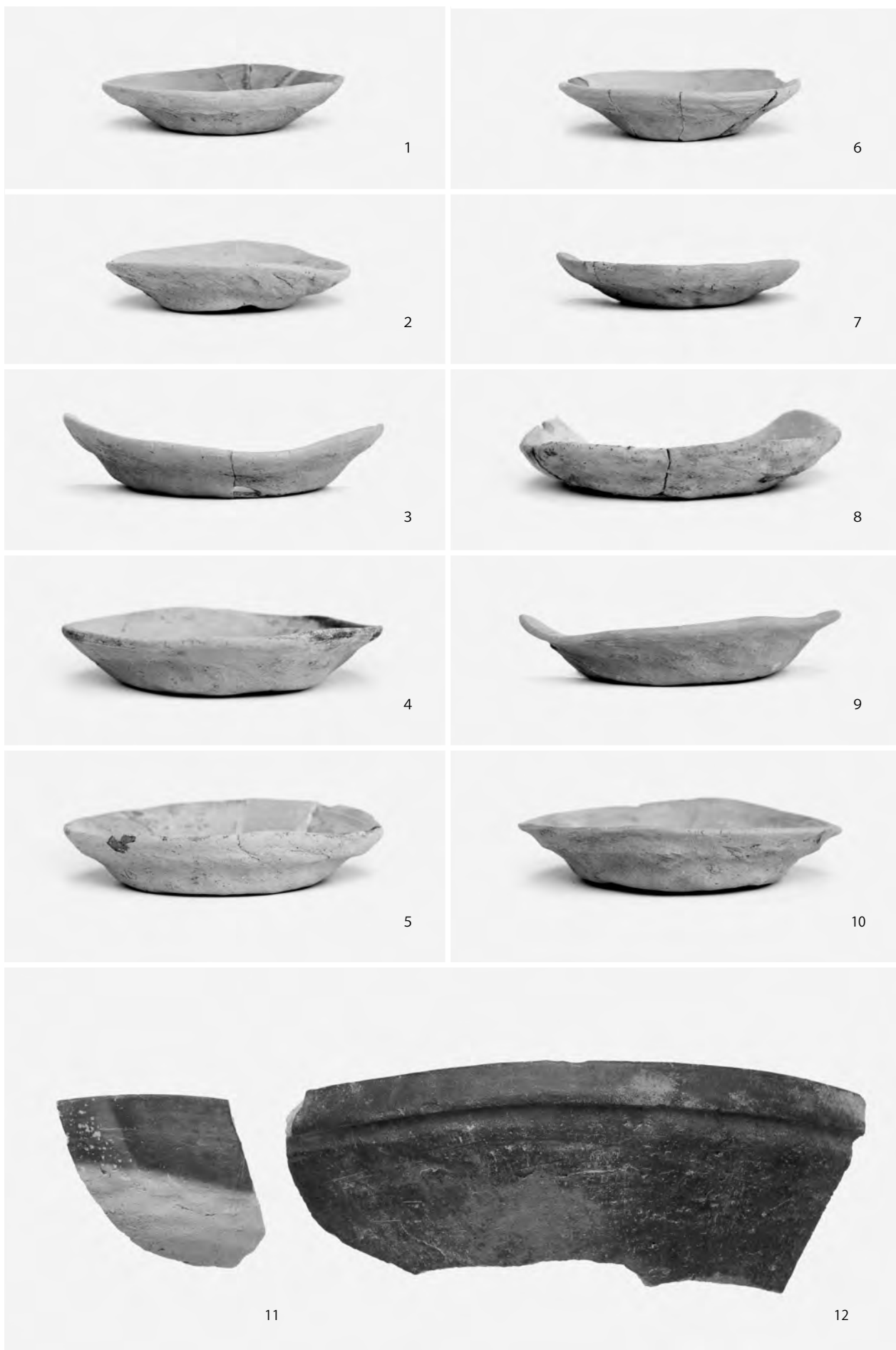
1. 10-1-1区 第1遺構面 1001 溝出土



2. 10-1-1区 第2遺構面 1020 井戸出土



3. 10-1-1区 第2遺構面 1027 溝出土



1. 10-1-1区 第2遺構面 1027 溝出土



1. 10-1-1区 第8遺構面 1091 土器だまり出土



2. 10-1-1区 第9遺構面 1092 土器だまり出土



3. 10-1-1区 第11-1遺構面
1095 土器だまり出土



4. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064 土器だまり出土



1. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064 土器だまり出土



1. 10-1-1区 第11-2遺構面1064土器だまり出土



1. 10-1-1区 第11-2遺構面 1064 土器だまり出土

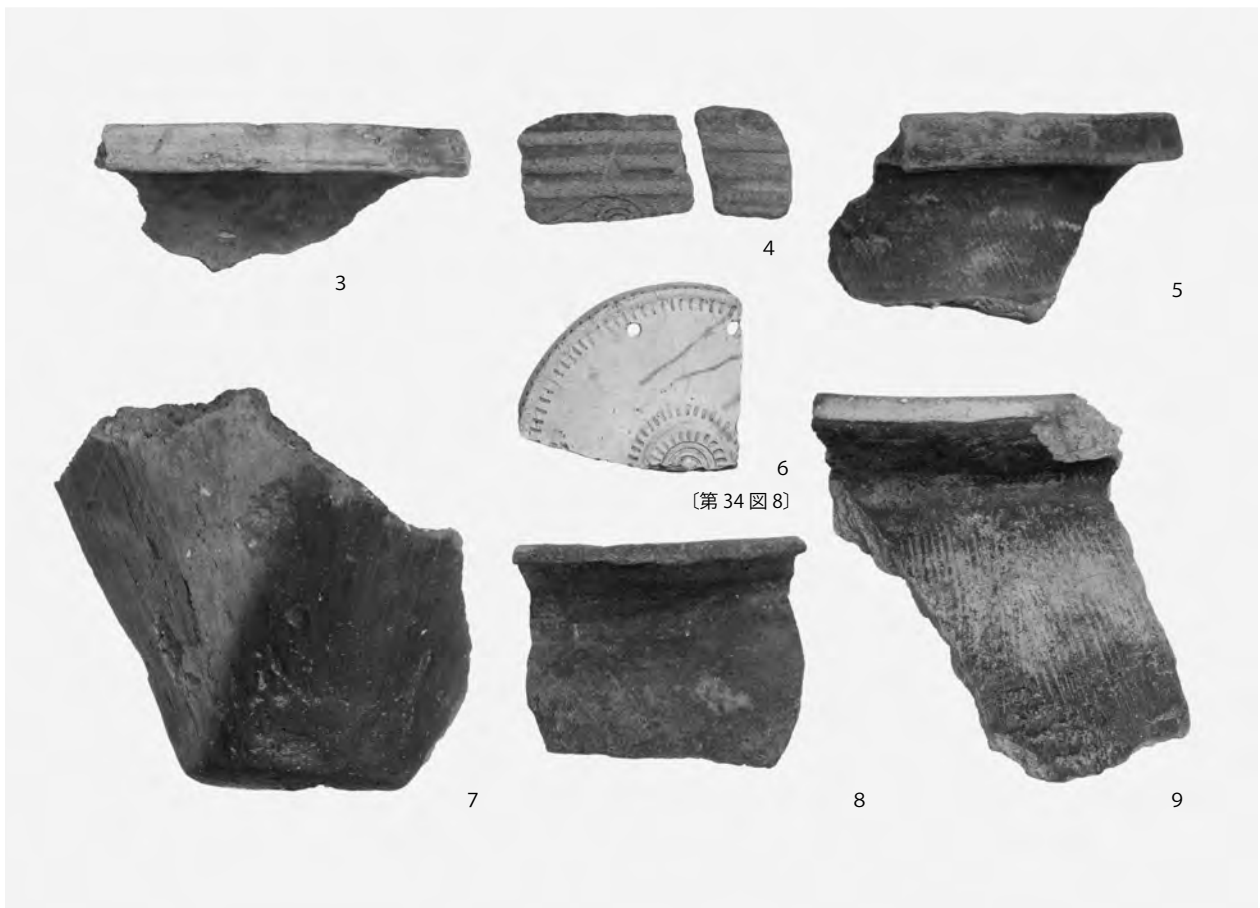
図版 44 遺物



1. 10-1-1区 第12遺構面 1062周溝上層出土



2. 10-1-1区 第11-1遺構面
1094土器だまり出土



3. 10-1-1区 第10遺構面 1058流路出土



1
〔第 34 図 12〕



2
〔第 35 図 5〕

1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1
〔第 35 図 1〕

2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1

3. 10-1-1区 第11-2遺構面
1065 土器だまり出土



1

4. 10-1-1区 第11-2遺構面
1070 土器だまり出土



2



1

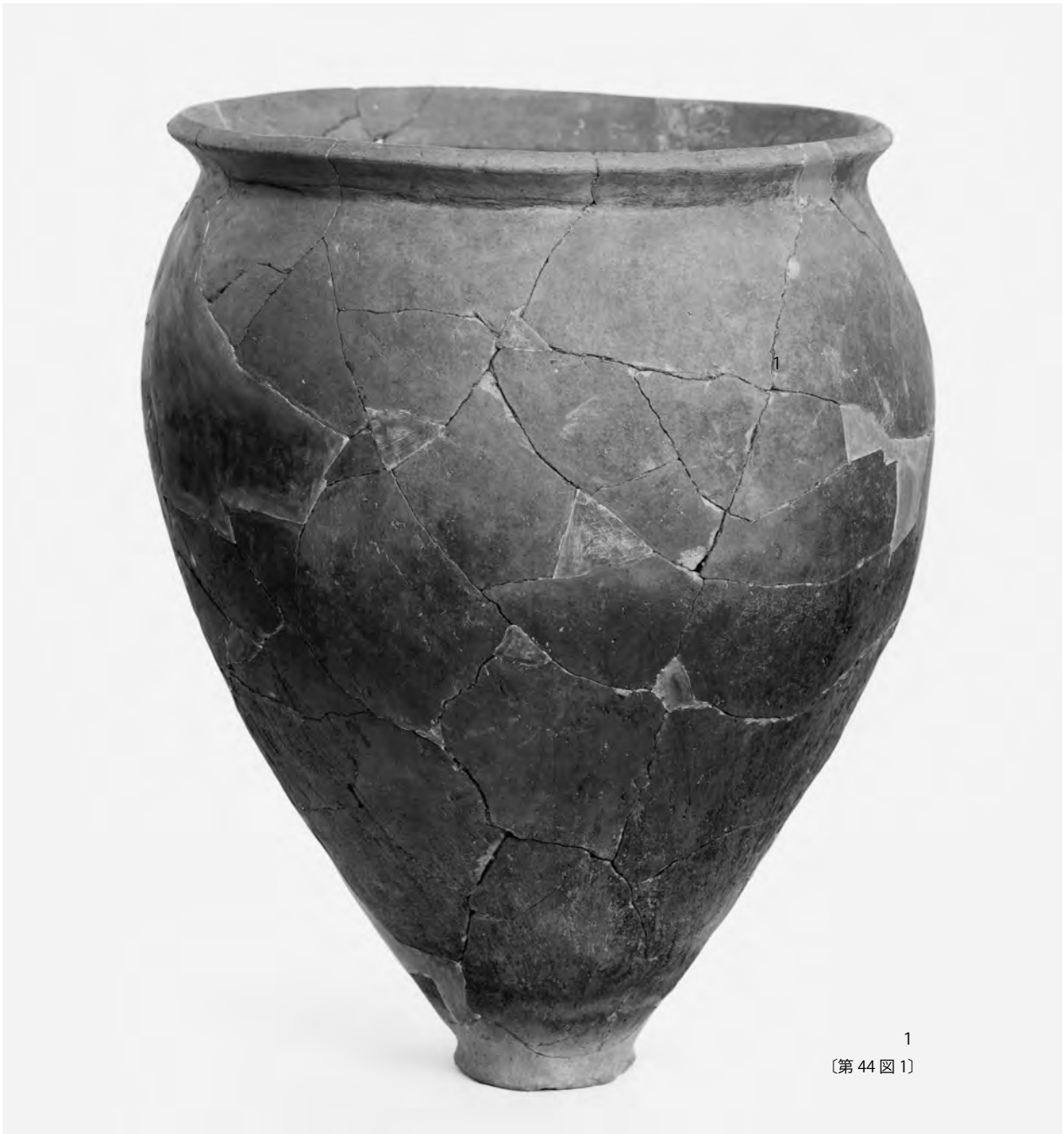
5. 10-1-1区 第11-2遺構面
1071 土器だまり出土



1. 10-1-1区 第11-1遺構面
1096 土器だまり出土



2. 10-1-1区 第12遺構面
1061 周溝墓上面出土



3. 10-1-1区 第12遺構面 1066 土坑出土



1. 10-1-1区 第12遺構面1067土坑出土



2. 10-1-1区 第12遺構面1068土坑出土



3. 10-1-1区 第12遺構面1068土坑出土



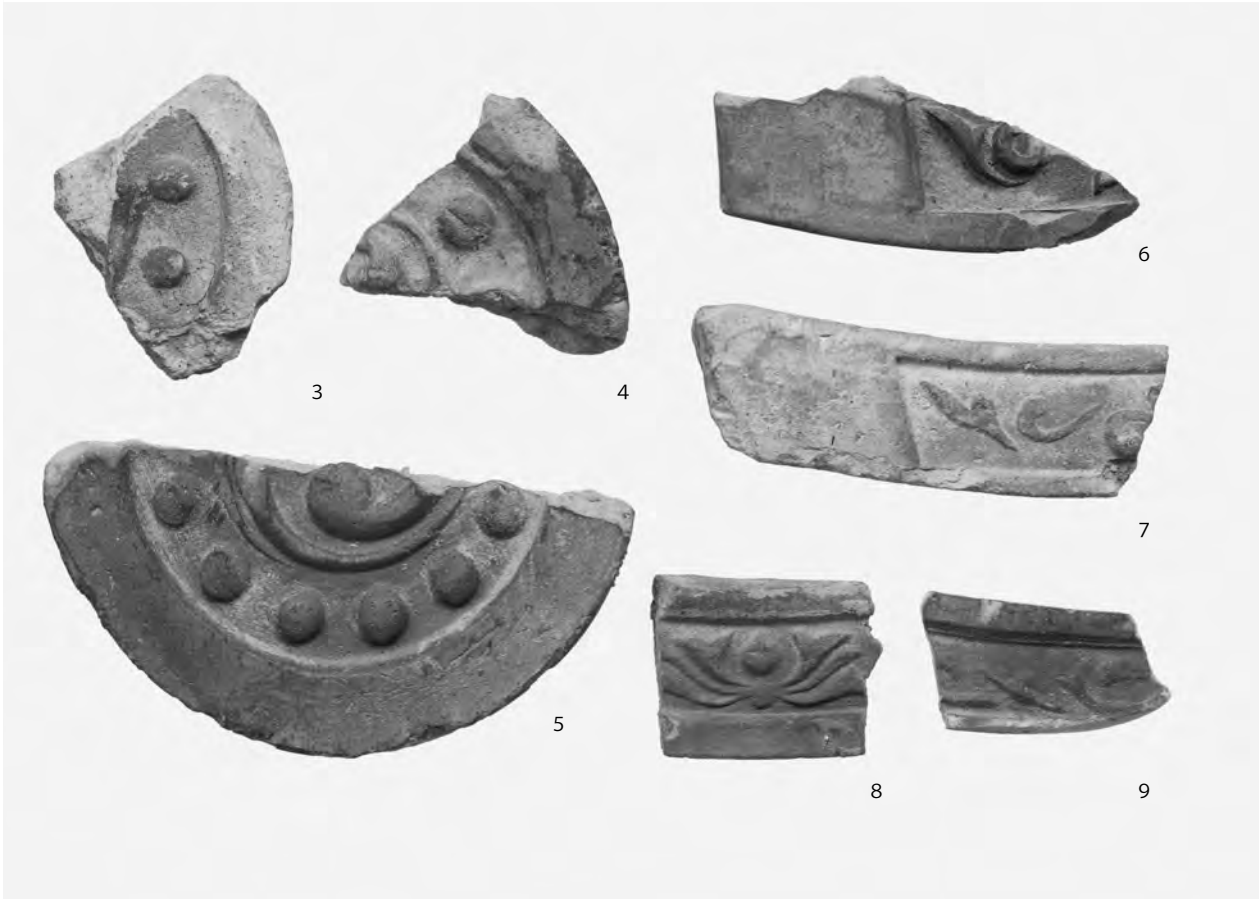
4. 10-1-1区 第12遺構面1062周溝出土



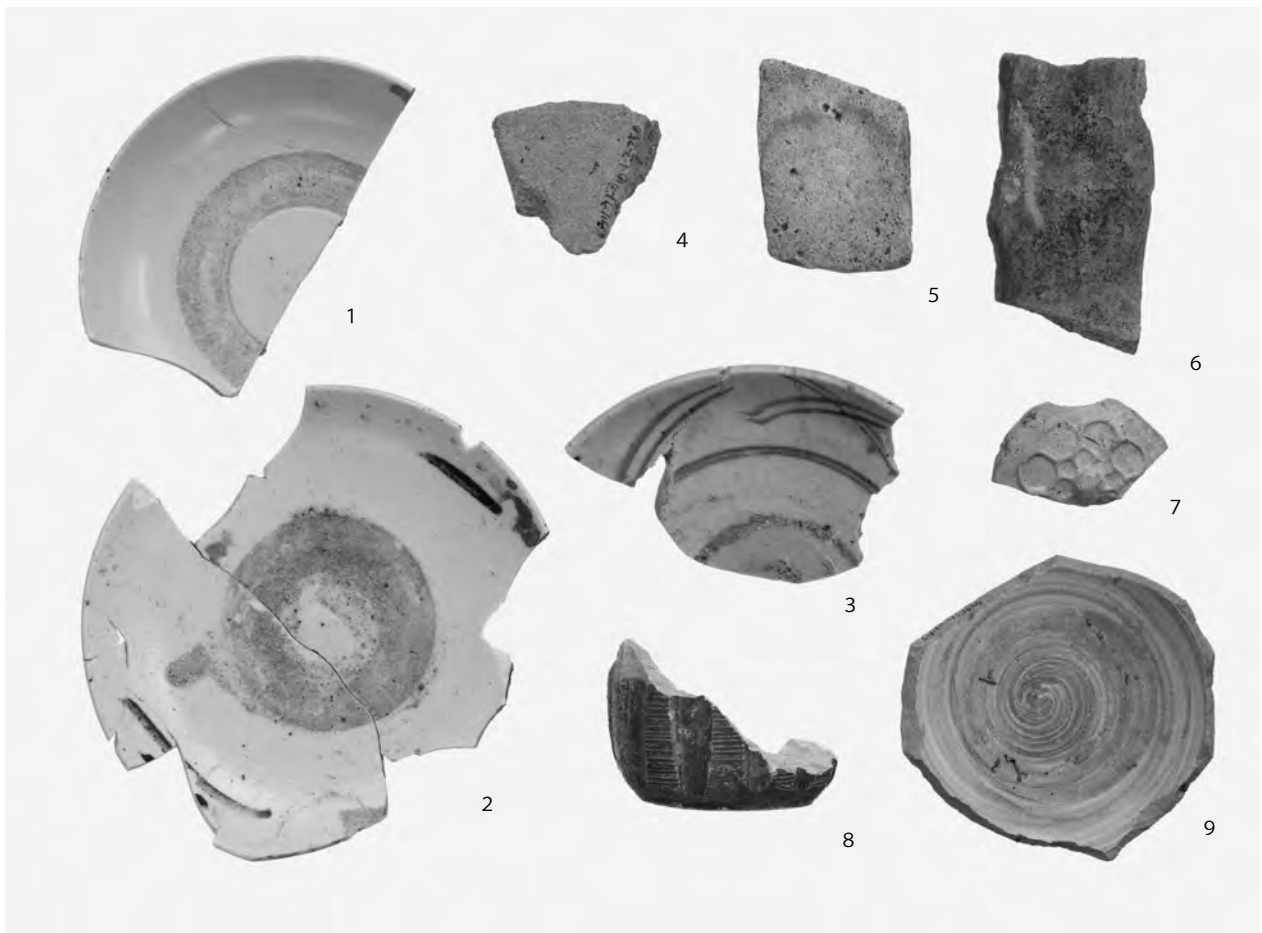
1. 10-1-1区 第12遺構面 1066土坑出土



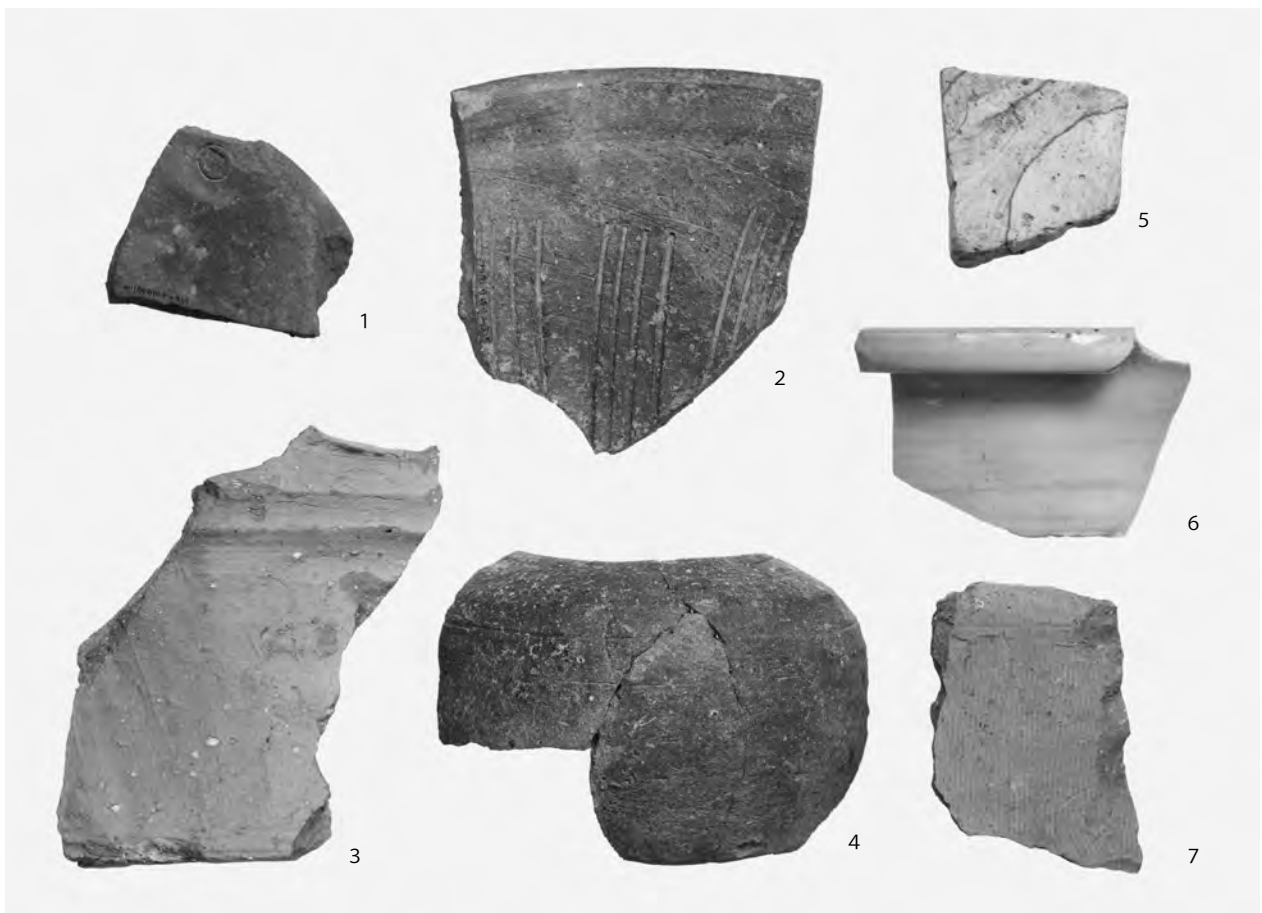
2. 10-1-1区 第12遺構面
1066・1067・1068土坑出土



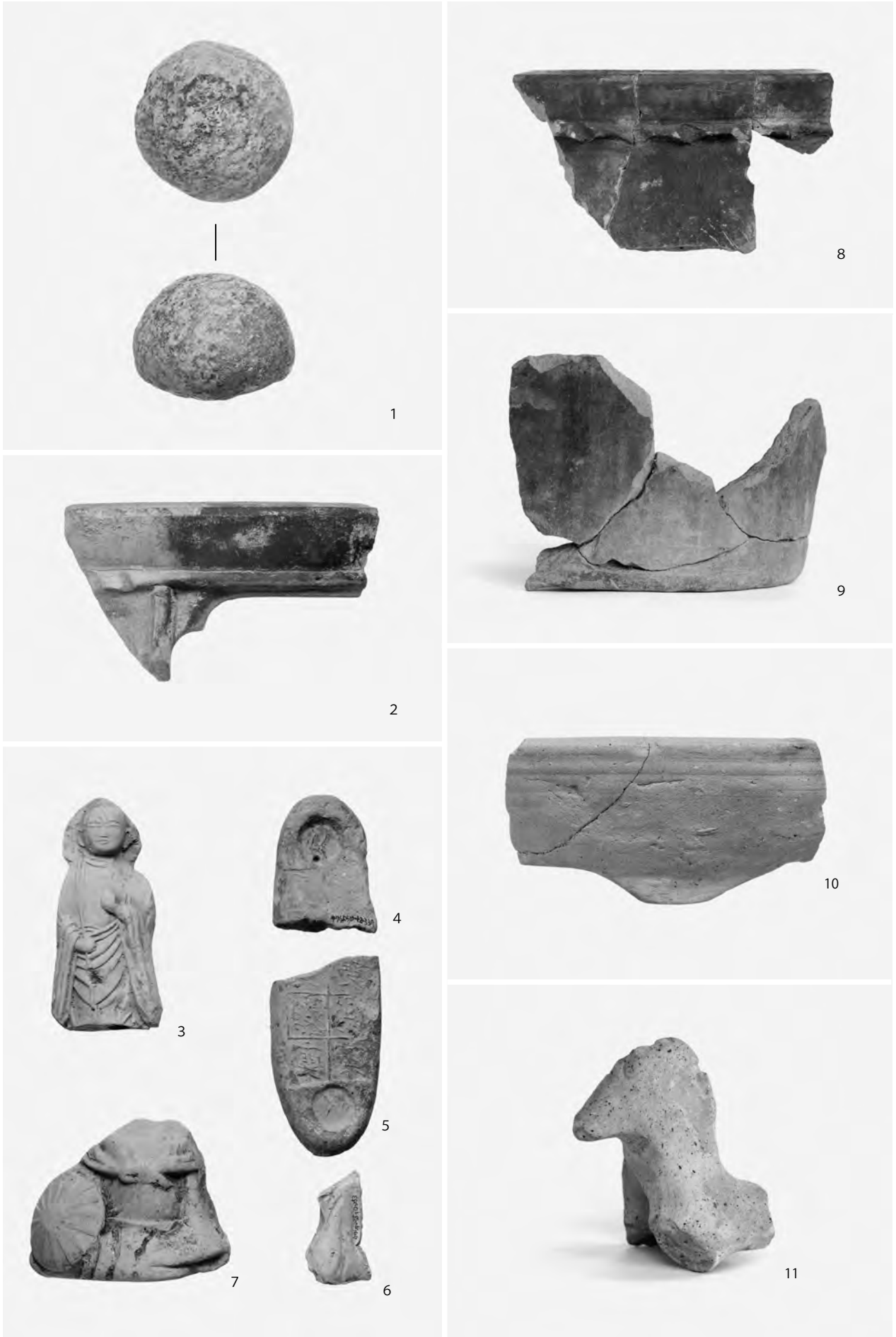
3. 10-1-2区 第1層出土



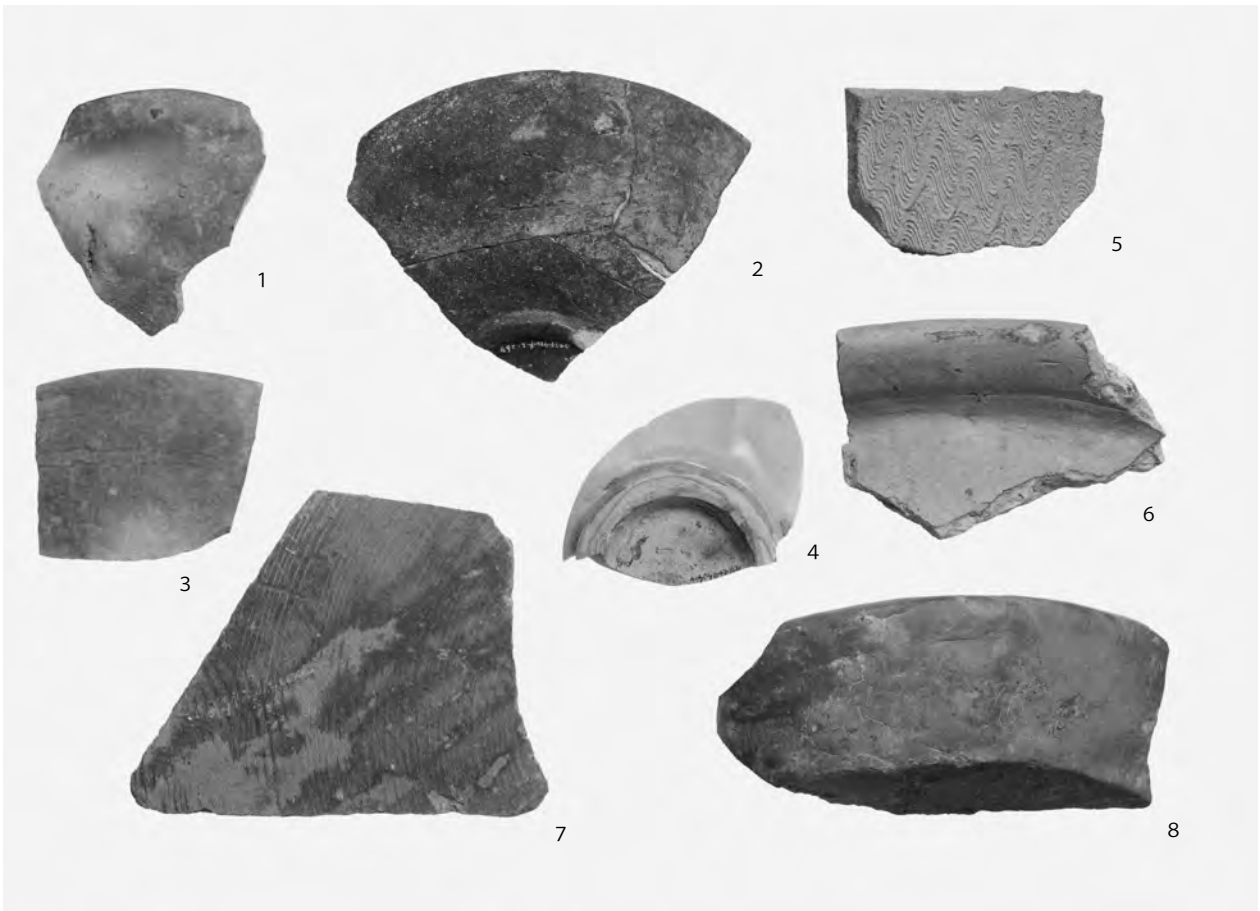
1. 10-1-2区 第1層出土



2. 10-1-2区 第1層~第4層・第4遺構面遺構内出土



1. 10-1-2区 第1層~第4層出土



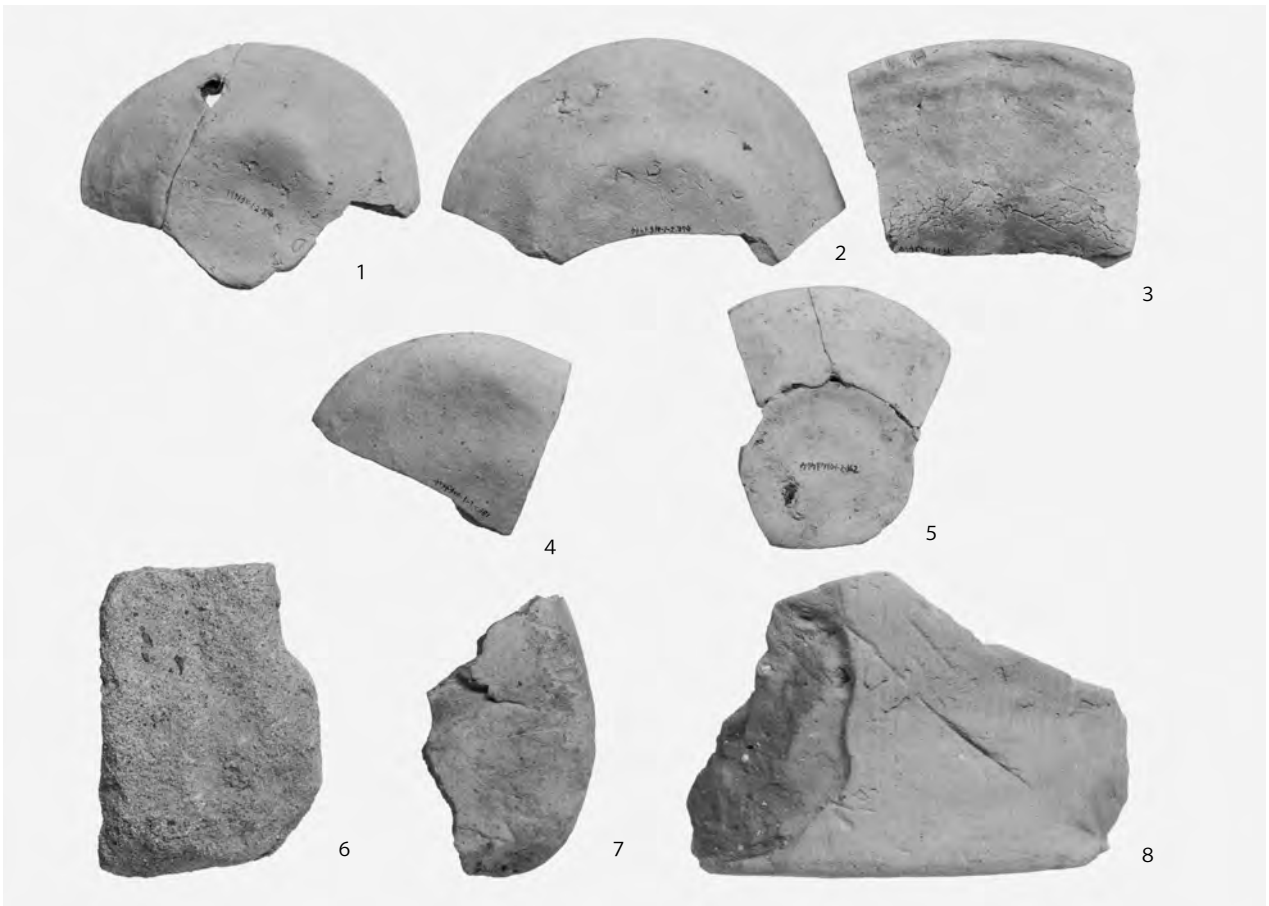
1. 10-1-2区 第1遺構面～第6遺構面出土



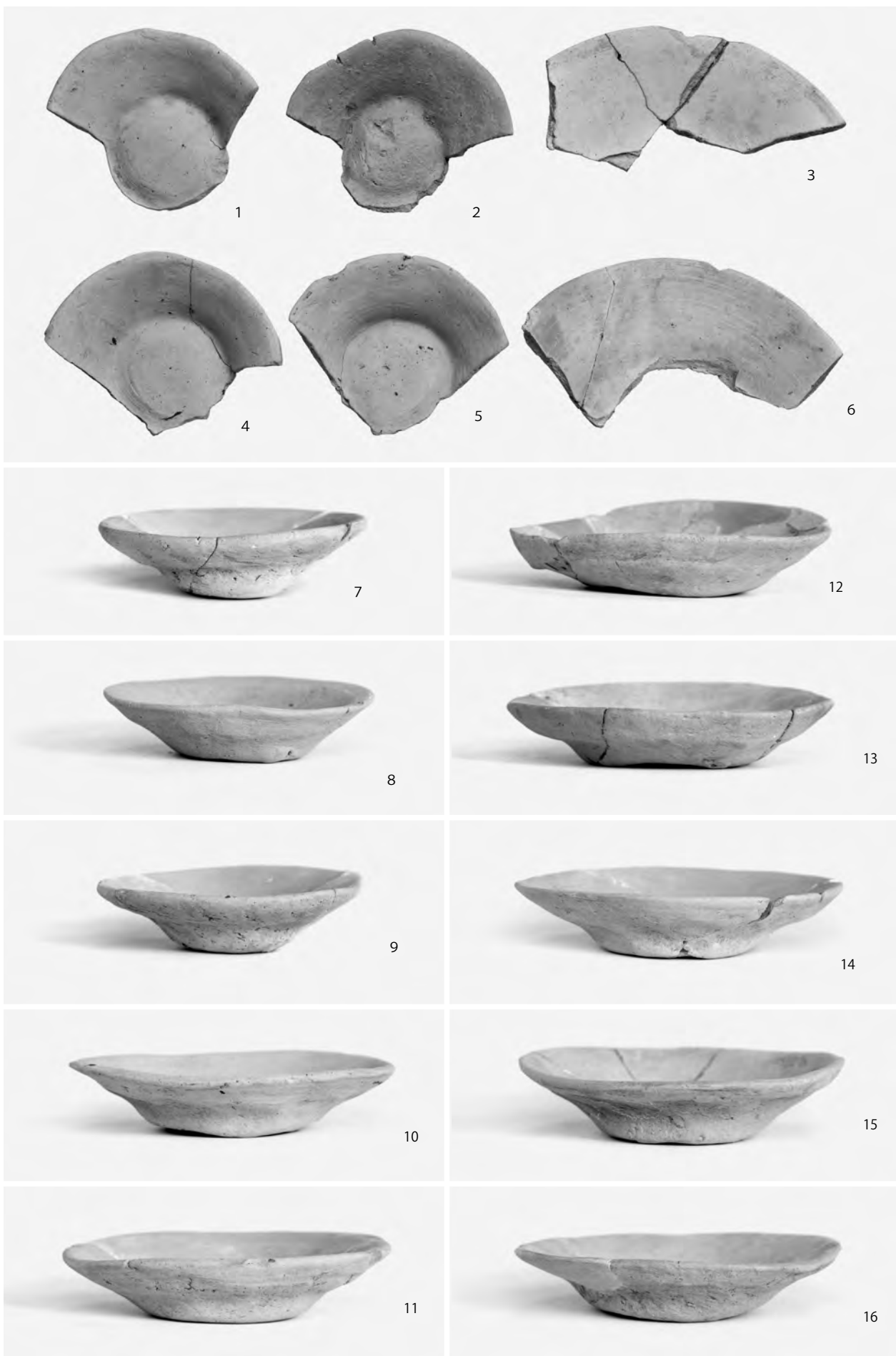
2. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



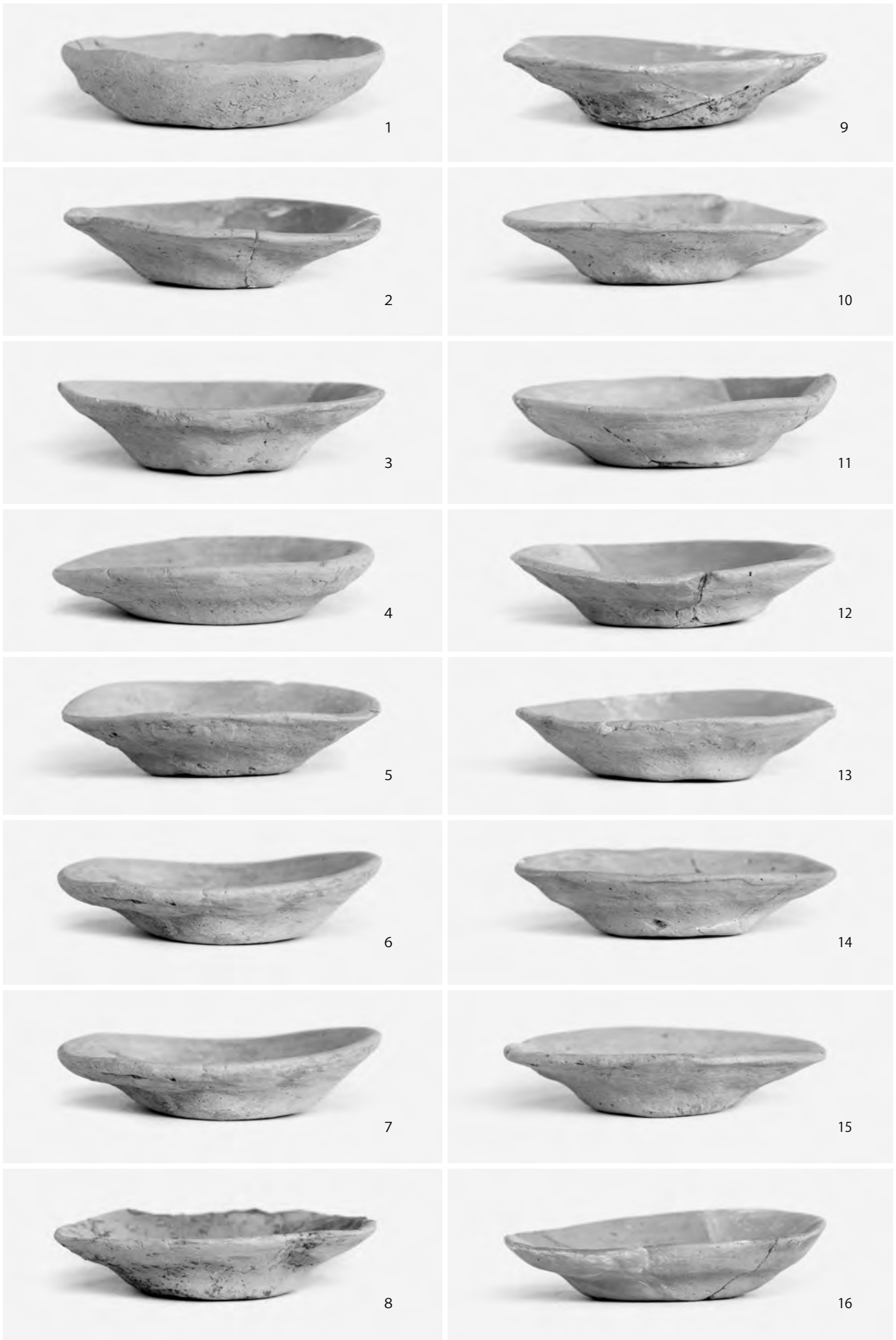
1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



2. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



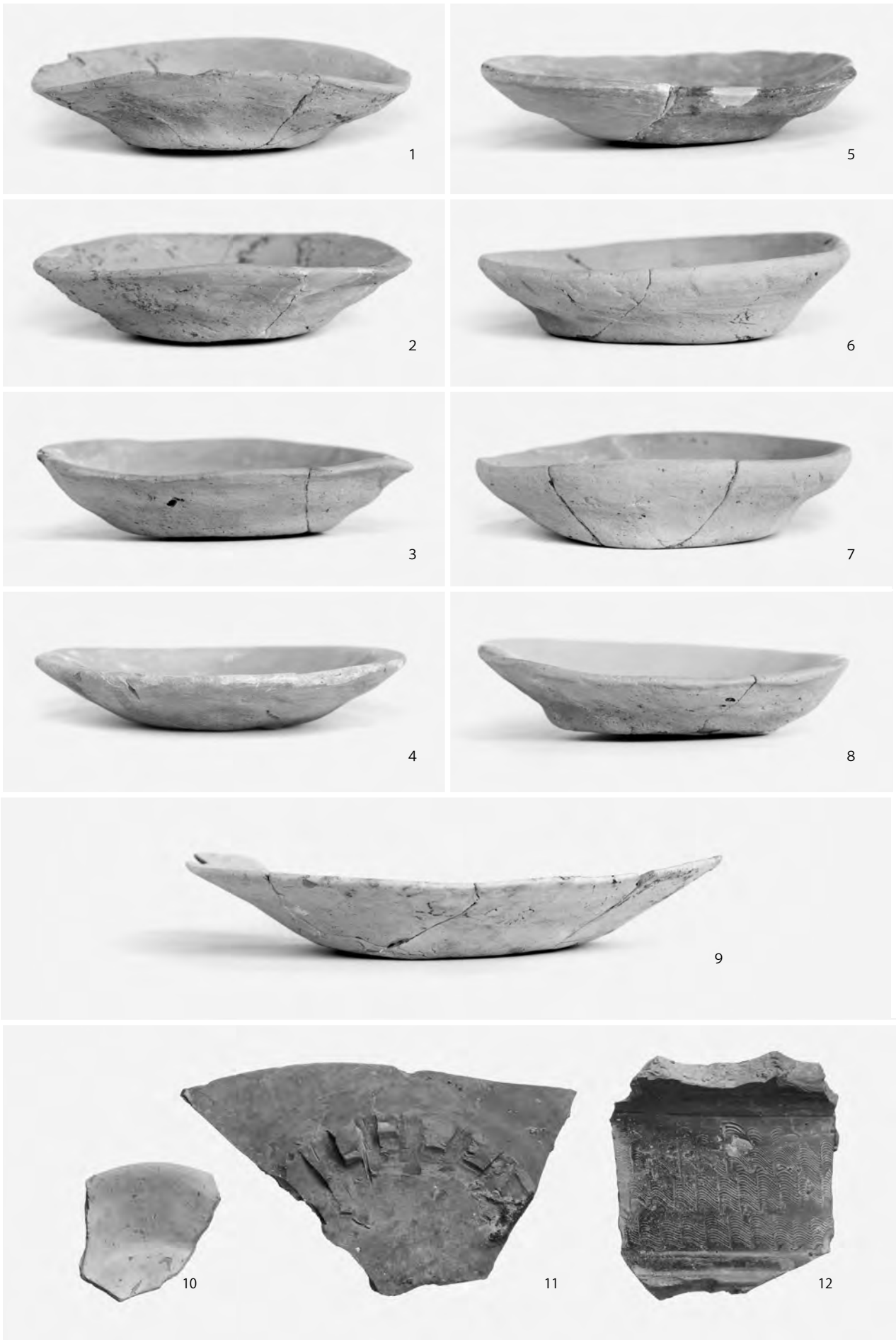
1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



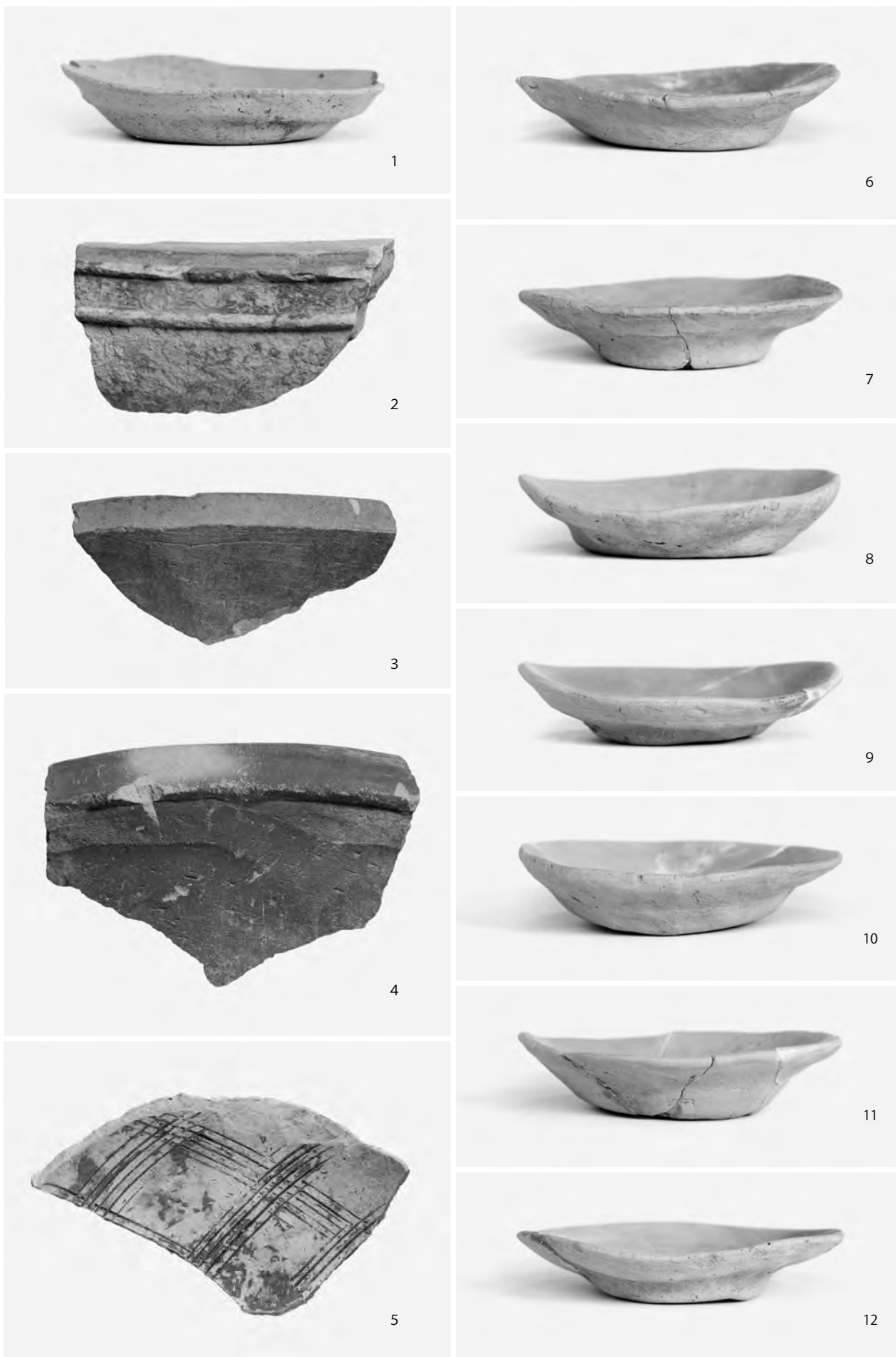
1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



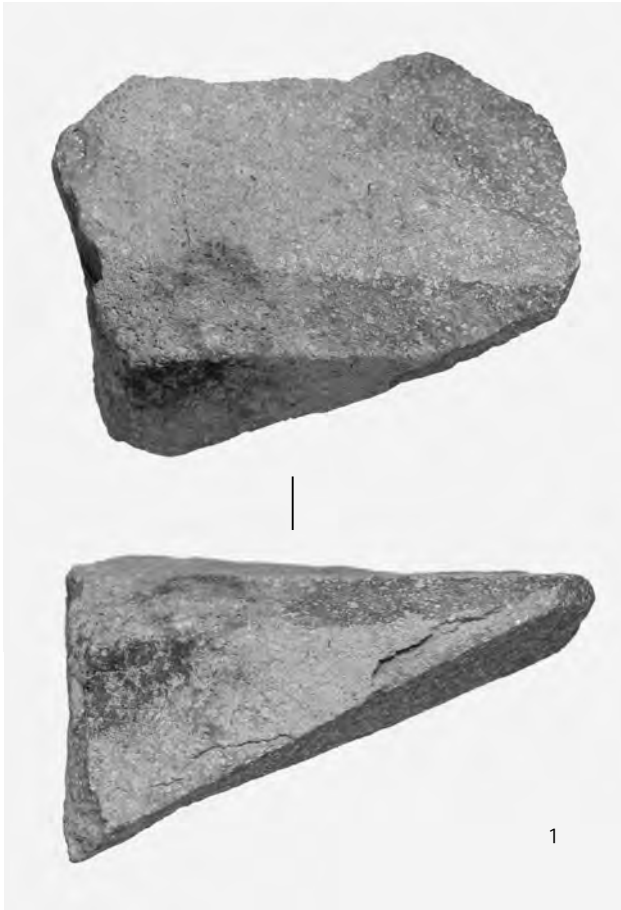
1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



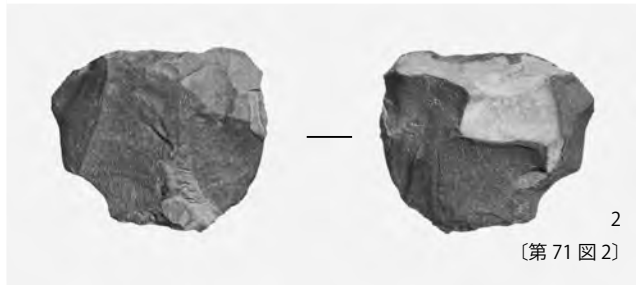
1. 10-1-2区 第6遺構面検出遺構出土



1. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土



1
[第71图3]

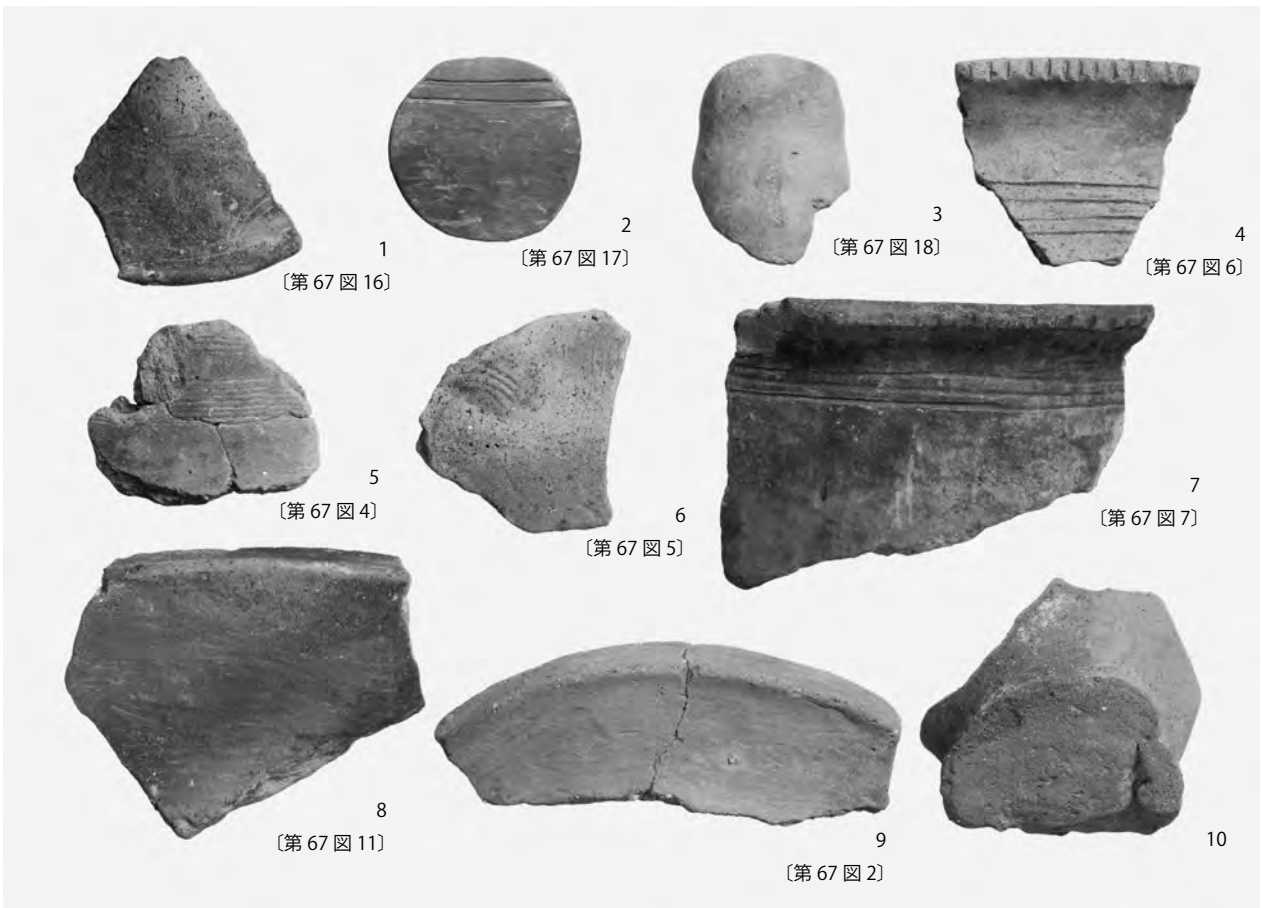


2
[第71图2]



3
[第71图1]

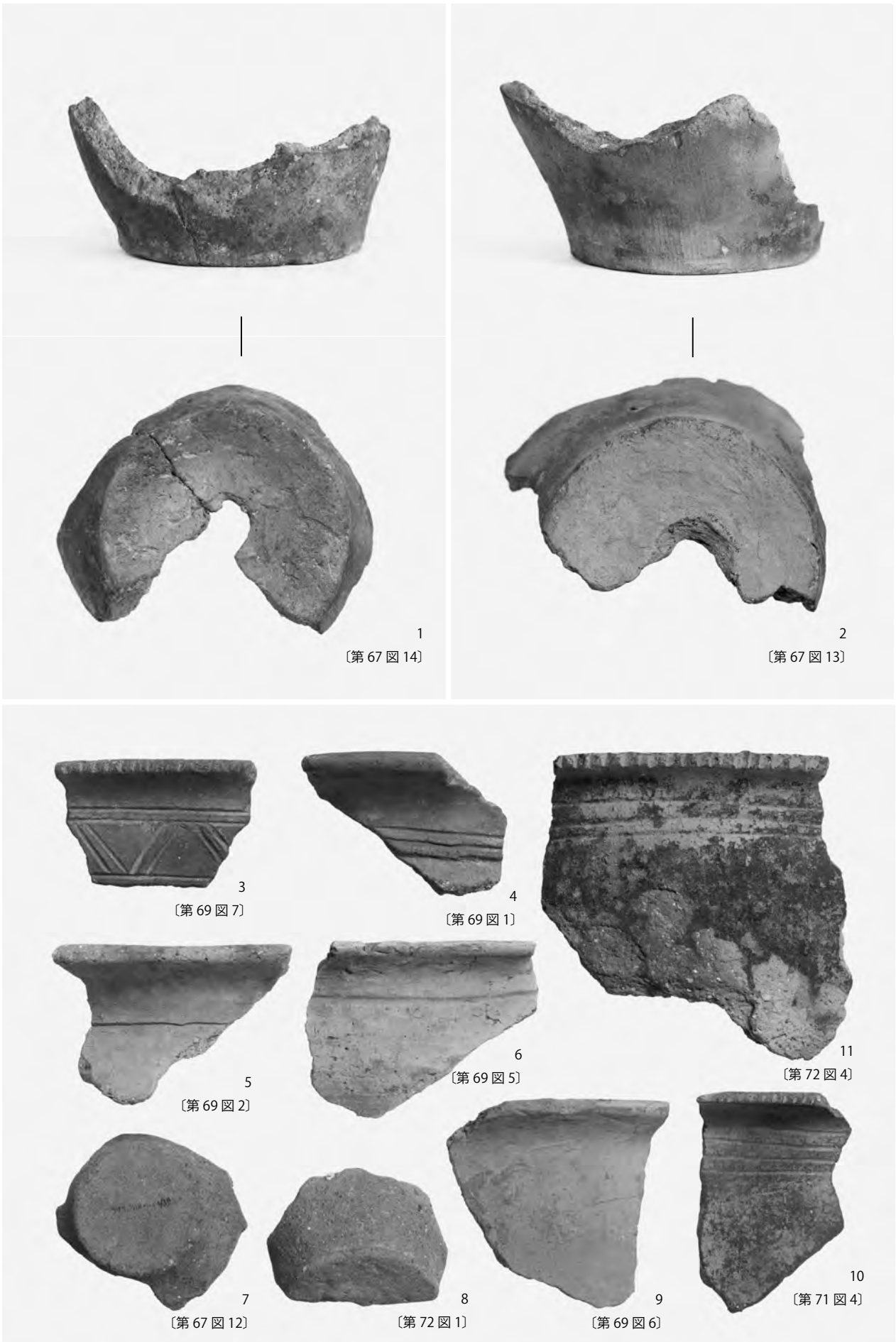
2. 10-1-2区 第23遺構面遺構出土



3. 10-1-2区 第21層出土



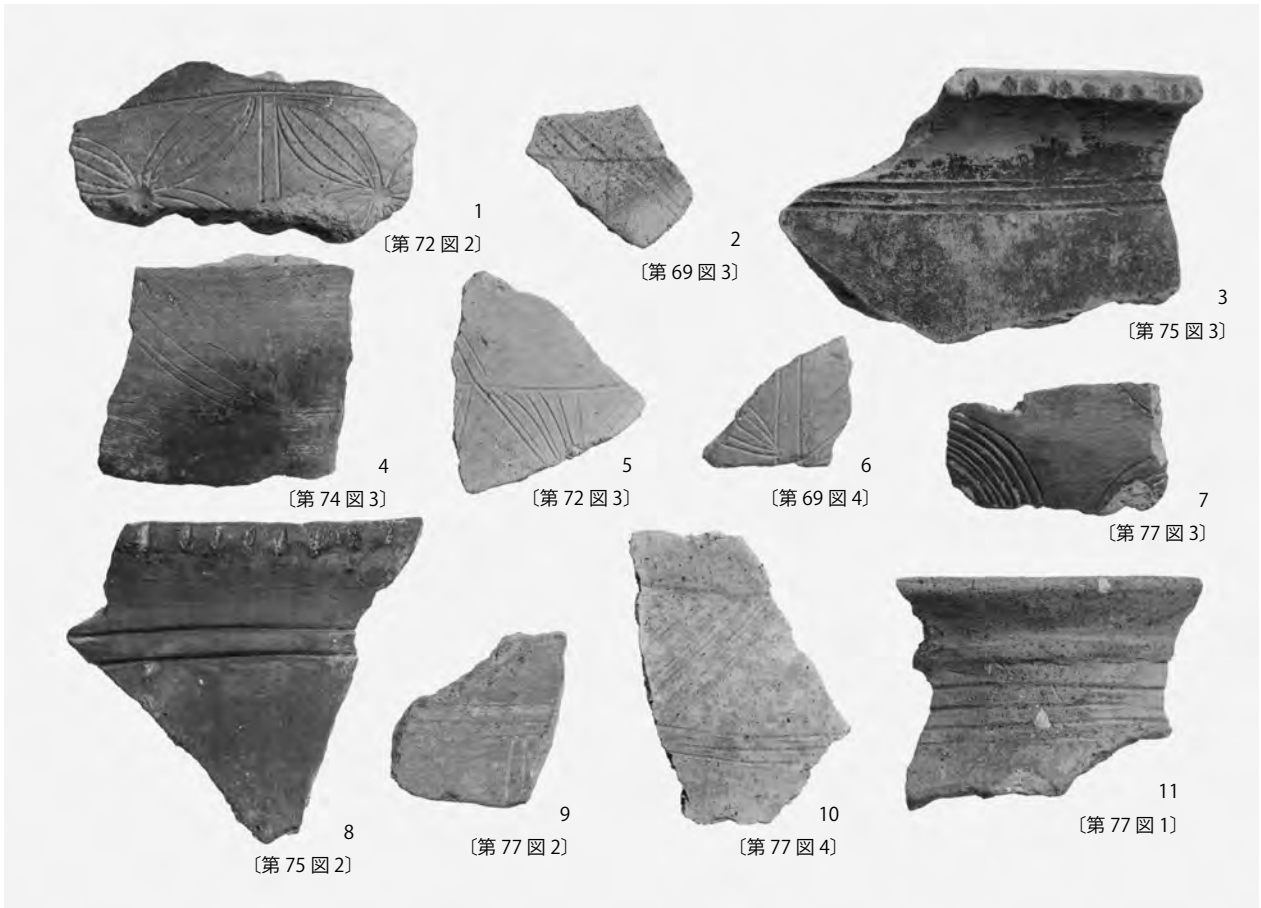
1. 10-1-2区 第21層出土



1. 10-1-2区 第21層~第23層・第23遺構面 2040土坑出土



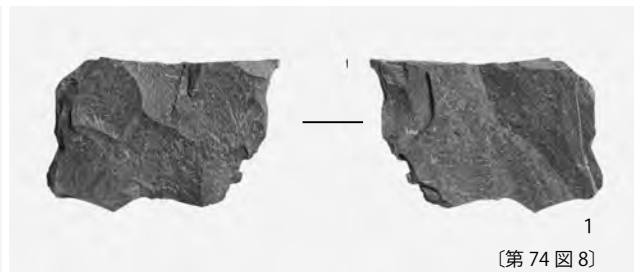
1. 10-1-2区 第22層出土



1. 10-1-2区 第23層・第24層・第24遺構面遺構出土



1
〔第77図5〕



1
〔第74図8〕



2
〔第75図6〕



2



3
〔第75図7〕

2. 10-1-2区 第25遺構面 2045 竪穴出土

3. 10-1-2区 第24遺構面 2041 溝出土



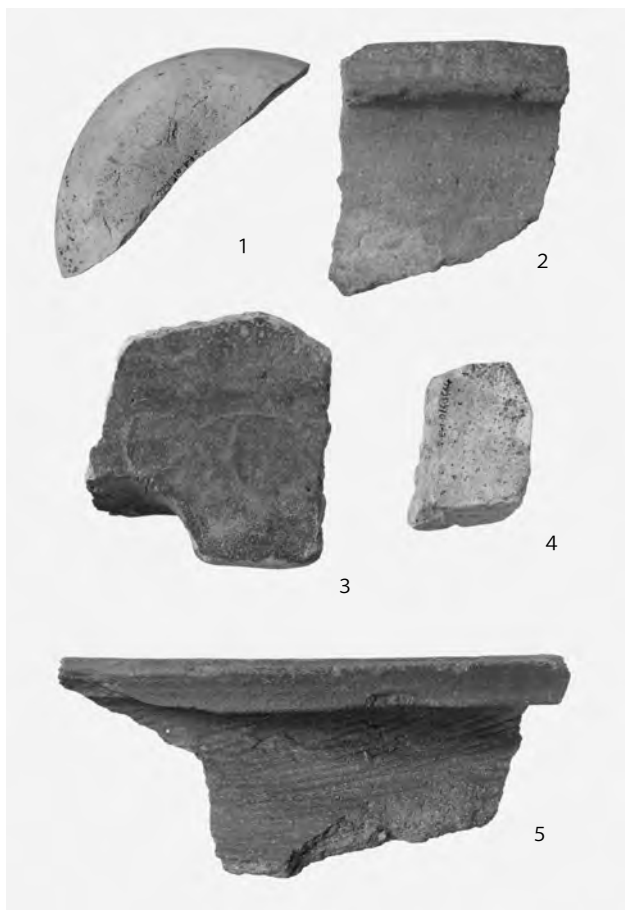
1. 10-1-2区 第24遺構面2041溝出土



1. 10-1-2区 第24遺構面 2041 溝出土



2. 10-1-2区 第25遺構面 2045 竪穴出土



1. 10-1-3区 第1層出土



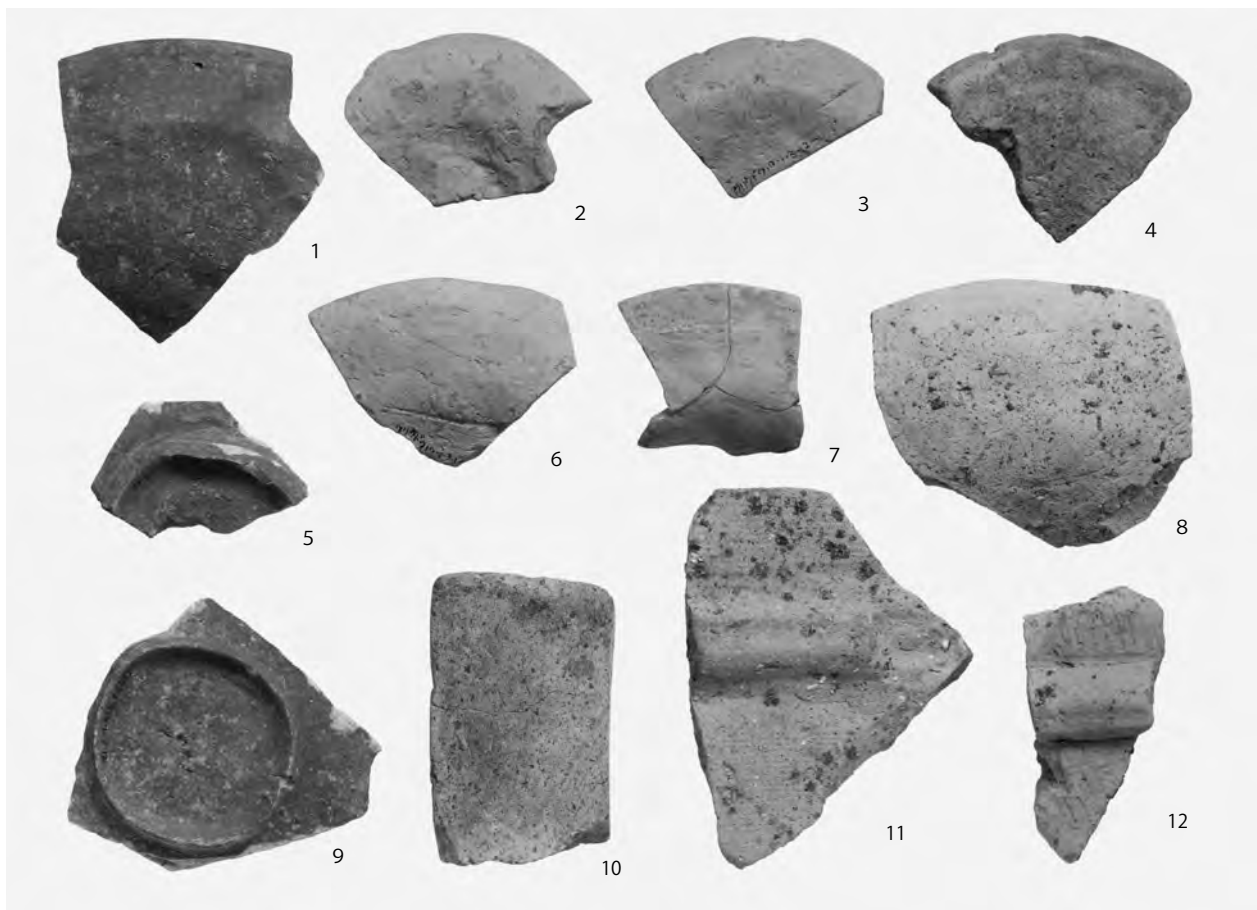
2. 10-1-3区 第1遺構面出土



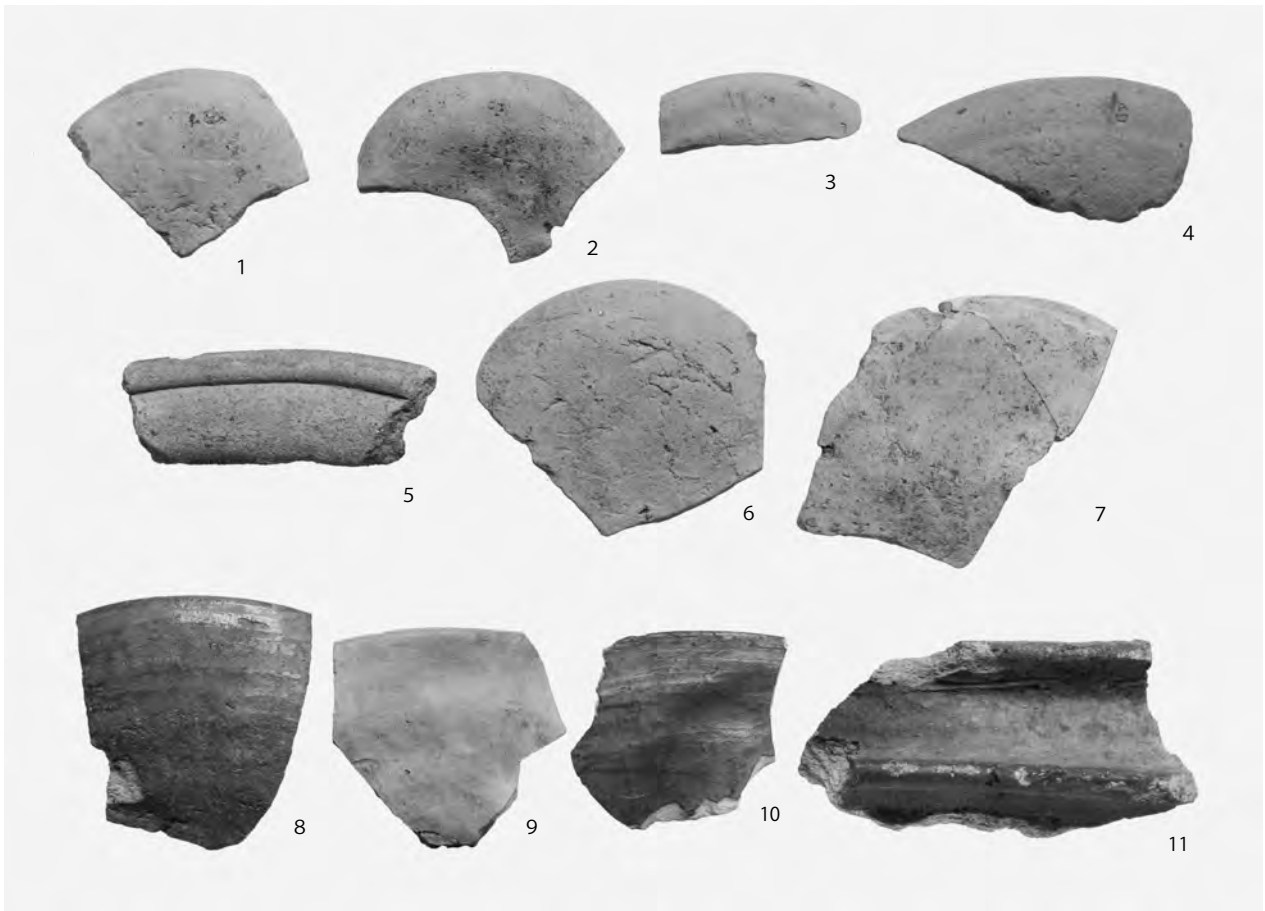
3. 10-1-3区 第2遺構面出土



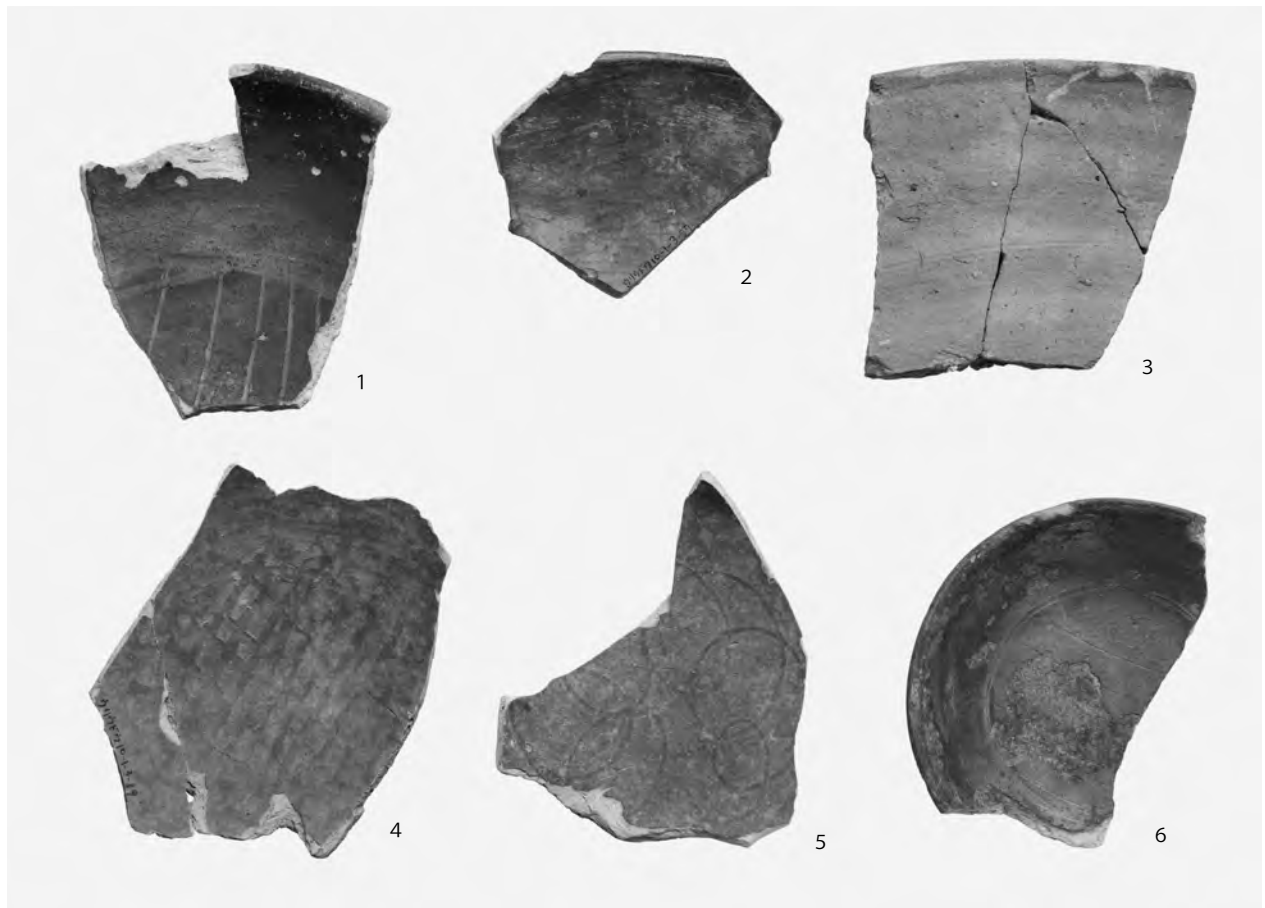
4. 10-1-3区 第2層出土



5. 10-1-3区 第2層出土



1. 10-1-3区 第3遺構面 3008 井戸出土



2. 10-1-3区 第3遺構面 3008 井戸出土



1



2

1. 10-1-3区 第3遺構面 3008 井戸出土

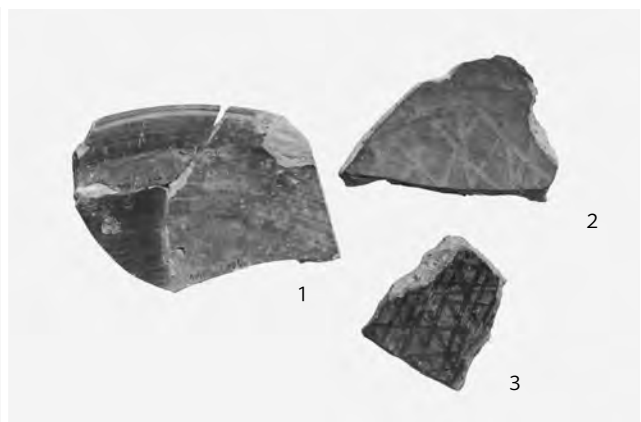


1

2

3

2. 10-1-3区 第3遺構面 3009 井戸出土



1

2

3



4

3. 10-1-3区 第3遺構面 3010 井戸出土

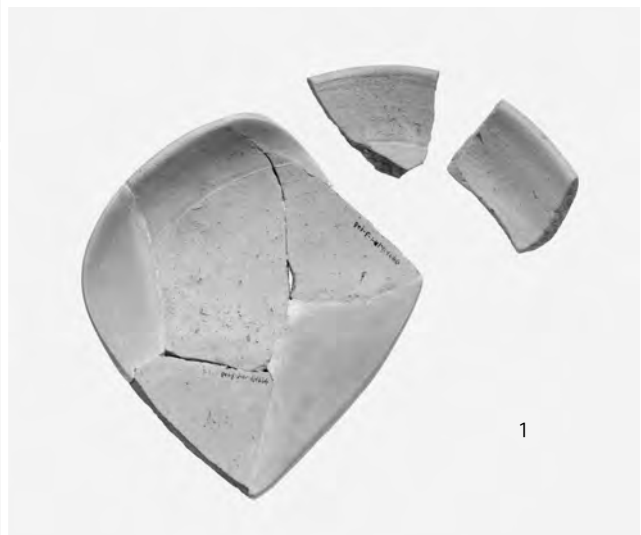


1



2

4. 10-1-3区 第3遺構面 3012 井戸出土

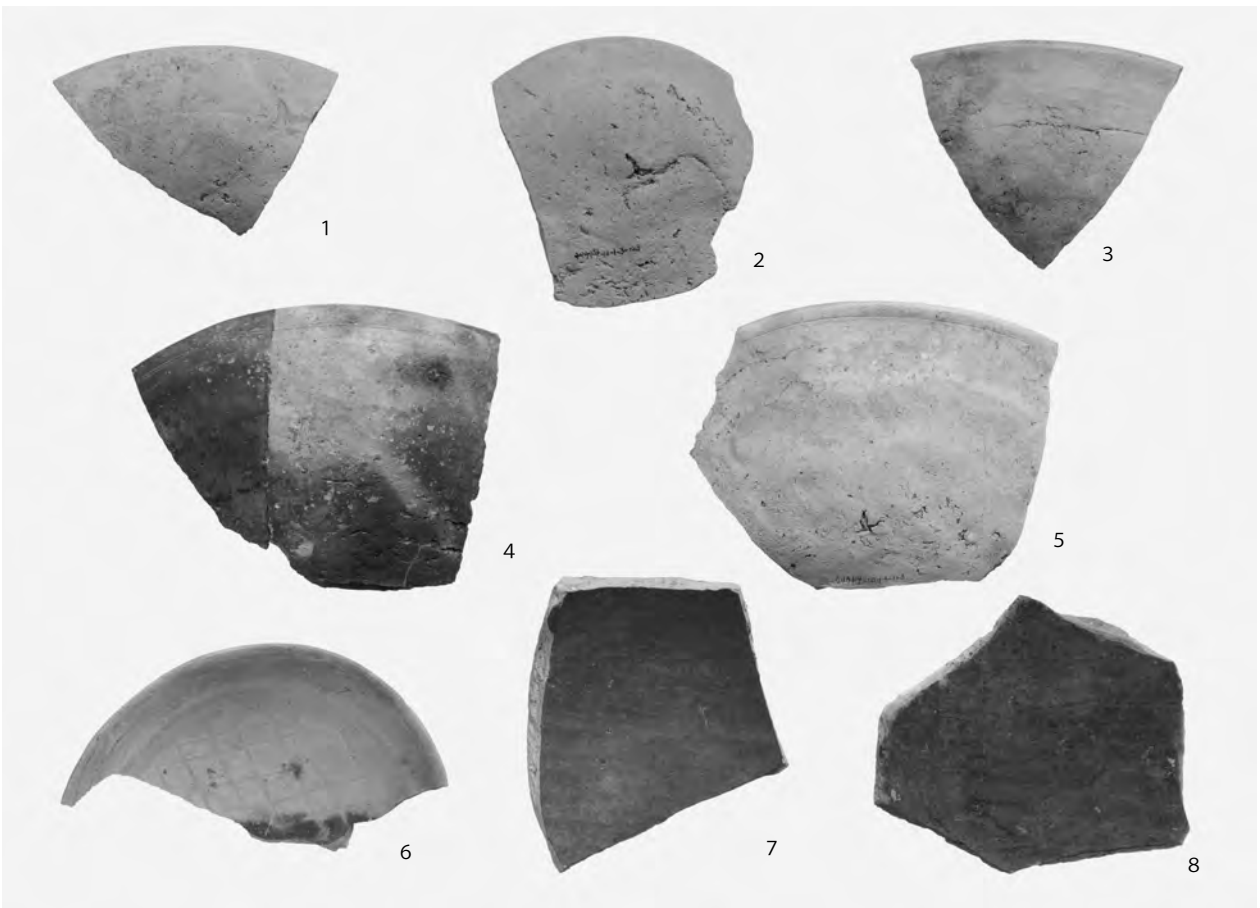


1

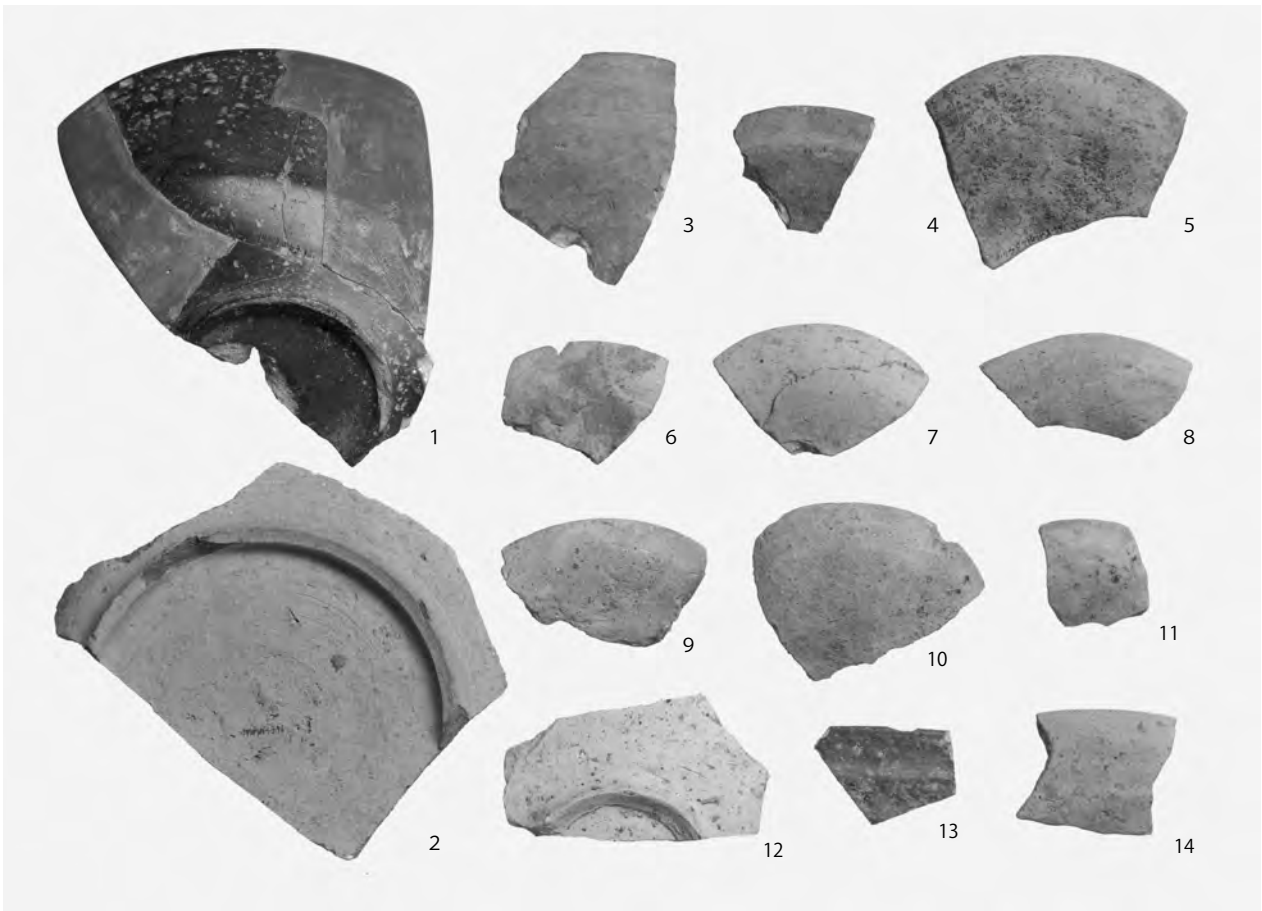
5. 10-1-3区 第3遺構面 3012 井戸出土



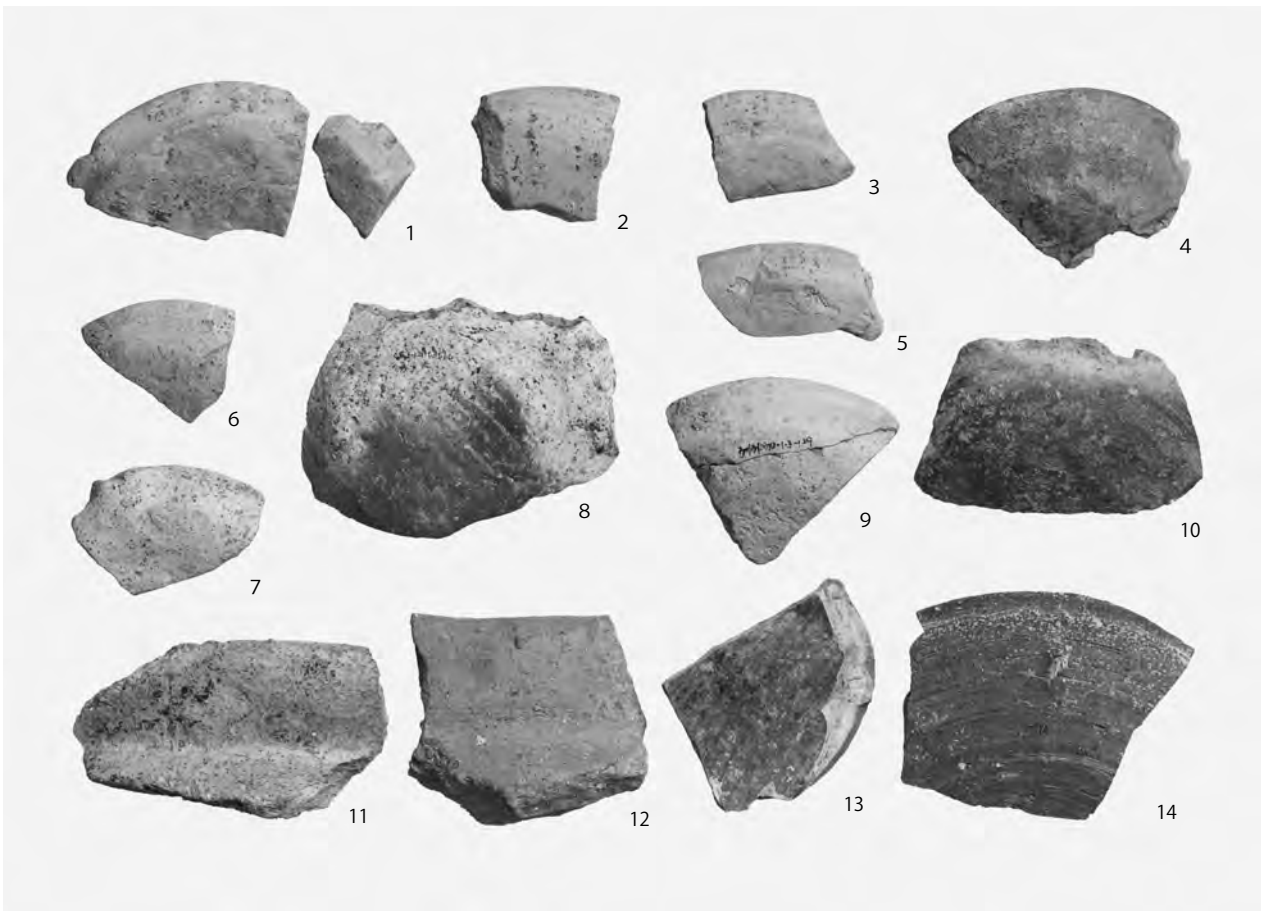
1. 10-1-3区 第3遺構面 3012 井戸出土



2. 10-1-3区 第3遺構面 3012 井戸出土



1. 10-1-3区 第3遺構面検出遺構出土



2. 10-1-3区 第3遺構面検出遺構出土



1



2

1. 10-1-3区 第3遺構面 3012 井戸出土



1

4. 10-1-3区 第4遺構面 3122 土坑出土



1

2. 10-1-3区 第3遺構面 3103 溝出土



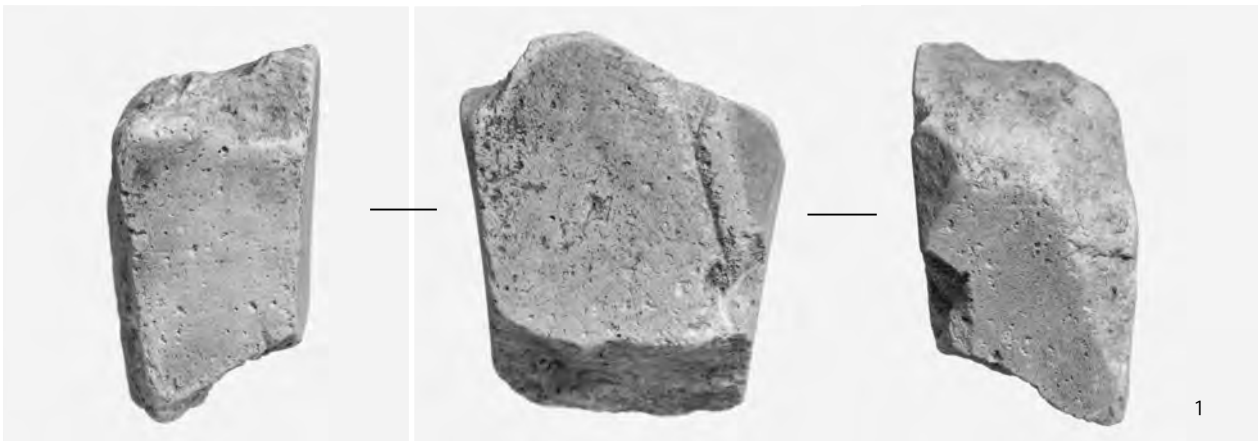
1

5. 10-1-3区 第3遺構面 3102 土坑出土



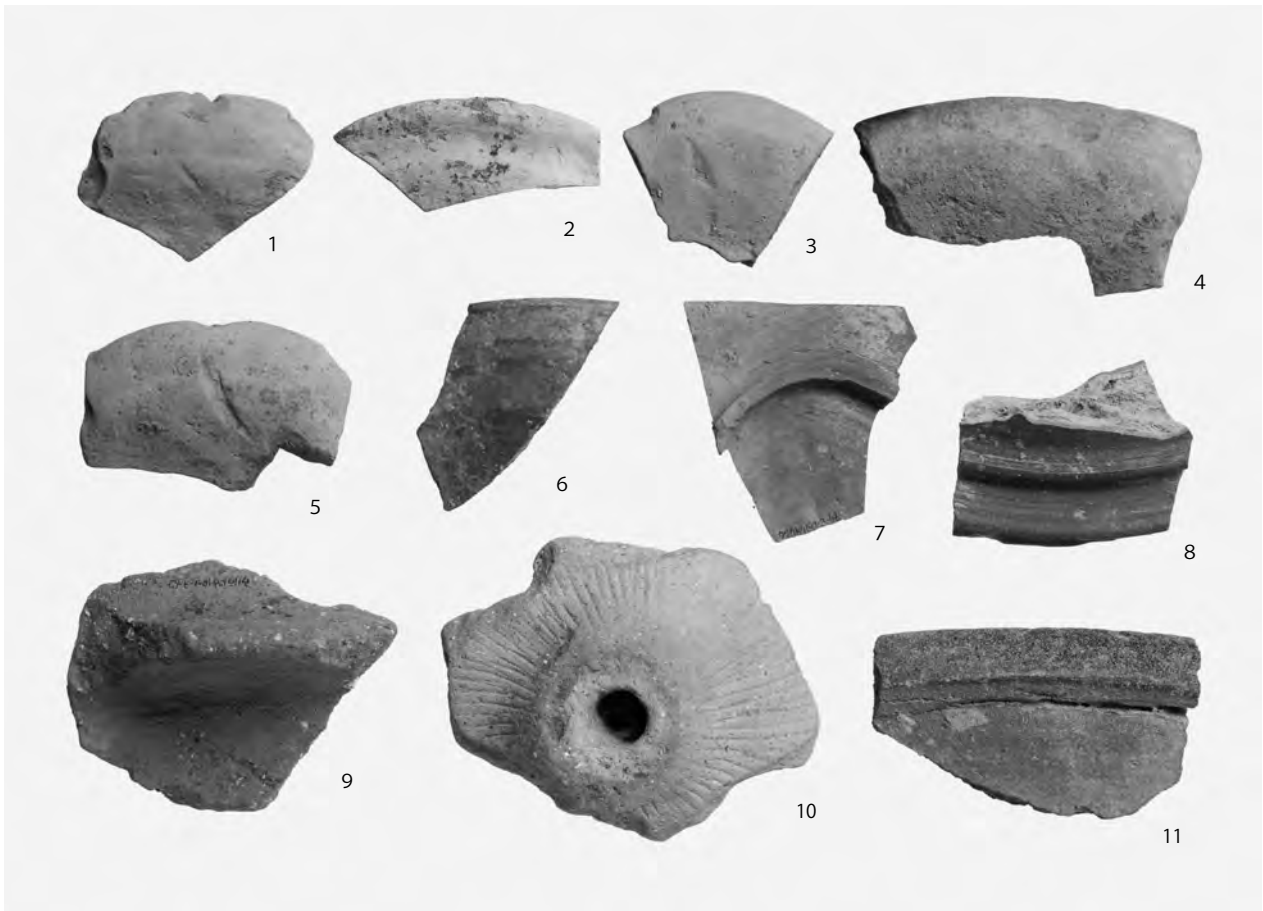
1

3. 10-1-3区 第3遺構面 3116 土坑出土



1

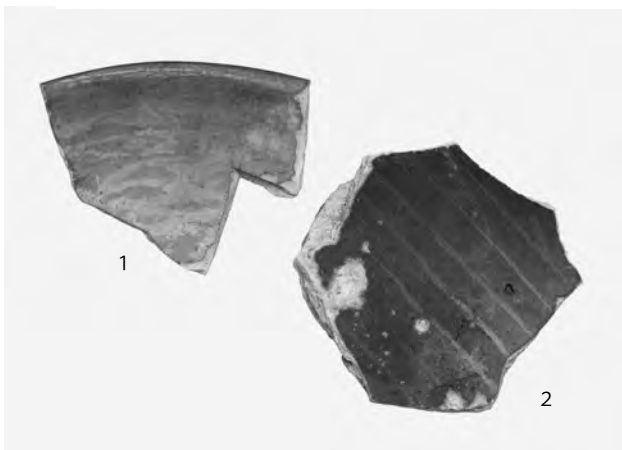
6. 10-1-3区 第3遺構面 3102 土坑出土



1. 10-1-3区 第3遺構面 3072 井戸出土



2. 10-1-3区 第3遺構面 3072 井戸出土



3. 10-1-3区 第3遺構面 3117 ピット出土

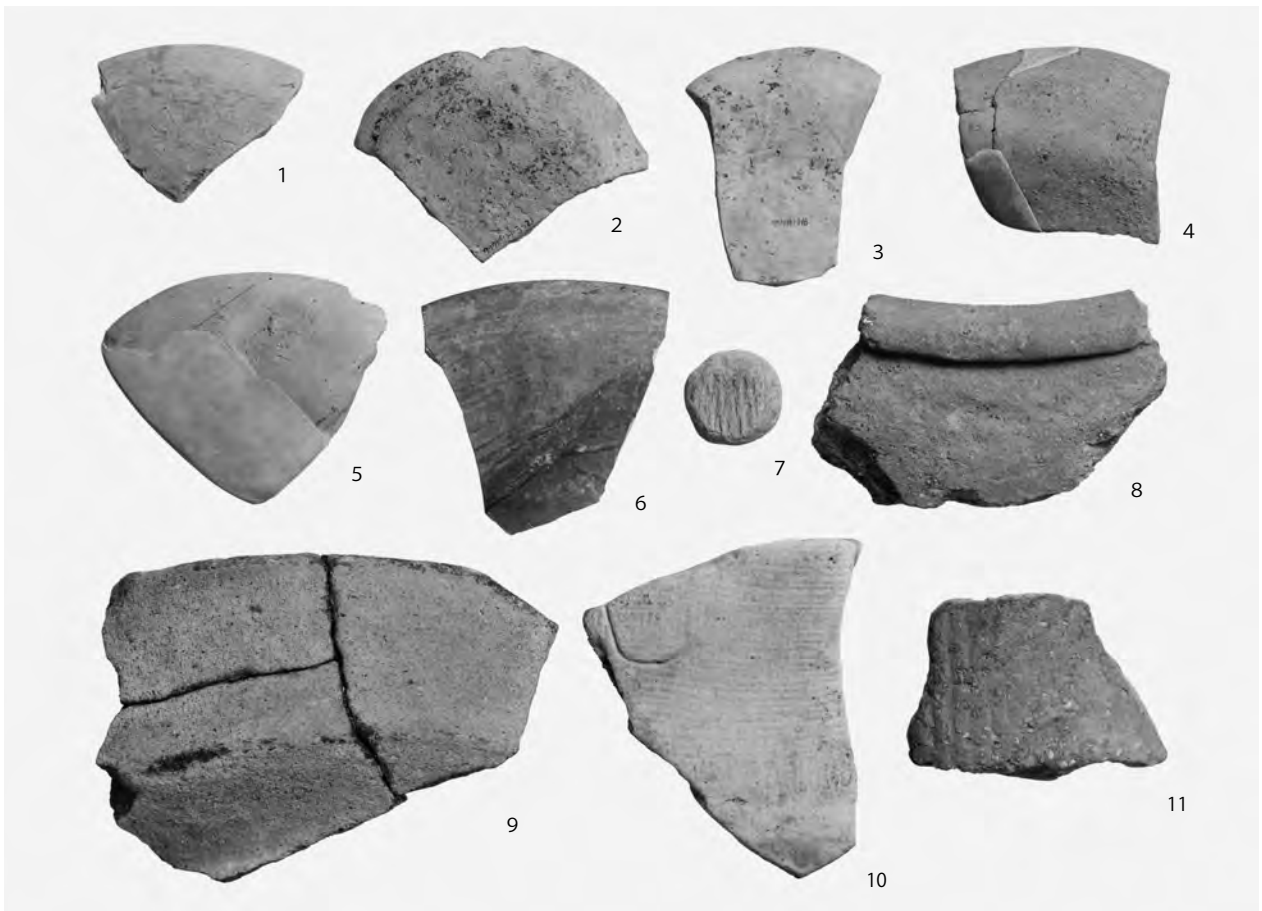


4. 10-1-3区 第3遺構面 3072 井戸出土

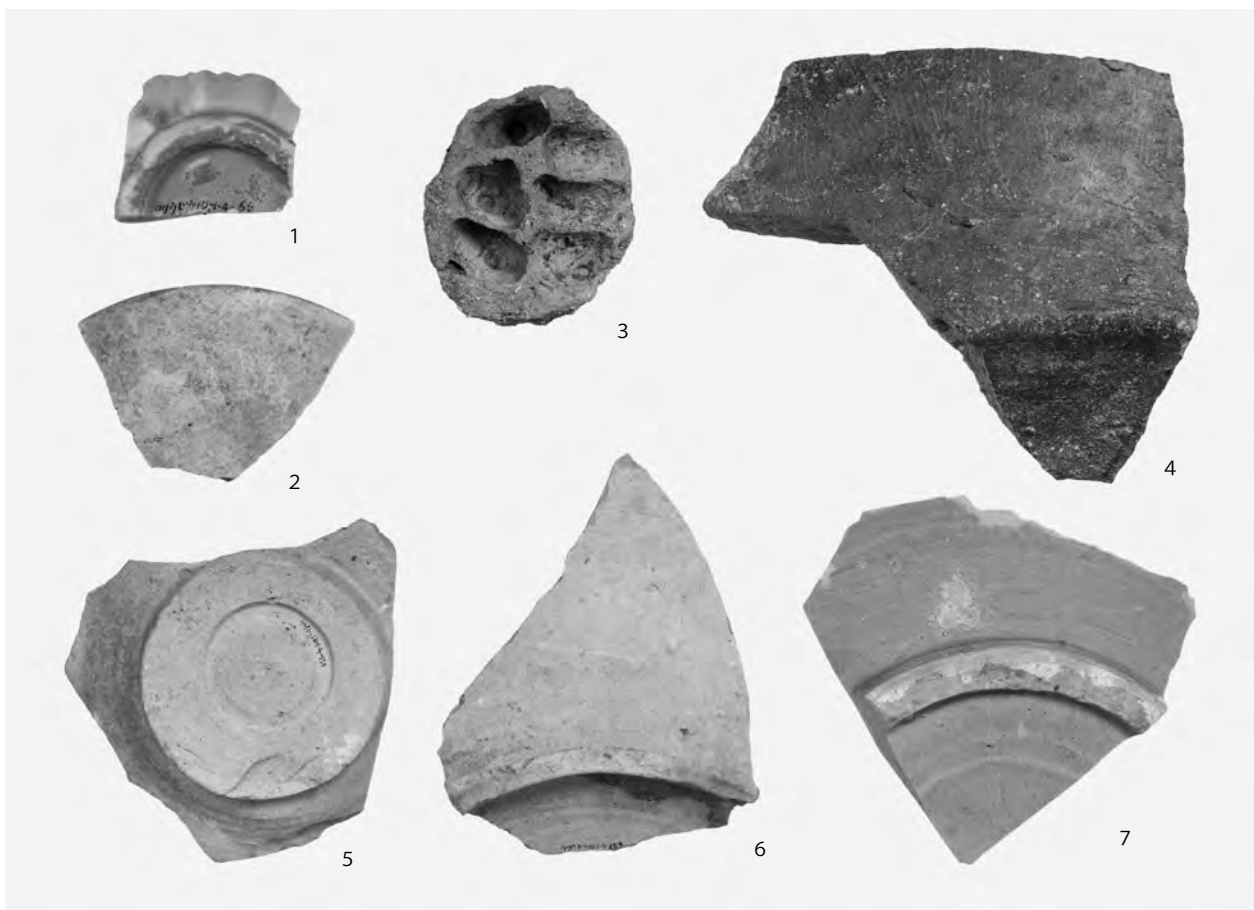


1

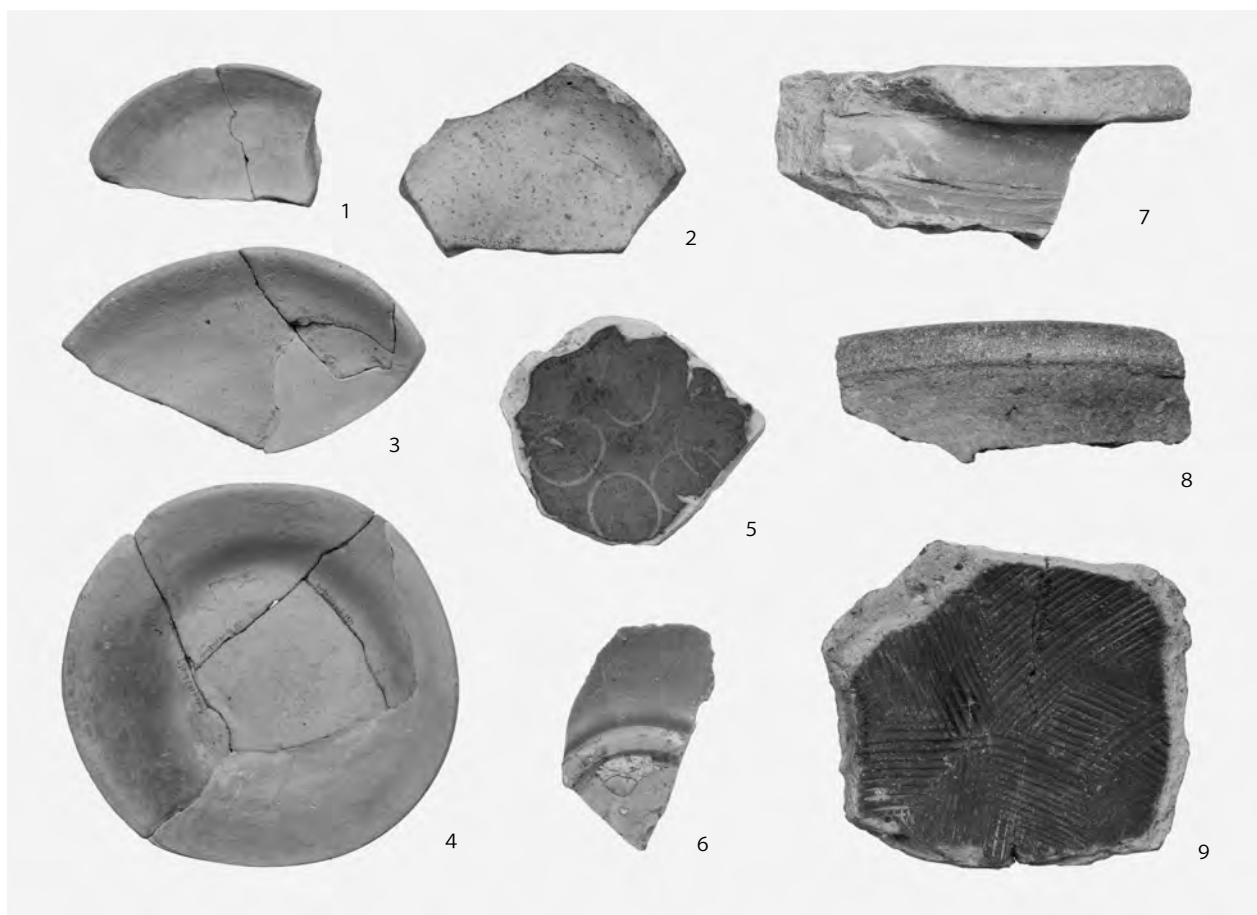
1. 10-1-3区 第3遺構面 3072 井戸出土



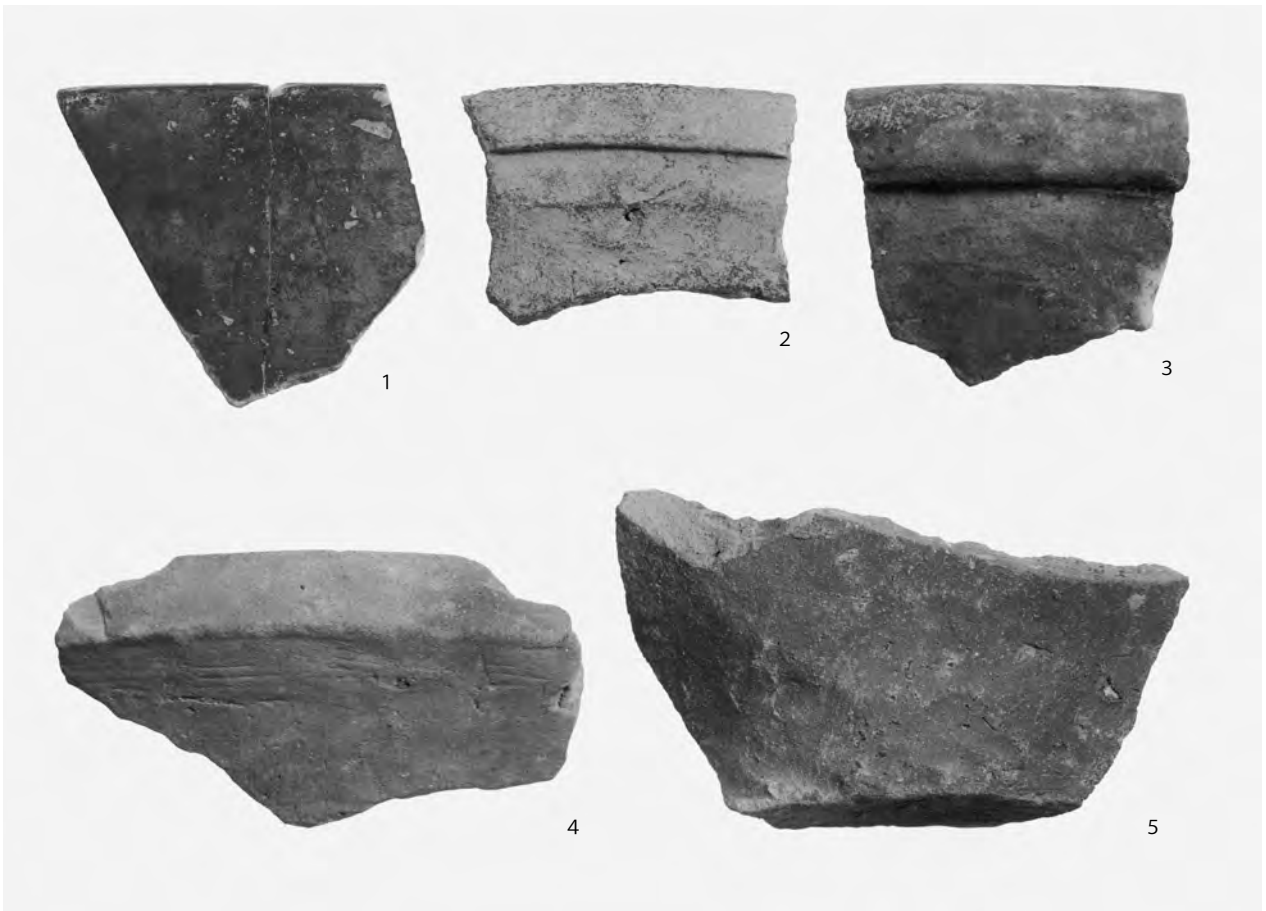
2. 10-1-3区 第3層出土



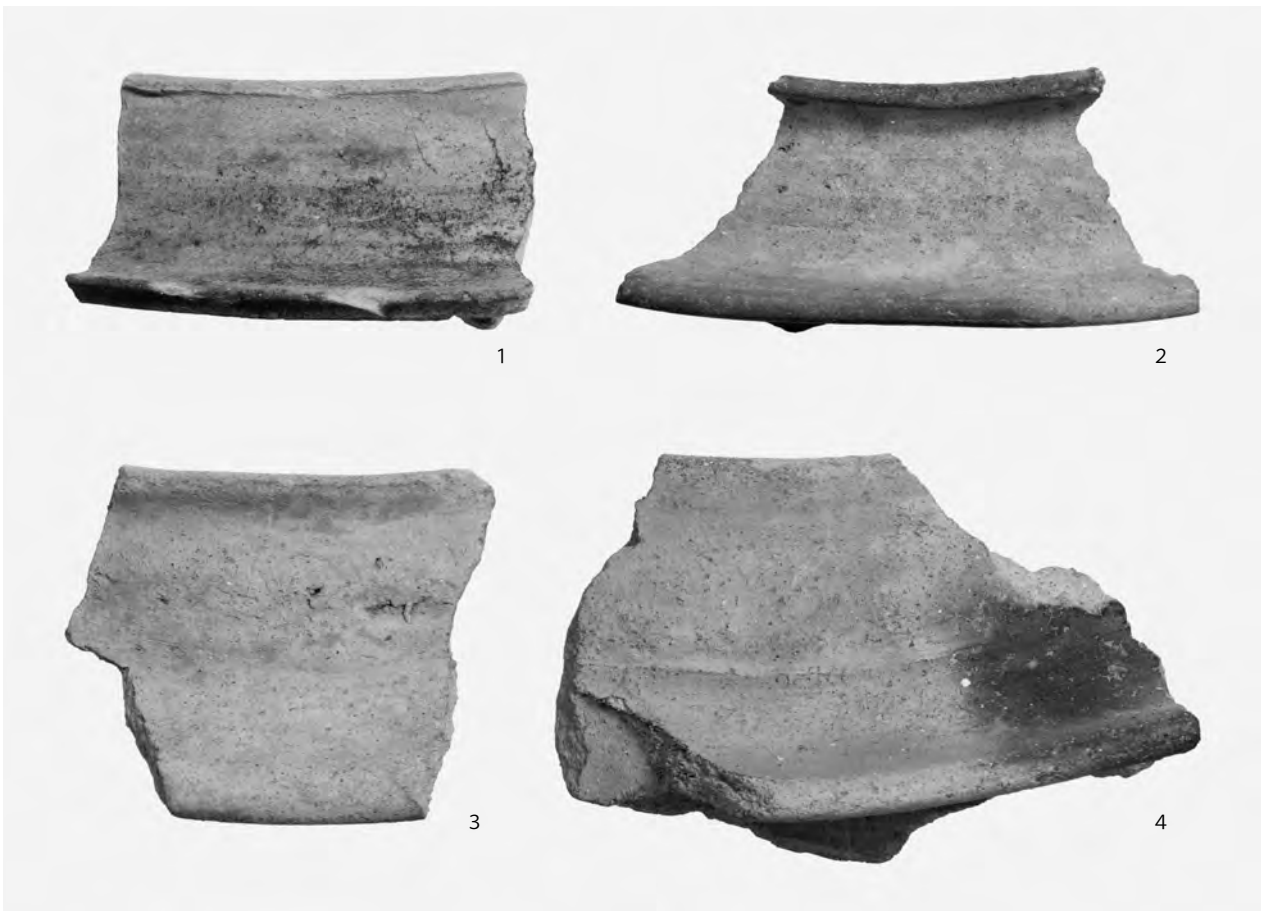
1. 10-1-4区 第3層・第4層出土



2. 10-1-4区 第4遺構面4025溝出土



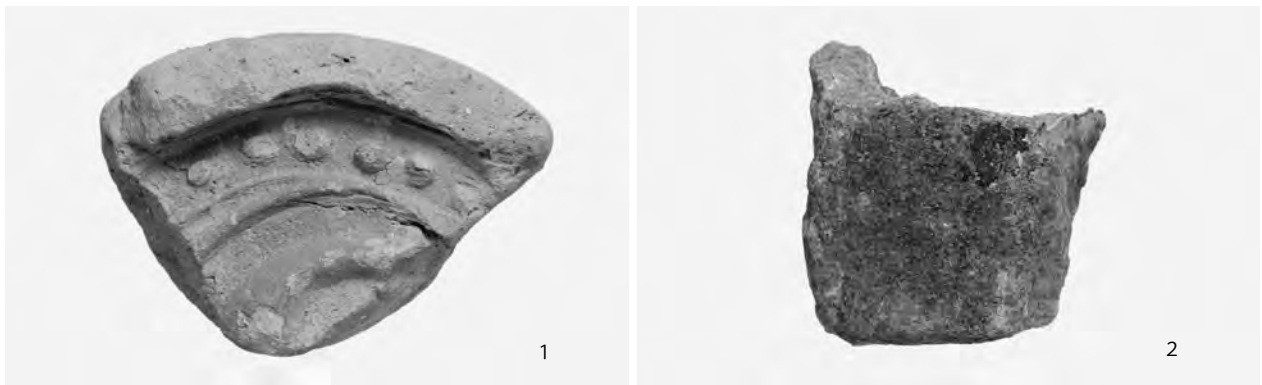
1. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土



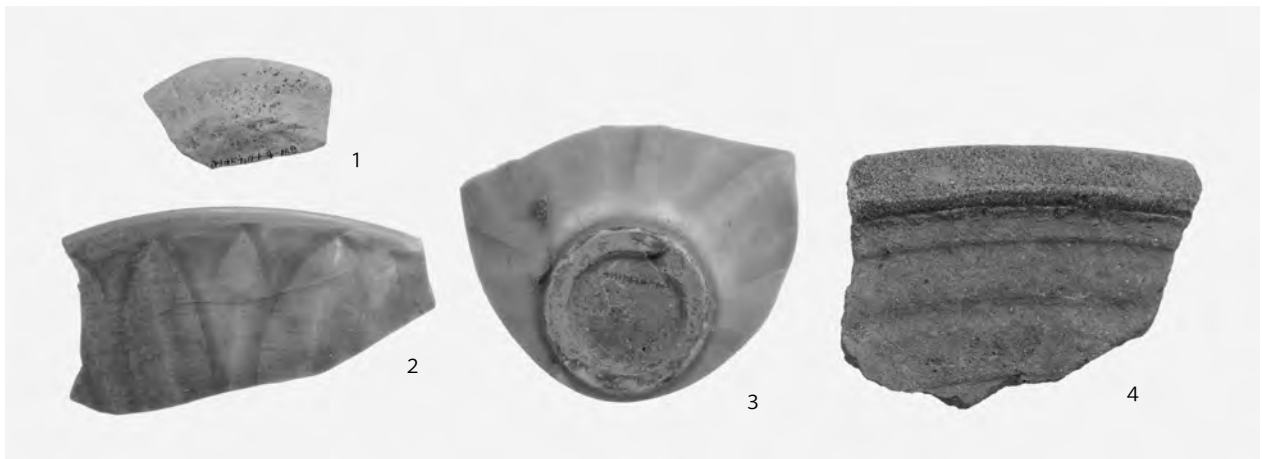
2. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土



1. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土



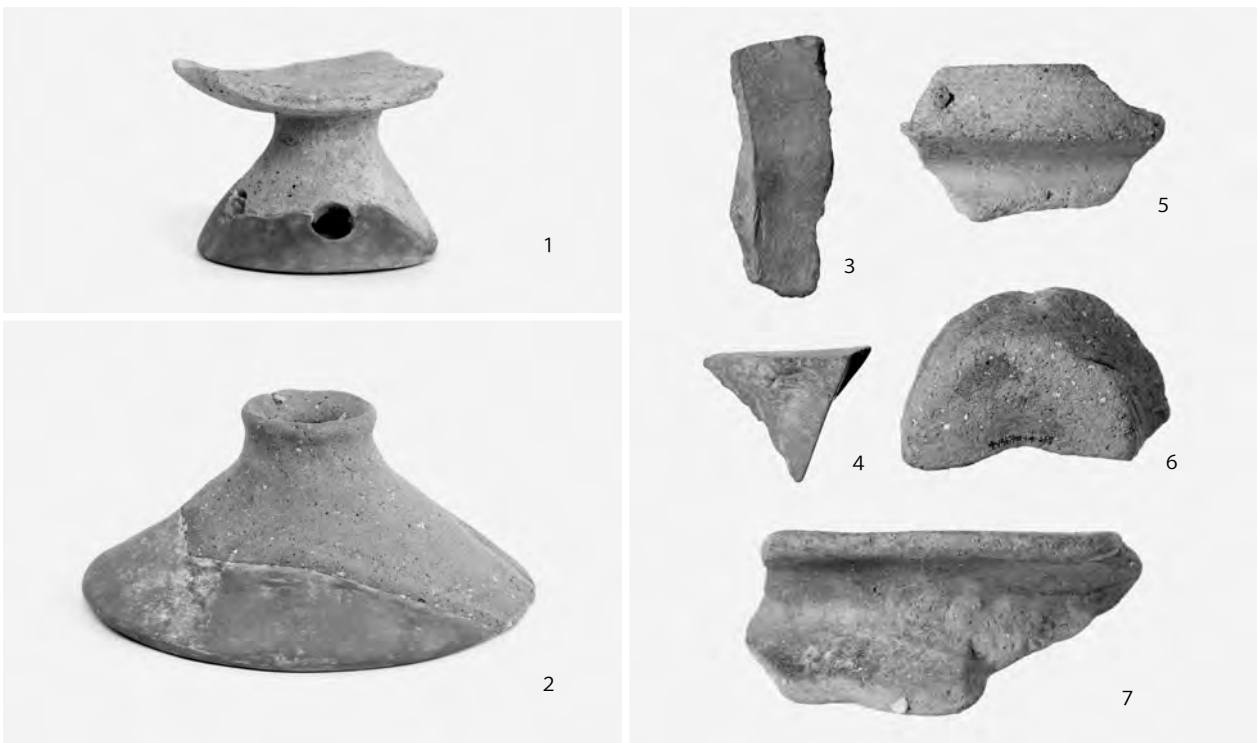
2. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土



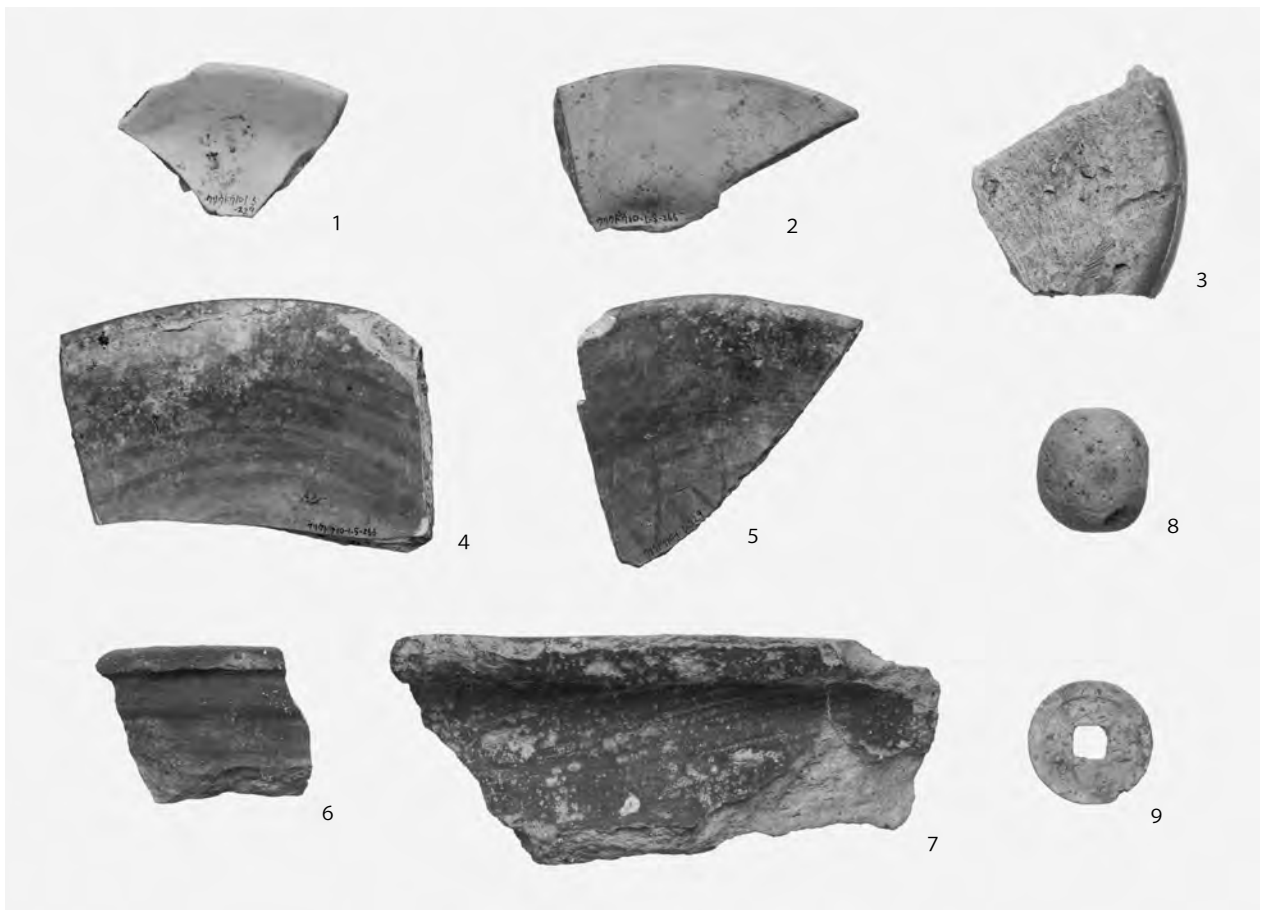
3. 10-1-4区 第5遺構面検出遺構出土



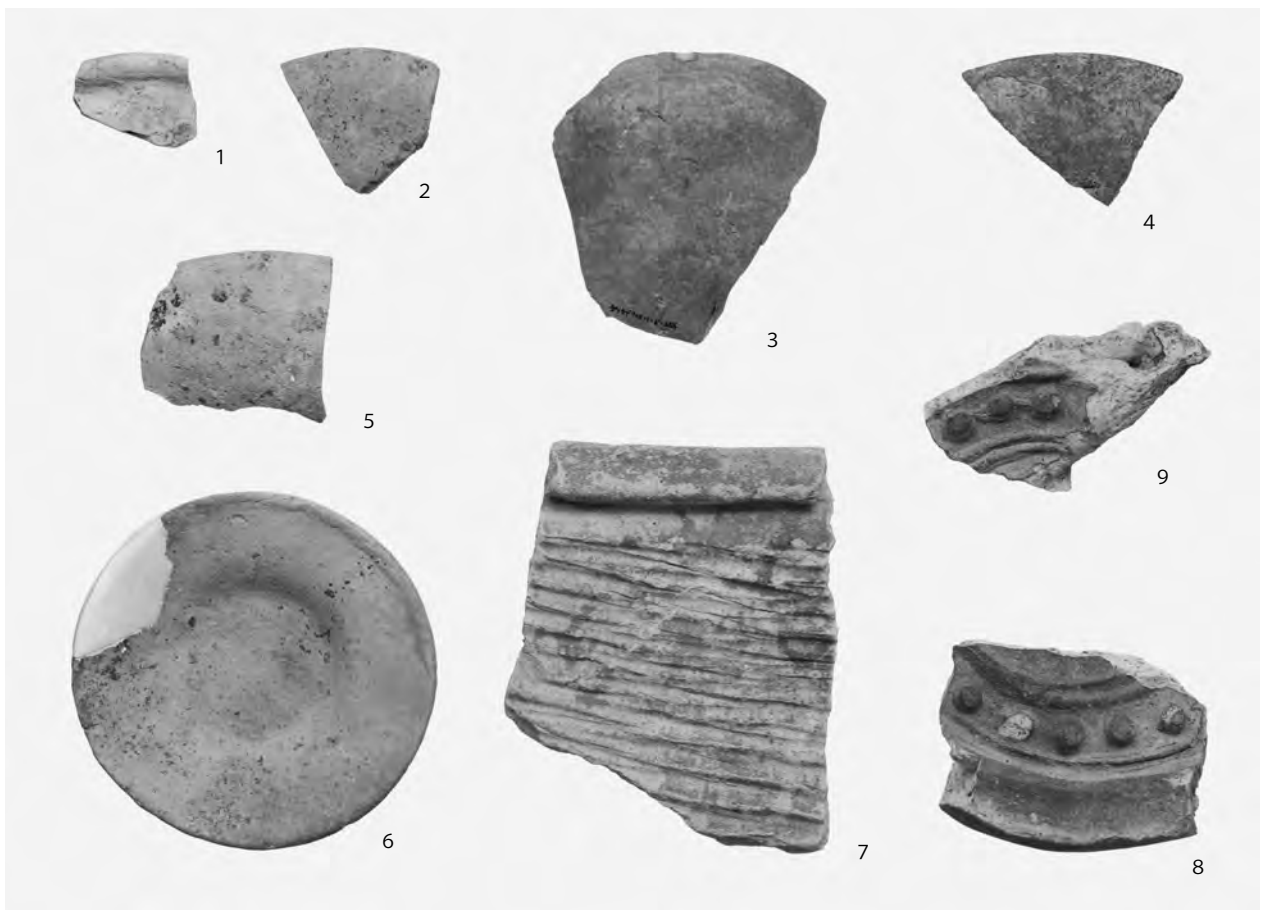
1. 10-1-4区 第4遺構面 4040 井戸出土



2. 10-1-4区 第6層出土



1. 10-1-5区 第3層出土



2. 10-1-5区 第4遺構面検出遺構出土



1. 10-1-5区 第4遺構面 5004 ピット出土



4. 10-1-5区 第4遺構面 5016 ピット出土



2. 10-1-5区 第4遺構面 5005 井戸出土



3. 10-1-5区 第4遺構面 5015 井戸出土



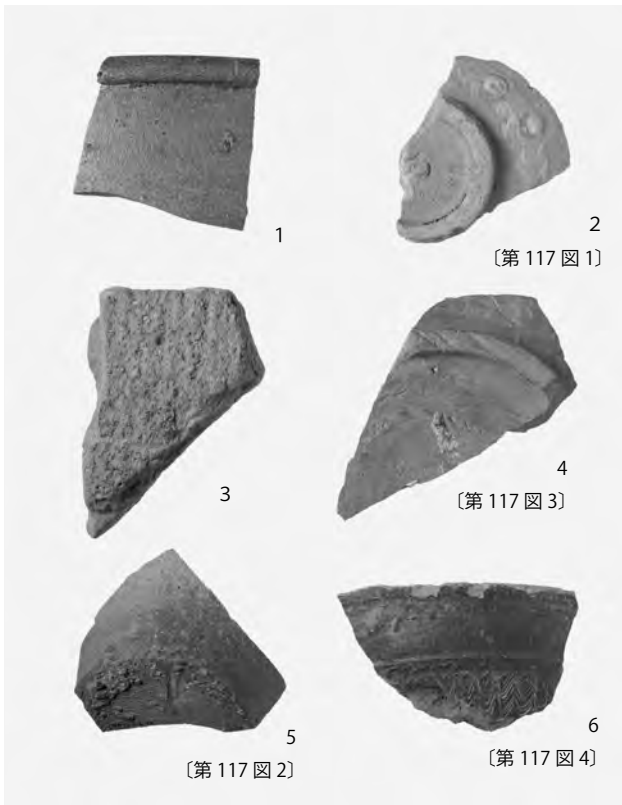
5. 10-1-5区 第4遺構面 5049 井戸出土



1. 10-1-5区 第4遺構面 5049 井戸出土



2. 10-1-5区 第9遺構面 5058 周溝墓出土



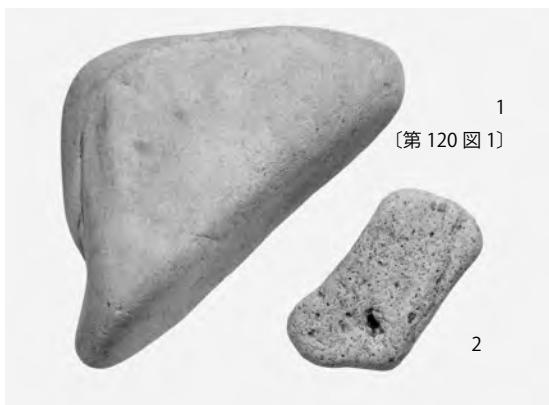
1. 10-1-6区 第1層~第3層出土



2. 10-1-6区 第6層出土



3. 10-1-6区 第16層出土



1
〔第120図1〕

2



4
〔第121図1〕

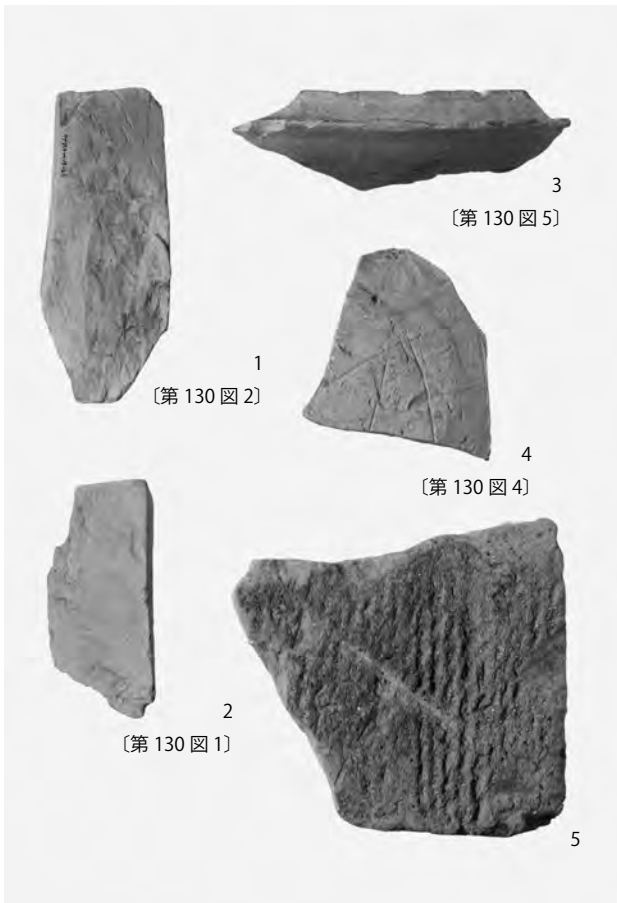


3
〔第120図2〕



5
〔第121図2〕

4. 10-1-6区 第17遺構面 6010土坑出土



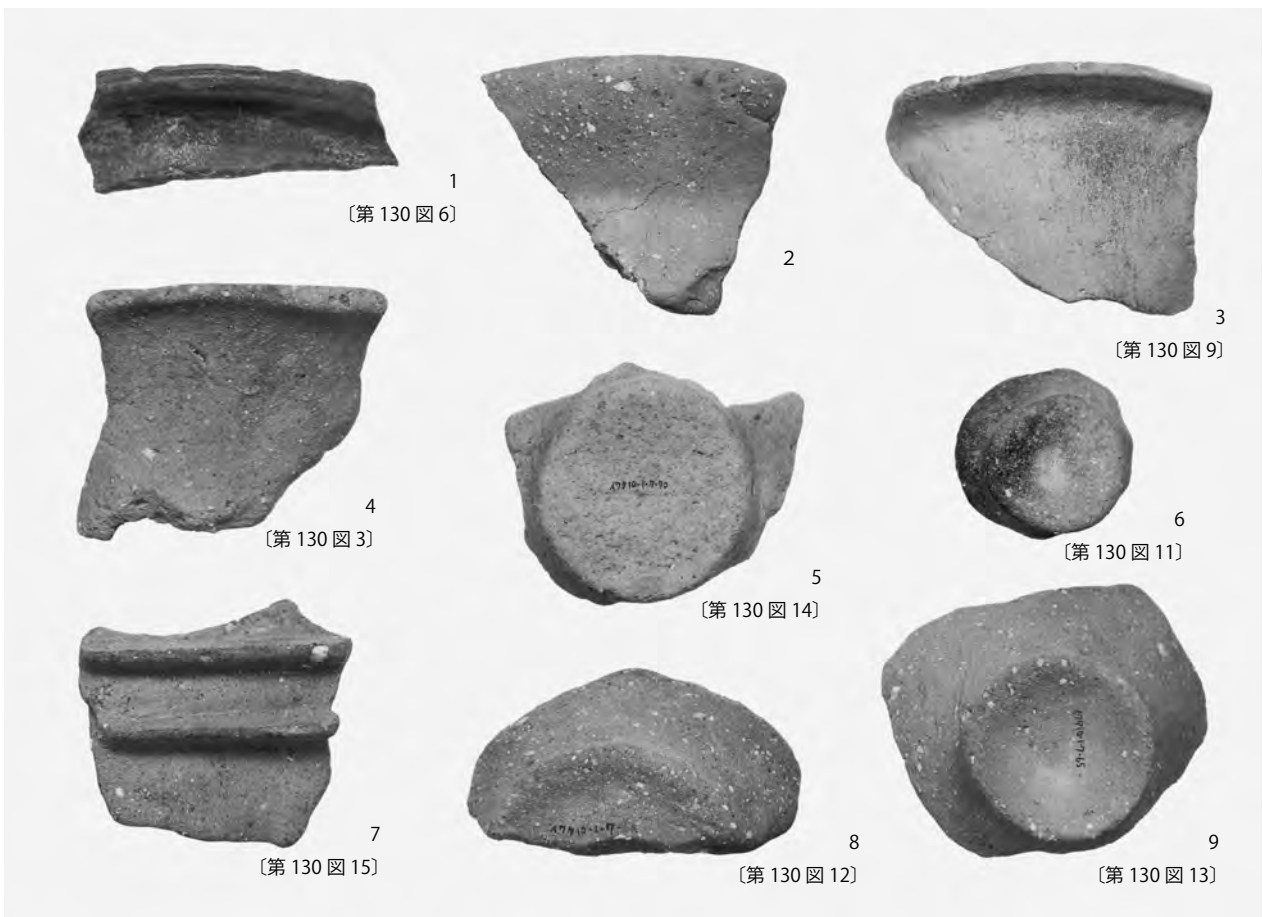
1. 10-1-7区 第3層~第5層出土



2. 10-1-7区 第4遺構面7004 落込み



3. 10-1-7区 第10層出土



4. 10-1-7区 第10層出土

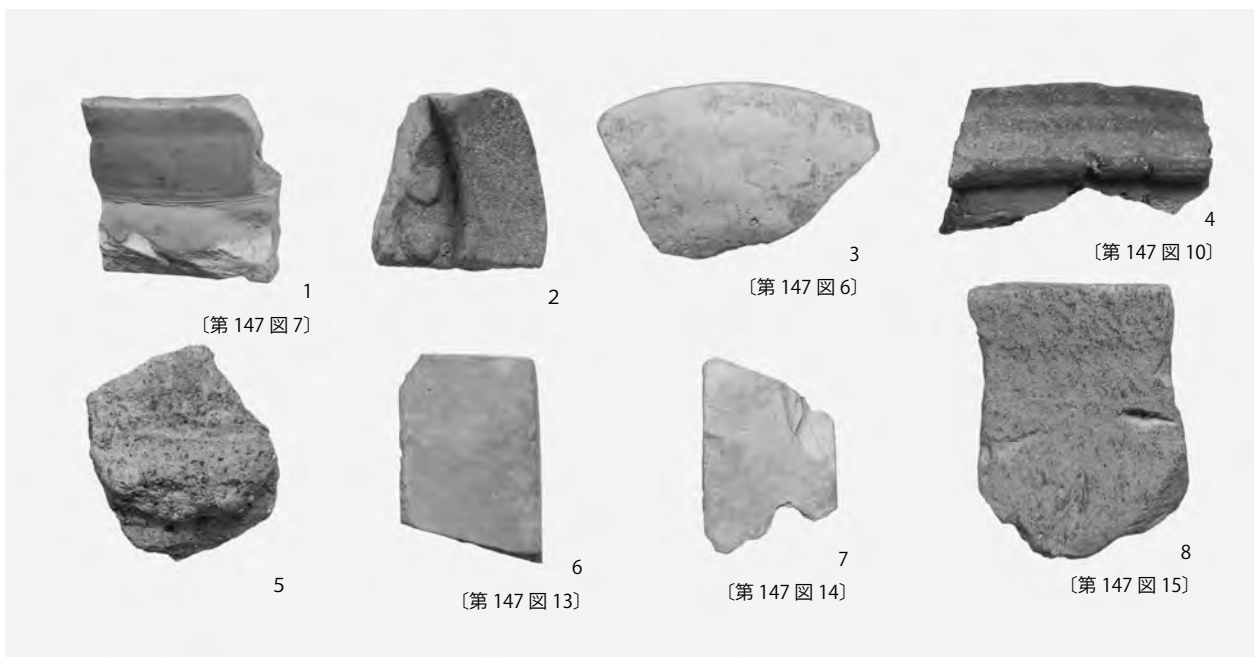


1. 10-1-7区 第10層出土

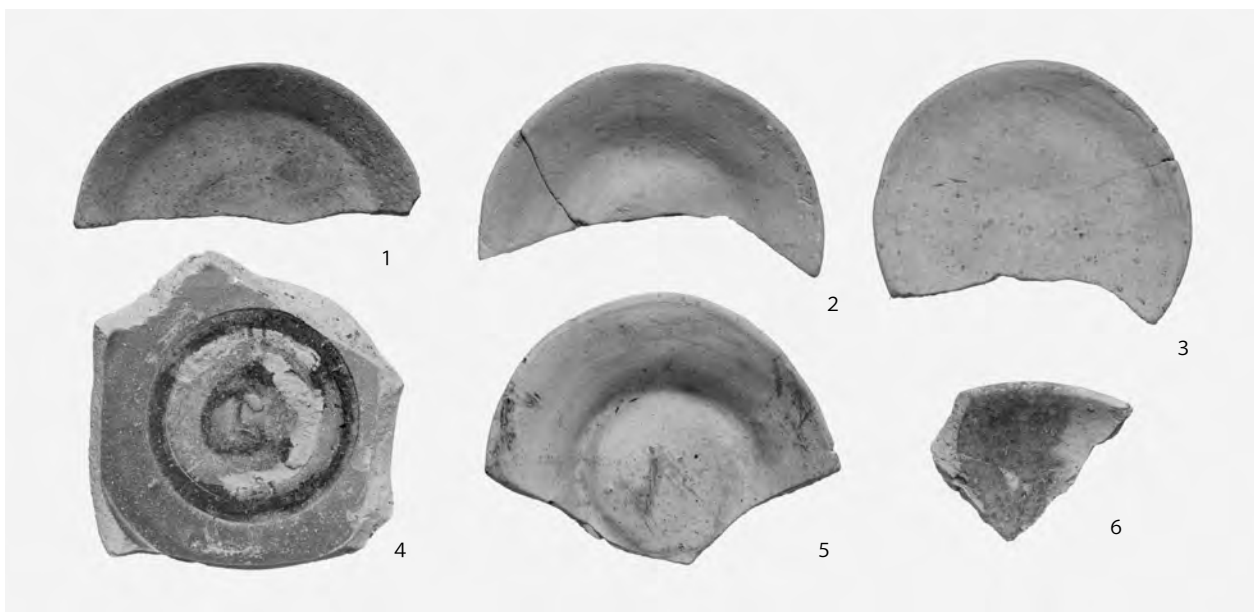


2. 10-1-7区 第19層出土

3. 10-1-7区 第20遺構面7024溝出土



1. 10-1-9区 第1層・第2層出土



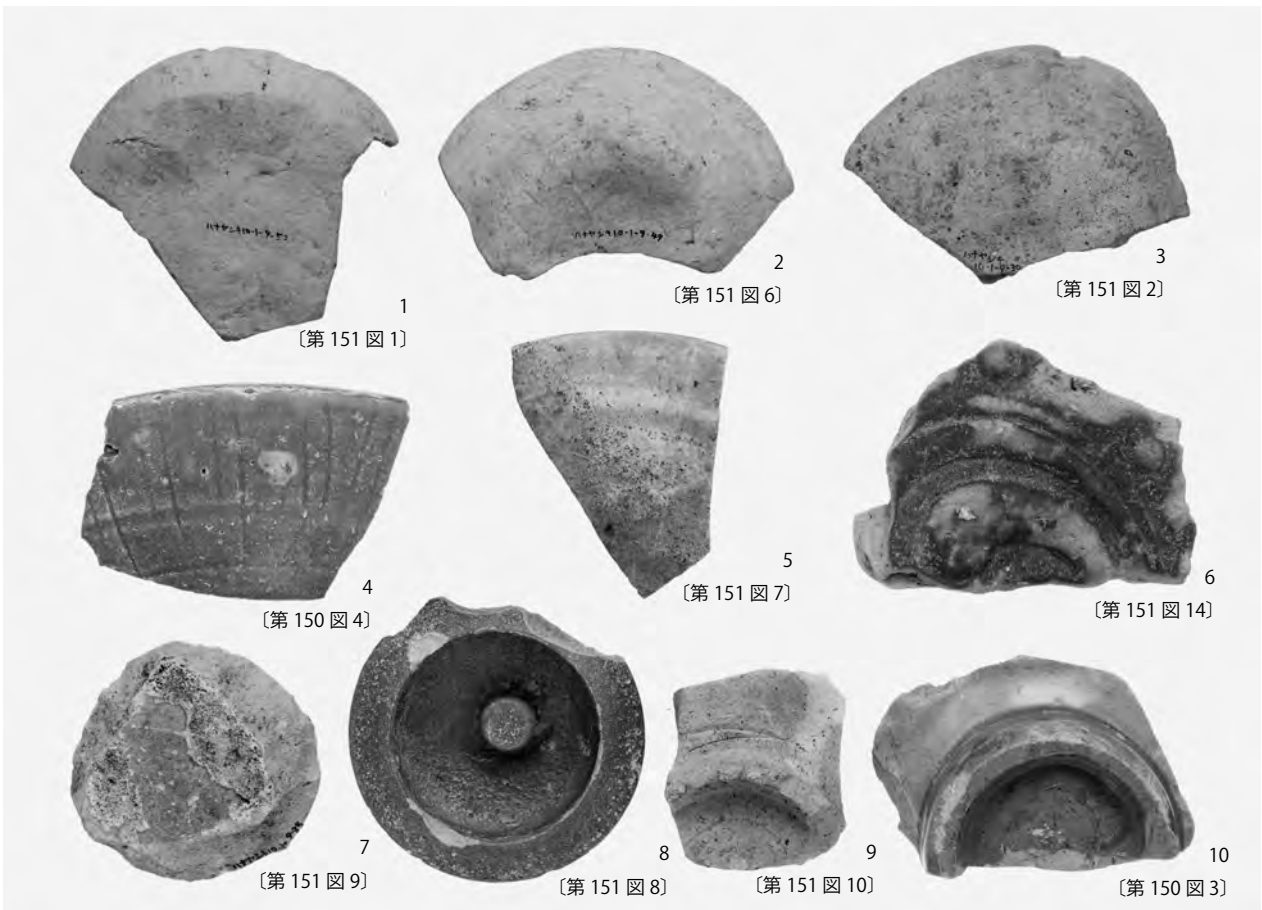
2. 10-1-9区 第3層出土



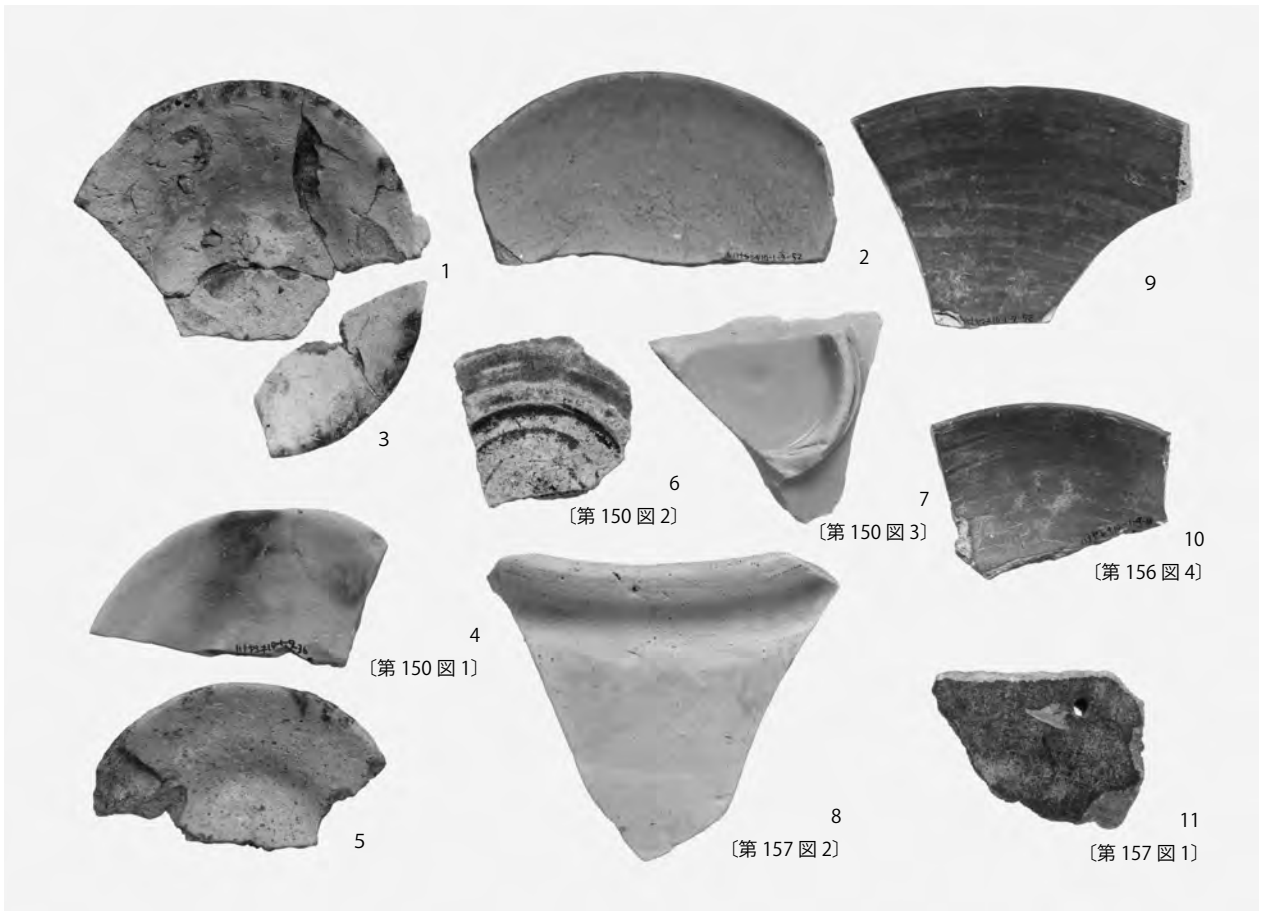
3. 10-1-9区 第4層出土



1. 10-1-9区 第4層・第4遺構面 9006 井戸出土



2. 10-1-9区 第4層・第4遺構面 9005 溝出土



1. 10-1-9区 第4遺構面・第5遺構面検出遺構・第5層出土



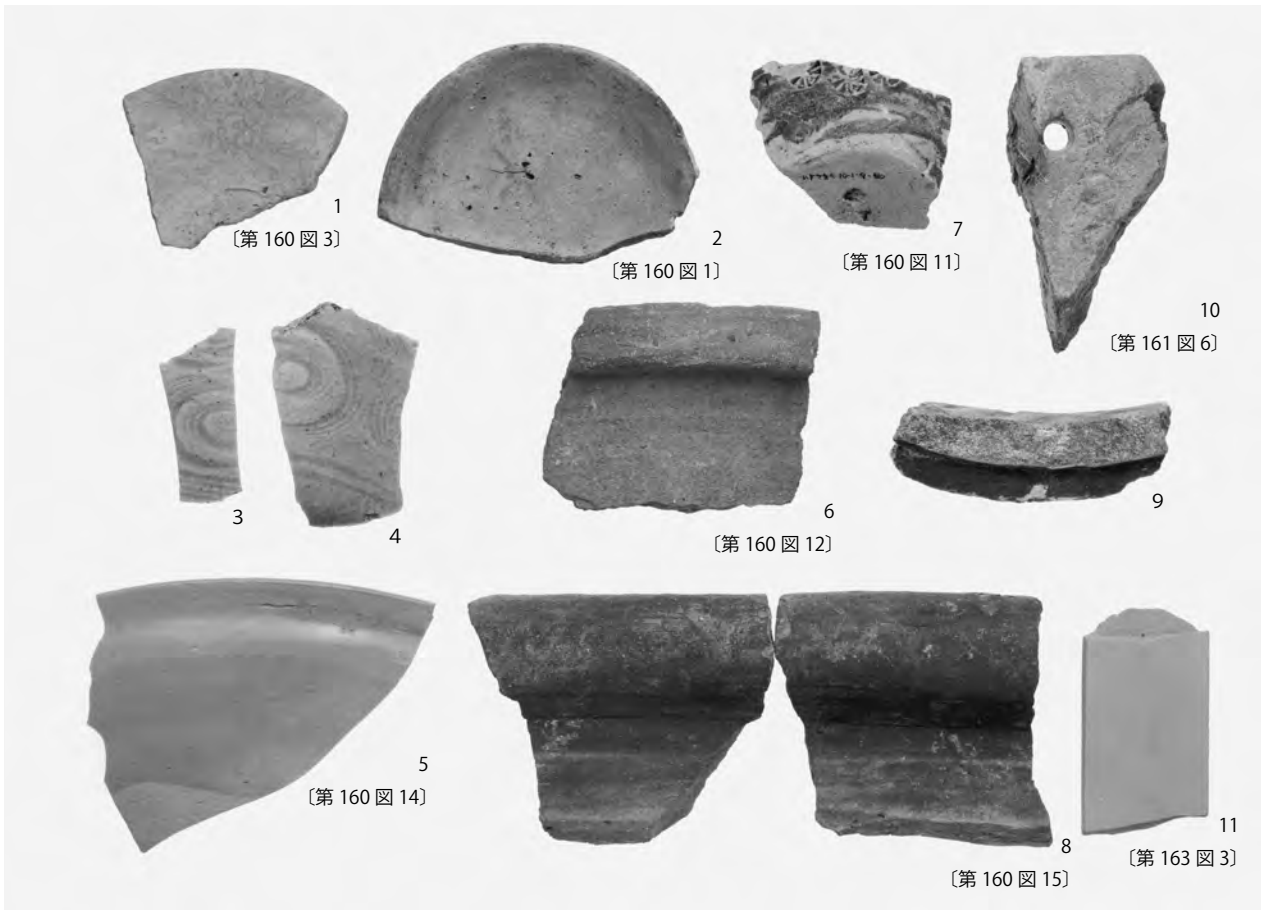
2. 10-1-9区 第5遺構面出土



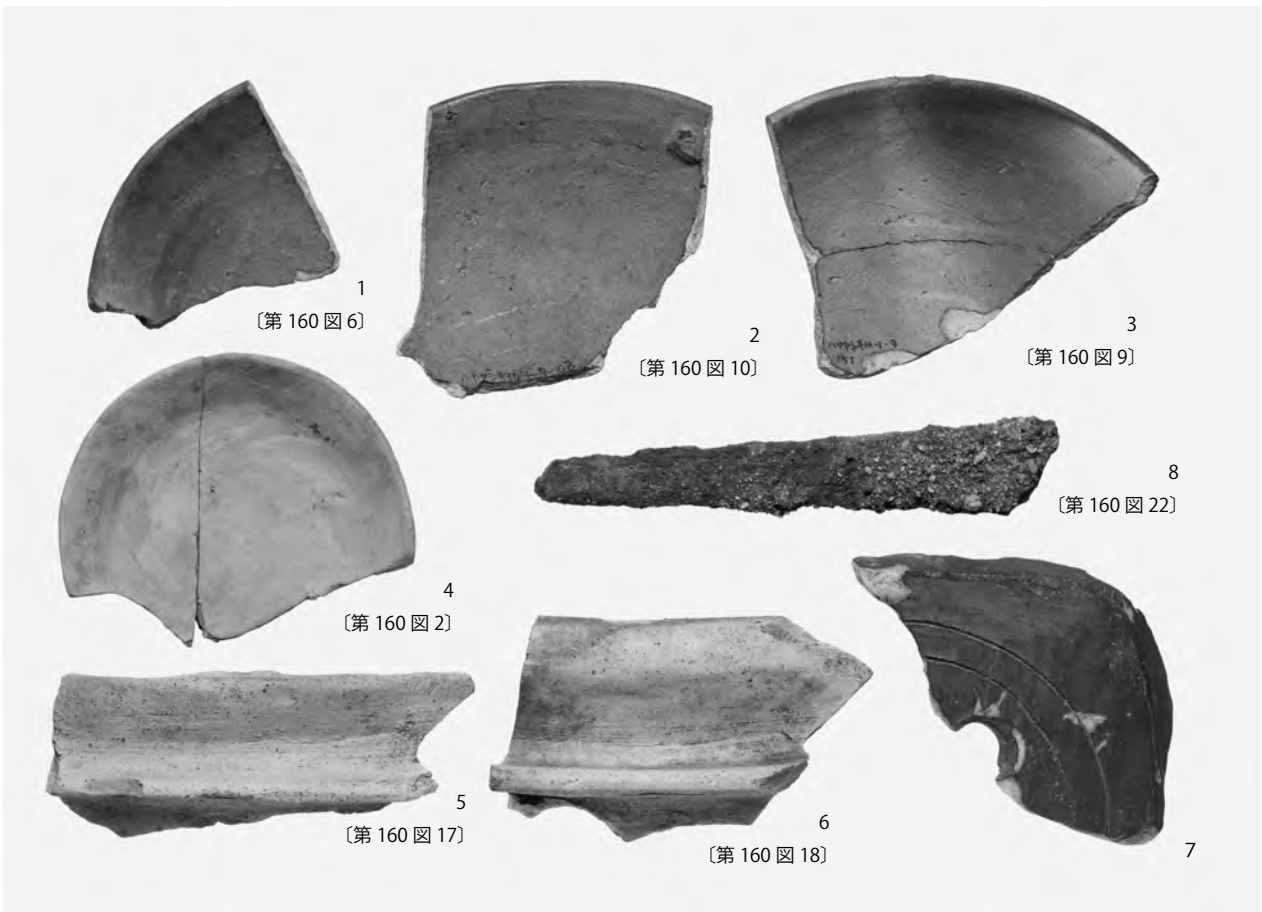
3. 10-1-9区 第5遺構面 9015 炭だまり出土



4. 10-1-9区 第5層出土



1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



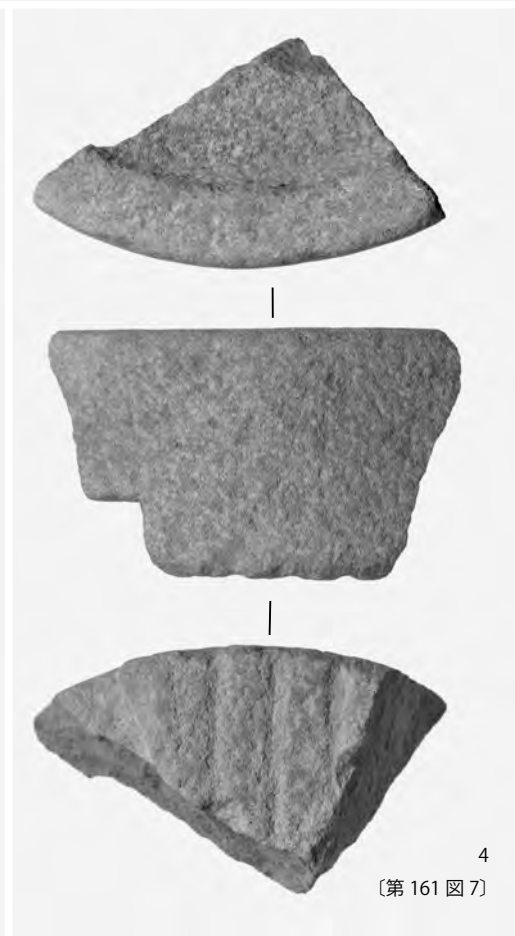
2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



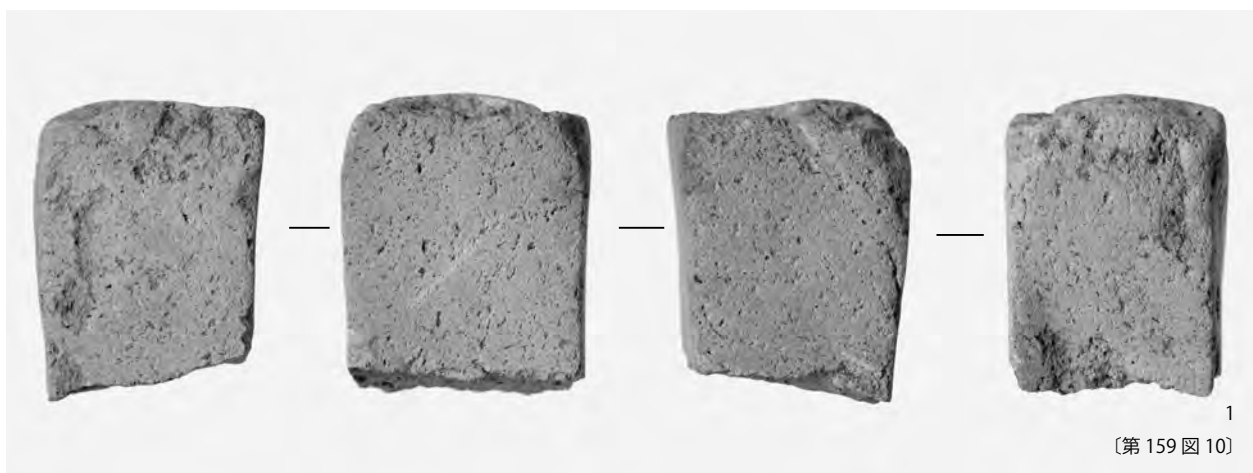
1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



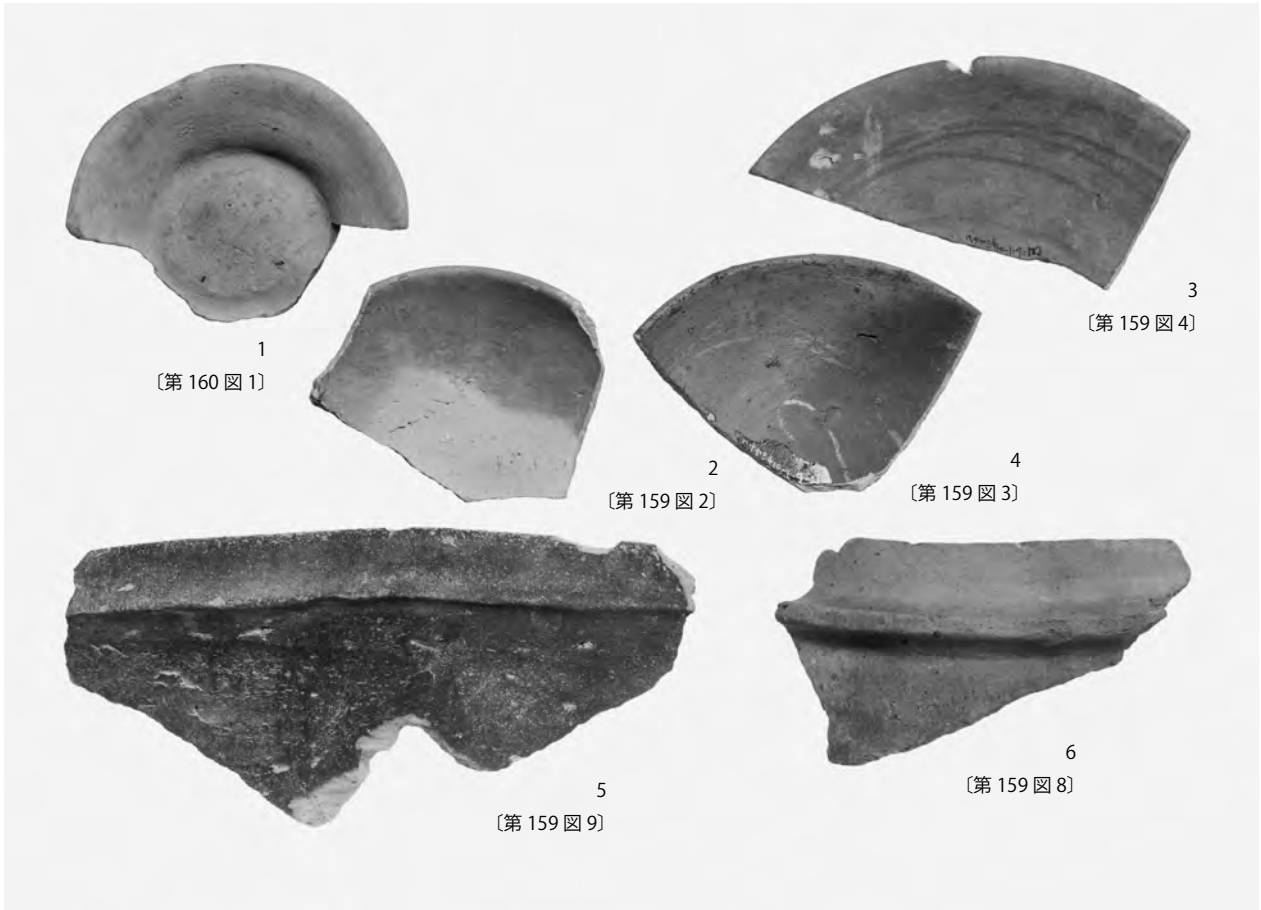
1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



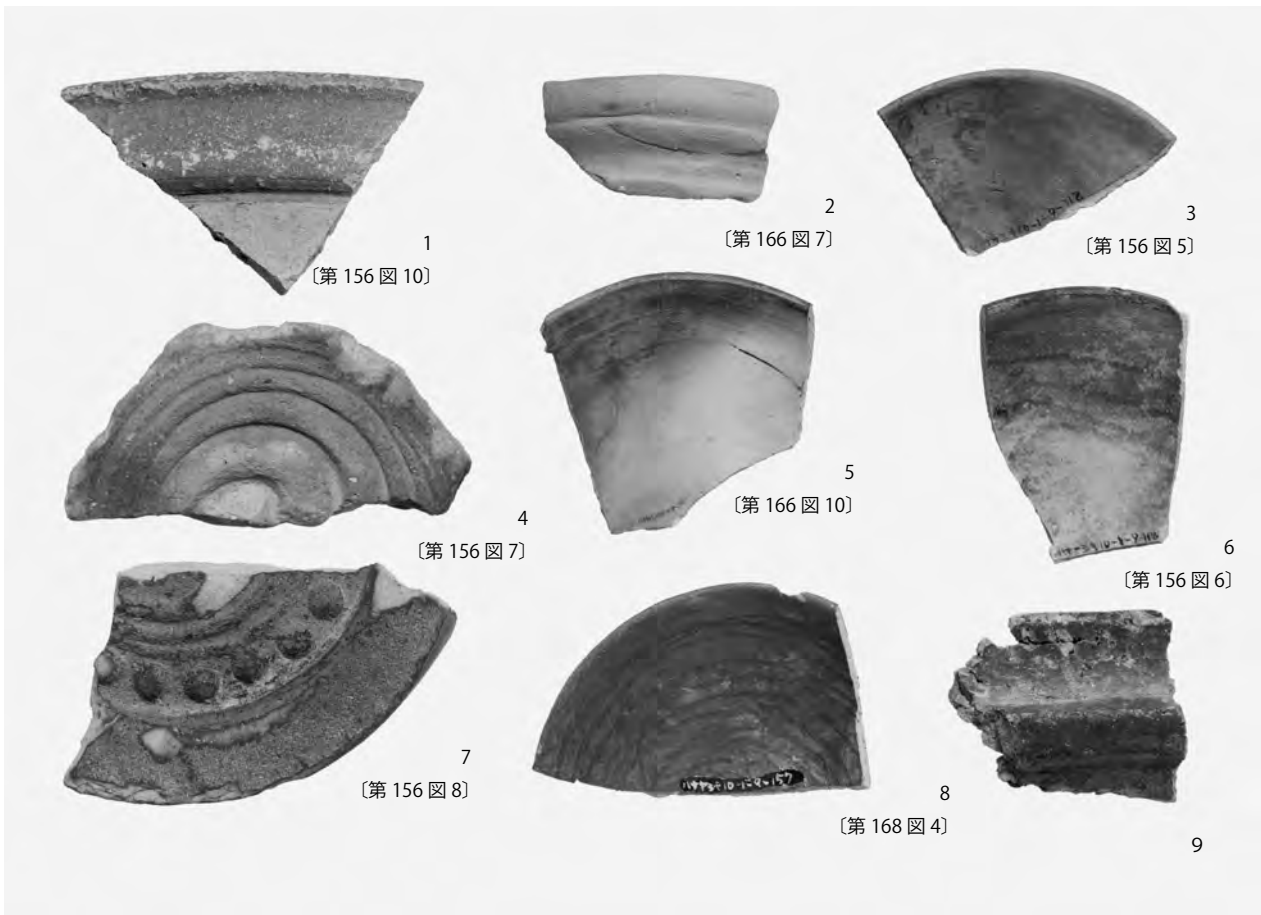
1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



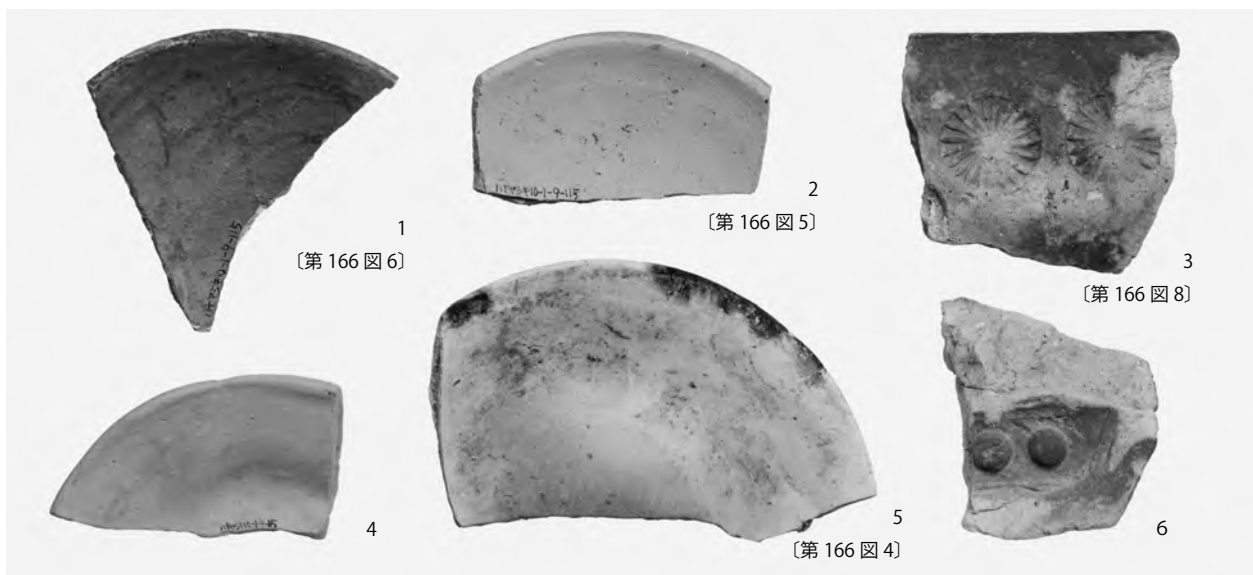
2. 10-1-9区 第6遺構面出土



1. 10-1-9区 第6遺構面出土



2. 10-1-9区 第5遺構面～第7遺構面検出遺構出土



1. 10-1-9区 第6遺構面 9026 溝出土



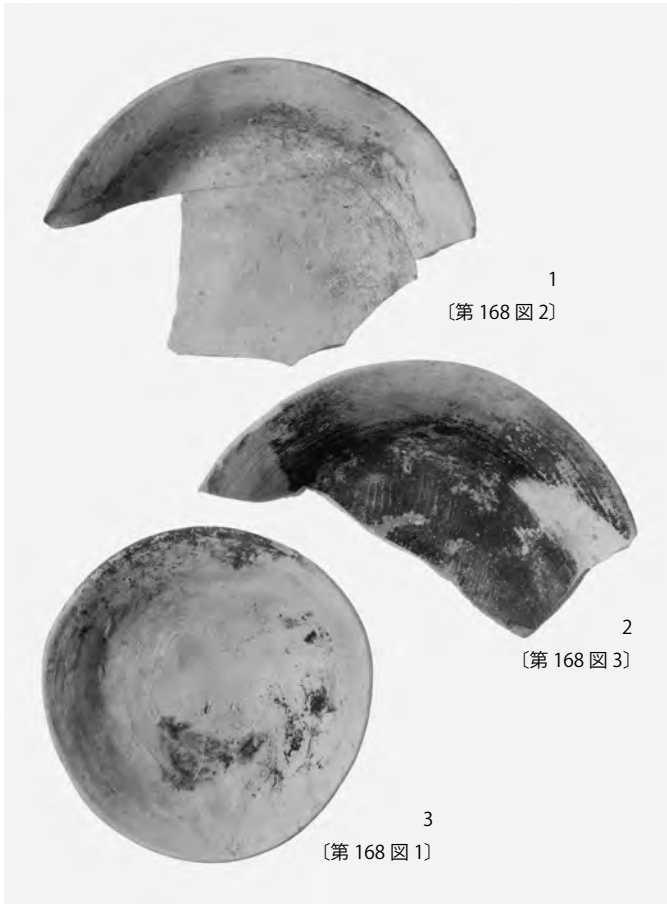
2. 10-1-9区 第6遺構面 9026 溝出土



3. 10-1-9区 第6遺構面 9040 井戸出土



4. 10-1-9区 第6遺構面出土



1. 10-1-9区 第7遺構面 9180 井戸出土



2. 10-1-9区 第7遺構面 9182 ピット出土



1
〔第166図11〕



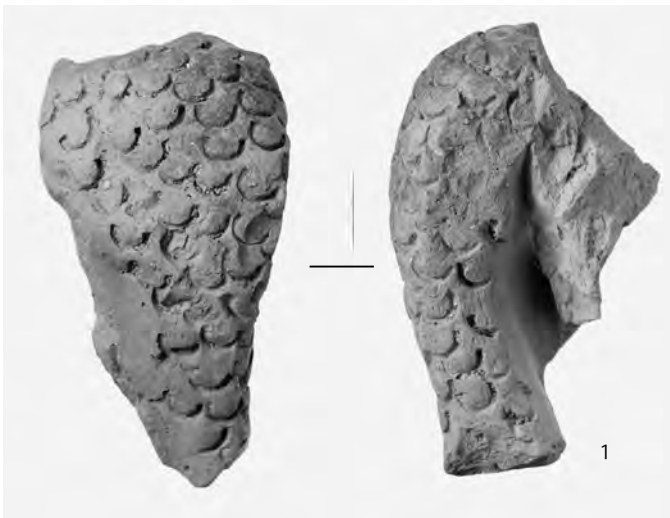
2
〔第166図13〕



3. 10-1-9区 第6遺構面 9185 井戸出土



4. 10-1-9区 第7層出土



1. 10-1-9区 第7遺構面 9179 落込み出土



2. 10-1-9区 第7層出土



3. 10-1-9区 第7層出土



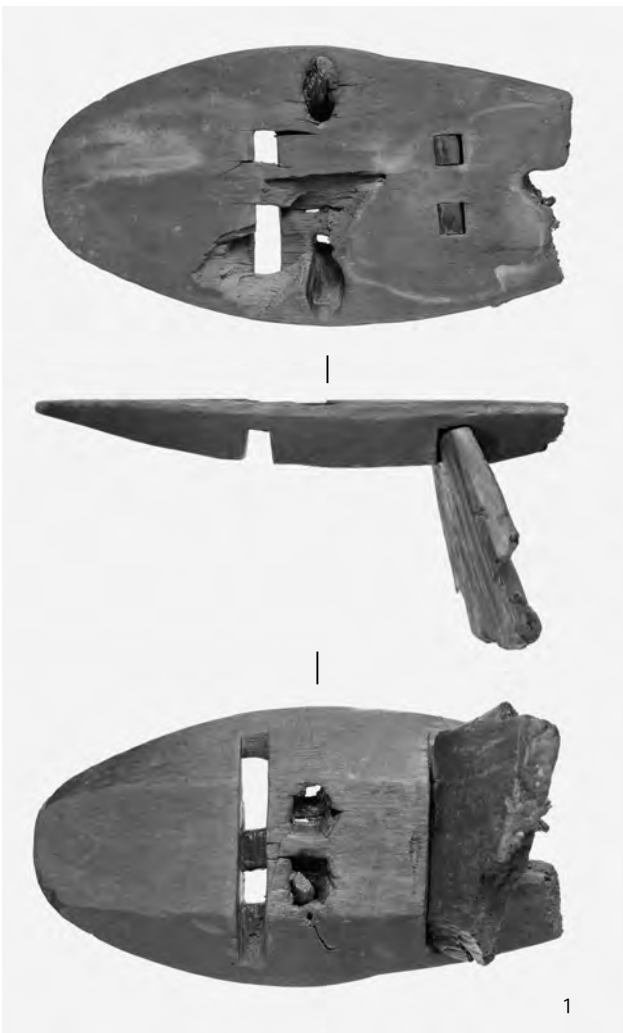
1. 10-1-1区 第2遺構面出土



2. 10-1-1区 第2遺構面
1005 溝出土



3. 10-1-1区
第2遺構面
1009 土坑出土



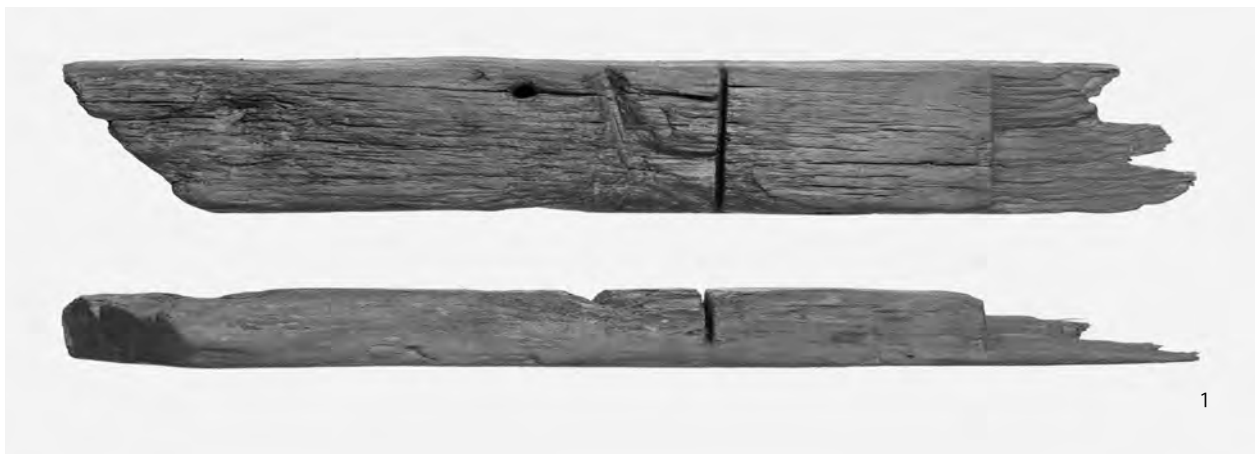
4. 10-1-1区 第2遺構面 1027 溝出土



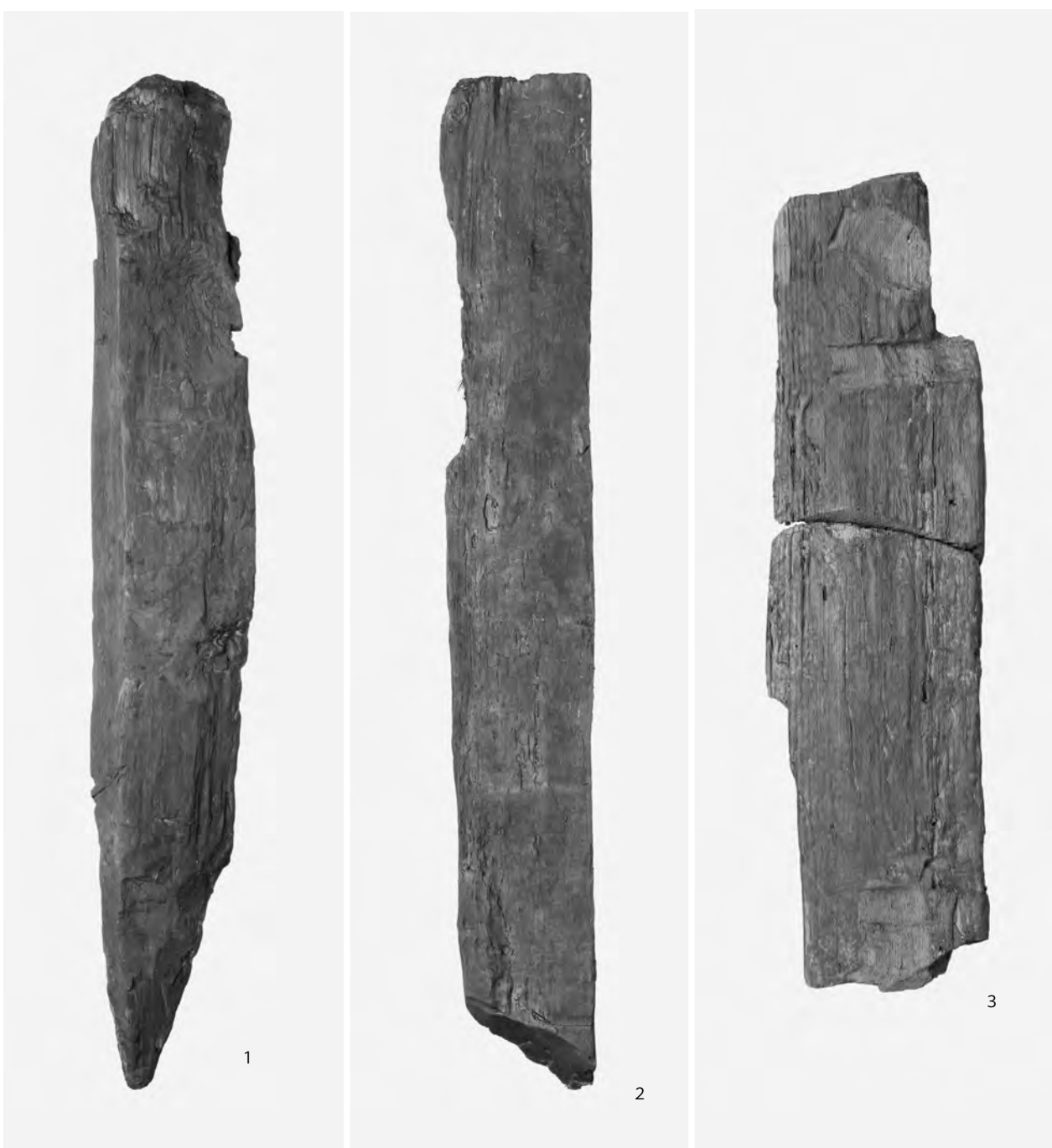
5. 10-1-1区 第2遺構面 1025 溝出土



6. 10-1-1区 第6層出土



1. 10-1-1区 第2遺構面1027溝出土



2. 10-1-1区 第6層出土



1

1. 10-1-1区 第6層出土



1

[第35図10]

2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



2

[第35図9]



1

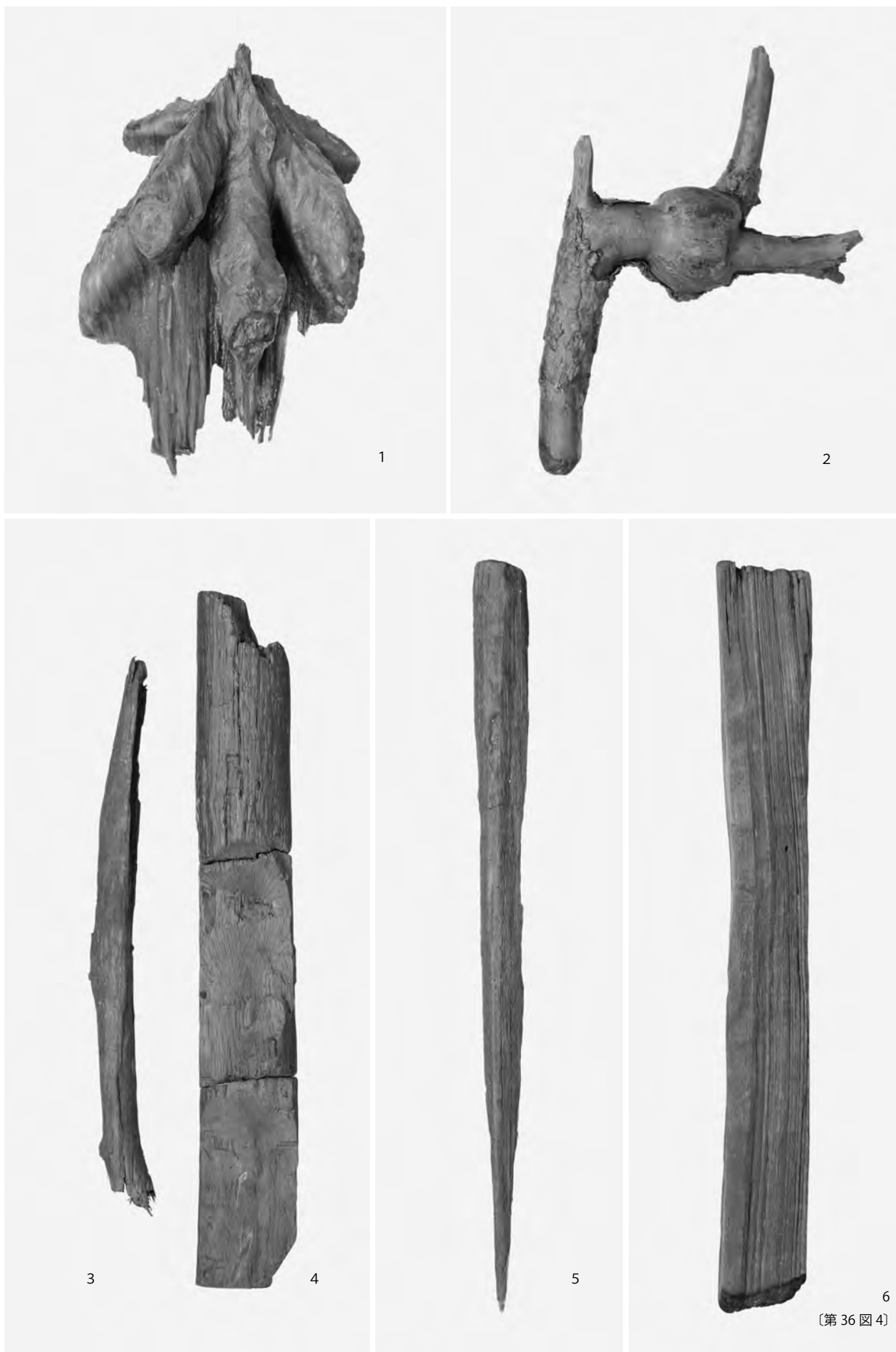
[第35図11]

3. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



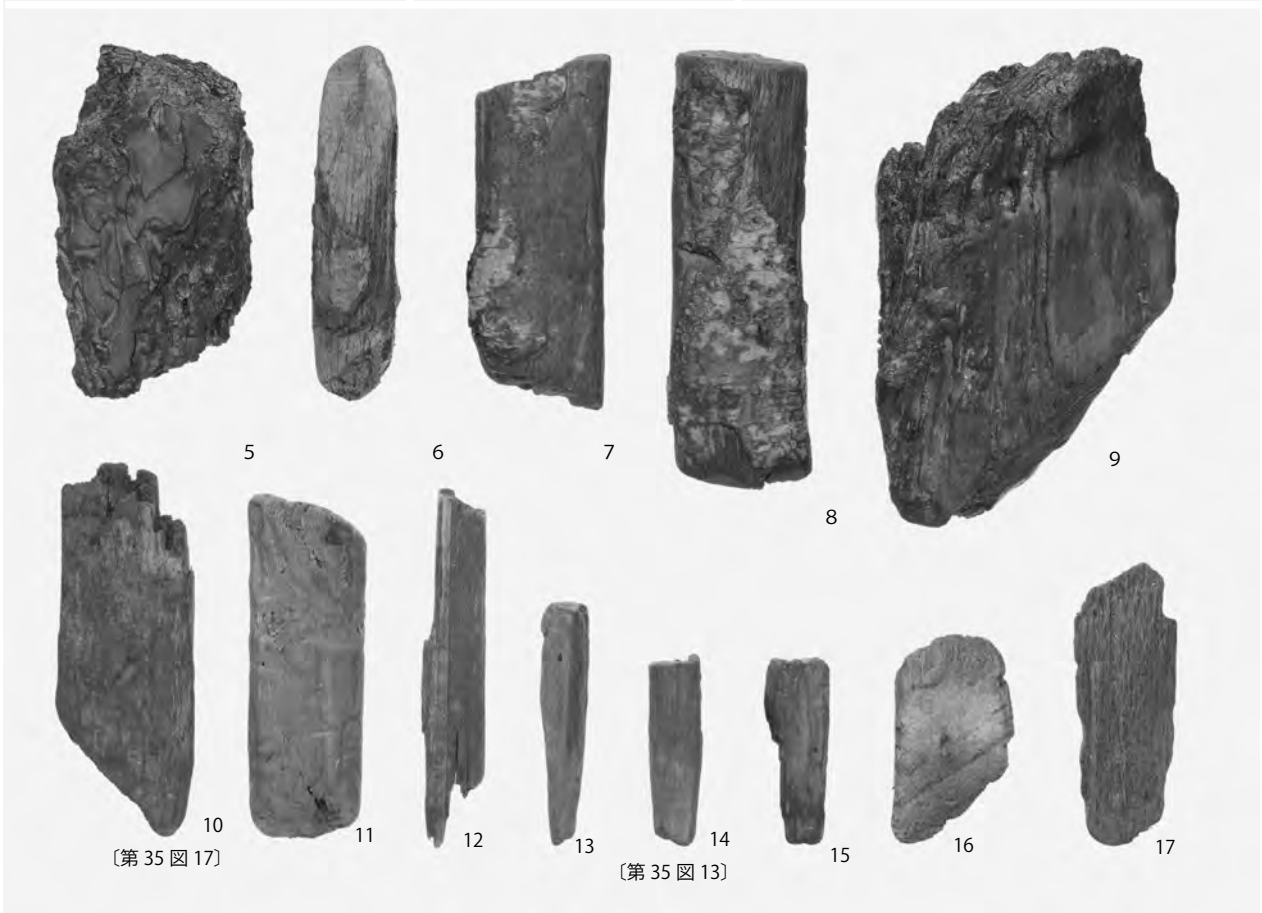
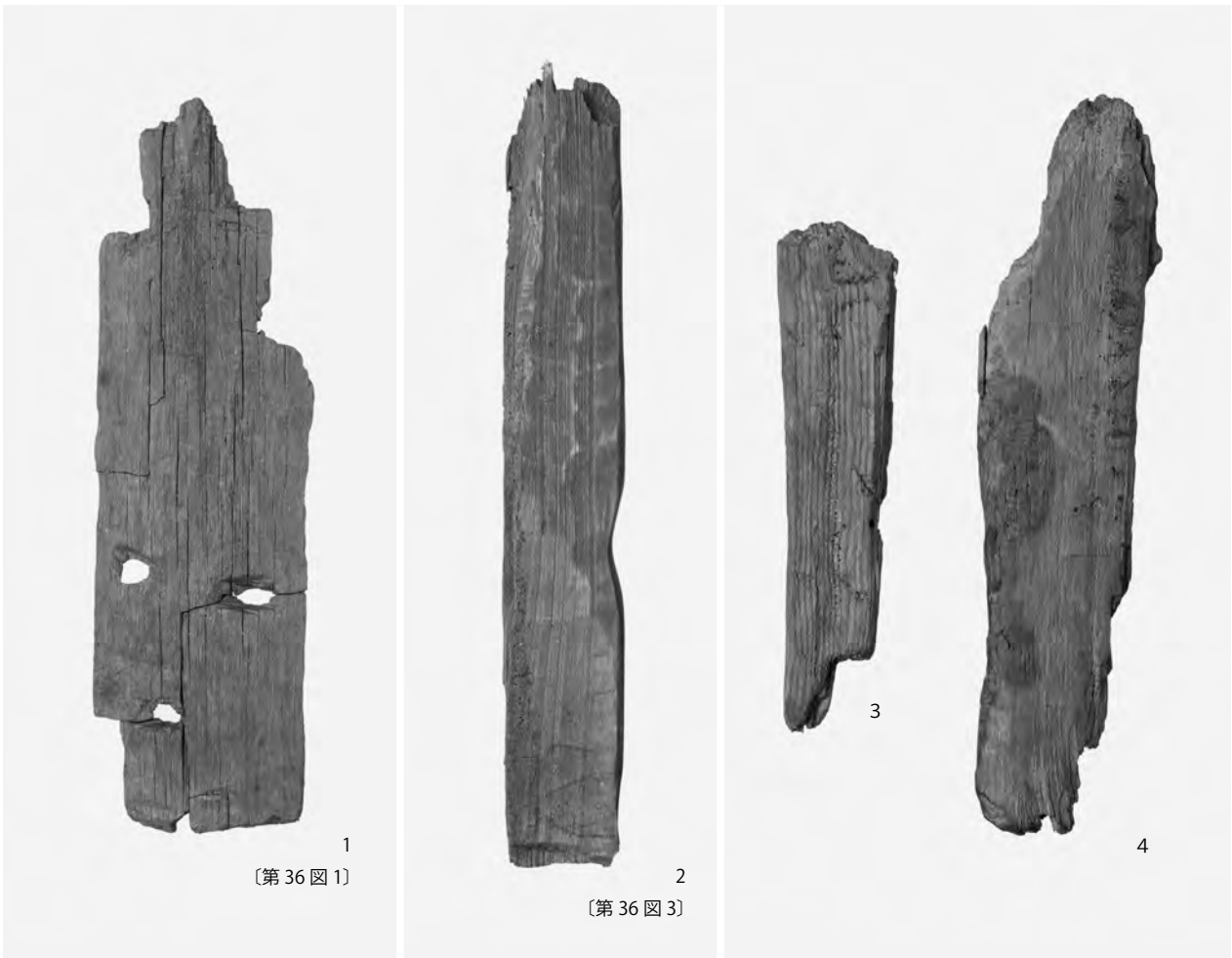
2

[第36図2]



1. 10-1-1区 第10遺構面1058流路出土

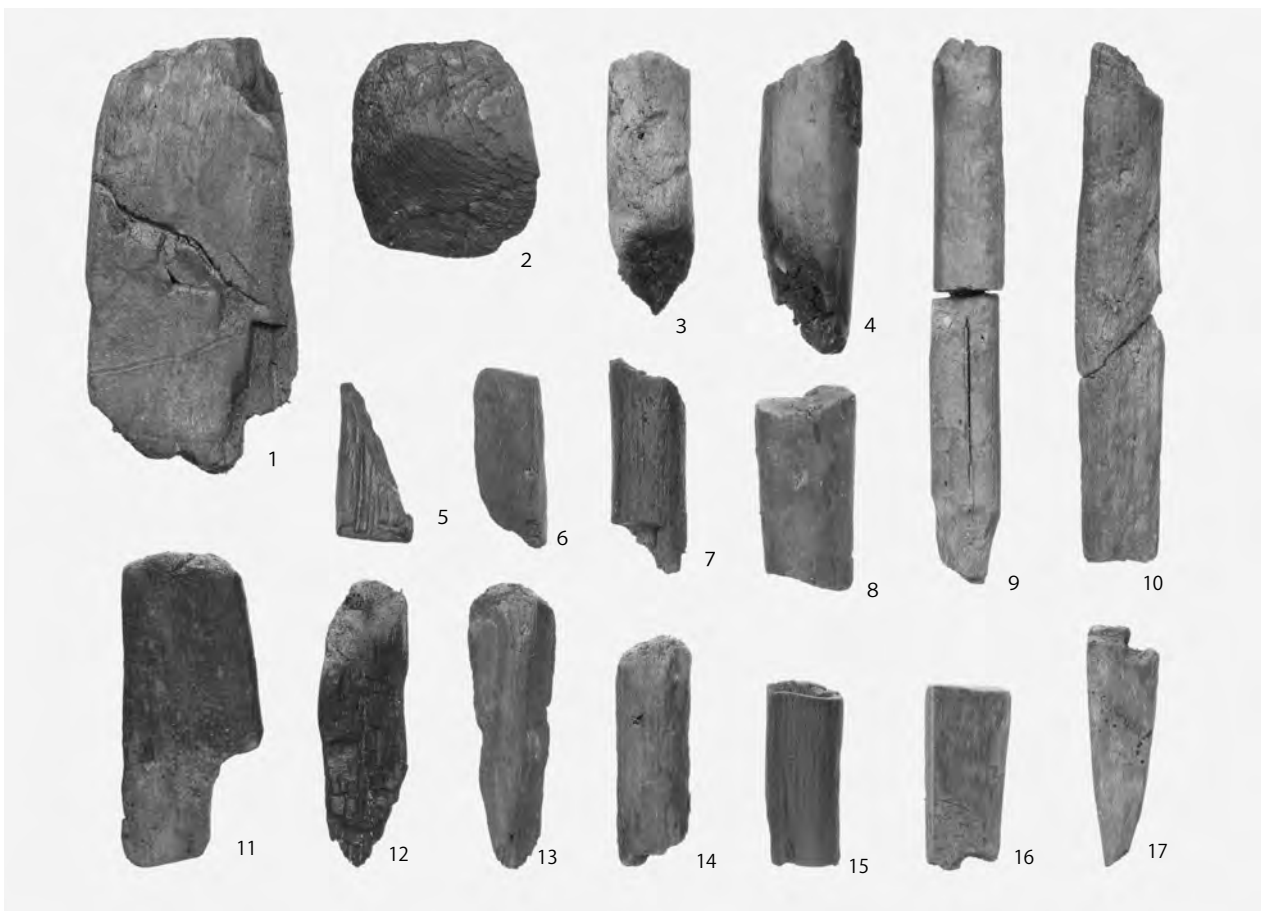
〔第36図4〕



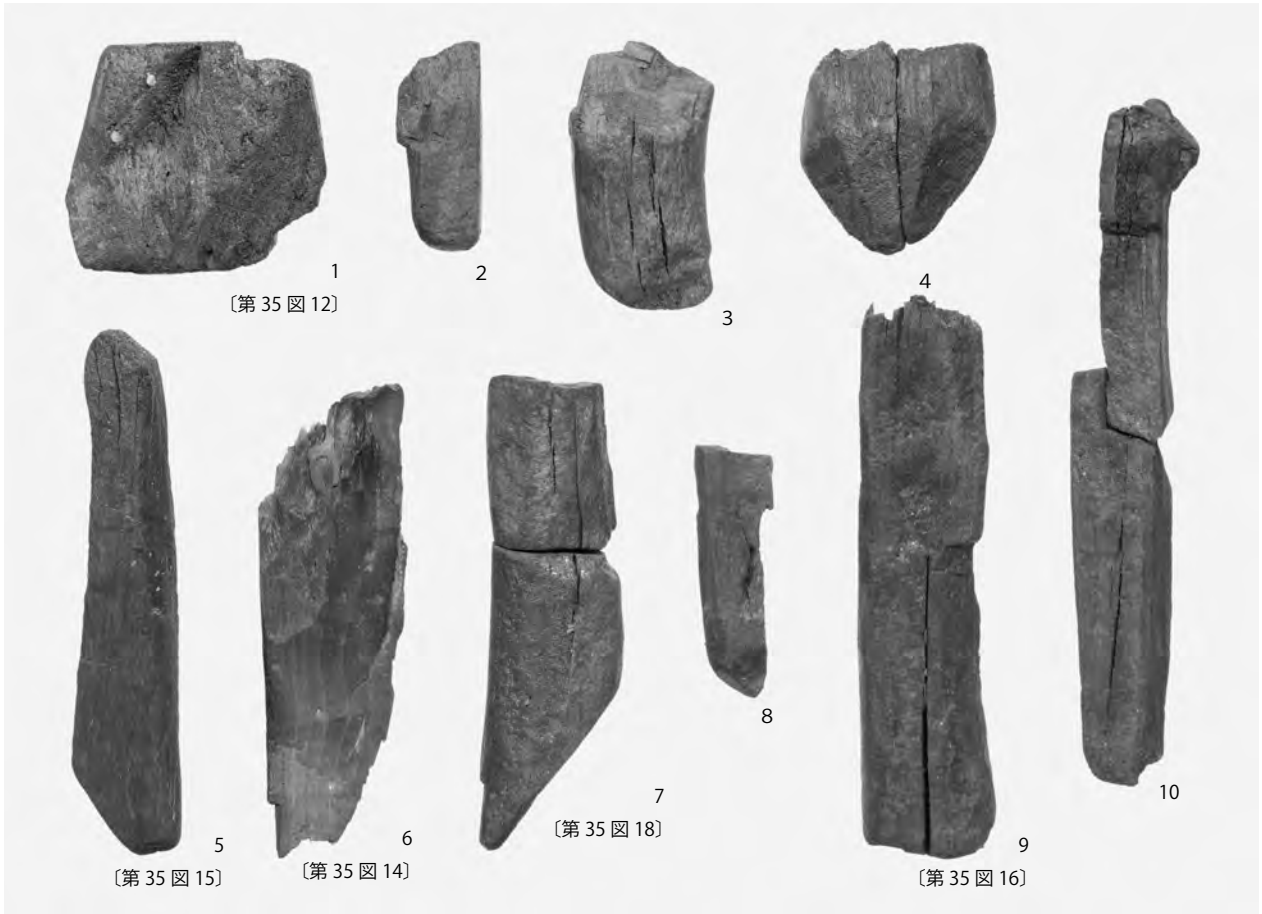
1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



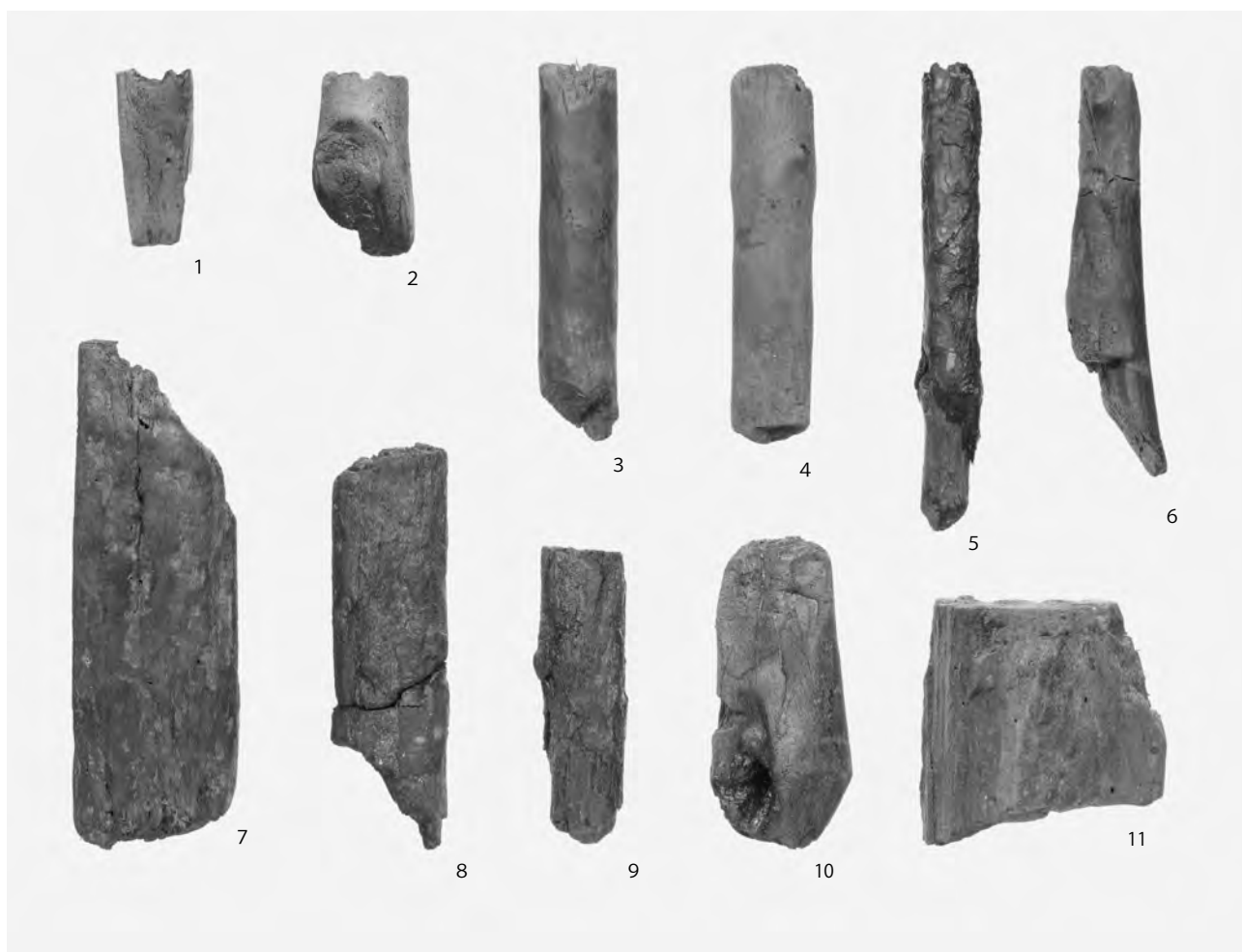
2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



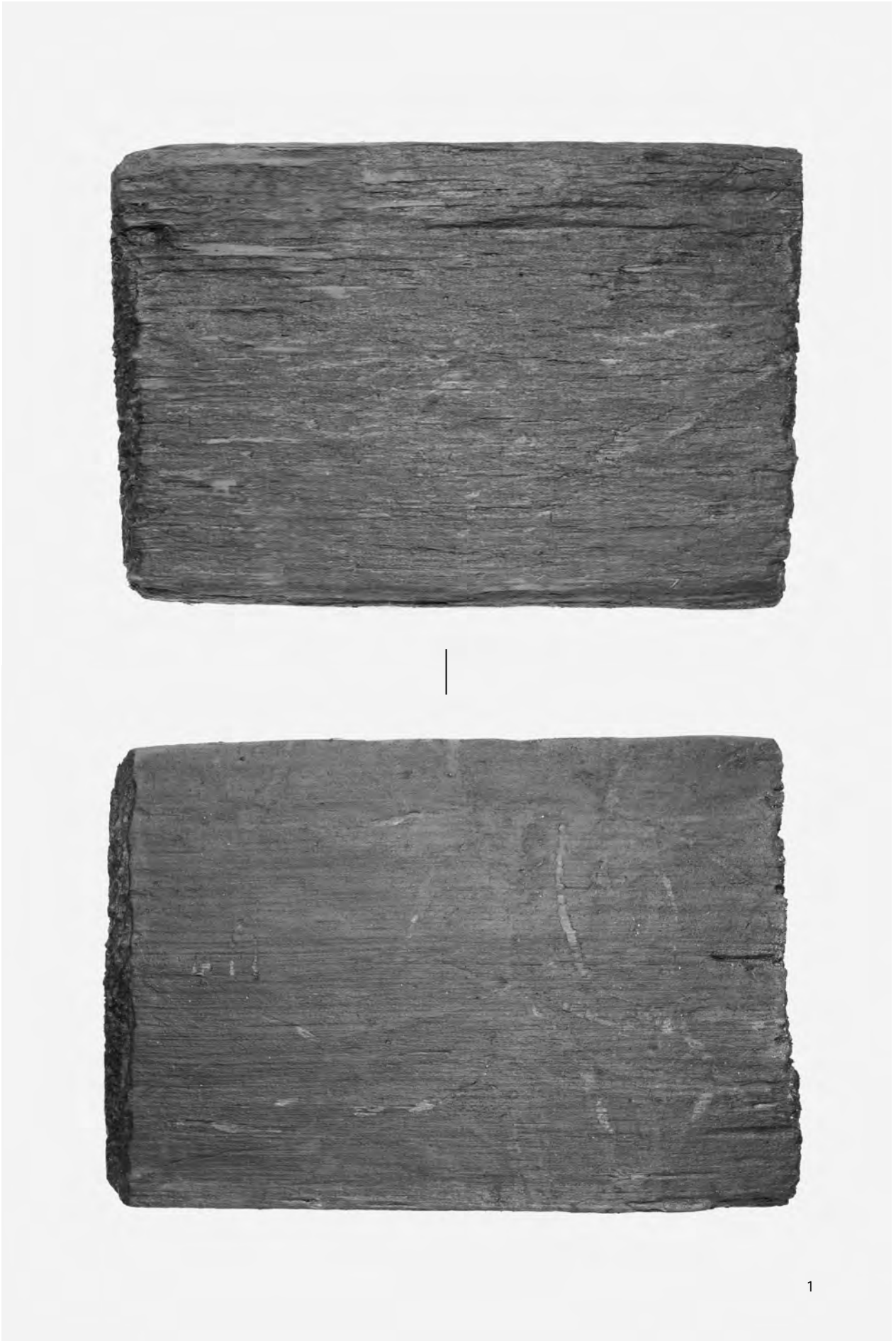
1. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土

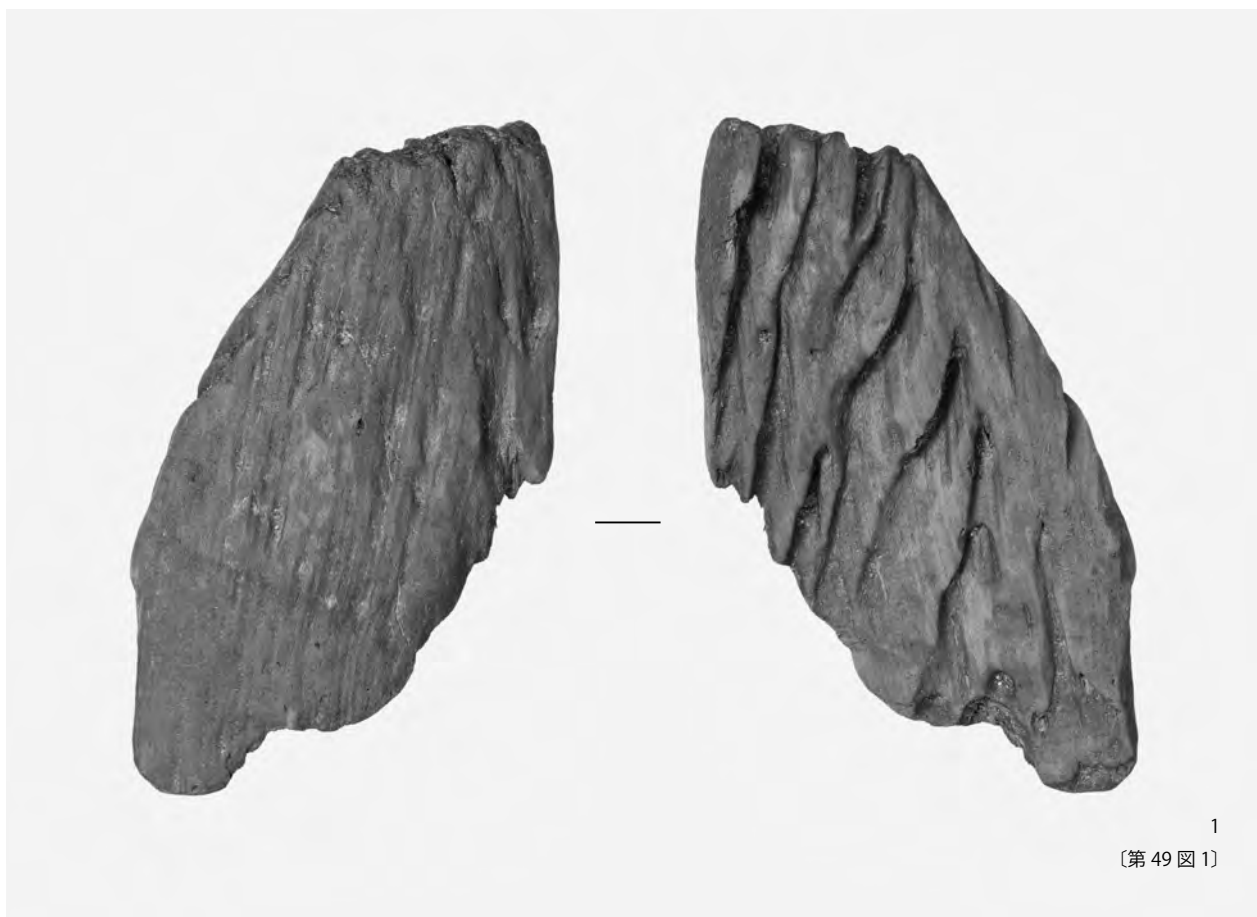


2. 10-1-1区 第10遺構面 1058 流路出土



3. 10-1-1区 第11-2遺構面 1063 土器だまり出土

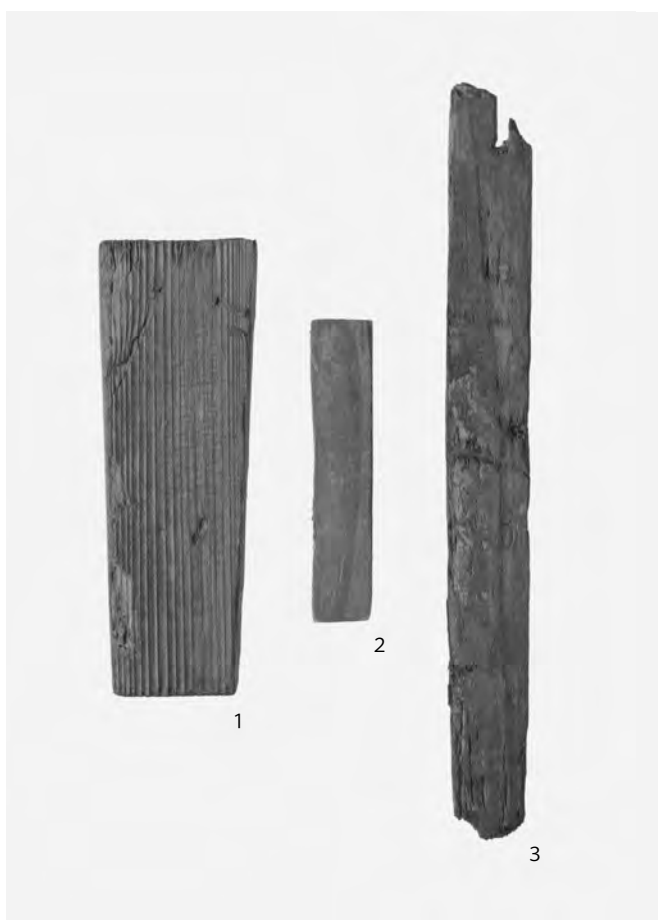




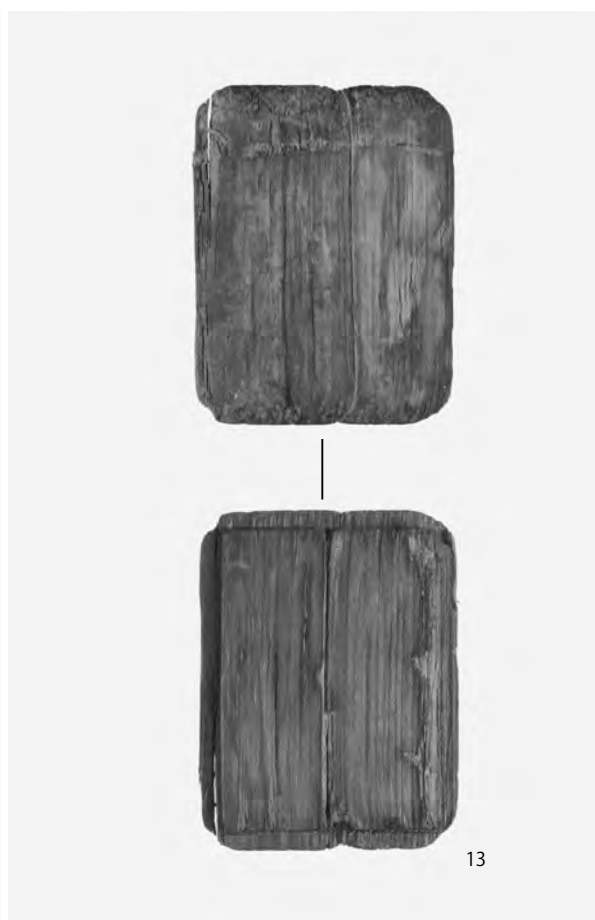
1

〔第 49 图 1〕

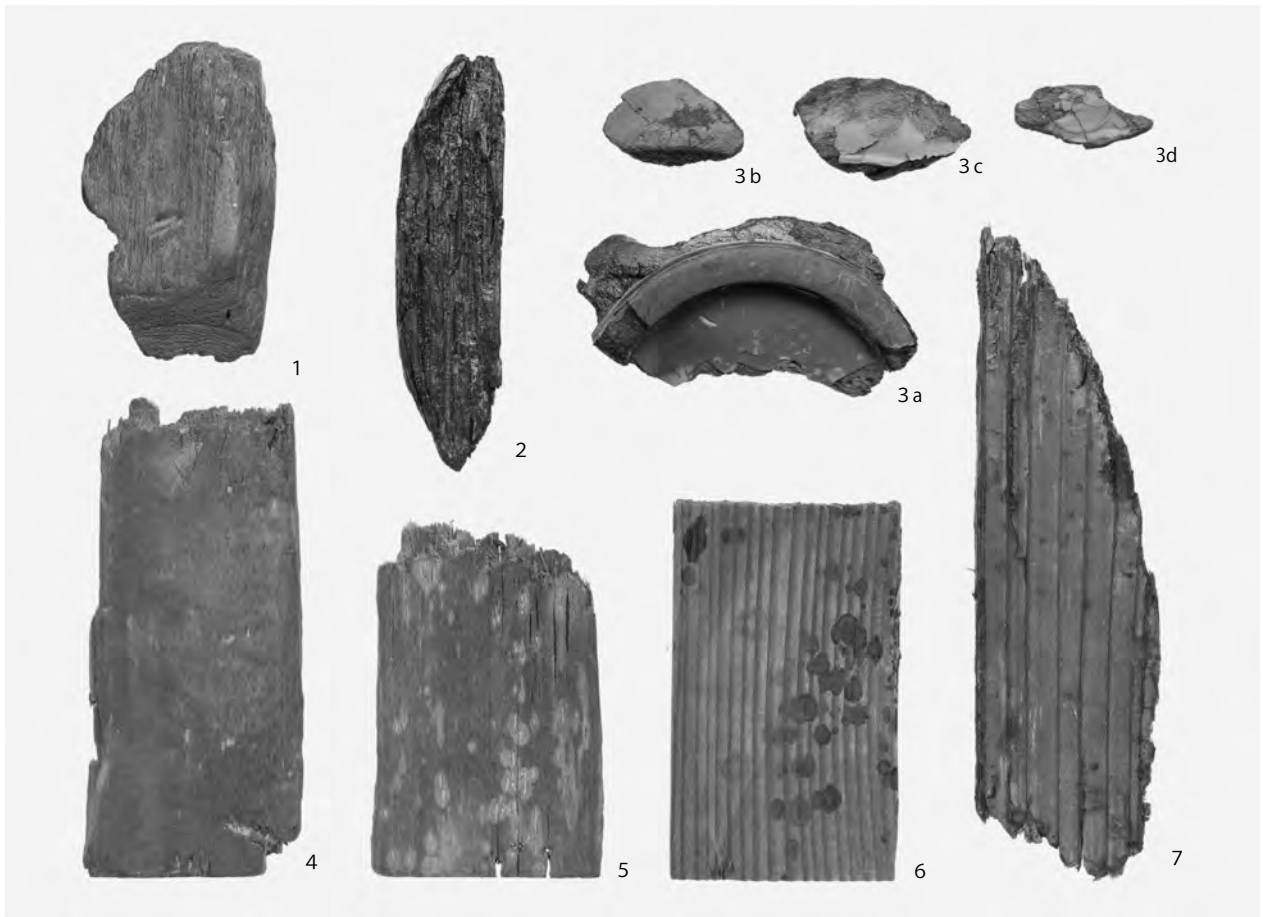
1. 10-1-1区 第13遺構面 1072土坑 出土遺物



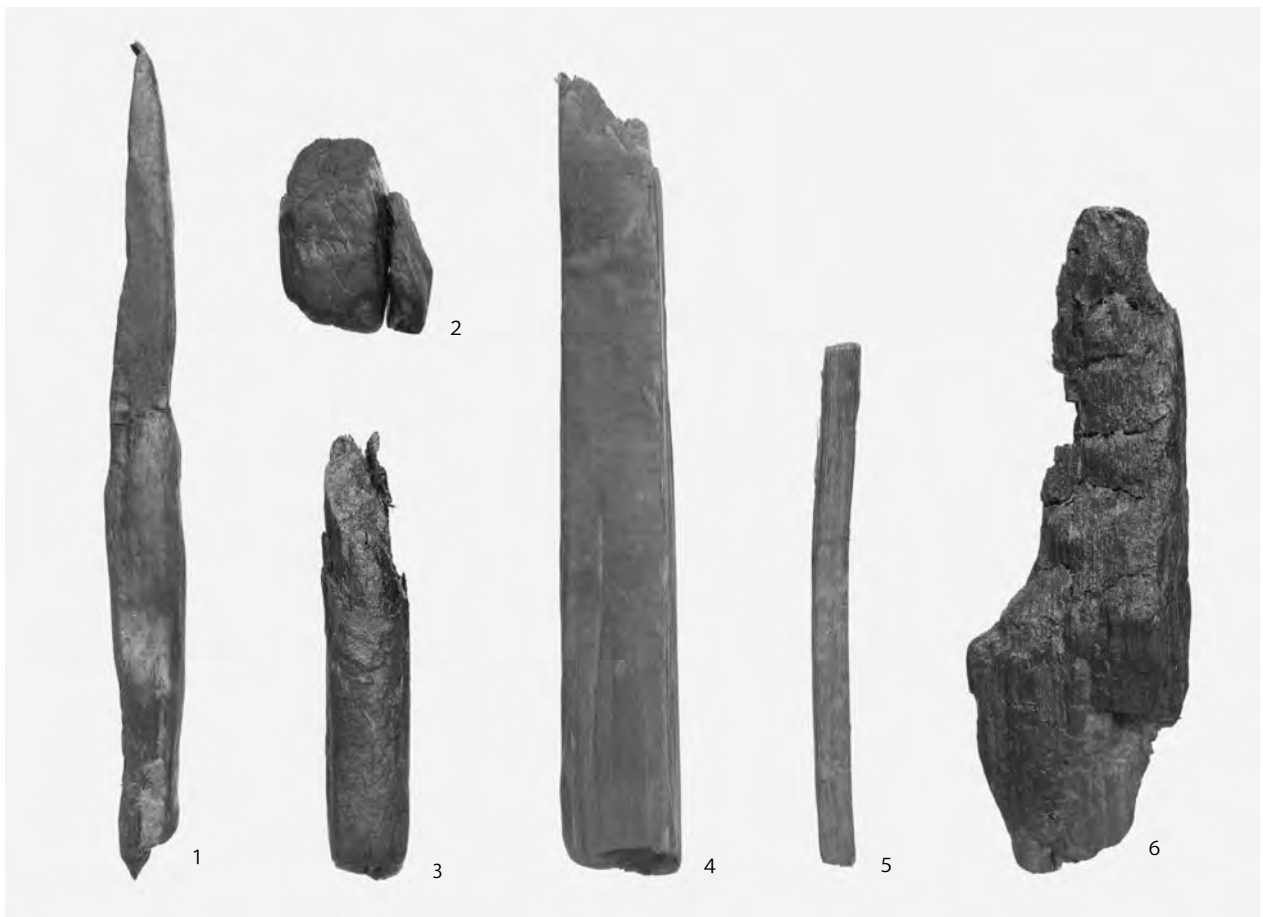
2. 10-1-2区 第1層出土



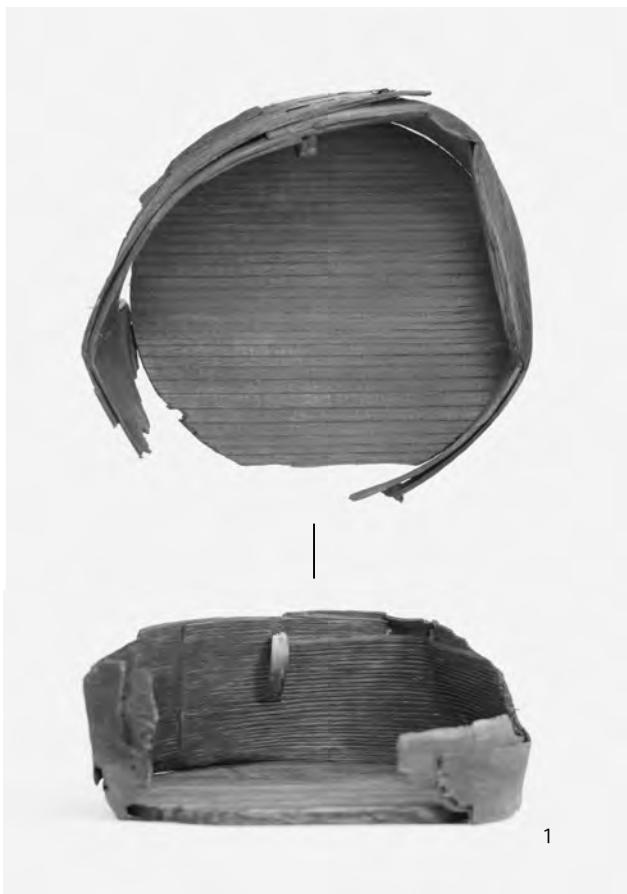
3. 10-1-2区 第1層出土



1. 10-1-2区 第5遺構面 2025溝出土



2. 10-1-2区 第22遺構面検出遺構出土



1. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土



3. 10-1-2区 第6遺構面 2027 溝出土



2. 10-1-2区 第5遺構面 2025 溝出土



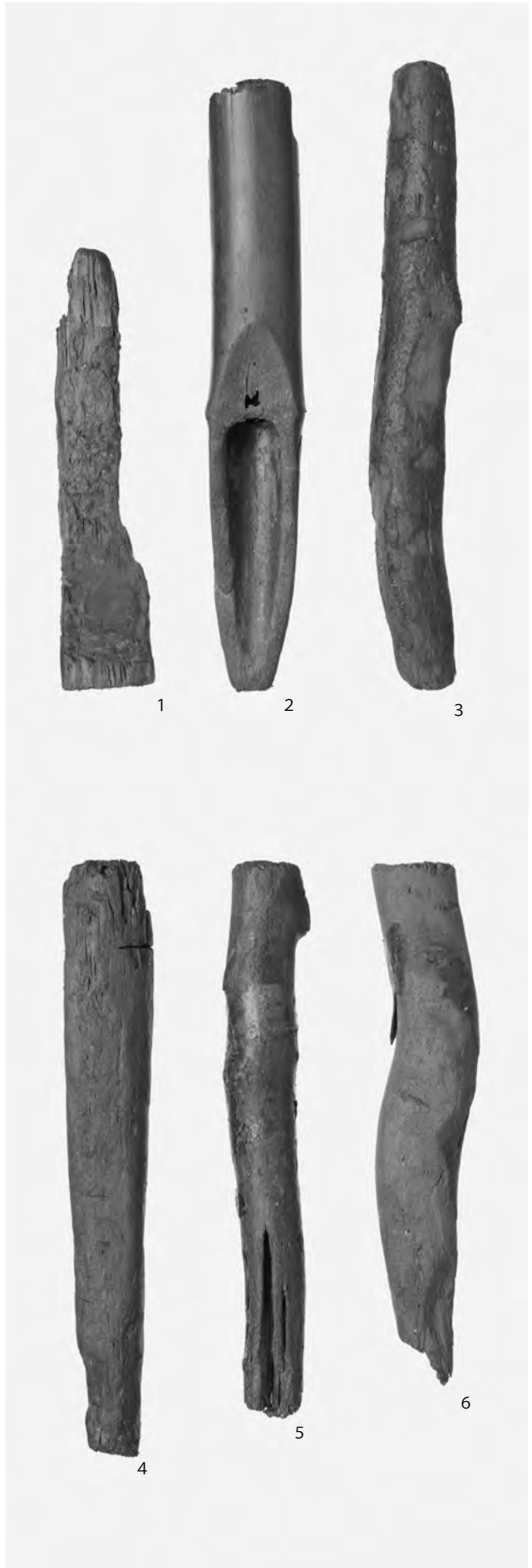
4. 10-1-3区 第3遺構面 3005 井戸出土



5. 10-1-3区 第3遺構面 3010 井戸出土



1. 10-1-3区 第7層出土



2. 10-1-4区 第4遺構面 4025 溝出土



1

1. 10-1-5区 第4遺構面 5003 井戸出土



1

3. 10-1-5区 第6層出土



1

2. 10-1-5区 第4遺構面 5005 井戸出土



1

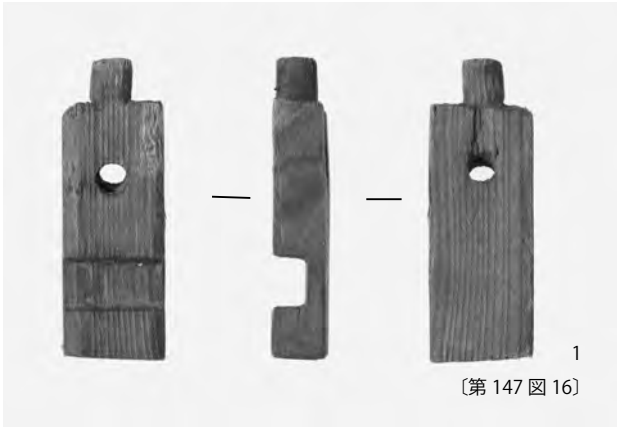
〔第117図7〕

4. 10-1-6区
第20層~第23層出土



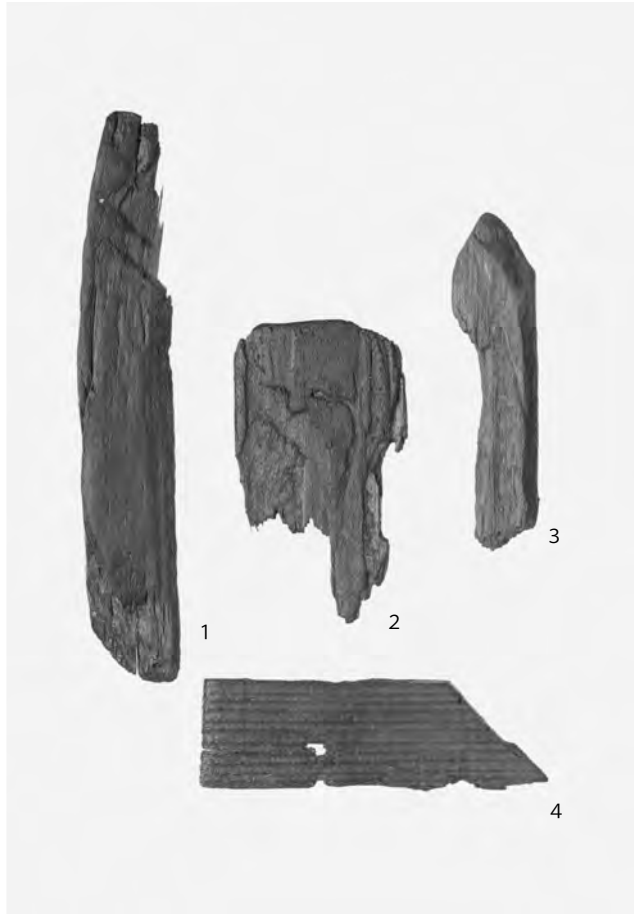
1

5. 10-1-5区
第9遺構面出土



〔第 147 図 16〕

1. 10-1-9区 第1層出土

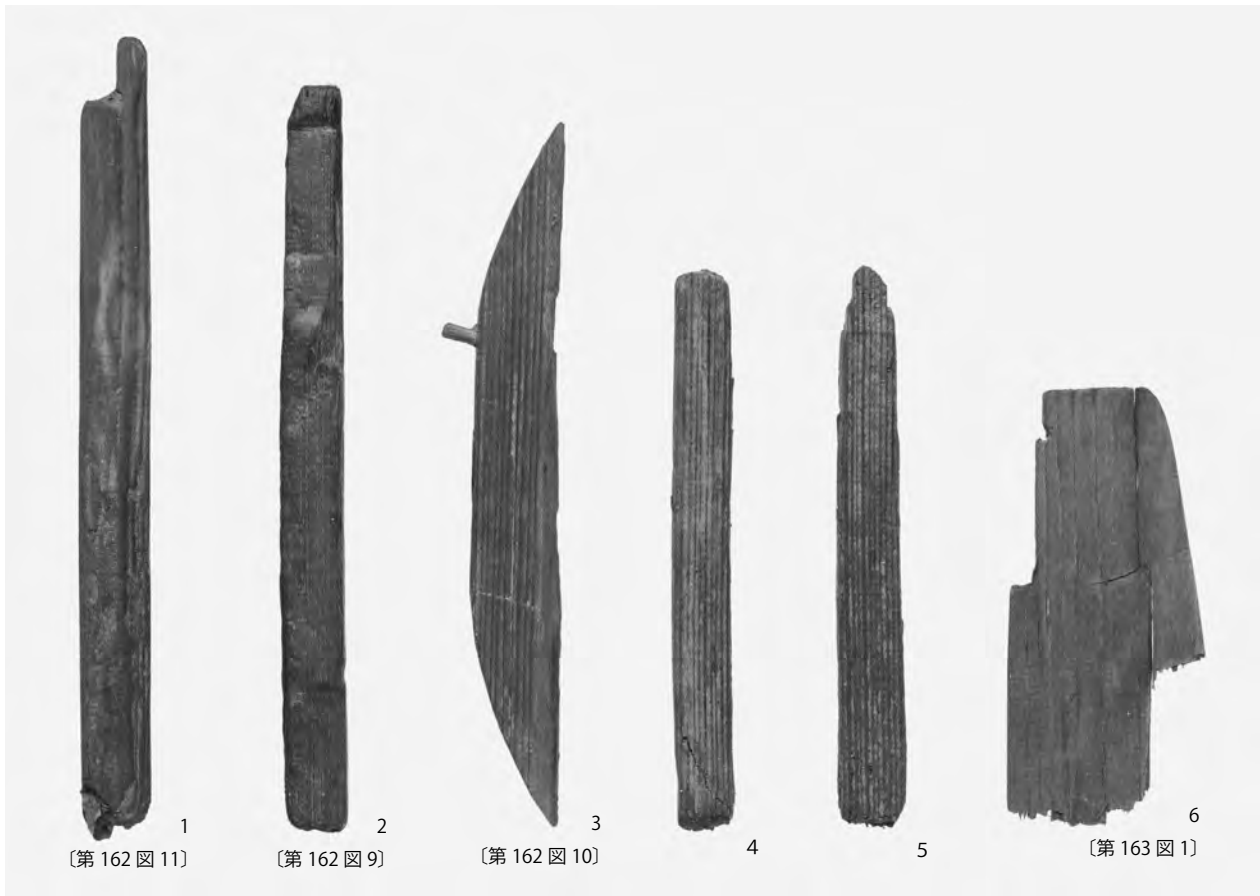


3. 10-1-9区 第6遺構面 9030 井戸出土



〔第 163 図 2〕

2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



〔第 162 図 11〕

〔第 162 図 9〕

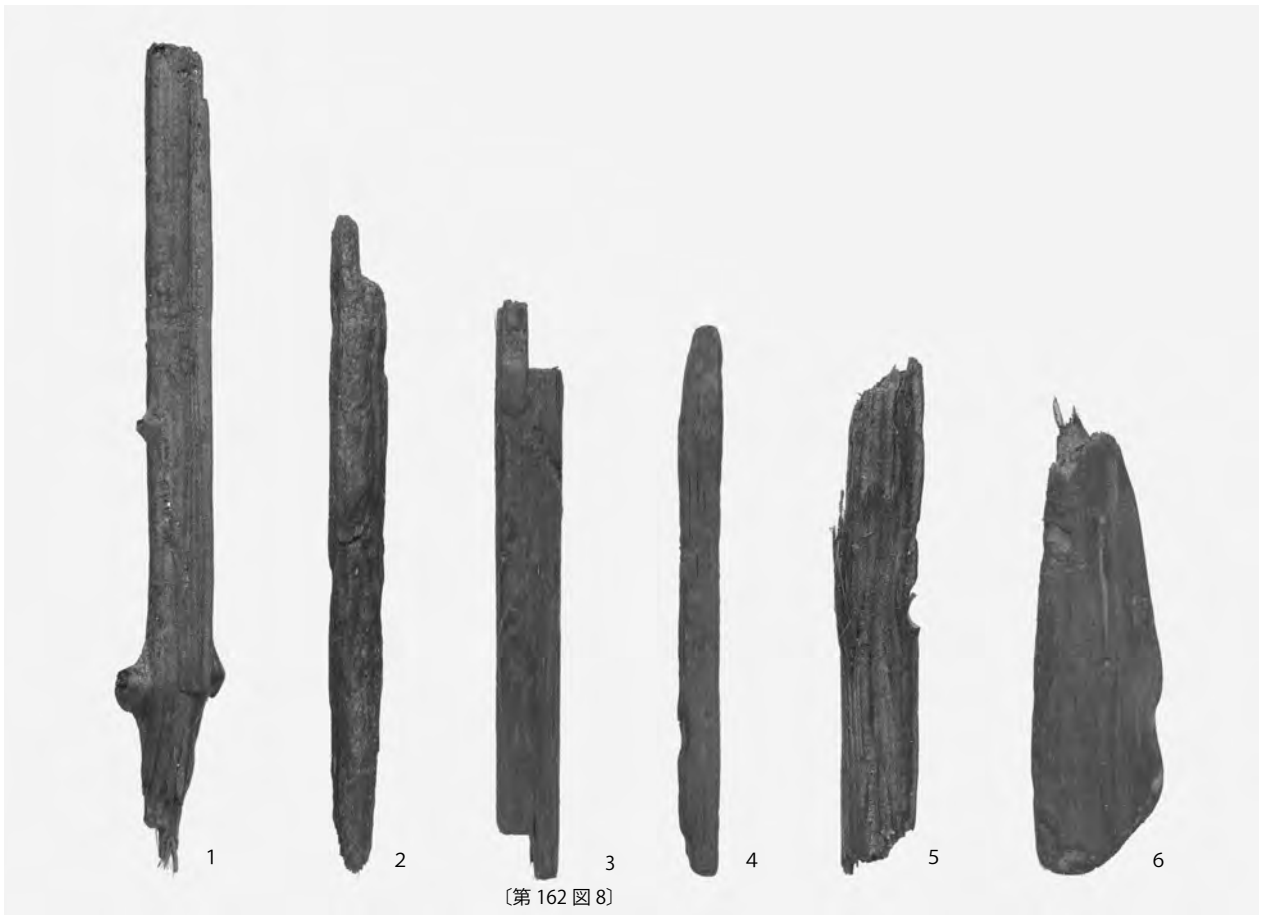
〔第 162 図 10〕

4

5

〔第 163 図 1〕

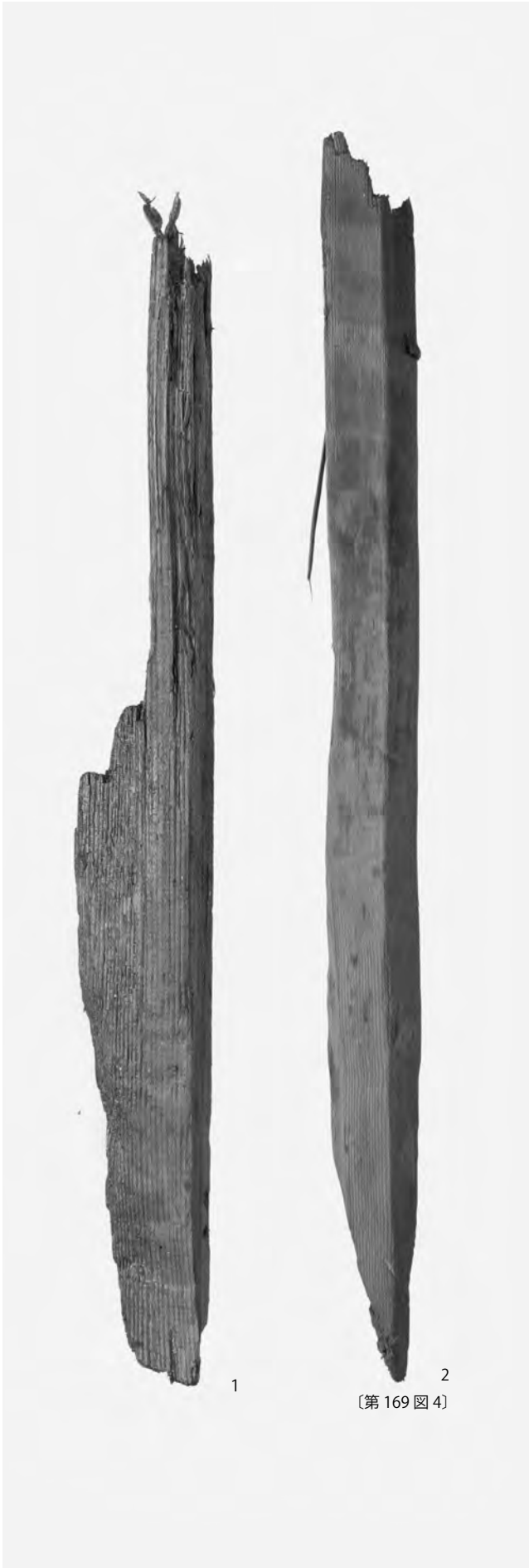
4. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



2. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土



1. 10-1-9区 第6遺構面 9022 溝出土

2
[第169図4]



2. 10-1-9区 第7遺構面 9133 ピット出土



3. 10-1-9区 第7遺構面 9179 落込み出土

2
[第168図6]

報告書抄録

ふりがな	うりゅうどういせき 4 いわたいせき 2 はなやしきいせき 3						
書名	瓜生堂遺跡 4 岩田遺跡 2 花屋敷遺跡 3						
副書名	近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次数							
シリーズ名	(公財) 大阪府文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第 222 集						
編著者名	黒須亜希子						
編集機関	公益財団法人 大阪府文化財センター						
所在地	〒 590 - 0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号 TEL / 072 - 299 - 8791						
発行年月日	2012 年 2 月 29 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号				
うりゅうどういせき 瓜生堂遺跡	おおさかふひがしおおさかしいわた 大阪府東大阪市西岩田 1 丁目・2 丁目 地内	27227	95	北緯 34° 66' 32" 東経 135° 60' 26"	20101014 ～ 20110531	346.3	近畿日本鉄道 奈良線連続立体 交差化に伴う
いわたいせき 岩田遺跡	おおさかふひがしおおさかしいわた 大阪府東大阪市岩田 4 丁目 地内	27227	115	北緯 35° 66' 32" 東経 135° 60' 43"		149.8	
はなやしきいせき 花屋敷遺跡	おおさかふひがしおおさかしよした 大阪府東大阪市吉田 1 丁目 地内	27227	87	北緯 35° 66' 29" 東経 135° 61' 81"		287.3	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
瓜生堂遺跡	集落 生産 墓域	弥生時代前期 弥生時代中期 弥生時代後期 中世	竪穴建物・土坑・溝・ 水田・畦畔・方形周溝 墓・土器棺墓・集石遺 構・ピット・柱列	弥生土器・土師器・土製品・須恵器・瓦器・ 瓦質土器・陶磁器・瓦・土製品・銭貨・木製品・ 石鏃・砥石・石臼・石鍋・サヌカイト切片・ 種子			
岩田遺跡	集落 生産 墓域	弥生時代中期 弥生時代後期 古墳時代前期 中世	溝・土坑・土器棺墓・ 水田畦畔・井戸、ピッ ト	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・ 陶磁器・瓦・木製品・人歯		人歯は土器棺内より出土	
花屋敷遺跡	集落 生産	中世	溝・土坑・井戸・落込 み・焼土坑・銭貨埋納 遺構・掘立柱建物	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・ 瓦・木製品・刀刃・銭貨・種子		銭貨は遺構内より 一括出土 (15,392 枚)	
要約	瓜生堂遺跡及び岩田遺跡の調査では、弥生時代前期、弥生時代前期末～中期初頭、弥生時代中期後半、弥生時代後期～古墳時代初頭、中世の各遺構面を検出した。弥生時代中期後半の遺構面では、土器棺墓や供献土器を有する方形周溝墓を新たに検出した。また中世遺構面では、多くの柱穴や井戸を有する集落跡を確認した。花屋敷遺跡の調査では、中世集落跡を検出した。集落を限る大溝の岸辺では、銭貨埋納遺構を発見した。						

(公財) 大阪府文化財センター調査報告書 第222集

瓜生堂遺跡 4

岩田遺跡 2

花屋敷遺跡 3

近畿日本鉄道奈良線連続立体交差化に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 / 2012年2月29日

編集・発行 / 公益財団法人 大阪府文化財センター

大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号

印刷・製本 / 株式会社 中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南2丁目6番8号